

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	学部の課程の設置（工学に関する学部の教育課程）								
フリガナ設置者	カウコウジツン シバウコウテクヨウガク 学校法人 芝浦工業大学								
フリガナ大学の名称	シバウコウテクヨウガク 芝浦工業大学 (Shibaura Institute of Technology)								
大学本部の位置	東京都江東区豊洲3丁目7-5								
大学の目的	<p>本学は教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、学術の中心として深く工学の研究を行い世界文化に貢献し、併せて広く一般の学術教養と専門の工業教育を施すことにより、学生の人格を陶冶し、学理を究めさせ体位の向上を図り、もって優秀なる技術者を養成することを目的とする。</p>								
新設学部等の目的	<p>工学部 機械工学課程</p> <p>科学技術の現状や社会の要望をグローバルな視点で捉え、環境や感性との調和に配慮しながら、機械工学の学理を用いて有用な機械やシステムを創成できる人材を養成する。 具体的には、卒業までに以下のような人材を養成することを教育研究上の目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●機械工学に関わる数理知識を用いて機械のメカニズムを理解する能力と、それらを活用して有用な機能を創成できる設計能力を身に付けている。</li> <li>●社会や環境との関わりに配慮して機械工学の必要性を常に見直すことができる倫理観および責任感を持ち、グローバルな視点から多面的に科学技術を捉える能力を身に付けている。</li> <li>●学問的な問題に対して機械工学の見地から取り組むべき事柄を整理し、与えられた条件の下で様々な分野の知識を関連付けて課題解決に適用できる能力を身に付けている。</li> <li>●地球的視野から科学技術の現状を捉えて能動的に考え分析し、社会の発展に向けて行動することができる研究推進能力を身に付けている。</li> <li>●多様性を尊重し他者と協調して活動できる能力と、意思疎通を図りながら自らの判断や意見について説明できるコミュニケーション能力を身に付けている。</li> <li>●技術的課題の探求に関心を持ち、情報環境等を利用して継続的に自己学修できる能力を身に付けている。</li> </ul>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	工学部 [College of Engineering]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	[豊洲キャンパス] 東京都江東区 豊洲三丁目7番5号	課程を設ける工学に関する学部等
	機械工学課程 [Mechanical Engineering Program]	4	228	—	912	学士(工学) 【Bachelor of Engineering】	令和6年4月 第1年次	[大宮キャンパス] 埼玉県さいたま市 見沼区深作307番地	【大学設置基準第49条の4に定める専攻分野】 ・機械工学 ・機械機能工学
	物質化学課程 [Chemistry and Materials Program]	4	208	—	832	学士(工学) 【Bachelor of Engineering】	令和6年4月 第1年次		【大学設置基準第49条の4に定める専攻分野】 ・材料工学 ・応用化学
	電気電子工学課程 [Electrical and Electronic Engineering Program]	4	208	—	832	学士(工学) 【Bachelor of Engineering】	令和6年4月 第1年次		【大学設置基準第49条の4に定める専攻分野】 ・電気工学 ・電子工学
	情報・通信工学課程 [Computer and Communications Engineering Program]	4	218	—	872	学士(工学) 【Bachelor of Engineering】	令和6年4月 第1年次		【大学設置基準第49条の4に定める専攻分野】 ・情報通信工学 ・情報工学
	土木工学課程 [Civil Engineering Program]	4	104	—	416	学士(工学) 【Bachelor of Engineering】	令和6年4月 第1年次		【大学設置基準第49条の4に定める専攻分野】 ・土木工学
先進国際課程 [Innovative Global Program]	4	9	—	36	学士(工学) 【Bachelor of Engineering】	令和6年4月 第1年次		【大学設置基準第49条の4に定める専攻分野】 ・機械工学 ・機械機能工学 ・材料工学 ・応用化学 ・電気工学 ・電子工学 ・情報通信工学 ・情報工学 ・土木工学	
計		975			3900				

同一設置者内における変更状況 (定員の移行・名称の変更等)	令和6年4月には、本申請を含む5課程の新設と9学科の募集停止を行います。								
	工学部								
	機械工学課程	228	※令和5年4月届出						
	物質化学課程	208							
	電気電子工学課程	208							
	情報・通信工学課程	218							
	土木工学課程	104							
	機械工学科 (廃止)	(△114)	※令和6年4月学生募集停止						
	機械機能工学科 (廃止)	(△114)							
	材料工学科 (廃止)	(△104)							
	応用化学科 (廃止)	(△104)							
	電気工学科 (廃止)	(△104)							
	電子工学科 (廃止)	(△104)							
	情報通信工学科 (廃止)	(△104)							
	情報工学科 (廃止)	(△114)							
	土木工学科 (廃止)	(△104)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	機械工学課程	119科目	14科目	13科目	146科目	124単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	教員等
			人	人	人	人	人	人	人
	新設分	工学部 機械工学課程	-	-	-	-	-	-	-
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
		物質化学課程 (令和5年4月届出)	-	-	-	-	-	-	-
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
		電気電子工学課程 (令和5年4月届出)	-	-	-	-	-	-	-
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	情報・通信工学課程 (令和5年4月届出)	-	-	-	-	-	-	-	
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
	土木工学課程 (令和5年4月届出)	-	-	-	-	-	-	-	
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
		計	92 (110)	34 (34)	- (-)	7 (7)	133 (151)	- (-)	137 (138)
	既設分	工学部 先進国際課程	9 (9)	12 (12)	- (-)	4 (4)	25 (25)	- (-)	- (-)
システム理工学部 電子情報システム学科		10 (10)	4 (4)	- (-)	1 (1)	15 (15)	- (-)	15 (15)	
機械制御システム学科		12 (12)	1 (1)	- (-)	- (-)	13 (13)	- (-)	14 (14)	
環境システム学科		12 (12)	2 (2)	- (-)	- (-)	14 (14)	- (-)	41 (41)	
生命科学科		8 (8)	5 (5)	- (-)	- (-)	13 (13)	- (-)	30 (30)	
数理科学科		8 (8)	4 (4)	- (-)	1 (1)	13 (13)	- (-)	15 (15)	
デザイン工学部 デザイン工学科		10 (10)	7 (7)	- (-)	- (-)	17 (17)	- (-)	57 (57)	
建築学部 建築学科		25 (25)	6 (6)	- (-)	2 (2)	33 (33)	- (-)	114 (114)	
		計	94 (94)	41 (41)	0 (0)	8 (8)	143 (143)	- (-)	- (-)
	合計	177 (195)	63 (63)	- (-)	11 (11)	251 (269)	- (-)	- (-)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		166 (152)		153 (153)		319 (305)		
	技術職員		12 (12)		11 (11)		23 (23)		
	図書館専門職員		1 (1)		26 (26)		27 (27)		
	その他の職員		1 (1)		56 (56)		57 (57)		
		計	180 (166)		246 (246)		426 (412)		
校地等	区分	専用	共用		共用する他の学校等の専用		計		
	校舎敷地	117,148 m <sup>2</sup>	—		—		117,148 m <sup>2</sup>		
	運動場用地	63,328 m <sup>2</sup>	—		—		63,328 m <sup>2</sup>		
	小計	180,476 m <sup>2</sup>	—		—		180,476 m <sup>2</sup>		
	その他	19,705 m <sup>2</sup>	—		—		19,705 m <sup>2</sup>		
	合計	200,181 m <sup>2</sup>	—		—		200,181 m <sup>2</sup>		

※新設分の計は、既設分の先進国際課程の分も含む工学部全体の教員数。(工学に関する学部における学科に代えて課程等を設置する場合のため)

校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		149,276 m <sup>2</sup> (149,276 m <sup>2</sup> )	— —	— —	149,276 m <sup>2</sup> (149,276 m <sup>2</sup> )				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			大学全体	
	112	78	251	18 (補助職員69人)	6 (補助職員-人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数					
		機械工学課程		27			室		
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	課程単位での特定不能なため、 大学全体の数	
	大学全体	247,549 [31,803] (239,549 [31,003])	452 [30] (452 [30])	4,933 [4,728] (4,933 [4,728])	8,642 (8,642)	0 (0)	0 (0)		
	計	247,549 [31,803] (239,549 [31,003])	452 [30] (452 [30])	4,933 [4,728] (4,933 [4,728])	8,642 (8,642)	0 (0)	0 (0)		
図書館		面積		閲覧座席数		取 納 可 能 冊 数		大学全体	
		5,152.27 m <sup>2</sup>		835		268,211			
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体	
		4,275 m <sup>2</sup>		多目的コート		バレー・テニスコート			
経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	※図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。 ※図書購入費、設備購入費は、工学部全体の金額
		教員1人当り研究費等	1,083千円	1,083千円	1,083千円	1,083千円	—	—	
		共同研究費等	41,769千円	41,769千円	41,769千円	41,769千円	—	—	
		図書購入費	67,688千円	64,691千円	64,691千円	64,691千円	—	—	
		設備購入費	226,855千円	220,000千円	220,000千円	220,000千円	—	—	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,762千円	1,482千円	1,582千円	—	—			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							
大 学 の 名 称 芝浦工業大学									
既設大学等の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	工学部	年	人	年次人	人		倍		
	機械工学科	4	114	—	456	学士(工学)	1.07	昭和24年度	[豊洲キャンパス] 東京都江東区 豊洲三丁目7番5 [大宮キャンパス] 埼玉県さいたま市 見沼区307番地
	機械機能工学科	4	114	—	456	学士 (機械機能工学)	1.06	昭和41年度	
	材料工学科	4	104	—	416	学士(工学)	1.03	昭和31年度	
	応用化学科	4	104	—	416	学士(工学)	1.04	昭和29年度	
	電気工学科	4	104	—	416	学士(工学)	1.02	昭和25年度	
	電子工学科	4	104	—	416	学士(工学)	1.07	昭和41年度	
	情報通信工学科	4	104	—	416	学士(工学)	1.11	昭和41年度	
	情報工学科	4	114	—	456	学士(工学)	1.00	昭和41年度	
	土木工学科	4	104	—	416	学士(工学)	0.98	昭和24年度	
先進国際課程	4	9	—	27	学士(工学)	0.96	令和2年度 (10月)		
計	—	975	—	3891	—	1.04	—		
システム理工学部								[大宮キャンパス] 埼玉県さいたま市 見沼区307番地	
電子情報システム学科	4	115	—	460	学士(工学)	1.02	平成3年度		
機械制御システム学科	4	90	—	360	学士(工学)	1.08	平成3年度		
環境システム学科	4	90	—	360	学士(工学)	1.05	平成3年度		
生命科学科	4	115	—	460	学士 (生命科学)	0.99	平成20年度		
数理科学科	4	75	—	300	学士 (数理科学)	1.05	平成21年度		
計	—	485	—	1940	—	1.03	—		
デザイン工学部								[豊洲キャンパス] 東京都江東区 豊洲三丁目7番5 [大宮キャンパス] 埼玉県さいたま市 見沼区深作307番地	
デザイン工学科	4	160	—	640	学士(デザイン工学)	1.05	平成21年度		
計	—	160	—	640	—	1.05	—		

既設大学等の状況	建築学部								[豊洲キャンパス] 東京都江東区 豊洲三丁目7番5	
	建築学科	4	240	—	960	学士(建築学)	1.08	平成29年度		
	計	—	240	—	960	—	1.08	—		
	大学院 理工学研究科 修士課程								[豊洲キャンパス] 東京都江東区 豊洲三丁目7番5 [大宮キャンパス] 埼玉県さいたま市 見沼区307番地	
	電気電子情報工学専攻	2	110	—	220	修士(工学)	1.78	昭和38年度		
	材料工学専攻	2	40	—	80	修士(工学)	1.21	昭和38年度		
	応用化学専攻	2	30	—	60	修士(工学)	1.43	昭和38年度		
	機械工学専攻	2	85	—	170	修士(工学)	1.55	昭和51年度		
	システム理工学専攻	2	75	—	150	修士(工学)	1.88	平成23年度		
	国際理工学専攻	2	10	—	20	修士(理工学)	2.00	平成29年度		
建築学専攻	2	110	—	220	修士(建築学) 修士(工学)	1.56	令和3年度			
社会基盤学専攻	2	25	—	50	修士(工学)	1.26	令和3年度			
計	—	485	—	970	—	1.61	—			
大学院 理工学研究科 博士(後期)課程									[豊洲キャンパス] 東京都江東区 豊洲三丁目7番5 [大宮キャンパス] 埼玉県さいたま市 見沼区307番地	
地域環境システム専攻	3	12	—	36	博士(工学)または博士(学術)	1.16	平成7年度			
機能制御システム専攻	3	15	—	45	博士(工学)または博士(学術)	1.02	平成7年度			
計	—	27	—	81	—	1.08	—			
附属施設の概要	該当なし									

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校(収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要																
(工学部 機械工学課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎・教養科目	数理学基礎科目	線形代数1	1前	2			○			2	1				兼11	
		線形代数2	1後	2			○			1					兼12	
		微分積分1	1前	4			○			3	1				兼15	
		微分積分2	1後	4			○			3	1				兼10	
		微分方程式	1前・後		2			○		1					兼9	
		確率と統計1	1前・後		2			○		1					兼12	
		確率と統計2	2前・後		2			○							兼5	
		関数論	2前・後		2			○							兼3	
		ベクトル解析	2前・後		2			○		1					兼8	
		フーリエ解析	2前・後		2			○							兼3	
	小計 (10科目)		—	12	12	0				3	1				兼28	
	物理学科目	基礎力学	1前	2			○			2	1				兼1	
		基礎力学演習	1前		2			○		2					兼1	
		基礎電磁気学	1後		2			○		3					兼3	
物理学実験		1後	3					○	5	1				兼1		
基礎熱統計力学		2前		2			○		1					兼1	※基幹機械コースのみ開講	
基礎熱統計力学演習	2前		2				○	1					兼1	※基幹機械コースのみ開講		
相対論と量子論の基礎	2後		2			○		1								
小計 (7科目)		—	5	10	0				5	1				兼5		
化学科目	化学の基礎と実験	1前	2			○			2					兼4	※実験	
	基礎無機化学	1後		2			○		1					兼1		
	基礎有機化学	1後		2			○							兼1		
	基礎生物化学	1後		2			○		1							
	基礎固体化学	1後		2			○		1					兼1		
小計 (5科目)		—	2	8	0				3					兼5		
英語科目	Reading&Writing1	1前	2			○			1	2				兼12		
	Reading&Writing2	2後		2			○		1					兼2		
	Listening&Speaking1	1後	2				○		1	2				兼14		
	Listening&Speaking2	2前		2			○			1				兼2		
	工学英語1	2前		2			○		1	1				兼11		
	工学英語2	2後		2				○	1	1				兼6		
	TOEIC	1前・後		2				○	1					兼6		
	Academic English	3前・後		2				○						兼2		
小計 (8科目)		—	4	12	0				1	2				兼19		
情報科目	情報リテラシー	1前・後		1			○							兼4		
	情報処理概論	1前・後		2			○		1	1				兼1		
	Java入門	1前・後		3				○						兼2		
	C言語入門	1前・後		3				○	1	1						
	データサイエンス演習	1前・後		2				○	1	1						
小計 (5科目)		—	0	11	0				1	1				兼6		
人文社会系教養科目	生命倫理	1前・後		2			○		1					兼1	※選択必修	
	経済学	1前・後		2			○		1					兼1	※選択必修	
	日本国憲法	1前・後		2			○		1					兼1	※選択必修	
	現代の日本経済	1前・後		2			○		1					兼1	※選択必修	
	社会心理学	1前		2			○		1					兼1	※選択必修	
	認知心理学	1前・後		2			○							兼1	※選択必修	
	教育心理学	1前・後		2			○		1							
	プレゼンテーション入門	1前・後		2			○							兼2		
	レポートライティング	1前・後		2				○						兼2	※選択必修	
	教育原論	1前		2			○		1					兼1		
	法学入門	1前・後		2				○	1							
	技術者の倫理	1前・後		2			○		1					兼2	※選択必修	
	人間社会と環境問題	1前・後		2			○							兼2	※選択必修	
	自己表現とコミュニケーション	1前・後		2			○							兼1		
	世界の言語と文化	1前・後		2			○							兼1	※選択必修	
	人間関係論	1後		2			○		1							
	教育の近現代史	1前・後		2			○							兼2		
	文化人類学	1前・後		2			○							兼1	※選択必修	
	地域と環境	2前・後		2			○							兼1	※選択必修	
	生産と消費の環境論	2前		2			○							兼1	※選択必修	
応用経済学	3前・後		2			○		1						※選択必修		
教育社会学	3前・後		2			○		1								
知的財産法	3前・後		2			○		1						※選択必修		
小計 (23科目)		—	2	44	0				4					兼16		
体育健康科目	スポーツ科学実技1	1前・後		1				○	1	1				兼9		
	スポーツ科学実技2	1前・後		1				○	1	1				兼9		
	コンディショニング演習	1前・後		2				○	1							
	スポーツ健康学	1前・後		2			○		1							
	スポーツバイオメカニクス	1前・後		2			○			1				兼1		
小計 (5科目)		—	1	7				1	1					兼9		

教育課程等の概要																		
(工学部 機械工学課程)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
共通教養科目	統計学基礎	1前・後			2	○			1						兼2 兼1 兼1	ｽﾃｲﾌﾞ ｽﾃｲﾌﾞ		
	データサイエンスリテラシー	1前・後		2		○		1										
	芝浦工業大学通論	1前・後			2	○												
	技術経営入門	1前			2	○												
	ダイバーシティ入門	1前・後			2	○												
	小計 (5科目)	—	0	4	6		—	1						兼4				
共通専門科目	社会の中の工学	1前	1			○			9	1						ｽﾃｲﾌﾞ・ｵﾓﾆﾊﾞｽ ｽﾃｲﾌﾞ ｽﾃｲﾌﾞ 集中 集中 集中 集中 集中		
	工学研究探訪1	2後	1			○			1									
	工学研究探訪2	2後		1		○			1									
	学内研究留学1	3後		2			○		1									
	学内研究留学2	3後		2			○		1									
	グローバルPBL1	1・2・3・4集中		2				○	1									
	グローバルPBL2	1・2・3・4集中			2			○	1									
	国際インターンシップ1	1・2・3・4集中			2			○	1									
	国際インターンシップ2	1・2・3・4集中			2			○	1									
	小計 (9科目)	—	2	9	4		—	9	1									

教育課程等の概要

(工学部 機械工学課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態		専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手		
専門科目	機械材料	1前		2		○		1							※A選択必修(Y)	
	機械工学の基礎1	1前		2		○		11	1					オムニバス	※A	
	材料力学1	1後	2			○		2								
	機械運動学	1後	2			○		1							※A選択必修(Y)	
	機械設計製図1	2前		3			○	3	1					共同	※A必修	
	材料力学2 (基幹機械コース)	2前		2		○		1							※A選択必修(Y)	
	機械設計	2前		2		○		1							※A選択必修(Y)	
	応用解析学	2前		2		○		1							※A	
	流体力学1	2前	2			○		2								
	熱力学1	2前	2			○		1						兼1		
	振動工学1	2前・後	2			○		2								
	機械設計製図2	2後		3			○	3	1					共同	※A必修	
	加工学	2後		2		○		1							※A選択必修(Y)	
	流体力学2 (基幹機械コース)	2後		2		○		1							※A選択必修(X)	
	Thermodynamics 2	2後		2		○		1							※A選択必修(X)	
	エネルギー・環境論	2後		2		○								兼1	※A選択必修(X)	
	確率統計	2後		2		○								兼1	※A	
	機械工学の基礎2	2後		2		○		11	1					オムニバス	※A	
	工学英語 3	3前		2					1						※A ※B	
	振動工学2	3前		2		○			1						※A選択必修(Y)	
	粘性流体力学	3前		2		○			1						※A選択必修(X)	
	エンジンシステム	3前		2		○			1						※A選択必修(X)	
	伝熱工学	3前		2		○			1	1					※A選択必修(X)	
	制御工学1	3前		2		○			1						※A選択必修(Y)	
	Mechatronics	3前		2		○			1						※A選択必修(Y)	
	低温工学	3前		2		○								兼3	オムニバス	※A選択必修(X)
	材料強度学	3前		2		○			1						※A選択必修(Y)	
	安全と倫理	3前		2		○									※A	
	プログラミング言語	3前		2		○									※A	
	エネルギー変換工学	3後		2		○			1						※A選択必修(X)	
	材料設計学	3後		2		○			1						※A選択必修(Y)	
	Combustion Engineering	3後		2		○			1						※A選択必修(X)	
	制御工学2	3後		2		○			1						※A選択必修(Y)	
	計算力学	3後		2		○				1					※A選択必修(X)	
	航空宇宙工学	3後		2		○								兼2	オムニバス	※A選択必修(X)
	プログラミング演習	3後		2			○							兼1	※A	
	機械分子工学	3後		2		○								兼2	オムニバス	※A選択必修(X)
	先進機械基礎1	1前		2		○			7	4					オムニバス	※B必修
	機械工学概論1	1後		2		○			1	1					オムニバス	※B必修
	マテリアル・サイエンス	1後		2		○			1							※B
	機械工学概論2	2前		2		○			1	1					オムニバス	※B必修
先進機械基礎2	2前		2		○			7	4					オムニバス	※B	
メカトロニクス	2前		2		○			1							※B	
材料力学2 (先進機械コース)	2前		2		○			1							※B	
電気工学	2前		2		○				1						※B	
機械工学概論3	2後		2		○			1	1					オムニバス	※B必修	
機械力学	2後		2		○			1							※B	
流体力学2 (先進機械コース)	2後		2		○			1							※B	
熱力学2	2後		2		○				1						※B	
エネルギー／環境概論	2後		2		○										※B	
制御工学	2後		2		○				1						※B	
研究導入講義1(知能機械)	3前		2		○			1							※B選択必修(X)	
研究導入講義1(生体工学)	3前		2		○				1						※B選択必修(X)	
研究導入講義1(計測工学)	3前		2		○			1							※B選択必修(X)	
研究導入講義1(サイエンス・メカニクス)	3前		2		○			2						オムニバス	※B選択必修(X)	
研究導入講義1(ナノ・マイクロ)	3前		2		○				1						※B選択必修(X)	
研究導入演習1	3前		2			○		2						オムニバス	※B選択必修(Y)	
研究導入演習2	3前		2			○		1	1					オムニバス	※B選択必修(Y)	
研究導入講義2(知能機械)	3後		2		○				2					オムニバス	※B選択必修(X)	
研究導入講義2(生体工学)	3後		2		○			1	1					オムニバス	※B選択必修(X)	
研究導入講義2(計測工学)	3後		2		○			2						オムニバス	※B選択必修(X)	
研究導入講義2(サイエンス・メカニクス)	3後		2		○			1							※B選択必修(X)	
研究導入講義2(ナノ・マイクロ)	3後		2		○			1							※B選択必修(X)	
研究導入演習3	3後		2			○		2						オムニバス	※B選択必修(Y)	
研究導入演習4	3後		2			○		1	1					オムニバス	※B選択必修(Y)	
卒業研究1	3前		2					18	4							
卒業研究2	3後		2					18	4							
卒業研究3	4前		4					18	4							
卒業研究4	4後		4					18	4							
小計 (69科目)		—	20	124	0	—		18	6					兼11		
合計 (146科目)		—	48	241	10	—		41	9					兼101		

教育課程等の概要													
(工学部 機械工学課程)													
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	
学位又は称号	学士(工学)		学位又は学科の分野			工学関係 【大学設置基準第49条の4に定める専攻分野】 ・機械工学 ・機械機能工学							
卒業要件及び履修方法						授業期間等							
<p>・本課程は<b>基幹機械コース</b>と<b>先進機械コース</b>の2コースにより構成され、コース毎に卒業要件を定める。</p> <p>・各コースの学生は、以下の要件を満たした上で124単位を取得すること。またGPAが2.0以上であること。</p> <p>・なお、履修上限は、両コース共通で年間49単位（半期では25単位）とする。</p> <p><b>基幹機械コース</b>  <b>■数理基礎科目</b>            必修19単位を含み27単位以上  <b>■英語科目</b>            必修4単位を含み8単位以上  <b>■情報科目</b>            必修2単位以上（備考欄に「※A必修」と記載ある科目を取得すること）  <b>■人文社会系教養科目</b>            必修2単位、選択必修4単位を含み6単位以上            （※選択必修科目は、備考欄に「※選択必修」と記載されている科目から取得すること。）  <b>■体育健康科目</b>            必修1単位以上  <b>■共通教養科目</b>            指定なし  <b>■共通専門科目</b>            必修2単位以上  <b>■専門科目</b>            必修26単位（必修科目欄に記載がある科目に加え、備考欄に「※A必修」と記載ある科目も含み取得すること。）            選択必修X群から12単位（備考欄に「※A選択必修(X)」と記載されている科目から取得すること）            選択必修Y群から12単位（備考欄に「※A選択必修(Y)」と記載されている科目から取得すること）            を含み62単位以上（残りは備考欄に「※A」もしくは「※A選択必修(X)」「※A選択必修(Y)」と記載されている科目から取得すること）</p> <p><b>先進機械コース</b>  <b>■数理基礎科目</b>            必修19単位を含み27単位以上  <b>■英語科目</b>            必修4単位を含み8単位以上  <b>■情報科目</b>            必修3単位以上（備考欄に「※B必修」と記載ある科目を取得すること）  <b>■人文社会系教養科目</b>            必修2単位、選択必修4単位を含み6単位以上            （※選択必修科目は、備考欄に「※選択必修」と記載されている科目から選択すること。）  <b>■体育健康科目</b>            必修1単位以上  <b>■共通教養科目</b>            指定なし  <b>■共通専門科目</b>            必修2単位以上  <b>■専門科目</b>            必修28単位（必修科目欄に記載がある科目に加え、備考欄に「※B必修」と記載ある科目も含み取得すること。）            選択必修X群から12単位（備考欄に「※B選択必修(X)」と記載されている科目から取得すること）            選択必修Y群から4単位（備考欄に「※B選択必修(Y)」と記載されている科目から取得すること）            を含み60単位以上（※残りは備考欄に「※B」もしくは「※B選択必修(X)」「※B選択必修(Y)」と記載されている科目から取得すること）</p> <p>※副コース認定制度について            自身が所属するコース以外のコース（工学部の他課程含む）において開講される専門科目等から所定の条件を満たして12単位を取得した学生には副コース認定証書を授与する。</p>						1 学年の学期区分	2期						
						1 学期の授業期間	14週						
						1 時限の授業時間	100分						



教育課程等の概要

大宮キャンパス

(工学部 機械工学課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基礎・教養科目	数学科目 線形代数1 線形代数2 微分積分1 微分積分2 微分方程式 確率と統計1 確率と統計2 関数論 ベクトル解析 フーリエ解析	1前	2			○			2	1					兼11		
		1後	2			○			1						兼12		
		1前	4			○			3	1					兼15		
		1後	4			○			3	1					兼10		
		1前・後	2		2	○			1						兼9		
		1前・後	2		2	○			1						兼12		
		2前・後	2		2	○									兼5		
		2前・後	2		2	○									兼3		
		2前・後	2		2	○			1						兼8		
		2前・後	2		2	○									兼3		
	小計 (10科目)	—	12	12	0	—	—	3	1					兼28			
物理学科目	基礎力学 基礎力学演習 基礎電磁気学 物理学実験 基礎熱統計力学 基礎熱統計力学演習 相対論と量子論の基礎	1前	2			○			2	1					兼1		
		1前	2	2			○		2						兼1		
		1後	2			○			3						兼3		
		1後	3					○	5	1					兼1		
		2前	2			○			1						兼1		
		2前	2			○		○	1						兼1	※基幹機械コースのみ開講	
		2後	2			○			1						兼1	※基幹機械コースのみ開講	
	小計 (7科目)	—	5	10	0	—	—	5	1					兼5			
化学科目	化学の基礎と実験 基礎無機化学 基礎有機化学 基礎生物化学 基礎固体化学	1前	2			○			2						兼4	※実験	
		1後	2			○			1						兼1		
		1後	2			○			1						兼1		
		1後	2			○			1						兼1		
		1後	2			○			1						兼1		
	小計 (5科目)	—	2	8	0	—	—	3						兼5			
英語科目	Reading&Writing1 Reading&Writing2 Listening&Speaking1 Listening&Speaking2 工学英語1 工学英語2 TOEIC	1前	2			○			1	2					兼12		
		2後	2	2			○		1						兼2		
		1後	2			○			1	2					兼14		
		2前	2			○			1	1					兼2		
		2前	2			○			1	1					兼11		
		2後	2			○			1	1					兼6		
		1前・後	2			○			1						兼6		
	小計 (7科目)	—	4	10	0	—	—	1	2					兼17			
情報科目	情報リテラシー 情報処理概論 Java入門 C言語入門 データサイエンス演習	1前・後		1		○			1						兼4		
		1前・後		2		○			1	1					兼1		
		1前・後		3				○							兼2		
		1前・後		3				○		1	1						※B必修
		1前・後		2				○		1	1						※A必修
	小計 (5科目)	—	0	11	0	—	—	1	1					兼6			
人文社会系教養科目	生命倫理 経済学 日本国憲法 現代の日本経済 認知心理学 教育心理学 プレゼンテーション入門 レポートライティング 教育原論 法学入門 技術者の倫理 人間社会と環境問題 自己表現とコミュニケーション 世界の言語と文化 人間関係論 教育の近現代史 文化人類学	1前・後	2			○			1						兼1	※選択必修	
		1前・後	2			○			1						兼1	※選択必修	
		1前・後	2			○			1						兼1	※選択必修	
		1前・後	2			○			1						兼1	※選択必修	
		1前・後	2			○			1						兼1	※選択必修	
		1前・後	2			○			1						兼1	※選択必修	
		1前・後	2			○			1						兼1	※選択必修	
		1前・後	2			○			1						兼1	※選択必修	
		1前・後	2			○			1						兼1	※選択必修	
		1前・後	2			○			1						兼1	※選択必修	
		1前・後	2			○			1						兼1	※選択必修	
		1前・後	2			○			1						兼1	※選択必修	
		1前・後	2			○			1						兼1	※選択必修	
		1前・後	2			○			1						兼1	※選択必修	
		1前・後	2			○			1						兼1	※選択必修	
			小計 (17科目)	—	2	32	0	—	—	4						兼15	
		体育健康科目	スポーツ科学実技1 スポーツ科学実技2 コンディショニング演習 スポーツ健康学 スポーツバイオメカニクス	1前・後	1					○	1	1					兼8
1前・後				1					1	1					兼8		
1前・後				2					1								
1前・後				2			○		1								
1前・後				2			○			1						兼1	
	小計 (5科目)	—	1	7		—	—	1	1					兼8			

教育課程等の概要

大宮キャンパス

(工学部 機械工学課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教養科目	統計学基礎	1前・後			2	○			1						兼2 兼1 兼1
	データサイエンスリテラシー	1前・後		2		○			1						
	芝浦工業大学通論	1前・後			2	○									
	技術経営入門 ダイバーシティ入門	1前 1前・後		2		○ ○									
	小計 (5科目)	—	0	4	6	—			1					兼4	
目共通専門科	社会の中の工学	1前	1			○			9	1				マイア・オムニス マイア マイア	
	工学研究探訪1	2後	1			○			1						
	工学研究探訪2	2後		1		○			1						
		小計 (3科目)	—	2	1	0	—			9	1				

教育課程等の概要

大宮キャンパス

(工学部 機械工学課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数					授業形態					専任教員等の配置					備考									
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手														
専門科目	機械材料	1前		2		○			1													※A選択必修(Y)					
	機械工学の基礎1	1前		2		○			11	1												※A					
	材料力学1	1後	2			○			2																		
	機械運動学	1後		2		○			1														※A選択必修(Y)				
	機械設計製図1	2前		3				○	3	1													※A必修				
	材料力学2(基幹機械コース)	2前		2		○			1														※A選択必修(Y)				
	機械設計	2前		2		○			1														※A選択必修(Y)				
	応用解析学	2前		2		○			1														※A				
	流体力学1	2前		2		○			2																		
	熱力学1	2前		2		○			1																		
	振動工学1	2前・後		2		○			2														兼1				
	機械設計製図2	2後		3				○	3	1													共同	※A必修			
	加工学	2後		2		○			1															※A選択必修(Y)			
	流体力学2(基幹機械コース)	2後		2		○			1															※A選択必修(X)			
	Thermodynamics 2	2後		2		○			1															※A選択必修(X)			
	エネルギー・環境論	2後		2		○																		兼1	※A選択必修(X)		
	確率統計	2後		2		○																		兼1	※A		
	機械工学の基礎2	2後		2		○																		オムニバス	※A		
	先進機械基礎1	1前		2		○				7	4													オムニバス	※B必修		
	機械工学概論1	1後		2		○				1	1													オムニバス	※B必修		
	マテリアル・サイエンス	1後		2		○				1															オムニバス	※B	
	機械工学概論2	2前		2		○				1	1														オムニバス	※B必修	
	先進機械基礎2	2前		2		○				7	4														オムニバス	※B	
	メカトロニクス	2前		2		○				1																オムニバス	※B
	材料力学2(先進機械コース)	2前		2		○				1																オムニバス	※B
	電気工学	2前		2		○					1															オムニバス	※B
	機械工学概論3	2後		2		○				1	1														オムニバス	※B必修	
	機械力学	2後		2		○				1																オムニバス	※B
	流体力学2(先進機械コース)	2後		2		○				1																オムニバス	※B
	熱力学2	2後		2		○					1															オムニバス	※B
	エネルギー／環境概論	2後		2		○																				兼1	※B
	制御工学	2後		2		○					1															兼1	※B
小計(32科目)		—	8	58	0	—	—	—	18	5														兼3			
合計(96科目)		—	36	153	6	—	—	—	41	9															兼89		

教育課程等の概要

豊洲キャンパス

(工学部 機械工学課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基礎・教養科目	目 英語科	Academic English		2		○									兼2		
		小計(1科目)	—	0	2	0	—								兼2		
	人文社会系教養科目	生命倫理	1前・後		2		○									兼1	※選択必修
		日本国憲法	1前・後		2		○			1						兼1	※選択必修
		現代の日本経済	1前・後		2		○			1						兼1	※選択必修
		社会心理学	1前		2		○			1						兼1	※選択必修
		プレゼンテーション入門	1前・後		2		○									兼1	※選択必修
		レポートライティング	1前・後		2			○								兼1	※選択必修
		法学入門	1前・後		2		○			1						兼1	※選択必修
		技術者の倫理	1前・後	2			○									兼1	※選択必修
		人間社会と環境問題	1前・後		2		○									兼1	※選択必修
		人間関係論	1後		2		○			1						兼1	※選択必修
		文化人類学	1前・後		2		○									兼1	※選択必修
		地域と環境	2前・後		2		○									兼1	※選択必修
		生産と消費の環境論	2前		2		○									兼1	※選択必修
		応用経済学	3前・後		2		○			1						兼1	※選択必修
教育社会学		3前・後		2		○			1						兼1	※選択必修	
知的財産法	3前・後		2		○			1						兼1	※選択必修		
	小計(16科目)	—	2	30	0	—		4						兼6			
目 体育健康科	スポーツ科学実技1	1前・後	1					○	1						兼1		
	スポーツ科学実技2	1前・後		1				○	1						兼1		
	コンディショニング演習	1前・後		2			○		1						兼1		
	小計(3科目)	—	1	3		—		1						兼1			
共通専門科目	学内研究留学1	3後		2			○		1						集中		
	学内研究留学2	3後		2			○		1						集中		
	グローバルPBL1	1・2・3・4集中		2				○	1						集中		
	グローバルPBL2	1・2・3・4集中		2	2			○	1						集中		
	国際インターンシップ1	1・2・3・4集中		2				○	1						集中		
	国際インターンシップ2	1・2・3・4集中		2	2			○	1						集中		
	小計(6科目)	—	0	8	4	—		1									

教育課程等の概要

**豊洲キャンパス**

(工学部 機械工学課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数					授業形態					専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手								
専門科目	工学英語 3	3前		2			○												※A ※B		
	振動工学2	3前		2			○				1								※A選択必修(Y)		
	粘性流体力学	3前		2			○				1								※A選択必修(X)		
	エンジンシステム	3前		2			○				1								※A選択必修(X)		
	伝熱工学	3前		2			○					1							※A選択必修(X)		
	制御工学1	3前		2			○					1							※A選択必修(Y)		
	Mechatronics	3前		2			○					1							※A選択必修(Y)		
	低温工学	3前		2			○											兼3	オムニバス	※A選択必修(X)	
	材料強度学	3前		2			○					1								※A選択必修(Y)	
	安全と倫理	3前		2			○												兼1		※A
	プログラミング言語	3前		2			○												兼1		※A
	エネルギー変換工学	3後		2			○					1								※A選択必修(X)	
	材料設計学	3後		2			○					1								※A選択必修(Y)	
	Combustion Engineering	3後		2			○					1								※A選択必修(X)	
	制御工学2	3後		2			○					1								※A選択必修(Y)	
	計算力学	3後		2			○						1							※A選択必修(X)	
	航空宇宙工学	3後		2			○												兼2	オムニバス	※A選択必修(X)
	プログラミング演習	3後		2				○											兼1		※A
	機械分子工学	3後		2			○												兼2	オムニバス	※A選択必修(X)
	研究導入講義1(知能機械)	3前		2			○					1								※B選択必修(X)	
	研究導入講義1(生体工学)	3前		2			○						1							※B選択必修(X)	
	研究導入講義1(計測工学)	3前		2			○					1								※B選択必修(X)	
	研究導入講義1(サイエンス・メカニクス)	3前		2			○					2							オムニバス	※B選択必修(X)	
	研究導入講義1(ナノ・マイクロ)	3前		2			○						1							※B選択必修(X)	
	研究導入演習1	3前		2				○				2							オムニバス	※B選択必修(Y)	
	研究導入演習2	3前		2				○				1							オムニバス	※B選択必修(Y)	
	研究導入講義2(知能機械)	3後		2			○					2							オムニバス	※B選択必修(X)	
	研究導入講義2(生体工学)	3後		2			○					1							オムニバス	※B選択必修(X)	
	研究導入講義2(計測工学)	3後		2			○					2							オムニバス	※B選択必修(X)	
	研究導入講義2(サイエンス・メカニクス)	3後		2			○					1							オムニバス	※B選択必修(X)	
	研究導入講義2(ナノ・マイクロ)	3後		2			○					1								※B選択必修(X)	
	研究導入演習3	3後		2				○				2							オムニバス	※B選択必修(Y)	
	研究導入演習4	3後		2				○				1							オムニバス	※B選択必修(Y)	
卒業研究1	3前		2								18	4									
卒業研究2	3後		2								18	4									
卒業研究3	4前		4								18	4									
卒業研究4	4後		4								18	4									
小計(37科目)		-	12	66	0	-					18	6							兼8		
合計(63科目)		-	15	109	4	-					24	6							兼17		

教育課程等の概要																
(工学部先進国際課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目群	先端工学研究科目	Freshman thesis program I	1後・前	6					○	20	6					
		Freshman thesis program II	1前・後	6					○	20	6					
		Sophomore thesis program I	2後・前	6					○	20	6					
		Sophomore thesis program II	2前・後	6					○	20	6					
		Junior thesis program I	3後・前	6					○	20	6					
		Junior thesis program II	3前・後	6					○	20	6					
		Graduation thesis program I	4後・前	6					○	20	6					
		Graduation thesis program II	4前・後	6					○	20	6					
		Freshman lab seminar I	1後・前	2					○	20	6					
		Freshman lab seminar II	1前・後	2					○	20	6					
		Sophomore lab seminar I	2後・前	2					○	20	6					
		Sophomore lab seminar II	2前・後	2					○	20	6					
		Junior lab seminar I	3後・前	2					○	20	6					
		Junior lab seminar II	3前・後	2					○	20	6					
		Senior lab seminar I	4後・前	2					○	20	6					
		Senior lab seminar II	4後・前	2					○	20	6					
小計（16科目）		—	64	0	0	—			20	7						
専門科目群	先端工学概論科目	Advanced Course on Mechanical Engineering	1前		2			○	13	1		1		兼1	オムニバス	
		Advanced Course on Engineering Science & Mechanics	1後		2			○	6	3				兼1	オムニバス	
		Advanced Course on Materials Science and Engineering	1前		2			○	10	1					兼1	オムニバス
		Introduction to Applied Chemistry	3前		2			○	9							オムニバス
		Introduction of Electrical Engineering Research	1後		2			○	4	2		1		兼1	オムニバス	
		Introduction to Advanced Electronics	1後		2			○	6	2						オムニバス
		Introduction to Information and Communications Engineering	1前		2			○	6	2		2		兼2	オムニバス	
		Introduction to Computer Science and Engineering	1後		2			○	9	3						オムニバス
		Lectures on Civil Engineering	1後		2			○	9	3						オムニバス
		Introduction to Advanced Science and Technology	1後		2			○	4	8			3		兼3	オムニバス
小計（10科目）		—	0	20	0	—			72	22		7		兼1		
専門科目群	専攻科目	Hydrodynamics	2前		2			○	1							
		Combustion Engineering	2前		2			○	1							
		Semiconductor Materials	2前		2			○	1							
		Applied Chemistry Laboratory	3前		3				○	8						
		Applied Mathematics	2前		2			○	1							
		Experiments in electronic engineering course	2前		2				○	5	2					
		Seminar on Information and Communications Engineering	2後		2				○	6	2		2			
		Interaction Design	1前		2			○	1	1						
		Soil Mechanics	2前		2			○	1							
		Advanced Techniques for Materials Characterization	2後		2			○	1							
		Biophysics	2前		4			○	1	1						
		Introduction to Relativity	3後		2			○	1							
		Biophotonics	3後		2			○	1							
		Nanostructure Physics I	2後		2			○	1							
		Functional Materials	2後		2			○	1							
		Nanostructure Physics II	2前		2			○		1						
		Magnetism and Magnetic Materials	2前		2			○				1				
		Practical Materialography	2前		2			○	1							
		Fundamentals of Inorganic Chemistry	2後		2			○		1						
		Fundamentals of Organic Chemistry	2後		2			○					1			
		Fundamentals of Analytical Chemistry	2前		2			○	1							
		Fundamentals of Physical Chemistry	2前		2			○	1	1						
		Biochemistry	3後		2			○		1						
		Materials Science	2後		2			○	1							
		Materials for Energy	2後		2			○	1	1						
		Solid State Chemistry	2前		2			○	1	1						
		Nanotechnology	2前		2			○	1	1						
		Polymer Chemistry	2前		2			○					1			
		Techniques of Analysis for Urban Planning Research	3後		2			○		1						
小計（29科目）		—	0	61	0	—			30	10		4				
数理基礎科目・他	数理基礎科目	Pre-calculus	1後		2			○		1						
		Calculus I	1後		4			○		1						
		Calculus II	1前		4			○		1						
		Calculus III	2後		4			○		1						
		Linear Algebra	1前		4			○		1						
		Probability and Statistics	2前		2			○		1						

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学部先進国際課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
情報科目	Basic Physics	1後		2		○			1					
	Methodics in Physics	1後		2		○			1					
	Mathematical Methods in Physics and Engineering	1後		2		○				1				
	Physics: Mechanics	1前		2		○				1				
	Physics: Thermodynamics	2後		2		○				1				
	Physics: Electromagnetism	1後		4		○			1			1		
	Physics: Fluidodynamics, Oscillations and Waves	2後		2		○						1		
	Physics: Optics	2前		2		○			1					
	Materials Physics	2前		2		○			1					
	Basic Chemistry	1後		2		○				1				
	General Chemistry A	1後		2		○				1				
	Instrumental Analysis	1前		2		○			1					
	General Chemistry B	1前		2		○			1					
小計 (19科目)		—	0	48	0				2	4		1		
情報科目	Introduction to Multimedia technology	3後		3		○				1				
	Introduction to Computer Programming (Python, R, C, Java)	1後		2		○				1				
	Web design and programming	1前		3		○				1				
	Introduction to Computer Networks	1後		3		○				1				
	Information Literacy	1後		2		○				1				
	Introduction to Information Processing	2後		2		○				1				
小計 (6科目)		—	0	15	0				4					
人文社会系教養科目	Usage of Research Tools & Research Writing	1前		2		○			1	1				
	Academic English Writing for University Coursework	1後		2		○				1				
	Making Effective Presentations	1前		2		○				1				
	Diversity and Cultures of other countries	1後		2		○			4	11		4		ホニバス
	Contemporary Society : Changes in Japanese Work Culture	1前		2		○				1				
	Career Design : Developing yourself for your future career	1前		2		○				1				
	Science and Religion in Japan	1前		2		○				1				
	Engineering Ethics	1前	1				○		1					
小計 (8科目)		—	1	14	0				4	11		4		
体育健康科目	Biomechanics of human movement	1後		2		○				1				
	Volleyball (Technical)	1前		1				○		1				
	Badminton (Technical)	1前		1				○		1				兼1
	Golf	1前		2				○						兼1
	Table tennis (Sports communication)	1後		1				○		1				
	Soccer (Sports communication)	1後		1				○		1				
小計 (6科目)		—	0	8	0				1	1			兼2	
全学共通科目	Japanese Language I	1後		2		○								兼2
	Japanese Language II	1前		2		○								兼3
	Japanese Language III	2後		2		○								兼2
	小計 (3科目)		—	0	6	0								兼3
合計 (97科目)			—	65	172	0				78	28		7	兼6

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学部先進国際課程)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学位又は称号	学士（工学）		学位又は学科の分野			工学関係 【大学設置基準第49条の4に定める専攻分野】 ・機械工学 ・機械機能工学 ・材料工学 ・応用化学 ・電気工学 ・電子工学 ・情報通信工学 ・情報工学 ・土木工学								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
・以下記載の各科目区分で取得すべき単位数要件を満たした上で124単位以上を取得すること。 ・なお、履修上限は、両コース共通で年間49単位（半期では25単位）とする。 ・GPAは2.0以上であること。 ■先端工学研究科目 必修科目64単位 ■先端工学概論科目 6単位以上 ■専門科目 6単位以上 ■教理基礎科目・情報科目 6単位以上 ■教養科目 必修科目1単位を含み6単位以上 ■全学共通科目 指定なし						1学年の学期区分				2期				
						1学期の授業期間				14週				
						1時限の授業時間				100分				



教 育 課 程 等 の 概 要																
(工学部機械工学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
全学共通科目	芝浦工業大学通論	1前・後		2			○								兼2	
	技術経営入門	1前・後		2			○								兼2	
	ダイバーシティ入門	1前・後		2			○								兼1	
	消費者行動論	1前・後			2		○								兼1	
	マーケティング概論	1前・後			2		○								兼1	
	デジタルプレゼンテーション	1前・後			2		○								兼1	
	Japanese Language I	1前・後			2		○								兼2	
	Japanese Language II	1前・後			2		○								兼2	
	Japanese Language III	1前・後			2		○								兼2	
	Japanese Language IV	1前・後			2		○								兼1	
小計 (10科目)		—	0	6	14		—							兼10		
基礎・教養科目	数 理 基 礎 科 目	線形代数第1	1前	2			○								兼2	
		線形代数第2	1後	2			○								兼2	
		微分積分第1	1前	4			○				1				兼1	
		微分積分第2	1後	4			○				1				兼2	
		微分方程式	1後		2			○							兼3	
		確率と統計第1	1前・後		2			○							兼10	
		確率と統計第2	2前・後		2			○							兼5	
		関数論	2前・後		2			○							兼3	
		ベクトル解析	2前・後		2			○							兼9	
		ラプラス変換	2前・後		2			○							兼4	
		フーリエ解析	2前・後		2			○							兼4	
小計 (11科目)		—	12	14	0		—		1					兼26		
物 理 学 科 目	基礎力学1	1前	2				○			1				兼1	共同	
	基礎力学2	1後	2				○			1				兼1		
	物理学実験	1後	3							1				兼2		
	基礎熱統計力学	1前		2			○							兼1		
	基礎熱統計力学演習	1前		2				○						兼1		
	相対論と量子論の基礎	2後		2				○						兼1		
	相対論と量子論の基礎演習	2後		2					○					兼1		
	基礎電磁気学	2後		2				○		1				兼1		
小計 (8科目)		—	7	10	0		—		1				兼6			
化 学 科 目	基礎化学A	1前	2				○							兼2	共同	
	基礎無機化学	1後		2			○							兼2		
	基礎有機化学	1後		2			○							兼3		
	基礎生物化学	1後		2			○							兼1		
	基礎固体化学	1後		2			○							兼1		
	化学実験	1前・後		2									○	兼7		
	小計 (6科目)		—	2	10	0		—						兼11		
英 語 科 目	Reading & Writing I	1前	2				○							兼10	選択必修	
	Reading & Writing II	2後		2			○							兼5		
	Listening & Speaking I	1後	2				○							兼11		
	Listening & Speaking II	2前		2			○							兼5		
	工学英語I	2前		2			○							兼15		
	工学英語II	2後		2			○							兼12		
	TOEIC I	1前・後		2			○							兼14		
	TOEIC II	1前・後		2			○							兼9		
小計 (8科目)		—	4	12	0		—						兼27			
情 報 科 目	情報リテラシー	1前・後		1			○							兼4		
	情報処理概論	1前・後		2			○							兼3		
	J a v a 入門	1前・後		3				○						兼2		
	C言語入門	1前・後		3				○						兼2		
	データサイエンス演習	1前・後		2				○						兼2		
小計 (5科目)		—	0	11	0		—						兼9			
人 文 社 会 系 教 養 科 目	生命倫理	1前	2				○							兼1		
	経済学	1前・後		2			○							兼1		
	メンタルヘルス・マネジメント	1前・後		2			○							兼1		
	日本国憲法	1前・後		2			○							兼2		
	現代の日本経済	1前・後		2			○							兼2		
	社会心理学	1前・後		2			○							兼1		
	認知心理学	1前・後		2			○							兼1		
	教育心理学	1前・後		2			○							兼1		
	プレゼンテーション入門	1前・後		2			○							兼3		
	レポートライティング	1前・後		2				○						兼2		
	教育原論	1前・後		2			○							兼2		
	法学入門	1前・後		2			○							兼1		
	技術者の倫理	1前・後		2			○							兼3		
	人間社会と環境問題	1前・後		2			○							兼2		
福祉と技術	1前・後		2			○							兼3			
現代日本の社会	1前・後		2			○							兼1			

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学部機械工学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	自己表現とコミュニケーション	1前・後		2			○							兼2	
	世界の言語と文化	1前・後		2			○							兼1	
	人間関係論	1前・後		2			○							兼1	
	教育の近現代史	1前・後		2			○							兼2	
	文化人類学	1前・後		2			○							兼1	
	情報アクセシビリティ論	2前・後		2			○							兼1	
	情報技術と現代社会	2前・後		2			○							兼1	
	映像メディア論	2前・後		2			○							兼1	
	地域と環境	2前・後		2			○							兼1	
	地方自治論	2前・後		2			○							兼1	
	生産と消費の環境論	2前・後		2			○							兼1	
	Accessibility of Information and Communication	2前・後		2			○							兼1	
	哲学・倫理学	3前・後		2			○							兼1	
	応用経済学	3前・後		2			○							兼1	
	教育社会学	3前・後		2			○							兼1	
	グローバルゼーション論	3前・後		2			○							兼1	
	地域と経済	3前・後		2			○							兼1	
	地域社会学	3前・後		2			○							兼1	
	知的財産法	3前・後		2			○							兼1	
	人文社会演習1	3前		2				○						兼1	
	人文社会演習2	3後		2				○						兼1	
Seminar on Social Aspects of Technology 1	3前		2				○						兼1		
Seminar on Social Aspects of Technology 2	3後		2				○						兼1		
小計 (39科目)		—	2	76	0		—							兼26	
体 育 健 康 科 目	ヘルスリテラシー&スポーツコミュニケーション	1前		2			○				1			兼2	
	ヘルスコンディショニング演習	1前・後		2			○							兼1	
	身体運動のバイオメカニクス	1前・後		2			○				1			兼1	
	スポーツ健康学	1前・後		2			○							兼1	
	スポーツ生理学	1前・後		2			○							兼1	
	ゴルフ	1前		2										兼5	
	スキー (スポーツコミュニケーション)	1後		1				○						兼4	
	テニス (テクニカル)	1前・後		1				○						兼2	
	テニス (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼2	
	ソフトボール (テクニカル)	1前・後		1				○						兼2	
	ソフトボール (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼1	
	バスケットボール (テクニカル)	1前・後		1				○						兼2	
	バスケットボール (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼1	
	バレーボール (テクニカル)	1前・後		1				○						兼2	
	バレーボール (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼1	
	バドミントン (テクニカル)	1前・後		1				○			1			兼4	
	バドミントン (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○			1			兼4	
	卓球 (テクニカル)	1前・後		1				○			1			兼3	
	卓球 (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○			1			兼3	
	サッカー (テクニカル)	1前・後		1				○						兼1	
	サッカー (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼1	
	フットサル (テクニカル)	1前・後		1				○						兼4	
	フットサル (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼3	
	フライングフットボール (テクニカル)	1前・後		1				○						兼1	
	フライングフットボール (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼1	
	軟式野球 (テクニカル)	1前・後		1				○						兼2	
	軟式野球 (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼1	
ウェルネス・スポーツ (テクニカル)	1前・後		1				○						兼3		
ウェルネス・スポーツ (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼3		
フィットネスA	3前		1				○						兼1		
フィットネスB	3後		1				○						兼1		
小計 (31科目)		—	0	37			—			1				兼14	
工 学 部 共 通	教職論	1前・後		2			○							兼1	
	塗料・塗装工学概論	1後		2			○							兼1	
	教育相談論	3前・後		2			○							兼1	
	惑星科学	2後		2			○							兼1	
	教育課程論	2前・後		2			○							兼1	
	現代生物学	3前		2			○							兼1	
	宇宙空間科学	3前		2			○							兼1	
	工学基礎概論	3前・後		2			○			1				兼16	
	職業指導	3前・後		2			○							兼1	
	特別支援教育論	3前・後		1			○							兼1	
	情報と職業	3前・後		2			○							兼1	
	事前・事後指導	4通年		1			○							兼5	
	教育実習1	4通年		2				○						兼5	
	教育実習2	4通年		2				○						兼5	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学部機械工学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	教職実践演習(中・高)	4後		2										兼5	
	グローバルPBL1	1前・後		2				○						兼1	
	グローバルPBL2	1前・後		2				○						兼1	
	グローバルPBL3	1前・後		2				○						兼1	
	グローバルPBL4	1前・後		2				○						兼1	
	受入型グローバルPBL1	1前・後		2				○						兼1	
	受入型グローバルPBL2	1前・後		2				○						兼1	
	国際インターンシップ1	2前・後		2				○						兼1	
	国際インターンシップ2	2前・後		2				○						兼1	
	国際インターンシップ3	2前・後		2				○						兼1	
	国際インターンシップ4	2前・後		2				○						兼1	
	統計学基礎	1後			1			○						兼1	
	データサイエンスリテラシー	1後		1				○						兼1	
	小計(27科目)	—	0	49	1			—		1				26	
専 門 科 目	機械材料	1前		2				○			1			兼1	選択必修A
	図学	1前		2				○						兼1	選択必修A
	機械工学の基礎1	1前		2				○		10	3			兼1	オムニバス 選択必修A
	材料力学1	1後	2					○		1					
	機械運動学	1後		2				○						兼1	選択必修A
	機械加工	1後		2				○						兼1	選択必修A
	機械工学の基礎2	1後		2				○		10	2			兼1	オムニバス 選択必修A
	Hydrodynamics 1	2前	2					○		1					
	熱力学1	2前	2					○			1				
	機械設計製図1	2前	3					○		2	1			兼4	共同
	材料力学2	2前		2				○						兼1	選択必修A
	機械要素	2前		2				○		1					選択必修A
	応用解析学	2前		2				○		1					選択必修B
	振動工学1	2後	2					○		1					
	機械設計製図2	2後	3					○		2	1			兼4	共同
	流れ学2	2後		2				○		1					選択必修A
	Thermodynamics 2	2後	2					○		1					選択必修A
	確率統計	2後		2				○						兼1	選択必修B
	エネルギー・環境論	2後		2				○						兼1	選択必修B
	機械工学実験	3前	3					○		7	1				共同
	振動工学2	3前		2				○		1					選択必修A
	流体力学1	3前		2				○		1					選択必修A
	エンジンシステム	3前		2				○		1					選択必修A
	伝熱工学	3前		2				○			1				選択必修A
	制御工学1	3前		2				○		1					選択必修A
	技術者倫理	3前		2				○						兼1	選択必修A
	工学英語 III	3前		2				○						兼1	選択必修B
	プログラミング言語	3前		2				○						兼1	選択必修B
	Mechatronics	3前		2				○		1					選択必修B
	低温工学	3前		2				○						兼3	オムニバス 選択必修B
	マイクロ・ナノ工学	3前		2				○		1					選択必修B
	応用機械工学実験	3後	3					○		7	1				共同
	機械ゼミナール	3後		2				○		9	2			兼1	選択必修A
	エネルギー変換工学	3後		2				○		1					選択必修A
	材料設計学	3後		2				○		1					選択必修A
	材料強度学	3後		2				○						兼1	選択必修B
	制御工学2	3後		2				○		1					選択必修B
	計算力学	3後		2				○			1				選択必修B
	航空宇宙工学	3後		2				○						兼3	オムニバス 選択必修B
	プログラミング演習	3後		2				○						兼1	選択必修B
	機械分子工学	3後		2				○						兼1	選択必修B
	Advanced course on Mechanical Engineering	3後		2				○		10	2			兼1	オムニバス 選択必修B
	Seminar on Advanced Mechanical Engineering	4前		2				○		10	2			兼1	選択必修B
	卒業研究1	4前	4					○		11	2			兼1	
	卒業研究2	4後	8					○		11	2			兼1	
	基礎伝熱学	3前		2				○						兼1	オムニバス
	弾塑性力学	3前		2				○						兼2	
	環境調和型エネルギー工学	3後		2				○						兼1	
	システム工学	3後		2				○						兼1	
	小計(49科目)	—	32	78	0			—		11	3			兼23	
	合計(194科目)	—	59	303	15			—		12	3			兼170	

教 育 課 程 等 の 概 要													
(工学部機械工学科)													
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	
学位又は称号	学士（工学）		学位又は学科の分野			工学関係 【大学設置基準第49条の4に定める専攻分野】 機械工学							
卒業要件及び履修方法						授業期間等							
1. 以下の条件を満たした上で124単位取得すること。 2. 基礎教養科目から下記を含み50単位以上 ①数基礎科目 必修21単位を含み27単位以上 ②英語科目 必修4単位、選択必修4単位を含み10単位以上 ③情報科目 2単位以上 ④人文社会系教養科目 必修2単位を含み8単位以上 3. 専門科目 必修32単位、選択必修A20単位、選択必修B20単位を含み72単位以上 4. GPAが2.0以上であること。 ※なお履修上限は年間49単位（半期では25単位）とする。						1 学年の学期区分		2期					
						1 学期の授業期間		14週					
						1 時限の授業時間		100分					

教 育 課 程 等 の 概 要																
(工学部機械機能工学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
全学共通科目	芝浦工業大学通論	1前・後		2		○									兼2	
	技術経営入門	1前・後		2		○									兼2	
	ダイバーシティ入門	1前・後		2		○									兼1	
	消費者行動論	1前・後			2	○									兼1	
	マーケティング概論	1前・後			2	○									兼1	
	デジタルプレゼンテーション	1前・後			2	○									兼1	
	Japanese Language I	1前・後			2	○									兼2	
	Japanese Language II	1前・後			2	○									兼2	
	Japanese Language III	1前・後			2	○									兼2	
	Japanese Language IV	1前・後			2	○									兼1	
	小計 (10科目)	—	0	6	14	—									兼10	
基礎・教養科目	数 学 科 目	線形代数第1	1前	2		○									兼2	
		線形代数第2	1後	2		○									兼2	
		微分積分第1	1前	4		○									兼3	
		微分積分第2	1後	4		○									兼3	
		確率と統計第1	1後	2		○									兼2	
		確率と統計第2	2前・後	2	2	○									兼5	
		微分方程式	1前・後	2	2	○									兼9	
		ベクトル解析	2前・後	2	2	○									兼9	
		関数論	2前・後	2	2	○									兼3	
		ラプラス変換	2前・後	2	2	○									兼4	
	フーリエ解析	2前・後	2	2	○									兼4		
		小計 (11科目)	—	14	12	0	—								兼26	
	物 理 学 科 目	物理学実験	1後	3					○	1					兼1	共同
		基礎電磁気学	1後	2			○			1					兼1	
		基礎電磁気学演習	1後	2	2			○		1					兼1	
相対論と量子論の基礎		2後	2	2			○		1					兼1		
相対論と量子論の基礎演習		2後	2	2				○	1					兼1		
	小計 (5科目)	—	5	6	0	—			1					兼4		
化 学 科 目	基礎化学C	1前	2			○								兼5		
	基礎無機化学	1後	2			○								兼2		
	基礎有機化学	1後	2			○								兼3		
	基礎生物化学	1後	2			○								兼1		
	基礎固体化学	1後	2			○								兼1		
	小計 (5科目)	—	2	8	0	—								兼10		
英 語 科 目	Reading & Writing I	1前	2			○				1				兼9		
	Reading & Writing II	2後	2			○								兼5		
	Listening & Speaking I	1後	2			○				1				兼10		
	Listening & Speaking II	2前	2			○								兼5		
	工学英語I	2前	2			○								兼14		
	工学英語II	2後	2			○				1				兼11		
	TOEIC I	1前・後	2			○				1				兼13		
	TOEIC II	1前・後	2			○								兼9		
	小計 (8科目)	—	4	12	0	—			1					兼26		
情 報 科 目	C言語入門	2前	3					○		1				兼4		
	情報リテラシー	1前・後	1			○								兼2		
	情報処理概論	1前・後	2			○				1				兼2		
	J a v a 入門	1前・後	3					○						兼2		
	データサイエンス演習	1前・後	2					○		1				兼1		
	小計 (5科目)	—	3	8	0	—			1					兼8		
人 文 社 会 系 教 養 科 目	技術者の倫理	1前	2			○				1				兼1		
	経済学	1前・後	2	2		○								兼2		
	生命倫理	1前・後	2	2		○				1				兼1		
	メンタルヘルス・マネジメント	1前・後	2	2		○								兼2		
	日本国憲法	1前・後	2	2		○								兼2		
	現代の日本経済	1前・後	2	2		○								兼2		
	社会心理学	1前・後	2	2		○								兼1		
	認知心理学	1前・後	2	2		○								兼1		
	教育心理学	1前・後	2	2		○								兼1		
	プレゼンテーション入門	1前・後	2	2		○								兼3		
	レポートライティング	1前・後	2	2				○						兼2		
	教育原論	1前・後	2	2				○						兼2		
	法学入門	1前・後	2	2		○								兼1		
	人間社会と環境問題	1前・後	2	2		○								兼2		
	福祉と技術	1前・後	2	2		○								兼3		
現代日本の社会	1前・後	2	2		○								兼1			
自己表現とコミュニケーション	1前・後	2	2		○								兼2			

教育課程等の概要															
(工学部機械機能工学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手	
	世界の言語と文化	1前・後		2		○									兼1
	人間関係論	1前・後		2		○									兼1
	教育の近現代史	1前・後		2		○									兼2
	文化人類学	1前・後		2		○									兼1
	情報アクセシビリティ論	2前・後		2		○									兼1
	情報技術と現代社会	2前・後		2		○									兼1
	映像メディア論	2前・後		2		○									兼1
	地域と環境	2前・後		2		○									兼1
	地方自治論	2前・後		2		○									兼1
	生産と消費の環境論	2前・後		2		○									兼1
	Accessibility of Information and Communication	2前・後		2		○									兼1
	哲学・倫理学	3前・後		2		○				1					
	応用経済学	3前・後		2		○									兼1
	教育社会学	3前・後		2		○									兼1
	グローバリゼーション論	3前・後		2		○									兼1
	地域と経済	3前・後		2		○									兼1
	地域社会学	3前・後		2		○									兼1
	知的財産法	3前・後		2		○									兼1
	人文社会演習1	3前		2				○							兼1
	人文社会演習2	3後		2				○							兼1
Seminar on Social Aspects of Technology 1	3前		2				○							兼1	
Seminar on Social Aspects of Technology 2	3後		2				○							兼1	
小計(39科目)		-	2	76	0	-									
体育健康科目	ヘルスリテラシー&スポーツコミュニケーション	1前		2			○								兼3
	ヘルスコンディショニング演習	1前・後		2			○								兼1
	身体運動のバイオメカニクス	1前・後		2		○									兼2
	スポーツ健康学	1前・後		2		○									兼1
	スポーツ生理学	1前・後		2		○									兼1
	ゴルフ	1前		2				○							兼5
	スキー(スポーツコミュニケーション)	1後		1				○							兼4
	テニス(テクニカル)	1前・後		1				○							兼2
	テニス(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼2
	ソフトボール(テクニカル)	1前・後		1				○							兼2
	ソフトボール(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼1
	バスケットボール(テクニカル)	1前・後		1				○							兼2
	バスケットボール(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼1
	バレーボール(テクニカル)	1前・後		1				○							兼2
	バレーボール(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼1
	バドミントン(テクニカル)	1前・後		1				○							兼5
	バドミントン(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼2
	卓球(テクニカル)	1前・後		1				○							兼4
	卓球(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼4
	サッカー(テクニカル)	1前・後		1				○							兼1
	サッカー(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼1
	フットサル(テクニカル)	1前・後		1				○							兼4
	フットサル(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼3
	フライングフットボール(テクニカル)	1前・後		1				○							兼1
	フライングフットボール(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼1
	軟式野球(テクニカル)	1前・後		1				○							兼2
	軟式野球(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼1
ウェルネス・スポーツ(テクニカル)	1前・後		1				○							兼3	
ウェルネス・スポーツ(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼3	
フィットネスA	3前		1				○							兼1	
フィットネスB	3後		1				○							兼1	
小計(30科目)		-	0	37		-									兼15
工学部共通	教職論	1前・後		2		○									兼1
	塗料・塗装工学概論	1後		2		○									兼1
	教育相談論	3前・後		2		○									兼1
	惑星科学	2後		2		○									兼1
	教育課程論	2前・後		2		○									兼1
	現代生物学	3前		2		○									兼1
	宇宙空間科学	3前		2		○									兼1
	工学基礎概論	3前・後		2		○				1					兼16
	職業指導	3前・後		2		○									兼1
	特別支援教育論	3前・後		1		○									兼1
	情報と職業	3前・後		2		○									兼1
	事前・事後指導	4通年		1		○									兼5
	教育実習1	4通年		2				○							兼5
	教育実習2	4通年		2				○							兼5
	教職実践演習(中・高)	4後		2				○							兼5
	グローバルPBL1	1前・後		2				○							兼1

教 育 課 程 等 の 概 要																
(工学部機械機能工学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	グローバルPBL 2	1前・後		2				○							兼1	
	グローバルPBL 3	1前・後		2				○							兼1	
	グローバルPBL 4	1前・後		2				○							兼1	
	受入型グローバルPBL 1	1前・後		2				○							兼1	
	受入型グローバルPBL 2	1前・後		2				○							兼1	
	国際インターンシップ 1	2前・後		2				○							兼1	
	国際インターンシップ 2	2前・後		2				○							兼1	
	国際インターンシップ 3	2前・後		2				○							兼1	
	国際インターンシップ 4	2前・後		2				○							兼1	
	統計学基礎	1後			1			○							兼1	
	データサイエンスリテラシー	1後		1				○							兼1	
	小計 (27科目)	—	0	49	1		—			1					兼26	
専 門 科 目	機械の力学1	1前		2				○				1			兼1	
	機械機能工学入門	1前		2				○				9	6		1	兼1
	機械機能工学基礎	1前		2				○				1				
	材料力学1	1後		2				○				1				
	機械要素設計1	1後		2				○				2	1		兼1	
	機械要素	1後			2			○				1				選択必修
	マテリアル・サイエンス	1後			2			○							兼1	選択必修
	機械の力学2	2前		2				○					1			
	流れの力学1	2前		2				○				1				
	熱力学1	2前		2				○				1				
	機械要素設計2	2前		2				○				1	1		兼1	
	機械機能工学実験1	2前		2						○		4	2			
	材料力学2	2前			2			○				1			兼1	選択必修
	加工学	2前		2				○								選択必修
	機械要素設計3	2後		2				○				1	1		兼1	
	機械機能工学実験2	2後		2						○		2	1			
	機械の力学3	2後			2			○				1				選択必修
	流れの力学2	2後		2				○				1				選択必修
	熱力学2	2後		2				○				1				選択必修
	基礎伝熱学	3前		2				○				1				選択必修
	制御工学	3前		2				○					1			選択必修
	工学英語Ⅲ	3前		2				○					1			選択必修
	弾塑性力学	3前		2				○				2				選択必修
	生産管理工学	3前		2				○							兼1	選択必修
	応用解析総合	3前		2				○				2				選択必修
	熱力学総合	3前		2				○				1				選択必修
	流体力学総合	3前		2				○				2				選択必修
	創成設計1	3前		2				○				1				選択必修
	メカトロニクス	3後		2				○					1			
	Engineering Science & Mechanics	3後		1				○				9	6		1	
	創成ゼミナール1	3後		1						○		8	4		1	兼1
	創成ゼミナール2	3後		1						○		8	4		1	兼1
	環境調和型エネルギー工学	3後		2				○							兼1	選択必修
	エネルギー/環境概論	3後		2				○							兼1	選択必修
	システム工学	3後		2				○					1			選択必修
	電気工学	3後		2				○							兼1	選択必修
	機械力学総合	3後		2				○				1	1			選択必修
	創成設計2	3後		2				○				1				選択必修
	材料力学総合	3後		2				○				2			兼1	選択必修
	システム・制御総合	3後		2				○				1			兼1	選択必修
	Numerical Thermo-Fluid Engineering	4前		2				○				1				
	振動工学	4前		2				○				1				
	材料強度学	4前		2				○				1				
	機能材料学	4前		2				○							兼1	
	生産加工学	4前		2				○				1				
	冷凍・空調工学	4前		2				○				1				
	マンマシンシステム	4前		2				○					1			
	Soft Materials Engineering	4前		2				○				1				
	Combustion Engineering	4前		2				○				1				
	生体力学	4前		2				○				1				
	マイクロ・ナノシステム	4前		2				○				1				
	卒業研究1	4前		4								9	6		1	兼1
	卒業研究2	4後		8								9	6		1	兼1
	エンジンシステム	3前		2				○								兼1
	計算力学	3後		2				○								兼1
	エネルギー変換工学	3後		2				○								兼1
	小計 (56科目)	—	41	76	0		—			11	6		1		兼11	
	合計 (197科目)	—	71	290	15		—			11	6		1		兼154	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学部機械機能工学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学位又は称号	学士（工学）		学位又は学科の分野			工学関係 【大学設置基準第49条の4に定める専攻分野】 機械機能工学								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
1. 以下の条件を満たした上で124単位取得すること。 2. 基礎教養科目から下記を含み52単位以上 ①数基礎科目 必修21単位を含み27単位以上 ※ただし、フーリエ解析・ラプラス変換・微分方程式・ベクトル解析から4単位以上。 ②英語科目 必修4単位を含み10単位以上 ※ただし、Listening & Speaking II・Reading & Writing II・工学英語I・工学英語IIから4単位以上 ③情報科目 必修3単位を含み4単位以上 ④人文社会系教養科目 必修2単位を含み6単位以上 ⑤体育健康科目 2単位以上 3. 専門科目 必修41単位、選択必修26単位を含み67単位以上 4. GPAが2.0以上であること。 ※なお履修上限は年間49単位（半期では25単位）とする。						1学年の学期区分			2期					
						1学期の授業期間			14週					
						1時限の授業時間			100分					



教育課程等の概要																
(工学部材料工学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通科目	芝浦工業大学通論	1前・後		2		○								兼2		
	技術経営入門	1前・後		2		○								兼2		
	ダイバーシティ入門	1前・後		2		○								兼1		
	消費者行動論	1前・後		2	2	○								兼1		
	マーケティング概論	1前・後		2	2	○								兼1		
	デジタルプレゼンテーション	1前・後		2	2	○								兼1		
	Japanese Language I	1前・後		2	2	○								兼2		
	Japanese Language II	1前・後		2	2	○								兼2		
	Japanese Language III	1前・後		2	2	○								兼2		
	Japanese Language IV	1前・後		2	2	○								兼1		
小計 (10科目)		—	0	6	14	—								兼10		
基礎・教養科目	数 理 基 礎 科 目	数 学 科 目	線形代数第1	1前		2		○							兼4	
			線形代数第2	1後		2		○			1				兼3	
			微分積分第1	1前		4		○								兼5
			微分積分第2	1後		4		○								兼4
			微分方程式	1前・後		2		○								兼9
			確率と統計第1	1前・後		2		○				1				兼9
			確率と統計第2	2前・後		2		○								兼5
			ベクトル解析	2前・後		2		○								兼9
			関数論	2前・後		2		○								兼3
			ラプラス変換	2前・後		2		○								兼4
	フーリエ解析	2前・後		2		○								兼4		
	小計 (11科目)		—	0	26	0	—				1				兼26	
	物 理 学 科 目	物理学入門	1前		4		○					1			兼1	
		物理学実験	1前		3										兼1	
		基礎熱統計力学	1前		2		○								兼1	
		基礎熱統計力学演習	1前		2			○							兼1	
		基礎力学および演習	1後		4		○								兼4	
		基礎電磁気学および演習	1後		4		○								兼1	
		相対論と量子論の基礎	2後		2		○								兼1	
相対論と量子論の基礎演習		2後		2			○							兼1		
小計 (8科目)		—	0	23	0	—				1				兼7		
化 学 科 目	基礎化学A	1前		2		○				2						
	基礎無機化学	1後		2		○				1				兼1		
	基礎有機化学	1後		2		○								兼3		
	基礎生物化学	1後		2		○								兼1		
	基礎固体化学	1後		2		○								兼1		
	化学実験	1前・後		2				○		2				兼5		
	小計 (6科目)		—	0	12	0	—			2				兼9		
英 語 科 目	Reading & Writing I	1前		2		○								兼8		
	Reading & Writing II	2後		2		○								兼5		
	Listening & Speaking I	1後		2		○								兼6		
	Listening & Speaking II	2前		2		○								兼5		
	工学英語I	2前		2		○								兼15		
	工学英語II	2後		2		○								兼12		
	TOEIC I	1前・後		2		○								兼14		
	TOEIC II	1前・後		2		○								兼9		
	工業技術者英語	3前		2		○								兼1		
小計 (9科目)		—	4	14	0	—								兼36		
情 報 科 目	情報リテラシー	1前・後		1		○								兼4		
	情報処理概論	1前・後		2		○								兼3		
	J a v a 入門	1前・後		3				○						兼2		
	C言語入門	1前・後		3				○						兼2		
	データサイエンス演習	1前・後		2				○						兼2		
	小計 (5科目)		—	0	11	0	—								兼9	
人 文 社 会 系 教 養 科 目	経済学	1前・後		2		○								兼1		
	生命倫理	1前・後		2		○								兼3		
	メンタルヘルス・マネジメント	1前・後		2		○								兼1		
	日本国憲法	1前・後		2		○								兼2		
	現代の日本経済	1前・後		2		○								兼2		
	社会心理学	1前・後		2		○								兼1		
	認知心理学	1前・後		2		○								兼1		
	教育心理学	1前・後		2		○								兼1		
	プレゼンテーション入門	1前・後		2		○								兼3		
	レポートライティング	1前・後		2		○								兼2		
	教育原論	1前・後		2		○								兼2		
	法学入門	1前・後		2		○								兼1		
	技術者の倫理	1前・後		2		○								兼4		
	人間社会と環境問題	1前・後		2		○								兼2		
	福祉と技術	1前・後		2		○								兼3		

教育課程等の概要															
(工学部材料工学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	現代日本の社会	1前・後		2		○								兼1	
	自己表現とコミュニケーション	1前・後		2		○								兼2	
	世界の言語と文化	1前・後		2		○								兼1	
	人間関係論	1前・後		2		○								兼1	
	教育の近現代史	1前・後		2		○								兼2	
	文化人類学	1前・後		2		○								兼1	
	情報アクセシビリティ論	2前・後		2		○								兼1	
	情報技術と現代社会	2前・後		2		○								兼1	
	映像メディア論	2前・後		2		○								兼1	
	地域と環境	2前・後		2		○								兼1	
	地方自治論	2前・後		2		○								兼1	
	生産と消費の環境論	2前・後		2		○								兼1	
	Accessibility of Information and Communication	2前・後		2		○								兼1	
	哲学・倫理学	3前・後		2		○								兼1	
	応用経済学	3前・後		2		○								兼1	
	教育社会学	3前・後		2		○								兼1	
	グローバルゼーション論	3前・後		2		○								兼1	
	地域と経済	3前・後		2		○								兼1	
	地域社会学	3前・後		2		○								兼1	
	知的財産法	3前・後		2		○								兼1	
	人文社会演習 1	3前		2			○							兼1	
	人文社会演習 2	3後		2			○							兼1	
	Seminar on Social Aspects of Technology 1	3前		2			○							兼1	
	Seminar on Social Aspects of Technology 2	3後		2			○							兼1	
	小計 (39科目)	—	0	78	0	—								兼27	
体育健康科目	ヘルスリテラシー&スポーツコミュニケーション	1前		2			○							兼3	
	ヘルスコンディショニング演習	1前・後		2			○							兼1	
	身体運動のバイオメカニクス	1前・後		2		○								兼2	
	スポーツ健康学	1前・後		2		○								兼1	
	スポーツ生理学	1前・後		2		○								兼1	
	ゴルフ	1前		2				○						兼5	
	スキー (スポーツコミュニケーション)	1後		1				○						兼4	
	テニス (テクニカル)	1前・後		1				○						兼2	
	テニス (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼2	
	ソフトボール (テクニカル)	1前・後		1				○						兼2	
	ソフトボール (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼1	
	バスケットボール (テクニカル)	1前・後		1				○						兼2	
	バスケットボール (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼1	
	バレーボール (テクニカル)	1前・後		1				○						兼2	
	バレーボール (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼1	
	バドミントン (テクニカル)	1前・後		1				○						兼5	
	バドミントン (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼2	
	卓球 (テクニカル)	1前・後		1				○						兼4	
	卓球 (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼4	
	サッカー (テクニカル)	1前・後		1				○						兼1	
	サッカー (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼1	
	フットサル (テクニカル)	1前・後		1				○						兼4	
	フットサル (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼3	
	フライングフットボール (テクニカル)	1前・後		1				○						兼1	
	フライングフットボール (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼1	
	軟式野球 (テクニカル)	1前・後		1				○						兼2	
	軟式野球 (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼1	
	ウェルネス・スポーツ (テクニカル)	1前・後		1				○						兼3	
	ウェルネス・スポーツ (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼3	
	フィットネスA	3前		1				○						兼1	
	フィットネスB	3後		1				○						兼1	
	小計 (31科目)	—	0	37		—								兼15	
工学部共通	教職論	1前・後		2		○								兼1	
	塗料・塗装工学概論	1後		2		○								兼1	
	教育相談論	3前・後		2		○								兼1	
	惑星科学	2後		2		○								兼1	
	教育課程論	2前・後		2		○								兼1	
	現代生物学	3前		2		○								兼1	
	宇宙空間科学	3前		2		○								兼1	
	工学基礎概論	3前・後		2		○			1					兼16	オムニバス
	職業指導	3前・後		2		○								兼1	
	特別支援教育論	3前・後		1		○								兼1	
	情報と職業	3前・後		2		○								兼1	
	事前・事後指導	4通年		1		○								兼5	
	教育実習 1	4通年		2				○						兼5	
	教育実習 2	4通年		2				○						兼5	
	教職実践演習 (中・高)	4後		2			○							兼5	
	グローバルPBL 1	1前・後		2		○								兼1	
	グローバルPBL 2	1前・後		2		○								兼1	

教育課程等の概要															
(工学部材料工学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	グローバルPBL3	1前・後		2				○						兼1	
	グローバルPBL4	1前・後		2				○						兼1	
	受入型グローバルPBL1	1前・後		2				○						兼1	
	受入型グローバルPBL2	1前・後		2				○						兼1	
	国際インターンシップ1	2前・後		2				○						兼1	
	国際インターンシップ2	2前・後		2				○						兼1	
	国際インターンシップ3	2前・後		2				○						兼1	
	国際インターンシップ4	2前・後		2				○						兼1	
	統計学基礎	1後			1			○						兼1	
	データサイエンスリテラシー	1後		1				○						兼1	
	小計 (31科目)	—	0	49	1			—		1				兼26	
専門科目	材料の化学1A	1前		1				○			1				選択必修
	材料の化学1B	1前		1				○			1				選択必修
	材料力学A	1前		1				○			1				選択必修
	材料力学B	1前		1				○			1				選択必修
	材料熱力学1A	1前		1				○			1				選択必修
	材料熱力学1B	1前		1				○			1				選択必修
	材料工学入門A	1前		1				○			6	1		オムニバス	選択必修
	材料工学入門B	1前		1				○			4	2		オムニバス	選択必修
	材料組織学A	1後	1					○			1				
	材料組織学B	1後	1					○			1				
	材料熱力学2A	1後		1				○			1				選択必修
	材料熱力学2B	1後		1				○			1				選択必修
	材料工学通論A	1後		1				○			4	2	1	オムニバス	選択必修
	材料工学通論B	1後		1				○				1			選択必修
	材料統計力学A	1後		1				○			1				選択必修
	材料統計力学B	1後		1				○			1				選択必修
	基礎弾塑性論A	1後		1				○			1				選択必修
	基礎弾塑性論B	1後		1				○			1				選択必修
	材料の化学2A	1後		1				○			1				選択必修
	材料の化学2B	1後		1				○			1				選択必修
	材料化学演習1A	1後		1										兼1	
	材料化学演習1B	1後		1										兼1	
	材料化学演習2A	1後		1										兼1	
	材料化学演習2B	1後		1										兼1	
	セラミックスA	2前	1					○			1				
	セラミックスB	2前	1					○			1				
	材料電磁気学A	2前	1					○			1				
	材料電磁気学B	2前	1					○			1				
	反応速度論A	2前	1					○			1				
	反応速度論B	2前	1					○			1				
	材料科学1A	2前	1					○			1				
	材料科学1B	2前	1					○			1				
	弾塑性論A	2前		1				○			1				選択必修
	弾塑性論B	2前		1				○			1				選択必修
	材料熱力学および演習A	2前		1				○						兼1	
	材料熱力学および演習B	2前		1				○						兼1	
	図学と機械製図および演習	2前		3				○			1			兼1	
	地質・鉱物化学実験	2前		1							○	1		兼2	合同
	生物化学実験(教職)	2後		1							○			兼2	
	生体材料工学入門A	2後	1					○			1				
	生体材料工学入門B	2後	1					○			1				
	基礎有機材料A	2後	1					○			1				
	基礎有機材料B	2後	1					○			1				
	固体物理A	2後		1				○			1				選択必修
	固体物理B	2後		1				○			1				選択必修
	基礎結晶構造学A	2後		1				○			1				選択必修
	基礎結晶構造学B	2後		1				○			1				選択必修
	材料科学実験	2後		2							○	3		兼2	選択必修
	接合工学A	2後		1				○			1				
	接合工学B	2後		1				○			1				
	機械設計・製図および演習	2後		3				○			1			兼1	
	資源とエネルギー	3前	2					○			1				
	材料基礎実験1	3前	2								○	6			合同
	材料基礎実験2	3前	2								○	6			合同
	ゼミナール1	3前	2								○	13	3	1	
	Organic Materials Chemistry	3前		2				○			1				選択必修
	材料破壊力学	3前		2				○			1			兼1	選択必修
	Phase Transitions in Materials	3前		2				○			1				選択必修
	凝固工学	3前		2				○			1				
	Semiconductor Materials	3前		2				○			1				選択必修
	Electrochemistry of Metals	3前		2				○			1				選択必修
	複合材料	3前		2				○			1				選択必修
	固体物性論	3前		2				○			1				選択必修
	応用有機材料	3前		2				○			1			兼1	

教育課程等の概要															
(工学部材料工学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	鉄鋼材料製造法	3前		2		○								兼1	合同 合同 選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 選択必修 兼1 兼1 兼1
	材料工学実験 1	3後	2					○	6	1					
	材料工学実験 2	3後	2					○	6	1					
	ゼミナール 2	3後	2					○	13	3		1			
	応用結晶構造学	3後				○			1						
	量子物性論	3後		2		○			1						
	腐食・防食学	3後		2		○			1						
	非鉄金属材料	3後		2		○			1						
	Strength of Materials	3後		2		○								兼1	
	Nuclear Energy Engineering	3後		2		○			1						
	機能材料	3後		2		○				1					
	表面面の物理化学	3後		2		○			1						
	構造材料工学	3後		2		○			1						
	材料科学 2	3後		2		○			1						
	生体材料工学	3後		2		○								兼1	
	粉体成形	3後		2		○								兼1	
	卒業研究 1	4前	4					○	13	3		1			
	卒業研究 2	4後	8					○	13	3		1			
	光化学	3後		2		○								兼1	
	小計 (83科目)	—	40	86	0	—			13	3		1		兼15	
	合計 (229科目)	—	44	342	15	—			13	3		1		兼164	
学位又は称号	学士 (工学)	学位又は学科の分野			工学関係 【大学設置基準第49条の4に定める専攻分野】 材料工学										
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
1. 以下の条件を満たした上で124単位取得すること。 2. 基礎教養科目から下記を含み40単位以上 ①数基礎科目 数学科目4単位以上、物理学科目4単位以上、化学科目4単位以上 ②英語科目 必修4単位を含み10単位以上 ③情報科目 1単位以上 ④人文社会系教養科目 8単位以上 3. 専門科目 必修40単位、選択必修16単位を含み72単位以上 4. GPAが2.0以上であること。 ※なお履修上限は年間49単位 (半期では25単位) とする。						1 学年の学期区分	2期								
						1 学期の授業期間	14週								
						1 時限の授業時間	100分								

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学部応用化学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
全学共通科目	芝浦工業大学通論	1前・後		2		○								兼2	
	技術経営入門	1前・後		2		○								兼2	
	ダイバーシティ入門	1前・後		2		○								兼1	
	消費者行動論	1前・後		2	2	○								兼1	
	マーケティング概論	1前・後		2	2	○								兼1	
	デジタルプレゼンテーション	1前・後		2	2	○								兼1	
	Japanese Language I	1前・後		2	2	○								兼2	
	Japanese Language II	1前・後		2	2	○								兼2	
	Japanese Language III	1前・後		2	2	○								兼2	
	Japanese Language IV	1前・後		2	2	○								兼1	
小計(10科目)		—	0	6	14	—								兼10	
数 理 基 礎 科 目	数 学 科 目	線形代数第1	1前	2		○								兼4	
		線形代数第2	1後	2		○								兼4	
		微分積分第1	1前	4		○								兼5	
		微分積分第2	1後	4		○								兼4	
		微分方程式	1前・後	2		○								兼9	
		確率と統計第1	1前・後	2		○								兼10	
		確率と統計第2	2前・後	2		○								兼5	
		関数論	2前・後	2		○								兼3	
		ベクトル解析	2前・後	2		○								兼9	
		ラプラス変換	2前・後	2		○								兼4	
	フーリエ解析	2前・後	2		○								兼4		
小計(11科目)		—	0	26	0	—							兼27		
物 理 学 科 目	物理学入門	1前	4		○			○					兼1		
	物理学実験	1前	3										兼1		
	基礎熱統計力学	1前	2		○			○					兼1		
	基礎熱統計力学演習	1前	2					○					兼4		
	基礎力学および演習	1後	4		○								兼1		
	基礎電磁気学および演習	1後	4		○								兼1		
	相対論と量子論の基礎	2後	2		○								兼1		
	相対論と量子論の基礎演習	2後	2				○						兼1		
小計(8科目)		—	0	23	0	—						兼6			
化 学 科 目	化学実験	1前	2					○	2	2				兼3	合同
	小計(1科目)		—	2	0	0	—		2	2			兼3		
英 語 科 目	Reading & Writing I	1前	2		○				1					兼7	
	Reading & Writing II	2後	2		○									兼5	選択必修
	Listening & Speaking I	1後	2		○				1					兼5	
	Listening & Speaking II	2前	2		○				1					兼4	選択必修
	工学英語I	2前	2		○									兼15	選択必修
	工学英語II	2後	2		○				1					兼11	選択必修
	TOEIC I	1前・後	2		○									兼14	選択必修
	TOEIC II	1前・後	2		○									兼9	選択必修
	ビジネス英語	3後	2		○				1						
小計(9科目)		—	4	14	0	—		1					兼26		
情 報 科 目	情報リテラシー	1前・後		1		○								兼4	
	情報処理概論	1前・後		2		○								兼3	
	J a v a 入門	1前・後		3			○							兼2	
	C言語入門	1前・後		3			○							兼2	
	データサイエンス演習	1前・後		2			○							兼2	
	小計(5科目)		—	0	11	0	—							兼9	
基 礎 ・ 教 養 科 目	人 文 社 会	技術者の倫理	1前	2		○								兼1	
		経済学	1前・後	2		○								兼1	
		生命倫理	1前・後	2		○								兼3	
		メンタルヘルス・マネジメント	1前・後	2		○								兼1	
		日本国憲法	1前・後	2		○								兼2	
		現代の日本経済	1前・後	2		○								兼2	
		社会心理学	1前・後	2		○								兼1	
		認知心理学	1前・後	2		○								兼1	
		教育心理学	1前・後	2		○								兼1	
		プレゼンテーション入門	1前・後	2		○								兼3	
		レポートライティング	1前・後	2		○								兼2	
		教育原論	1前・後	2		○								兼2	
		法学入門	1前・後	2		○								兼1	
		人間社会と環境問題	1前・後	2		○								兼2	
		福祉と技術	1前・後	2		○								兼3	
		現代日本の社会	1前・後	2		○								兼1	
		自己表現とコミュニケーション	1前・後	2		○								兼2	
		世界の言語と文化	1前・後	2		○								兼1	
		人間関係論	1前・後	2		○								兼1	
		教育の近現代史	1前・後	2		○								兼2	

教育課程等の概要																
(工学部応用化学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
系 教 養 科 目	文化人類学	1前・後		2		○									兼1	
	情報アクセシビリティ論	2前・後		2		○									兼1	
	情報技術と現代社会	2前・後		2		○									兼1	
	映像メディア論	2前・後		2		○									兼1	
	地域と環境	2前・後		2		○									兼1	
	地方自治論	2前・後		2		○									兼1	
	生産と消費の環境論	2前・後		2		○									兼1	
	Accessibility of Information and Communication	2前・後		2		○									兼1	
	哲学・倫理学	3前・後		2		○									兼1	
	応用経済学	3前・後		2		○									兼1	
	教育社会学	3前・後		2		○									兼1	
	グローバリゼーション論	3前・後		2		○									兼1	
	地域と経済	3前・後		2		○									兼1	
	地域社会学	3前・後		2		○									兼1	
	知的財産法	3前・後		2		○									兼1	
	人文社会演習1	3前		2			○								兼1	
	人文社会演習2	3後		2			○								兼1	
	Seminar on Social Aspects of Technology 1	3前		2			○								兼1	
	Seminar on Social Aspects of Technology 2	3後		2			○								兼1	
	小計(39科目)		—	2	76	0										兼25
体 育 健 康 科 目	ヘルスリテラシー&スポーツコミュニケーション	1前		2			○								兼3	
	ヘルスコンディショニング演習	1前・後		2			○								兼1	
	身体運動のバイオメカニクス	1前・後		2		○									兼2	
	スポーツ健康学	1前・後		2		○									兼1	
	スポーツ生理学	1前・後		2		○									兼1	
	ゴルフ	1前		2				○							兼5	
	スキー(スポーツコミュニケーション)	1後		1				○							兼4	
	テニス(テクニカル)	1前・後		1				○							兼2	
	テニス(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼2	
	ソフトボール(テクニカル)	1前・後		1				○							兼2	
	ソフトボール(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼1	
	バスケットボール(テクニカル)	1前・後		1				○							兼2	
	バスケットボール(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼1	
	バレーボール(テクニカル)	1前・後		1				○							兼2	
	バレーボール(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼1	
	バドミントン(テクニカル)	1前・後		1				○							兼5	
	バドミントン(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼2	
	卓球(テクニカル)	1前・後		1				○							兼4	
	卓球(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼4	
	サッカー(テクニカル)	1前・後		1				○							兼1	
	サッカー(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼1	
	フットサル(テクニカル)	1前・後		1				○							兼4	
	フットサル(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼3	
	フラグフットボール(テクニカル)	1前・後		1				○							兼1	
	フラグフットボール(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼1	
軟式野球(テクニカル)	1前・後		1				○							兼2		
軟式野球(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼1		
ウェルネス・スポーツ(テクニカル)	1前・後		1				○							兼3		
ウェルネス・スポーツ(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼3		
フィットネスA	3前		1				○							兼1		
フィットネスB	3後		1				○							兼1		
小計(31科目)		—	0	37											兼15	
工 学 部 共 通	教職論	1前・後		2		○									兼1	
	塗料・塗装工学概論	1後		2		○									兼1	
	教育相談論	3前・後		2		○									兼1	
	惑星科学	2後		2		○									兼1	
	教育課程論	2前・後		2		○									兼1	
	現代生物学	3前		2		○									兼1	
	宇宙空間科学	3前		2		○									兼1	
	工学基礎概論	3前・後		2		○				3					兼14	オムニバス
	職業指導	3前・後		2		○									兼1	
	特別支援教育論	3前・後		1		○									兼1	
	情報と職業	3前・後		2		○									兼1	
	事前・事後指導	4通年		1		○									兼5	
	教育実習1	4通年		2			○								兼5	
	教育実習2	4通年		2			○								兼5	
	教職実践演習(中・高)	4後		2			○								兼5	
	グローバルPBL1	1前・後		2			○								兼1	
	グローバルPBL2	1前・後		2			○								兼1	
	グローバルPBL3	1前・後		2			○								兼1	
	グローバルPBL4	1前・後		2			○								兼1	
	受入型グローバルPBL1	1前・後		2			○								兼1	
受入型グローバルPBL2	1前・後		2			○								兼1		
国際インターンシップ1	2前・後		2			○								兼1		
国際インターンシップ2	2前・後		2			○								兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要																
(工学部応用化学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	国際インターンシップ 3	2前・後		2				○							兼1	
	国際インターンシップ 4	2前・後		2				○							兼1	
	統計学基礎	1後			1			○							兼1	
	データサイエンスリテラシー	1後		1				○							兼1	
	小計 (27科目)	—	0	49	1		—		3						兼24	
専 門 科 目	工業化学概論	1前	2				○		13	2					兼4	
	分析化学実験	2前	3					○	4							
	物理化学実験	2後	3					○	3							
	有機化学実験	3前	3					○	3							
	化学工学実験	3後	3					○	2							
	化学工業総論	3後	2				○		12	2					兼3	
	卒業研究 1	4前	4					○	13	2					兼3	
	卒業研究 2	4後	8					○	13	2					兼3	
	有機化学	1前	2				○		1							選択必修A
	無機化学 1	1前	2				○		1							選択必修A
	無機化学 2	1後	2				○		1							選択必修A
	有機反応論	1後	2				○		1							選択必修A
	分析化学	1後	2				○		1							選択必修A
	生物有機化学	2前	2				○		1							選択必修A
	化学分光学	2後	2				○			1						選択必修A
	生物化学	2後	2				○		1		1					選択必修A
	化学工学 1	1前	2				○		1							選択必修B
	物理化学 1	1後	2				○		1							選択必修B
	物理化学 2	2前	2				○		1							選択必修B
	化学工学 2	2前	2				○		1							選択必修B
	化学結合論	1後	2				○		1							
	生物化学実験 (教職)	2後	1					○	1	2						
	地質・鉱物化学実験	2前	1					○								兼3
	Introduction to Chemical Spectroscopy	2前	2				○		1							
	有機合成化学	3後	2				○		1							
	反応工学	3前	2				○		1							
	分離工学	3前	2				○		1							
	セラミックス化学	3前	2				○		1							
	電気化学	3前	2				○		1							
	有機構造決定法	3前	2				○		1							
	環境化学	3前	2				○		1							
	ケミカルバイオロジー基礎	3前	2				○		1							
	Applied Chemistry Laboratory	3前	3					○	13	2						オムニバス
	Introduction to Applied Chemistry	3前	2				○		13	2						オムニバス
	Basic Thermodynamics for Chemists and Chemical Engineers	3後	2				○		1							
	無機物質化学	3後	2				○		1							
	高分子化学	3後	2				○		1							
	光化学	3後	2				○		1							
	Foundations of Chemical Biology	3後	2				○		1							
	応用生物化学	3後	2				○			1						
	地球科学	3後	2				○									兼1
	Semiconductor Materials	3前			2		○									兼1
	腐食・防食学	3後			2		○									兼1
小計 (43科目)	—	—	28	65	4		—		14	2					兼12	
合計 (185科目)		—	36	307	19		—		15	3					兼150	
学位又は称号	学士 (工学)		学位又は学科の分野			工学関係 【大学設置基準第49条の4に定める専攻分野】 応用化学										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
1. 以下の条件を満たした上で124単位取得すること。 2. 基礎教養科目から下記を含み41単位以上 ①数基礎科目 数学科目、物理科目から合わせて14単位以上、化学科目から必修2単位 ②英語科目 必修4単位、選択必修6単位を含み10単位以上 ③情報科目 3単位以上 ④人文社会系教養科目 必修2単位を含み12単位以上 3. 専門科目 必修28単位、選択必修 (A) 14単位以上、選択必修 (B) 6単位以上を含み64単位以上 4. GPAが2.0以上であること。 ※なお履修上限は年間49単位 (半期では25単位) とする。						1学年の学期区分		2期								
						1学期の授業期間		14週								
						1時限の授業時間		100分								

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(工学部電気工学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
全学共通科目	芝浦工業大学通論	1前・後		2			○									兼2	
	技術経営入門	1前・後		2			○									兼2	
	ダイバーシティ入門	1前・後		2			○									兼1	
	消費者行動論	1前・後		2	2		○									兼1	
	マーケティング概論	1前・後		2			○									兼1	
	デジタルプレゼンテーション	1前・後		2			○									兼1	
	Japanese Language I	1前・後		2			○									兼2	
	Japanese Language II	1前・後		2			○									兼2	
	Japanese Language III	1前・後		2			○									兼2	
	Japanese Language IV	1前・後		2			○									兼1	
小計 (10科目)			0	6	14											兼10	
基礎・教養科目	数学科目 数理基礎科目	線形代数第1	1前	2			○									兼2	
		線形代数第2	1後	2			○									兼2	
		微分積分第1	1前	4			○									兼3	
		微分積分第2	1後	4			○									兼3	
		微分方程式	2前	2			○									兼3	
		確率と統計第1	1前・後	2			○									兼10	
		確率と統計第2	2前・後	2			○									兼5	
		関数論	2前・後	2			○									兼3	
		ベクトル解析	2前・後	2			○									兼9	
		ラプラス変換	2前・後	2			○									兼4	
	フーリエ解析	2前・後	2			○									兼4		
	小計 (11科目)			14	12	0										兼25	
	物理学科目	物理学入門	1前		4			○			1						兼1
		基礎熱力学	1後		2			○			1						
		相対論と量子論の基礎	2後		2			○									兼1
相対論と量子論の基礎演習		2後		2				○								兼1	
小計 (4科目)			0	10	0				1						兼2		
化学科目	基礎化学B	1前		2			○									兼2	
	基礎無機化学	1後		2			○									兼2	
	基礎有機化学	1後		2			○									兼3	
	基礎生物化学	1後		2			○									兼1	
	基礎固体化学	1後		2			○									兼1	
	化学実験	1前・後		2				○								兼7	
小計 (6科目)			0	12	0				1						兼11		
英語科目	Reading & Writing I	1前		2			○									兼10	
	Reading & Writing II	2後		2			○									兼5	
	Listening & Speaking I	1後		2			○									兼11	
	Listening & Speaking II	2前		2			○									兼5	
	工学英語I	2前		2			○									兼15	
	工学英語II	2後		2			○									兼12	
	TOEIC I	1前・後		2			○									兼14	
	TOEIC II	1前・後		2			○									兼9	
小計 (8科目)			4	12	0										兼29		
情報科目	情報リテラシー	1前・後		1			○									兼4	
	情報処理概論	1前・後		2			○			1						兼2	
	J a v a 入門	1前・後		3				○								兼2	
	C言語入門	2前		3				○		1							
	データサイエンス	2後		3				○		1							
	データサイエンス演習	1前・後		2				○		1						兼1	
小計 (6科目)			6	6	2				1						兼8		
人文社会系教養科目	教職論	1前・後		2			○									兼1	
	塗料・塗装工学概論	1後		2			○									兼1	
	教育相談論	3前・後		2			○									兼1	
	惑星科学	2後		2			○									兼1	
	教育課程論	2前・後		2			○									兼1	
	現代生物学	3前		2			○									兼1	
	宇宙空間科学	3前		2			○									兼1	
	工学基礎概論	3前・後		2			○			1						兼16	
	職業指導	3前・後		2			○									兼1	
	特別支援教育論	3前・後		1			○									兼1	
	情報と職業	3前・後		2			○									兼1	
	事前・事後指導	4通年		1			○									兼5	
	教育実習1	4通年		2					○							兼5	
	教育実習2	4通年		2					○							兼5	
	教職実践演習(中・高)	4後		2					○							兼5	
	グローバルPBL1	1前・後		2				○								兼1	
	グローバルPBL2	1前・後		2				○								兼1	
	グローバルPBL3	1前・後		2				○								兼1	
	グローバルPBL4	1前・後		2				○								兼1	
	受入型グローバルPBL1	1前・後		2				○								兼1	
受入型グローバルPBL2	1前・後		2				○								兼1		
国際インターンシップ1	2前・後		2				○								兼1		



教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学部電気工学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	国際インターンシップ2	2前・後		2				○							兼1
	国際インターンシップ3	2前・後		2				○							兼1
	国際インターンシップ4	2前・後		2				○							兼1
	統計学基礎	1後			1			○				1			
	データサイエンスリテラシー	1後			1			○				1			
	小計 (27科目)	—	0	49	1			—				1			兼25
体 育 健 康 科 目	ヘルスリテラシー&スポーツコミュニケーション	1前		2				○							兼9
	ヘルスコンディショニング演習	1前・後		2				○							兼1
	身体運動のバイオメカニクス	1前・後		2			○								兼2
	スポーツ健康学	1前・後		2			○								兼1
	スポーツ生理学	1前・後		2			○								兼1
	ゴルフ	2前		2					○						兼5
	スキー (スポーツコミュニケーション)	1後		1					○						兼4
	テニス (テクニカル)	1前・後		1					○						兼2
	テニス (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1					○						兼2
	ソフトボール (テクニカル)	1前・後		1					○						兼2
	ソフトボール (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1					○						兼1
	バスケットボール (テクニカル)	1前・後		1					○						兼2
	バスケットボール (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1					○						兼1
	バレーボール (テクニカル)	1前・後		1					○						兼2
	バレーボール (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1					○						兼1
	バドミントン (テクニカル)	1前・後		1					○						兼5
	バドミントン (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1					○						兼2
	卓球 (テクニカル)	1前・後		1					○						兼4
	卓球 (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1					○						兼4
	サッカー (テクニカル)	1前・後		1					○						兼1
	サッカー (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1					○						兼1
	フットサル (テクニカル)	1前・後		1					○						兼4
	フットサル (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1					○						兼3
	フライングフットボール (テクニカル)	1前・後		1					○						兼1
	フライングフットボール (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1					○						兼1
	軟式野球 (テクニカル)	1前・後		1					○						兼2
	軟式野球 (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1					○						兼1
ウェルネス・スポーツ (テクニカル)	1前・後		1					○						兼3	
ウェルネス・スポーツ (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1					○						兼3	
フィットネスA	3前			1				○						兼1	
フィットネスB	3後			1				○						兼1	
	小計 (31科目)	—	2	35				—						兼15	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(工学部電気工学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手		
工学部共通	教職論	1前・後		2		○								兼1		
	塗料・塗装工学概論	1後		2		○								兼1		
	教育相談論	3前・後		2		○								兼1		
	惑星科学	2後		2		○								兼1		
	教育課程論	2前・後		2		○								兼1		
	現代生物学	3前		2		○								兼1		
	宇宙空間科学	3前		2		○								兼1		
	工学基礎概論	3前・後		2		○			1					兼16		
	職業指導	3前・後		2		○								兼1		
	特別支援教育論	3前・後		1		○								兼1		
	情報と職業	3前・後		2		○								兼1		
	事前・事後指導	4通年		1		○								兼5		
	教育実習1	4通年		2				○						兼5		
	教育実習2	4通年		2				○						兼5		
	教職実践演習(中・高)	4後		2										兼5		
	グローバルPBL1	1前・後		2			○							兼1		
	グローバルPBL2	1前・後		2			○							兼1		
	グローバルPBL3	1前・後		2			○							兼1		
	グローバルPBL4	1前・後		2			○							兼1		
	受入型グローバルPBL1	1前・後		2			○							兼1		
	受入型グローバルPBL2	1前・後		2			○							兼1		
	国際インターンシップ1	2前・後		2			○							兼1		
	国際インターンシップ2	2前・後		2			○							兼1		
	国際インターンシップ3	2前・後		2			○							兼1		
	国際インターンシップ4	2前・後		2			○							兼1		
	統計学基礎	1後			1		○			1						
	データサイエンスリテラシー	1後			1		○			1						
小計 (27科目)		—	0	49	1	—			2					兼25		
専門科目	電気回路1A	1前	2			○			1							
	電気回路1B	1前	2			○			1							
	電気回路2A	1後	2			○			1							
	電気回路2B	1後	2			○										
	電気回路3A	2前	2			○			1							
	電気回路3B	2前	2			○				1					選択必修	
	電気磁気学1A	1後	2			○				1						
	電気磁気学1B	1後	2			○				1						
	電気磁気学2A	2前	2			○			1							
	電気磁気学2B	2前	2			○					1				選択必修	
	電気磁気学3A	2後	2			○					1				選択必修	
	電気磁気学3B	2後	2			○					1				選択必修	
	製作実験	1後	2					○	2					兼1	合同	選択必修
	アナログ電子回路	2前	2				○		1							選択必修
	デジタル回路	2前	2				○		1							選択必修
	電子基礎物理	2後	2				○			1						選択必修
	電気計測	2後	2				○		1							選択必修
	制御工学	3前	2				○			1						
	電子物性論	3前	2				○			1						
	Introduction of Electrical Engineering Research	3前	2				○		5	1		1			オムニバス	
	マイクロコンピュータ	3前	2				○		1							
	電気機器基礎論	3前	2				○		1							
	電力系統工学	3前	2				○		1							
	Applied Mathematics	3前	2				○		1							
	パワーエレクトロニクス	3前	2				○		1							
	Power-Electronics	3前	2				○		1							
	電気材料	3後	2				○				1					
	電動力応用	3後	2				○		1							
	Mechatronics	3後	2				○		1							
	ロボティクス	3後	2				○		1							
	デジタル計測制御	3後	2				○		1							
	電子デバイス	3後	2				○							兼1		
	発変電工学	3後	2				○							兼1		
	電気応用	3後	2				○			1						
	Fundamental Electric Circuit	3後	2				○		1							
	電気法規	4前	2				○		1							
高電圧工学	4前	2				○					1					
現代制御	3後	2				○		1								
Electric Railway	4前	2				○		1								
電気機器設計製図	4前	2				○		1								
電波法規	4前	2				○							兼1			
電波工学	4前	2				○							兼1			
電気システム設計	4前	2				○							兼2	オムニバス		
無線機器	4後	2				○							兼1			
電気基礎実験	2前	1						○	3				兼1	共同		
電気計測実験	2後	3						○	3	1			兼1	共同		
電気応用実験	3前	2						○	1	2			兼4	共同		
電気コース実験	3後	2						○	1	1			兼3	共同		
電気工学技術英語	3前	2				○							兼2			
電気工学ゼミナール	3後	1						○	8	4			兼1			

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学部電気工学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	電気工学国際インターンシップA	1前・後		2					○	3					集中 集中 選択必修 選択必修
	電気工学国際インターンシップB	1前・後		2				○	2	1					
	卒業研究1	4前	4					○	9	4	1			兼1 兼1	
	卒業研究2	4後	8					○	9	4	1				
	小計（54科目）	—	39	76	0	—	—	—	10	4		1		兼13	
	合計（科目）	—	65	267	18	—	—	—	10	4		1		兼158	
学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野			工学関係 【大学設置基準第49条の4に定める専攻分野】 電気工学										
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
1. 以下の条件を満たした上で124単位取得すること。 2. 基礎教養科目から下記を含み48単位以上 ①教基礎科目 必修14単位、選択必修2単位以上を含み20単位以上 ②英語科目 必修4単位を含み10単位以上 ③情報科目 必修6単位以上 ④人文社会系教養科目 必修4単位以上 ⑤体育健康科目 必修2単位、実技科目1単位以上を含み3単位以上 3. 専門科目 必修39単位、選択必修12単位を含み66単位以上 4. GPAが2.0以上であること。 ※なお、履修上限は、両コース共通で年間49単位（半期では25単位）とする。 ※別途、学科の指定する条件を満たすこと。							1学年の学期区分		2期						
							1学期の授業期間		14週						
							1時限の授業時間		100分						

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学部電子工学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
全学共通科目	芝浦工業大学通論	1前・後		2		○									兼2
	技術経営入門	1前・後		2		○									兼2
	ダイバーシティ入門	1前・後		2		○									兼1
	消費者行動論	1前・後		2	2	○									兼1
	マーケティング概論	1前・後		2	2	○									兼1
	デジタルプレゼンテーション	1前・後		2	2	○									兼1
	Japanese Language I	1前・後		2	2	○									兼2
	Japanese Language II	1前・後		2	2	○									兼2
	Japanese Language III	1前・後		2	2	○									兼2
	Japanese Language IV	1前・後		2	2	○									兼1
小計 (10科目)		—	0	6	14										兼10
基礎・ 教養科目	数 理 基 礎 科 目	線形代数第1	1前	2		○									兼2
		線形代数第2	1後	2		○									兼2
		微分積分第1	1前	4		○				1					兼2
		微分積分第2	1後	4		○				1					兼1
		微分方程式	1前・後	2		○				1					兼8
		確率と統計第1	1前・後	2		○									兼10
		確率と統計第2	2前・後	2		○									兼5
		関数論	2前・後	2		○									兼3
		ベクトル解析	2前・後	2		○				1					兼8
		ラプラス変換	2前・後	2		○									兼4
		フーリエ解析	2前・後	2		○									兼4
小計 (11科目)		—	0	26	0				1					兼26	
物 理 学 科 目	物理学入門	1前		4		○			1					兼1	
	基礎熱統計力学	1前		2		○			1						
	基礎熱統計力学演習	1前		2			○		1						
	基礎力学および演習	1後		4		○			1					兼3	
	物理学実験	2前	3					○	1					兼2	
	相対論と量子論の基礎	2後		2		○								兼1	
	相対論と量子論の基礎演習	2後		2			○							兼1	
小計 (7科目)		—	3	16	0			1						兼6	
化 学 科 目	基礎化学A	1前		2		○								2	
	化学実験	1後	2						8					8	
	基礎無機化学	1後		2		○								2	
	基礎有機化学	1後		2		○								3	
	基礎生物化学	1後		2		○								1	
	基礎固体化学	1後		2		○								1	
	小計 (6科目)		—	2	10	0									兼12
英 語 科 目	Reading & Writing I	1前		2		○			1						兼9
	Reading & Writing II	2後		2		○									兼5
	Listening & Speaking I	1後	2			○			1						兼10
	Listening & Speaking II	2前		2		○									兼5
	工学英語I	2前		2		○									兼15
	工学英語II	2後		2		○									兼12
	TOEIC I	1前・後		2		○			1						兼13
	TOEIC II	1前・後		2		○			1						兼8
小計 (8科目)		—	4	12	0			1						兼28	
情 報 科 目	情報リテラシー	1前・後		1		○									兼4
	情報処理概論	1前・後		2		○									兼3
	Java入門	1前・後		3			○								兼2
	C言語入門	1前・後		3			○								兼2
	データサイエンス演習	1前・後		2			○								兼2
	小計 (5科目)		—	0	11	0									兼9
人 文 社 会 系 教 養 科 目	経済学	1前・後		2		○									兼1
	生命倫理	1前・後		2		○									兼3
	メンタルヘルス・マネジメント	1前・後		2		○									兼1
	日本国憲法	1前・後		2		○									兼2
	現代の日本経済	1前・後		2		○									兼2
	社会心理学	1前・後		2		○									兼1
	認知心理学	1前・後		2		○									兼1
	教育心理学	1前・後		2		○									兼1
	プレゼンテーション入門	1前・後		2		○									兼3
	レポートライティング	1前・後		2			○								兼2
	教育原論	1前・後		2		○									兼2
	法学入門	1前・後		2		○									兼1
	技術者の倫理	1前・後		2		○									兼3
	人間社会と環境問題	1前・後		2		○									兼2
	福祉と技術	1前・後		2		○									兼3
	現代日本の社会	1前・後		2		○									兼1
	自己表現とコミュニケーション	1前・後		2		○									兼2

教 育 課 程 等 の 概 要																
(工学部電子工学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	世界の言語と文化	1前・後		2			○									兼1
	人間関係論	1前・後		2			○									兼1
	教育の近現代史	1前・後		2			○									兼2
	文化人類学	1前・後		2			○									兼1
	情報アクセシビリティ論	2前・後		2			○									兼1
	情報技術と現代社会	2前・後		2			○									兼1
	映像メディア論	2前・後		2			○									兼1
	地域と環境	2前・後		2			○									兼1
	地方自治論	2前・後		2			○									兼1
	生産と消費の環境論	2前・後		2			○									兼1
	Accessibility of Information and Communication	2前・後		2			○									兼1
	哲学・倫理学	3前・後		2			○									兼1
	応用経済学	3前・後		2			○									兼1
	教育社会学	3前・後		2			○									兼1
	グローバルゼーション論	3前・後		2			○									兼1
	地域と経済	3前・後		2			○									兼1
	地域社会学	3前・後		2			○									兼1
	知的財産法	3前・後		2			○									兼1
	人文社会演習1	3前		2				○								兼1
	人文社会演習2	3後		2				○								兼1
Seminar on Social Aspects of Technology 1	3前		2				○								兼1	
Seminar on Social Aspects of Technology 2	3後		2				○								兼1	
小計 (39科目)		—	0	78	0		—									兼27
体 育 健 康 科 目	ヘルスリテラシー&スポーツコミュニケーション	1前		2			○				1					兼2
	ヘルスコンディショニング演習	1前・後		2			○				1					
	身体運動のバイオメカニクス	1前・後		2			○									兼2
	スポーツ健康学	1前・後		2			○									兼1
	スポーツ生理学	1前・後		2			○									兼1
	ゴルフ	1前		2					○		1					兼4
	スキー (スポーツコミュニケーション)	1後		1					○		1					兼3
	テニス (テクニカル)	1前・後		1					○							兼2
	テニス (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1					○		1					兼1
	ソフトボール (テクニカル)	1前・後		1					○		1					兼1
	ソフトボール (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1					○							兼1
	バスケットボール (テクニカル)	1前・後		1					○		1					兼1
	バスケットボール (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1					○							兼1
	バレーボール (テクニカル)	1前・後		1					○		1					兼1
	バレーボール (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1					○							兼1
	バドミントン (テクニカル)	1前・後		1					○		1					兼4
	バドミントン (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1					○							兼2
	卓球 (テクニカル)	1前・後		1					○		1					兼3
	卓球 (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1					○							兼4
	サッカー (テクニカル)	1前・後		1					○							兼1
	サッカー (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1					○							兼1
	フットサル (テクニカル)	1前・後		1					○		1					兼3
	フットサル (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1					○							兼3
	フラッグフットボール (テクニカル)	1前・後		1					○		1					
	フラッグフットボール (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1					○							兼1
	軟式野球 (テクニカル)	1前・後		1					○		1					兼1
	軟式野球 (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1					○							兼1
ウエルネス・スポーツ (テクニカル)	1前・後		1					○							兼3	
ウエルネス・スポーツ (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1					○		1					兼2	
フィットネスA	3前		1					○		1						
フィットネスB	3後		1					○		1						
小計 (31科目)		—	0	37			—			1						兼14
工 学 部 共 通	教職論	1前・後		2			○									兼1
	塗料・塗装工学概論	1後		2			○									兼1
	教育相談論	3前・後		2			○									兼1
	惑星科学	2後		2			○									兼1
	教育課程論	2前・後		2			○									兼1
	現代生物学	3前		2			○									兼1
	宇宙空間科学	3前		2			○									兼1
	工学基礎概論	3前・後		2			○			2	1					兼14
	職業指導	3前・後		2			○									兼1
	特別支援教育論	3前・後		1			○									兼1
	情報と職業	3前・後		2			○									兼1
	事前・事後指導	4通年		1			○									兼5
	教育実習1	4通年		2					○							兼5
	教育実習2	4通年		2					○							兼5
	教職実践演習 (中・高)	4後		2					○							兼5
グローバルPBL1	1前・後		2					○							兼1	
グローバルPBL2	1前・後		2					○							兼1	
グローバルPBL3	1前・後		2					○							兼1	
グローバルPBL4	1前・後		2					○							兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(工学部電子工学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	受入型グローバルPBL1	1前・後		2				○							兼1	
	受入型グローバルPBL2	1前・後		2				○							兼1	
	国際インターンシップ1	2前・後		2				○							兼1	
	国際インターンシップ2	2前・後		2				○							兼1	
	国際インターンシップ3	2前・後		2				○							兼1	
	国際インターンシップ4	2前・後		2				○							兼1	
	統計学基礎	1後			1			○							兼1	
	データサイエンスリテラシー	1後		1				○							兼1	
	小計 (27科目)	—	0	49	1			—		2	1				兼24	
専 門 科 目	電子工学一般	1前		2				○								選択必修
	電気数学1	1前		2				○			1					
	電気数学2	1後		2				○			1					
	電気回路1	1前		2				○			1					
	電気回路2	1後		2				○			2					
	電気回路3	2前		2				○			1					
	電気回路総合	2後		2				○			2					選択必修
	電磁気学1	1後		2				○			1				兼1	
	電磁気学2	2前		2				○			1				兼1	
	電磁気学3	2後		2				○				1				
	電磁気学総合	2後		2				○			2				兼1	選択必修
	電子工学倫理	3前		2				○			1					
	ものづくり入門	1後		2				○			1					選択必修
	制御工学	3前		2				○			1					選択必修
	アナログ電子回路1	2前		2				○			1					選択必修
	アナログ電子回路2	2後		2				○			1					選択必修
	デジタル電子回路	2後		2				○			1					選択必修
	電子材料基礎	2前		2				○			1					選択必修
	電子材料	3前		2				○			1					選択必修
	電子物性基礎	2後		2				○			1					選択必修
	電子物性	3前		2				○			1					選択必修
	半導体工学	3前		2				○			1					選択必修
	光エレクトロニクス	3前		2				○			1					選択必修
	電子デバイス工学	3後		2				○			1					選択必修
	電子材料評価論	3後		2				○			1					選択必修
	情報理論	3前		2				○			1					選択必修
	信号処理回路	3前		2				○			1					選択必修
	情報伝送回路	3前		2				○			1					選択必修
	集積回路工学	3後		2				○				1				選択必修
	音響システム	3後		2				○			1					選択必修
	メディカルエレクトロニクス	3後		2				○				1				選択必修
	信頼性品質工学	3前		2				○			1				兼1	選択必修
	電波工学	3前		2				○			1					
	無線機器	3後		2				○			1				兼1	選択必修
	電波法規	3前		2				○							兼1	
	通信法令	3後		2				○							兼1	
	先端技術	3前		2				○			13	2				オムニバス 選択必修
	Electronic Circuits	3前			2			○				1				
	Introduction to Advanced Electronics	3後			2			○			13	2				オムニバス
	電子工学製作実習	3前		2				○			2				兼1	合同 選択必修
	電子工学基礎実験	3後		2				○			4	1			兼1	合同
	電子工学コース実験1	4前		2				○			2					合同
	電子工学コース実験2	3後		2				○			9	2				
	電子工学国際インターンシップ1	3前・後		2				○				1				
	電子工学国際インターンシップ2	3前・後		2				○				3				
	電子工学国際インターンシップ3	3前・後		2				○					1			
	電子工学国際インターンシップ4	1前・後		2				○			1					
	電子工学国際インターンシップ5	1前・後		2				○			1					
	電子工学国際インターンシップ6	2前・後		2				○				1				
	電子工学国際インターンシップ7	2前・後		2				○				3				
	電子工学ゼミナール	3後		2				○			13	2				
	卒業研究1	4前		4				○			13	2				
	卒業研究2	4後		8				○			13	2				
	小計 (53科目)	—	38	72	4			—		12	2				兼6	
	合計 (科目)	—	47	317	19			—		13	2				兼156	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学部電子工学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学位又は称号	学士（工学）		学位又は学科の分野			工学関係 【大学設置基準第49条の4に定める専攻分野】 電子工学								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
1. 以下の条件を満たした上で124単位取得すること。 2. 基礎教養科目から下記を含み48単位以上 ①数基礎科目 数学科目：6単位以上、 物理学科目：必修3単位を含み7単位以上 化学科目：必修2単位を含み4単位以上 ②英語科目 必修4単位を含み8単位以上 ③情報科目 3単位以上 ④人文社会系教養科目 8単位以上 ⑤体育健康科目 理論科目2単位以上、実芸科目1単位以上 3. 専門科目 必修38単位、選択必修32単位を含み74単位以上 4. GPAが2.0以上であること。 ※なお、履修上限は、両コース共通で年間49単位（半期では25単位）とする。						1 学年の学期区分			2期					
						1 学期の授業期間			14週					
						1 時限の授業時間			100分					

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学部情報通信工学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
全学共通科目	芝浦工業大学通論	1前・後		2		○									兼2
	技術経営入門	1前・後		2		○									兼2
	ダイバーシティ入門	1前・後		2		○									兼1
	消費者行動論	1前・後			2	○									兼1
	マーケティング概論	1前・後			2	○									兼1
	デジタルプレゼンテーション	1前・後			2	○									兼1
	Japanese Language I	1前・後			2	○									兼2
	Japanese Language II	1前・後			2	○									兼2
	Japanese Language III	1前・後			2	○									兼2
	Japanese Language IV	1前・後			2	○									兼1
小計 (10科目)			0	6	14										兼10
基礎・ 教養科目	数 学 科 目	線形代数第1	1前	2		○									兼2
		線形代数第2	1後	2		○									兼2
		微分積分第1	1前	4						1					兼2
		微分積分第2	1後	4						1					兼2
		微分方程式	1前・後		2		○								兼9
		確率と統計第1	1前・後		2		○								兼10
		確率と統計第2	2前・後		2		○								兼5
		関数論	2前・後		2		○								兼3
		ベクトル解析	2前・後		2		○								兼9
		ラプラス変換	2前・後		2		○								兼4
	フーリエ解析	2前・後		2		○								兼4	
	小計 (11科目)			12	14	0				1					兼28
	物 理 学 科 目	物理学入門	1前	4			○			1					兼1
		物理学実験	1後	3					○	1					兼2
		基礎熱統計力学	1前		2		○								兼1
		基礎熱統計力学演習	1前		2				○						兼1
		基礎力学および演習	1後		4				○	1					兼3
相対論と量子論の基礎		2後		2				○						兼1	
相対論と量子論の基礎演習	2後		2										兼1		
小計 (7科目)			7	12	0				1					兼7	
化 学 科 目	基礎化学B	1前		2		○								兼2	
	基礎無機化学	1後		2		○								兼2	
	基礎有機化学	1後		2		○								兼3	
	基礎生物化学	1後		2		○								兼1	
	基礎固体化学	1後		2		○								兼1	
	化学実験	1前・後		2									○	兼7	
小計 (6科目)			0	12	0									兼11	
英 語 科 目	Reading & Writing I	1前	2			○				1				兼6	
	Reading & Writing II	2後		2		○								兼5	
	Listening & Speaking I	1後		2		○				1				兼8	
	Listening & Speaking II	2前		2		○								兼5	
	工学英語I	2前		2		○				1				兼14	
	工学英語II	2後		2		○				1				兼11	
	TOEIC I	1前・後		2		○								兼14	
	TOEIC II	1前・後		2		○								兼9	
小計 (8科目)			4	12	0					1				兼26	
情 報 科 目	情報リテラシー	1前・後		1		○								兼4	
	J a v a 入門	1前・後		3				○						兼2	
	C言語入門	1前・後		3				○						兼2	
	データサイエンス演習	1前・後		2				○						兼2	
小計 (4科目)			0	9	0									兼8	
人 文 社 会 系 教 養 科 目	レポートライティング	1前・後		2				○						兼2	
	技術者の倫理	1後		2				○						兼1	
	経済学	1前・後		2				○						兼1	
	生命倫理	1前・後		2				○		1				兼2	
	メンタルヘルス・マネジメント	1前・後		2				○						兼1	
	日本国憲法	1前・後		2				○		1				兼1	
	現代の日本経済	1前・後		2				○						兼2	
	社会心理学	1前・後		2				○						兼1	
	認知心理学	1前・後		2				○						兼1	
	教育心理学	1前・後		2				○						兼1	
	プレゼンテーション入門	1前・後		2				○						兼3	
	教育原論	1前・後		2				○						兼2	
	法学入門	1前・後		2				○		1					
	人間社会と環境問題	1前・後		2				○						兼2	
	福祉と技術	1前・後		2				○						兼3	
	現代日本の社会	1前・後		2				○						兼1	
	自己表現とコミュニケーション	1前・後		2				○						兼2	
	世界の言語と文化	1前・後		2				○						兼1	
	人間関係論	1前・後		2				○						兼1	
	教育の近現代史	1前・後		2				○						兼2	
文化人類学	1前・後		2				○						兼1		



教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学部情報通信工学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	情報アクセシビリティ論	2前・後		2		○									兼1
	情報技術と現代社会	2前・後		2		○									兼1
	映像メディア論	2前・後		2		○									兼1
	地域と環境	2前・後		2		○									兼1
	地方自治論	2前・後		2		○									兼1
	生産と消費の環境論	2前・後		2		○									兼1
	Accessibility of Information and Communication	2前・後		2		○									兼1
	哲学・倫理学	3前・後		2		○									兼1
	応用経済学	3前・後		2		○									兼1
	教育社会学	3前・後		2		○									兼1
	グローバリゼーション論	3前・後		2		○									兼1
	地域と経済	3前・後		2		○									兼1
	地域社会学	3前・後		2		○									兼1
	知的財産法	3前・後		2		○									兼1
	人文社会演習 1	3前		2			○			1					兼1
	人文社会演習 2	3後		2			○								兼1
	Seminar on Social Aspects of Technology 1	3前		2			○								兼1
	Seminar on Social Aspects of Technology 2	3後		2			○								兼1
	小計 (39科目)	—	2	76	0	—			1						兼24
体 育 健 康 科 目	ヘルスリテラシー&スポーツコミュニケーション	1前		2			○								兼3
	ヘルスコンディショニング演習	1前・後		2			○								兼1
	身体運動のバイオメカニクス	1前・後		2		○									兼2
	スポーツ健康学	1前・後		2		○									兼1
	スポーツ生理学	1前・後		2		○									兼1
	ゴルフ	1前		2				○							兼5
	スキー (スポーツコミュニケーション)	1後		1				○							兼4
	テニス (テクニカル)	1前・後		1				○							兼2
	テニス (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼2
	ソフトボール (テクニカル)	1前・後		1				○							兼1
	ソフトボール (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼2
	バスケットボール (テクニカル)	1前・後		1				○							兼2
	バスケットボール (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼1
	バレーボール (テクニカル)	1前・後		1				○							兼2
	バレーボール (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼1
	バドミントン (テクニカル)	1前・後		1				○							兼5
	バドミントン (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼2
	卓球 (テクニカル)	1前・後		1				○							兼4
	卓球 (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼4
	サッカー (テクニカル)	1前・後		1				○							兼1
	サッカー (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼1
	フットサル (テクニカル)	1前・後		1				○							兼4
	フットサル (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼3
	フラッグフットボール (テクニカル)	1前・後		1				○							兼1
	フラッグフットボール (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼1
	軟式野球 (テクニカル)	1前・後		1				○							兼2
	軟式野球 (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼1
	ウエルネス・スポーツ (テクニカル)	1前・後		1				○							兼3
	ウエルネス・スポーツ (スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○							兼3
	フィットネスA	3前		1				○							兼1
	フィットネスB	3後		1				○							兼1
	小計 (31科目)	—	0	37		—									兼15

教育課程等の概要																
(工学部情報通信工学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
工学部共通	教職論	1前・後	2												兼1	オムニバス
	塗料・塗装工学概論	1後	2												兼1	
	教育相談論	3前・後	2												兼1	
	惑星科学	2後	2												兼1	
	教育課程論	2前・後	2												兼1	
	現代生物学	3前	2												兼1	
	宇宙空間科学	3前	2												兼1	
	工学基礎概論	3前・後	2						2				1		兼14	
	職業指導	3前・後	2												兼1	
	特別支援教育論	3前・後	1												兼1	
	情報と職業	3前・後	2												兼1	
	事前・事後指導	4通年	1												兼5	
	教育実習1	4通年	2												兼5	
	教育実習2	4通年	2												兼5	
	教職実践演習(中・高)	4後	2												兼5	
	グローバルPBL1	1前・後	2												兼1	
	グローバルPBL2	1前・後	2												兼1	
	グローバルPBL3	1前・後	2												兼1	
	グローバルPBL4	1前・後	2												兼1	
	受入型グローバルPBL1	1前・後	2												兼1	
	受入型グローバルPBL2	1前・後	2												兼1	
	国際インターンシップ1	2前・後	2												兼1	
	国際インターンシップ2	2前・後	2												兼1	
	国際インターンシップ3	2前・後	2												兼1	
	国際インターンシップ4	2前・後	2												兼1	
	統計学基礎	1後		1											兼1	
	データサイエンスリテラシー	1後		1											兼1	
小計(27科目)			0	49	1				2				1		兼24	
専門科目	情報通信基礎実験A	1前	2						2	1					兼2	合同
	情報処理概論	1前	2											兼1		
	情報処理基礎	1前	2											兼1		
	情報通信工学実習	1前・後	1						1							
	情報通信基礎実験B	1後	2						2				1	兼2	合同	
	電気回路基礎	1後	2						1							
	論理設計	1後	2						1							
	情報通信基礎実験C	2前	3						1	1			1	兼2	合同	
	基礎電磁気学および演習	2前	4						1					兼1		
	回路の過渡現象	2前	2							1						
	情報通信数学	2前	2						1							
	通信計測	2前	2							1						
	情報通信基礎実験D	2後	3						1	2					兼2	合同
	電子回路	2後	2											兼1		
	情報理論	2後	2						1							
	情報通信ネットワーク	2後	2						1	1			1		兼1	
	情報処理1	2後	2						1							
	回路設計演習	2後	2							1						
	情報通信応用実験A	3前	3						4	2					兼1	合同
	応用電磁気学	3前	2						1							
	通信方式	3前	2						2	1			1			
	メディア情報工学	3前	2												兼1	
	電波工学1	3前	2						1							
	電波法規	3前	2												兼1	
	情報通信技術英語	3前	2							1						
	情報処理2	3前	2						1							
	情報通信特論1	3前	1							1						
	音響工学	3前	2						1							
	移動通信工学	3前	2										1			
	ネットワーク理論	3前	2						1							
	光通信工学	3前	2							1						
	情報通信工学概論	3前			2				7	3			1		兼1	オムニバス
	情報通信ゼミナール	3後							10	4			1		兼1	
	情報通信応用実験B	3後	3						4	2					兼1	合同
	デジタル信号処理	3後	2										1		兼1	
	マイクロ波工学	3後	2						1							
無線機器	3後	2												兼2		
電波工学2	3後	2						1								
宇宙通信工学	3後	2												兼1		
通信法令	3後	2												兼1		
メディア通信工学	3後	2							1							
情報通信特論2	3後	1							1							
パターン認識	3後	2						1								
生体情報工学	3後	2						1								
情報通信システム設計論	3後	2												兼1		
セキュアネットワーク	3後	2						1								
情報工学特論	3後	1												兼1		
工業数学	4前			2				2							オムニバス	
卒業研究1	4前	4						10	4			1		兼1		
卒業研究2	4後	8						10	4			1		兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要														
(工学部情報通信工学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
	データベース 情報倫理	3前 3後		2 2									兼1 兼1	
	小計（52科目）	—	30	80	4	—		10	5		1		兼14	
	合計（195科目）	—	55	307	19	—		10	5		1		兼160	
学位又は称号	学士（工学）		学位又は学科の分野			工学関係 【大学設置基準第49条の4に定める専攻分野】 情報通信工学								
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
1. 以下の条件を満たした上で124単位取得すること。 2. 基礎教養科目から下記を含み33単位以上 ①教基礎科目 必修19単位 ②英語科目 必修4単位を含み6単位以上 ③人文社会系教養科目 必修2単位を含み6単位以上 ④体育健康科目 実技科目2単位以上 3. 専門科目 必修30単位を含み64単位以上 4. GPAが2.0以上であること。 ※なお、履修上限は、両コース共通で年間49単位（半期では25単位）とする。							1学年の学期区分		2期					
							1学期の授業期間		14週					
							1時限の授業時間		100分					

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学部情報工学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
全学共通科目	芝浦工業大学通論	1前・後		2		○									兼2
	技術経営入門	1前・後		2		○									兼2
	ダイバーシティ入門	1前・後		2		○									兼1
	消費者行動論	1前・後		2	2	○									兼1
	マーケティング概論	1前・後		2	2	○									兼1
	デジタルプレゼンテーション	1前・後		2	2	○									兼1
	Japanese Language I	1前・後		2	2	○									兼2
	Japanese Language II	1前・後		2	2	○									兼2
	Japanese Language III	1前・後		2	2	○									兼2
	Japanese Language IV	1前・後		2	2	○									兼1
	小計(10科目)		—	0	6	14		—							兼10
基礎・教養科目	数 学 科 目	線形代数第1	1前	2		○									兼2
		線形代数第2	1後	2		○			1						兼1
		微分積分第1	1前	4		○			1						兼2
		微分積分第2	1後	4		○			1						兼2
		微分方程式	1前・後	2		○									兼9
		確率と統計第1	1後	2		○			1						兼2
		確率と統計第2	2前・後	2		○									兼5
		関数論	2前・後	2		○									兼3
		ベクトル解析	2前・後	2		○									兼9
		ラプラス変換	2前・後	2		○									兼4
		フーリエ解析	2前・後	2		○									兼4
		小計(11科目)		—	8	18	0		—	1					兼24
	物 理 学 科 目	物理学入門	1前	4			○								兼2
		物理学実験	1前	3					○						兼1
基礎熱統計力学		1前	2			○								兼1	
基礎熱統計力学演習		1前	2				○							兼1	
基礎力学および演習		1後	4			○								兼4	
基礎電磁気学および演習		1後	4			○								兼1	
相対論と量子論の基礎		2後	2			○								兼1	
相対論と量子論の基礎演習	2後	2				○							兼1		
	小計(7科目)		—	4	19	0		—						兼6	
化 学 科 目	基礎化学B	1前	2			○								兼2	
	基礎無機化学	1後	2			○								兼2	
	基礎有機化学	1後	2			○								兼3	
	基礎生物化学	1後	2			○								兼1	
	基礎固体化学	1後	2			○								兼1	
	化学実験	1前・後	2					○						兼7	
	小計(6科目)		—	2	10	0		—						兼12	
英 語 科 目	Reading & Writing I	1前	2			○								兼7	
	Reading & Writing II	2後	2			○								兼5	
	Listening & Speaking I	1後	2			○								兼9	
	Listening & Speaking II	2前	2			○								兼5	
	工学英語I	2前	2			○								兼15	
	工学英語II	2後	2			○								兼12	
	TOEIC I	1前・後	2			○								兼14	
	TOEIC II	1前・後	2			○								兼9	
	小計(8科目)		—	4	12	0		—						兼27	
人 文 社 会 系 教 養 科 目	経済学	1前・後		2		○								兼1	
	生命倫理	1前・後		2		○								兼3	
	メンタルヘルス・マネジメント	1前・後		2		○								兼1	
	日本国憲法	1前・後		2		○								兼2	
	現代の日本経済	1前・後		2		○								兼2	
	社会心理学	1前・後		2		○								兼1	
	認知心理学	1前・後		2		○								兼1	
	教育心理学	1前・後		2		○								兼1	
	プレゼンテーション入門	1前・後		2		○								兼3	
	レポートライティング	1前・後		2			○							兼2	
	教育原論	1前・後		2		○								兼2	
	法学入門	1前・後		2		○								兼1	
	技術者の倫理	1前・後		2		○								兼3	
	人間社会と環境問題	1前・後		2		○								兼2	
	福祉と技術	1前・後		2		○								兼2	
	現代日本の社会	1前・後		2		○			1					兼1	
	自己表現とコミュニケーション	1前・後		2		○								兼2	
	世界の言語と文化	1前・後		2		○								兼1	
	人間関係論	1前・後		2		○								兼1	
	教育の近現代史	1前・後		2		○								兼2	
	文化人類学	1前・後		2		○								兼1	
	情報アクセシビリティ論	2前・後		2		○			1						
	情報技術と現代社会	2前・後		2		○			1						

教育課程等の概要														
(工学部情報工学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	映像メディア論	2前・後		2		○			1					
	地域と環境	2前・後		2		○								兼1
	地方自治論	2前・後		2		○								兼1
	生産と消費の環境論	2前・後		2		○								兼1
	哲学・倫理学	3前・後		2		○								兼1
	応用経済学	3前・後		2		○								兼1
	教育社会学	3前・後		2		○								兼1
	グローバルゼーション論	3前・後		2		○								兼1
	地域と経済	3前・後		2		○								兼1
	地域社会学	3前・後		2		○								兼1
	知的財産法	3前・後		2		○								兼1
	人文社会演習1	3前		2			○		1					
	人文社会演習2	3後		2			○		1					
	小計(36科目)	-	0	72	0	-			1					兼26
体育健康科目	ヘルスリテラシー&スポーツコミュニケーション	1前		2		○								兼3
	ヘルスコンディショニング演習	1前・後		2		○								兼1
	身体運動のバイオメカニクス	1前・後		2		○								兼2
	スポーツ健康学	1前・後		2		○			1					
	スポーツ生理学	1前・後		2		○			1					
	ゴルフ	1前		2				○						兼4
	スキー(スポーツコミュニケーション)	1後		1				○	1					兼3
	テニス(テクニカル)	1前・後		1				○						兼2
	テニス(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼2
	ソフトボール(テクニカル)	1前・後		1				○						兼2
	ソフトボール(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼1
	バスケットボール(テクニカル)	1前・後		1				○						兼2
	バスケットボール(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼1
	バレーボール(テクニカル)	1前・後		1				○						兼2
	バレーボール(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼1
	バドミントン(テクニカル)	1前・後		1				○						兼5
	バドミントン(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼2
	卓球(テクニカル)	1前・後		1				○						兼4
	卓球(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼4
	サッカー(テクニカル)	1前・後		1				○	1					
	サッカー(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○	1					
	フットサル(テクニカル)	1前・後		1				○						兼4
	フットサル(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼3
	フラッグフットボール(テクニカル)	1前・後		1				○						兼1
	フラッグフットボール(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼1
	軟式野球(テクニカル)	1前・後		1				○						兼2
	軟式野球(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○						兼1
	ウェルネス・スポーツ(テクニカル)	1前・後		1				○	1					兼2
	ウェルネス・スポーツ(スポーツコミュニケーション)	1前・後		1				○	1					兼2
	フィットネスA	3前		1				○						兼1
	フィットネスB	3後		1				○						兼1
	小計(31科目)	-	0	37		-			1					兼14
工学部 共通	教職論	1前・後		2										兼1
	塗料・塗装工学概論	1後		2										兼1
	教育相談論	3前・後		2										兼1
	惑星科学	2後		2										兼1
	教育課程論	2前・後		2										兼1
	現代生物学	3前		2										兼1
	宇宙空間科学	3前		2										兼1
	工学基礎概論	3前・後		2					2					兼15
	職業指導	3前・後		2										兼1
	特別支援教育論	3前・後		2										兼1
	情報と職業	3前・後		1										兼1
	事前・事後指導	4通年		1										兼5
	教育実習1	4通年		2										兼5
	教育実習2	4通年		2										兼5
	教職実践演習(中・高)	4後		2										兼5
	グローバルPBL1	1前・後		2										兼1
	グローバルPBL2	1前・後		2										兼1
	グローバルPBL3	1前・後		2										兼1
	グローバルPBL4	1前・後		2										兼1
	受入型グローバルPBL1	1前・後		2										兼1
	受入型グローバルPBL2	1前・後		2										兼1
	国際インターンシップ1	2前・後		2										兼1
	国際インターンシップ2	2前・後		2										兼1
	国際インターンシップ3	2前・後		2										兼1
	国際インターンシップ4	2前・後		2										兼1
	統計学基礎	1後		1		1								兼1
	データサイエンスリテラシー	1後		1										兼1

教 育 課 程 等 の 概 要													
(工学部情報工学科)													
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態		専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	
	小計 (27科目)	—	0	49	1	—	—	2					兼25
専 門 科 目	コンピュータ科学序説	1前	2			○		1					
	情報工学通論	1後	2			○		13	2				オムニバス
	離散数学1	1前	2			○		1					
	離散数学2	1後	2	2		○		1					選択必修
	プログラミング入門1	1前	2				○	2					兼1
	プログラミング入門2	1後	2				○	1					
	コンピュータアーキテクチャ	1後	2				○	1					
	データ構造とアルゴリズム1	2前	2				○		1				兼1
	データ構造とアルゴリズム2	2後	2	2			○		1	1			兼1
	基礎情報演習1A	2前	2					○		1	1		兼1
	基礎情報演習1B	2前	2					○	1				合同
	基礎情報演習2A	2後	2					○	1	1			合同
	基礎情報演習2B	2後	2					○	1				
	H. C. インタラクション	2前	2	2			○		1				
	オペレーティングシステム	2前	2	2			○		1				
	デジタルメディア処理	2後	2	2			○			1			
	論理回路	1後	2	2			○		1				
	数理論理学	2前	1				○		1				
	信号処理	2前	2				○		1				
	コンピュータ通信	2後	2				○		1				
	形式言語とオートマトン	2後	2				○		1				
	プログラミング言語論	2後	1				○		1				
	数値計算法	2後	2				○		1				
	データベース	3前	2				○		1				
	コンピュータビジョン	3前	2				○			1			
	上級プログラミング1	3前	2				○		1				
	上級プログラミング2	3前	2				○			1			
	人工知能	3前	2				○			1			
	組み込みシステム	3前	2				○		1				
	情報ネットワーク	3前	2				○		1				
	集積回路工学	3前	2				○		1				
	数理計画法	3前	1				○			1			
	ソフトウェア工学	3前	2				○		1				
	情報セキュリティ	3前	2				○						兼1
	自然言語処理	3後	2				○		1				
	音響・音声処理工学	3後	2				○		1				
	情報システムプログラミング	3後	2				○		1				
	コンピュータグラフィックス	3後	2				○						兼1
	情報倫理	3後	2				○						兼1
	データ解析法	3後	2				○		1				
	ゲーム情報学	3後	1				○						兼1
	暗号理論と応用	3後	1				○						兼1
	高度情報演習1A	3前	2				○		3	1			合同
高度情報演習1B	3前	3				○		2				合同	
高度情報演習2A	3後	2				○		2	1			合同	
高度情報演習2B	3後	3				○		1					
高度情報演習2C	3後	2				○		3				合同	
情報工学実習	1前・後	1											
情報工学海外実習1	1前・後	2						1					
情報工学海外実習2	1前・後	2						1					
情報工学海外実習3	1前・後	2						1					
情報工学海外実習4	1前・後	2						1					
Introduction to Computer Science and Engineering	1後	2				○		12	2		1		オムニバス
Operating Systems and Exercises	2後	2						1					
情報通信技術英語	3前	2				○						兼1	
Interaction Design	3前	2				○		1			1		
Exercise on Object Oriented Programming	3後	2						1					
Engineering Mathematics	2前	2				○		1					
Foundations for Programming Languages	2後	2				○		1					
卒研プレゼミナール	3後	2				○		13	2				
卒業研究1	4前	4						13	2				
卒業研究2	4後	8						12	2				
移動通信工学	3前	2		2		○						兼1	
光通信工学	3前	2		1		○						兼1	
情報通信特論2	3後	1		1		○						兼1	
セキュアネットワーク	3後	2		1		○						兼1	
小計 (66科目)	—	—	34	101	0	—	—	13	2		1		兼11
合計 (203科目)	—	—	52	324	15	—	—	13	2		1		兼147

教 育 課 程 等 の 概 要													
(工学部情報工学科)													
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	
学位又は称号	学士（工学）		学位又は学科の分野			工学関係 【大学設置基準第49条の4に定める専攻分野】 情報工学							
卒業要件及び履修方法						授業期間等							
1. 以下の条件を満たした上で124単位取得すること。 2. 基礎教養科目から下記を含み40単位以上 ①基礎科目 必修14単位 ②英語科目 必修4単位を含み10単位以上 ③人文社会系教養科目 6単位以上 ④体育健康科目 2単位以上 3. 専門科目 必修34単位、選択必修6単位以上を含み70単位以上 4. GPAが2.0以上であること。 ※なお、履修上限は、両コース共通で年間49単位（半期では25単位）とする。						1学年の学期区分			2期				
						1学期の授業期間			14週				
						1時限の授業時間			100分				

教 育 課 程 等 の 概 要															
(工学部土木工学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
全学共通科目	芝浦工業大学通論	1前・後		2		○								兼2	
	技術経営入門	1前・後		2		○								兼2	
	ダイバーシティ入門	1前・後		2		○								兼1	
	消費者行動論	1前・後			2	○								兼1	
	マーケティング概論	1前・後			2	○								兼1	
	デジタルプレゼンテーション	1前・後			2	○								兼1	
	Japanese Language I	1前・後			2	○								兼2	
	Japanese Language II	1前・後			2	○								兼2	
	Japanese Language III	1前・後			2	○								兼2	
	Japanese Language IV	1前・後			2	○								兼1	
小計 (10科目)		—	0	6	14									兼10	
基礎・ 教養科目	数 学 科 目 教 理 基 礎 科 目	線形代数第1	1前	2		○								兼2	
		線形代数第2	1後	2		○								兼2	
		微分積分第1	1前	4		○								兼3	
		微分積分第2	1後	4		○								兼2	
		微分方程式	1前・後	2		○								兼9	
		確率と統計第1	1前・後	2		○								兼10	
		確率と統計第2	2前・後	2		○								兼5	
		関数論	2前・後	2		○								兼3	
		ベクトル解析	2前・後	2		○								兼9	
		ラプラス変換	2前・後	2		○								兼4	
		フーリエ解析	2前・後	2		○								兼4	
	小計 (11科目)		—	8	18	0								兼26	
	物 理 学 科 目	物理学入門	1前		4		○								兼2
		物理学実験	1前		3				○						兼1
		基礎熱統計力学	1前		2		○								兼1
基礎熱統計力学演習		1前		2				○						兼1	
基礎力学および演習		1後		4		○								兼1	
相対論と量子論の基礎		2後		2		○								兼1	
相対論と量子論の基礎演習	2後		2		○								兼1		
小計 (7科目)		—	0	19	0								兼6		
化 学 科 目	基礎環境化学	1前		2		○								兼2	
	基礎無機化学	1後		2		○								兼2	
	基礎有機化学	1後		2		○								兼3	
	基礎生物化学	1後		2		○								兼1	
	基礎固体化学	1後		2		○								兼1	
	化学実験	1前・後		2				○						兼7	
小計 (6科目)		—	2	10	0								兼12		
英 語 科 目	Reading & Writing I	1前		2		○								兼4	
	Reading & Writing II	2後		2		○								兼5	
	Listening & Speaking I	1後		2		○				1				兼5	
	Listening & Speaking II	2前		2		○								兼5	
	工学英語I	2前		2		○				1				兼14	
	工学英語II	2後		2		○				1				兼11	
	TOEIC I	1前・後		2		○								兼14	
	TOEIC II	1前・後		2		○								兼9	
小計 (8科目)		—	4	12	0					1			兼27		
情 報 科 目	情報リテラシー	1前・後		1		○								兼4	
	情報処理概論	1前・後		2		○								兼3	
	J a v a 入門	1前・後		3				○						兼2	
	C言語入門	1前・後		3				○						兼2	
	データサイエンス演習	1前・後		2				○						兼2	
小計 (5科目)		—	0	11	0								兼9		
人 文 社 会 系 教 養 科 目	技術者の倫理	1後		2		○								兼1	
	経済学	1前・後		2		○				1					
	生命倫理	1前・後		2		○								兼3	
	メンタルヘルス・マネジメント	1前・後		2		○				1					
	日本国憲法	1前・後		2		○				1				兼1	
	現代の日本経済	1前・後		2		○				1				兼1	
	社会心理学	1前・後		2		○				1				兼1	
	認知心理学	1前・後		2		○				1					
	教育心理学	1前・後		2		○				1					
	プレゼンテーション入門	1前・後		2		○								兼3	
レポートライティング	1前・後		2				○						兼2		



教育課程等の概要														
（工学部土木工学科）														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	教育原論	1前・後		2		○			1					兼1
	法学入門	1前・後		2		○								兼1
	人間社会と環境問題	1前・後		2		○								兼2
	福祉と技術	1前・後		2		○								兼3
	現代日本の社会	1前・後		2		○								兼1
	自己表現とコミュニケーション	1前・後		2		○								兼2
	世界の言語と文化	1前・後		2		○								兼1
	人間関係論	1前・後		2		○			1					
	教育の近現代史	1前・後		2		○								兼2
	文化人類学	1前・後		2		○								兼1
	情報アクセシビリティ論	2前・後		2		○								兼1
	Accessibility of Information and Communication	2前・後		2		○								兼1
	情報技術と現代社会	2前・後		2		○								兼1
	映像メディア論	2前・後		2		○								兼1
	地域と環境	2前・後		2		○								兼1
	地方自治論	2前・後		2		○								兼1
	生産と消費の環境論	2前・後		2		○								兼1
	哲学・倫理学	3前・後		2		○								兼1
	応用経済学	3前・後		2		○			1					
	教育社会学	3前・後		2		○			1					
	グローバルゼーション論	3前・後		2		○								兼1
	地域と経済	3前・後		2		○								兼1
	地域社会学	3前・後		2		○								兼1
	知的財産法	3前・後		2		○								兼1
	人文社会演習1	3前		2			○							兼1
	人文社会演習2	3後		2			○							兼1
	Seminar on Social Aspects of Technology 1	3前		2			○							兼1
	Seminar on Social Aspects of Technology 2	3後		2			○							兼1
	小計（39科目）	—	2	76	0	—	—	—	3					兼23
体育健康科目	ヘルスリテラシー&スポーツコミュニケーション	1前		2			○							兼3
	ヘルスコンディショニング演習	1前・後		2			○							兼1
	身体運動のバイオメカニクス	1前・後		2		○								兼2
	スポーツ健康学	1前・後		2		○								兼1
	スポーツ生理学	1前・後		2		○								兼1
	ゴルフ	1前		2				○						兼5
	スキー（スポーツコミュニケーション）	1後		1				○						兼4
	テニス（テクニカル）	1前・後		1				○						兼2
	テニス（スポーツコミュニケーション）	1前・後		1				○						兼2
	ソフトボール（テクニカル）	1前・後		1				○						兼2
	ソフトボール（スポーツコミュニケーション）	1前・後		1				○						兼1
	バスケットボール（テクニカル）	1前・後		1				○						兼2
	バスケットボール（スポーツコミュニケーション）	1前・後		1				○						兼1
	バレーボール（テクニカル）	1前・後		1				○						兼2
	バレーボール（スポーツコミュニケーション）	1前・後		1				○						兼1
	バドミントン（テクニカル）	1前・後		1				○						兼5
	バドミントン（スポーツコミュニケーション）	1前・後		1				○						兼2
	卓球（テクニカル）	1前・後		1				○						兼4
	卓球（スポーツコミュニケーション）	1前・後		1				○						兼4
	サッカー（テクニカル）	1前・後		1				○						兼1
	サッカー（スポーツコミュニケーション）	1前・後		1				○						兼1
	フットサル（テクニカル）	1前・後		1				○						兼4
	フットサル（スポーツコミュニケーション）	1前・後		1				○						兼3
	フライングフットボール（テクニカル）	1前・後		1				○						兼1
	フライングフットボール（スポーツコミュニケーション）	1前・後		1				○						兼1
	軟式野球（テクニカル）	1前・後		1				○						兼2
	軟式野球（スポーツコミュニケーション）	1前・後		1				○						兼1
	ウェルネス・スポーツ（テクニカル）	1前・後		1				○						兼3
	ウェルネス・スポーツ（スポーツコミュニケーション）	1前・後		1				○						兼3
	フィットネスA	3前		1				○						兼1
	フィットネスB	3後		1				○						兼1
	小計（31科目）	—	0	37		—	—	—						兼15

教 育 課 程 等 の 概 要																
(工学部土木工学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
工学部 共通	教職論	1前・後		2		○			1						兼1	
	塗料・塗装工学概論	1後		2		○									兼1	
	教育相談論	3前・後		2		○			1						兼1	
	惑星科学	2後		2		○									兼1	
	教育課程論	2前・後		2		○			1						兼1	
	現代生物学	3前		2		○									兼1	
	宇宙空間科学	3前		2		○									兼1	
	工学基礎概論	3前・後		2		○			2						兼15	
	職業指導	3前・後		2		○									兼1	
	特別支援教育論	3前・後		1		○			1						兼1	
	情報と職業	3前・後		2		○									兼1	
	事前・事後指導	4通年		1		○			3						兼2	
	教育実習1	4通年		2				○	3						兼2	
	教育実習2	4通年		2				○	3						兼2	
	教職実践演習（中・高）	4後		2				○	3						兼2	
	グローバルPBL1	1前・後		2				○							兼1	
	グローバルPBL2	1前・後		2				○							兼1	
	グローバルPBL3	1前・後		2				○							兼1	
	グローバルPBL4	1前・後		2				○							兼1	
	受入型グローバルPBL1	1前・後		2				○							兼1	
	受入型グローバルPBL2	1前・後		2				○							兼1	
	国際インターンシップ1	2前・後		2				○							兼1	
	国際インターンシップ2	2前・後		2				○							兼1	
	国際インターンシップ3	2前・後		2				○							兼1	
	国際インターンシップ4	2前・後		2				○							兼1	
	統計学基礎	1後			1			○							兼1	
	データサイエンスリテラシー	1後		1				○							兼1	
小計（27科目）		—	0	49	1		—		4						兼23	
専門 科目	導入ゼミナール	1前	1					○	13	3					兼1	オムニバス
	環境の科学	1前	2			○			1							
	地圏の科学	1前	2			○			1							
	土木情報処理	1後	2			○			1							
	土木の力学	2前	2			○			1							
	流れの力学	2前	2			○			1							
	マテリアルデザイン	2前	2			○									兼1	
	水文学	2後	2			○			1							
	土の力学	2後	2			○			1							
	都市計画	2後	2			○				1						
	土木実験1	3前	2					○	2						兼4	合同
	土木ゼミナール	3前	1					○	13	3					兼1	
	土木設計演習1	3前	1				○		2							
	土木実験2	3後	2					○	2						兼4	合同
	土木キャリアセミナー	3後	1					○	7	3					兼1	オムニバス
	土木工学総合講義	3後	2			○			13	3					兼1	オムニバス
	土木設計演習2	3後	1				○		1						兼1	
	卒業研究1	4前	4					○	13	3					兼1	
	卒業研究2	4後	8					○	13	3					兼1	
	土木計画学1	1後		2			○		2	1						オムニバス
	地域デザイン演習1	2後	2				○			2						
	土木計画学2	3前	2				○		1							
	社会調査演習	3前	2				○		2							
	地盤工学	3後	2				○		1							
	地理情報システム	3後	2				○								兼1	
	地盤環境工学	3後	2				○		1							
	維持管理工学	3後	2				○								兼1	
	鋼構造学	3後	2				○		1							
	地震防災工学	3前	2				○		1							
	土木構造物概論	1前	2				○		1						兼1	
	土木工学海外演習1	1前	2						1							
	土木工学海外演習2	1前	2						1							
	土木工学国際演習1	1前	2						1							
	測量学	1後	2				○		1							
	交通計画	2前	2				○		1							
	応用測量学	2前	2				○		1							
	構造力学1	2後	2				○		1							
	コンクリート構造学1	2後	2				○		1							
	水理学	2後	2				○		1							
	空間情報科学	2後	2				○								兼1	
構造力学2	3前	2				○		1								

教 育 課 程 等 の 概 要																
(工学部土木工学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	コンクリート構造学2	3前		2		○			1							
	土質力学	3前		2		○			1							
	都市環境工学	3後		2		○									兼2	
	地域デザイン演習2	3後		4			○		1	2						
	土木解析学1	1後		2		○			1							
	土木解析学2	2前		2		○			1							
	応用統計学	2後		2		○			1							
	土木工学海外演習3	1前		2			○		1							
	土木工学国際演習2	1前		2			○		1							
	土木工学国際演習2	1前		2			○		1							
	測量学実習1	2前		2				○	1							
	測量学実習2	2後		2				○	1							
	構造力学演習	2後		1				○	1							
	学外体験学習1	2前		1						1						
	学外体験学習2	3前		1					1							
	地理情報システム演習	3後		1				○							兼1	
	国際開発工学	3後		2			○			1						
	Mobility and Regional Development	3前		1				○		1						
	Introduction to Transportation Systems	1後		2						1						
	Soil Mechanics A	3前		2			○			1						
	Construction Materials	3後		2			○								兼1	
	Structural Dynamics in Civil Engineering	3前		1			○			1						
	Maintenance of Steel Structures	3後		1			○			1						
	Soil Mechanics B	3後		1			○			1						
	Transportation Planning	3後		1			○			1						
	River Engineering	3後		1			○			1						
	Basic Hydrology	3前		1			○			1						
	Survey Instrument Design	4前		1			○			1						
	Lectures on Civil Engineering	4後			2		○		8	3					兼1	オムニバス
	小計 (70科目)	—		41	90	2		—	13	3					兼9	
	合計 (科目)	—		57	328	17		—	13	4					兼156	
学位又は称号	学士 (工学)															
卒業要件及び履修方法									授業期間等							
1. 以下の条件を満たした上で124単位取得すること。 2. 基礎教養科目から下記を含み40単位以上 ①基礎科目 必修10単位を含み14単位以上 ②英語科目 必修4単位を含み10単位以上 ③3単位以上 ④人文社会系教養科目 必修2単位を含み10単位以上 ⑤体育健康科目 3単位以上 3. 専門科目 必修41単位を含み80単位以上 4. GPAが2.0以上であること。 ※なお、履修上限は、両コース共通で年間49単位（半期では25単位）とする。									1 学年の学期区分		2期					
									1 学期の授業期間		14週					
									1 時限の授業時間		100分					

授業科目の概要				
(工学部 機械工学課程)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎・ 教養科目	数 理 基 礎 科 目	数 学 科 目		
		線形代数1	大学で初めて学ぶことになる線形代数は、すべての数学の基礎に位置づけられており、今後、大学で学んでいく、さらには、卒業後に必要となるであろう様々な数理科目を理解するために欠くことのできない分野である。線形代数の技法と考え方は、単に一科目に留まらない普遍性をもつ。この線形代数1ではまず、行列、行列式についての基礎的な事項を、具体例に重きをおいて学ぶ。次に、連立1次方程式の徹底した理解と解法に行列がいかに有効であるかを体験し、いわゆる、掃き出し計算に習熟していく。	
		線形代数2	線形代数2では、前半において、数ベクトルからなるベクトル空間を扱い、その上で定義された線形写像とそれを表す行列の性質、固有値について学ぶ。具体的には、部分空間、1次独立、基と次元、線形写像、線形写像の行列表現、基の変換について理解した後に、行列の固有値・固有ベクトルを学ぶ。また、後半では、固有空間と行列の対角化、数ベクトル空間における内積の定義、Gram-Schmidtの正規直交化、直交行列、実対称行列の直交行列による対角化を学ぶ。また、幾つかの対角化の応用なども学ぶ。	
		微分積分1	微分積分1は解析学の導入部分であるだけでなく、大学における多くの数学系科目の基礎になるものである。解析学は、自然科学や工学に現れる多くの現象を数式によって記述し、それらの現象の解明に寄与する数学の大きな柱となる一分野である。まず、1変数の主要な関数について極限、連続性、微分可能性、導関数(高階も含む)、Taylor展開、積分の概念、原始関数、定積分、簡単な微分方程式等、基本的な事項を統一的な視野のもとに扱う。そして、これらの事項は引き続き、数理専門科目にある微分積分2、確率と統計、関数論、微分方程式、ベクトル解析等の解析系科目のみならず、専門の教科においても常に登場してくる。このような流れの存在が高等学校までの数学と異なるところであり、関数を取り扱う手法、個々の関数の性質の把握、さらにはグラフの形状など、今後の学習につながるようしっかりと取り組んでもらいたい。	
		微分積分2	微分積分1では、独立変数が1個の関数に関する微分積分について学ぶが、自然科学や工学に現れる現象を数式で記述する際、変数を2個以上必要とする場合も多くある。そのため、この微分積分2では、独立変数が2個以上ある関数の微分や積分を学ぶ。内容によっては、3変数以上の関数の微分や積分についての考え方、概念、取扱方法も学ぶ。 前半ではまず、独立変数が2個以上ある関数の連続性を学び、次に独立変数が2個以上ある関数の微分の概念である偏微分を学ぶ。さらに、その発展として、独立変数が2個以上のTaylorの定理や極値問題を扱う。 後半では、独立変数が2個以上ある関数の積分である重積分を学び、必要に応じて、「1変数の微分積分」の復習をしながら講義を進め、問題演習を通して理解を深める。	
		微分方程式	方程式は未知数を含む関係式だが、微分方程式とは、未知関数とその導関数を含む関係式である。この関係式を満たすような関数を求めることが微分方程式を解くということである。自然科学の法則や工学における現象には微分方程式で表されるものが極めて多く存在する。Newtonの運動方程式は、質点の位置を時刻の関数として捉えたとき、この関数の2階の導関数(即ち、加速度)と力の関係式である。つまり、具体的に力を与えるとそれに対して1つの微分方程式が得られるのである。このように、現象がどのような原理のもとに引き起こされているかは現象における変化の部分に注目して理解されることが多い。それゆえ、多くの現象が変化率を含んだ微分方程式で表されることになり、その結果、自然科学や工学では至るところに微分方程式が登場してくる。そこで、微分方程式を数学的に学ぶことは工学の勉強や研究に不可欠というほど重要になる。	
		確率と統計1	統計学とは、標本から得られる数量的データから、そのデータの由来する母集団の特性に関する情報を取り出すための科学的手法とその理論の体系であるといえる。実社会では、いかなる場面でも各種多様なデータが利用されている。それらのデータの本質を見極めたり、背後にある現象の構造を正しく認識することは必要かつ重要である。ここでは、データの処理方法と確率の基本を理解し、それらが使える能力を養うことを目的とする。大学1・2年の数学的知識を導入しながら講義をするが、演習も多くとり入れる。	
		確率と統計2	確率と統計1では、一標本問題における大標本時の平均・割合の推定で終わるが、ここでは、小標本時の仮説の推定から始める。続いて、推定と表裏をなす検定を考察し、二標本問題における推定・検定に進み、回帰分析、分散分析までを主な内容とする。時間が許せば合間に、分布の型によらない、いわゆるノンパラメトリックな方法にも若干言及できれば行う。 「上記の様々な統計手法の基礎を理解し、将来実際問題に遭遇した時に驚かないで対処(完全でなくとも)に向かえる素養」を身につけることを目標とする。	

授業科目の概要			
(工学部 機械工学課程)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	関数論	複素関数論(複素解析、解析関数)の入門を行う。微分積分1、2では、実数を変数とする関数の微積分を扱った。複素関数論では、変数を複素数の範囲にまで広げた複素関数を考察する。(2次)方程式の虚数解として複素数に出会っていると思うが、複素数は数学上の(虚しい)想像の産物ではなく、自然現象、例えば、波などを記述するのに不可欠な言語である。また、指数関数、三角関数、対数関数などの馴染みの関数も複素関数として扱うことで実数の世界では見えなかった本性を顕す。複素関数の微分可能性(正則性)はCauchy-Riemann方程式で特徴づけられ、Cauchyの積分定理、べき級数展開可能性など強力な結果を導く。複素関数論は広汎な応用を持つ豊かな理論である。この講義では初歩的な内容に絞っているが、受講生は手を動かしながら複素関数の有用性の高さを実感し、理解を深めるよう努めてほしい。	
	ベクトル解析	電磁気学、力学、流体力学などは、すべて「場」という視点で扱うことができる。場を数学的に記述し、解析することをベクトル解析で学ぶ。ベクトル解析は幅広い工学の分野、基礎物理学の分野で活用されている。まずは、場に対して微分演算を導入し、特に「勾配」の性質を講義と演習によって学ぶ。また、空間曲線と線積分の基本事項を学ぶ。「勾配」に続き、「発散」、「回転(渦度)」などの微分演算について、その性質を講義と演習を通して学ぶ。さらに、線積分、面積分、体積分の基本事項を概観した後、Gaussの定理、Stokesの定理を学ぶ。	
	フーリエ解析	フーリエ解析では、まず前半でフーリエ級数とフーリエ解析の基本事項を学ぶ。フーリエ級数は、周期関数を正規直交系(三角関数など)で展開したものであり、微分方程式の求解や解析の手法を与える。また、フーリエ変換は、一般の関数にフーリエ級数を拡張したものであり、関数の時間領域での性質・挙動を周波数領域での性質・挙動に対比させる。次に後半では、数学としての厳密性にも留意し、応用を念頭においた現象解析と計算ツールとしてのフーリエ解析の理論・考え方・応用をバランス良く講義する。今日では、離散化され局所化された関数にフーリエ変換を拡張したものが離散フーリエ変換であり、これを計算するための高速フーリエ変換(FFT)の開発により、科学の多くの分野が革新された。この講義は離散フーリエ変換や高速フーリエ変換への入口でもある。	
物理学 科目	基礎力学	本講義では、材料力学・流体力学・熱力学など工学の基礎に共通する力学的な考え方を学び、静力学・動力学における解析力を修得する。講義の前半は質点の力学に話を絞り、運動方程式を解くことによる運動の解析、また「ニュートンの運動の3法則」から導かれる「運動量保存則」や「力学的エネルギー保存則」などについて学ぶ。後半は、角運動量とトルク、剛体の静力学・動力学について学び、力学的な考え方によって、質点に限らない運動の解析が可能であることを見る。	
	基礎力学演習	本授業は、対応する講義科目である「基礎力学」の演習授業である。力学は、原理や法則を学ぶだけでは真の理解は達成されない。法則とその応用例の間を行きつ戻りつすることによって、徐々に理解を深めて行く必要がある。そのためには、演習問題を何度も自分の手を動かして解くことが大事である。そこで、本演習授業では、教科書の章末問題や演習プリントの問題などを解きながら、授業で習ったことを復習する。毎回、レポート課題や小テストを課す。	
	基礎電磁気学	本講義では電磁気学の基本的な考え方を学び、具体的な事例での解法を習得し、工学の習得に必要な基礎能力を育成する。前半では電気現象のうち時間によって変動しない静電気、定常電流を扱うことにより、電気現象の基本的な性質を理解し、ガウスの法則を用いた電場の求め方、電位を求める方法、さらに直流回路の基礎について習得する。後半では、電気現象と磁気現象が密接に関連した現象であることを学ぶ。ビオ-サバールの法則やアンペールの法則で磁場を求め、ローレンツ力を求める方法を習得する。さらに時間変化する電気・磁気現象である電磁誘導について理解し、マクスウェルの電磁方程式により電磁気の現象が統一的に説明されることを理解する。	
	物理学実験	物理学はあらゆる自然科学の基礎をなすものであり、また実験に基づき理論体系の確立された学問であるから理学と工学との研究に実験は欠くことのできないものである。実験を行うことは、研究を目的とするのは当然であるが、ここで扱うのはいわゆる学習実験で、これにより自然科学を研究するための態度と習慣を身につける。したがって、各々の実験題目の物理的な意味を理解し、実験計画の立て方および実験方法を体得し、将来、研究実験を行うための基礎を養う。具体的には、はじめに誤差論の基礎を学ぶ。次に体積測定の実験も含めて、11の実験題目について、自らの手で実験を行うことにより物理現象を実感として体験する。	

授業科目の概要			
(工学部 機械工学課程)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	基礎熱統計力学	<p>物理学には様々な分野があるが、そのなかで本講義で取り上げる「熱統計力学」は工学一般に広い応用を持っている。特に近年は、エネルギー問題、環境問題から材料物性や生物・化学・社会科学、さらに情報科学や人工知能まで応用の裾野を広げ、その重要性は増すばかりである。将来いかなる分野に進もうとも、エンジニアとして熱統計力学の基本的な考え方は理解しておく必要がある。</p> <p>講義の内容は、まず、温度や熱という我々が日常的に使っている熱の概念を正確に理解することから始める。そして、熱力学の法則から様々な熱現象が理解できることを学ぶ。後半の統計力学では、ミクロな原子分子の運動から出発して熱現象を理解する手法を学ぶ。</p>	
	基礎熱統計力学演習	<p>本授業は、対応する講義科目である「基礎熱統計力学」の演習授業である。物理学は、原理や法則を学ぶだけでは真の理解は達成されない。法則とその応用例の間を行きつ戻りつすることによって、徐々に理解を深めて行く必要がある。そのためには、演習問題を何度も自分の手を動かして解くことが大事である。</p> <p>そこで、本演習授業では、教科書の章末問題や演習プリントの問題などを解きながら、その日の授業で習ったことを復習する。毎回、レポート課題や小テストを課す。</p>	
	相対論と量子論の基礎	<p>20世紀初頭に入り、物理学はミクロの世界の探究に手を伸ばしはじめ、アインシュタインの相対性理論や量子力学の理論体系の完成により現代物理学の基礎が形作られた。授業ではこれらの発展過程において重要な基礎概念である相対論（特殊相対性理論）と量子論の基礎を学ぶ。</p> <p>講義は、前半において特殊相対性理論の基礎を学び、良く知られているローレンツ収縮や時間の遅れについての理解を深める。さらに、相対性理論による光速に近い物体の運動理論の解明、質量とエネルギーの等価性を学ぶ。後半では、エネルギー量子、物質の波動性などを簡単に紹介し、量子論の基礎方程式であるシュレディンガー方程式の一般的な性質を探る。方程式の解法を空間1次元に特化し、固有値問題や散乱問題を具体的な系で解く。また、量子力学の応用として、水素原子の構造についても概説する。</p>	
	化学科目	化学の基礎と実験	<p>この授業では、エネルギー資源の問題や地球環境の問題など、工学が関わりをもつ現代社会の諸課題を解決するために必要な化学の知識と原理を習得し、これらの問題を化学的な視点から考察できるようにすることを目標とする。また、将来、より専門的な化学の知識が必要となったとき、独力で化学の学習が再開できるよう、化学の基礎を固める。</p> <p>この授業の特徴は、講義と実験を交互に連動して行うことである。化学の法則について理論的に学習した上で、学んだことを実験で確認すると、化学の基礎となる概念を深く定着させることができる。</p> <p>実験においては、薬品の取り扱い方や、実験器具の扱い方など、化学薬品を取り扱う際に必要となる基本的な技術を習得し、将来、卒業研究などで化学薬品を扱うときに、安全に実験を行うことができるように準備をする。</p>
	基礎無機化学	<p>この授業は、「基礎化学」、「基礎環境化学」等の大学の化学の基礎を履修した後の学生を対象として開設された無機化学の授業である。</p> <p>原子軌道や分子軌道を用いて、各元素固有の性質と反応性について学び、身近な無機物質の電子配置、立体構造、機能及び反応性を理解するための基礎学力を養う。また、錯体化学や放射化学の基礎理論の習得から、専門につながる化学的思考を育てることを目的とする。授業の後半には、各元素にちなんで、主に環境に関連したトピックを紹介する。</p>	
	基礎有機化学	<p>「基礎化学」では、物質の性質や変化を物理法則に基づいて定量的に取り扱う「物理化学」の基礎を学ぶが、有機材料やバイオの分野に大きく枝を広げている現代化学の理解には、もう一つの大きな柱である「有機化学」の素養が不可欠である。この授業は、「基礎化学」をすでに学んだ学生が「有機化学」の基礎を学ぶためのものである。</p> <p>化学も他の数理科学と同様、論理的な思考の上に成り立っており、有機化学も例外ではない。有機化学は暗記の学問だと思っている人が多いようであるが、有機化学にも論理がある。有機化学の論理を学び、有機化学を「考える科学」に変えるのが、この授業の目的である。</p> <p>また、この授業では、トピックの紹介などを通じて、有機化学がいかに社会に貢献しているかについても学ぶ。</p>	
	基礎生物化学	<p>生命はどのようにして誕生し、生物はどのようなメカニズムで動いているのだろうか。生命には謎も多く、科学技術が進歩した今でもさえ、わからないことがたくさんある。それは、生物が多数の分子で構成されており、またそれらが複雑に相互作用しているからであろうと考えられている。この授業では、化学をベースにして生物を分子レベルで考えていく授業を行う。生物の構造や仕組み、働きについて広く学習し、より専門的な学習のための基礎を養うことを目的とする。</p>	

授業科目の概要			
(工学部 機械工学課程)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	基礎固体化学	<p>この授業では、身近な物質や材料の性質を知るために、原子や分子が集合してできる固体の化学の基礎を学習する。</p> <p>固体の性質を理解するためには、個々の原子や分子の特徴とそれらの配列構造が組み合わさって、素材の強度、安定性、電子特性が決まっていることを知る必要がある。また、原子や分子の幾何学的配列としての結晶格子の考え方を理解すると、一見複雑に見える固体構造が基本的な単位構造の繰り返しであることに気づくとともに、結晶の不完全性が固体の性質に様々な影響を与えることも理解できるようになる。</p> <p>この授業では、原子や分子がどのような相互作用に基づいて、どのように固体中で配列し、性質や機能を発現するのかを、調査研究、モデル作成を交えながら学ぶ。後半では、結晶格子の考え方を基に、身近な鉱物の工業利用や固体材料の特徴的な機能について、トピックスを交えながら紹介する。</p>	
英語科目	Reading&Writing1	<p>この授業では、リーディングとライティングのスキルを伸ばすことを目的とする。様々な内容の文章を読むことにより、文章の要点や詳細を日本語に訳すことなく読み取る力を伸ばす。またリーディングを通じて、文法を使いこなす力を向上させる。リーディングの内容について、ディスカッションや短いライティングの宿題が課せられる。TOEICのReading Sectionのスコア向上のため自己学習用副教材を用い、自己学習することが課せられる。</p>	
	Reading&Writing2	<p>この授業では、リーディングとライティングのスキルを伸ばすことを目的とする。比較的難度の高い長文を正確にかつ迅速に読み、内容を理解する力をつける。様々な内容の文章を読みながら、内容を要約し、議論を行う。文章の要点や詳細を日本語に訳すことなく読み取る力を伸ばす。リーディングを通じて、文法を使いこなす力を向上させ語彙力を強化する。また文章の内容について、ディスカッションを行いライティング・タスクに取り組む。</p>	
	Listening&Speaking1	<p>この授業では、英語のコミュニケーション力を伸ばすことを目的とする。日常的なトピックについて英語で話すことを通して、コミュニケーションのための語彙や文法の知識を向上させつつ、流暢に話す力を強化する。また、様々なリスニング演習を行い、短い日常的な会話やスピーチの内容が理解できることを目指す。履修者にはTOEICテストでより高い得点を取得できるよう、e-learningを利用した自己学習が課せられる。そして、中間・期末テストで授業内容および自己学習の理解度を評価する。</p>	
	Listening&Speaking2	<p>この授業では、Listening &amp; Speaking 1に続き、より高度なリスニング力、スピーキング力を養うことを目的とする。様々な話題が取り上げられているテキストを用いて、語彙や文法知識の復習と定着を図り、実践的なリスニング力を養う。グループ活動も行いながら、得られた情報から適切な表現を用いてアウトプットを行い、コミュニケーション力を養う。グループ活動においても様々な話題において自信を持って会話ができるようになることを目指す。</p>	
	工学英語1	<p>この授業では、工学系で用いられる英語の語彙や表現の中から基礎的ではあるが頻出するものを中心に学ぶ。特に、形状、数量、状態、構造、機能、比率、関係、動作、原因と結果などを表現する語彙や表現を習得する。学生が専攻する分野の内容が書かれた英文を無理なく理解できる力を養成し、専門分野の英文や英語論文を読みこなせるようにする。また、工学的な内容を論理的かつ明確に表現できる英語力を目指し、論文を英語で執筆できる力に繋げて行く。授業は練習問題や演習を中心に行われ、授業の内容を復習する課題や小テストが課せられる。</p>	
	工学英語2	<p>この授業では、工学系で用いられる英語の語彙や表現の中から基礎的ではあるが頻出するものを中心に学ぶ。特に、形状、数量、状態、構造、機能、比率、関係、動作、原因と結果などを表現する語彙や表現を習得する。学生が専攻する分野の内容が書かれた英文を無理なく理解できる力を養成し、専門分野の英文や英語論文を読みこなせるようにする。また、工学的な内容を論理的かつ明確に表現できる英語力を目指し、論文を英語で執筆できる力に繋げて行く。授業は練習問題や演習を中心に行われ、授業の内容を復習する課題や小テストが課せられる。工学英語1で扱った内容の復習および新たな知識の習得を目指す。</p>	
	TOEIC	<p>この授業は、履修者のTOEICテストの得点を伸ばし、より高い得点を取得することを目的とする。TOEICテストの形式に慣れるため、リスニングセクション・リーディングセクションの問題を数多く練習し、正しく早く答えることができることを目指す。頻出単語やTOEIC特有の文法も学習すると同時に、テストを受ける際のコツも学ぶ。期末テストの他、中間テストまたは小テストを複数回行う。テストスケジュールは担当教員の指示に従うこと。</p>	

授業科目の概要			
(工学部 機械工学課程)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Academic English	書く力と話す力の応用として、理工系の英語による研究論文の書き方の基礎を学び、学問や研究の場で求められる英語によるプレゼンテーションの仕方学ぶ。論文の書き方では、研究論文の全体の構成や各構成部分の書き方を学び、理工系英語に特徴的な語彙や語法に慣れる。また、プレゼンテーションの構成について学び、ジェスチャーやアイコンタクトなどのテクニックを用いた練習を行う。自身の学問分野での活動を発表できることを目標とする。	
情報科目	情報リテラシー	大学生活における知的活動の道具として欠かすことのできないコンピュータの基本的な利用法についての演習を行う。まずパソコンの基本的な操作方法、インターネットの利用法について学ぶ。次に、学生生活だけでなく社会でも必須事項となっているワープロを用いた文書・レポートの作成法、表計算ソフトによる簡単な集計処理・統計処理とグラフの作成法、コンピュータを用いたプレゼンテーションの方法を演習する。最後に表計算ソフトを利用した簡単なプログラムを作成する演習を行う。	
	情報処理概論	コンピュータのしくみを理解するため、関連する基礎的な理論、ハードウェア技術（命令の構成、メモリ、入出力等）、オペレーティングシステムなどの基本ソフトウェア、応用ソフトウェアおよびネットワーク技術について学習する。基礎的な理論では、コンピュータの扱うデジタルデータとその処理を行う論理回路、基本的なプログラムの動作原理について学ぶ。ハードウェア技術では、コンピュータを構成するデバイスや周辺機器の役割と仕組みについて学ぶ。ネットワーク技術では、インターネットで使われている通信技術を中心に、コンピュータが遠方のホストとどのように通信を行っているのか理解する。最後に、インターネットを使う上でのネットリテラシについて学ぶ。	
	Java入門	代表的なオブジェクト指向プログラミング言語であるJavaを用い、プログラミングの考え方、プログラミングの方法および実行にかかわるコンピュータの使用法を、講義と演習により修得し、コンピュータシステムについての理解を深める。まず、条件分岐や繰り返しを含むプログラムを作成する演習を行うことで簡単なアルゴリズムを理解する。次に、オブジェクト指向プログラムに必要なクラスやインスタンスの作成法を学ぶ。最後にライブラリを利用し、効率的にプログラムを作成する演習を行う。	
	C言語入門	代表的なプログラミング言語であるC言語を用い、プログラミングの考え方、プログラミングの方法および実行にかかわるコンピュータの使用法を、講義と演習により修得し、コンピュータシステムについての理解を深める。まずはプログラミングの基本的な制御構文である条件分岐や繰り返し構文を学び、実際にプログラムを作成することでアルゴリズムの理解を行う。次に関数の作成方法と構造体の利用方法を学び、効率的なプログラミング手法について学習する。最後にC言語特有のポインタについて学び、実践的なプログラムの作成を行う。	
	データサイエンス演習	プログラミング言語Pythonの基礎と典型的なデータサイエンス分析法を学ぶ。最初に、どのように実社会でデータサイエンス技術が活用されているかを理解する。次に、データサイエンスのためのツールとしてPythonの基礎文法を、実際にプログラムを作成しながら学ぶ。後半では、AIを中心により実践的なデータサイエンス技術を学ぶ。具体的には、Pythonによるデータ分析プログラムを作成し、統計処理、機械学習、データの可視化手法の基礎を修得する。	
	人文社会系教養科目	生命倫理	この授業では、今日主流となっている近代経済学における分析方法やその考え方を解説する。具体的には、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的考え方や基礎理論を学んだのち、応用問題として実際の経済をどのように分析するか、必要な経済政策は何かなどを考える。また、小テストを通じ、経済学系の計算問題の解法にも慣れる。なお、授業は講義形式をとるが、出席者の積極的な発言も求めているので、授業に主体的に参加する姿勢が求められる。
経済学		この授業では、今日主流となっている近代経済学における分析方法やその考え方を解説する。具体的には、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的考え方や基礎理論を学んだのち、応用問題として実際の経済をどのように分析するか、必要な経済政策は何かなどを考える。また、小テストを通じ、経済学系の計算問題の解法にも慣れる。なお、授業は講義形式をとるが、出席者の積極的な発言も求めているので、授業に主体的に参加する姿勢が求められる。	



授業科目の概要			
（工学部 機械工学課程）			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本国憲法	日本国憲法を概観し、立憲主義、基本原理ならびに統治機構および基本的人権の保障について講義する。憲法は、国民の人権を保障するために、統治機構という民主政治の仕組みを定めている。このような憲法の意義、国家と国民との関係および現代社会における憲法に関する諸問題について、学生が自ら法的に思考することができるよう授業を展開し、（将来的な）政治参画の意思を育成する。 難解と捉えられがちな日本国憲法に関する内容を、身近な例や時事問題を通して、具体的に理解してもらえるよう工夫する。	
	現代の日本経済	「経済を勉強すれば世の中の仕組みがわかる」ある有名な経済学者はこのように言っている。この授業では、現在の日本経済の姿が財政、金融、人口移動といった観点から紹介されるとともに、各種データをもとに経済分析する方法などを説明する。この授業を通じ、受講生が少しでも世の中の仕組みを発見し、その仕組みに対する受講生なりの問題意識を抱いてもらいたい。なお、授業は講義形式をとるが、出席者の積極的な発言も求めていくので、授業に主体的に参加する姿勢が求められる。	
	社会心理学	本講義では、社会心理学の基礎的知見をなるべく網羅的に解説する。具体的には、社会的認知、自己、態度と態度変容、社会的影響、援助と攻撃、集団と個人の大きく6つのテーマを扱う。その上で、単なる知識の習得にとどまることなく、個別およびグループでの演習を取り入れながら、学んだ知識を自分自身の経験と照らし合わせて考えることができること、および、今後の自身の生活においてどのように活かしていけばよいのかについて考えることを重視する。	
	認知心理学	ものづくりには物そのものの特性だけでなく、それを使用する人間の特性についても理解が必要である。認知心理学では、人間の認知特性（記憶、知覚、思考など）と環境との相互作用への理解を深めることを目的とする。人間がどのように環境（自然環境、物などの人工物、人的環境を含む）を認識し、様々なことを記憶し、また環境にどのように働きかけるのかを過去の実験の紹介や講義中の実験を通して体験する。日常生活の中で誰しも経験しうる体験を取上げ、人間が外界を認識するしくみ、記憶や学習の特性を中心に、いわばハードウェア・ソフトウェア両面から、人間というものを見つめることを目指す。また、このような観点を通して、客観的、科学的なものの見方について考える。	
	教育心理学	本講義では、教育活動を進める上で有用であろうと思われる心理学の基礎的知見をなるべく網羅的に解説する。具体的には、発達、学習、動機づけと学習意欲、教授法、教育評価、学級集団の大きく6つのテーマを扱う。その上で、単なる知識の習得にとどまることなく、個別およびグループでの演習を取り入れながら、学んだ知識を自分自身の経験と照らし合わせて考えることができること、および、今後教育活動を行う上でどのように活かしていけばよいのかについて考えることを重視する。	
	プレゼンテーション入門	プレゼンテーションとは、自分の成し遂げた成果あるいは意見や主張などを、相手（聴衆・受け手）に伝えて、理解させることである。そのためには、伝えたい内容を整理して分りやすく組み立てること、さらには相手の注意を喚起し興味を沸かせることが重要である。本授業は、そうしたプレゼンテーションの基本的なスキルである構成員力や表現力を指導する。そして、学生が実演を行うことによって、自分の考えを適切に表現し、伝える能力を身につけることを目標としている。具体的には、プレゼンテーションに必要な基礎的スキル（内容の構成の仕方、パワーポイント等の発表材料の作り方・デザインの仕方、効果的でわかりやすい話し方、声の出し方）を身につけ、自分の言いたいことを理論的かつ効果的に表現できるようになる。そして、各発表において、それを発揮できるようにする。	
	レポートライティング	ある程度の長さの文章を、論理的で説得力あるものに仕上げるためには、訓練が必要である。 「レポートライティング」では、文章表現の基礎を習得した後に、実際にさまざまな内容の文章を作成していく。ひとまとまりの文章を繰り返し書き上げることで、よりよく「書く」ための技術、プロセスを身につける。同時に、読み手として「良い」文章を見分けることも重視する。授業の最後では、やや長めの文章を提出してもらうことになる。 また、皆さんが実際に求められることの多い「（大学の）レポート」の書き方についても適時取り上げる。	

授業科目の概要			
(工学部 機械工学課程)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育原論	本講義では、教育がこれまでの日本、世界でどのように捉えられてきたのかを概観し、代表的な教育思想家の思想について説明する。また、学校の成立過程と教育制度の展開について、歴史的な視点から学び、今日の教育課題がどのようにして立ち現われてきたかを理解できるようにする。こうした歴史的に構築されてきた教育理論をもとにして、現代における教育の事象をどのように捉え、どのように考えるのかについて、議論する。これらをとおして、教職を目指す学生たちが、教育をめぐる諸問題について自分自身で考えることができるようになるための基礎的な知識の習得を目指す。	
	法学入門	我々の毎日の生活は、意識するにせよ、しないにせよ、法律をはじめとする社会の規範によって、その秩序が保たれている。社会において活動していく上では、これらの法規範（ルール）を認識しておくことが必要となる。授業では、日常生活に関わりのある法律、および時事問題において適用される、または必要とされる法律等を扱う。社会で発生する諸問題について、学生が自ら法的に思考する力を養成する。自分の考えをまとめ、説明し、他の学生の意見を聴いて、さらに考えを深めることが求められる。	
	技術者の倫理	今日、科学技術は、空気や水と同様、人間が生きていくのになくはならないものである。人間生活は、科学技術のもたらす利益と危害と支配されている、と言っても過言ではない。したがって、科学技術を人間生活へと応用する技術者の責任はきわめて重い。技術者倫理とは、単に、技術者自身が社会に出て失敗しないための保身の心得というわけではない。技術を用いることにより、一方で豊かな社会を創造して人類の幸福に貢献し、他方で公衆や環境への危害を最小限に食い止めるために、専門家としての一人の技術者に何をすることができるのか。法律以前の「人の道」について理性的に考えることこそが、技術者倫理の本当の目的である。	
	人間社会と環境問題	我々人間は、環境を利用・改変しながら自らの生活を発展させてきた。しかしながら、環境の回復機能を超える過度な利用・改変によって、様々な環境問題が生じている。環境問題は様々なレベルで生じており、その要因は複雑に絡み合っている。 そこで、本講義では、前半では、これまで人間社会が直面してきた様々な環境問題について取り上げ、後半では、気候変動問題と循環型社会という2つの重大な環境問題とその対策について考える。	
	自己表現とコミュニケーション	社会において個人と個人が円滑なコミュニケーションをとることは、自分を理解してもらうためにも、また、社会に適応するためにも必要なことである。近年、コミュニケーション能力が低い若者が増加しており、それが本人の能力評価に影響しているだけでなく、組織の運営や体質にまで影響している。本授業では、本学の学生が充実した大学生活を送るためにも、また、卒業後に社会に適応できるようになるためにも必要なコミュニケーション能力を、演習や実習を通して育成する。具体的には、下記のスキルを身につける。 ・自分にも他者にもより良いコミュニケーションを積極的にもてる。 ・人と協調して話し合いをすることができる。 ・自分の考えを理論的にわかりやすく伝えることができる。 ・1対1および1対グループのいずれにおいても自分を発現できる。	
	世界の言語と文化	21世紀も20年を過ぎたが、近代以降続く民族と国家をめぐる問題はなおも存在している。共通の言語を持つ人々に基づいて民族を提議するようになったのはフランス革命だといわれているが、それ以降、多くの国が一族、一国家、一言語を理想としつつも、その理想が達成されたことはなく、今や克服されるべき課題だと考えられ始めている。英語の重要性がますます高まる一方で、英語一辺倒では世界を理解できるはずもなく、相変わらず未解決で残されている言語をめぐる社会問題も存在する。その中で、多文化共生という新たな理念が生まれ、多民族、多文化そして多言語的状況を社会の中で新しく作りあげる議論や実践もあるが、その実現までの道のりは遠いといわざるを得ない。そのような現在我々が実際に直面している問題の具体例を見ていくことで、言語と国家、民族の密接な関わり合いを理解する。	
	人間関係論	人と人との関係は、教職に限らずあらゆる職業や社会生活の基本である。本講義では自己の対人関係のあり方の特徴について心理学の視点から考え理解すること、および、人間関係に関する様々な理論や方法について学ぶ。本講義では、人間関係を対人問題解決ととらえ、様々な対人関係の課題を問題解決的なアプローチで理解することを試みる。講義では、個別およびグループでの演習および授業外学修としてe-learning型のシミュレーション教材を取り入れながら、学んだ知識を自己の日常の対人場面で活用でき、実際に問題解決ができるようになることを支援する。	

授業科目の概要			
（工学部 機械工学課程）			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育の近現代史	<p>本講義では、近現代を中心に教育の歴史の変遷について学ぶ。本講義の特徴は、「学校」「家族」の外から教育の歴史を見ることである。現在の日本社会においては、小・中学校で義務教育を受けることは当たり前であり、家族に育てられることは当然と思われがちであるが、不登校児童生徒は現在に至るまで多く存在している。また、里預けや縁組に基づく養育は、高度経済成長期に至るまでごく一般的に見られた。本講義の内容は、2部に分かれる。まず、前半の講義では、就学をテーマとする。不就学の子どもに対していかなる働きかけが行われ、学校システムが成立してきたのかについて学ぶ。後半の講義では、子どもの養育をテーマとし、近代家族の成り立ちと今後について考察する。近現代の教育課題を紐解き、学校や家族とは何かといった、根本的な問いについて考える機会としたい。</p>	
	文化人類学	<p>私たちは、自分の育った社会の文化的価値観を自然と身につけ、それを通じて異文化を捉えてしまう。本講義では、こうした人間に潜む自文化中心的思考を自覚することから始まり、文化の多様性を見出し、そして最終的に自文化において「常識＝当たり前」とされていることを相対化し再検討することを目指す。グローバリゼーションが進行し「異文化理解」の必要性が唱えられている現代社会だからこそ、「異文化を知り、自文化を相対化する」学問である文化人類学をぜひ学んで欲しい。</p>	
	地域と環境	<p>あらゆる人間活動は、それぞれ特定の地域において営まれている。それゆえ、持続可能な地域の実現は、人間活動の持続可能性や人々の幸福につながると言っても過言ではない。一方で、現時点では多くの地域が様々な問題を抱えており、持続可能な状態とはいえない。また、地域における人間活動は、地域の自然環境や人間環境と深く関わっており、それらを無視した技術・システム・政策の導入は、かえって地域の持続性を損なう可能性もある。</p> <p>そこで本講義では、世界や日本の事例を踏まえつつ、地域の環境と人間活動との関わりや地域の抱える様々な課題を理解し、持続可能な地域とはどのようなものかについて考えていく。</p>	
	生産と消費の環境論	<p>これからの社会人、特に技術者は、生産（製品・サービス）と消費（ライフスタイル）という人間活動が環境に及ぼす影響を総合的に評価し、改善へとつなげる認識が求められる。また、世界的にも「持続可能な生産と消費」という概念が注目を浴びている。</p> <p>この授業では、この生産と消費の環境影響や持続可能性を評価する手法として、マテリアルフロー分析、ライフサイクルアセスメント(LCA)、エコロジカルフットプリントなど様々な手法を取り上げ、その理論的背景や実際の適用例を学ぶ。</p>	
	応用経済学	<p>この授業は、受講生が経済学における定量的分析手法を修得し、それを活用して現実経済を分析する能力を身につけることを目標とする。また、公共投資など政府の経済政策がもたらす経済効果の分析に有効なツールとなる産業連関分析やマクロ経済モデル分析も紹介し、それらを活用した問題演習などを行う。最終的には、こうした分析手法を現実の経済分析に適用し、受講生各自が関心を抱く経済現象を解明することに取り組んでもらう。そこでは、自分自身で必要となるデータを収集するなど、主体的な取り組みが必要となる。</p>	
	教育社会学	<p>教育社会学とは、教育を広く社会的な営みと捉え、教育をめぐる事象を社会的に分析する学問である。本講義では、現代社会において学校教育の現場で起こっている様々な問題を取り上げて社会的に検討することをおし、我々が無意識のうちに持っている教育や学校に対するまなざしを問い直していく。本講義での学びを通して、受講生たちは、教育を社会的な営みとして捉え、教育問題を幅広い視点から多角的に考えることができるような視点を身につけることを目標とする。</p>	
	知的財産法	<p>知的財産法は、知的（技術的または文化的）創作活動とその成果を保護する法分野である。科学技術の進展、産業の発展および取引態様の変化に伴い、その重要性は近年ますます高まっている。</p> <p>この授業は、大学、企業および社会において知的創作活動に携わる学生が、知的財産法の全体像を学ぶことを目的とする。具体的には、法律で保障される権利、実際に問題となった重要な判例およびそれに伴う法改正等について理解を促し、学生が自ら考えることによって、得た知識を活用してもらう。授業では、特許法および著作権法を中心として扱う。</p>	

授業科目の概要			
(工学部 機械工学課程)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
体育健康科目	スポーツ科学実技1	<p>本授業は、3回の講義と11回の実技で実施する。各スポーツ種目の基礎技術および特有の動作やルールを学習しながら、運動面だけでなく、ゲームを通してスポーツマンシップの実践から社会性やリーダーシップを身に付け将来社会で役に立つ人間関係を学べる授業となる。</p> <p>本学でのスポーツマンシップはRespect、Fair play、Good loser、Loyaltyなどを指し、技術者倫理にも通じる行為をスポーツの実践を通して修得する。</p>	
	スポーツ科学実技2	<p>本授業は、講義と実技で実施する。スポーツ場面ではノンバーバルなコミュニケーションが多く、誤解のない態度、行動が要求され、仲間づくり、チーム・他者への貢献など社会性の育成が期待でき、安全な身体活動を常に意識して行動する習慣を身につける機会とする。よって、技術レベルの差をお互いに補いながら、チームとして目的を達成するためにチームの中で自分ができる役割を見つけ貢献すること、仲間の力を生かす活動が奨励される。</p> <p>また心身の健康の振り返り、改善を促すために日常生活習慣や行動、メンタルについて履修期間毎日の記録が要求される。（生活習慣チェックシート）</p>	
	コンディショニング演習	<p>講義では、健康を維持・増進するための基礎知識を身につける。実技では、自らの体を被検体とした様々な測定を通じて数値の意味を理解し、健康状況を確認していく。さらに、幾つかの運動を実践する中で、運動強度・カロリー消費等を測定し、健康維持のための適切な運動負荷について理解を深める。最終的には、目的に合った正しいトレーニングの立案・実践はもちろん、定期的な振り返りによるトレーニング負荷の修正を実践できるようにする。本授業は理論と実技のハイブリット型の授業として行う。</p>	
	スポーツ健康学	<p>日本人の寿命は男女とも80歳を超え、世界でもトップクラスの長寿国となっている一方で、健康寿命は改善の余地があることが明らかになっている。本授業は、人間が生活する上で必要不可欠である「健康」がスポーツとどのように関連しているか、またどうして必要なのかについて、様々な角度から考え、理解することを目的とする。また、スポーツの実践によって得られる効果・効能はもちろん、熱中症予防などの環境対策・ケガ時の対処方法が正しくするための説明を行う。</p>	
	スポーツバイオメカニクス	<p>スポーツ動作の良し悪し、特に悪い動作には必ず原因がある。その原因を探るためには、動作の見方・捉え方や分析すべき目の付け所を決めることが大切となる。また、パフォーマンスの向上ばかりではなく、日常生活におけるケガの予防の観点からも、動作を的確に捉えることは重要である。本講義では、身体各部の物理的特徴、スポーツ場面における身体各部に働く力、およびスポーツ場面における身体各部に働く力について概説し、スポーツ動作に限らずヒトの動作を客観的に捉え、それをさまざまな場面に生かすための説明を行う。</p>	
共通教養科目	統計学基礎	<p>実験や観測、あるいはアンケートなどによって様々なデータを取得することができるが、このようなデータから情報を抽出し、背景に潜む構造を理解する手法のひとつが統計学である。このようなデータに対する解析手法はここ最近ますます重要視され、様々な方向に発展している。本授業で扱う統計学の内容はデータを扱う手法として古くから用いられているものであり、非常に基本的であるが、基本的であるがゆえにその理解は必要不可欠である。本授業では、統計学における基本的概念、分析手法を学ぶ。</p>	メディア
	データサイエンスリテラシー	<p>この授業ではデータサイエンスの基礎について学ぶ。現在、多様な分野においてビッグデータが活用されることが一般的になっているため、実際に社会でどのように活用されているかを学修する。また、実際にデータを活用するための分析法や注意点を学ぶ。データサイエンスにおいて中心的な技術はAIであるため、AIの歴史と実際にどのような分野に活用されているかを学ぶ。また、データを取り扱う際に必要な法規や倫理についても身につける。</p>	メディア
	芝浦工業大学通論	<p>この授業では、大学の執行幹部（学長、理工学研究科長）による教育理念やビジョン、社会と工学との関わり、大学の現状と未来、学内で利用できる学生支援を聞くとともに、本学の歴史を批判的に振り返る。その後、卒業生による社会からみた本学の姿や学生に対するアドバイスなどを受けながら、大学やそこに在籍する自分自身を本音で見直す機会とする。外部の調査結果によると、多くの大学に入学してくる新入生の大部分は不本意入学者だと言われており、それは本学の学生調査にも見られる傾向となっている。しかし、学ぶこと自体は本来どこの大学でもできるはずであり、能動的に学んでいけるか否かは、自らが在籍する大学に根を張り、自分らしく学ぼうと思えるか否かである。皆さんの学ぶ意欲向上の一助となるのがこの講義である。</p>	

授業科目の概要			
(工学部 機械工学課程)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	技術経営入門	<p>本講義では、企業とは何か、組織が持続し成長するためには何が必要なのかを最初に学ぶ。そのうえで技術経営の基礎を学習し、イノベーションプロセスを体験することで、ビジネスパーソンとしての基本的な力を身につける。本講義を通して、新しい価値を創造し、課題を主体的に解決できる、ひいては産業の発展や、より良い社会の構築に貢献できる人材に成長することを旨とする。</p> <p>本講義は、①講義と演習、②ゲスト講師による講演、により構成する。講義・演習では、ビジネスの基礎、イノベーションのプロセスや組織マネジメントについて学び、演習（個人・ペア・グループワーク）を通して学習を深める。また、ゲスト講師には、企業経営、新事業創出や起業について、専門分野や自身の体験に即した講演をいただく予定である。</p>	
	ダイバーシティ入門	<p>学外ゲストによるリアルな話題提供と学生間の対話を通じて、ダイバーシティとインクルージョンを考える授業である。学外ゲストは、各界著名人や表彰を受けた企業など、学生にとって話を聞く機会が得にくい方々であり、個人やグループでの意見交換を中心に学び合いの場とする。</p> <p>この科目では、さまざまな面で異なる人々が、違和、衝突、対立を乗り越えてどのように共生し得るのかについて、理解を深める。そして、地域、業種、規模にかかわらず世界中の企業が発展の鍵として人材の「ダイバーシティ（多様性）」を重視し、多様性の中で力を発揮できる人材を求めるようになってきていることに注目し、履修者が将来そうした人材として活躍していくために欠かせない考え方や知識を身につける。</p> <p>本科目は、他のダイバーシティ関係の人文社会系教養科目と密に関連し合う入門科目である。関連科目の履修によってダイバーシティに関する学修を深めていくことができるようになる。</p>	
共通専門科目	社会の中の工学	<p>建学の精神をもとにした工学がどのように社会に貢献できるのかを学ぶ。今後の社会を構築するためのSDGsも含めながら工学部に設置された6課程9コースの学びと社会とのつながりをイメージしていけるような科目とする。また、副コースを取得する意味とその方法についても解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(24 荻谷 義治 1/14回)</p> <p>工学部長として本科目の意味とIGP、副コースを解説する。</p> <p>(8 角田 和巳 1/14回)</p> <p>機械工学課程 基幹機械コースについての概要を説明する。</p> <p>(114 廣瀬 敏也 1/14回)</p> <p>機械工学課程 先進機械コースについての概要を説明する。</p> <p>(29 野田 和彦 1/14回)</p> <p>物理化学課程 環境・物質工学コースについての概要を説明する。</p> <p>(37 田嶋 稔樹 1/14回)</p> <p>物質化学課程 化学・生命工学コースについての概要を説明する。</p> <p>(51 安村 禎明 1/14回)</p> <p>電気電子課程 電気・ロボット工学コースについての概要を説明する。</p> <p>(62 山口 正樹 1/14回)</p> <p>電気電子課程 先端電子工学コースについての概要を説明する。</p> <p>(66 神澤 雄智 1/14回)</p> <p>情報・通信工学課程 情報通信コースについての概要を説明する。</p> <p>(77 木村 昌臣 1/14回)</p> <p>情報・通信工学課程 情報工学コースについての概要を説明する。</p> <p>(102 伊代田 岳史 7/14回)</p> <p>先進工学課程と副コースの解説を行う。また、土木工学課程 都市・環境コースについての概要を説明する。後半4回は、大学生活および社会に出てからに必要な基礎的な知識（メンタルヘルス、安全教育、PROG解説、肖像権と著作権等）を解説する。</p>	オムニバスメディア
	工学研究探訪1	<p>工学部に設置されている約140研究室が作成した研究紹介ビデオを用いて研究探訪し、どのような研究を実施しているのか、工学がどのように社会に貢献できているのか、どのようにSDGsに貢献しているのかを学ぶ。なお、所属コースについては、別の研究紹介科目が存在しているため、それ以外の約125程度の研究室ビデオを視聴する。選択は10コンテンツとして、オンデマンドで視聴する。各回、視聴後にLMSによるクイズ形式のテストを実施して、すべての回を視聴したことを確認したことで単位認定とする。またこのビデオ視聴により副コース選択の一助とする。</p>	メディア
	工学研究探訪2	<p>工学部に設置されている約140研究室が作成した研究紹介ビデオを用いて研究探訪し、どのような研究を実施しているのか、工学がどのように社会に貢献できているのか、どのようにSDGsに貢献しているのかを学ぶ。なお、所属コースについては、別の研究紹介科目が存在しているため、それ以外の約125程度の研究室ビデオを視聴する。選択は工学研究探訪1を除く10コンテンツとして、オンデマンドで視聴する。各回、視聴後にLMSによるクイズ形式のテストを実施して、すべての回を視聴したことを確認したことで単位認定とする。またこのビデオ視聴により副コース選択の一助とする。</p>	メディア

授業科目の概要			
（工学部 機械工学課程）			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	学内研究留学1	<p>工学技術者には、現代社会が抱える様々な課題を自ら発見し解決するために、複数の工学専門分野を横断した学びが求められている。この科目は、自身の専門分野以外の分野における研究を学ぶことで、複合的な知識とともに、持続可能な社会の発展に寄与し、多様な価値観と高い倫理観を身につけることを目的とする。自身の専門分野の研究やこれまでの授業の学びを通じて、より深く横断的な教育の機会を得るために履修することができる。実践型教育として、実際に他課程または他コースの教員の研究室に所属し、研究室ゼミへの参加や講義・実習、実質的な作業や実験および教員や研究室学生との議論を通じて、学際的な思考能力を涵養する。</p> <p>なお、2つ目の研究留学をした場合には、学内研究留学2を認定する。</p>	集中
	学内研究留学2	<p>工学技術者には、現代社会が抱える様々な課題を自ら発見し解決するために、複数の工学専門分野を横断した学びが求められている。この科目は、自身の専門分野以外の分野における研究を学ぶことで、複合的な知識とともに、持続可能な社会の発展に寄与し、多様な価値観と高い倫理観を身につけることを目的とする。自身の専門分野の研究やこれまでの授業の学びを通じて、より深く横断的な教育の機会を得るために履修することができる。実践型教育として、実際に他課程または他コースの教員の研究室に所属し、研究室ゼミへの参加や講義・実習、実質的な作業や実験および教員や研究室学生との議論を通じて、学際的な思考能力を涵養する。</p> <p>なお、2つ目の研究留学をした場合には、学内研究留学2を認定する。</p>	集中
	グローバルPBL1	<p>グローバルPBLは国内外の協定校・企業・行政機関等と連携して実施する課題解決型プログラムである。参加学生は、協定校の学生とプロジェクトチームを組み、本学や協定校の教員や国内外の企業・行政機関等により設定されたテーマに沿って課題解決に取り組む。</p> <p>多様性に満ちた環境下、様々なバックグラウンドを持つチームメイトと、英語で議論しながら実践性の高い課題に取り組むことで、国際的な技術者に求められる様々な能力（情報や意見を他者に伝える能力、他者を理解する能力、リーダーシップを発揮しチームを導く能力、問題を解決する能力等）を身に付けることができる。</p> <p>グローバルPBL1は、グローバルPBLに初めて参加する学生を対象とする。</p>	集中
	グローバルPBL2	<p>グローバルPBLは国内外の協定校・企業・行政機関等と連携して実施する課題解決型プログラムである。参加学生は、協定校の学生とプロジェクトチームを組み、本学や協定校の教員や国内外の企業・行政機関等により設定されたテーマに沿って課題解決に取り組む。</p> <p>多様性に満ちた環境下、様々なバックグラウンドを持つチームメイトと、英語で議論しながら実践性の高い課題に取り組むことで、国際的な技術者に求められる様々な能力（情報や意見を他者に伝える能力、他者を理解する能力、リーダーシップを発揮しチームを導く能力、問題を解決する能力等）を身に付けることができる。</p> <p>グローバルPBL2では、グローバルPBL1での経験をふまえ、グローバルな環境におけるPBLにより積極的に参加することが期待される。</p>	集中
	国際インターンシップ 1	<p>本実習は、国際的な技術者として活躍するために求められる、情報や意見を他者に伝える能力や他者の発信した情報や意見を理解する能力を、海外の企業・大学における体験を通じて身に付けることを目的とする。</p> <p>受講生は、事前に実習計画を立て、担当教員のチェックを受けたのち、実習に参加する。実習期間中に実習日誌を作成し、本実習にて学んだことおよび体験したことについてのレポートを帰国後に作成し提出するものとする。また、レポートの内容の概略についてのプレゼンテーションを行う。</p> <p>国際インターンシップ1は、グローバルな環境におけるインターンシップに初めて参加する学生を対象とする。</p>	集中
	国際インターンシップ 2	<p>本実習は、国際的な技術者として活躍するために求められる、情報や意見を他者に伝える能力や他者の発信した情報や意見を理解する能力を、海外の企業・大学における体験を通じて身に付けることを目的とする。</p> <p>受講生は、事前に実習計画を立て、担当教員のチェックを受けたのち、実習に参加する。実習期間中に実習日誌を作成し、本実習にて学んだことおよび体験したことについてのレポートを帰国後に作成し提出するものとする。また、レポートの内容の概略についてのプレゼンテーションを行う。</p> <p>国際インターンシップ2は、国際インターンシップ1での経験をふまえ、グローバルな環境におけるインターンシップにより積極的に参加することが期待される。</p>	集中

授業科目の概要			
(工学部 機械工学課程)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	機械材料	各種機械を実際で作製するためには、必ず「材料」が必要である。本授業では、材料を適切に選択し活用するために、機械材料とくに金属材料の基本的な物理的・化学的性質、結晶学的性質、機械的性質及び機械構造用材料として使用した場合の特性など、機械材料学の基礎を講義する。特に、材料の構造・材料の強さと変形・平衡状態図・相変態と熱処理・鉄鋼材料を中心に講義を行う。技術者にとって、材料の特性を理解して適材適所に使いこなせる知識は重要である。材料開発に従事しなくとも、機械技術者にとっては必要な知識である。本授業は、技術者として必要な材料学的知識の修得を目的とする。	
	機械工学の基礎Ⅰ	機械工学は、主要4力学と設計科学で構成された体系をとる学問分野であり、機械工学を学ぶ者にとって、機械工学の全体的な枠組みを把握しておくことは重要である。そこで本授業では、大学入学までに学んだ知識と機械工学との関連を理解するため、4力学と設計科学の基本的な考え方を学ぶ。また、専門科目を理解し学習していく上で必要となるアカデミックスキルについても修得を目指す。 (オムニバス方式/全14回) (111 丹下 学 1/14回) 授業の概要、高校で扱う科学と機械工学の関係 (6 澤 武一 1/14回) アカデミックライティング・レポートの書き方 (8 角田 和巴 2/14回) 図書館を利用した情報の検索・選択・管理方法の基礎、数学と機械工学 (7 白井 克明 2/14回) 実社会における機械工学、流体力学の基礎 (5 坂上 賢一 1/14回) 材料力学の基礎 (11 矢作 裕司 1/14回) 熱力学の基礎 (4 佐伯 暢人 1/14回) 振動工学の基礎 (2 内村 裕 1/14回) 制御工学の基礎 (10 二井 信行 1/14回) 機械設計の基礎 (3 斎藤 寛泰 1/14回) データ処理法、グラフ作成法の基礎 (1 青木 孝史朗 1/14回) 安全教育 (9 橋村 真治 1/14回) さまざまな事故と技術者倫理	オムニバス
	材料力学Ⅰ	機械要素・構造物の設計では、壊れずに安全に使用できることを保証するための強度計算や、力を受けて部品が変形しても部品同士が干渉することなく動作することを保証するための計算が必要である。こうした強度や変形の計算は材料力学に基づいて行われることから、機械要素・構造物の設計に材料力学は不可欠である。本講義では、応力、ひずみ、フックの法則、材料の力学的性質、安全設計といった材料力学の基礎概念を説明する。また機械要素・構造物の設計に必要な引張・圧縮を受ける軸力部材やトラス構造の解析方法、曲げを受ける部材の解析方法を説明する。	
	機械運動学	動作する機械構造体を設計・製作するためには安全性、信頼性、経済性、作業効率に基づいた機構（メカニズム）を考える必要がある。本授業では、機構のもととなる機械要素（ねじ、軸、軸受、ばね、歯車、カム、リンクなど）の仕組みや機能、締結法、はめあい、表面粗さ、幾何公差、各種加工法など、機械構造体の設計・製作を行う上で必要な知識について学習する。また、材料、力学、設計原理、設計法について体系的に修学する。機械要素と運動を組み合わせることによって生み出される動作とその動作による自動化システムについても解説する。	
	機械設計製図Ⅰ	機械を設計するためには、機械工学の各分野における様々な知識を習得し、また様々な理論を理解していなければならない。しかしまた、実際の設計においては、それらの理論に基づいた計算によって全てを決定できる訳ではなく、多くの先人の経験から学ばなければならない。すなわち現実の機械から、その構造、機能、加工および組立法、メンテナンスなどを学んでいかなければならない。 この授業では、「機械設計」で用いられる機械製図の基礎について学ぶ。種々の機械要素や装置を対象として、自らそれらの図面作成や規格の選定を行って、製図法および選定法を修得するとともに、図面を読む力も養成する。また、材料力学・機械材料・要素設計等の関連知識を用いた強度計算も逐次行い、図面作成や規格選定において必要となる基本的なプロセスも身に付ける。	共同

授業科目の概要			
（工学部 機械工学課程）			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	材料力学2（基幹機械コース）	材料力学は、機械構造物において基本的に静的荷重が作用したときの外力と内力のつり合いから、材料内部に作用する応力を理解し、材料の変形や破損限界について理解する学問である。材料力学2では、材料力学1に引き続いて、基本的な変形形態として「丸棒のねじり」の変形解析を習得し、純粋ねじり下における応力について理解する。また、部材に引張・圧縮、ねじり、曲げが複合する問題に対して、重ね合わせ原理やカステリアーノの定理に基づいたひずみエネルギー法を用いた変形解析手法を習得する。さらに、部材の損料を把握するために、部材内に垂直応力とせん断応力が作用する2次元問題における応力変換、主応力、最大せん断応力の算出法と、その意味について習得する。	
	機械設計	機械設計とは、機械を創造するための一連の企てであり、構想からはじまり、基本設計、そして詳細設計と続く。機械を効率的にかつなるべく正しく設計するためには、基本設計と詳細設計それぞれに適した設計過程の可視化と、力学、公差や拘束などの基本概念、そして機械の最小単位ともいえる機械要素について学ぶことが重要である。本授業では、まず、機械設計の内容を記述する方法として、フリーハンドの製図、技術計算を可視化する方法を学ぶ。機械設計の基本として重要な概念である公差と最小拘束設計について説明と演習を行う。次に、ねじ、軸受などの基本的な機械要素、ボールねじなどの複合的な機械要素、そして複数の機械要素を含む機械（減速機・送りテーブル）の設計過程を追う。	
	応用解析学	機械工学を基盤とする産業構造は現実空間とサイバー空間を融合したDXが加速している。DXを実現・推進するためには技術分野における実用的なデータサイエンスの知識と能力が必須となる。本講義は機械工学分野に現れる諸現象を適切にモデル化し、数学の理論や概念、手法を応用してデータ解析を実施できる分析能力を修学する。講義では実際に収集されたデータ（課題）からブラックボックスになりやすいものを例題として、実際に計算しながら課題解決のノウハウを学習する。	
	流体力学1	本授業では機械系四力学のうちの流体力学の基礎を扱う。流体の概念および基本的性質、静力学、動力学について基本事項を学ぶ。さらに、流体力学で重要となる次元解析と相似則の基礎を学ぶ。機械工学課程における流体力学の共同開講の基礎科目として、流体力学の基本事項を修得することを目的とし、各コースでの専門科目の理解に繋げることを目指す。具体的には、連続体としての流体の概念、粘性流体の基本的性質、流れの種類、流体の静力学、流体の3つの保存則を含む動力学、次元解析と相似則に関して理解し、それを応用できるようになることを目的とする。	
	熱力学1	熱力学は、熱力学の第1法則、第2法則をベースに、エネルギー変換の方向性と変換効率の限界を理論的に知るための学問である。本授業では、はじめに、なぜ熱力学を学ぶのかについて説明し、その意義を理解する。次に、熱力学の諸法則、カルノーサイクル、状態量「エントロピー」の導入と可逆・不可逆過程について学ぶ。また、理想気体の性質、ミクロな視点でみた気体分子運動論とマクロな視点でみた熱力学的状態量との関係、熱機関の熱効率について学ぶ。さらに、エネルギーの有効利用の観点から重要な、エネルギーの質についての概念を理解する。	
	振動工学1	近年、機械工業の発達はめざましく、そのなかで機械の高速化、高性能化、軽量化が強く要求されている。そのため、機械・装置で発生する機械振動が重要な問題となってきており、それを防止する必要に迫られている。また、この機械振動は、しばしば機械・装置の破壊、故障の原因ともなるため、技術者にとって機械振動の知識は必要不可欠なものになってきている。 本講義では、はじめに機械振動を表す方程式および各種パラメータの定義など基礎事項について学ぶ。続いて1自由度系を中心にして、各種振動の運動方程式を導出し、その解法を解説する。さらに、それらの解を基に、各種振動の現象・基本的性質を理解する。同時に、各段階で演習問題を多く取り入れ、機械振動の理解を深める。	
	機械設計製図2	機械を設計するためには、機械工学の各分野における様々な知識を習得し、また様々な理論を理解していなければならない。しかし、実際の設計においては、それらの理論に基づいた計算によって全てを決定できる訳ではなく、多くの先人の経験から学ばなければならない。すなわち現実の機械から、その構造、機能、加工および組立法、メンテナンスなどを学んでいかななければならない。この授業では、まず、現存の機械をスケッチして、それを製図法にのっとり正しく製図することにより、機械設計製図1で学んだ製図法の復習、スケッチおよび機械製図の技能の向上をはかる。	共同



授業科目の概要			
（工学部 機械工学課程）			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	加工学	工業的な製品や各種部品はその素材の性質、すなわち可塑性、溶融性、導電性、被削性などに即した何らかの機能が与えられて所望の品質と形状に作られる。本授業では、もの造りのための道具や工具や各種加工機械を紹介する。また多種多様な加工法の系統的分類とその考え方、各種素材に対する加工法などについて学ぶ。もの造りのための道具や、方法としての種々の工具や加工機械について学ぶ。また、多種多様な加工法の系統的分類とその考え方、各種素材に対する加工法の合理的な作用や与え方など、より良い加工法について学ぶ事を目的とする。	
	流体力学2（基幹機械コース）	流体力学1の内容を基礎に、流体の流れに関する発展的内容を修得する。まずは流体運動の基本要素を理解し、渦と渦度、循環を学ぶ。次に、粘性流体の流れの基礎、層流と乱流の初歩、流れの発達（速度境界層）と摩擦、圧力損失について学ぶ。その後、管内流の粘性による壁面摩擦を学び、流体のエネルギーと損失について理解し応用する。さらに、流れの中に置かれた物体に作用する力について学ぶ。授業を通じて流体力学1で修得した基礎事項との繋がりを確認し、拡大・縮小流路や噴流など発展的内容も含め、3年次の粘性流体力学に向けて粘性流体の流れに関する前提知識を修得する。本授業では適宜、専門用語の英語表現も学ぶ。	
	Thermodynamics 2	熱力学1の内容、すなわち、熱力学の基本概念、熱力学第0法則、熱力学第1法則、熱力学第2法則などが学習されていることを前提に講義を行う。内容は、エネルギー有効利用とエクセルギー、熱力学の一般関係式、化学反応と燃焼、各種ガスサイクル、蒸気サイクル、冷凍サイクルと空調などである。熱力学1の内容を十分に理解していることが望ましい。さらに、3年前期に開講するエンジンシステムとの関連も非常に強いので、本授業を理解することは重要である。また、毎回授業の終わりに演習問題を行う。	
	エネルギー・環境論	化石エネルギーを主体とする在来型及び新エネルギー等の特性と課題を理解すると共に、我が国と世界のエネルギー・資源状況や今後の需給見通し、並びに資源利用に伴う地球規模での環境問題とその対策について学習する。加えて、人口動態や経済・社会変化に伴うエネルギー状況の変化を考察すると共に、持続的発展に向けて、技術立国としての我が国の技術開発と国際貢献についての理解を促す。 なお、本授業では、資源・エネルギーを取り巻く概況から、大規模発電技術システム、新エネルギーシステムになどついて、経済性、環境性、社会受容性・共有性などの側面から、マクロな取り組み（オールジャパンや世界的）とともに地域におけるエネルギー利活用、脱炭素社会の構築にむけた取り組みを、具体例を挙げながら論を展開する。	
	確率統計	統計学は、データに基づく実証研究を科学的に行うための学問体系である。取得したデータに基づき、対象を正しく推論し、統計に基づく判断によって科学的結論が導かれる。そのため「統計とは科学の文法である」とも言われる。すなわち統計学とは、データからいかに有用な情報を取り出せるかといった規準であり、尺度の科学である。 現代では、実験科学、理論科学、計算科学に続く第4の科学としてデータサイエンスという概念が形成され、その中核は統計学である。統計学を正しく利用していくためには、帰納的思考から演繹的思考へのつながりを理解することが重要であり、その理解はつねにデータとともにあると言っても過言ではない。そこで本授業では、大学基礎科目として扱うべき各種統計解析手法について順に解説し、その後のレポートにおいて現実問題での統計的思考の実践を求めることで、データに基づく課題解決が行えるようになることを目指している。	

授業科目の概要			
(工学部 機械工学課程)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	機械工学の基礎2	<p>機械工学の全体像および応用例を俯瞰し、それをもとにしたプレゼンテーションを実施することで、創造活動の一環を体験する。機械工学の基礎1で学んだ機械工学全体の枠組みを踏まえ、機械工学の各分野がどのように社会と関わっているのかについて学ぶ。具体的なテーマを毎週提示することにより、全講義を聴講した時点で各分野の拡がり把握できるような構成をとる。また、機械工学テーマに関する最終発表会を開催することにより、プレゼンテーション能力を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)                      (111 丹下 学 3/14回)                      講義概要、MEMSの基礎と実際、最終プレゼン指導、最終発表会                      (6 澤 武一 3/14回)                      先進製造プロセス研究の動向とDX、最終プレゼン指導、最終発表会                      (8 角田 和巳 3/14回)                      計算機による熱流体工学へのアプローチ、最終プレゼン指導、最終発表会                      (5 坂上 賢一 3/14回)                      構造のマルチマテリアル化と材料力学、最終プレゼン指導、最終発表会                      (11 矢作 裕司 3/14回)                      2030年のエネルギーフロー、最終プレゼン指導、最終発表会                      (4 佐伯 暢人 3/14回)                      リサイクルと選別技術、最終プレゼン指導、最終発表会                      (2 内村 裕 3/14回)                      ロボットを制御する、最終プレゼン指導、最終発表会                      (10 二井 信行 3/14回)                      機械工学者のための細胞培養入門、最終プレゼン指導、最終発表会                      (3 斎藤 寛泰 3/14回)                      燃焼計測による燃焼ダイナミクスの理解、最終プレゼン指導、最終発表会                      (1 青木 孝史朗 3/14回)                      塑性加工と金属組織と力学特性、最終プレゼン指導、最終発表会                      (9 橋村 真治 3/14回)                      マルチマテリアル化で注目される機械接合、最終プレゼン指導、最終発表会                      (7 白井 克明 3/14回)                      流体計測、最終プレゼン指導、最終発表会</p>	オムニバス
	工学英語 3	<p>本授業では、工学英語1および工学英語2を発展させた内容を扱う。工学系の専門分野で用いられる英語の語彙や表現を中心に学ぶ。学生が専攻する分野の内容が書かれた英文が無理なく理解できる力を養成し、英語による教科書、論文、発表が理解できるようにする。また、工学的な内容を論理的かつ明確に表現できる高度な英語力を目指し、自らも研究報告や論文発表が英語のできる力に繋げていく。授業は演習、個人またはグループによる課題を中心に行われる。</p>	
	振動工学2	<p>「振動工学1」で解説した事項を基礎として、1自由度、2自由度、連続体などのより広範囲の振動現象および特殊な振動現象を解説する。また、演習問題を多く取り入れ、理解を深める。さらに、振動を発生する機械や振動を利用した機械のメカニズムに関する知識を深めるため、本授業では多くの装置の実演を行う。受講者の積極的な参加を促すため、スマホやタブレットを用いて、GoogleFormsのアンケート機能により問題を解答する機会を多く設ける。</p>	
	粘性流体力学	<p>大気中を移動する航空機や車両、空気や水の流れを利用する水車や風車など、流体と相互作用しながら機能する機器は数多く存在するが、それらを安全かつ効率的に運転するためには、粘性を考慮した実在流体の力学を深く理解している必要がある。そこでこの授業では、ニュートン流体（以下、単に流体とよぶ）の運動法則を理解し、それを微分方程式で記述する方法について学ぶことを第一の目的とする。また、その微分方程式を用いて、代表的な粘性流体運動の説明および圧力損失などの評価ができるようになることを第二の目的とする。</p>	
	エンジンシステム	<p>熱機関（エンジン）は、輸送用機器あるいはコジェネレーションシステムの動力源として今後も利用されつづけると考えられる。しかしながら、エンジンの熱源は燃焼により得られているため、大気汚染物質の排出や化石燃料の枯渇化など様々な問題を抱えている。燃焼から得られる高密度のエネルギーと簡便性のために、燃焼に代わる熱源を直ちに導入することは困難であると考えられる。このような背景から、本授業では、エンジンの効率の向上を図るために必要な基本的知識を熱力学的な観点、燃焼工学的な観点から解説する。さらに、大気汚染物質の排出を抑制し、エネルギー損失を少なくするための方法についても議論する。後半では、近年、着目されている直噴ガソリンエンジン、ハイブリットエンジン、コンパインドサイクルなどの様々なエンジンシステムの形態を解説し、マクロな熱効率の観点からも検討を加える。</p>	

授業科目の概要			
(工学部 機械工学課程)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	伝熱工学	<p>伝熱工学と熱力学との関連から始まり、伝熱の主要形態である、伝導・対流・放射伝熱について、基礎方程式を理解する。次に、実際に起こりうる伝熱問題や熱設計を模擬した典型的な例題について、具体的な数値を代入して解くことにより、式の操作や量的感覚を習得する。相変化を用いた熱伝達や熱機器などについての実例も紹介する。</p> <p>熱の移動形態と熱移動速度を論ずる伝熱工学について、座学による基礎理論の理解と演習による熱設計技術の修得を目的とする。</p>	
	制御工学1	<p>制御工学は、現代社会を根幹で支えるインフラから、最新の自動車や最先端のロボットまで、様々な分野に応用されている。このような制御の対象となるシステムが、安定かつ所望の動作をするためには、どうしたら良いかを理論的に体系化したものが制御工学である。制御工学1では、システムからの出力結果を入力に反映することで、所望の動作を実現する「フィードバック制御」を中心に学ぶ。フィードバック制御系の設計においては、対象となるシステムの入出力関係を、周波数領域で表現した方が扱いやすく、そのための数学的な道具である「ラプラス変換」や「伝達関数」について習得する。また、時間領域におけるシステムの挙動と伝達関数の特異値である「極」や「零点」の関係についても学び、システムの安定性と極の相関について学習する。最後に、安定性と制御性能を向上する制御器の設計法の実践について学ぶ。</p>	
	Mechatronics	<p>メカトロニクスは、機械設計に制御という観点を付け加え、電気・電子・情動的な要素を加えてアップデートした、今や標準の機械設計学であるといえる。典型的には、機械にセンサやマイクロコントローラ等を携えることにより、古典的な機械要素と機構から成り立つ機械と比べて高い制御性と機能拡張性をもち、さらに知能的な振る舞いのできるシステムに仕上げるのが容易になる。本授業では、電気電子回路と組み込みプログラミングの技術の基礎を習得しつつ、メカトロニクスを構成する要素として、センサ・シグナルコンディショニング・パワードライブ・アクチュエータの基礎と実践について、近年発展の著しいオープンソースマイコンボードをベースとしたメカトロニクスキットによるハンズオンプロジェクトをまじえて学ぶ。</p>	
	低温工学	<p>本授業では、マイナス150℃以下の極低温の世界における冷媒の性質、断熱技術、冷却技術、冷凍機の原理や応用などについて講義する。 (オムニバス方式/全14回)</p> <p>(251 岡村 哲至 5/14回) 超電導の性質や極低温の発生に必要な専門基礎に関する授業のほかに、超電導現象の発見や冷却技術の発展の過程で、実験でのある失敗が重大な発見のきっかけとなった例、逆転の発想が実用化へ結びついた例、高校まで物理で習う理想状態でなく実在の状態（性質）をうまく利用した例なども紹介する。</p> <p>(255 田崎 賢司 1/14回) 単結晶引き上げ、超電導電力貯蔵、限流器などの産業応用超電導機器について紹介する。</p> <p>(253 栗山 透 9/14回) 伝熱や熱力学の基礎を、実際の極低温機器の設計に適用する試みとして、電卓を使った演習も行う。また、超電導現象や超電導機器の実用例などを紹介するビデオや、最新の技術動向や研究結果の紹介をできるだけ多く講義に盛り込む。</p>	オムニバス
	材料強度学	<p>機械構造物において、低コスト化や軽量化のため限界設計が求められている。これを実現するためには、材料の強度と破壊について正確に理解することが必要である。材料強度学では、応力やひずみ、応力拡大係数、エネルギー解放率などの材料強度の評価パラメータを用いて、金属材料の破壊メカニズムや破壊条件について理解し、安全な限界設計の考え方を学ぶ。具体的には、まず金属材料のひずみと応力を理解して、時間依存型破壊である「疲労強度」、「高温強度」、「環境強度」について理解する。</p>	
	安全と倫理	<p>基礎科学等を土台にしながら、「実用」あるいはその高度化を目指す「工学」において、「安全」は常に重要な課題のひとつである。その安全あるいはその対である危険やリスクというものの考え方、実現のしかたに、どのような変遷があったのか。また、現在、どのような問題が懸念されているのか等を学ぶ。</p> <p>講義後半では、その安全の実現の主体、機械やシステム等を作る「人」に注目する。人（個人・組織）の考え方や文化、行動が、どのように安全の実現（あるいは、事故・トラブル）に関係しているのかを学び、自らの技術者としての社会でのあり様について考える礎を学ぶ。</p>	

授業科目の概要			
（工学部 機械工学課程）			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	プログラミング言語	プログラミング言語の習得は本コースの学生にとって不可欠である。この授業を通じて、学生はプログラミング手法とC言語に関する知識、基礎的スキルを学ぶことができる。授業で扱う内容は、演算の型、データ型、条件分岐、繰り返し文、配列、関数、ファイル入出力、ポインタで、学生は演習課題や宿題に取り組むことにより、プログラミングの概念を学び、機械工学の問題を計算したり、解析するために必要な知識を得ることができる。	
	エネルギー変換工学	本授業では、エネルギー変換システムの評価や開発に必要な概念および知識を整理した後、エネルギー変換の諸原理を実用問題へ適用する手法について学ぶ。さらに、それらの知識を活用しながら、日本のエネルギー戦略について議論する。具体的なテーマとしては、流体機械（ポンプ、水車など）や熱流体機器（タービン、圧縮機など）の性能評価、直接発電技術（MHD発電、燃料電池）の原理と将来展開を取り上げる。また、SDGsに掲げられた国際目標を参考にして、2030年のエネルギービジョンを主題としたPBLを実施する。これらのテーマで扱う事例や問題を通じて、工学的課題に対応できる解析力・情報活用能力・論理的思考力の定着を目指す。	
	材料設計学	材料の複合化は材料開発の有力な方法の一つであり、多くの複合材料が開発されてきた。複合材料のヤング率や引張強さなどの力学特性は、素材の力学特性から計算することができる。すなわち、複合材料はその力学特性が設計できる材料であり、その設計は材料力学に基づいて行われる。本講義では、複合材料の材料設計に必要な弾塑性理論の基礎、弾塑性論に基づく強度予測について説明する。また、繊維強化複合材料を設計する際に必要な混合則、異方性材料の力学と破壊則、積層理論について説明する。	
	Combustion Engineering	燃焼は、熱や動力を生み出すための重要なエネルギー変換方法の一つである。熱・物質移動、流体、化学反応などの多くの現象が同時に関与する強い非線形現象であり、未解明な部分も多く残されている。本授業では、熱力学、伝熱工学、流体力学、化学反応などの知識をベースに、燃焼工学、燃焼科学の基礎的事項について学ぶ。燃料論、燃焼の熱力学、燃焼場で進行する化学反応、燃焼現象を記述する基礎方程式などについて説明する。また、燃焼研究のトピックについて紹介する。	
	制御工学2	制御工学2では、制御工学1で学んだ古典制御では扱いの難しい「多入力多出力系」を対象とする現代制御理論を学ぶ。古典制御は、システムを伝達関数を用いた表現に変換し、周波数領域において制御系を解析・設計するが、現代制御理論は、状態変数の概念に基づく時間領域における解析と設計の方法論を与える点が特徴である。 本講義では、はじめに現代制御理論のベースとなる状態変数表現を導入し、線形システムの動特性を状態方程式で記述する方法について説明する。また、システムが制御可能か否かを判定する可制御性、システムの状態を知ることが出来るかの指標である可観測性について解説する。さらに、安定性の解析法の説明の後、直接観測できない状態量を推定する状態観測器、評価関数を最小化する最適制御設計法を解説する。	
	計算力学	コンピュータの発達と数値計算技術の向上は、工学や自然科学の諸分野において数値予測（あるいは数値実験）と呼ばれる研究分野を生み出した。工学の広範な領域を対象とする機械工学も例外ではなく、数値計算に関する基本的素養を身に付けておくことは必須と言える。そこで本授業では、熱流体力学に関する具体的な問題を通して、最も基本的な数値計算手法である「差分法」を学習する。差分法を流れの問題に適用する場合には、安定性や収束性といった問題にまで気を配ることが必要で、この作業を怠ると流れ場を誤認する危険性がある。そのような数値計算特有の問題を理解してもらうため、本授業ではpythonによる計算実習を実施する。実際の計算例を通じてその重要性や有用性を認識するとともに、流体力学の基礎方程式が持つ物理的イメージを明確にする。	

授業科目の概要			
（工学部 機械工学課程）			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	航空宇宙工学	<p>本授業では、昨今の地球温暖化問題を鑑み、航空機のCO2排出の源泉となっているジェットエンジンを理解する。200トンほどの重量を持つ大型航空機を、わずか2台の小型エンジンにより高速で大空に飛ばせるほどの凄まじい推進パワーをジェットエンジンは有する。そのパワーを産み出すために、熱力学、流体力学、材料力学および機械力学における最高峰の技術がジェットエンジンに適用されている。本授業では、数式をできるだけ避けて物理現象を説明しながらジェットエンジンの原理を学習するとともに、ものづくりとしての最高峰の技術を知る機会を提供する。 （オムニバス方式/全14回）</p> <p>（257 南雲 貴志 7/14回） ジェットエンジンの歴史、分類から始まり、作動原理、具備すべき条件、必要な推力を生み出すサイクルや効率等の性能の議論、種々のエンジン試験の概要、主要構成要素の概要、将来の航空輸送に関するトピックスを紹介する。</p> <p>（252 加藤 大 7/14回） ジェットエンジンの主要構成要素、すなわちファン、圧縮機、燃焼器、タービン、インテークならびに排気ノズルなどの機能、要求事項、基本特性、最新の技術動向等について解説する。さらにエンジンの構造に対する要求強度と評価方法、金属・複合材材料の適用、などの構造強度に関する解説を行い、エンジンの制御・各種系統の概要にも触れる。</p>	オムニバス
	プログラミング演習	<p>この授業はC言語による数値計算、データ処理の講義であり、学生は数学的・工学的応用のためにプログラミングの基礎を学び、演習を行う。この授業の目的は、学生がエンジニアとして必要なプログラミングの知識と技能を身につけることにある。プログラミング言語で学んだC言語を使って、工学的問題を解決するための応用を修得することが目的であり、授業では方程式の根の計算、関数近似、差分法、様々なデータ処理、画像処理について学習する。また、これらの概念を用いて、学生は工学的問題を解析・考察し、説明するために必要な数学モデルを記述し、プログラミングを行う。</p>	
	機械分子工学	<p>本授業では、工学への応用に力点を置きながら、量子力学ならびに統計力学の両分野に関する物理学の基礎を講述する。 （オムニバス方式/全14回）</p> <p>（254 末包 哲也 7/14回） 量子力学は、ミクロスケールでの現象を取り扱う学問である。常に古典論との違いを明確にしなが、量子力学ならではの世界を理解できるようにつとめる。電子は、量子と呼ばれる粒子であり波である二重性を有し、シュレーディンガーの波動方程式により記述できることを学ぶ。</p> <p>（251 岡村 哲至 7/14回） 統計力学では、集団の性質、例えば、分子一つ一つは勝手にあちこちに向かって動いているが、分子がたくさん集まったときの全体としての物理的な特徴はどうなるのか。温度が変われば、時間とともにその特徴がどう変わるか、などについて学ぶ。</p>	オムニバス
	先進機械基礎1	<p>新入生のための先進機械コース導入科目である。コースの特色や理念の説明、各教員の担当講義の内容や各研究分野の紹介などをわかりやすく解説する。あわせて1年生向けのガイダンス的な内容やさまざまな事項に関する心構え等の一般的なアドバイスも盛り込む。 また大学での学習にとって必要なリテラシー関連のスキルについての解説や技術者として必要な情報倫理教育、エンジニアとしての自分の将来像を意識させこれから学ぶことへの動機付けも図る。 （オムニバス方式/全14回）</p> <p>（18 松尾 繁樹 2/14回） （14 小野 直樹 1/14回） （16 長澤 純人 2/14回） （116 吉田 慎哉 1/14回） （19 吉原 正一郎 1/14回） （17 細矢 直基 1/14回） （114 廣瀬 敏也 2/14回） （15 富田 裕介 1/14回） （13 石井 康之 1/14回） （113 中村 真吾 1/14回） （115 深野 真子 1/14回） 各人、研究分野の基礎の紹介および講義を行う。</p>	オムニバス

授業科目の概要			
(工学部 機械工学課程)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	機械工学概論 1	<p>機械製図は機械系共通の言語である。機械技術者には、図面を通して設計の意図を他者と正確に意思疎通する能力が求められる。この授業では、JISに準拠した機械製図法の基礎を習得し、図面から立体形状を理解する能力、基本的な形状を正確に製図する能力を身に付ける。加えて、ねじ・軸などの基本的な機械要素のメカニズム・機能と製図法を学ぶ。さらにこれらの機械要素の規格について学び、規格に基づいて適切に選択する能力を身に付ける。 (オムニバス方式/全14回)</p> <p>(19 吉原 正一郎 7/14回) 機械要素の基礎について解説する。</p> <p>(116 吉田 慎哉 7/14回) 製図法の基礎について解説する。</p>	オムニバス
	マテリアル・サイエンス	<p>機械工学の技術者にとって、材料の特性を理解して適材適所に使いこなせる知識は重要である。また、材料開発に従事しなくとも、材料工学の基礎は、機械技術者にとっては必要な知識であり、本講義を受講することで、技術者として必要な材料学的知識を修得することができる。</p> <p>特に金属材料の基本的な性質及び機械構造用材料として使用した場合の特性など、機械材料学の基礎を解説する。材料の構造、材料の強さと変形、平衡状態図、相変態と熱処理、鉄鋼材料などの基礎を理解できることを目標とする。</p>	
	機械工学概論 2	<p>自動車・航空機・鉄道、ロケットなどの機械システムは、様々な機械要素から構成されている。したがって、機械技術者として機械を設計するには、機械要素のメカニズムと機能を理解することが重要である。この授業では、機械工学概論1に引き続き、各種の機械要素のメカニズム・機能と製図法について学ぶ。加えて、機械要素の静的および動的な基礎計算を学ぶ。これらにより、各種の機械要素を適切に選択し、機械設計に活用する能力を習得する。 (オムニバス方式/全14回)</p> <p>(18 松尾 繁樹 7/14回) 機械要素の概略と基礎計算の解説</p> <p>(114 廣瀬 敏也 7/14回) 機械要素の機械製図法の解説</p>	オムニバス
	先進機械基礎2	<p>この講義では、先進機械コースが実施している研究内容を理解するために、それぞれの研究分野および研究内容の紹介を行う。3年生での研究室に所属するために研究室で学ぶことを理解し、研究室での研究活動に対する動機付けを図る。講義は、オムニバス形式で実施し、それぞれの教員が各自の研究分野、実施されている研究内容を解説する。 (オムニバス方式/全14回)</p> <p>(18 松尾 繁樹 1/14回) (14 小野 直樹 1/14回) (16 長澤 純人 2/14回) (116 吉田 慎哉 1/14回) (19 吉原 正一郎 1/14回) (17 細矢 直基 2/14回) (114 廣瀬 敏也 2/14回) (15 富田 裕介 1/14回) (13 石井 康之 1/14回) (113 中村 真吾 1/14回) (115 深野 真子 1/14回)</p> <p>各人、研究分野の基礎の紹介および講義を行う。</p>	オムニバス
	メカトロニクス	<p>最近のほとんどの機械システムはコンピュータ制御となり、機械自身の性能が向上している。コンピュータを中心とした電子工学・ソフトウェア工学の発展に伴い、機械システムの細やかな制御・運用が可能となった。このような技術はメカトロニクスとよばれている。今後もロボットに代表される機械システムはさらに用途に応じてその機能・性能が向上していく。本授業では、メカトロニクスとは何か、その基本となる論理回路、センサ、アクチュエータ、インタフェース回路、通信回路などの要素技術とシステム構築手法について具体的に学ぶ。</p>	

授業科目の概要			
（工学部 機械工学課程）			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	材料力学2（先進機械コース）	機械・構造物は、クレーンや橋梁などのように軸方向に垂直な荷重やモーメント、せん断力を受けることが多く、それらを安心・安全に使用するためには、材料の変形や破壊限界を理解する必要がある。本講義では、丸棒のねじり、部材に引張・圧縮、ねじり、曲げが複合する問題に対して、ひずみエネルギー法による変形解析手法を習得する。部材の損料を把握するために、部材内に垂直応力とせん断応力が作用する2次元問題、組み合わせ応力における応力変換、主応力、最大せん断応力の算出法と、その意味について習得する。さらに、はりの応用問題として組み合わせはりやはりの発展型である柱の座屈についても学習する。	
	電気工学	機械工学は製造・計測・輸送などの様々な分野で使用される機械をつくるための工学であるが、電気工学と一体になってはじめて社会に有用な技術になる。したがって、機械の技術者は、眼前の電気機器の動作原理を理解して使いこなす、また、電気技術者と討論できるだけの電気の知識が求められる。この講義では、電気工学の基本知識と代表的な電気機器について学ぶ。また、機械と電気要素の連結したシステムの解析法などについての演習を行い、実践的な理解を深める。	
	機械工学概論3	本講義では、機械製図法と機械要素の知識の応用として、複数の機械要素が組み合わさった、より複雑な機械システムを考える。実際の機械システムを設計する際には、機械要素を適用する部分と独自に構造設計する部分があり、どのように組み合わせて設計していくのかを学ぶ。本講義ではさらに材料力学・機械工学の知識を用いて、具体的な強度計算をしながら、実際の部品選定を実施する。学生は、複数の部品から構成される機械システムの設計・製図手法について理解する。 （オムニバス方式/全14回）  (17 細矢 直基 7/14回) 実際の機械システム設計手法の解説。  (116 吉田 慎哉 7/14回) 複数の部品から構成される機械システムの設計・製図手法の解説。	オムニバス
	機械力学	機械力学に関して講義を行う。力学は自然科学・産業技術のすべての分野の基礎である。機械力学は2つの分野に分けられ、1つは静力学、もう一つは動力学である。本講義では主に動力学を説明する。質点の力学、質点系の力学および剛体の力学、および物体の運動・衝突・摩擦などの動力学の一部について学習する。力学は、自然科学・産業技術のすべての分野の基礎であり、学生は力学分野のニュートンの法則、力やエネルギー、仕事の概念などについて理解することを目的とする。	
	流体力学2（先進機械コース）	「流体力学1」を基礎とし、それから発展して流体の運動とそこに働く力についての理論とその活用について学ぶ。重要な事項は基礎から再度説明し、応用面を主体に学ぶ。まず管内における層流と乱流の基礎的事柄を理解し、速度分布、摩擦損失等に関連した事項を学ぶ。管路系における諸損失の見積りについて理解し、管路全体における損失を学ぶ。また物体まわりの流れについて基礎的事項を理解し、流体中に置かれた物体に作用する抗力等を学ぶ。さらに運動量の法則を理解し、実用的な問題への応用を理解する。また流体関連計測法についても学ぶ。これらの管内流れ、乱流基礎、拡張したベルヌーイの式、運動量保存則についての理解を目的とし、実用的な問題が解けるように習得することを目的とする。	
	熱力学2	熱力学1で学んだ熱力学の諸法則をベースに、エネルギーの有効利用について考える。エネルギーには「質」の違いがあり、エクセルギーでその違いを評価することを学び、いくつかの系について具体的な計算を試みる。また、熱力学で用いられる様々な状態量間に成り立つ関係を数式で表現することで、測定困難な状態量が観測可能な状態量で求められることを学ぶ。さらに、各種熱機関のサイクル、燃焼や化学反応によるエネルギー変換について解説する。	
	エネルギー／環境概論	2015年12月パリ協定（COP21）が採択され、産業革命前からの気温上昇を2℃未満に抑え、更に1.5℃未満を目指すとした。本授業では今後脱炭素化社会に移行するための国内外の取組やエネルギーシステムについて学ぶ。そして2011年3月の東日本大震災等、我が国固有の課題対応を考慮したエネルギーシステムについて理解する。同内容を踏まえ小グループに分かれて事前に設定したテーマに対し検討しプレゼンを行う。その他、持続可能な開発目標（SDGs）に関して予め設定したテーマに関するレポートを各自が作成提出する。	

授業科目の概要			
（工学部 機械工学課程）			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	制御工学	制御工学は機械を動かすための基本であり、メカトロニクスやロボティクスには欠くことのできない分野である。そのためには対象をシステム的にとらえ、モデル化し、その特性を理解する必要がある。その上で、追従性が良く安定な制御系を設計していく。授業ではそのために必要なラプラス変換、伝達関数、システムの応答と安定性、フィードバック制御、PID制御系、周波数伝達関数などについて学習する。また、数学的なモデルを学習するためにラプラス変換を用いた伝達関数について理解できるようにする。	
	研究導入講義1 （知能機械）	ロボット工学は機械工学、電気工学、ソフトウェア工学を基礎とした複合領域である。このため、ロボット関連領域の研究を行うためには、これらの領域の幅広い知識が必要となる。本講義では各領域でのロボット工学に関連する内容について解説し、それぞれの領域の技術がどのように関連しているのかを学習する。実際のロボットの構成についても学び、最新のトピックであるロボット・ミドルウェアに関する基礎も理解する。個人課題とグループワークを通して理解を深め、ロボット設計手法の基礎を学ぶ。	
	研究導入講義 （生体工学）	機械の高性能化や多機能化をはかる設計において、機械システムとして人の操作や管理が要求される場合は、制御負担や快適性、さらに安全性に対する配慮が不可欠である。本講義は、人にとって好ましい機械のあり方について学習し、学生は人間の制御動作のモデル、ヒューマンマシンインタフェースの設計手法などについて理解できることを目指す。なお、具体的な実例（自動車や航空機など）および研究成果の紹介を適時取り入れて学習意欲を高めるとともに、実例をもとに学生がヒューマンマシンシステムに関する研究課題について理解できるようにする。	
	研究導入講義1 （計測工学）	現代の科学技術では、光学とそれに関連する技術が重要な役割を占めるようになって来ており、機械工学もその例外ではない。必ずしも光学を専門としなくても、各種の計測や加工のためのツールとして光を利用することも多い。例えば、光による距離・長さ計測は、ナノメートル以下の精密計測から宇宙規模の遠距離計測まで、広い範囲で使われる。この授業では、光学と、光学を応用する上で最も重要な光源であるレーザーについて講述する。	
	研究導入講義1 （サイエンス・メカニクス）	<p>研究を実施するためには高度な実験技術や解析手法を身に付ける必要があるため、本授業では、量子技術および統計力学に関する知識を身につける。 （オムニバス方式/全14回）</p> <p>(18 松尾 繁樹 7/14回) 高度な実験装置や観測装置が必要とされるため、これまで量子技術は理論的研究が先行していたが、近年の技術の進展により、超伝導素子、量子ドット、量子光学など複数の分野で量子技術が実現され、その実用化が急がれている。本講義の前半では、これら量子技術の概観を与えた後、量子技術で必要となる量子論について学び、その後、量子技術を支える仕組みや課題について具体的に見ていく。</p> <p>(15 富田 裕介 7/14回) 統計力学は巨視的な現象を微視的な観点から説明しようとして生まれた学問であるが、現象の記述および解析における有用性から、物理学の枠を超えた材料工学、情報工学、量子技術など多くの分野で必須の学問となっている。本講義の後半では、統計力学の導入から始め、取り扱いが簡単な問題の解析を行い、統計力学の考え方とその応用について学ぶ。</p>	オムニバス
	研究導入講義1 （ナノ・マイクロ）	<p>微小電気機械システム（MEMS）は我々の身近なところに幅広く普及しており、かつ浸透している。例えば、スマートフォンの指紋認証、回転・傾き検出、無線イヤホン、通信用弾性波フィルタなどが挙げられる。しかし、あまりにも小さくて表にも出てこないため、ブラックボックス化しやすい。</p> <p>本講義では、MEMSに用いられるセンサ・アクチュエータの技術や原理などに焦点を当て、これらに使われている基盤となる物理学や工学、デバイスの作製技術や最新の研究の潮流について学ぶ。</p>	



授業科目の概要			
(工学部 機械工学課程)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	研究導入演習1	<p>研究を実施するためには高度な実験技術や解析手法を身につける必要があるため、本授業では、振動解析および統計力学に関して実践的な演習を行う。 （オムニバス方式/全14回）</p> <p>(17 細矢 直基 7/14回) 機械構造物は、静力学および動力学的设计が必要となる。例えば、低振動・低騒音設計を実現することは、機械構造物の付加価値に大きな影響を及ぼす。本講義では、所望の振動特性および音響特性を有する機械構造物を設計するための手法を学ぶ。まず、はじめに振動解析に必要なデータ処理方法を学び、これを実現するため計算機によるプログラミングを習得する。</p> <p>(15 富田 裕介 7/14回) 本授業では、研究導入講義1（メカニカル・サイエンス）にて学ぶ統計力学について、講義で学んだことを演習を通じて身につけることを目的としている。演習を通じて統計力学の考え方とその応用について理解できるようにする。</p>	オムニバス
	研究導入演習2	<p>研究を実施するためには高度な実験技術や解析手法を身につける必要があるため、本授業では、数値解析およびシミュレーション実験に関して実践的な演習を行う。 （オムニバス方式/全14回）</p> <p>(113 中村 真吾 7/14回) コンピュータを利用した数値解析は、自然科学や工学の幅広い分野で応用されている。この授業では、実際にプログラミングを行いながら数値解析の基礎を学ぶ。特に汎用的に使われる数値解析アルゴリズムを学習する。さらに、物理現象の時間変化のプログラムを実際に作成し、現象を表す方程式がコンピュータ上でどのように扱われているのか理解する。</p> <p>(19 吉原 正一郎 7/14回) 科学技術の扱う現象の複雑化とそれを解析できるコンピュータの高性能化により、実験コストを抑えることのできるシミュレーション技術の重要性は高く、最先端の研究においてシミュレーション実験は欠かすことができない。本授業では、シミュレーションツールを用いた様々な物理現象のモデリングと解析を行うことで、先端研究に必要なシミュレーション実験による解析技術を修得する。</p>	オムニバス
	研究導入講義2 (知能機械)	<p>コンピュータ技術の発展に伴い、計測工学、制御工学、情報工学などの技術を活用した機械システムが使用されている。人工知能の技術を活用し、機械システムにこのような技術を取り入れて、将来はさらに発展するものと考えられる。本講義では、知能機械についてコンピュータを用いたモデリング、シミュレーションについて学び、モデル構築のためのデータ計測手法についても学ぶ。これにより研究室での研究活動に資する知識を身につけることを目的としている。 （オムニバス方式/全14回）</p> <p>(114 廣瀬 敏也 7/14回) 機械学習を用いた人間の制御動作のモデリング</p> <p>(113 中村 真吾 7/14回) 機械システムに関するモデリングとシミュレーション</p>	オムニバス
	研究導入講義2 (生体工学)	<p>機械工学と生物学の学際的領域を学ぶためには、生物学の幅広い基礎を学ぶ必要がある。本講義ではヒトの身体構造や機能の基礎、生物の感覚系・神経系を扱う神経行動学分野の基礎を解説し、機械工学との関連を学ぶ。 （オムニバス方式/全14回）</p> <p>(115 深野 真子 7/14回) 工学的アプローチによるヒトの身体構造や機能に関する研究が近年多く行われている一方で、介護や福祉分野での支援機器の利用も拡大している。工学分野の知識や技術を生体へ応用していくためには、ヒトの解剖や生理的機能の基本事項に関する理解が必要不可欠になる。本講義では、ヒトの身体構造や機能のうち、工学分野との関連が深い分野について説明する。</p> <p>(16 長澤 純人 7/14回) 神経行動学は、生体の感覚系から得られた信号が、神経系でどのように処理され、最終的な行動が発現するのかを扱う学問領域である。工学分野では神経工学として、神経モデルの構築とその応用分野が発展しており、その基礎を解説する。</p>	オムニバス

授業科目の概要			
（工学部 機械工学課程）			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	研究導入講義2 （計測工学）	<p>計測工学は全ての工学分野において、基盤となる技術体系である。研究の主題を主張するためには、その根拠を示すためのデータを取得し、適切な処理を行って、グラフや表などにまとめる必要がある。そのためには、目的とする物理量を正確に測定するための計測システムの構築が必要で、用いるセンサの原理や、取得データへの各種フィルタの適切な適用、誤差を含むデータの適切な計算処理などの理解が重要である。本講義は計測工学の基礎を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式/全14回）</p> <p>（15 富田 裕介 7/14回） 長さ、重さ、時間などの基礎物理量の測定原理、力、光、熱などのセンサ原理などを学ぶ。</p> <p>（18 松尾 繁樹 7/14回） 周波数領域でのデータの扱い、各種フィルタの理論、誤差を含んだデータの計算などを学ぶ。</p>	オムニバス
	研究導入講義2 （サイエンス・メカニクス）	<p>電磁気学と電気工学を基礎として、工学分野で用いられる電磁気測定について原理から実際の測定器の使用法までを学ぶ。直流電気伝導度測定、交流電流を用いたインピーダンス測定、磁気測定までをカバーする。導体のなかを電流が流れる原理からはじまり、各種センサの原理、デジタルマルチメータ、オシロスコープ、インピーダンスアナライザなどの基礎的な測定機器の動作原理と効果的な測定方法を学ぶ。また、MRI、NMRなどの磁気共鳴の原理についても学ぶ。</p>	
	研究導入講義2 （ナノ・マイクロ）	<p>マイクロサイズやナノサイズを意識した微小電気機械システム（MEMS）は近年発展が目覚ましく、半導体製造プロセスなどの微細加工技術の進展に伴い、それらの技術の他分野への応用なども含め、種々の分野が融合した分野となってきた。その範囲は機械力学、流体工学、伝熱工学、材料工学だけではなく、基礎的な物理学、化学、生物学にまで及んでいる。本講義では、そのような特徴を持つMEMSシステムを概観するとともに、基礎的な関連知識やいくつかの応用例について学ぶ。</p>	
	研究導入演習3	<p>本演習では微細加工技術である、Electro-Mechanical Systems（MEMS）の基盤技術のリソグラフィの体験や、さまざまな材料試験などを通じて実践的な演習を行う。</p> <p>（オムニバス方式/全14回）</p> <p>（16 長澤 純人 7/14回） 微小電気機械システム（MEMS）の基盤技術であるフォトリソグラフィは、光で微細構造を作成する技術で、微細構造を利用すると光・熱・音・力などの物理量を測定・制御できる。このため、MEMSは各種物理量と電子信号を複合した集積システムが構築できる。本演習ではフォトリソグラフィに関して、感光基板の設計・製作を通じて理解を深める。</p> <p>（19 吉原 正一郎 7/14回） 機械構造物には多種多様な材料が適材適所に使用されている。材料の持っているパフォーマンスを最大限、生かすためには、その材料の特性を把握する必要がある。本演習ではいくつかの材料試験からその機械的特性を把握することを目的に、実際の現象を理解し、実験と理論との相違はなぜ生じるのか、またその問題を理解して解決できるかどうか、などを検討することによって研究の進め方を学習する。また、材料試験では評価し得ない構造物に対する問題にどのようにアプローチするかなど、実際の研究に即した課題にどのように取り組めばよいか、ディスカッションすることで、研究への取り組み方を学習する。</p>	オムニバス
	研究導入演習4	<p>機械工学の従来からの研究開発対象である輸送機械まわりの流れや製造プロセスにおける加熱・冷却技術のみならず、近年はIT用機器に関する冷却など、流れと熱移動の問題は非常に多岐に渡る。しかし熱移動や流体運動の詳細を調べるにあたって、実験や測定が困難な場合が多い。そこではコンピュータによるシミュレーションが有効である。この学問分野はCFD（Computational Fluid Dynamics）呼ばれている。この授業では、伝熱や流動に関する数値計算手法の概要を学び、その後、CFDソフトの使用法を演習を通じて習得することを目的とする。</p> <p>（オムニバス方式/全14回）</p> <p>（13 石井 康之 7/14回） 数値解析法について</p> <p>（115 深野 真子 7/14回） 汎用のソフトウェアを活用した数値解析手法について</p>	オムニバス

授業科目の概要			
（工学部 機械工学課程）			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	卒業研究1	<p>卒業研究の目的は、機械工学の専門知識を活用しながら研究課題に取り組むことで、問題の発見から解決に到るプロセスを体験し、問題発見・解決力および研究成果をまとめあげる力を身につけることにある。このような問題解決力を獲得するためには、十分な時間をかけて実践的な研究活動を段階的に行うことが必要である。</p> <p>そこで卒業研究1では、高度な研究能力・課題解決力を取得するための第一段階として、指導教員のもとで機械工学に関する具体的な研究テーマへ取り組み、文献調査の方法や基礎的な実験・設計・解析方法、研究成果のまとめ方などを身につける。</p>	
	卒業研究2	<p>卒業研究2では、卒業研究1で修得した問題解決のための基礎的な知識やスキル（文献調査の方法、実験・設計・解析方法、研究成果のまとめ方などの基礎）をさらに深めるため、機械工学に関連した具体的なテーマについて引き続き調査研究活動を行う（卒業研究1のテーマを継続する場合もあれば、別のテーマに取り組む場合もある）。また、卒業研究1および卒業研究2での研究活動を通じて研究成果を総括するとともに、その成果を文書やプレゼンテーションで他者に伝えるためのコミュニケーション力も身につける。</p>	
	卒業研究3	<p>卒業研究1、卒業研究2で身に付けた基礎的な問題解決力を活用して、機械工学に関連する高度で複雑な研究テーマに取り組み、実践的な問題解決力と研究論文のまとめ方を身につける。問題解決のプロセスにおいては、様々な知識やスキルを創造的に活用することが求められるため、研究テーマに応じて必要な知識やスキルを自主的に修得し、常に進捗状況を確認しながら研究方針を検討することが必要である。そのため、指導教員のもとで研究指導を受けながら、定期的な報告会などを通じて計画的に研究活動を実施する。</p>	
	卒業研究4	<p>卒業研究4では、卒業研究3での活動を踏まえて、引き続き機械工学に関連した研究テーマに取り組む。これにより、実践的な問題解決力、研究論文の作成技術、研究活動を遂行し研究成果を正確に伝えるためのコミュニケーション能力の向上を図る。卒業研究4は、卒業研究1から培ってきた研究活動の総仕上げでもあり、問題設定力、構想力、問題解決力、計画遂行力、自己学修力、コミュニケーション力のすべてにおいて十分なレベルに到達することが求められる。それらの成果を卒業研究論文としてまとめることが卒業研究4の目標であり、口頭発表による最終審査とあわせて達成度を評価する。</p>	

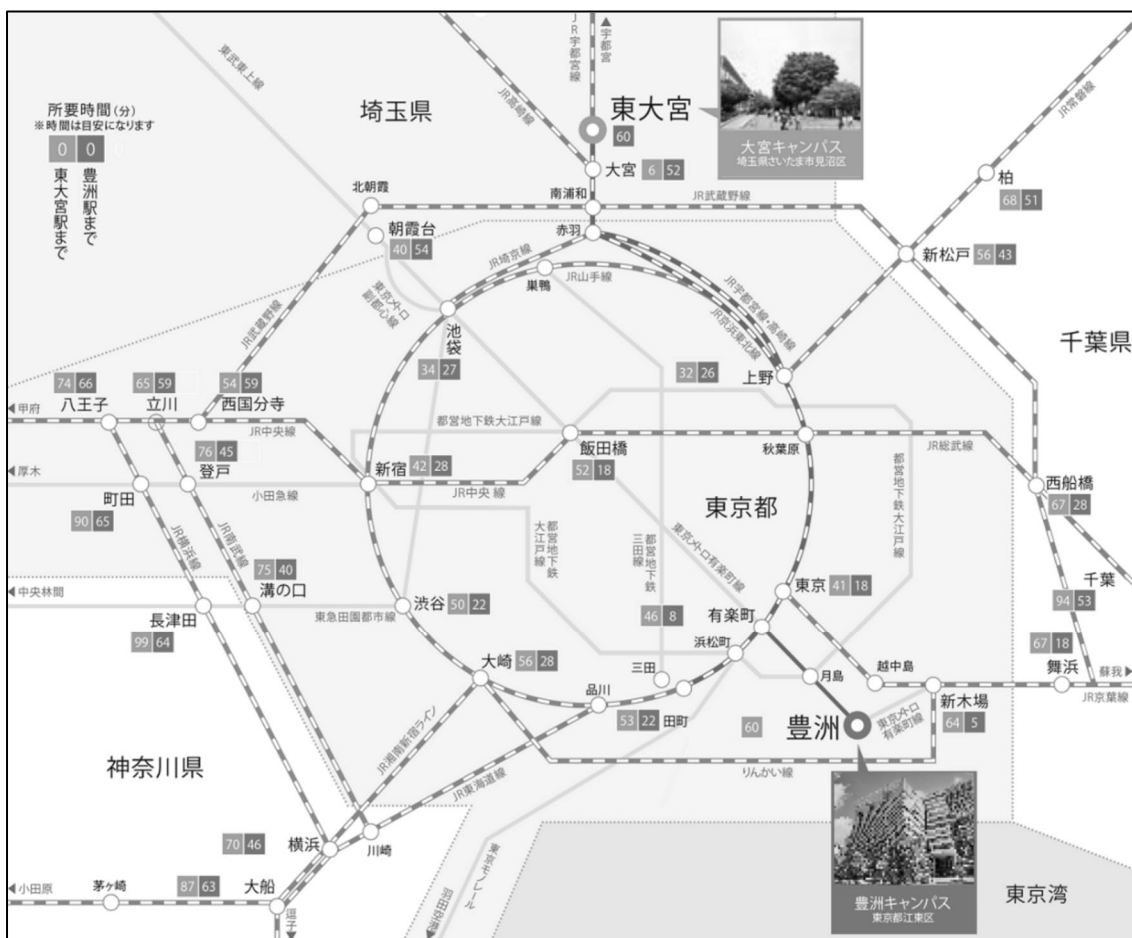
(参考) 学校法人芝浦工業大学 設置認可等に関わる組織の移行表

2023 (令和5) 年度 入学 編入学 収容 2024 (令和6) 年度 入学 編入学 収容 変更の事由  
定員 定員 定員 定員 定員 定員

2023 (令和5) 年度	入学	編入学	収容	2024 (令和6) 年度	入学	編入学	収容	変更の事由
	定員	定員	定員		定員	定員	定員	
<b>芝浦工業大学</b>				<b>芝浦工業大学</b>				
<b>工学部</b>				<b>工学部</b>				
機械工学科	114	—	456	機械工学科	0	—	0	令和6年4月学生募集停止
機械機能工学科	114	—	456	機械機能工学科	0	—	0	令和6年4月学生募集停止
材料工学科	104	—	416	材料工学科	0	—	0	令和6年4月学生募集停止
応用化学科	104	—	416	応用化学科	0	—	0	令和6年4月学生募集停止
電気工学科	104	—	416	電気工学科	0	—	0	令和6年4月学生募集停止
電子工学科	104	—	416	電子工学科	0	—	0	令和6年4月学生募集停止
情報通信工学科	104	—	416	情報通信工学科	0	—	0	令和6年4月学生募集停止
情報工学科	114	—	456	情報工学科	0	—	0	令和6年4月学生募集停止
土木工学科	104	—	416	土木工学科	0	—	0	令和6年4月学生募集停止
先進国際課程	9	—	36	先進国際課程	9	—	36	変更なし
				機械工学課程	228	—	912	課程の設置 (届出)
				物質化学課程	208	—	832	課程の設置 (届出)
				電気電子工学課程	208	—	832	課程の設置 (届出)
				情報・通信工学課程	218	—	872	課程の設置 (届出)
				土木工学課程	104	—	416	課程の設置 (届出)
<b>システム理工学部</b>				<b>システム理工学部</b>				
電子情報システム学科	115	—	460	電子情報システム学科	115	—	460	
機械制御システム学科	90	—	360	機械制御システム学科	90	—	360	
環境システム学科	90	—	360	環境システム学科	90	—	360	
生命科学科	115	—	460	生命科学科	115	—	460	
数理科学科	75	—	300	数理科学科	75	—	300	
<b>デザイン工学部</b>				<b>デザイン工学部</b>				
デザイン工学科	160	—	640	デザイン工学科	160	—	640	
<b>建築学部</b>				<b>建築学部</b>				
建築学科	240	—	960	建築学科	240	—	960	
計	1,860	—	7,440	計	1,860	—	7,440	
<b>芝浦工業大学大学院</b>				<b>芝浦工業大学大学院</b>				
<b>理工学研究科</b>				<b>理工学研究科</b>				
<b>【修士課程】</b>				<b>【修士課程】</b>				
電気電子情報工学専攻	110	—	220	電気電子情報工学専攻	110	—	220	
材料工学専攻	40	—	80	材料工学専攻	40	—	80	
応用化学専攻	30	—	60	応用化学専攻	30	—	60	
機械工学専攻	85	—	170	機械工学専攻	85	—	170	
システム理工学専攻	75	—	150	システム理工学専攻	75	—	150	
国際理工学専攻	10	—	20	国際理工学専攻	10	—	20	
建築学専攻	110	—	220	建築学専攻	110	—	220	
社会基盤学専攻	25	—	50	社会基盤学専攻	25	—	50	
<b>【博士課程】</b>				<b>【博士課程】</b>				
地域環境システム専攻	12	—	36	地域環境システム専攻	12	—	36	
機能制御システム専攻	15	—	45	機能制御システム専攻	15	—	45	
	512	—	1051		512	—	1051	

# 校地校舎等の図面

(1) 都道府県内における位置関係の図面



## 校地校舎等の図面

(2) 最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面



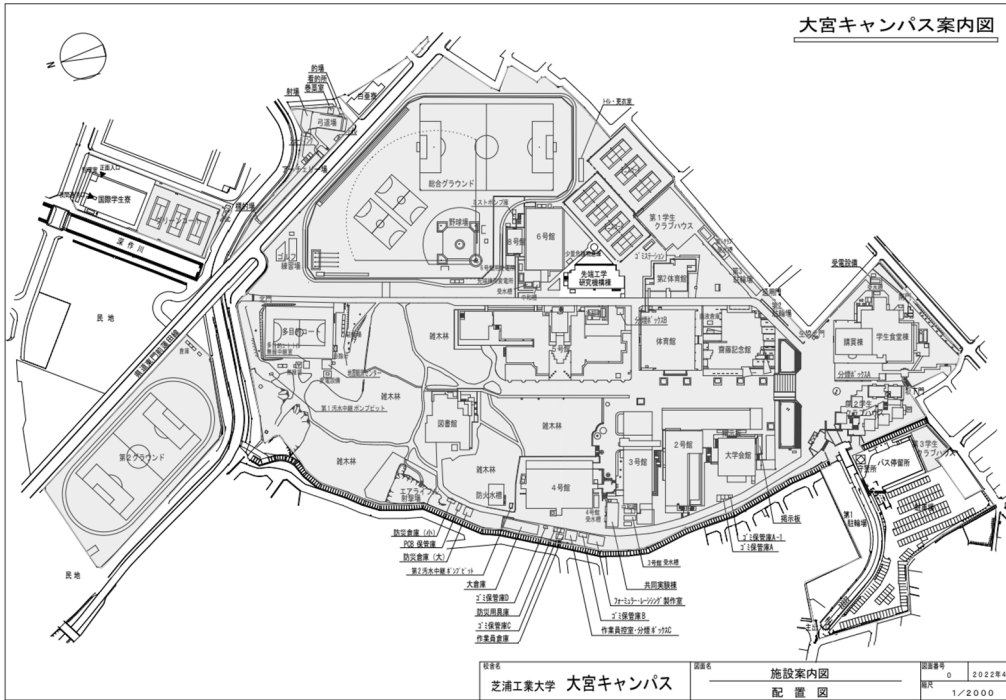
# 校地校舎等の図面

## (3) 校舎，運動場等の配置図

### ①大宮キャンパス

校地面積：150,606 m<sup>2</sup> (色付部分)

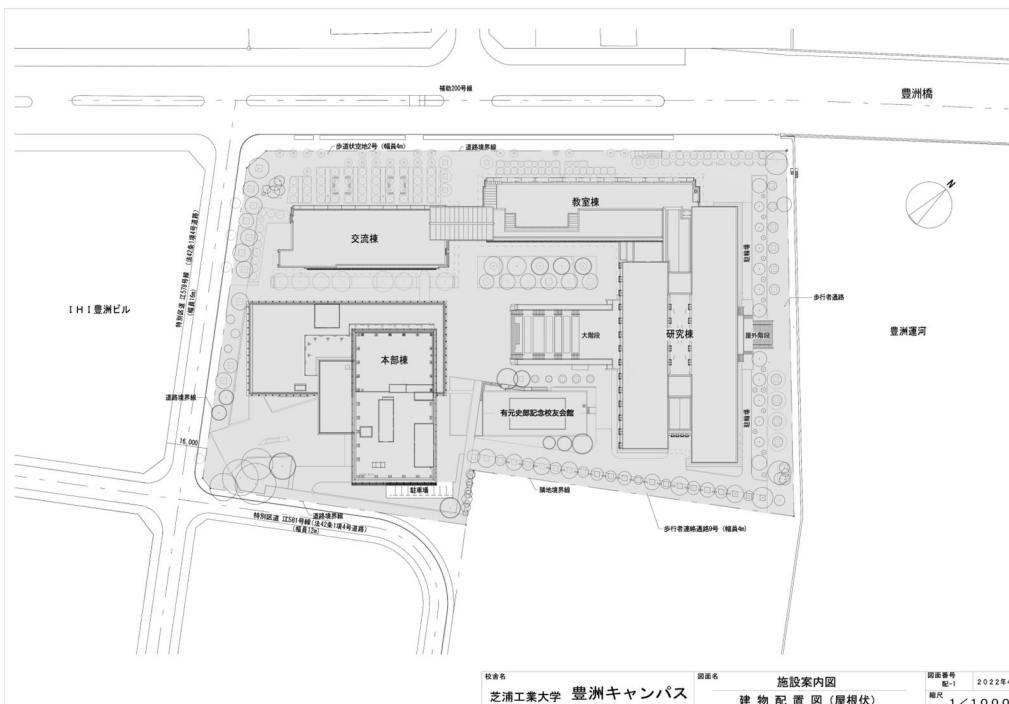
校舎面積：47,514 m<sup>2</sup>



### ②豊洲キャンパス

校地面積：29,870 m<sup>2</sup> (色付部分)

校舎面積：101,762 m<sup>2</sup>



# 学 則

令和 6 年度  
(2024 年度)

芝 浦 工 業 大 学



# 芝浦工業大学学則

## 第1章 総 則

### (目的)

第1条 本学は教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、学術の中心として深く工学の研究を行い世界文化に貢献し、併せて広く一般の学術教養と専門の工業教育を施すことにより、学生の人格を陶冶し、学理を究めさせ体位の向上を図り、もって優秀なる技術者を養成することを目的とする。

### (自己点検・評価等)

第1条の2 本学は、教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。点検及び評価に関する必要事項は別に定める。

### (認証評価)

第1条の3 本学は、第1条の2の措置に加え、学校教育法に則り、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受審し、その結果を公表するものとする。

### (設置等)

第2条 本学は芝浦工業大学と称する。

第3条 本学は東京都江東区豊洲3丁目7番5号に置く。

### (学部、学科、及び課程)

第4条 本学に次の学部・課程・学科を置く。

#### 【工学部】

機械工学課程  
物質化学課程  
電気電子工学課程  
情報・通信工学課程  
土木工学課程  
先進国際課程

#### 【システム理工学部】

電子情報システム学科  
機械制御システム学科  
環境システム学科  
生命科学科  
数理科学科

#### 【デザイン工学部】

デザイン工学科

#### 【建築学部】

## 建築学科

2 この学則に定めるもののほか、各学部に関する規則は別に定める。

### (大学院)

第5条 本学に大学院を置く。

2 大学院に関する学則は、別に定める。

### (学術情報センター)

第6条 本学に学術情報センターを置く。

2 学術情報センターに関する規程は別に定める。

### (研究所等)

第7条 本学に SIT 総合研究所を置く。

2 SIT 総合研究所に関する規程は別に定める。

### (教育イノベーション推進センター)

第8条 本学に教育イノベーション推進センターを置く。

2 教育イノベーション推進センターに関する規程は別に定める。

### (収容定員)

第9条 本学の収容定員は別表1のとおりとする。

### (学部等における教育研究上の目的)

第10条 学部、課程、学科における人材養成に関する目的、その他の教育研究上の目的は、別表2のとおりとする。

## 第2章 学 部

### 第1節 教育課程及び授業科目

#### (教育課程編成方針)

第11条 本学は学部教育研究上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

#### (副専攻プログラム)

第11条の2 第11条により編成する教育課程として、学部の教育課程のほか特定の分野に関する教育課程（以下「副専攻プログラム」という。）を開設することができる。

2 副専攻プログラムに関し必要な事項については、芝浦工業大学副専攻プログラム規程の定めるところによる。

#### (成績評価基準等の明示等)

第12条 本学は、学生に対して、授業方法、内容並びに授業計画をあらかじめ明示するものとする。

2 学修の成果に係る評価及び卒業の認定にあたっては、客観性及び厳格性を保持するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに当該基準に従って適切に行うものと

する。

#### (教育課程)

第 13 条 本学の教育課程は各授業科目を必修科目、選択科目、自由科目に分け、これを各年次に配当し編成する。

各学部の授業科目、単位数は別表 3、別表 4、別表 5、別表 6 のとおりとし、卒業要件は別表 7 のとおりとする。

#### (修業年限)

第 14 条 学部の修業年限は 4 年とする。ただし、8 年を越えて在籍することはできない。

#### (教育内容等改善のための組織的研修等)

第 15 条 本学は各学部の授業の内容及び方法の改善等を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

## 第 2 節 履修及び授業科目修了認定

#### (単位)

第 16 条 本学所定の授業科目に対する課程を修了し、正規の試験等に合格した学生には、その授業科目所定の単位を与える。

2 各授業科目の 1 単位は 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、次の基準によって単位数を計算する。

- (1) 講義及び演習については、15 時間から 30 時間までの授業をもって 1 単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技等については、30 時間から 45 時間の授業をもって 1 単位とする。
- (3) 前項の各規定に関わらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。
- (4) 学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が 1 年間または 1 学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を別に定める。
- (5) 所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、別に定めるところにより上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。

#### (各授業科目の授業期間)

第 16 条の 2 各授業科目の授業は、14 週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができると認められる場合は、この限りでない。

#### (授業の方法)

第 16 条の 3 授業は講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 本学学生は前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修することができる。

3 本学学生は本条第 1 項の授業を外国において履修することができる。また、前項の規定により多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修する場合

についても同様とする。

#### (学外単位等認定及び入学前の既修得単位等認定)

- 第 17 条 本学学生が本学在籍中に外国を含む他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位は、60 単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 2 本学学生が本学入学前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を認めることができる。
  - 3 前項により修得したものとみなし、又は認めることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、第 1 項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。
  - 4 本学に学士入学又は編入学を許可された者は、別に定めるところにより既修得単位の認定をうけることができる。
  - 5 本学に再入学した者は、別に定めるところにより既修得単位の認定をうけることができる。
  - 6 本条第 1 項から前項で認定された単位は、本学で開講されている授業科目に振替えることができる。

#### (教育職員の免許状)

- 第 18 条 教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を取得しなければならない。
- 2 本学の課程・学科において当該所要資格を取得できる教員免許状の種類・専門科目及び単位数は別表 3、別表 4、別表 5 に掲げるとおりとする。

#### (授業科目の修了認定)

第 19 条 授業科目履修修了の認定は試験等による。

#### (成績評価)

第 20 条 成績評価は S・A・B・C・D・F とし、C 以上を合格とする。

### 第 3 節 卒業及び学位の授与

#### (卒業認定)

- 第 21 条 第 14 条に定める修業年限以上在学し、別表 7 に定める所定の単位を取得した者につき、教授会の議を経て学長が認定する。
- 2 卒業の要件として修得すべき単位のうち、第 16 条の 3 第 2 項の授業の方法により修得する単位数は 60 単位を超えないものとする。

#### (学位)

第 22 条 本学を卒業した者には別表 9 に定める学位を授与する。

### 第 4 節 入学、退学、休学及び転学

#### (入学時期)

第 23 条 入学の時期は、4 月又は 10 月とする。

#### (入学資格)

第 24 条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一つに該当する者でなければならない。

- (1) 高等学校、若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校を修了したと文部科学大臣が認めた者を含む。）
- (3) 文部科学大臣が指定した者
- (4) 高等学校卒業程度認定試験規則により高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む）
- (5) 外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣が指定した者
- (6) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (7) 本学が、相当の年齢に達し高等学校、若しくは中等教育学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

#### (入学許可)

第 25 条 前条の者のうち本学が行う選考に合格した者につき、教授会の議を経て学長が入学を許可する。

#### (学士入学)

第 26 条 大学を卒業した者及びこれと同等以上の資格を有する者で、本学に入学すること（学士入学と称する。）を希望する者があるときは、別に定めるところにより教授会の議を経て入学を許可することができる。

#### (編入学)

第 27 条 本学の各学部編入学を志願する者があるときは、志願先課程、学科及び在学生の学修に支障のない限り、別に定めるところにより選考の上、当該学部教授会の議を経て、入学を許可することができる。

#### (外国人特別入学・帰国子女特別入学)

第 28 条 本学の各学部編入学を志願する外国人志願者及び帰国子女志願者があるときは、志願先課程、学科及び在学生の学修に支障のない限り、別に定めるところにより選考の上、当該学部教授会の議を経て、入学を許可することができる。

#### (出願書類等)

第 29 条 本学に入学を志願する者は、所定の入学願書、出身学校長の提出する調査書又はこれに代わるものと認められる証明書及び写真に入学検定料を添えて提出しなければならない。

#### (入学手続)

第 30 条 入学を許可された者は、本学所定の誓約書に保証人と連署の上、住民票その他所定の書類に学費を添えて指定日までに提出しなければならない。

#### (保証人)

第 31 条 保証人は父母又は独立生計を営む成年者で、確実に保証人としての責を果たし得る者でなければならない。保証人として不適当と認められたときは変更を命ずることがある。なお、その身分及び住所に変更があったときは速やかに届け出なければならない。

### (休学)

- 第 32 条 病気又はその他の理由によって出席できない者は、その理由（兵役の場合は、徴兵に関する証明書等）を記して保証人連署の休学願を提出し、学長の許可を経て休学することができる。ただし、入学初年度の 1 年前期は、休学することはできない。
- 2 休学の願い出に際しては、休学開始日の前日の属する期までの学費等を納入していなければならない。
  - 3 休学は 1 カ年以内とする。ただし、特別の理由のある者は休学延期の願い出により引き続き休学することができる。
  - 4 休学期間は、連続して 2 年を超えることはできない。また、通算して 4 年を超えることはできない。
  - 5 休学期間は在学年数に算入しないが、在籍年数には算入する。
  - 6 休学者は休学した学期の単位を取得することはできない。

### (休学期間中の学費)

- 第 33 条 休学期間中の学費は、許可された期の翌期から、休学する期に限り、授業料および維持料を免除し、休学在籍料を徴収する。ただし、兵役による休学の場合は、兵役期間に限り授業料および維持料に加え、休学在籍料を免除する。

### (復学)

- 第 34 条 休学者が復学しようとするときはその理由を記し、保証人連署の復学願を提出し、学長の許可を経て復学することができる。

### (退学)

- 第 35 条 退学しようとする者は、保証人連署の上、その理由を記して願い出て学長の許可を受けなければならない。
- 2 退学の願い出に際しては、退学の日の属する期までの学費等を納入していなければならない。

### (再入学)

- 第 36 条 正当な理由により退学した者、又は第 71 条第 1 項第 2 号若しくは第 4 号により除籍された者が再入学を願い出た時は、第 14 条ただし書に定める在籍年数（通算年数とする。）内に卒業見込みのある者に限り、選考の上、教授会の議を経て入学許可することができる。

### (転学)

- 第 37 条 本学の学生が他に転学を志望するときは、その理由を記して願い出て学長の許可を受けなければならない。

## 第 5 節 学 費 等

### (学費等)

- 第 38 条 学費は別表 8 に定めるところによる。
- 2 学費とは入学金、維持料、授業料をいう。
  - 3 入学検定料は、諸納入金に関する内規に定めるところによる。

### (学費の納付)

第 39 条 学費その他の納入金は指定の期日までに納入しなければならない。

### (転部・転課程・転科生等の学費)

第 40 条 転部、転課程・コース、転科、又は再入学の許可を受けた者は、新たに所属する学年の学費を納入するものとする。

### (学費の取扱)

第 41 条 既に納入した学費は、事情のいかんにかかわらず一切返還しない。

## 第 6 節 職員組織

### (職員)

第 42 条 本学に次の職員を置く。

学長、副学長、学部長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、その他必要な職員

## 第 7 節 学長、学部長、教授会及び学部長・研究科長会議

### (学長・副学長)

第 43 条 学長は校務をつかさどり、所属職員を統督するとともに本学を代表する。

2 学長は、校務における決定権を有し、最終的な責任を負う。

第 43 条の 2 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

### (学部長)

第 44 条 学部長は当該学部の校務をつかさどり、当該学部を代表する。

### (教授会)

第 45 条 各学部に教授会を置く。

2 教授会に関する事項は本学則によるほか、各学部教授会規則の定めるところによる。

第 46 条 学部長は教授会を招集する。

第 47 条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
- (2) 学位の授与に関する事項
- (3) 教育及び研究組織に関する事項
- (4) 課程、学科、学科目及び授業に関する事項
- (5) 教員の研究育成及び留学に関する事項
- (6) 教育研究予算の配分の方針に関する事項
- (7) 教員の任用に関する事項
- (8) 学生の指導育成に関する事項
- (9) 学生の賞罰に関する事項
- (10) 教員の資格審査に関する事項
- (11) 学則に関する事項
- (12) その他学長から意見を求められた事項

第 48 条 教授会は、前条各号に定める事項のほか、学長及び学部長その他の教授会等が置かれる組織の長（以下「学長等」という）がつかさどる次の事項について審議し、及び学長等の求めに応じて意見を述べることができる。

- (1) 教授会の運営に関する事項
- (2) 図書、設備及び施設に関する事項
- (3) 学生の試験、進級、転科、転課程・コース、転部に関する事項
- (4) 授業日数及び休業に関する事項
- (5) 学生団体及び学生活動、並びに学生生活に関する事項
- (6) 学部規則に関する事項
- (7) その他学長等から意見を求められた事項

2 第 1 項にいう審議とは、議論・検討することを意味し、決定権を含意するものではない。

第 49 条 学長が必要と認める時は、他の学部の教授会と共同して合同の委員会を設けることができる。

#### (学部長・研究科長会議)

第 50 条 本学に学部長・研究科長会議を置き、学長が求める教学に関する重要な事項を審議する。

2 学部長・研究科長会議について必要な事項は別に定める。

第 51 条 (削除)

### 第 8 節 科目等履修生、研究生、特別聴講生、外国人学生及び特別留学生

#### (科目等履修生)

第 52 条 本学学生以外の者が、本学所定の授業科目を一又は複数選択して履修する者を科目等履修生とする。

- 2 科目等履修生に出願できる者は、高校卒業又はこれと同等以上の学力を有する者とする。
- 3 科目等履修生は、本学学生の授業に支障のない限り教授会の議を経て、学長が入学を許可する。
- 4 科目等履修生の学費等は、別表 8 のとおりとする。
- 5 科目等履修生について必要な事項は、別に定める。

#### (研究生)

第 53 条 一定の研究課題について研究する者を研究生とする。

- 2 研究生の入学資格は、大学卒業又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。
- 3 選考は、研究内容の該当する課程・学科等が志願者の学力および希望と芝浦工業大学の受け入れ能力を検討し、教授会の議を経るものとする。
- 4 研究生は、本学学生の授業、研究に支障のない限り教授会の議を経て、学長が入学を許可する。
- 5 研究生の研究期間は 6 ヶ月以上 2 年以内とする。
- 6 研究生は、研究終了後、研究成果を指導教員を経て学長に報告しなければならない。
- 7 研究生はその研究成果についての研究証明書の交付を受けることができる。
- 8 研究生の学費等は、別表 8 のとおりとする。



#### (特別聴講生)

第 54 条 国内の他の大学と本大学との間で締結した協定に基づき、当該大学に在学する学生のうち、本大学における授業科目の履修を許可された者を特別聴講生とする。

2 特別聴講生について必要な事項は、別に定める。

#### (外国人学生)

第 55 条 日本国籍を有さず外国において通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者は又はこれに準ずる者で、本学での学位取得を目的として入学を志願する者を外国人学生とする。

第 55 条の 2 外国人学生は、特別に選考の上、教授会の議を経て学長が入学を許可する。

2 外国人学生について必要な事項は、別に定める。

#### (特別留学生)

第 56 条 日本国籍を有さず、外国において通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者は又はこれに準ずる者で、本学での学位取得を目的とせず、1 年以内の留学を希望する者を特別留学生とする。

第 56 条の 2 特別留学生とは次の各号の一つに該当するものでなければならない。

- (1) 本学との海外学術協定校に在籍する者
- (2) 学位授与権をもつ外国の大学に在籍する者
- (3) その他、学部長・研究科長会議で認めた者

2 特別留学生は、学部長・研究科長会議の議を経て、学長が入学を許可する。

3 特別留学生について必要な事項は、別に定める。

第 57 条 科目等履修生、研究生、特別聴講生、外国人学生及び特別留学生については、本章に規定するもののほか本学則の各章の規定を準用する。

### 第 9 節 公開講座

#### (公開講座)

第 58 条 本学は、技術者の再教育及び一般公衆の文化向上を期して講座を公開することがある。

第 59 条 (削除)

第 60 条 公開講座の聴講料は、必要に応じ適当と認める額を納入させることがある。

### 第 10 節 学年・学期及び休業日

#### (学年)

第 61 条 本学の学年は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

#### (学期)

第 62 条 学年を分けて、次の 2 学期とする。

- (1) 前期 4 月 1 日より 9 月 30 日まで
- (2) 後期 10 月 1 日より 3 月 31 日まで

2 各学期における授業開始日及び授業終了日等は、年度毎に定める学年暦による。

### (休業日)

第 63 条 本学の休業日は次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- (3) 創立記念日（11 月 4 日）
- (4) 春季休業
- (5) 夏季休業
- (6) 冬季休業

2 学長は教授会の議を経て休業日を変更し、又は臨時に休業日を定めることができる。

3 第 1 項の休業日のうち春季、夏季及び冬季の休業日期间は別に定める。

## 第 11 節 寮及び厚生保健

### (学生寮)

第 64 条 必要に応じ学生寮を置き、本学が管理する。学生寮に関する規則は別に定める。

### (厚生寮等)

第 65 条 本学に教職員学生のための寮、セミナーハウス等を置く。寮、セミナーハウス等に関する規則は別に定める。

### (学校医・健康診断)

第 66 条 本学は、学生の保健衛生に留意し体位向上を期するため、学校医を委嘱する。また、毎年度定期的に健康診断を行う。

## 第 12 節 賞 罰

### (授業料免除)

第 67 条 品行方正、学力優秀、精勤で学生の範と認められた者には特待生として賞状を授け、授業料を免除することがある。ただし、特待生としての資格に欠けた場合は、その待遇は解かれるものとする。

### (学長賞)

第 68 条 在学期間中、品行方正、学力優秀で学生の範と認められた者には卒業に際し、学長賞が授けられることがある。

### (懲戒)

第 69 条 学生にして本学則にそむき、又は学生の本分に反する行為があった場合は、教育目的のために懲戒する。懲戒処分はその事情によって譴責、停学及び退学とする。

### (退学)

第 70 条 次の各号の一つに該当する者は、教授会の議を経て学長が退学を命ずる。

- (1) 入学誓約書に違反した者
- (2) 性行不良で学生の品位を乱し、改善の見込みがないと認められた者
- (3) 学力劣等で成業の見込みがないと認められた者
- (4) 正当な理由がなく常に出席しない者

- (5) 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

### 第13節 除 籍

#### (除籍)

第71条 学長は、次の各号の一つに該当する者について除籍する。

- (1) 行方不明の届け出のあった者
- (2) 学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない者
- (3) 第14条ただし書きに定める在籍年数を超えた者
- (4) 休学期間満了となっても復学等の手続きをしない者

### 第3章 雑 則

#### (雑則)

第72条 この学則の改廃は、教授会で審議し、学部長・研究科長会議の議を経て学長が行う。

## 附 則

- 昭和 24 年 3 月 25 日 (機械工学科・土木工学科設置)
- 昭和 25 年 3 月 1 日 (電気工学科増設)
- 昭和 27 年 3 月 1 日 (教職課程設置)
- 昭和 29 年 2 月 15 日 (建築学科・工業化学科増設)
- 昭和 29 年 4 月 1 日 (教育職員免許状授与認定)
- 昭和 29 年 4 月 1 日 (同上。聴講生制度認定)
- 昭和 30 年 1 月 20 日 (機械工学科・電気工学科定員増)
- 昭和 31 年 3 月 1 日 (二部機械工学科・電気工学科増設)
- 昭和 34 年 3 月 1 日 (金属工学科・電子工学科増設)
- 昭和 40 年 12 月 27 日 (機械工学第二学科・通信工学科・建築工学科・工業経営学科増設)  
(機械工学科・電気工学科定員変更)
- 昭和 43 年 6 月 21 日 (教授会構成員・卒業単位数変更)
- 昭和 44 年 5 月 16 日 (教授会構成員変更)
- 昭和 47 年 11 月 17 日 (講座制・教授会その他変更)
- 昭和 49 年 4 月 1 日 (全学科定員変更及び教育職員免許状取得に関する授業科目変更)  
本改正学則は昭和 49 年 4 月 1 日より実施する。ただし、入学検定料は昭和 49 年 1 月 21 日より実施し、学費は昭和 49 年度入学生に適用する。
- 昭和 50 年 4 月 1 日 (大学院及び研究生の制度並びに抹籍処理の付加、別表 1 の授業科目、単位数の一部変更、一部学費の改訂及び休学中の授業料免除額の規定)  
本改正学則は、昭和 50 年 4 月 1 日より実施する。ただし、学費及び休学中の授業料の免除額については、昭和 50 年度以降の入学生に適用する。
- 昭和 51 年 4 月 1 日 (教育職員免許状授与に関する記載事項の修正並びに入学検定料の変更)  
本改正学則は、昭和 51 年 4 月 1 日より実施する。ただし、入学検定料は昭和 51 年 1 月 10 日より実施する。
- 昭和 52 年 4 月 1 日 (授業科目・単位数の一部変更並びに入学検定料の変更)  
本改正学則は、昭和 52 年 4 月 1 日より実施する。ただし、入学検定料は昭和 52 年 1 月 10 日より実施する。
- 昭和 53 年 4 月 1 日 (授業科目・単位数の一部の変更並びに学費の変更)  
本改正学則は、昭和 53 年 4 月 1 日より実施する。ただし、学費は昭和 53 年度以降の入学生に適用する。
- 昭和 54 年 4 月 1 日 (編入学・休学・復学等の条文並びに授業科目・単位数の一部変更)
- 昭和 55 年 4 月 1 日 (授業科目・単位数の一部変更並びに入学検定料の変更)  
本改正学則は、昭和 55 年 4 月 1 日より実施する。ただし、入学検定料は昭和 55 年 1 月 10 日より実施する。
- 昭和 56 年 4 月 1 日 (授業科目・単位数の一部変更並びに学費の変更)  
本改正学則は、昭和 56 年 4 月 1 日より実施する。ただし、学費は昭和 56 年度以降の入学生に適用する。

- 昭和 57 年 4 月 1 日 (授業科目・単位数の一部変更、学費納入に関する条文の修正並びに入学検定料の変更)  
本改正学則は昭和 57 年 4 月 1 日より実施する。ただし、入学検定料は昭和 57 年 1 月 10 日より実施する。
- 昭和 58 年 4 月 1 日 (授業科目・単位数の一部変更、教育職員免許状の資格取得に関する記載事項の修正)
- 昭和 59 年 4 月 1 日 (授業科目・単位数の一部変更並びに入学検定料、学費の変更)  
本改正学則は、昭和 59 年 4 月 1 日より実施する。ただし、入学検定料は昭和 59 年 1 月 10 日より実施し、学費は昭和 59 年度入学生に適用する。
- 昭和 60 年 4 月 1 日 (授業科目・単位数の一部変更並びに学費の変更)  
本改正学則は、昭和 60 年 4 月 1 日より実施する。ただし、学費は昭和 60 年度以降の入学生に適用する。
- 昭和 60 年 12 月 25 日 (全学科定員変更)  
本改正学則は、昭和 61 年 4 月 1 日より実施する。
- 昭和 61 年 4 月 1 日 (定員の変更、授業科目・単位数の一部変更、一部廃寮に伴う条文修正及び入学検定料の変更)  
本改正学則は、昭和 61 年 4 月 1 日より実施する。ただし、入学検定料は、昭和 61 年 1 月 10 日より実施する。
- 昭和 62 年 4 月 1 日 (授業科目・単位数の一部変更)  
本改正学則は、昭和 62 年 4 月 1 日より実施する。
- 昭和 63 年 4 月 1 日 (授業科目・単位数の一部変更。)  
本改正学則は、昭和 63 年 4 月 1 日より実施する。
- 平成元年 4 月 1 日 (他大学等における既修得単位の認定に関する条項の追加、入学手続き時の提出書類に関する条文修正、抹籍及び再入学に関する条文の修正、授業科目の一部変更、学費・入学検定料等の変更)  
本改正学則は、平成元年 4 月 1 日より実施する。  
ただし、入学検定料は、平成元年 1 月 10 日より実施する。
- 平成 2 年 4 月 1 日 (条文(第 9 条第 2 項、第 21 条)、授業科目・単位数の一部、教職課程に関する授業科目等及び学費の変更)  
本改正学則は、平成 2 年 4 月 1 日より実施する。  
ただし、学費は平成 2 年度入学生に適用する。
- 平成 3 年 4 月 1 日 (新学部設置による変更)  
学則条文の整理、別表(入学定員、授業科目等、卒業要件、学費等)の変更。  
この学則(改正)は、平成 3 年 4 月 1 日から施行する。ただし、学費および入学検定料は平成 3 年度入学生より適用する。

平成 3 年 10 月 1 日 (学費の一部変更)  
本改正学則は平成 3 年 10 月 1 日より実施する。

平成 4 年 4 月 1 日 (大学設置基準の改正に伴う学則条文の一部改正、別表の収容定員、授業科目・単位数、卒業要件及び学費等の一部変更)  
この学則(改正)は、平成 4 年 4 月 1 日から実施する。  
ただし、第 9 条、第 18 条、第 34 条に係る事項は次の通りとする。

1. 第 9 条の別表 1 は、この規程にかかわらず、平成 4 年度から平成 11 年度までの入学定員を次表の通りとする。

期間付入学定員

工学部	学 科 名	入学定員
一 部	機 械 工 学 科	90名
	機械工学第二学科	90名
	材 料 工 学 科	90名
	工 業 化 学 科	90名
	電 気 工 学 科	90名
	通 信 工 学 科	90名
	電 子 工 学 科	90名
	土 木 工 学 科	90名
	建 築 学 科	90名
	建 築 工 学 科	90名
	工 業 経 営 学 科	90名
	合 計	990名

2. 第 18 条は、平成 4 年 3 月 18 日より実施する。  
3. 第 34 条の別表第 5 は、平成 4 年度入学生より適用する。

平成 5 年 4 月 1 日 (別表の授業科目・単位数、卒業要件、学費等の一部変更)  
この学則(改正)は、平成 5 年 4 月 1 日から実施する。  
ただし、第 34 条の別表第 5 は、平成 5 年度入学生より適用する。

平成 6 年 4 月 1 日 (学則条文第 13 条、第 24 条、第 46 条、第 48 条、第 49 条、第 50 条、第 51 条、第 52 条、第 53 条の一部改正、別表の授業科目・単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)  
この学則(改正)は、平成 6 年 4 月 1 日から実施する。

平成 7 年 4 月 1 日 (二部新学科設置に係る学則条文第 4 条、収容定員の減少(修学年数の変更)に係る学則条文第 11 条、第 28 条の一部改正。別表の収容定員、授業科目・単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)  
この学則(改正)は、平成 7 年 4 月 1 日入学生より適用する。  
ただし、第 9 条の別表 1 は、この規程にかかわらず、平成 7 年度から平成 10 年度までの工学部二部機械工学科・電気工学科の収容定員は、次の通

りとする。

学部	年度	機械工学科	電気工学科
工学部二部	平成7年度	400名	400名
	平成8年度	400名	400名
	平成9年度	400名	400名
	平成10年度	400名	400名

平成8年4月1日 (学科名称変更に係る学則条文第4条の一部変更。学則条文第13条の一部改正。別表の収容定員。工学部授業科目(教職課程を含む)単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

(経過措置)

工学部一部金属工学科は、平成8年3月31日に当該学科に在学するものが当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成8年4月1日から実施する。

平成9年4月1日 (学則条文第7条の一部改正、第8条の削除、別表の授業科目、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

この学則(改正)は、平成9年4月1日から実施する。

ただし、第34条の別表5は平成9年度入学生より適用する。

平成10年4月1日 (学則条文第6条並びに第46条の一部改正、別表の授業科目、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

この学則(改正)は、平成10年4月1日から実施する。

ただし、第34条の別表5は平成10年度入学生より適用する。

また、第6条の学術情報センターについては平成10年2月1日より適用する。

平成11年4月1日 (別表の授業科目・単位数、卒業要件、学費等の一部変更)

この学則(改正)は、平成11年4月1日から実施する。

ただし、第34条の別表5は平成11年度入学生より適用する。

平成12年4月1日 (システム工学部電子情報システム学科の定員の変更、工学部一部の臨時定員の延長および恒常化入学定員の変更、授業科目・単位数、卒業要件及び学費等の一部変更)

この学則は、平成12年4月1日から実施する。

ただし、第9条、第34条に係わる事項は次の通りとする。

1.第9条の別表1は、この規程にかかわらず、平成12年度から平成15年度までの入学定員を次表の通りとする。

期間付入学定員

工学部一部	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度

機 械 工 学 科	89名	88名	87名	86名
機械工学第二学科	89名	88名	87名	86名
材 料 工 学 科	89名	88名	87名	86名
工 業 化 学 科	89名	88名	87名	86名
電 気 工 学 科	89名	88名	87名	86名
通 信 工 学 科	89名	88名	87名	86名
電 子 工 学 科	89名	88名	87名	86名
土 木 工 学 科	89名	88名	87名	86名
建 築 学 科	89名	88名	87名	86名
建 築 工 学 科	89名	88名	87名	86名
工 業 経 営 学 科	89名	88名	87名	86名

2. 第34条の別表5は、平成12年度入学生から適用する。

平成13年4月1日 (学科名称変更に係る学則条文第4条の一部変更。別表の收容定員。授業科目(教職課程を含む)、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

(経過措置)

工学部一部工業化学科及び工業経営学科は、平成13年3月31日に当該学科に在学するものが当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成13年4月1日から実施する。

ただし、第34条の別表5は平成13年度入学生より適用する。

平成14年4月1日 (学則条文第32条、第38条、第46条、第67条の一部改正。別表の授業科目(教職課程を含む)、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更。)

この学則(改正)は、平成14年4月1日から実施する。

ただし、第34条の別表5は平成14年度入学生より適用する。

平成15年4月1日 (工学部の收容定員の増加に係る学則条文第4条の一部変更。別表の收容定員。工学部の名称及び入学定員の変更、工学部二部2学科の廃止、授業科目・単位数、学部・学科別卒業要件、教育職員免許状の種類・教科の一部変更。学則条文第10条、第24条の一部改正、別表の納入金等の一部変更。)

(経過措置)

工学部一部及び工学部二部機械工学科・電気工学科は、平成15年3月31日に当該学部・学科に在学するものが当該学部・学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成16年4月1日から実施する。

ただし、第34条の別表5は平成15年度入学生より適用する。

平成16年4月1日 (工学部の收容定員の増加に係る学則条文第4条の一部変更。別表1の收容定員、入学定員の変更。工学部二部1学科の廃止に係わる学則第29条、第34条、別表2の授業科目・別表4の単位数等の一部変更。学費に係わる別表5の一部変更。)

(経過措置)



工学部二部電気設備学科は、平成 16 年 3 月 31 日に当該学部・学科に在学するものが当該学部・学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則（改正）は、平成 16 年 4 月 1 日から実施する。ただし、第 34 条の別表 5 は平成 16 年度入学生より適用する。

平成 17 年 4 月 1 日 （学則条文第 8 条の追加、第 29 条の一部改正。別表 5 の納入金等の一部改正。）

この学則（改正）は、平成 17 年 4 月 1 日から実施する。ただし、第 29 条の休学期間中の学費の取扱は、平成 17 年度の在籍者から適用する。

平成 18 年 4 月 1 日 （学則条文第 3 条の変更、第 10 条、第 46 条の一部改正。別表 2 の工学部授業科目、別表 3 のシステム工学部授業科目、別表 4 の学部・学科別卒業要件、別表 5 の納入金等の一部改正。）

この学則（改正）は、平成 18 年 4 月 1 日から実施する。

平成 19 年 4 月 1 日 （学則条文第 38 条並びに第 43 条の一部改正。別表 2 の工学部授業科目、別表 3 のシステム工学部授業科目、別表 4 の学部・学科別卒業要件、別表 5 の納入金等の一部改正。）

この学則（改正）は、平成 19 年 4 月 1 日から実施する。

平成 20 年 4 月 1 日 （学則条文第 1 条、第 4 条、第 18 条、第 34 条、第 36 条、の一部改正。別表 1 収容定員、別表 2 の工学部授業科目、別表 3 システム工学部授業科目、別表 4 の学部学科別・卒業要件の変更、別表 5 の納入金の一部改正、別表 6 学位の種類追加。）

この学則（改正）は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

平成 21 年 4 月 1 日 （学則条文第 29 条、第 46 条、別表 6 の一部改正。デザイン工学部設置、システム工学部数理科学科設置、工学部機械工学第二学科名称変更、システム工学部名称変更、収容定員の変更に係る学則第 4 条、第 10 条、第 17 条、第 18 条、第 34 条、第 51 条の一部改正。別表 1 収容定員、別表 2 の工学部授業科目、別表 3 システムの工学部授業科目、別表 4 のデザイン工学部授業科目、別表 5 学部学科別・卒業要件の変更、別表 7 学位の種類の一部追加ならびに改正。）

工学部機械工学第二学科は、平成 21 年 3 月 31 日に当該学科に在学するものが当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

システム工学部は、平成 21 年 3 月 31 日に在学するものが、当該学部に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則（改正）は、平成 21 年 4 月 1 日から実施する。

ただし、別表 6 納入金の取り扱いは、平成 21 年度の在籍者から適用する。

平成 22 年 4 月 1 日 （条項に項目（見出し）を追加。認証評価に係る学則第 1 条の 3 の追加。SIT 総合研究所に係る学則第 7 条の 2 の追加。学部等における教育研究上の目に係る学則第 10 条の追加。教育課程編成方針に係る学則第 11 条の追加。成績評価基準等の明示等に係る学則第 12 条の追加。教育内容等改善のための組織的研修等に係る学則第 15 条の追加。学則条文第 21 条、第 30 条、第 63 条の一部改正。学則第 65 条と第 66 条の入れ替え。学部

等における教育研究上の目に係る別表 2 の追加。別表 3 工学部授業科目、別表 4 システム理工学部授業科目、別表 5 のデザイン工学部授業科目、別表 6 学部学科別・卒業要件の変更。) この学則 (改正) は、平成 22 年 4 月 1 日から適用する。

平成 23 年 4 月 1 日 (学長に係る学則第 43 条の追加。公開講座に係る学則第 59 条の削除。学期に係る学則第 62 条第 2 項の追加。別表 2 芝浦工業大学における教育研究上の目的、別表 3 工学部授業科目、別表 4 システム理工学部授業科目、別表 5 デザイン工学部授業科目、別表 6 学部学科別・卒業要件の変更。) この学則 (改正) は、平成 23 年 4 月 1 日から適用する。

平成 24 年 4 月 1 日 (学則条文第 8 条の変更。別表 2 学部等における教育研究上の目的、別表 3 工学部授業科目、別表 4 システム理工学部授業科目、別表 5 デザイン工学部授業科目、別表 6 学部学科別・卒業要件の変更。) この学則 (改正) は、平成 24 年 4 月 1 日から実施する。教育イノベーション推進センター設置にともない教育支援センターは廃止する。

平成 25 年 4 月 1 日別表 2 学部等における教育研究上の目的、別表 3 工学部授業科目、別表 4 システム理工学部授業科目、別表 5 デザイン工学部授業科目、別表 6 学部学科別・卒業要件の変更。学則条文第 8 条の変更) この学則 (改正) は、平成 25 年 4 月 1 日から実施する。

平成 26 年 4 月 1 日 (学則第 11 条の 2 に副専攻プログラムを追加。学則第 16 条の一部改正。学則第 23 条入学時期の一部改正。別表 2 学部等における教育研究上の目的、別表 3 工学部授業科目、別表 4 システム理工学部授業科目、別表 5 デザイン工学部授業科目、別表 6 学部学科別・卒業要件の変更。) この学則 (改正) は、平成 26 年 4 月 1 日から実施する。

平成 27 年 4 月 1 日 (学校教育法および同施行規則改正に伴う変更) 学則第 43 条学長の権限と責任、及び同第 43 条の 2 副学長職務についての追加。同 44 条から同 48 条まで教授会の役割について改正および一部削除。同 50 条大学協議会の役割について一部改正。この学則 (改正) は、平成 27 年 4 月 1 日から実施する。

平成 28 年 4 月 1 日 (学則第 3 条の変更。先端工学研究機構に係る学則第 7 条の 1 及び 2 の削除。学則第 16 条を単位、各授業科目の授業期間、授業の方法に分類。学則第 16 条 2 に卒業論文等の授業科目に係わる単位数及び履修科目として登録できる単位数上限を追加。学則第 16 条の 3 に授業の方法を追加。学則第 17 条の一部改正。学則第 18 条の 2 の一部改正。学則第 21 条の一部改正。学則第 24 条の一部改正。学則第 27 条の一部改正。学則第 28 条の一部改正。学則第 31 条の一部改正。別表 3 工学部授業科目、別表 4 システム理工学部授業科目、別表 5 デザイン工学部授業科目の変更。) この学則 (改正) は、平成 28 年 4 月 1 日から実施する。

平成 28 年 6 月 15 日 (学則第 43 条の 3 を追加)

- この学則(改正)は、平成 28 年 6 月 15 日から実施する。
- 平成 28 年 6 月 15 日 (学則第 44 条の 2 を追加)  
この学則(改正)は、平成 28 年 6 月 15 日から実施する。
- 平成 28 年 6 月 15 日 (学則第 48 条の(6)学部長選挙に関する事項の削除)  
この学則(改正)は、平成 28 年 6 月 15 日から実施する。
- 平成 29 年 4 月 1 日 (建築学部設置及び収容定員の変更に係る学則第 4 条、第 13 条、第 21 条、第 22 条、第 38 条、第 50 条の 2、第 55 条の改正。別表 1 収容定員、別表 2 教育研究上の目的、別表 6 建築学部授業科目、別表 7 学部・学科別卒業要件、別表 8 納入金、別表 9 学位の種類の一部追加ならびに改正。) 工学部建築学科及び建築工学科は、平成 29 年 3 月 31 日に在学するものが、当該学部 に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。  
この学則 (改正) は、平成 29 年 4 月 1 日から実施する。
- 平成 30 年 4 月 1 日 (工学部通信工学科名称変更に係る学則条文第 4 条の一部変更。別表の収容定員、授業科目 (教職課程を含む)、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。第 7 節大学協議会廃止に係わる学部長・研究科長会議の役割について一部改正。第 8 節科目等履修生・委託生・研究生の一部改正および項目削除。  
この学則 (改正) は、平成 30 年 4 月 1 日から実施する。
- 平成 31 年 4 月 1 日 (兵役義務により休学する場合の学費免除に係る第 32 条第 1 項、第 33 条の一部改正)  
この学則(改正)は、平成 31 年 4 月 1 日から実施する。
- 令和 2 年 4 月 1 日 (工学部先進国際課程の設置に係わる学則条文第 4 条、10 条、27 条、28 条、別表 1 収容定員、別表 2 芝浦工業大学における教育研究上の目的、別表 3 工学部授業科目 (教職課程含む)、別表 7 学部・学科別卒業要件、別表 8 納入金、別表 9 学位の種類の一部追加ならびに改正)  
この学則(改正)は、令和 2 年 4 月 1 日から実施する。
- 令和 3 年 4 月 1 日 (別表 7 工学部・システム理工学部・建築学部卒業要件の一部追加ならびに改正)  
この学則(改正)は、令和 3 年 4 月 1 日から実施する。
- 令和 4 年 4 月 1 日 (休学に係わる学則条文第 32 条、休学期間中の学費に係わる学則条文第 33 条の一部変更。別表 3 工学部授業科目、別表 4 システム理工学部授業科目、別表 5 デザイン工学部授業科目、別表 6 建築学部授業科目、別表 7 工学部・システム理工学部・デザイン工学部・建築学部卒業要件、別表 8 納入金の一部追加ならびに改正)  
この学則 (改正) は、令和 4 年 4 月 1 日から実施する。ただし、第 33 条休学期間中の学費の取扱は、令和 4 年度の在籍者から適用する。
- 令和 5 年 4 月 1 日 (自己点検・評価等に係わる学則条文第 1 条の 2、設置等に係わる学則条

文第 3 条の住所、教育課程に係わる学則条文第 13 条別表 3 工学部授業科目、別表 4 システム理工学部授業科目、別表 5 デザイン工学部授業科目、別表 6 建築学部授業科目、卒業認定に係る学則条文第 21 条別表 7 システム理工学部卒業要件、学費等に係る学則条文第 38 条別表 8 科目等履修生の学費等の一部改正)

この学則(改定)は、令和 5 年 4 月 1 日から実施する。

令和 6 年 4 月 1 日

(工学部 5 課程の設置に係わる学則条文第 4 条、別表 1 収容定員、別表 2 芝浦工業大学における教育研究上の目的、別表 3 工学部授業科目(教職課程含む)、別表 7 学部・課程・学科別卒業要件、別表 9 学位の種類の一部追加ならびに改定)

工学部機械工学科及び機械機能工学科・材料工学科・応用化学科・電気工学科・情報通信工学科・電子工学科・土木工学科・情報工学科は、令和 5 年 3 月 31 日に当該学科に在学するものが当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改定)は、令和 6 年 4 月 1 日から実施する。

## 別 表

別 表 1	・ ・ ・ ・ ・	収 容 定 員
別 表 2	・ ・ ・ ・ ・	芝浦工業大学における教育研究上の目的
別 表 3	・ ・ ・ ・ ・	工学部授業科目（教職課程含む）
別 表 4	・ ・ ・ ・ ・	システム理工学部授業科目（教職課程含む）
別 表 5	・ ・ ・ ・ ・	デザイン工学部授業科目（教職課程含む）
別 表 6	・ ・ ・ ・ ・	建築学部授業科目
別 表 7	・ ・ ・ ・ ・	学部・課程・学科別卒業要件
別 表 8	・ ・ ・ ・ ・	納 入 金
別 表 9	・ ・ ・ ・ ・	学位の種類

## 別表 1

## 収 容 定 員

学部	課程・学科名	入学定員	収容定員
工 学 部	機 械 工 学 課 程	228	912
	物 質 化 学 課 程	208	832
	電 気 電 子 工 学 課 程	208	832
	情 報 ・ 通 信 工 学 課 程	218	872
	土 木 工 学 課 程	104	416
	先 進 国 際 課 程	9	36
	合 計	975 名	3,900 名
シ ス テ ム 理 工 学 部	電 子 情 報 シ ス テ ム 学 科	115	460
	機 械 制 御 シ ス テ ム 学 科	90	360
	環 境 シ ス テ ム 学 科	90	360
	生 命 科 学 科	115	460
	数 理 科 学 科	75	300
	合 計	485 名	1,940 名
工 学 部 デ ザ イ ン	デ ザ イン 工 学 科	160	640
	合 計	160 名	640 名
建 築 学 部	建 築 学 科	240	960
	合 計	240 名	960 名

## 別表 2

### 芝浦工業大学における教育研究上の目的

#### 大学

本学は教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、学術の中心として深く工学の研究を行い世界文化に貢献し、併せて広く一般の学術教養と専門の工業教育を施すことにより、学生の人格を陶冶し、学理を究めさせ体位の向上を図り、もって優秀なる技術者を養成することを目的とする。

(芝浦工業大学学則第 1 条第 1 項)

#### 1. 工学部

工学部では、現代社会が抱える様々な課題を自ら発見、解決する工学技術者を養成するため、確かな基礎学力に基づく各専門分野の高い専門能力に加え、工学部内の多彩な専門分野を横断的に学べる新たな教育プログラムにより学際的な思考能力を涵養する。さらに、修得した分野横断的知識に加え、研究を軸とした実践型教育により課題解決能力を高め、様々な課題の本質を捉え、学際的アプローチにより解決する能力を涵養し、持続可能な社会の発展に、多様な価値観と高い倫理観をもって貢献する創造性豊かな人材を養成する。

具体的には、卒業までに以下に挙げる能力を持った人材を養成することを教育研究上の目的とする。

- 工学専門教育の修得に必要な基礎学力・教養を身に付けている。  
(豊かな教養を涵養する学修)
- 工学の専門知識と論理的思考法を体系的に学び、身に付けている。  
(工学知識の体系的学修)
- 複数分野の知識を修得し、学際的な思考能力を身に付けている。  
(分野横断的知識の修得)
- 研究を通じ、課題を発見・解決し、未踏分野に挑戦できる力を身に付けている。  
(創造性の育成)
- 社会の要求、多様な価値観を理解し、他者と協働して主体的に行動できる能力を身に付けている。  
(他者との共生)

課程

課程名	人材の育成および教育研究上の目的
<p>機械工学課程</p>	<p>科学技術の現状や社会の要望をグローバルな視点で捉え、環境や感性との調和に配慮しながら、機械工学の学理を用いて有用な機械やシステムを創成できる人材を養成する。</p> <p>具体的には、卒業までに以下のような人材を養成することを教育研究上の目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●機械工学に関わる数理知識を用いて機械のメカニズムを理解する能力と、それらを活用して有用な機能を創成できる設計能力を身に付けている。</li> <li>●社会や環境との関わりに配慮して機械工学の必要性を常に見直すことができる倫理観および責任感を持ち、グローバルな視点から多面的に科学技術を捉える能力を身に付けている。</li> <li>●工学的な問題に対して機械工学の見地から取り組むべき事柄を整理し、与えられた条件の下で様々な分野の知識を関連付けて課題解決に適用できる能力を身に付けている。</li> <li>●地球的視野から科学技術の現状を捉えて能動的に考え分析し、社会の発展に向けて行動することができる研究推進能力を身に付けている。</li> <li>●多様性を尊重し他者と協調して活動できる能力と、意思疎通を図りながら自らの判断や意見について説明できるコミュニケーション能力を身に付けている。</li> <li>●技術的課題の探求に関心を持ち、情報環境等を利用して継続的に自己学修できる能力を身に付けている。</li> </ul>
<p>物質化学課程</p>	<p>環境・物質工学分野ならびに化学・生命工学分野における広範囲な産業界に適用し、柔軟な対応力に加え、即戦力、実践力を持って活躍できる人材、社会の財産となりうる人材を養成する。</p> <p>具体的には、卒業までに以下のような人材を養成することを教育研究上の目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●物質化学を基盤とする自然科学ならびに工学にかかわる幅広い視野を育み、広範囲な領域の課題を探求する姿勢と技術を身に付けている。</li> <li>●物質化学の体系的な理解・整理と生産技術の開発・管理を基に、環境保全や生命工学を含めた分野における課題を見出し、問題を解決する能力を身に付けている。</li> <li>●物質化学の幅広い分野において、境界領域や融合領域および未踏科学分野に、創造力を持って積極的に取り組む姿勢や能力を身に付けている。</li> <li>●高度な知性に加え、産業界での即戦力となる創造性豊かな実践力を身に付けている。</li> <li>●社会における責任感と倫理感、他者との協力・協働の姿勢を基に、社会貢献できる能力を身に付けている。</li> </ul>



課程名	人材の育成および教育研究上の目的
電気電子工学課程	<p>技術の進歩に対応して主体的に活動できる人間性豊かな人材、電気電子分野の技術をもって、持続的な社会の構築に貢献できる人材を養成する。</p> <p>具体的には、卒業までに以下のような人材を養成することを教育研究上の目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●電気電子工学に関わる専門分野の基本知識を有し、これらを用いて、技術者として当該分野の問題を分析し、その問題解決のために応用できる力を身に付けている。</li> <li>●自らの意見を文書あるいは口頭説明で他者に論理的に説明する、他者が発信した情報や意見を理解することができ、自らの意図を実現できるプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身に付けている。</li> <li>●チームの一員として自己のなすべき行動を理解し実行できる協調性、自らの活動の結果が社会および環境に及ぼす影響を認識できる倫理観、および社会から付託されている責任を理解し実務の場で技術者倫理に基づいた行動ができる責任感を身に付けている。</li> </ul>
情報・通信工学課程	<p>コンピュータと情報通信を利用して人間の社会と生活を豊かにする技術を体系的に広く学ぶことを教育の目的とし、時代に左右されない技術の基盤を支える普遍的な基礎学力を身に付けた技術者を養成する。</p> <p>具体的には、卒業までに以下のような人材を養成することを教育研究上の目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●技術の基盤を支える数学と物理などの自然科学の基礎学力を身に付けている。</li> <li>●情報・通信工学の基本的な考え方と基礎技術、およびそれらを創造的に応用して課題を解決する能力を身に付けている。</li> <li>●情報技術・情報通信技術が社会に及ぼす影響や制約条件を考えながらシステムの設計・実装を行うことで課題を解決する能力を身に付けている。</li> <li>●幅広い教養と豊かな人間性を基に、地球的視点からの広い視野を持って課題に自律的に取り組み探求する能力を身に付けている。</li> <li>●技術者として必要な他者とのコミュニケーションの能力を身に付けている。</li> </ul>
土木工学課程	<p>グローバルな視点で持続可能な社会に貢献できる創造性豊かな土木技術者の育成を目指す。土木工学の対象である「人」、「自然」、「モノ」が相互に影響する社会基盤システムを大局的に捉える能力と集団の中での自己の役割と責任の自覚をもつ人材を養成する。</p> <p>具体的には、卒業までに以下のような人材を養成することを教育研究上の目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●真に市民の立場に立った都市づくりを行える姿勢や能力を身に付けている。</li> <li>●科学技術と土木工学の専門知識を基礎とした問題を分析、洞察、解決する能力を身に付けている。</li> <li>●自然や社会の環境変化に対処する能力と創造力を身に付けている。</li> <li>●日本のみならず国際社会での指導力と倫理観に基づく行動力を身に付けている。</li> </ul>
先進国際課程	<p>工学、理学など広く学問を統合することをもって、持続的な社会の構築に貢献できる人材を育成することを目的とする。特に、多様な価値観のもと産業と技術革新基盤を創造できる人材の育成に重点を置く。</p>

## 2. システム理工学部

システム理工学部は、幅広い教養、国際性および理工学に対する体系的な知識を身に付け、総合的問題解決のためのシステム工学の思考と手法を活用して持続可能な社会の構築に貢献できる人材を養成することを目的とする。

### 学科

学科名	人材の育成および教育研究上の目的
電子情報システム学科	電子情報システム学科は、ソフトウェア、メディア・ネットワーク、及びハードウェア技術分野の専門的知識の習得と、問題を自ら発見し解決できるシステム志向のエンジニアを目指し、技術者としての倫理観をもち、多様性を尊重し、持続可能な社会の構築に貢献できる人材を養成することを目的とする。
機械制御システム学科	機械制御システム学科では、機械システムを開発するための機械工学の基礎と多要素を組合せて有機的に制御するために必要な理論を身に付け、もの・人・環境を総合した新たな価値創造と社会の持続的発展を担う「ものづくり」「ことづくり」ができる人材の育成を目的とする。
環境システム学科	環境システム学科は、建築や都市、環境分野を中心とする専門的な知識と実践的な技術や、これらを横断的に関連づける手法、多様なステークホルダーと協働し、国際社会や地域における諸問題を解決できる能力を修得し、持続可能な社会の形成に貢献することができる人材を育成することを目的とする。
生命科学科	生命科学科は、生命科学に対する体系的な知識を身に付け、生命現象の科学的解明、健康の回復・増進や生活支援を実現する新しい技術の開発を通して、健康寿命の延伸と活気あふれる持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成することを目的とする。
数理科学科	「数学に強く、幅広い応用分野に対応でき自ら考える学生を育てる」ことを教育の基本目標として、実社会で数理科学的手法を実践し、持続可能な社会の構築の基盤技術・理論の進展に貢献し得る人材を育成していく。

## 3. デザイン工学部

デザイン工学部は、幅広い工学の素養をもち、コンセプトが明確になっていない段階からアイデアを生み出し、人間の感性および社会との調和・融合を図りながら創造的なものづくりをすることによって、持続可能な社会の構築に貢献できる実践的な人材を養成することを目的とする。

## 4. 建築学部

建築学部は、これからの時代に建築を「いかにつくるか」だけでなく「何のためにつくるか」を重視します。そのために、自然科学や人文社会科学なども含んだ学際的視点を持ち、持続可能な社会における豊かな建築や都市空間を創造する力を持った人材を育てます。また、多様な価値観が共存する 21 世紀の世界に適応できる、建築をベースにした特色ある人材を育てます。具体的には、卒業までに以下に挙げる能力を持った人材を養成します。

- 1 歴史的発展を踏まえてさまざまな側面を理解し、現代の建築の技術的・社会的問題点を理解することができる。
- 2 人々の生命や財産に深く関連する建築に、技術者や設計者としてたずさわるための倫理観を身に付ける。
- 3 普遍的法則である科学に関する基礎知識を身に付け、なおかつ建築設計や建築技術に関する幅広い専門知識を身に付ける。
- 4 それらの幅広い知識を統合、駆使し、建築や都市をめぐる現在の課題に対して自らの役割や責任を認識しつつ、解決に導くことができる。
- 5 豊富なコミュニケーション能力を使って他者や他集団とのあいだに適切な社会関係を築くことができ、さらにそれを踏まえて 21 世紀のグローバル社会で活躍できる。

## 授業科目

工学部 機械工学課程

科目区分	授業科目の名称	単位数			備考	教職課程における科目区分
		必修	選択	自由		
基礎・教養科目	数理学科目 線形代数1 線形代数2 微分積分1 微分積分2 微分方程式 確率と統計1 確率と統計2 関数論 ベクトル解析 フーリエ解析	2 2 4 4 4				
	物理学科目 基礎力学 基礎力学演習 基礎電磁気学 物理学実験 基礎熱統計力学 基礎熱統計力学演習 相対論と量子論の基礎	2 3	2 2 2 2 2			
	化学科目 化学の基礎と実験 基礎無機化学 基礎有機化学 基礎生物化学 基礎固体化学	2	2 2 2 2			
英語科目	Reading&Writing1 Reading&Writing2 Listening&Speaking1 Listening&Speaking2 工学英語1 工学英語2 TOEIC Academic English	2 2	2 2 2 2 2 2			
情報科目	情報リテラシー 情報処理概論 Java入門 C言語入門 データサイエンス演習		1 2 3 3 2		※先進機械コース必修 ※基幹機械コース必修	
人文社会系教養科目	生命倫理 経済学 日本国憲法 現代の日本経済 社会心理学 認知心理学 教育心理学 プレゼンテーション入門 レポートライティング 教育原論 法学入門 技術者の倫理 人間社会と環境問題 自己表現とコミュニケーション 世界の言語と文化 人間関係論 教育の近現代史 文化人類学 地域と環境 生産と消費の環境論 応用経済学 教育社会学 知的財産法	2	2 2			



## 授業科目

工学部 機械工学課程

科目区分	授業科目の名称	単位数			備考	教職課程における科目区分	
		必修	選択	自由			
専門科目	電気工学		2		※先進機械コース必修		
	機械工学概論3		2				
	機械力学		2				
	流体力学2 (先進機械コース)		2				
	熱力学2		2				
	エネルギー／環境概論		2				
	制御工学		2				
	研究導入講義1(知能機械)		2				
	研究導入講義1(生体工学)		2				
	研究導入講義1(計測工学)		2				
	研究導入講義1(サイエンス・メカニクス)		2				
	研究導入講義1(ナノ・マイクロ)		2				
	研究導入演習1		2				
	研究導入演習2		2				
	研究導入講義2(知能機械)		2				
	研究導入講義2(生体工学)		2				
	研究導入講義2(計測工学)		2				
	研究導入講義2(サイエンス・メカニクス)		2				
	研究導入講義2(ナノ・マイクロ)		2				
	研究導入演習3		2				
	研究導入演習4		2				
	卒業研究1	2					
	卒業研究2	2					
卒業研究3	4						
卒業研究4	4						

## 授業科目

工学部 物質化学課程

科目区分	授業科目の名称	単位数			備考	教職課程における科目区分
		必修	選択	自由		
基礎・教養科目	数 理 基 礎 科 目 線形代数1 線形代数2 微分積分1 微分積分2 微分方程式 確率と統計1 確率と統計2 関数論 ベクトル解析 フーリエ解析		2 2 4 4 2 2 2 2 2			
	物 理 学 科 目 物理学入門 物理学実験 基礎力学および演習 基礎電磁気学および演習 基礎熱統計力学 基礎熱統計力学演習 相対論と量子論の基礎		4 3 4 4 2 2 2			物理学（必修）
	化 学 科 目 基礎化学 基礎無機化学 基礎有機化学 基礎生物化学 基礎固体化学 化学実験	2	2 2 2 2 2			
英 語 科 目	Reading&Writing1	2				
	Reading&Writing2		2			
	Listening&Speaking1	2				
	Listening&Speaking2		2			
	工学英語1		2			
	工学英語2		2			
	TOEIC		2			
	Academic English 情報リテラシー		2			
情 報 科 目	情報リテラシー		1			
	情報処理概論		2			
	Java入門		3			
	C言語入門		3			
	データサイエンス演習		2			
人 文 社 会 系 教 養 科 目	生命倫理		2			
	経済学		2			
	日本国憲法		2			
	現代の日本経済		2			
	社会心理学		2			
	認知心理学		2			
	教育心理学		2			
	プレゼンテーション入門		2			
	レポートライティング		2			
	教育原論		2			
	法学入門		2			
	技術者の倫理	2				
	人間社会と環境問題		2			
	自己表現とコミュニケーション		2			
	世界の言語と文化		2			
人間関係論		2				
教育の近現代史		2				

### 授業科目

工学部 物質化学課程

科目区分	授業科目の名称	単位数			備考	教職課程における科目区分
		必修	選択	自由		
基礎・教養科目	文化人類学 地域と環境 生産と消費の環境論 応用経済学 教育社会学 知的財産法		2 2 2 2 2 2			
	体育健康科目 スポーツ科学実技1 スポーツ科学実技2 コンディショニング演習 スポーツ健康学 スポーツバイオメカニクス	1		1 2 2 2		
共通教養科目	統計学基礎 データサイエンスリテラシー 芝浦工業大学通論 技術経営入門 ダイバーシティ入門			1 1 2 2		
共通専門科目	社会の中の工学 工学研究探訪1 工学研究探訪2 学内研究留学1 学内研究留学2 グローバルPBL1 グローバルPBL2 国際インターンシップ1 国際インターンシップ2	1 1		1 1 2 2 2 2 2		
専門科目	環境と化学 環境物質工学入門 材料力学 熱力学 有機材料 状態図と金属組織 材料化学演習1 材料化学演習2 生物化学実験 塗料・塗装工学概論 結晶構造解析 無機材料 物質移動論 材料科学 材料電気化学 図学と製図1 電気化学演習 環境物質工学通論 生体材料化学 固体物理 弾塑性論 触媒化学 接合工学 図学と製図2 環境物質基礎実験 惑星科学 環境物質科学実験1 環境物質科学実験2 Semiconductor Materials Phase Transitions in Materials 複合材料		2 2		※環境・物質工学コース必修 ※環境・物質工学コース必修  ※環境・物質工学コース必修 ※環境・物質工学コース必修 ※環境・物質工学コース必修  ※化学・生命工学コース必修  ※環境・物質工学コース必修 ※環境・物質工学コース必修  ※環境・物質工学コース必修 ※環境・物質工学コース必修	地学 (選択)  物理学 (選択) 化学 (選択)  生物学実験 (必修)  物理学 (選択) 化学 (選択)  化学 (選択)  生物学 (選択) 物理学 (選択)  化学 (選択)  地学実験 (必修) 地学 (選択) 物理学実験 (選択)  物理学 (選択) 化学 (選択)



## 授業科目

工学部 物質化学課程

科目区分	授業科目の名称	単位数			備考	教職課程における科目区分
		必修	選択	自由		
専門科目	凝固工学		2			
	Organic Materials Chemistry		2			化学（選択）
	鉄鋼材料製造法		2			
	生体有機材料		2			
	現代生物学		2			生物学（必修）
	宇宙空間科学		2			地学（選択）
	環境物質工学実験1		2		※環境・物質工学コース必修	化学実験（選択）
	環境物質工学実験2		2		※環境・物質工学コース必修	
	マテリアルインフォマティクス		2			
	電子顕微鏡とナノサイエンス		2			物理学（選択）
	物性物理学		2			物理学（選択）
	Strength of Materials		2			
	表界面の物理化学		2			
	リサイクル工学		2			地学（選択）
	Surface Treatment		2			
	機器分析		2			
	粉体成形		2			
	生体金属材料		2			
	工業化学概論		2		※化学・生命工学コース必修	
	化学結合論		2			化学（選択）
	生物化学		2			生物学（選択）
	物理化学1		2			物理学（選択）
	分析化学		2			化学（選択）
	有機化学		2			化学（選択）
	無機化学1		2			化学（選択）
	化学工学1		2			
	分析化学実験		3		※化学・生命工学コース必修	
	生物有機化学		2			化学（選択）
	物理化学2		2			物理学（選択）
	化学工学2		2			
	有機反応論		2			化学（選択）
	物理化学実験		2		※化学・生命工学コース必修	物理学実験（選択）
	化学工学実験		2		※化学・生命工学コース必修	物理学実験（選択）
	応用生物化学		2			生物学（選択）
	無機化学2		2			化学（選択）
	化学分光学		2			化学（選択）
	有機化学実験		3		※化学・生命工学コース必修	化学実験（選択）
	反応工学		2			
	分離工学		2			
	セラミックス化学		2			
	電気化学		2			
	有機構造決定法		2			
	ケミカルバイオロジー基礎		2			化学（選択）
応用分析化学		2				
化学工業総論		2		※化学・生命工学コース必修		
無機物質化学		2				
地球科学		2			地学（選択）	
生物無機化学		2			化学（選択）	
応用物理化学		2				
有機合成化学		2			化学（選択）	
高分子化学		2				
卒業研究1		2				
卒業研究2		2				
卒業研究3		4				
卒業研究4		4				

## 授業科目

工学部 電気電子工学課程

科目区分	授業科目の名称	単位数			備考	教職課程における科目区分	
		必修	選択	自由			
基礎・教養科目	数理学科 数学科目 線形代数1 線形代数2 微分積分1 微分積分2 微分方程式 確率と統計1 確率と統計2 関数論 ベクトル解析 フーリエ解析		2		※電気・ロボット工学コース必修 ※電気・ロボット工学コース必修 ※電気・ロボット工学コース必修 ※電気・ロボット工学コース必修 ※電気・ロボット工学コース必修	確率論、統計学（必修）	
			2				
			4				
			4				
			2				
			2				
			2				
			2				
	物理学科 物理学科目	物理学入門 基礎力学および演習 基礎熱力学 基礎熱統計力学 基礎熱統計力学演習 物理学実験 相対論と量子論の基礎		4		※先端電子工学コース必修	
				4			
			2				
			2				
			2				
			3				
化学科 化学科目	基礎化学 基礎無機化学 基礎有機化学 基礎生物化学 基礎固体化学 化学実験		2		※先端電子工学コース必修		
			2				
			2				
			2				
			2				
			2				
英語科 英語科目	Reading&Writing1 Reading&Writing2 Listening&Speaking1 Listening&Speaking2 工学英語1 工学英語2 TOEIC Academic English 情報リテラシー	2					
			2				
		2					
			2				
			2				
			2				
			2				
			2				
情報科 情報科目	情報リテラシー 情報処理概論 Java入門 C言語入門 データサイエンス演習 データサイエンス		1		※電気・ロボット工学コース必修 ※電気・ロボット工学コース必修	コンピュータ（必修）	
			2				
			3				
			3				
			2				
			3				
			3				
人文社会系 教養科目	生命倫理 経済学 日本国憲法 現代の日本経済 社会心理学 認知心理学 教育心理学 プレゼンテーション入門 レポートライティング 教育原論 法学入門 技術者の倫理 人間社会と環境問題 自己表現とコミュニケーション 世界の言語と文化 人間関係論 教育の近現代史 文化人類学 地域と環境 生産と消費の環境論 応用経済学 教育社会学 知的財産法		2		※電気・ロボット工学コース必修 ※電気・ロボット工学コース必修		
			2				
			2				
			2				
			2				
			2				
			2				
			2				
			2				
			2				
			2				
			2				
			2				
			2				
			2				
			2				
			2				
			2				
			2				

## 授業科目

工学部 電気電子工学課程

科目区分		授業科目の名称	単位数			備考	教職課程における科目区分
			必修	選択	自由		
基礎・教養科目	体育健康科目	スポーツ科学実技1	1				
		スポーツ科学実技2		1			
		コンディショニング演習		2			
		スポーツ健康学		2			
		スポーツバイオメカニクス		2			
共通教養科目		統計学基礎			1		
		データサイエンスリテラシー		1			
		芝浦工業大学通論			2		
		技術経営入門			2		
		ダイバーシティ入門	2				
共通専門科目		社会の中の工学	1				
		工学研究探訪1	1				
		工学研究探訪2		1			
		学内研究留学1		2			
		学内研究留学2		2			
		グローバルPBL1		2			
		グローバルPBL2		2		2	
		国際インターンシップ1		2			
		国際インターンシップ2		2		2	
専門科目		電気回路1A		2		※電気・ロボット工学コース必修	解析学 (選択)
		電気回路1B		2		※電気・ロボット工学コース必修	
		電気磁気学1A		2		※電気・ロボット工学コース必修	
		電気磁気学1B		2		※電気・ロボット工学コース必修	
		電気回路2A		2			コンピュータ (選択)
		電気回路2B		2			
		製作実験		2			
		基礎実験1		1		※電気・ロボット工学コース必修	
		電気磁気学2A		2			
		電気磁気学2B		2			
		電気回路3A		2			
		電気回路3B		2			
		アナログ電子回路		2			
		デジタル回路		2			
		基礎実験2		3		※電気・ロボット工学コース必修	
		電気・ロボット工学研究概論		1		※電気・ロボット工学コース必修	
		電気磁気学3A		2			
		電気磁気学3B		2			
		電子基礎物理		2			
		電気計測		2			解析学 (選択)
		応用実験1		2		※電気・ロボット工学コース必修	コンピュータ (選択)
		電気工学技術英語		2		※電気・ロボット工学コース必修	
		制御工学		2			
		Introduction of Electrical Engineering Research		2			
		マイクロコンピュータ		2			
		電気機器学		2			
		電力系統工学		2			
		Applied Mathematics		2			解析学 (選択)
		パワーエレクトロニクス		2			解析学 (選択)
		電子物性		2			
		電波工学		2			
		応用実験2		2		※電気・ロボット工学コース必修	
		電気材料		2			
		電動機制御		2			
		Mechatronics		2			
		ロボティクス		2			
	デジタル信号処理		2				
	発変電工学		2				
	電気応用		2				
	現代制御		2				
	電子デバイス		2				
	無線機器		2				
	電気法規		2				
	高電圧工学		2				
	Electric Railway		2				
	電気機器設計製図		2				

授業科目

工学部 電気電子工学課程

科目区分	授業科目の名称	単位数			備考	教職課程における科目区分
		必修	選択	自由		
専門科目	電力情報システム設計		2			
	電波法規		2			
	電気・ロボット工学国際インターンシップA		2			
	電気・ロボット工学国際インターンシップB		2			
	電気数学1		2		※先端電子工学コース必修	解析学 (選択)
	電気回路1		2		※先端電子工学コース必修	解析学 (選択)
	電子工学一般		2			
	電気数学2		2		※先端電子工学コース必修	解析学 (選択)
	電気回路2		2		※先端電子工学コース必修	解析学 (選択)
	電磁気学1		2		※先端電子工学コース必修	解析学 (選択)
	ものづくり入門		2			
	電気回路3		2		※先端電子工学コース必修	
	電磁気学2		2		※先端電子工学コース必修	解析学 (選択)
	アナログ電子回路1		2			
	電子材料基礎		2			
	電子工学製作実習		2			コンピュータ (選択)
	電磁気学3		2		※先端電子工学コース必修	
	電子工学基礎実験		2		※先端電子工学コース必修	
	先端技術1		2		※先端電子工学コース必修	
	電気回路総合		2			
	電磁気学総合		2			
	アナログ電子回路2		2			
	デジタル電子回路		2			
	電子物性基礎		2			
	電子工学倫理		2		※先端電子工学コース必修	
	電子制御工学		2			解析学 (選択)
	電子材料		2			
	半導体工学		2			
	光エレクトロニクス		2			
	情報理論		2			コンピュータ (選択)
	信号処理回路		2			コンピュータ (選択)
	情報伝送回路		2			
	信頼性品質工学		2			
	先端技術2		2			
	電子材料評価論		2			
	集積回路工学		2			
	音響システム		2			
	メディカルエレクトロニクス		2			
	通信法令		2			
	電子工学国際インターンシップ1		2			
電子工学国際インターンシップ2		2				
電子工学国際インターンシップ3		2				
電子工学国際インターンシップ4		2				
電子工学国際インターンシップ5		2				
電子工学国際インターンシップ6		2				
電子工学国際インターンシップ7		2				
卒業研究1		2				
卒業研究2		2				
卒業研究3		4				
卒業研究4		4				

## 授業科目

工学部 情報・通信工学課程

科目区分	授業科目の名称	単位数			備考	教職課程における科目区分
		必修	選択	自由		
基礎・教養科目	数学基礎科目 線形代数1 線形代数2 微分積分1 微分積分2 微分方程式 確率と統計1 確率と統計2 関数論 ベクトル解析 フーリエ解析	2 4	2 4 2 2 2 2 2		※情報通信コース必修 ※情報通信コース必修 ※情報工学コース必修	確率論、統計学（必修）
	物理学基礎科目 物理学入門 基礎力学および演習 基礎電磁気学および演習 基礎熱統計力学 基礎熱統計力学演習 相対論と量子論の基礎 物理学実験	4	4 4 2 2 2 3		※情報通信コース必修	
	化学基礎科目 基礎化学 基礎無機化学 基礎有機化学 基礎生物化学 基礎固体化学 化学実験		2 2 2 2 2 2		※情報工学コース必修	
	英語科目 Reading&Writing1 Reading&Writing2 Listening&Speaking1 Listening&Speaking2 工学英語1 工学英語2 TOEIC Academic English 情報リテラシー	2 2	2 2 2 2 2 2			
	情報科目 情報リテラシー Java入門 C言語入門 データサイエンス演習		1 3 2	3		
	人文社会系教養科目 生命倫理 経済学 日本国憲法 現代の日本経済 社会心理学 認知心理学 教育心理学 プレゼンテーション入門 レポートライティング 教育原論 法学入門 技術者の倫理 人間社会と環境問題 自己表現とコミュニケーション 世界の言語と文化 人間関係論 教育の近現代史 文化人類学 地域と環境 生産と消費の環境論 応用経済学 教育社会学 知的財産法		2 2		※情報通信コース必修	情報社会・情報倫理（選択）

# 授業科目

工学部 情報・通信工学課程

科目区分		授業科目の名称	単位数			備考	教職課程における科目区分
			必修	選択	自由		
基礎・ 教養科目	体育健康 科目	スポーツ科学実技1	1				
		スポーツ科学実技2		1			
		コンディショニング演習		2			
		スポーツ健康学		2			
		スポーツバイオメカニクス		2			
共通 教養 科目		統計学基礎			1		
		データサイエンスリテラシー		1			
		芝浦工業大学通論			2		
		技術経営入門			2		
		ダイバーシティ入門		2			
共通 専門 科目		社会の中の工学	1				工業の関係科目（必修）
		工学研究探訪1	1				
		工学研究探訪2		1			
		学内研究留学1		2			
		学内研究留学2		2			
		グローバルPBL1		2			
		グローバルPBL2			2		
		国際インターンシップ1		2			
		国際インターンシップ2			2		
専 門 科 目		情報通信ソフトウェア演習A		1		※情報通信コース必修	コンピュータ（選択）、 コンピュータ・情報処理（選択） コンピュータ（選択）、 コンピュータ・情報処理（選択）  工業の関係科目（選択） 工業の関係科目（選択）  工業の関係科目（選択） 工業の関係科目（選択） 解析学（選択） 解析学（選択） 工業の関係科目（選択） 情報通信ネットワーク（選択）  情報通信ネットワーク（選択） 情報システム（選択） 工業の関係科目（選択） 情報通信ネットワーク（選択）  工業の関係科目（選択） 工業の関係科目（選択） マルチメディア表現・マルチメディア技術 （選択）  コンピュータ（選択）、 コンピュータ・情報処理（選択）
		情報通信ハードウェア実験A		1		※情報通信コース必修	
		情報処理入門		2			
		情報処理基礎		2			
		情報通信ソフトウェア演習B		1		※情報通信コース必修	
		情報通信ハードウェア実験B		1		※情報通信コース必修	
		電気回路基礎		2			
		論理設計		2			
		情報通信ソフトウェア演習C		1		※情報通信コース必修	
		情報通信ハードウェア実験C		1		※情報通信コース必修	
		電磁気学1		4			
		電子回路		2			
		回路の過渡現象		2			
		情報通信数学		2			
		通信計測		2			
		情報通信ネットワーク		2			
		情報通信ソフトウェア演習D		1		※情報通信コース必修	
		情報通信ハードウェア実験D		1		※情報通信コース必修	
		情報理論		2			
		情報処理1		2			
		回路設計演習		2			
		ネットワーク理論		2			
		情報通信工学概論		2			
		情報通信応用実験A		3		※情報通信コース必修	
		電磁気学2		2			
		通信方式		2			
		メディア情報工学		2			
		電波工学1		2			
		電波法規		2			
情報処理2		2					

## 授業科目

工学部 情報・通信工学課程

科目区分	授業科目の名称	単位数			備考	教職課程における科目区分
		必修	選択	自由		
専門科目	情報通信特論1		1		※情報通信コース必修	工業の関係科目 (選択) マルチメディア表現・マルチメディア技術 (選択)
	音響工学		2			情報システム (選択) 情報通信ネットワーク (選択)
	データベース		2			工業の関係科目 (選択)
	移動通信工学		2			解析学 (選択) 工業の関係科目 (選択)
	情報通信技術英語		2			
	光通信工学		2			
	情報通信応用実験B		3			
	デジタル信号処理		2			
	マイクロ波工学		2			
	無線機器		2			
	電波工学2		2			
	宇宙通信工学		2			
	通信法令		2			
	メディア通信工学		2			マルチメディア表現・マルチメディア技術 (選択) マルチメディア表現・マルチメディア技術 (選択)
	パターン認識		2			コンピュータ (選択)、 コンピュータ・情報処理 (選択)
	生体情報工学		2			情報社会・情報倫理 (必修) 工業の関係科目 (選択) 情報通信ネットワーク (選択) 工業の関係科目 (選択)
	情報通信システム設計論		2			
	情報倫理		2			
	情報通信特論2		1			
	セキュアネットワーク		2			
	情報工学特論		1			
	情報通信工学実習		1			
	コンピュータ科学序説		2			※情報工学コース必修
	離散数学1		2			※情報工学コース必修
	プログラミング入門1		2			※情報工学コース必修
	情報工学通論		2			※情報工学コース必修
	プログラミング入門2		2			※情報工学コース必修
	コンピュータアーキテクチャ		2			※情報工学コース必修
	離散数学2		2			
	論理回路		2			
	データ構造とアルゴリズム1		2			※情報工学コース必修
	基礎情報演習1A		2			※情報工学コース必修
	基礎情報演習1B		2			※情報工学コース必修
	H. C. インタラクション		2			
	オペレーティングシステム		2			工業の関係科目 (選択) 情報システム (選択)
	数理論理学		1			コンピュータ (選択)、 コンピュータ・情報処理 (選択)
	信号処理		2			工業の関係科目 (選択)
	基礎情報演習2A		2			工業の関係科目 (選択)
	基礎情報演習2B		2			※情報工学コース必修
	データ構造とアルゴリズム2		2			コンピュータ (選択)、 コンピュータ・情報処理 (選択)
デジタルメディア処理		2		工業の関係科目 (選択)		
コンピュータ通信		2		マルチメディア表現・マルチメディア技術 (選択) 工業の関係科目 (選択)		
形式言語とオートマトン		2		コンピュータ (選択)、 コンピュータ・情報処理 (選択)		
プログラミング言語論		1		工業の関係科目 (選択)		

授業科目

工学部 情報・通信工学課程

科目区分	授業科目の名称	単位数			備考	教職課程における科目区分
		必修	選択	自由		
専門科目	数値計算法		2			解析学 (選択)
	卒研プレゼминаール		2			
	コンピュータビジョン		2			工業の関係科目 (選択) コンピュータ (選択)、 コンピュータ・情報処理 (選択)
	人工知能		2			情報システム (選択)
	組込みシステム		2			情報通信ネットワーク (選択)
	情報ネットワーク		2			コンピュータ (選択)、 コンピュータ・情報処理 (選択)
	集積回路工学		2			解析学 (選択)
	数理計画法		1			情報システム (選択)
	ソフトウェア工学		2			情報通信ネットワーク (選択)
	情報セキュリティ		2			工業の関係科目 (選択)
	ソフトウェア開発演習		3			工業の関係科目 (選択)
	Java応用プログラミング		2			コンピュータ (選択)、 コンピュータ・情報処理 (選択)
	人工知能プログラミング		2			工業の関係科目 (選択)
	自然言語処理		2			マルチメディア表現・マルチメディア技術 (選択)
	音響・音声処理工学		2			マルチメディア表現・マルチメディア技術 (選択)
	コンピュータグラフィックス		2			確率論、統計学 (選択)
	データ解析法		2			工業の関係科目 (選択)
	プログラミング言語処理演習		3			工業の関係科目 (選択)
	情報システムプログラミング		2			
	情報工学実習		1			
	情報工学海外実習1		2			
	情報工学海外実習2		2			
	情報工学海外実習3		2			
	情報工学海外実習4		2			
	卒業研究1		2			
	卒業研究2		2			
卒業研究3		4				
卒業研究4		4				



授業科目

工学部 土木工学課程

科目 区分	授業科目の名称	単位数			備考	教職課程に おける科目区分
		必 修	選 択	自 由		
基礎・ 教養科目	数 理 基 礎 科 目 数 学 科 目	線形代数1 線形代数2 微分積分1 微分積分2 微分方程式 確率と統計1 確率と統計2 関数論 ベクトル解析 フーリエ解析	2 2 4			確率論、統計学 (必修)
	物 理 学 科 目	物理学入門 物理学実験 基礎力学および演習 基礎熱統計力学 基礎熱統計力学演習 相対論と量子論の基礎		4 3 4 2 2 2		
	化 学 科 目	基礎環境化学 基礎無機化学 基礎有機化学 基礎生物化学 基礎固体化学 化学実験	2		2 2 2 2 2	
英 語 科 目	Reading&Writing1 Reading&Writing2 Listening&Speaking1 Listening&Speaking2 工学英語1 工学英語2 TOEIC Academic English	2 2		2 2 2 2 2 2		
情 報 科 目	情報リテラシー 情報処理概論 Java入門 C言語入門 データサイエンス演習			1 2 3 3 2	コンピュータ (必修)	
人 文 社 会 系 教 養 科 目	生命倫理 土木と経済学 日本国憲法 現代の日本経済 社会心理学 認知心理学 教育心理学 プレゼンテーション入門 レポートライティング 教育原論 法学入門 技術者の倫理 人間社会と環境問題 自己表現とコミュニケーション 世界の言語と文化 人間関係論 教育の近現代史 文化人類学 地域と環境 生産と消費の環境論 応用経済学 教育社会学 知的財産法	2 2		2 2		
体 育 健 康 科 目	スポーツ科学実技1 スポーツ科学実技2 コンディショニング演習 スポーツ健康学 スポーツバイオメカニクス	1		1 2 2 2		

授業科目

工学部 土木工学課程

科目区分	授業科目の名称	単位数			備考	教職課程における科目区分
		必修	選択	自由		
共通 教養 科目	統計学基礎			1		
	データサイエンスリテラシー		1			
	芝浦工業大学通論			2		
	技術経営入門 ダイバーシティ入門		2	2		
共通 専門 科目	社会の中の工学	1				工業の関係科目 (必修)
	工学研究探訪1	1				
	工学研究探訪2		1			
	学内研究留学1		2			
	学内研究留学2		2			
	グローバルPBL1		2			
	グローバルPBL2			2		
国際インターンシップ1		2				
国際インターンシップ2			2			
専門 科目	導入ゼミナール	1				
	環境の科学	2				工業の関係科目 (選択)
	土木構造物概論		2			工業の関係科目 (選択)
	土木数学1	2				解析学 (必修)
	土木情報処理	2				コンピュータ (必修)
	地盤工学1	2				
	土木計画学1		2			工業の関係科目 (選択)
	測量学		2			幾何学 (選択)
	Introduction to Transportation Systems		2			
	土木と心理学		2			
	土木の力学	2				工業の関係科目 (選択)
	マテリアルデザイン	2				工業の関係科目 (選択)
	流れの力学	2				工業の関係科目 (選択)
	土木数学2		2			確率論、統計学 (選択)
	交通計画		2			確率論、統計学 (選択)
	土質力学1		2			
	応用測量学		2			
	測量学実習1		2			コンピュータ (選択)
	土木と社会学		2			幾何学 (選択)
	地盤工学2	2				
	都市計画	2				工業の関係科目 (選択)
	土木工学総合講義	2				
	水理学	2				工業の関係科目 (選択)
	構造力学1		2			工業の関係科目 (選択)
	コンクリート構造学1		2			工業の関係科目 (選択)
	空間情報科学		2			
	地域デザイン演習1		2			
	測量学実習2		2			
	構造力学演習		1			幾何学 (選択)
	材料実験	1				工業の関係科目 (選択)
	土質実験	1				
	水理実験	1				
	地盤工学演習	1				工業の関係科目 (選択)
	水文学		2			工業の関係科目 (選択)
	土木計画学2		2			確率論、統計学 (選択)
	社会調査演習		2			確率論、統計学 (選択)
	土質力学2		2			
	鋼構造学		2			工業の関係科目 (選択)
	地震防災工学		2			工業の関係科目 (選択)
	構造力学2		2			工業の関係科目 (選択)
	コンクリート構造学2		2			工業の関係科目 (選択)
	Mobility and Regional Development		1			
	土木応用実験	1				
	土木キャリアセミナー	1				
	土木設計演習	1				
	地理情報システム		2			コンピュータ (選択)
	地盤環境工学		2			工業の関係科目 (選択)
	都市環境工学		2			
	維持管理工学		2			工業の関係科目 (選択)
	地理情報システム演習		1			コンピュータ (選択)
	国際開発工学		2			工業の関係科目 (選択)
地域デザイン演習2		2			工業の関係科目 (選択)	
海外土木工学演習1		2				
海外土木工学演習2		2				
海外土木工学演習3		2				

授業科目

工学部 土木工学課程

科目 区分	授業科目の名称	単位数			備考	教職課程に おける科目区分
		必 修	選 択	自 由		
専 門 科 目	土木工学国際演習1		2			
	土木工学国際演習2		2			
	土木工学国際演習3		2			
	学外体験学習1		1			
	学外体験学習2		1			
	卒業研究1	2				
	卒業研究2	2				
	卒業研究3	4				
卒業研究4	4					

授業科目

工学部 先進国際課程

科目区分	授業科目の名称	単位数			備考
		必修	選択	自由	
専門科目群	先端工学研究科目	Freshman thesis program I (工学研究入門I)	6		
	Freshman thesis program II (工学研究入門II)	6			
	Sophomore thesis program I (先端研究入門I)	6			
	Sophomore thesis program II (先端研究入門II)	6			
	Junior thesis program I (卒業研究入門I)	6			
	Junior thesis program II (卒業研究入門II)	6			
	Graduation thesis program I (卒業研究I)	6			
	Graduation thesis program II (卒業研究II)	6			
	Freshman lab seminar I (工学研究セミナーI)	2			
	Freshman lab seminar II (工学研究セミナーII)	2			
	Sophomore lab seminar I (先端研究セミナーI)	2			
	Sophomore lab seminar II (先端研究セミナーII)	2			
	Junior lab seminar I (卒研準備セミナーI)	2			
	Junior lab seminar II (卒研準備セミナーII)	2			
	Senior lab seminar I (卒研セミナーI)	2			
	Senior lab seminar II (卒研セミナーII)	2			
	先端工学概論科目	Advanced Course on Mechanical Engineering (先端機械工学概論)		2	
		Advanced Course on Engineering Science & Mechanics (先端機械機能工学概論)		2	
		Advanced Course on Materials Science and Engineering (先端材料工学概論)		2	
		Introduction to Applied Chemistry (先端応用化学概論)		2	
Introduction of Electrical Engineering Research (先端電気工学研究概論)			2		
Introduction to Advanced Electronics (先端電子工学概論)			2		
Introduction to Information and Communications Engineering (先端情報通信工学概論)			2		
Introduction to Computer Science and Engineering (先端情報工学概論)			2		
Lectures on Civil Engineering (先端土木工学概論)			2		
Introduction to Advanced Science and Technology (先端科学技術入門)			2		
専門科目群	専門科目	Hydrodynamics(流れ学)		2	
	Combustion Engineering (燃焼工学)		2		
	Semiconductor Materials (半導体材料)		2		
	Applied Chemistry Laboratory (応用化学実験)		3		
	Applied Mathematics (応用数学)		2		
	Experiments in electronic engineering course (電子工学コース実験)		2		
	Seminar on Information and Communications Engineering (情報通信ゼミナール)		2		
	Interaction Design (インタラクション・デザイン)		2		
	Soil Mechanics (土質力学)		2		
	Advanced Techniques for Materials Characterization (材料キャラクタリゼーション用高度な技術)		2		
	Biophysics (生物物理)		4		
	Introduction to Relativity (相対論入門)		2		
	Biophotonics (バイオフィotonics)		2		
	Nanostructure Physics I (ナノ構造物理I)		2		
	Functional Materials (機能材料)		2		
	Nanostructure Physics II(ナノ構造物理II)		2		
	Magnetism and Magnetic Materials (磁気学と磁性材料)		2		
	Practical Materialography (実用的なマテリアルグラフィ)		2		
	Fundamentals of Inorganic Chemistry (基礎無機化学)		2		
	Fundamentals of Organic Chemistry (基礎有機化学)		2		
	Fundamentals of Analytical Chemistry (基礎分析化学)		2		
	Fundamentals of Physical Chemistry (基礎物理化学)		2		
	Biochemistry (生化学)		2		
	Materials Science (材料科学)		2		
	Materials for Energy (エネルギー材料)		2		
	Solid State Chemistry (固体化学)		2		
	Nanotechnology (ナノテクノロジー)		2		
	Polymer Chemistry (高分子化学)		2		
	Techniques of Analysis for Urban Planning Research (都市計画の研究における分析技術について)		2		

授業科目

工学部 先進国際課程

科目区分	授業科目の名称	単位数			備考	
		必修	選択	自由		
数理基礎科目・情報科目	Pre-calculus (微分積分学のための準備)		2			
	Calculus I (微分積分学 I)		4			
	Calculus II (微分積分学 II)		4			
	Calculus III (微分積分学 III)		4			
	Linear Algebra (線型代数学)		4			
	Probability and Statistics (確率と統計)		2			
	Basic Physics (基礎物理)		2			
	Methodics in Physics (物理学における方法論)		2			
	Physics: Mechanics (物理:力学)		2			
	Physics: Thermodynamics (物理:熱力学)		2			
	Physics: Electromagnetism (物理:電磁気学)		4			
	Physics: Fluidodynamics, Oscillations and Waves (物理:流体力学、振動、波)		2			
	Physics: Optics (物理:光学)		2			
	Materials Physics (材料物理)		2			
	Basic Chemistry (基礎化学)		2			
	General Chemistry A (一般化学A)		2			
	Instrumental Analysis (機器分析)		2			
	General Chemistry B (一般化学B)		2			
	Mathematical Methods in Physics and Engineering (物理学と工学の数学的入門)		2			
	情報科目	Advanced Course on Materials Science and Engineering (先端材料工学概論)		3		
Introduction to Computer Programming (Python, R, C, Java) (コンピュータープログラミング入門 (Python, R, C, Java))			2			
Web design and programming (ウェブデザインとプログラミング)			3			
Introduction to Computer Networks (コンピューターネットワーク入門)			3			
Information Literacy (情報リテラシー)			2			
Introduction to Information Processing (情報処理入門)			2			
教養科目	Usage of Research Tools & Research Writing (研究ツールの利用と研究執筆)		2			
	Academic English Writing for University Coursework (アカデミックライティング)		2			
	Making Effective Presentations (効果的なプレゼンテーション作成)		2			
	Diversity and Cultures of other countries (ダイバーシティ(多様性)と他国の文化)		2			
	Contemporary Society: Changes in Japanese Work Culture (現代社会:日本の労働文化の変遷)		2			
	Career Design: Developing yourself for your future career (キャリアデザイン:将来のキャリアに向けた自己育成)		2			
	Science and Religion in Japan (日本における科学と宗教)		2			
	Engineering Ethics (技術者倫理)	1				
	体育・健康科目	Biomechanics of human movement (身体運動のバイオメカニクス)		2		
		Volleyball (Technical) (バレーボール(テクニカル))		1		
Badminton (Technical) (バドミントン(テクニカル))			1			
Golf (ゴルフ)			2			
Table tennis (Sports communication) (卓球(スポーツコミュニケーション))			1			
全学共通科目	Soccer (Sports communication) (サッカー(スポーツコミュニケーション))		1			
	Japanese Language I (日本語 I)		2			
	Japanese Language II (日本語 II)		2			
	Japanese Language III (日本語 III)		2			
	Japanese Language IV (日本語 IV)		2			

# 授 業 科 目

工学部

## 【教職課程】

工学部 物質化学課程 電気電子工学課程

情報・通信工学課程 土木工学課程

授 業 科 目		単位数			摘 要	
		必修	選択	自由		
教育の基礎的理解に関する科目等	教育原論		2		人文社会系教養科目	
	教育の近現代史		2		人文社会系教養科目	
	教育心理学		2		人文社会系教養科目	
	教育社会学		2		人文社会系教養科目	
	教職論		2		教職科目	
	特別支援教育論		1		教職科目	
	教育課程論		2		教職科目	
	総合的な学習の時間の指導法			1		
	道徳の理論及び指導法			2		
	特別活動の指導法			1		
	教育の方法及び技術			1		
	教育におけるICT活用			1		
	生徒・進路指導論			2		
	教育相談論		2		教職科目	
	事前・事後指導			1		
教育実習1			2			
教育実習2			2			
教職実践演習(中・高)			2			
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	代数学概論			2	数学：代数学(必修)
		幾何学A			2	数学：幾何学(必修)
		幾何学B			2	数学：幾何学(選択)
		解析学概論			2	数学：解析学(必修)
		職業指導		2		工業：職業指導(必修)
情報と職業		2		情報：情報と職業(必修)		
教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法	数学科指導法1			2	
		数学科指導法2			2	
		数学科指導法3			2	
		数学科指導法4			2	
		理科指導法1			2	
		理科指導法2			2	
		理科指導法3			2	
		理科指導法4			2	
		工業科指導法1			2	
		工業科指導法2			2	
情報科指導法1			2			
情報科指導法2			2			
設 大 定 学 が 独 自 に 設 定 す る 科 目 に	道徳の理論及び指導法			2	高等学校免許状の課程のみ適用	
	人間関係論		2		人文社会系教養科目	

# 教育職員免許状の種類・教職課程開設科目及び修得単位数

## 1. 教育職員免許状の種類・教科

学部	課程名	免許状の種類	教科名
工学部	物質化学課程	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科
	電気電子工学課程	中学校教諭一種免許状	数学
		高等学校教諭一種免許状	数学
	情報・通信工学課程	中学校教諭一種免許状	数学
		高等学校教諭一種免許状	数学・情報・工業
	土木工学課程	中学校教諭一種免許状	数学
		高等学校教諭一種免許状	数学・工業

## 2. 教員免許状取得に要する教科別単位数

所要資格等 免許状の種類	基礎資格	免許状取得に必要な最低修得単位数			
		教科及び教科の指導法に関する科目		教育の基礎的理解に関する科目	大学が独自に設定する科目
		教科名	単位数		
中学校教諭 一種免許状	学士の学位を有すること 日本国憲法 体育 外国語コミュニケーション 数理、データサイエンス活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作 <span style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</span> それぞれ2単位取得を要する	数 学	28単位以上	28単位	3単位
		理 科	28単位以上		
高等学校教諭 一種免許状	学士の学位を有すること 日本国憲法 体育 外国語コミュニケーション 数理、データサイエンス活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作 <span style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</span> それぞれ2単位取得を要する	数 学	24単位以上	24単位	11単位
		理 科	24単位以上		
		情 報	24単位以上		
		工 業	24単位以上		

3. 教育の基礎的理解に関する科目および大学が独自に設定する科目

授業科目名	資格・教科		高等学校教諭一種免許状			
	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状	数学	理科	情報	工業
教職論	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
教育原論○	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
教育の近現代史○	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
教育心理学○	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
特別支援教育論	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
教育社会学○	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
教育課程論	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
道徳の理論及び指導法	2単位	2単位	2単位*	2単位*	2単位*	2単位*
総合的な学習の時間の指導法	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
特別活動の指導法	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
教育の方法及び技術	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
教育におけるICT活用	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
生徒・進路指導論	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
教育相談論	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
人間関係論○	2単位*	2単位*	2単位*	2単位*	2単位*	2単位*
事前・事後指導	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
教育実習 1	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
教育実習 2	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
教職実践演習(中・高)	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位

○人文社会系教養科目

\*大学が独自に設定する科目

4. 教科及び教科の指導法に関する科目

教科名	施行規則に定める科目区分等	修得単位数	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
数学	代数学 幾何学 解析学 確率論、統計学 コンピュータ 各教科の指導法	計20単位以上 計8単位	計20単位以上 計4単位以上
理科	物理 化学 生物 物理学実験 化学実験 生物学実験 地学実験 各教科の指導法	計20単位以上 計8単位	計20単位以上 計4単位以上
情報	情報社会・情報倫理 コンピュータ・情報処理 情報システム 情報通信ネットワーク マルチメディア表現・マルチメディア技術 情報と職業 各教科の指導法	計20単位以上 計4単位	計20単位以上 計4単位
工業	職業指導 工業の関係科目 各教科の指導法	計20単位以上 計4単位	計20単位以上 計4単位



別表 4

授 業 科 目

システム理工学部

【全学科共通】

授 業 科 目		単位数			適 用
		必修	選択	自由	
全 学 共 通 科 目	ダイバーシティ入門		2		
	アントレプレナーシップ入門		2		
	アントレプレナーシップ応用		2		
	芝浦工業大学通論		2		
	消費者行動論		2		
	マーケティング概論		2		
	デジタルプレゼンテーション		2		
	Japanese Language I			2	
	Japanese Language II			2	
	Japanese Language III			2	
Japanese Language IV			2		

# 授 業 科 目

システム理工学部

【各学科共通】

授 業 科 目		単位数			適 用
		必修	選択	自由	
教職科目		教 職 論		2	
		人 間 関 係 論		2	
		教育の方法及び技術		2	
共通科目	英語科目以外	教育におけるICT活用		2	
		特別支援教育論		1	
		生徒・進路指導論		2	
総合科目	英語科目以外	エンジニアリアリテラシー科目			
		○社会ニーズ調査法		2	
		ソーシャル・イノベーション		2	
総合科目	英語科目以外	文 章 論		2	
		科 学 技 術 史		2	
		科 学 技 術 と 社 会		2	
総合科目	英語科目以外	SIT Buddy	1		1
		○統計学基礎			
		SDGs 入門		2	
総合科目	英語科目以外	行政学		2	
		政治学		2	
		社会福祉論		2	
総合科目	英語科目以外	□情報社会と法		2	
		日本国憲法		2	
		経済学Ⅰ		2	
総合科目	英語科目以外	経済学Ⅱ		2	
		意思決定論		2	
		経営戦略論		2	
総合科目	英語科目以外	マーケティング論		2	
		先端技術とビジネス		2	
		□知的財産入門		2	
総合科目	英語科目以外	社会学概論		2	
		教育社会学		2	
		SDGsとサステナビリティ		2	
総合科目	英語科目以外	人間と自然環境		2	
		社会システムデザイン論		2	
		クリエイティブ産業論		2	
総合科目	英語科目以外	サイバーセキュリティと社会		2	
		哲学Ⅰ		2	
		哲学Ⅱ		2	
総合科目	英語科目以外	倫理学		2	
		生命倫理概論		2	
		□技術者と倫理		2	
総合科目	英語科目以外	世界史A		2	
		世界史B		2	
		国際デザイン史		2	
総合科目	英語科目以外	認知心理学		2	
		組織心理学		2	
		教育心理学		2	
総合科目	英語科目以外	教育の近現代史		2	
		教育原論		2	
		教育課程論		2	
総合科目	英語科目以外	教育相談論		2	

□…教科及び教科の指導法に関する科目(情報)  
○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学)

# 授 業 科 目

システム理工学部

【各学科共通】

授 業 科 目				単位数			適 用
				必修	選択	自由	
共 通 科 目	英 語 科 目	保健・ 体育系 科目	体育実技(フライングディスク)		1		
			体育実技(テニス)		1		
			体育実技(卓球)		1		
			体育実技(バドミントン)		1		
			体育実技(ソフトボール)		1		
			体育実技(バレーボール)		1		
			体育実技(バスケットボール)		1		
			体育実技(ゴルフⅠ)		1		
			体育実技(ゴルフⅡ)		1		
			体育実技(スキー)		1		
			体育実技(フットサル)		1		
			体育実技(軟式野球)		1		
			からだの仕組みと運動		2		
			身体運動のメカニズム		2		
			健康科学論 A		2		
			健康科学論 B		2		
			合 外 科 目	外国語 科目 (英語 以外)	ドイツ語Ⅰ		
	ドイツ語Ⅱ				2		
	中国語Ⅰ				2		
	中国語Ⅱ				2		
	韓国語(朝鮮語)Ⅰ				2		
	韓国語(朝鮮語)Ⅱ				2		
	フランス語Ⅰ				2		
	フランス語Ⅱ				2		
	スペイン語Ⅰ				2		
	スペイン語Ⅱ				2		
	英 語 科 目	外国語 科目 (英語)	English Basic SkillsⅠ		2		
			English Basic SkillsⅡ		2		
			English Advanced SkillsⅠ		2		
			English Advanced SkillsⅡ		2		
			English Remedial CourseⅠ			2	
			English Remedial CourseⅡ			2	
			English for Science and TechnologyⅠ		2		
English for Science and TechnologyⅡ				2			
理工系英語プレゼンテーション				2			
語学検定対策講座				2			
海外英語研修Ⅰ				2			
海外英語研修Ⅱ				2			
学外英語検定Ⅰ				2			
学外英語検定Ⅱ				2			
海外短期理工学英語研修Ⅰ				1			
海外短期理工学英語研修Ⅱ				1			

# 授 業 科 目

システム理工学部

## 【電子情報システム学科】

授 業 科 目	単位数			適 用
	必修	選択	自由	
基礎科目	○ 微 分 積 分 学 I	2		○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学)
	○ 微 分 積 分 学 II		2	
	○ 線 形 代 数 I	2		
	○ 線 形 代 数 II		2	
	○ 微 分 方 程 式	2		
	○ 解 析 学 I	2		
	○ 解 析 学 II		2	
	○ 確 率 統 計		2	
	○ 一 般 力 学 I	2		
	○ 一 般 力 学 II		2	
	○ 物 理 学 I		2	
	○ 物 理 学 II		2	
	○ 生 物 学 I		2	
	○ 生 物 学 II		2	
	○ 化 学 I		2	
	○ 化 学 II		2	
	○ 現 代 物 理 学 概 論		2	
○ Introduction to Electromagnetism		2		
システム・情報科	○ 情 報 処 理 I	2		○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学) □…教科及び教科の指導法に関する科目(情報)
	□ 情 報 処 理 II	2		
	○ 情 報 処 理 演 習 I	1		
	□ 情 報 処 理 演 習 II	1		
	□ システム工学A(システム計画方法論)	2		
	○ システム工学B(数理計画法)	2		
	□ システム工学C(データサイエンス)		2	
	□ システム工学演習A	1		
	○ システム工学演習B	1		
	□ システム工学演習C		2	
	○ 創 意 的 学 習		2	
	○ SDGs マネジメント論		2	
	○ 信 頼 性 工 学		2	
	○ 人 間 工 学		2	
	○ システム理工学入門		2	
	○ データサイエンス(応用)		2	
	○ AI 基 礎		1	
	○ データサイエンスリテラシー		1	
	○ Advanced Systems Science and Engineering		2	
	○ シ ス テ ム 科 学		2	

# 授 業 科 目

システム理工学部

【電子情報システム学科】

授 業 科 目	単位数			適 用
	必修	選択	自由	
○ Introduction to Embedded Programming (International Training)		2		○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学) □…教科及び教科の指導法に関する科目(情報)
○ 離 散 数 学	2			
□ データ構造とアルゴリズム I	2			
□ データ構造とアルゴリズム II		2		
□ フロク・ラミング・演習 I		1		
□ オブジェクト指向プログラミング I		2		
□ オブジェクト指向プログラミング II		2		
□ フロク・ラミング・演習 II		1		
□ Embedded Systems		2		
□ データベース		2		
○ Embedded Control Systems (International Training)		2		
□ ソフトウェア設計論		2		
□ オペレーティングシステム		2		
□ 言語処理系		2		
□ 人工知能基礎		2		
○ Computer Simulation		2		
□ 自然言語処理		2		
□ パターン認識		2		
□ Programming Language Processor		2		
□ CG・画像処理基礎		2		
□ 情報通信基礎	2			
□ 通信網工学		2		
○ 計測工学		2		
□ 情報理論	2			
□ コミュニケーションシステム		2		
□ ネットワークアプリケーション		2		
○ 電子計測		2		
○ 信号解析		2		
□ 画像情報処理		2		
○ グラフ理論とネットワーク		2		
○ デジタル信号処理		2		
○ 宇宙観測技術		2		
□ 符号理論		2		
□ ICT Systems Design		2		
□ ハードウェア基礎		2		
電気回路 I	2			
電気回路 II		2		
電気磁気学 I		2		
電気磁気学 II		2		
□ 論理回路		2		
電子回路 I		2		
電子回路 II		2		
○ 回路理論		2		
○ システム制御		2		
□ LSI 設計基礎		2		
半導体工学		2		
電子デバイス		2		
□ LSI 設計		2		
□ 電子情報基礎実験		2		
○ Introduction to Control Engineering		2		
□ 電子情報システム総論	2			
□ 情報実験 I		2		
□ 情報実験 II		2		
□ 電子情報実験 I		2		
□ 電子情報実験 II		2		
テクニカルセミナー		1		
Global PBL		2		
国際電子情報システム実験 I		2		
国際電子情報システム実験 II		2		
□ Recent Trends on Electronic Systems		2		
□ Recent Trends on Information Systems		2		
□ マイクロプロセッサ		2		
□ 情報セキュリティ		2		
○ Basic Control Engineering		2		
総合研究 I	4			
総合研究 II	4			
○ 数学科指導法 I		2		
○ 数学科指導法 II		2		
□ 情報科指導法 I		2		
□ 情報科指導法 II		2		

# 授 業 科 目

システム理工学部

## 【機械制御システム学科】

授 業 科 目		単 位 数			適 用
		必修	選択	自由	
基礎科目	○ 微 分 積 分 学 I	2			○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学) △…教科及び教科の指導法に関する科目(工業)
	○ 微 分 積 分 学 II	2			
	○ 線 形 代 数 I	2			
	○ 線 形 代 数 II		2		
	○ 微 分 方 程 式	2			
	○ 解 析 学 I		2		
	○ 解 析 学 II		2		
	○ 確 率 統 計		2		
	△ 一 般 力 学 I	2			
	△ 一 般 力 学 II		2		
	△ 物 理 学 I	2			
	△ 物 理 学 II		2		
	生 物 学 I		2		
	生 物 学 II		2		
	化 学 I		2		
	化 学 II		2		
	現 代 物 理 学 概 論		2		
△ Introduction to Electromagnetism		2			
システム・情報科	情 報 処 理 I (データサイエンス)	2			○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学) △…教科及び教科の指導法に関する科目(工業)
	○ 情 報 処 理 II	2			
	情 報 処 理 演 習 I (データサイエンス)	1			
	○ 情 報 処 理 演 習 II	1			
	△ システム工学A(システム計画方法論)	2			
	△ システム工学B(数理計画法)	2			
	システム工学C(データサイエンス)		2		
	△ システム工学演習A	1			
	△ システム工学演習B	1			
	システム工学演習C		2		
	創 意 的 学 習		2		
	SDGs マネジメント論		2		
	△ 信 頼 性 工 学		2		
	人 間 工 学		2		
	△ システム理工学入門		2		
	データサイエンス(応用)		2		
	AI 基 礎		1		
データサイエンスリテラシー		1			
Advanced Systems Science and Engineering		2			
○ システム科学		2			

# 授 業 科 目

システム理工学部

## 【機械制御システム学科】

授 業 科 目	単位数			適 用
	必修	選択	自由	
△ 機 械 力 学	2			○… 教科及び教科の指導法に関する科目(数学) △… 教科及び教科の指導法に関する科目(工業)
○ 振 動 工 学	2			
△ 材 料 力 学	2			
△ 応 用 材 料 力 学		2		
△ 流 れ 学	2			
△ 熱 力 学	2			
△ 機 械 工 学 実 験 I		2		
△ 機 械 工 学 実 験 II		2		
○ 数 値 流 体 力 学 概 論		2		
○ 機 械 シ ス テ ム 基 礎 数 学	2			
△ 計 測 工 学		2		
△ 基 礎 エ レ ク ト ロ ニ ッ ク ス		2		
○ Introduction to Control Engineering		2		
○ 制 御 工 学	2			
○ Basic Control Engineering		2		
○ 線 形 シ ス テ ム 基 礎 論		2		
△ 機 構 学	2			
△ 機 械 材 料 学		2		
△ 加 工 工 学		2		
△ 基 礎 製 図	2			
△ 設 計 製 図	2			
△ 応 用 設 計		2		
△ 応 用 設 計 演 習		1		
△ 機 械 工 学 実 習	2			
○ Introduction to Embedded Programming (International Training)		2		
○ メ カ ト ロ ニ ッ ク ス		2		
△ 自 動 車 工 学		2		
△ ロ ボ テ ィ ッ ク ス		2		
△ 感 覚 と 運 動 シ ス テ ム		2		
△ Introduction of Bioengineering		2		
△ Assistive Technology		2		
△ Biomedical Measurements		2		
△ Embedded Control Systems (International Training)		2		
△ Introduction to Industrial Design		2		
△ デ ザ イン エ ル ゴ ノ ミ ク ス		2		
△ 工 業 デ ザ イン 演 習		2		
△ 創 生 設 計		2		
△ 創 生 設 計 演 習		1		
△ 伝 熱 工 学		2		
数学 科 指 導 法 1		2		
数学 科 指 導 法 2		2		
工 業 科 指 導 法 1		2		
工 業 科 指 導 法 2		2		
△ も の づ く り 工 学		2		
エンジニアリング・プラクティスI		1		
エンジニアリング・プラクティスII		2		
△ 機 械 シ ス テ ム セ ミ ナ ー		2		
△ 総 合 研 究 I	4			
△ 総 合 研 究 II	4			

# 授 業 科 目

システム理工学部

## 【環境システム学科】

授 業 科 目		単位数			適 用
		必修	選択	自由	
基礎 科 目	○ 微 分 積 分 学 I	2			○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学)
	○ 微 分 積 分 学 II		2		
	○ 線 形 代 数 I	2			
	○ 線 形 代 数 II		2		
	○ 微 分 方 程 式	2			
	○ 解 析 学 I		2		
	○ 解 析 学 II		2		
	○ 確 率 統 計		2		
	一 般 力 学 I		2		
	一 般 力 学 II		2		
	物 理 学 I		2		
	物 理 学 II		2		
	生 物 学 I		2		
	生 物 学 II		2		
	化 学 I		2		
	化 学 II		2		
	現 代 物 理 学 概 論 Introduction to Electromagnetism		2		
シ ス テ ム ・ 情 報 科 目	○ 情 報 処 理 I (データサイエンス)	2			○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学)
	○ 情 報 処 理 II	2			
	○ 情 報 処 理 演 習 I (データサイエンス)	1			
	○ 情 報 処 理 演 習 II	1			
	システム工学A(システム計画方法論)	2			
	○ システム工学B(数理計画法)	2			
	システム工学C(データサイエンス)		2		
	システム工学演習A	1			
	○ システム工学演習B	1			
	システム工学演習C		2		
	創 る		2		
	SDGs マネジメント論		2		
	信 頼 性 工 学		2		
	人 間 工 学		2		
	システム理工学入門		2		
	データサイエンス(応用)		2		
	AI 基 礎		1		
データサイエンスリテラシー		1			
Advanced Systems Science and Engineering		2			
シ ス テ ム 科 学		2			



# 授 業 科 目

システム理工学部

【環境システム学科】

授 業 科 目		単位数			適 用
		必修	選択	自由	
専 門 科 目	環境システム入門	2			一般プログラム 専門科目の「選択」について、以下の単位を取得しなければならない。 ・「演習」科目：プログラム別選択必修3単位を含み8 単位以上 ただし、2年次前期、2年次後期、3 年次前期の各期の提供科目からそれぞれ 1 科目以上 ・「実習」科目：2 単位以上 ・専門科目の「英語による開講科目」：4 単位以上 卒業要件として、「環境システム応用演習A」、「環境システム応用演習B」、「Workshop on Planning, Architecture and Environmental Systems C」のいずれかを履修し、単位を取得しなければならない。
	○ 建築基礎演習		1		
	環境・都市基礎演習		1		
	International Environmental Field Experience 1		2		
	International Environmental Field Experience 2		2		
	Basic Studies of Planning, Architecture and Environmental Systems 1		2		
	Basic Studies of Planning, Architecture and Environmental Systems 2		2		
	環境システム応用演習 A		3		
	環境システム応用演習 B		3		
	環境システム総論	2			
	建設プロジェクトマネジメント		2		
	International Workshop on Environmental Planning and Design 1		2		
	International Workshop on Environmental Planning and Design 2		2		
	社会実習 I		1		
	社会実習 II		2		
	総合研究 I	4			
	総合研究 II	4			
	Environmental Research Seminar 1		2		
	Environmental Research Seminar 2		2		
	建築史		2		
	建築計画基礎	2			
	○ 建築設計情報演習		2		
	○ 建築デジタルデザイン		2		
	居住環境デザイン		2		
	○ 居住環境デザイン演習		2		
	建築構造基礎	2			
	建築構造力学 I		2		
	建築構造力学 II		2		
	建築構造設計		2		
	○ 建築構造システム演習		1		
	建築材料		2		
	建築生産・施工		2		
	都市及び都市計画史		2		
都市計画基礎	2				
都市計画演習		1			
○ 土地利用計画演習		2			
都市・地域システム計画		2			
○ 交通システム計画		2			
Planning for Community Resilience		2			
○ 環境システム解析演習		1			
環境政策論		2			
環境教育・市民活動論		2			
都市環境管理		2			
○ 資源・エネルギーシステム論		2			
○ 地理情報科学		2			
○ 応用測量学		2			
都市住宅論		2			
都市環境デザイン	2				
都市環境デザイン演習		2			

○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学)

# 授 業 科 目

システム理工学部

**【環境システム学科】**

授 業 科 目		単位数			適 用
		必修	選択	自由	
専 門 科 目	建 築 ・ 都 市 法 規		2		○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学)
	Architecture and Environmental Design		2		
	Architectural Design Studio		2		
	建 築 ・ 環 境 デ ザ イ ン 演 習		2		
	環 境 フ ィ ー ル ド 体 験		1		
	環 境 フ ィ ー ル ド 実 習		1		
	Basic Urban Infrastructure Engineering		2		
	景 観 ・ ラ ン ド ス ケ ー プ デ ザ イ ン		2		
	都 市 環 境 基 盤 計 画	2			
	Environmentally Sustainable Engineering		2		
	Environmentally Sustainable Analysis		2		
	Environmental Land Use Planning		2		
	Environmental Field Survey A		1		
	Environmental Field Survey B		1		
	Urban and Regional Studies		2		
	History of Housing and Interior Design		2		
	Studio:Environmental Land Use Planning		2		
	Architectural Planning and Design		2		
	International Development Engineering		2		
	Spatial Modeling and Analysis		2		
Workshop on Planning, Architecture and Environmental Systems C		3			
○ Introduction to Embedded Programming (International Training)		2			
建 築 環 境 工 学	2				
建 築 設 備 学		2			
SDGs ・ 環 境 マ ネ ジ メ ン ト 実 習		2			

# 授 業 科 目

システム理工学部

## 【生命科学科】

授 業 科 目		単位数			適 用
		必修	選択	自由	
基 礎 科 目	○ 微 分 積 分 学 I	2			○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学) △…教科及び教科の指導法に関する科目(工業) ☆…教科及び教科の指導法に関する科目(理科)
	○ 微 分 積 分 学 II		2		
	○ 線 形 代 数 I	2			
	○ 線 形 代 数 II		2		
	○ 微 分 方 程 式	2			
	○ 解 析 学 I		2		
	○ 解 析 学 II		2		
	○ 確 率 統 計		2		
	△ 一 般 力 学 I		2		
	☆ 一 般 力 学 II		2		
	△ 物 理 学 I		2		
	☆ 物 理 学 II		2		
	☆ 生 物 学 I		2		
	☆ 生 物 学 II		2		
	△ 化 学 I		2		
	☆ 化 学 II		2		
	☆ 現 代 物 理 学 概 論		2		
	△ Introduction to Electromagnetism		2		
シ ス テ ム ・ 情 報 科 目	○ 情 報 処 理 I	2			○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学) △…教科及び教科の指導法に関する科目(工業)
	△ 情 報 処 理 II	2			
	○ 情 報 処 理 演 習 I	1			
	△ 情 報 処 理 演 習 II	1			
	△ システム工学A(システム計画方法論)	2			
	△ システム工学B(数理計画法)	2			
	システム工学C(データサイエンス)		2		
	△ システム工学演習A	1			
	△ システム工学演習B	1			
	システム工学演習C		2		
	創 意 的 学 習		2		
	△ SDGs マネジメント論		2		
	信 頼 性 工 学		2		
	△ 人 間 工 学		2		
	△ システム理工学入門		2		
	データサイエンス(応用)		2		
	AI 基 礎		1		
	データサイエンスリテラシー		1		
Advanced Systems Science and Engineering		2			
シ ス テ ム 科 学		2			

# 授 業 科 目

システム理工学部

**【生命科学科】**

授 業 科 目	単位数			適 用
	必修	選択	自由	
☆ 生命科学概論		2		○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学) △…教科及び教科の指導法に関する科目(工業) ☆…教科及び教科の指導法に関する科目(理科)
☆ 解剖学		2		
☆ 理学 I		2		
☆ 理学 II		2		
☆ 分子生物学		2		
☆ 医学概論		2		
☆ 微生物学		2		
☆ 発生遺伝学		2		
☆ 環境化学		2		
☆ 公衆衛生学		2		
☆ 生命倫理		2		
○ 生命統計学		2		
☆ 生化学		2		
△ 生体計測学		2		
☆ Advanced Bioscience		2		
△ Assistive Technology		2		
☆ Genetic Engineering		2		
☆ Basic Biology		2		
グローバル課題解決実習		1		
△ キャリアデザイン		2		
インターシッ		1		
総合研究 I	4			
総合研究 II	4			
☆ Basic Molecular Biology		2		
☆ 無機化学		2		
☆ 物理化学		2		
☆ 分析化学		2		
☆ 有機化学 I		2		
☆ 有機化学 II		2		
☆ 生体高分子工学		2		
☆ 食品栄養学		2		
☆ 細胞生理学		2		
☆ 環境生物学		2		
△ 応用生物工学		2		
☆ 医薬化学概論		2		
△ 生命科学実験 A		3		
△ 生命科学実験 B		3		
☆ 生命科学実験 C		3		
△ 応用生命科学実験		2		
☆ 機械力学		2		
△ 材料力学		2		
△ 流れ		2		
☆ 電気回路		2		
△ 生体力学		2		
△ 機械設計製作演習		3		
○ 制御工学		2		
△ 電子回路		2		
○ メカトロニクス		2		
○ 医工学プログラミング演習		2		
△ 医療福祉機器設計演習		3		
△ 生体材料学		2		
○ C A D / C A M 演習		2		
△ 福祉リハビリテーション工学		2		
○ 医用画像工学		2		
△ 生命医工学セミナー		2		
☆ 生命医工学実験 I		3		
☆ 生命医工学実験 II		3		
○ Introduction to Embedded Programming (International Training)		2		
△ Introduction of Bioengineering		2		
○ Basic Control Engineering		2		
○ Introduction to Control Engineering		2		
○ Embedded Control Systems (International Training)		2		
数学科指導法		1		
数学科指導法		2		
理学科指導法		1		
理学科指導法		2		
情報科指導法		1		
情報科指導法		2		

# 授 業 科 目

システム理工学部

## 【数理科学科】

授 業 科 目		単位数			適 用
		必修	選択	自由	
基礎 科 目	○ 微 分 積 分 学 I	2			○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学)
	○ 微 分 積 分 学 II		2		
	○ 線 形 代 数 I	2			
	○ 線 形 代 数 II		2		
	○ 微 分 方 程 式	2			
	○ 解 析 学 I	2			
	○ 解 析 学 II		2		
	○ 確 率 統 計		2		
	一 般 力 学 I	2			
	一 般 力 学 II		2		
	物 理 学 I		2		
	物 理 学 II		2		
	生 物 学 I		2		
	生 物 学 II		2		
	化 学 I		2		
	化 学 II		2		
現 代 物 理 学 概 論 Introduction to Electromagnetism			2		
シ ス テ ム ・ 情 報 科 目	<input type="checkbox"/> ○ 情 報 処 理 I	2			○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学) <input type="checkbox"/> …教科及び教科の指導法に関する科目(情報)
	<input type="checkbox"/> ○ 情 報 処 理 II	2			
	<input type="checkbox"/> ○ 情 報 処 理 演 習 I	1			
	<input type="checkbox"/> ○ 情 報 処 理 演 習 II	1			
	<input type="checkbox"/> システム工学A(システム計画方法論) システム工学B(数理計画法)	2			
	<input type="checkbox"/> システム工学C(データサイエンス)		2		
	<input type="checkbox"/> システム工学演習A	1			
	システム工学演習B	1			
	<input type="checkbox"/> システム工学演習C		2		
	創 意 的 学 習		2		
	SDGs マネジメント論		2		
	信 頼 性 工 学		2		
	人 間 工 学		2		
	システム理工学入門		2		
	データサイエンス(応用)		2		
	AI 基 礎		1		
データサイエンスリテラシー Advanced Systems Science and Engineering			2		
シ ス テ ム 科 学			2		

# 授 業 科 目

システム理工学部

## 【数理科学科】

	授 業 科 目	単位数			適 用
		必修	選択	自由	
専 門 科 目	基礎数理セミナー	2			○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学) □…教科及び教科の指導法に関する科目(情報)
	○ 数 学 基 礎	2			
	Practical English in Mathematical Sciences		2		
	国際数理科学実習 I		2		
	国際数理科学実習 II		2		
	○ Topics in Pure and Applied Mathematics		2		
	○ 数 理 科 学 特 論 A		1		
	○ 数 理 科 学 特 論 B		1		
	○ 数 理 科 学 特 論 C		1		
	○ 数 理 科 学 特 論 D		1		
	数理科学セミナー	2			
	数学科指導法 1		2		
	数学科指導法 2		2		
	情報科指導法 1		2		
	情報科指導法 2		2		
	総合研究 I	4			
	総合研究 II	4			
	○ 代 数 学 I	2			
	○ 代 数 学 II		2		
	○ 代 数 学 III		2		
	○ Introduction to Applied Algebra		2		
	○ 幾 何 学 I	2			
	○ 幾 何 学 II		2		
	○ 幾 何 学 III		2		
	○ Introduction to Advanced Mathematics		2		
	○ 解 析 基 礎		2		
	○ Calculus with Differential Equations		2		
	○ Linear Space and Vector Calculus		2		
	○ 関 数 方 程 式 論		2		
	○ 関 数 解 析		2		
	○ 解 析 学 III		2		
	□ ○ Topics in Numerical Analysis		2		
	○ 応 用 解 析		2		
	□ ○ 数 値 解 析 I		2		
□ ○ 数 値 解 析 II		2			
□ ○ 制 御 理 論 基 礎		2			
○ 数 理 計 画 法		2			
○ 現 象 の 数 理		2			
□ ○ Advanced Control Theory		2			
□ ○ シミュレーション		2			
○ 数 理 科 学 特 別 講 義		2			
□ ○ データ構造とアルゴリズム		2			
□ ○ プログラミング演習		2			
□ ○ 記 号 処 理		2			
□ ○ 計 算 理 論		2			
○ 計 算 機 代 数		2			
○ 多 変 量 解 析		2			
○ 確 率 統 計 学 特 論		2			
○ 金 融 ・ 保 険 数 理		2			

# 授 業 科 目

システム理工学部

## 【教職課程】

システム理工学部 電子情報システム学科 機械制御システム学科 環境システム学科  
生命科学科 数理科学科

授 業 科 目		単位数			摘 要
		必修	選択	自由	
教育の基礎的理解に関する科目	教育原論		2		共通科目(総合科目)
	教育の近現代史		2		共通科目(総合科目)
	教育心理学		2		共通科目(総合科目)
	教育社会学		2		共通科目(総合科目)
	教職論		2		共通科目(教職科目)
	特別支援教育論		1		共通科目(教職科目)
	教育課程論		2		共通科目(総合科目)
	総合的な学習の時間の指導法			1	
	道徳の理論及び指導法			2	
	特別活動の指導法			1	
	教育の方法及び技術		1		共通科目(教職科目)
	教育におけるICT活用		1		共通科目(教職科目)
	生徒・進路指導論		2		共通科目(教職科目)
	教育相談論		2		共通科目(総合科目)
	事前・事後指導			1	
	教職インターンシップ1			1	
	教職インターンシップ2			1	
	教育実習1			2	
	教育実習2			2	
教職実践演習(中・高)			2		
教科及び教科の指導法に関する科目	○数学科指導法1		2	2	環境システム学科は、自由科目
	○数学科指導法2		2	2	環境システム学科は、自由科目
	○数学科指導法3			2	
	○数学科指導法4			2	
	☆理科指導法1		2		
	☆理科指導法2		2		
	☆理科指導法3			2	○…教科及び教科の指導法に関する科目(数学)
	☆理科指導法4			2	☆…教科及び教科の指導法に関する科目(理科)
	☆物理学実験			1	△…教科及び教科の指導法に関する科目(工業)
	☆化学実験			1	□…教科及び教科の指導法に関する科目(情報)
	☆地学実験			1	
	△工業科指導法1		2		
	△工業科指導法2		2		
	△職業指導			2	
	△システム理工学入門		2		
	□情報科指導法1			2	
□情報科指導法2			2		
道徳の理論及び指導法			2	高等学校免許状の課程のみ適用	
設定する独自に	人間関係論		2		共通科目(教職科目)

# 教育職員免許状の種類・専門科目及び単位数

## 1. 教育職員免許状の種類・教科

学部	学科名	免許状の種類	教科名
システム テ ム 理 工 学 部	電子情報 システム学科	中学校教諭一種免許状	数学
		高等学校教諭一種免許状	数学・情報
	機械制御 システム学科	中学校教諭一種免許状	数学
		高等学校教諭一種免許状	数学・工業
	環境 システム学科	中学校教諭一種免許状	数学
		高等学校教諭一種免許状	数学
	生命科学科	中学校教諭一種免許状	数学・理科
		高等学校教諭一種免許状	数学・理科・工業
	数理科学科	中学校教諭一種免許状	数学
		高等学校教諭一種免許状	数学・情報

## 2. 教員免許状取得に要する教科別単位数

所要 資格等 免許状 の種類	基礎資格	免許状取得に必要な最低修得単位数			
		教科及び教科の指導法に 関する科目		教育の基礎的 理解に関する 科目	大学が独自に 設定する科目
		教科名	単位数		
中学校教諭 一種免許状	学士の学位を有すること  日本国憲法 体育 外国語コミュニケーション 情報機器の操作 } それぞれ2単位 取得を要する	数 学	28単位以上	28単位	3単位
		理 科	28単位以上		
高等学校教諭 一種免許状	学士の学位を有すること  日本国憲法 体育 外国語コミュニケーション 情報機器の操作 } それぞれ2単位 取得を要する	数 学	24単位以上	24単位	11単位
		理 科	24単位以上		
		情 報	24単位以上		
		工 業	24単位以上		



3. 教育の基礎的理解に関する科目および大学が独自に設定する科目

授業科目名	資格・教科		高等学校教諭一種免許状			
	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状	数学	理科	情報	工業
教職論 ●	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
教育原論 ○	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
教育の近現代史 ○	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
教育心理学 ○	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
特別支援教育論 ●	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
教育社会学 ○	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
教育課程論 ○	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
道徳の理論及び指導法	2単位	2単位	2単位*	2単位*	2単位*	2単位*
総合的な学習の時間の指導法	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
特別活動の指導法	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
教育の方法及び技術 ●	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
教育におけるICT活用 ●	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
生徒・進路指導論 ●	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
教育相談論 ○	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
人間関係論 ●	2単位*	2単位*	2単位*	2単位*	2単位*	2単位*
事前・事後指導	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
教育実習 1	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
教育実習 2	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位
教職実践演習(中・高)	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位	2単位

○共通科目(総合科目)

●共通科目(教職科目)

\*大学が独自に設定する科目

4. 教科及び教科の指導法に関する科目

教科名	施行規則に定める科目区分等	修得単位数	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
数 学	代数学 幾何学 解析学 確率論・統計学 コンピュータ 各教科の指導法	計20単位以上 計8単位	計20単位以上 計4単位以上
	物理学 化学 生物学 地学 各教科の指導法		
情 報	情報社会・情報倫理 コンピュータ・情報処理 情報システム 情報通信ネットワーク マルチメディア表現・マルチメディア技術 情報と職業 各教科の指導法	計20単位以上 計4単位	計20単位以上 計4単位
	職業指導 工業の関係科目 各教科の指導法		

別表5

## 授 業 科 目

デザイン工学部

【デザイン工学科】

授 業 科 目	単位数			適 用
	必修	選択	自由	
全学共通科目	ダイバーシティ入門		2	
	芝浦工業大学通論		2	
	消費者行動論		2	
	マーケティング概論		2	
	デジタルプレゼンテーション		2	
	Japanese Language I			2
	Japanese Language II			2
	Japanese Language III			2
Japanese Language IV			2	

授 業 科 目	単位数			適 用	
	必修	選択	自由		
人文系	哲学（存在と心）		2	△…教科及び教科の指導法に関する科目（工業）	
	工 学 倫 理		2		
	民 俗 学		2		
	△ 環 境 学		2		
	科 学 技 術 論		2		
	近 現 代 史		2		
	体 育 講 義		2		
	体 育 実 技 論		1		
	比 較 文 化 論		2		
	△ エ コ ロ ジ		2		
	哲 学（知識と言語）		2		
	美 学 ・ 美 術 史		2		
	現 代 文 芸 論		2		
	Engineering Ethics		2		
	社会科学系	経 済 学			2
		社 会 学 / 社 会 情 報 学			2
行 動 科 学			2		
法 学			2		
日 本 国 憲 法			2		
政 治 と 国 際 関 係			2		
アントレプレナーシップ入門			2		
アントレプレナーシップ応用			2		
共通科目	地 域 志 向 型 デ ザ イ ン		1	2	
	地 域 創 生 デ ザ イ ン 実 習				
キャリア系	△ キャリアプラン		1		
	△ キャリア・デザイン		1		
	海 外 工 学 英 語 研 修		1		
	グ ロー バ ル P B L 1		1		
	グ ロー バ ル P B L 2		1		
グ ロー バ ル P B L 3		1			
教育系	教 育 原 理 論		2		
	教 育 心 理 学		2		
	教 育 の 近 現 代 史		2		
	人 間 関 係 論		2		
	教 職 論		2		
	特 別 活 動 の 指 導 法		1		
	道 徳 の 理 論 及 び 指 導 法		2		
	総 合 的 な 学 習 の 時 間 の 指 導 法		1		
	△ 工 業 科 指 導 法 1		2		
	△ 工 業 科 指 導 法 2		2		
	教 育 課 程 論		2		
	教 育 の 方 法 及 び 技 術		1		
	教 育 に お け る I C T 活 用		1		
	教 育 社 会 学		2		
生 徒 ・ 進 路 指 導 論		2			
教 育 相 談 論		2			
△ 工 学 基 礎 概 論		2			
特 別 支 援 教 育 論		1			
外国語	基 礎 中 国 語		2	英語科目以外	
	中 国 語 表 現		2		
	総 合 英 語 表 現		2	英語科目	
	英 語 講 義 1		2		
	英 語 講 義 2		2		
	ラ イ テ ィ ン グ		2		
	テ ク ニ カ ル イ ン グ リ ッ シ ュ		2		
	英 語 プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン		2		
	ビ ジ ネ ス 英 語		2		
	英 語 圏 の 言 語 と 文 化		2		
英 語 圏 の 言 語 と 文 化 (短 期 プ ロ グ ラ ム)		1			

# 授 業 科 目

デザイン工学部

【デザイン工学科】

授 業 科 目		単位数			適 用	
		必修	選択必修	選択		
データ・サイエンス科目	データ解析	線形代数 1	2			△…教科及び教科の指導法に関する科目（工業）
		微積分学 1	2			
		Differential and Integral Calculus 1	2			
		統計学基礎	1			
		数理計画法			2	
		数理モデリング			2	
		数値解析			2	
		計量経済学			2	
	シミュレーション工学			2		
	マーケティング・リサーチ			2		
	△ データマイニング			2		
	データ・サイエンス	データ・サイエンス入門	1			
		基礎力学			2	
		集合と論理			2	
線形代数 2				2		
微積分学 2				2		
△ 物理学（電磁気）				2		
△ 工業力学・静力学				2		
データサイエンスリテラシー				1		
△ 工業力学・動力学			2			
データ・サイエンス演習			1			
ベクトル解析			2			
フーリエ変換			1			
ゲーム理論			2			
デザイン科目	デザインリテラシー	△ ものづくり概論	2			
		△ デザイン基礎表現演習	2			
		△ 構想デザイン入門	2			
		△ 構想デザイン論	2			
		△ 認知心理学入門			2	
		△ デザイン史			2	
		△ ユニバーサルデザイン			2	
		△ 人間工学			1	
		インターフェースデザイン			1	
		サービスデザイン			2	
	論文作成演習			2		
	△ デザインマネジメント			2		
	△ プロモーション計画論			2		
	ビジネスメイキング	組織心理学			2	
経営学				2		
プレゼンテーション				2		
企業倫理				2		
マーケティング				2		
財務会計				2		
ビジネスモデル論			2			
エンジニアリング科目	プロダクトデザイン	△ 造形基礎演習		2		
		△ 構成基礎演習		2		
		△ プロダクトデザイン		2		
		△ プロダクトデザイン演習1		2		
		△ プロダクトデザイン演習2		2		
		△ エモーショナルデザイン		2		
機能デザイン	S D G s 入門			2		
	3 D C A D			2		
	機構設計学			2		
	△ 有限要素法			2		
	△ 基礎熱力学			2		
	△ 基礎流体力学			2		
	△ 熱流体シミュレーション			2		
	△ 機械要素設計			2		

# 授 業 科 目

デザイン工学部

【デザイン工学科】

授 業 科 目		単位数			適 用
		必修	選択必修	選択	
デザイン工学部 【デザイン工学科】	メカニカルデザイン	△基礎製図演習		2	△…教科及び教科の指導法に関する科目（工業）
		△化学工学		2	
		△材料工学		2	
		△ものづくり実習		2	
		△機械工学		2	
		△金型工学		2	
		△生産加工学		2	
	△エコマテリアル		2		
	エンジニアリングデザイン	△情報表現基礎演習		2	
		△UXデザイン		2	
		△UXデザイン演習		2	
		△色彩論		2	
		△Color Theory		2	
		△コンテンツデザイン		2	
		△コンテンツデザイン演習		2	
	△情報デザイン論 Information Design		2		
	ソフトウェア	△情報処理演習		2	
		△プログラミング1		2	
		△プログラミング2		2	
		△コンピュータアーキテクチャ		2	
		△データ構造とアルゴリズム		2	
		△オブジェクト指向プログラミング		2	
		△オブジェクト指向プログラミング演習		1	
	△ソフトウェア設計論		2		
	△ソフトウェア設計論演習		1		
	△要求工学		2		
	ロボティクス	△電気回路		2	
△基礎エレクトロニクス			2		
△デジタル回路			2		
△ロボット製作演習			2		
△計測工学			1		
△制御工学			1		
△信号処理			1		
△モーションコントロール		2			
△人工知能		2			
△ロボティクス		2			
プロジェクト科目	プロジェクト演習1			2	
	プロジェクト演習2			2	
	プロジェクト演習3			2	
	プロジェクト演習4			2	
	プロジェクト演習5			2	
	プロジェクト演習6			2	
	プロジェクト演習7			2	
	プロジェクト演習8			2	
	プロジェクト演習9			2	
	プロジェクト演習10			2	
	プロジェクト演習11			2	
	プロジェクト演習12			2	
	プロジェクト演習13			2	
	プロジェクト演習14			2	
	プロジェクト演習15			2	
	プロジェクト演習16			2	
	プロジェクト研究	2			
	総合プロジェクト1	6			
	総合プロジェクト2	6			

# 授 業 科 目

デザイン工学部

## 【教職課程】

デザイン工学部 デザイン工学科

授 業 科 目		単位数			摘 要
		必修	選択	自由	
教育の基礎的理解に関する科目	教 職 論		2		共通教養科目
	教 育 原 論		2		共通教養科目
	教 育 心 理 学		2		共通教養科目
	教 育 の 近 現 代 史		2		共通教養科目
	教 育 課 程 論		2		共通教養科目
	教 育 社 会 学		2		共通教養科目
	特 別 支 援 教 育 論		1		共通教養科目
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教 育 の 方 法 及 び 技 術		1		共通教養科目
	教 育 に お け る I C T 活 用		1		共通教養科目
	特 別 活 動 の 指 導 法		1		共通教養科目
	道 徳 の 理 論 及 び 指 導 法		2		共通教養科目
	生 徒 ・ 進 路 指 導 論		2		共通教養科目
	教 育 相 談 論		2		共通教養科目
	総 合 的 な 学 習 の 時 間 の 指 導 法		1		共通教養科目
教育実践に関する科目	事 前 ・ 事 後 指 導			1	
	教 育 実 習 1			2	
	教 育 実 習 2			2	
	教 職 実 践 演 習 ( 中 ・ 高 )			2	
大学が独自に設定する科目	人 間 関 係 論		2		共通教養科目
教科及び教科の指導法に関する科目	工 学 基 礎 概 論		2		共通教養科目
	工 業 科 指 導 法 1		2		共通教養科目
	工 業 科 指 導 法 2		2		共通教養科目
職業指導	職 業 指 導			2	共通教養科目
施行規則第66条の6に定める科目	情 報 機 器 の 操 作			2	

# 教育職員免許状の種類・教職課程開設科目及び修得単位数

## 1. 教育職員免許状の種類・教科

学部	学科名	免許状の種類	教科名
デザイン工学部	デザイン工学科	高等学校教諭一種免許状	工業

## 2. 教員免許状取得に要する教科別単位数

所要資格等 免許状の種類	基礎資格	専門教育科目の最低単位数			
		教科及び教科の指導法に関する科目		教育の基礎的理解に関する科目	大学が独自に設定する科目
		教科名	単位数		
高等学校教諭 一種免許状	学士の称号を有すること 日本国憲法 体育 外国語コミュニケーション 情報機器の操作	工業	24単位以上	24単位	11単位

## 3. 教育の基礎的理解に関する科目及び大学が独自に設定する科目

授業科目名	資格・教科	高等学校教諭一種免許状
		工業
教育原論 ※		2単位
教育の近現代史 ※		2単位
教職論 ※		2単位
教育社会学 ※		2単位
教育心理学 ※		2単位
特別支援教育論 ※		1単位
教育課程論 ※		2単位
道徳の理論及び指導法 ※		2単位
総合的な学習の時間の指導法 ※		1単位
特別活動の指導法 ※		1単位
教育の方法及び技術 ※		1単位
教育におけるICT活用 ※		1単位
生徒・進路指導論 ※		2単位
教育相談論 ※		2単位
事前・事後指導		1単位
教育実習 1		2単位
教育実習 2		2単位
教職実践演習(中・高)		2単位
人間関係論 ※		2単位

※共通教養科目

## 4. 教科及び教科の指導法に関する科目

教科名	施行規則に定める科目区分等	修得単位数
		高等学校教諭一種免許状
工業	職業指導 工業の関係科目 各教科の指導法 計	計20単位以上
		4単位
		24単位以上

## 別表6

## 授 業 科 目

建築学部

全学共通科目群【建築学科】

授 業 科 目 名	単 位 数			摘 要
	必 修	選 択	自 由	
芝 浦 工 業 大 学 通 論		2		
ダ イ バ ー シ テ ィ 入 門		2		
ア ン ト レ プ レ ナ ー シ ッ プ 入 門		2		
ア ン ト レ プ レ ナ ー シ ッ プ 応 用		2		
消 費 者 行 動 論		2		
マ ー ケ テ ィ ン グ 概 論		2		
デ ジ タ ル プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン		2		
Japanese Language I			2	
Japanese Language II			2	
Japanese Language III			2	
Japanese Language IV			2	

# 授 業 科 目

建築学部

基礎・教養科目群：数理基礎科目／外国語科目【建築学科】

授 業 科 目 名		単 位 数			摘 要
		必 修	選 択	自 由	
数 理 基 礎 目 録	数 学 科 目	線 形 代 数 1		2	
		線 形 代 数 2		2	
		微 分 積 分 1		4	
		微 分 積 分 2		4	
		統 計 学 基 礎	1		
		微 分 方 程 式		2	
		ベ ク ト ル 解 析		2	
		応 用 解 析 概 論		2	
理 科 目 録	科 目	物 理 学 入 門		2	
		基 礎 力 学		2	
		基 礎 力 学 演 習		2	
		基 礎 環 境 化 学		2	
		基 礎 熱 統 計 力 学		2	
		基 礎 熱 統 計 力 学 演 習		2	
外 国 語 科 目 録	英 語 科 目	Listening and Speaking		2	
		Reading and Writing		2	
		TOEIC 1		2	
		TOEIC 2		2	
		Reading		2	
		Writing		2	
		Presentation I		2	
		Presentation II		2	

※「学外英語検定」(2単位)は学科課程外科目。なお、学科課程外科目のうち「海外語学演習(短期)1」(1単位)、「海外語学演習(短期)2」(1単位)、「海外語学演習(短期)3」(1単位)、「海外語学演習(短期)4」(1単位)、「海外語学演習1」(2単位)、「海外語学演習2」(2単位)、「海外語学演習3」(2単位)、「海外語学演習4」(2単位)は、4単位を上限に卒業要件に算入されます。



# 授 業 科 目

建築学部

基礎・教養科目群：人文社会・情報系教養科目【建築学科】

授 業 科 目 名		単 位 数			摘 要
		必 修	選 択	自 由	
人 文 社 会 ・ 情 報 系 科 目	応 用 経 済 学		2		
	情報アクセシビリティ論		2		
	映像メディア論		2		
	情報時代の地域・都市		2		
	生産と消費の環境論		2		
	人間社会と環境問題		2		
	地域と環境		2		
	福祉と技術		2		
	ジェンダー論		2		
	哲学・倫理学		2		
	技術者の倫理		2		
	生命倫理		2		
	現代日本の社会		2		
	グローバリゼーション論		2		
	芸術学		2		
	文化人類学		2		
	比較文化論		2		
	都市と文学		2		
	日本国憲法		2		
	知的財産法		2		
	法学入門		2		
	民法		2		
	地方自治論		2		
	現代の日本経済		2		
	社会学		2		
	地域社会学		2		
	プレゼンテーション入門		2		
	レポートライティング		2		
地域・社会調査入門		2			
地域と経済		2			
情報リテラシー		2			
経済学		2			
データサイエンスリテラシー		1			

# 授 業 科 目

建築学部

基礎・教養科目群：体育・健康科目【建築学科】

授業科目名		単 位 数			摘 要
		必 修	選 択	自 由	
体 育 ・ 健 康 科 目	ウェルネス・スポーツ (テクニカル)		1		
	ウェルネス・スポーツ (スポーツコミュニケーション)		1		
	バスケットボール (テクニカル)		1		
	バスケットボール (スポーツコミュニケーション)		1		
	軟式野球 (テクニカル)		1		
	軟式野球 (スポーツコミュニケーション)		1		
	卓球 (テクニカル)		1		
	卓球 (スポーツコミュニケーション)		1		
	サッカー (スポーツコミュニケーション)		1		
	テニス (テクニカル)		1		
	テニス (スポーツコミュニケーション)		1		
	フットサル (テクニカル)		1		
	フットサル (スポーツコミュニケーション)		1		
	フラッグフットボール (スポーツコミュニケーション)		1		
	ソフトボール (テクニカル)		1		
	ソフトボール (スポーツコミュニケーション)		1		
	バドミントン (テクニカル)		1		
	バドミントン (スポーツコミュニケーション)		1		
	バレーボール (スポーツコミュニケーション)		1		
	スキー (スポーツコミュニケーション)		1		
	ゴルフ		2		
	フィットネスA		1		
	フィットネスB		1		
	身体運動のバイオメカニクス		2		
	スポーツ生理学		2		
	スポーツ健康学		2		
ヘルスリテラシー&スポーツコミュニケーション		2			
ヘルスコンディショニング演習		2			

# 授 業 科 目

建築学部

専門科目群【建築学科】

授 業 科 目 名		単 位 数			摘 要
		必修	選択	自由	
建築デザイン基礎	1	2			
建築デザイン入門			2		
居住空間の基礎			2		
建築デザインの基礎	2				
建築の形態と空間		2			
建築環境工学	1	2			
構造力学・演習	3				
建築計画			2		
空間建築デザイン演習	1		2		
都市建築デザイン演習	1		2		
建築もづくり			2		
建築スタジオ演習	1		2		
住生活			2		
CAD・CG演習			2		
都市地域計画			2		
建築環境工学	2		2		
材料力学・演習			3		
建築構造計画			2		
構造材料			2		
空間建築デザイン演習	2		2		
建築設計計画論			2		
都市建築デザイン演習	2		2		
建築計画画	1		2		
西洋建築史			2		
建築スタジオ演習	2		2		
プロジェクト研究	1		2		
色彩・素材論			2		
建築環境心理			2		
日本建築史			2		
BIM演習	1		2		
建築設計			2		
建築構造解析・演習			3		
仕上げ材料			2		
建築エネルギー計画			2		
空間建築デザイン演習	3		2		
建築設計論			2		
地域設計			2		
建築構法			2		
都市建築デザイン演習	3		2		
地域マネジメント			2		
木造建築			2		
建築スタジオ演習	3		2		
プロジェクト研究	2		2		
BIM演習	2		2		
空調システム計画			2		
都市環境設備計画			2		
建築振動解析			2		
鉄筋コンクリート造の設計	1		2		
鋼構造の設計			2		
建築環境実験			2		
空間建築デザイン演習	4 A		1		
空間建築デザイン演習	4 B		1		
近代建築と技術			2		
ユニバーサル施設計画論			2		
建築法			2		
都市住宅			2		
建築生産			2		
建築材料施工実験			2		
建築構造実験			2		
都市建築デザイン演習	4 A		1		
都市建築デザイン演習	4 B		1		
建築環境学			2		

# 授 業 科 目

建築学部

専門科目群【建築学科】

授 業 科 目 名		単 位 数			摘 要
		必修	選択	自由	
専 門 科 目	都市地域デザイン演習		2		
	近代建築作家論		2		
	都市デザイン論		2		
	建築プロジェクトマネジメント		2		
	建築構工法1		2		
	建築材料構造実験		2		
	建築スタジオ演習4 A		1		
	建築スタジオ演習4 B		1		
	空間情報デザイン演習3		2		
	プロジェクト研究3		2		
	建築英語		2		
	G I S 演習		2		
	プロジェクトゼミ		2		
	建築音響計画		2		
	給排水システム計画		2		
	光環境計画		2		
	基礎構造		2		
	鉄筋コンクリート設計2		2		
	マトリックス構造解析		2		
	建築防災		2		
	空間地域デザイン演習		1		
	ランドスケープ論		2		
	建築文化史		2		
	施設計画・管理		2		
	木建築の設計		2		
	建築計画画		2		
	建築・都市法規		2		
	都市再生マネジメント		2		
	近代建築史		2		
	建築経		2		
	建築構工法2		2		
	建築保全再生計画		2		
	卒業研究1	2			
	卒業研究2	2			
	維持保全・改修		2		
	建築家職能論		2		
	都市防災計画		2		
	海外建築研		2		
	国内プロジェクト1		1		
	国内プロジェクト2		1		
	国内プロジェクト3		1		
	国内プロジェクト4		1		
	インターンシップ1		1		
	インターンシップ2		1		
	国際ワークショップ1 A		1		
	国際ワークショップ2 A		1		
	国際ワークショップ3 A		1		
	国際ワークショップ4 A		1		
	国際ワークショップ1 B		1		
	国際ワークショップ2 B		1		
	国際ワークショップ3 B		1		
	国際ワークショップ4 B		1		
	韓国建築実習 A		2		
	韓国建築実習 B		2		
	フランス建築実習 A		2		
フランス建築実習 B		2			
イタリア・ラクイラ建築実習 A		2			
イタリア・ラクイラ建築実習 B		2			
イタリア・ローマ建築実習 A		2			
イタリア・ローマ建築実習 B		2			
ロシア建築実習 A		2			
ロシア建築実習 B		2			
国内ワークショップ1		1			
国内ワークショップ2		1			
国内ワークショップ3		1			
国内ワークショップ4		1			

## 別表7

## 学部・課程・学科別卒業要件（取得単位数）

## 工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

ただし、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

各課程の卒業要件を満たし、124単位以上を取得すること。またGPA2.0以上であること。

なお、卒業要件に関する履修上の注意事項は別途定める。

## 機械工学課程

## 基幹機械コース

基礎・教養 科目	数理基礎科目	数学科目	必修19単位を含み27単位以上
		物理学科目	
		化学科目	
	英語科目	必修4単位を含み8単位以上	
	情報科目	必修2単位以上	
	人文社会系教養科目	必修2単位を含み6単位以上	
	体育健康科目	必修1単位以上	
共通教養科目	-		
専門科目	共通専門科目	必修2単位以上	
	自コース科目	必修26単位を含み62単位以上	
	他コース科目	-	
総単位			124単位以上

## 先進機械コース

基礎・教養 科目	数理基礎科目	数学科目	必修19単位を含み27単位以上
		物理学科目	
		化学科目	
	英語科目	必修4単位を含み8単位以上	
	情報科目	必修3単位以上	
	人文社会系教養科目	必修2単位を含み6単位以上	
	体育健康科目	必修1単位以上	
共通教養科目	-		
専門科目	共通専門科目	必修2単位以上	
	自コース科目	必修28単位を含み60単位以上	
	他コース科目	-	
総単位			124単位以上

## 物質化学課程

## 環境・物質工学コース

基礎・教養 科目	数理基礎科目	数学科目	必修2単位を含み12単位以上
		物理学科目	
		化学科目	
	英語科目	必修4単位を含み8単位以上	
	情報科目	1単位以上	
	人文社会系教養科目	必修2単位を含み8単位以上	
	体育健康科目	必修1単位以上	
共通教養科目	-		
専門科目	共通専門科目	必修2単位以上	
	自コース科目	必修34単位を含み70単位以上	
	他コース科目	-	
総単位		124単位以上	

## 化学・生命工学コース

基礎・教養 科目	数理基礎科目	数学科目	8単位以上
		物理学科目	
		化学科目	
	英語科目	必修4単位を含み10単位以上	
	情報科目	-	
	人文社会系教養科目	必修2単位を含み8単位以上	
	体育健康科目	必修1単位以上	
共通教養科目	-		
専門科目	共通専門科目	必修2単位以上	
	自コース科目	必修28単位を含み64単位以上	
	他コース科目	-	
総単位		124単位以上	

電気電子工学課程

電気・ロボット工学コース

基礎・教養 科目	数理基礎科目	数学科目	必修14単位を含み20単位以上
		物理学科目	
		化学科目	
	英語科目	必修4単位を含み10単位以上	
	情報科目	必修6単位以上	
	人文社会系教養科目	必修4単位以上	
	体育健康科目	必修1単位以上	
	共通教養科目	-	
専門科目	共通専門科目	必修2単位以上	
	自コース科目	必修31単位を含み66単位以上	
	他コース科目	-	
総単位		124単位以上	

先端電子工学コース

基礎・教養 科目	数理基礎科目	数学科目	6単位以上
		物理学科目	必修3単位を含み7単位以上
		化学科目	必修2単位を含み4単位以上
	英語科目	必修4単位を含み8単位以上	
	情報科目	4単位以上	
	人文社会系教養科目	8単位以上	
	体育健康科目	必修1単位以上	
	共通教養科目	-	
専門科目	共通専門科目	必修2単位以上	
	自コース科目	必修34単位を含み70単位以上	
	他コース科目	-	
総単位		124単位以上	

情報・通信工学課程

情報通信コース

基礎・教養 科目	数理基礎科目	数学科目	必修19単位以上
		物理学科目	
		化学科目	
	英語科目	必修4単位を含み6単位以上	
	情報科目	-	
	人文社会系教養科目	必修2単位を含み6単位以上	
	体育健康科目	必修1単位以上	
共通教養科目	-		
専門科目	共通専門科目	必修2単位以上	
	自コース科目	必修26単位を含み64単位以上	
	他コース科目	-	
総単位		124単位以上	

情報工学コース

基礎・教養 科目	数理基礎科目	数学科目	必修14単位以上
		物理学科目	
		化学科目	
	英語科目	必修4単位を含み10単位以上	
	情報科目	-	
	人文社会系教養科目	6単位以上	
	体育健康科目	必修1単位以上	
共通教養科目	-		
専門科目	共通専門科目	必修2単位以上	
	自コース科目	必修34単位を含み66単位以上	
	他コース科目	-	
総単位		124単位以上	



土木工学課程

都市・環境コース

基礎・教養 科目	数理基礎科目	数学科目	必修10単位を含み12単位以上
		物理学科目	
		化学科目	
	英語科目	必修4単位を含み8単位以上	
	情報科目	3単位以上	
	人文社会系教養科目	必修4単位を含み8単位以上	
	体育健康科目	必修1単位以上	
	共通教養科目	-	
専門科目	共通専門科目	必修2単位以上	
	自コース科目	必修42単位を含み78単位以上	
	他コース科目	-	
総単位		124単位以上	

先進国際課程

専門科目群	先端工学研究科目	必修64単位
	先端工学概論科目	6単位以上
	専門科目	6単位以上
数理基礎科目・情報科目	数理基礎科目	6単位以上
	情報科目	
教養科目	人文社会系教養科目	必修1単位を含み6単位以上
	体育・健康科目	
	全学共通科目	
総単位		124単位

別表7

システム理工学部卒業要件

卒業要件の総取得単位数は124単位以上

全学共通科目		電子情報システム学科 機械制御システム学科 環境システム学科 生命科学学科 数理科学科				
共通科目	教職科目					
	総合科目	エンジニア・リテラシー科目、社会科学系科目	電子情報システム学科 機械制御システム学科 環境システム学科 生命科学学科 数理科学科	必修1単位 計5単位以上	12単位以上	専 門 科 目 以 外 単 位 数
		人文科学系科目、保健・体育系科目、第2外国語科目		6単位以上 (体育実技2単位迄)		
		英語科目		8単位以上		
	基礎科目	電子情報システム学科		必修10単位	計18単位以上	
		機械制御システム学科		必修12単位	計18単位以上	
		環境システム学科		必修4単位	計10単位以上	
		生命科学科		必修4単位	計16単位以上	
		数理科学科		必修14単位	計20単位以上	
	システム・情報科目	電子情報システム学科		必修12単位	計18単位以上	
機械制御システム学科			必修12単位	計18単位以上		
環境システム学科			必修12単位	計18単位以上		
生命科学科			必修12単位	計16単位以上		
数理科学科			必修12単位	計16単位以上		
専門科目	電子情報システム学科		必修20単位	計60単位以上		
	機械制御システム学科		必修30単位	計58単位以上		
	環境システム学科		必修24単位	計70単位以上		
	生命科学科		必修8単位	計64単位以上		
	数理科学科		必修18単位	計54単位以上		

別表 7

デザイン工学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。  
 但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

卒業要件の総取得単位数は124単位以上、GPAは2.0以上

全学共通科目		10単位以上	22単位以上
共通教養科目	英語を除く共通教養科目		
	英語科目	8単位以上	
データ・サイエンス科目		必修 6単位	必修 14単位 選択必修 4単位 選択 64単位以上
デザイン科目		必修 8単位	
エンジニアリング科目		選択必修 4単位	
プロジェクト科目			必修 14単位 選択 6単位
総単位数			124単位以上

## 別表 7

### 建築学部卒業要件

卒業要件は原則として入学年度の学則に従う。

但し、学士・編入及び再入学者は、原則として入学する学年の卒業要件を適用する。

以下の卒業要件を満たし、かつGPAは、2.0以上であること。

卒業要件の総取得単位数は124単位以上

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">基礎・教養科目群</p>	<p>基礎・教養科目群から32単位以上</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 数理基礎科目 必修科目 1単位 を含む「数学科目」・「理科学目」から9単位以上を取得すること。</li> <li>2. 外国語科目 「英語科目」から8単位以上を取得すること。</li> <li>3. 人文社会・情報系教養科目 「人文社会・情報系教養科目」から12単位以上を取得すること。</li> <li>4. 体育・健康科目</li> </ol>		
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">科専 目門 群</p>	<p>必修科目 13単位 を含む 72単位以上</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">位総 数単</p>	<p>124単位以上</p>

別表 8

## 納 入 金

1. 学 費 等

**【工学部・システム理工学部・デザイン工学部・建築学部】**

	1年次	2年次	3年次	4年次
入学金（一時金）	280,000 円			
維持料（年額）	283,000 円	283,000 円	283,000 円	283,000 円
授業料（年額）	1,199,000 円	1,199,000 円	1,299,000 円	1,299,000 円
休学在籍料（年額）	60,000 円	60,000 円	60,000 円	60,000 円

※再入学の入学金は免除する。

2. 科目等履修生の学費等

- (1) 審査料 10,000 円（ただし、本学卒業生は不要）
- (2) 入学金（一時金） 30,000 円（ただし、本学卒業生は2分の1額）
- (3) 履修料（1単位につき） 15,000 円（ただし、本学大学院生は2分の1額）

※本学大学院生が教員免許状取得を目的として必要な科目を履修する場合、履修料は不要

3. 研究生の学費等

- (1) 検定料 35,000 円
- (2) 登録料 59,000 円（ただし、本学卒業生は2分の1額）
- (3) 研究指導料（年額） 300,000 円（半期 150,000円）
- (4) 実験実習料 実費

## 学則の変更事項を記載した書類

### 【変更の事由】

工学部の課程設置に係る学則の変更

### 【変更箇所】

- ・ 学則条文の変更
- ・ 附則条項の追加
- ・ 学則中の別表部分の変更
  - 別表 1 収容定員
  - 別表 2 芝浦工業大学における教育研究上の目的
  - 別表 3 工学部授業科目（教職課程含む）
  - 別表 7 学部・課程・学科別卒業要件
  - 別表 9 学位の種類

【変更部分の新旧対照表】 下線部分変更

条文、附則条項、別表1

新（令和 6 年度）	旧（令和 5 年度）
<p style="text-align: center;">○芝浦工業大学学則 昭和 24 年 3 月 25 日 制定</p> <p style="text-align: center;">第 1 章 総則</p> <p>（目的）</p> <p>第 1 条 本学は教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、学術の中心として深く工学の研究を行い世界文化に貢献し、併せて広く一般の学術教養と専門の工業教育を施すことにより、学生の人格を陶冶し、学理を究めさせ体位の向上を図り、もって優秀なる技術者を養成することを目的とする。</p> <p>（自己点検・評価等）</p> <p>第 1 条の 2 本学は、教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。点検及び評価に関する必要事項は別に定める。</p> <p>（認証評価）</p> <p>第 1 条の 3 本学は、第 1 条の 2 の措置に加え、学校教育法に則り、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受審し、その結果を公表するものとする。</p> <p>（設置等）</p> <p>第 2 条 本学は芝浦工業大学と称する。</p> <p>第 3 条 本学は東京都<u>江東区豊洲 3 丁目 7 番 5 号</u>に置く。</p> <p>（学部、<u>課程</u>、<u>学科</u>）</p> <p>第 4 条 本学に次の学部・<u>課程</u>・<u>学科</u>を置く。</p> <p>【工学部】</p> <p><u>機械工学課程</u></p> <p><u>物質化学課程</u></p> <p><u>電気電子工学課程</u></p> <p><u>情報・通信工学課程</u></p> <p><u>土木工学課程</u></p>	<p style="text-align: center;">○芝浦工業大学学則 昭和 24 年 3 月 25 日 制定</p> <p style="text-align: center;">第 1 章 総則</p> <p>（目的）</p> <p>第 1 条 本学は教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、学術の中心として深く工学の研究を行い世界文化に貢献し、併せて広く一般の学術教養と専門の工業教育を施すことにより、学生の人格を陶冶し、学理を究めさせ体位の向上を図り、もって優秀なる技術者を養成することを目的とする。</p> <p>（自己点検・評価等）</p> <p>第 1 条の 2 本学は、教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自から点検及び評価を行う。点検及び評価に関する必要事項は別に定める。</p> <p>（認証評価）</p> <p>第 1 条の 3 本学は、第 1 条の 2 の措置に加え、学校教育法に則り、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受審し、その結果を公表するものとする。</p> <p>（設置等）</p> <p>第 2 条 本学は芝浦工業大学と称する。</p> <p>第 3 条 本学は東京都<u>港区芝浦三丁目 9 番 14 号</u>に置く。</p> <p>（学部、<u>学科</u>、及び<u>課程</u>）</p> <p>第 4 条 本学に次の学部・<u>学科</u>・<u>課程</u>を置く。</p> <p>【工学部】</p> <p><u>機械工学科</u></p> <p><u>機械機能工学科</u></p> <p><u>材料工学科</u></p> <p><u>応用化学科</u></p> <p><u>電気工学科</u></p>

<p><u>(削除)</u>  <u>(削除)</u>  <u>(削除)</u>  <u>(削除)</u>  先進国際課程  【システム理工学部】  電子情報システム学科  機械制御システム学科  環境システム学科  生命科学科  数理科学科  【デザイン工学部】  デザイン工学科  【建築学部】  建築学科</p> <p>2 この学則に定めるもののほか、各学部に関する規則は別に定める。  (大学院)</p> <p>第5条 本学に大学院を置く。  2 大学院に関する学則は、別に定める。  (学術情報センター)</p> <p>第6条 本学に学術情報センターを置く。  2 学術情報センターに関する規程は別に定める。  (研究所等)</p> <p>第7条 本学に SIT 総合研究所を置く。  2 SIT 総合研究所に関する規程は別に定める。  (教育イノベーション推進センター)</p> <p>第8条 本学に教育イノベーション推進センターを置く。  2 教育イノベーション推進センターに関する規程は別に定める。  (収容定員)</p> <p>第9条 本学の収容定員は別表1のとおりとする。  (学部等における教育研究上の目的)</p> <p>第10条 学部、<u>課程</u>、<u>学科</u>における人材養成に関する目的、その他の教育研究上の目的は、別表2のとおりとする。</p> <p>第2章 学部  第1節 教育課程及び授業科目</p>	<p><u>電子工学科</u>  <u>情報通信工学科</u>  <u>情報工学科</u>  <u>土木工学科</u>  先進国際課程  【システム理工学部】  電子情報システム学科  機械制御システム学科  環境システム学科  生命科学科  数理科学科  【デザイン工学部】  デザイン工学科  【建築学部】  建築学科</p> <p>2 この学則に定めるもののほか、各学部に関する規則は別に定める。  (大学院)</p> <p>第5条 本学に大学院を置く。  2 大学院に関する学則は、別に定める。  (学術情報センター)</p> <p>第6条 本学に学術情報センターを置く。  2 学術情報センターに関する規則は別に定める。  (研究所等)</p> <p>第7条 本学に SIT 総合研究所を置く。  2 SIT 総合研究所に関する規程は別に定める。  (教育イノベーション推進センター)</p> <p>第8条 本学に教育イノベーション推進センターを置く。  2 教育イノベーション推進センターに関する規程は別に定める。  (収容定員)</p> <p>第9条 本学の収容定員は別表1のとおりとする。  (学部等における教育研究上の目的)</p> <p>第10条 学部、<u>学科</u>、<u>課程</u>における人材養成に関する目的、その他の教育研究上の目的は、別表2のとおりとする。</p> <p>第2章 学部  第1節 教育課程及び授業科目</p>
--	--



<p>(教育課程編成方針)</p> <p>第 11 条 本学は学部教育研究上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。</p> <p>(副専攻プログラム)</p> <p>第 11 条の 2 第 11 条により編成する教育課程として、学部の教育課程のほか特定の分野に関する教育課程(以下「副専攻プログラム」という。)を開設することができる。</p> <p>2 副専攻プログラムに関し必要な事項については、芝浦工業大学副専攻プログラム規程の定めるところによる。</p> <p>(成績評価基準等の明示等)</p> <p>第 12 条 本学は、学生に対して、授業方法、内容並びに授業計画をあらかじめ明示するものとする。</p> <p>2 学修の成果に係る評価及び卒業の認定にあたっては、客観性及び厳格性を保持するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに当該基準に従って適切に行うものとする。</p> <p>(教育課程)</p> <p>第 13 条 本学の教育課程は各授業科目を必修科目、選択科目、自由科目に分け、これを各年次に配当し編成する。</p> <p>各学部の授業科目、単位数は別表 3、別表 4、別表 5、別表 6 のとおりとし、卒業要件は別表 7 のとおりとする。</p> <p>(修業年限)</p> <p>第 14 条 学部の修業年限は 4 年とする。ただし、8 年を越えて在籍することはできない。</p> <p>(教育内容等改善のための組織的研修等)</p> <p>第 15 条 本学は各学部の授業の内容及び方法の改善等を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。</p> <p>第 2 節 履修及び授業科目修了認定</p> <p>(単位)</p> <p>第 16 条 本学所定の授業科目に対する課程を修了し、正規の試験等に合格した学生</p>	<p>(教育課程編成方針)</p> <p>第 11 条 本学は学部教育研究上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。</p> <p>(副専攻プログラム)</p> <p>第 11 条の 2 第 11 条により編成する教育課程として、学部の教育課程のほか特定の分野に関する教育課程(以下「副専攻プログラム」という。)を開設することができる。</p> <p>2 副専攻プログラムに関し必要な事項については、芝浦工業大学副専攻プログラム規程の定めるところによる。</p> <p>(成績評価基準等の明示等)</p> <p>第 12 条 本学は、学生に対して、授業方法、内容並びに授業計画をあらかじめ明示するものとする。</p> <p>2 学修の成果に係る評価及び卒業の認定にあたっては、客観性及び厳格性を保持するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに当該基準に従って適切に行うものとする。</p> <p>(教育課程)</p> <p>第 13 条 本学の教育課程は各授業科目を必修科目、選択科目、自由科目に分け、これを各年次に配当し編成する。</p> <p>各学部の授業科目、単位数は別表 3、別表 4、別表 5、別表 6 のとおりとし、卒業要件は別表 7 のとおりとする。</p> <p>(修業年限)</p> <p>第 14 条 学部の修業年限は 4 年とする。ただし、8 年を越えて在籍することはできない。</p> <p>(教育内容等改善のための組織的研修等)</p> <p>第 15 条 本学は各学部の授業の内容及び方法の改善等を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。</p> <p>第 2 節 履修及び授業科目修了認定</p> <p>(単位)</p> <p>第 16 条 本学所定の授業科目に対する課程を修了し、正規の試験等に合格した学生</p>
--	--

<p>には、その授業科目所定の単位を与える。</p> <p>2 各授業科目の1単位は45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、次の基準によって単位数を計算する。</p> <p>(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの授業をもって1単位とする。</p> <p>(2) 実験、実習及び実技等については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。</p> <p>(3) 前項の各規定に関わらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。</p> <p>(4) 学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を別に定める。</p> <p>(5) 所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、別に定めるところにより上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。</p> <p>(各授業科目の授業期間)</p> <p>第16条の2 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができると認められる場合は、この限りでない。</p> <p>(授業の方法)</p> <p>第16条の3 授業は講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。</p> <p>2 本学学生は前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修することができる。</p>	<p>には、その授業科目所定の単位を与える。</p> <p>2 各授業科目の1単位は45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、次の基準によって単位数を計算する。</p> <p>(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの授業をもって1単位とする。</p> <p>(2) 実験、実習及び実技等については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。</p> <p>(3) 前項の各規定に関わらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。</p> <p>(4) 学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を別に定める。</p> <p>(5) 所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、別に定めるところにより上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。</p> <p>(各授業科目の授業期間)</p> <p>第16条の2 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができると認められる場合は、この限りでない。</p> <p>(授業の方法)</p> <p>第16条の3 授業は講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。</p> <p>2 本学学生は前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修することができる。</p>
--	--

<p>3 本学学生は本条第1項の授業を外国において履修することができる。また、前項の規定により多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修する場合についても同様とする。 (学外単位等認定及び入学前の既修得単位等認定)</p> <p>第17条 本学学生が本学在籍中に外国を含む他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位は、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。</p> <p>2 本学学生が本学入学前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を認めることができる。</p> <p>3 前項により修得したものとみなし、又は認めることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。</p> <p>4 本学に学士入学又は編入学を許可された者は、別に定めるところにより既修得単位の認定をうけることができる。</p> <p>5 本学に再入学した者は、別に定めるところにより既修得単位の認定をうけることができる。</p> <p>6 本条第1項から前項で認定された単位は、本学で開講されている授業科目に振替えることができる。 (教育職員の免許状)</p> <p>第18条 教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を取得しなければならない。</p> <p>2 本学の<u>課程</u>・学科において当該所要資格を取得できる教員免許状の種類・専門科目及び単位数は別表3、別表4、別表5に掲げるとおりとする。 (授業科目の修了認定)</p> <p>第19条 授業科目履修修了の認定は試験等</p>	<p>3 本学学生は本条第1項の授業を外国において履修することができる。また、前項の規定により多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修する場合についても同様とする。 (学外単位等認定及び入学前の既修得単位等認定)</p> <p>第17条 本学学生が本学在籍中に外国を含む他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位は、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。</p> <p>2 本学学生が本学入学前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を認めることができる。</p> <p>3 前項により修得したものとみなし、又は認めることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。</p> <p>4 本学に学士入学又は編入学を許可された者は、別に定めるところにより既修得単位の認定をうけることができる。</p> <p>5 本学に再入学した者は、別に定めるところにより既修得単位の認定をうけることができる。</p> <p>6 本条第1項から前項で認定された単位は、本学で開講されている授業科目に振替えることができる。 (教育職員の免許状)</p> <p>第18条 教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を取得しなければならない。</p> <p>2 本学の<u>(追加)</u>学科において当該所要資格を取得できる教員免許状の種類・専門科目及び単位数は別表3、別表4、別表5に掲げるとおりとする。 (授業科目の修了認定)</p> <p>第19条 授業科目履修修了の認定は試験等</p>
---	--

<p>による。</p> <p>(成績評価)</p> <p>第 20 条 成績評価は S・A・B・C・D・F とし、C 以上を合格とする。</p> <p>第 3 節 卒業及び学位の授与</p> <p>(卒業認定)</p> <p>第 21 条 第 14 条に定める修業年限以上在学し、別表 7 に定める所定の単位を取得した者につき、教授会の議を経て学長が認定する。</p> <p>2 卒業の要件として修得すべき単位のうち、第 16 条の 3 第 2 項の授業の方法により修得する単位数は 60 単位を超えないものとする。</p> <p>(学位)</p> <p>第 22 条 本学を卒業した者には別表 9 に定める学位を授与する。</p> <p>第 4 節 入学、退学、休学及び転学</p> <p>(入学時期)</p> <p>第 23 条 入学の時期は、4 月又は 10 月とする。</p> <p>(入学資格)</p> <p>第 24 条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一つに該当する者でなければならない。</p> <p>(1) 高等学校、若しくは中等教育学校を卒業した者</p> <p>(2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程により、これに相当する学校を修了したと文部科学大臣が認めた者を含む。)</p> <p>(3) 文部科学大臣が指定した者</p> <p>(4) 高等学校卒業程度認定試験規則により高等学校卒業程度認定試験に合格した者(大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む)</p> <p>(5) 外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣が指定した者</p> <p>(6) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者</p> <p>(7) 本学が、相当の年齢に達し高等学校、</p>	<p>による。</p> <p>(成績評価)</p> <p>第 20 条 成績評価は S・A・B・C・D・F とし、C 以上を合格とする。</p> <p>第 3 節 卒業及び学位の授与</p> <p>(卒業認定)</p> <p>第 21 条 第 14 条に定める修業年限以上在学し、別表 7 に定める所定の単位を取得した者につき、教授会の議を経て学長が認定する。</p> <p>2 卒業の要件として修得すべき単位のうち、第 16 条の 3 第 2 項の授業の方法により修得する単位数は 60 単位を超えないものとする。</p> <p>(学位)</p> <p>第 22 条 本学を卒業した者には別表 9 に定める学位を授与する。</p> <p>第 4 節 入学、退学、休学及び転学</p> <p>(入学時期)</p> <p>第 23 条 入学の時期は、4 月又は 10 月とする。</p> <p>(入学資格)</p> <p>第 24 条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一つに該当する者でなければならない。</p> <p>(1) 高等学校、若しくは中等教育学校を卒業した者</p> <p>(2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程により、これに相当する学校を修了したと文部科学大臣が認めた者を含む。)</p> <p>(3) 文部科学大臣が指定した者</p> <p>(4) 高等学校卒業程度認定試験規則により高等学校卒業程度認定試験に合格した者(大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む)</p> <p>(5) 外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣が指定した者</p> <p>(6) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者</p> <p>(7) 本学が、相当の年齢に達し高等学校、</p>
---	---

<p>若しくは中等教育学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者 (入学許可)</p> <p>第25条 前条の者のうち本学が行う選考に合格した者につき、教授会の議を経て学長が入学を許可する。 (学士入学)</p> <p>第26条 大学を卒業した者及びこれと同等以上の資格を有する者で、本学に入学すること(学士入学と称する。)を希望する者があるときは、別に定めるところにより教授会の議を経て入学を許可することができる。 (編入学)</p> <p>第27条 本学の各学部編入学を志願する者があるときは、<u>志願先課程、学科</u>及び在学生の学修に支障のない限り、別に定めるところにより選考の上、<u>当該学部</u>教授会の議を経て、入学を許可することができる。 (外国人特別入学・帰国子女特別入学)</p> <p>第28条 本学の各学部編入学を志願する外国人志願者及び帰国子女志願者があるときは、<u>志願先課程、学科</u>及び在学生の学修に支障のない限り、別に定めるところにより選考の上、<u>当該学部</u>教授会の議を経て、入学を許可することができる。 (出願書類等)</p> <p>第29条 本学編入学を志願する者は、所定の入学願書、出身学校長の提出する調査書又はこれに代わるものと認められる証明書及び写真に入学検定料を添えて提出しなければならない。 (入学手続)</p> <p>第30条 入学を許可された者は、本学所定の誓約書に保証人と連署の上、住民票その他所定の書類に学費を添えて指定日までに提出しなければならない。 (保証人)</p> <p>第31条 保証人は父母又は独立生計を営む成年者で、確実に保証人としての責を果たし得る者でなければならない。保証人として不適当と認められたときは変更を命ずることがある。なお、その身分及び住所に変更があったときは速やかに届け出な</p>	<p>若しくは中等教育学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者 (入学許可)</p> <p>第25条 前条の者のうち本学が行う選考に合格した者につき、教授会の議を経て学長が入学を許可する。 (学士入学)</p> <p>第26条 大学を卒業した者及びこれと同等以上の資格を有する者で、本学に入学すること(学士入学と称する。)を希望する者があるときは、別に定めるところにより教授会の議を経て入学を許可することができる。 (編入学)</p> <p>第27条 本学の各学部編入学を志願する者があるときは、<u>志願先学科、課程</u>及び在学生の学修に支障のない限り、別に定めるところにより選考の上、<u>(追加) 当該学部</u>教授会の議を経て、入学を許可することができる。 (外国人特別入学・帰国子女特別入学)</p> <p>第28条 本学の各学部編入学を志願する外国人志願者及び帰国子女志願者があるときは、<u>志願先学科、課程</u>及び在学生の学修に支障のない限り、別に定めるところにより選考の上、<u>(追加) 当該学部</u>教授会の議を経て、入学を許可することができる。 (出願書類等)</p> <p>第29条 本学編入学を志願する者は、所定の入学願書、出身学校長の提出する調査書又はこれに代わるものと認められる証明書及び写真に入学検定料を添えて提出しなければならない。 (入学手続)</p> <p>第30条 入学を許可された者は、本学所定の誓約書に保証人と連署の上、住民票その他所定の書類に学費を添えて指定日までに提出しなければならない。 (保証人)</p> <p>第31条 保証人は父母又は独立生計を営む成年者で、確実に保証人としての責を果たし得る者でなければならない。保証人として不適当と認められたときは変更を命ずることがある。なお、その身分及び住所に変更があったときは速やかに届け出な</p>
---	---

ればならない。

(休学)

第 32 条 病気又はその他の理由によって 2 ヶ月以上出席できない者は、その理由(兵役義務の場合は、徴兵に関する証明書等)を記して保証人連署の休学願を提出し、学長の許可を経て休学することができる。

2 休学の願い出に際しては、休学開始日の前日の属する期までの学費等を納入していなければならない。

3 休学は 1 ヶ年以内とする。ただし、特別の理由のある者は休学延期の願い出により引き続き休学することができる。

4 休学期間は通算して 4 年を越えることはできない。

5 休学期間は在学年数に算入しないが、在籍年数には算入する。

6 休学者は休学した学期の単位を取得することはできない。

(休学期間中の学費)

第 33 条 休学期間中の学費は、許可された期の翌期から、休学する期に限り、授業料を免除する。ただし、兵役義務による休学期間中の学費は、兵役期間に限り授業料に加え維持料を免除する。

(復学)

第 34 条 休学者が復学しようとするときはその理由を記し、保証人連署の復学願を提出し、学長の許可を経て復学することができる。

(退学)

第 35 条 退学しようとする者は、保証人連署の上、その理由を記して願い出て学長の許可を受けなければならない。

2 退学の願い出に際しては、退学の日の属する期までの学費等を納入していなければならない。

(再入学)

第 36 条 正当な理由により退学した者、又は第 71 条第 1 項第 2 号若しくは第 4 号により除籍された者が再入学を願い出た時は、第 14 条ただし書に定める在籍年数(通算年数とする。)内に卒業見込みのある者

ればならない。

(休学)

第 32 条 病気又はその他の理由によって 2 ヶ月以上出席できない者は、その理由(兵役義務の場合は、徴兵に関する証明書等)を記して保証人連署の休学願を提出し、学長の許可を経て休学することができる。

2 休学の願い出に際しては、休学開始日の前日の属する期までの学費等を納入していなければならない。

3 休学は 1 ヶ年以内とする。ただし、特別の理由のある者は休学延期の願い出により引き続き休学することができる。

4 休学期間は通算して 4 年を越えることはできない。

5 休学期間は在学年数に算入しないが、在籍年数には算入する。

6 休学者は休学した学期の単位を取得することはできない。

(休学期間中の学費)

第 33 条 休学期間中の学費は、許可された期の翌期から、休学する期に限り、授業料を免除する。ただし、兵役義務による休学期間中の学費は、兵役期間に限り授業料に加え維持料を免除する。

(復学)

第 34 条 休学者が復学しようとするときはその理由を記し、保証人連署の復学願を提出し、学長の許可を経て復学することができる。

(退学)

第 35 条 退学しようとする者は、保証人連署の上、その理由を記して願い出て学長の許可を受けなければならない。

2 退学の願い出に際しては、退学の日の属する期までの学費等を納入していなければならない。

(再入学)

第 36 条 正当な理由により退学した者、又は第 71 条第 1 項第 2 号若しくは第 4 号により除籍された者が再入学を願い出た時は、第 14 条ただし書に定める在籍年数(通算年数とする。)内に卒業見込みのある者

<p>に限り、選考の上、教授会の議を経て入学許可することがある。</p> <p>(転学)</p> <p>第37条 本学の学生が他に転学を志望するときは、その理由を記して願い出て学長の許可を受けなければならない。</p> <p>第5節 学費等</p> <p>(学費等)</p> <p>第38条 学費は別表8に定めるところによる。</p> <p>2 学費とは入学金、維持料、授業料をいう。</p> <p>3 入学検定料は、諸納入金に関する内規に定めるところによる。</p> <p>(学費の納付)</p> <p>第39条 学費その他の納入金は指定の期日までに納入しなければならない。</p> <p>(転部・<u>転課程</u>・<u>転科生等の学費</u>)</p> <p>第40条 <u>転部</u>、<u>転課程</u>・<u>コース</u>、<u>転科</u>、又は再入学の許可を受けた者は、新たに所属する学年の学費を納入するものとする。</p> <p>(学費の取扱)</p> <p>第41条 既に納入した学費は、事情のいかんにかかわらず一切返還しない。</p> <p>第6節 職員組織</p> <p>(職員)</p> <p>第42条 本学に次の職員を置く。</p> <p>学長、副学長、学部長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、その他必要な職員</p> <p>第7節 学長、学部長、教授会及び学部長・研究科長会議</p> <p>(学長・副学長)</p> <p>第43条 学長は校務をつかさどり、所属職員を統督するとともに本学を代表する。</p> <p>2 学長は、校務における決定権を有し、最終的な責任を負う。</p> <p>第43条の2 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。</p> <p>第43条の3 副学長は学長が推薦し、理事会が承認する。</p> <p>(学部長)</p> <p>第44条 学部長は当該学部の校務をつかさ</p>	<p>に限り、選考のうえ教授会の議を経て入学許可することがある。</p> <p>(転学)</p> <p>第37条 本学の学生が他に転学を志望するときは、その理由を記して願い出て学長の許可を受けなければならない。</p> <p>第5節 学費等</p> <p>(学費等)</p> <p>第38条 学費は別表8に定めるところによる。</p> <p>2 学費とは入学金、維持料、授業料をいう。</p> <p>3 入学検定料は、諸納入金に関する内規に定めるところによる。</p> <p>(学費の納付)</p> <p>第39条 学費その他の納入金は指定の期日までに納入しなければならない。</p> <p>(転部・<u>追加</u> 転科生等の学費)</p> <p>第40条 <u>転部</u>・<u>転科</u>、又は再入学の許可を受けた者は、新たに所属する学年の学費を納入するものとする。</p> <p>(学費の取扱)</p> <p>第41条 既に納入した学費は、事情のいかんにかかわらず一切返還しない。</p> <p>第6節 職員組織</p> <p>(職員)</p> <p>第42条 本学に次の職員を置く。</p> <p>学長、副学長、学部長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、その他必要な職員</p> <p>第7節 学長、学部長、教授会及び学部長・研究科長会議</p> <p>(学長・副学長)</p> <p>第43条 学長は校務をつかさどり、所属職員を統督するとともに本学を代表する。</p> <p>2 学長は、校務における決定権を有し、最終的な責任を負う。</p> <p>第43条の2 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。</p> <p>第43条の3 副学長は学長が推薦し、理事会が承認する。</p> <p>(学部長)</p> <p>第44条 学部長は当該学部の校務をつかさ</p>
--	--

<p>どり、当該学部を代表する。</p> <p>第 44 条の 2 学部長は学長が推薦し、理事会が承認する。 (教授会)</p> <p>第 45 条 各学部に教授会を置く。</p> <p>2 教授会に関する事項は本学則によるほか、各学部教授会規則の定めるところによる。</p> <p>第 46 条 学部長は教授会を招集する。</p> <p>第 47 条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項</li> <li>(2) 学位の授与に関する事項</li> <li>(3) 教育及び研究組織に関する事項</li> <li>(4) <u>課程、学科</u>、学科目及び授業に関する事項</li> <li>(5) 教員の研究育成及び留学に関する事項</li> <li>(6) 教育研究予算の配分の方針に関する事項</li> <li>(7) 教員の任用に関する事項</li> <li>(8) 学生の指導育成に関する事項</li> <li>(9) 学生の賞罰に関する事項</li> <li>(10) 教員の資格審査に関する事項</li> <li>(11) 学則に関する事項</li> <li>(12) その他学長から意見を求められた事項</li> </ol> <p>第 48 条 教授会は、前条各号に定める事項のほか、学長及び学部長その他の教授会等が置かれる組織の長(以下「学長等」という)がつかさどる次の事項について審議し、及び学長等の求めに応じて意見を述べることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教授会の運営に関する事項</li> <li>(2) 図書、設備及び施設に関する事項</li> <li>(3) 学生の試験、進級、転科、<u>転課程・コース、転部</u>に関する事項</li> <li>(4) 授業日数及び休業に関する事項</li> <li>(5) 学生団体及び学生生活、並びに学生生活に関する事項</li> </ol>	<p>どり、当該学部を代表する。</p> <p>第 44 条の 2 学部長は学長が推薦し、理事会が承認する。 (教授会)</p> <p>第 45 条 各学部に教授会を置く。</p> <p>2 教授会に関する事項は本学則によるほか、各学部教授会規則の定めるところによる。</p> <p>第 46 条 学部長は教授会を招集する。</p> <p>第 47 条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項</li> <li>(2) 学位の授与に関する事項</li> <li>(3) 教育及び研究組織に関する事項</li> <li>(4) <u>学科、課程</u>、学科目及び授業に関する事項</li> <li>(5) 教員の研究育成及び留学に関する事項</li> <li>(6) 教育研究予算の配分の方針に関する事項</li> <li>(7) 教員の任用に関する事項</li> <li>(8) 学生の指導育成に関する事項</li> <li>(9) 学生の賞罰に関する事項</li> <li>(10) 教員の資格審査に関する事項</li> <li>(11) 学則に関する事項</li> <li>(12) その他学長から意見を求められた事項</li> </ol> <p>第 48 条 教授会は、前条各号に定める事項のほか、学長及び学部長その他の教授会等が置かれる組織の長(以下「学長等」という)がつかさどる次の事項について審議し、及び学長等の求めに応じて意見を述べることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教授会の運営に関する事項</li> <li>(2) 図書、設備及び施設に関する事項</li> <li>(3) 学生の試験、進級、転科、<u>(追加) 転部</u>に関する事項</li> <li>(4) 授業日数及び休業に関する事項</li> <li>(5) 学生団体及び学生生活、並びに学生生活に関する事項</li> </ol>
--	---



<p>(6) 学部規則に関する事項</p> <p>(7) その他学長等から意見を求められた事項</p> <p>2 第1項にいう審議とは、議論・検討することを意味し、決定権を含意するものではない。</p> <p>第49条 学長が必要と認める時は、他の学部の教授会と共同して合同の委員会を設けることができる。 (学部長・研究科長会議)</p> <p>第50条 本学に学部長・研究科長会議を置き、学長が求める教学に関する重要な事項を審議する。</p> <p>2 学部長・研究科長会議について必要な事項は別に定める。</p> <p>第51条 (削除)</p> <p>第8節 科目等履修生、研究生、特別聴講生、外国人学生及び特別留学生</p> <p>(科目等履修生)</p> <p>第52条 本学学生以外の者が、本学所定の授業科目を一又は複数選択して履修する者を科目等履修生とする。</p> <p>2 科目等履修生に出願できる者は、高校卒業又はこれと同等以上の学力を有する者とする。</p> <p>3 科目等履修生は、本学学生の授業に支障のない限り教授会の議を経て、学長が入学を許可する。</p> <p>4 科目等履修生の学費等は、別表8のとおりとする。</p> <p>5 科目等履修生について必要な事項は、別に定める。</p> <p>(研究生)</p> <p>第53条 一定の研究課題について研究する者を研究生とする。</p> <p>2 研究生の入学資格は、大学卒業又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。</p> <p>3 選考は、研究内容の該当する<u>課程・学科</u>等が志願者の学力および希望と芝浦工業大学の受け入れ能力を検討し、教授会の議を経るものとする。</p>	<p>(6) 学部規則に関する事項</p> <p>(7) その他学長等から意見を求められた事項</p> <p>2 第1項にいう審議とは、議論・検討することを意味し、決定権を含意するものではない。</p> <p>第49条 学長が必要と認める時は、他の学部の教授会と共同して合同の委員会を設けることができる。 (学部長・研究科長会議)</p> <p>第50条 本学に学部長・研究科長会議を置き、学長が求める教学に関する重要な事項を審議する。</p> <p>2 学部長・研究科長会議について必要な事項は別に定める。</p> <p>第51条 (削除)</p> <p>第8節 科目等履修生、研究生、特別聴講生、外国人学生及び特別留学生</p> <p>(科目等履修生)</p> <p>第52条 本学学生以外の者が、本学所定の授業科目を一又は複数選択して履修する者を科目等履修生とする。</p> <p>2 科目等履修生に出願できる者は、高校卒業又はこれと同等以上の学力を有する者とする。</p> <p>3 科目等履修生は、本学学生の授業に支障のない限り教授会の議を経て、学長が入学を許可する。</p> <p>4 科目等履修生の学費等は、別表8のとおりとする。</p> <p>5 科目等履修生について必要な事項は、別に定める。</p> <p>(研究生)</p> <p>第53条 一定の研究課題について研究する者を研究生とする。</p> <p>2 研究生の入学資格は、大学卒業又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。</p> <p>3 選考は、研究内容の該当する<u>(追加) 学科</u>等が志願者の学力及び希望と芝浦工業大学の受け入れ能力を検討し、教授会の議を経るものとする。</p>
--	---

<p>4 研究生は、本学学生の授業、研究に支障のない限り教授会の議を経て、学長が入学を許可する。</p> <p>5 研究生の研究期間は、6ヶ月以上2年以内とする。</p> <p>6 研究生は、研究終了後、研究成果を指導教員を経て学長に報告しなければならない。</p> <p>7 研究生は、その研究成果についての研究証明書の交付を受けることができる。</p> <p>8 研究生の学費等は、別表8のとおりとする。</p> <p>(特別聴講生)</p> <p>第54条 国内の他の大学と本学との間で締結した協定に基づき、当該大学に在学する学生のうち、本学における授業科目の履修を許可された者を特別聴講生とする。</p> <p>2 特別聴講生について必要な事項は、別に定める。</p> <p>(外国人学生)</p> <p>第55条 日本国籍を有さず外国において通常の課程による12年の学校教育を修了した者又はこれに準ずる者で、本学での学位取得を目的として入学を志願する者を外国人学生とする。</p> <p>第55条の2 外国人学生は、特別に選考の上、教授会の議を経て学長が入学を許可する。</p> <p>2 外国人学生について必要な事項は、別に定める。</p> <p>(特別留学生)</p> <p>第56条 日本国籍を有さず外国において通常の課程による12年の学校教育を修了した者又はこれに準ずる者で、本学での学位取得を目的とせず、1年以内の留学を希望する者を特別留学生とする。</p> <p>第56条の2 特別留学生は、次の各号の一つに該当するものでなければならない。</p> <p>(1) 本学との海外学術協定校に在籍する者</p> <p>(2) 学位授与権をもつ外国の大学に在籍</p>	<p>4 研究生は、本学学生の授業、研究に支障のない限り教授会の議を経て、学長が入学を許可する。</p> <p>5 研究生の研究期間は、6ヶ月以上2年以内とする。</p> <p>6 研究生は、研究終了後、研究成果を指導教員を経て学長に報告しなければならない。</p> <p>7 研究生は、その研究成果についての研究証明書の交付を受けることができる。</p> <p>8 研究生の学費等は、別表8のとおりとする。</p> <p>(特別聴講生)</p> <p>第54条 国内の他の大学と本学との間で締結した協定に基づき、当該大学に在学する学生のうち、本学における授業科目の履修を許可された者を特別聴講生とする。</p> <p>2 特別聴講生について必要な事項は、別に定める。</p> <p>(外国人学生)</p> <p>第55条 日本国籍を有さず外国において通常の課程による12年の学校教育を修了した者又はこれに準ずる者で、本学での学位取得を目的として入学を志願する者を外国人学生とする。</p> <p>第55条の2 外国人学生は、特別に選考の上、教授会の議を経て学長が入学を許可する。</p> <p>2 外国人学生について必要な事項は、別に定める。</p> <p>(特別留学生)</p> <p>第56条 日本国籍を有さず外国において通常の課程による12年の学校教育を修了した者又はこれに準ずる者で、本学での学位取得を目的とせず、1年以内の留学を希望する者を特別留学生とする。</p> <p>第56条の2 特別留学生は、次の各号の一つに該当するものでなければならない。</p> <p>(1) 本学との海外学術協定校に在籍する者</p> <p>(2) 学位授与権をもつ外国の大学に在籍</p>
--	--

<p>する者</p> <p>(3) その他、学部長・研究科長会議で認め た者</p> <p>2 特別留学生は、学部長・研究科長会議の 議を経て、学長が入学を許可する。</p> <p>3 特別留学生について必要な事項は、別に 定める。</p> <p>第 57 条 科目等履修生、研究生、特別聴講 生、外国人学生及び特別留学生について は、本章に規定するもののほか本学則の 各章の規定を準用する。</p> <p>第 9 節 公開講座 (公開講座)</p> <p>第 58 条 本学は、技術者の再教育及び一般 公衆の文化向上を期して講座を公開する ことがある。</p> <p>第 59 条 (削除)</p> <p>第 60 条 公開講座の聴講料は、必要に応じ 相当と認める額を納入させることがあ る。</p> <p>第 10 節 学年、学期及び休業日 (学年)</p> <p>第 61 条 本学の学年は 4 月 1 日に始まり、 翌年 3 月 31 日に終わる。</p> <p>(学期)</p> <p>第 62 条 学年を分けて、次の 2 学期とす る。</p> <p>(1) 前期 4 月 1 日より 9 月 30 日まで (2) 後期 10 月 1 日より 3 月 31 日まで</p> <p>2 各学期における授業開始日及び授業終 了日等は、年度毎に定める学年暦による。 (休業日)</p> <p>第 63 条 本学の休業日は次のとおりとす る。</p> <p>(1) 日曜日 (2) 国民の祝日に関する法律に規定する 休日 (3) 創立記念日(11 月 4 日) (4) 春季休業 (5) 夏季休業 (6) 冬季休業</p> <p>2 学長は教授会の議を経て休業日を変更 し、又は臨時に休業日を定めることがで</p>	<p>する者</p> <p>(3) その他、学部長・研究科長会議で認め た者</p> <p>2 特別留学生は、学部長・研究科長会議の 議を経て、学長が入学を許可する。</p> <p>3 特別留学生について必要な事項は、別に 定める。</p> <p>第 57 条 科目等履修生、研究生、特別聴講 生、外国人学生及び特別留学生について は、本章に規定するもののほか本学則の 各章の規定を準用する。</p> <p>第 9 節 公開講座 (公開講座)</p> <p>第 58 条 本学は、技術者の再教育及び一般 公衆の文化向上を期して講座を公開する ことがある。</p> <p>第 59 条 (削除)</p> <p>第 60 条 公開講座の聴講料は、必要に応じ 相当と認める額を納入させることがあ る。</p> <p>第 10 節 学年、学期及び休業日 (学年)</p> <p>第 61 条 本学の学年は 4 月 1 日に始まり、 翌年 3 月 31 日に終わる。</p> <p>(学期)</p> <p>第 62 条 学年を分けて、次の 2 学期とす る。</p> <p>(1) 前期 4 月 1 日より 9 月 30 日まで (2) 後期 10 月 1 日より 3 月 31 日まで</p> <p>2 各学期における授業開始日及び授業終 了日等は、年度毎に定める学年暦による。 (休業日)</p> <p>第 63 条 本学の休業日は次のとおりとす る。</p> <p>(1) 日曜日 (2) 国民の祝日に関する法律に規定する 休日 (3) 創立記念日(11 月 4 日) (4) 春季休業 (5) 夏季休業 (6) 冬季休業</p> <p>2 学長は教授会の議を経て休業日を変更 し、又は臨時に休業日を定めることがで</p>
---	---

<p>きる。</p> <p>3 第1項の休業日のうち春季、夏季及び冬季の休業日期間は別に定める。</p> <p>第11節 寮及び厚生保健 (学生寮)</p> <p>第64条 必要に応じ学生寮を置き、本学が管理する。学生寮に関する規則は別に定める。</p> <p>(厚生寮等)</p> <p>第65条 本学に教職員学生のための寮、セミナーハウス等を置く。寮、セミナーハウス等に関する規則は別に定める。</p> <p>(学校医・健康診断)</p> <p>第66条 本学は、学生の保健衛生に留意し体位向上を期するため、学校医を委嘱する。また、毎年度定期的に健康診断を行う。</p> <p>第12節 賞罰 (授業料免除)</p> <p>第67条 品行方正、学力優秀、精勤で学生の範と認められた者には特待生として賞状を受け、授業料を免除することがある。ただし、特待生としての資格に欠けた場合は、その待遇は解かれるものとする。</p> <p>(学長賞)</p> <p>第68条 在学期間中品行方正、学力優秀で学生の範と認められた者には卒業に際し、学長賞が授けられることがある。</p> <p>(懲戒)</p> <p>第69条 学生にして本学則にそむき、又は学生の本分に反する行為があった場合は、教育目的のために懲戒する。懲戒処分はその事情によって譴責、停学及び退学とする。</p> <p>(退学)</p> <p>第70条 次の各号の一つに該当する者は、教授会の議を経て学長が退学を命ずる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 入学誓約書に違反した者</li> <li>(2) 性行不良で学生の品位を乱し、改善の見込みがないと認められた者</li> <li>(3) 学力劣等で成業の見込みがないと認められた者</li> <li>(4) 正当な理由がなく常に出席しない者</li> <li>(5) 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者</li> </ol>	<p>きる。</p> <p>3 第1項の休業日のうち春季、夏季及び冬季の休業日期間は別に定める。</p> <p>第11節 寮及び厚生保健 (学生寮)</p> <p>第64条 必要に応じ学生寮を置き、本学が管理する。学生寮に関する規則は別に定める。</p> <p>(厚生寮等)</p> <p>第65条 本学に教職員学生のための寮、セミナーハウス等を置く。寮、セミナーハウス等に関する規則は別に定める。</p> <p>(学校医・健康診断)</p> <p>第66条 本学は、学生の保健衛生に留意し体位向上を期するため、学校医を委嘱する。また、毎年度定期的に健康診断を行う。</p> <p>第12節 賞罰 (授業料免除)</p> <p>第67条 品行方正、学力優秀、精勤で学生の範と認められた者には特待生として賞状を受け、授業料を免除することがある。ただし、特待生としての資格に欠けた場合は、その待遇は解かれるものとする。</p> <p>(学長賞)</p> <p>第68条 在学期間中品行方正、学力優秀で学生の範と認められた者には卒業に際し、学長賞が授けられることがある。</p> <p>(懲戒)</p> <p>第69条 学生にして本学則にそむき、又は学生の本分に反する行為があった場合は、教育目的のために懲戒する。懲戒処分はその事情によって譴責、停学及び退学とする。</p> <p>(退学)</p> <p>第70条 次の各号の一つに該当する者は、教授会の議を経て学長が退学を命ずる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 入学誓約書に違反した者</li> <li>(2) 性行不良で学生の品位を乱し、改善の見込みがないと認められた者</li> <li>(3) 学力劣等で成業の見込みがないと認められた者</li> <li>(4) 正当な理由がなく常に出席しない者</li> <li>(5) 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者</li> </ol>
--	--

<p style="text-align: center;">第 13 節 除籍</p> <p>(除籍)</p> <p>第 71 条 学長は、次の各号の一つに該当する者について除籍する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 行方不明の届け出のあった者</li> <li>(2) 学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない者</li> <li>(3) 第 14 条ただし書きに定める在籍年数を超えた者</li> <li>(4) 休学期間満了となっても復学等の手続きをしない者</li> </ol> <p style="text-align: center;">第 3 章 雑則</p> <p>(雑則)</p> <p>第 72 条 この学則の改廃は、教授会で審議し、学部長・研究科長会議の議を経て学長が行う。</p> <p style="text-align: center;">附 則</p> <p>昭和 24 年 3 月 25 日(機械工学科・土木工学科設置)</p> <p>昭和 25 年 3 月 1 日(電気工学科増設)</p> <p>昭和 27 年 3 月 1 日(教職課程設置)</p> <p>昭和 29 年 2 月 15 日(建築学科・工業化学科増設)</p> <p>昭和 29 年 4 月 1 日(教育職員免許状授与認定)</p> <p>昭和 29 年 4 月 1 日(同上。聴講生制度認定)</p> <p>昭和 30 年 1 月 20 日(機械工学科・電気工学科定員増)</p> <p>昭和 31 年 3 月 1 日(二部機械工学科・電気工学科増設)</p> <p>昭和 34 年 3 月 1 日(金属工学科・電子工学科増設)</p> <p>昭和 40 年 12 月 27 日(機械工学第二学科・通信工学科・建築工学科・工業経営学科増設)</p> <p style="text-align: center;">(機械工学科・電気工学科定員変更)</p> <p>昭和 43 年 6 月 21 日(教授会構成員・卒業単位数変更)</p> <p>昭和 44 年 5 月 16 日(教授会構成員変更)</p>	<p style="text-align: center;">第 13 節 除籍</p> <p>(除籍)</p> <p>第 71 条 学長は、次の各号の一つに該当する者について除籍する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 行方不明の届け出のあった者</li> <li>(2) 学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない者</li> <li>(3) 第 14 条ただし書きに定める在籍年数を超えた者</li> <li>(4) 休学期間満了となっても復学等の手続きをしない者</li> </ol> <p style="text-align: center;">第 3 章 雑則</p> <p>(雑則)</p> <p>第 72 条 この学則の改廃は、教授会で審議し、学部長・研究科長会議の議を経て学長が行う。</p> <p style="text-align: center;">附 則</p> <p>昭和 24 年 3 月 25 日(機械工学科・土木工学科設置)</p> <p>昭和 25 年 3 月 1 日(電気工学科増設)</p> <p>昭和 27 年 3 月 1 日(教職課程設置)</p> <p>昭和 29 年 2 月 15 日(建築学科・工業化学科増設)</p> <p>昭和 29 年 4 月 1 日(教育職員免許状授与認定)</p> <p>昭和 29 年 4 月 1 日(同上。聴講生制度認定)</p> <p>昭和 30 年 1 月 20 日(機械工学科・電気工学科定員増)</p> <p>昭和 31 年 3 月 1 日(二部機械工学科・電気工学科増設)</p> <p>昭和 34 年 3 月 1 日(金属工学科・電子工学科増設)</p> <p>昭和 40 年 12 月 27 日(機械工学第二学科・通信工学科・建築工学科・工業経営学科増設)</p> <p style="text-align: center;">(機械工学科・電気工学科定員変更)</p> <p>昭和 43 年 6 月 21 日(教授会構成員・卒業単位数変更)</p> <p>昭和 44 年 5 月 16 日(教授会構成員変更)</p>
--	--

<p>昭和 47 年 11 月 17 日(講座制・教授会その他変更)</p> <p>昭和 49 年 4 月 1 日(全学科定員変更及び教育職員免許状取得に関する授業科目変更) 本改正学則は昭和 49 年 4 月 1 日より実施する。ただし、入学検定料は昭和 49 年 1 月 21 日より実施し、学費は昭和 49 年度入学生に適用する。</p> <p>昭和 50 年 4 月 1 日(大学院及び研究生の制度並びに抹籍処理の付加、別表 1 の授業科目、単位数の一部変更、一部学費の改訂及び休学中の授業料免除額の規定) 本改正学則は、昭和 50 年 4 月 1 日より実施する。ただし、学費及び休学中の授業料の免除額については、昭和 50 年度以降の入学生に適用する。</p> <p>昭和 51 年 4 月 1 日(教育職員免許状授与に関する記載事項の修正並びに入学検定料の変更) 本改正学則は、昭和 51 年 4 月 1 日より実施する。ただし、入学検定料は昭和 51 年 1 月 10 日より実施する。</p> <p>昭和 52 年 4 月 1 日(授業科目・単位数の一部変更並びに入学検定料の変更) 本改正学則は、昭和 52 年 4 月 1 日より実施する。ただし、入学検定料は昭和 52 年 1 月 10 日より実施する。</p> <p>昭和 53 年 4 月 1 日(授業科目・単位数の一部の変更並びに学費の変更) 本改正学則は、昭和 53 年 4 月 1 日より実施する。ただし、学費は昭和 53 年度以降の入学生に適用する。</p> <p>昭和 54 年 4 月 1 日(編入学・休学・復学等の条文並びに授業科目・単位数の一部変更)</p> <p>昭和 55 年 4 月 1 日(授業科目・単位数の一部変更並びに入学検定料の変更) 本改正学則は、昭和 55 年 4 月 1 日より実施する。ただし、入学検定料は昭和 55 年 1 月 10 日より実施する。</p> <p>昭和 56 年 4 月 1 日(授業科目・単位数の一部変更並びに学費の変更) 本改正学則は、昭和 56 年 4 月 1 日より実施する。ただし、学費は昭和 56 年度以</p>	<p>昭和 47 年 11 月 17 日(講座制・教授会その他変更)</p> <p>昭和 49 年 4 月 1 日(全学科定員変更及び教育職員免許状取得に関する授業科目変更) 本改正学則は昭和 49 年 4 月 1 日より実施する。ただし、入学検定料は昭和 49 年 1 月 21 日より実施し、学費は昭和 49 年度入学生に適用する。</p> <p>昭和 50 年 4 月 1 日(大学院及び研究生の制度並びに抹籍処理の付加、別表 1 の授業科目、単位数の一部変更、一部学費の改訂及び休学中の授業料免除額の規定) 本改正学則は、昭和 50 年 4 月 1 日より実施する。ただし、学費及び休学中の授業料の免除額については、昭和 50 年度以降の入学生に適用する。</p> <p>昭和 51 年 4 月 1 日(教育職員免許状授与に関する記載事項の修正並びに入学検定料の変更) 本改正学則は、昭和 51 年 4 月 1 日より実施する。ただし、入学検定料は昭和 51 年 1 月 10 日より実施する。</p> <p>昭和 52 年 4 月 1 日(授業科目・単位数の一部変更並びに入学検定料の変更) 本改正学則は、昭和 52 年 4 月 1 日より実施する。ただし、入学検定料は昭和 52 年 1 月 10 日より実施する。</p> <p>昭和 53 年 4 月 1 日(授業科目・単位数の一部の変更並びに学費の変更) 本改正学則は、昭和 53 年 4 月 1 日より実施する。ただし、学費は昭和 53 年度以降の入学生に適用する。</p> <p>昭和 54 年 4 月 1 日(編入学・休学・復学等の条文並びに授業科目・単位数の一部変更)</p> <p>昭和 55 年 4 月 1 日(授業科目・単位数の一部変更並びに入学検定料の変更) 本改正学則は、昭和 55 年 4 月 1 日より実施する。ただし、入学検定料は昭和 55 年 1 月 10 日より実施する。</p> <p>昭和 56 年 4 月 1 日(授業科目・単位数の一部変更並びに学費の変更) 本改正学則は、昭和 56 年 4 月 1 日より実施する。ただし、学費は昭和 56 年度以</p>
---	---

<p>降の入学生に適用する。</p> <p>昭和 57 年 4 月 1 日(授業科目・単位数の一部変更、学費納入に関する条文の修正並びに入学検定料の変更)</p> <p>本改正学則は昭和 57 年 4 月 1 日より実施する。ただし、入学検定料は昭和 57 年 1 月 10 日より実施する。</p> <p>昭和 58 年 4 月 1 日(授業科目・単位数の一部変更、教育職員免許状の資格取得に関する記載事項の修正)</p> <p>昭和 59 年 4 月 1 日(授業科目・単位数の一部変更並びに入学検定料、学費の変更)</p> <p>本改正学則は、昭和 59 年 4 月 1 日より実施する。ただし、入学検定料は昭和 59 年 1 月 10 日より実施し、学費は昭和 59 年度入学生に適用する。</p> <p>昭和 60 年 4 月 1 日(授業科目・単位数の一部変更並びに学費の変更)</p> <p>本改正学則は、昭和 60 年 4 月 1 日より実施する。ただし、学費は昭和 60 年度以降の入学生に適用する。</p> <p>昭和 60 年 12 月 25 日(全学科定員変更)</p> <p>本改正学則は、昭和 61 年 4 月 1 日より実施する。</p> <p>昭和 61 年 4 月 1 日(定員の変更、授業科目・単位数の一部変更、一部廃寮に伴う条文修正及び入学検定料の変更)</p> <p>本改正学則は、昭和 61 年 4 月 1 日より実施する。ただし、入学検定料は、昭和 61 年 1 月 10 日より実施する。</p> <p>昭和 62 年 4 月 1 日(授業科目・単位数の一部変更)</p> <p>本改正学則は、昭和 62 年 4 月 1 日より実施する。</p> <p>昭和 63 年 4 月 1 日(授業科目・単位数の一部変更)</p> <p>本改正学則は、昭和 63 年 4 月 1 日より実施する。</p> <p>平成元年 4 月 1 日(他大学等における既修得単位の認定に関する条項の追加、入学手続き時の提出書類に関する条文修正、抹籍及び再入学に関する条文の修正、授業</p>	<p>降の入学生に適用する。</p> <p>昭和 57 年 4 月 1 日(授業科目・単位数の一部変更、学費納入に関する条文の修正並びに入学検定料の変更)</p> <p>本改正学則は昭和 57 年 4 月 1 日より実施する。ただし、入学検定料は昭和 57 年 1 月 10 日より実施する。</p> <p>昭和 58 年 4 月 1 日(授業科目・単位数の一部変更、教育職員免許状の資格取得に関する記載事項の修正)</p> <p>昭和 59 年 4 月 1 日(授業科目・単位数の一部変更並びに入学検定料、学費の変更)</p> <p>本改正学則は、昭和 59 年 4 月 1 日より実施する。ただし、入学検定料は昭和 59 年 1 月 10 日より実施し、学費は昭和 59 年度入学生に適用する。</p> <p>昭和 60 年 4 月 1 日(授業科目・単位数の一部変更並びに学費の変更)</p> <p>本改正学則は、昭和 60 年 4 月 1 日より実施する。ただし、学費は昭和 60 年度以降の入学生に適用する。</p> <p>昭和 60 年 12 月 25 日(全学科定員変更)</p> <p>本改正学則は、昭和 61 年 4 月 1 日より実施する。</p> <p>昭和 61 年 4 月 1 日(定員の変更、授業科目・単位数の一部変更、一部廃寮に伴う条文修正及び入学検定料の変更)</p> <p>本改正学則は、昭和 61 年 4 月 1 日より実施する。ただし、入学検定料は、昭和 61 年 1 月 10 日より実施する。</p> <p>昭和 62 年 4 月 1 日(授業科目・単位数の一部変更)</p> <p>本改正学則は、昭和 62 年 4 月 1 日より実施する。</p> <p>昭和 63 年 4 月 1 日(授業科目・単位数の一部変更)</p> <p>本改正学則は、昭和 63 年 4 月 1 日より実施する。</p> <p>平成元年 4 月 1 日(他大学等における既修得単位の認定に関する条項の追加、入学手続き時の提出書類に関する条文修正、抹籍及び再入学に関する条文の修正、授業</p>
---	---

科目の一部変更、学費・入学検定料等の変更)

本改正学則は、平成元年 4 月 1 日より実施する。ただし、入学検定料は、平成元年 1 月 10 日より実施する。

平成 2 年 4 月 1 日(条文(第 9 条第 2 項、第 21 条)、授業科目・単位数の一部、教職課程に関する授業科目等及び学費の変更)

本改正学則は、平成 2 年 4 月 1 日より実施する。ただし、学費は平成 2 年度入学生に適用する。

平成 3 年 4 月 1 日(新学部設置による変更)

学則条文の整理、別表(入学定員、授業科目等、卒業要件、学費等)の変更。

この学則(改正)は、平成 3 年 4 月 1 日から施行する。ただし、学費及び入学検定料は平成 3 年度入学生より適用する。

平成 3 年 10 月 1 日(学費の一部変更)

本改正学則は平成 3 年 10 月 1 日より実施する。

平成 4 年 4 月 1 日(大学設置基準の改正に伴う学則条文の一部改正、別表の収容定員、授業科目・単位数、卒業要件及び学費等の一部変更)

この学則(改正)は、平成 4 年 4 月 1 日から実施する。ただし、第 9 条、第 18 条、第 34 条に係る事項は次の通りとする。

- 1 第 9 条の別表 1 は、この規程にかかわらず、平成 4 年度から平成 11 年度までの入学定員を次表の通りとする。

期間付入学定員

工学部	学科名	入学定員
一部	機械工学科	90 名
	機械工学第二学科	90 名
	材料工学科	90 名
	工業化学科	90 名
	電気工学科	90 名

科目の一部変更、学費・入学検定料等の変更)

本改正学則は、平成元年 4 月 1 日より実施する。ただし、入学検定料は、平成元年 1 月 10 日より実施する。

平成 2 年 4 月 1 日(条文(第 9 条第 2 項、第 21 条)、授業科目・単位数の一部、教職課程に関する授業科目等及び学費の変更)

本改正学則は、平成 2 年 4 月 1 日より実施する。ただし、学費は平成 2 年度入学生に適用する。

平成 3 年 4 月 1 日(新学部設置による変更)

学則条文の整理、別表(入学定員、授業科目等、卒業要件、学費等)の変更。

この学則(改正)は、平成 3 年 4 月 1 日から施行する。ただし、学費及び入学検定料は平成 3 年度入学生より適用する。

平成 3 年 10 月 1 日(学費の一部変更)

本改正学則は平成 3 年 10 月 1 日より実施する。

平成 4 年 4 月 1 日(大学設置基準の改正に伴う学則条文の一部改正、別表の収容定員、授業科目・単位数、卒業要件及び学費等の一部変更)

この学則(改正)は、平成 4 年 4 月 1 日から実施する。ただし、第 9 条、第 18 条、第 34 条に係る事項は次の通りとする。

- 1 第 9 条の別表 1 は、この規程にかかわらず、平成 4 年度から平成 11 年度までの入学定員を次表の通りとする。

期間付入学定員

工学部	学科名	入学定員
一部	機械工学科	90 名
	機械工学第二学科	90 名
	材料工学科	90 名
	工業化学科	90 名
	電気工学科	90 名



	通信工学科	90名
	電子工学科	90名
	土木工学科	90名
	建築学科	90名
	建築工学科	90名
	工業経営学科	90名
	合計	990名

2 第18条は、平成4年3月18日より実施する。

3 第34条の別表第5は、平成4年度入学生より適用する。

平成5年4月1日(別表の授業科目・単位数、卒業要件、学費等の一部変更)

この学則(改正)は、平成5年4月1日から実施する。ただし、第34条の別表第5は、平成5年度入学生より適用する。

平成6年4月1日(学則条文第13条、第24条、第46条、第48条、第49条、第50条、第51条、第52条、第53条の一部改正、別表の授業科目・単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

この学則(改正)は、平成6年4月1日から実施する。

平成7年4月1日(二部新学科設置に係る学則条文第4条、収容定員の減少(修学年数の変更)に係る学則条文第11条、第28条の一部改正。別表の収容定員、授業科目・単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

この学則(改正)は、平成7年4月1日入学生より適用する。ただし、第9条の別表1は、この規程にかかわらず、平成7年度から平成10年度までの工学部二部機械工学科・電気工学科の収容定員は、次の通りとする。

学部	年度	機械工学科	電気工学科
工学部二部	平成7年度	400名	400名
	平成8	400名	400名

	通信工学科	90名
	電子工学科	90名
	土木工学科	90名
	建築学科	90名
	建築工学科	90名
	工業経営学科	90名
	合計	990名

2 第18条は、平成4年3月18日より実施する。

3 第34条の別表第5は、平成4年度入学生より適用する。

平成5年4月1日(別表の授業科目・単位数、卒業要件、学費等の一部変更)

この学則(改正)は、平成5年4月1日から実施する。ただし、第34条の別表第5は、平成5年度入学生より適用する。

平成6年4月1日(学則条文第13条、第24条、第46条、第48条、第49条、第50条、第51条、第52条、第53条の一部改正、別表の授業科目・単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

この学則(改正)は、平成6年4月1日から実施する。

平成7年4月1日(二部新学科設置に係る学則条文第4条、収容定員の減少(修学年数の変更)に係る学則条文第11条、第28条の一部改正。別表の収容定員、授業科目・単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

この学則(改正)は、平成7年4月1日入学生より適用する。ただし、第9条の別表1は、この規程にかかわらず、平成7年度から平成10年度までの工学部二部機械工学科・電気工学科の収容定員は、次の通りとする。

学部	年度	機械工学科	電気工学科
工学部二部	平成7年度	400名	400名
	平成8	400名	400名

	年度		
	平成 9 年度	400 名	400 名
	平成 10 年度	400 名	400 名

平成 8 年 4 月 1 日(学科名称変更に係る学則条文第 4 条の一部変更。学則条文第 13 条の一部改正。別表の収容定員。工学部授業科目(教職課程を含む)単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

(経過措置)

工学部一部金属工学科は、平成 8 年 3 月 31 日に当該学科に在学するものが当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成 8 年 4 月 1 日から実施する。

平成 9 年 4 月 1 日(学則条文第 7 条の一部改正、第 8 条の削除、別表の授業科目、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

この学則(改正)は、平成 9 年 4 月 1 日から実施する。ただし、第 34 条の別表 5 は平成 9 年度入学生より適用する。

平成 10 年 4 月 1 日(学則条文第 6 条並びに第 46 条の一部改正、別表の授業科目、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

この学則(改正)は、平成 10 年 4 月 1 日から実施する。ただし、第 34 条の別表 5 は平成 10 年度入学生より適用する。また、第 6 条の学術情報センターについては平成 10 年 2 月 1 日より適用する。

平成 11 年 4 月 1 日(別表の授業科目・単位数、卒業要件、学費等の一部変更)

この学則(改正)は、平成 11 年 4 月 1 日から実施する。ただし、第 34 条の別表 5 は平成 11 年度入学生より適用する。

平成 12 年 4 月 1 日(システム工学部電子情報システム学科の定員の変更、工学部一部の臨時定員の延長及び恒常化入学定員の変更、授業科目・単位数、卒業要件及び学費等の一部変更)

この学則は、平成 12 年 4 月 1 日から実施する。ただし、第 9 条、第 34 条に係わ

	年度		
	平成 9 年度	400 名	400 名
	平成 10 年度	400 名	400 名

平成 8 年 4 月 1 日(学科名称変更に係る学則条文第 4 条の一部変更。学則条文第 13 条の一部改正。別表の収容定員。工学部授業科目(教職課程を含む)単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

(経過措置)

工学部一部金属工学科は、平成 8 年 3 月 31 日に当該学科に在学するものが当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成 8 年 4 月 1 日から実施する。

平成 9 年 4 月 1 日(学則条文第 7 条の一部改正、第 8 条の削除、別表の授業科目、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

この学則(改正)は、平成 9 年 4 月 1 日から実施する。ただし、第 34 条の別表 5 は平成 9 年度入学生より適用する。

平成 10 年 4 月 1 日(学則条文第 6 条並びに第 46 条の一部改正、別表の授業科目、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

この学則(改正)は、平成 10 年 4 月 1 日から実施する。ただし、第 34 条の別表 5 は平成 10 年度入学生より適用する。また、第 6 条の学術情報センターについては平成 10 年 2 月 1 日より適用する。

平成 11 年 4 月 1 日(別表の授業科目・単位数、卒業要件、学費等の一部変更)

この学則(改正)は、平成 11 年 4 月 1 日から実施する。ただし、第 34 条の別表 5 は平成 11 年度入学生より適用する。

平成 12 年 4 月 1 日(システム工学部電子情報システム学科の定員の変更、工学部一部の臨時定員の延長及び恒常化入学定員の変更、授業科目・単位数、卒業要件及び学費等の一部変更)

この学則は、平成 12 年 4 月 1 日から実施する。ただし、第 9 条、第 34 条に係わ

る事項は次の通りとする。

- 1 第9条の別表1は、この規程にかかわらず、平成12年度から平成15年度までの入学定員を次表の通りとする。

期間付入学定員

工学部一部	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
機械工学科	89名	88名	87名	86名
機械工学第二学科	89名	88名	87名	86名
材料工学科	89名	88名	87名	86名
工業化学科	89名	88名	87名	86名
電気工学科	89名	88名	87名	86名
通信工学科	89名	88名	87名	86名
電子工学科	89名	88名	87名	86名
土木工学	89名	88名	87名	86名

る事項は次の通りとする。

- 1 第9条の別表1は、この規程にかかわらず、平成12年度から平成15年度までの入学定員を次表の通りとする。

期間付入学定員

工学部一部	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
機械工学科	89名	88名	87名	86名
機械工学第二学科	89名	88名	87名	86名
材料工学科	89名	88名	87名	86名
工業化学科	89名	88名	87名	86名
電気工学科	89名	88名	87名	86名
通信工学科	89名	88名	87名	86名
電子工学科	89名	88名	87名	86名
土木工学	89名	88名	87名	86名

科				
建築学科	89名	88名	87名	86名
建築工学科	89名	88名	87名	86名
工業経営学科	89名	88名	87名	86名

2 第34条の別表5は、平成12年度入学生から適用する。

平成13年4月1日(学科名称変更に係る学則条文第4条の一部変更。別表の収容定員。授業科目(教職課程を含む)、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

(経過措置)

工学部一部工業化学科及び工業経営学科は、平成13年3月31日に当該学科に在学するものが当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成13年4月1日から実施する。ただし、第34条の別表5は平成13年度入学生より適用する。

平成14年4月1日(学則条文第32条、第38条、第46条、第67条の一部変更。授業科目(教職課程を含む)、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

この学則(改正)は、平成14年4月1日から実施する。ただし、第34条の別表5は平成14年度入学生より適用する。

平成15年4月1日(工学部の収容定員の増加に係る学則条文第4条の一部変更。別表の収容定員。工学部の名称及び入学定員の変更、工学部二部2学科の廃止、授業科目・単位数、学部・学科別卒業要件、教育職員免許状の種類・教科の一部変更。学則条文第10条、第24条の一部改正、別表の納入金等の一部変更。)

(経過措置)

科				
建築学科	89名	88名	87名	86名
建築工学科	89名	88名	87名	86名
工業経営学科	89名	88名	87名	86名

2 第34条の別表5は、平成12年度入学生から適用する。

平成13年4月1日(学科名称変更に係る学則条文第4条の一部変更。別表の収容定員。授業科目(教職課程を含む)、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

(経過措置)

工学部一部工業化学科及び工業経営学科は、平成13年3月31日に当該学科に在学するものが当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成13年4月1日から実施する。ただし、第34条の別表5は平成13年度入学生より適用する。

平成14年4月1日(学則条文第32条、第38条、第46条、第67条の一部変更。授業科目(教職課程を含む)、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)

この学則(改正)は、平成14年4月1日から実施する。ただし、第34条の別表5は平成14年度入学生より適用する。

平成15年4月1日(工学部の収容定員の増加に係る学則条文第4条の一部変更。別表の収容定員。工学部の名称及び入学定員の変更、工学部二部2学科の廃止、授業科目・単位数、学部・学科別卒業要件、教育職員免許状の種類・教科の一部変更。学則条文第10条、第24条の一部改正、別表の納入金等の一部変更。)

(経過措置)

工学部一部及び工学部二部機械工学科・電気工学科は、平成15年3月31日に当該学部・学科に在学するものが当該学部・学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成15年4月1日から実施する。ただし、第34条の別表5は平成15年度入学生より適用する。

平成16年4月1日(工学部の収容定員の振替に係る学則条文第4条の一部変更。別表1の収容定員、入学定員の変更。工学部二部1学科の廃止に係わる学則第29条、第34条、別表の授業科目・単位数、学部・学科別卒業要件、学費等の一部変更。)

(経過措置)

工学部二部電気設備学科は、平成16年3月31日に当該学部・学科に在学するものが当該学部・学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成16年4月1日から実施する。ただし、第34条の別表5は平成16年度入学生より適用する。

平成17年4月1日(学則条文第8条の追加、第29条の一部改正。別表5の納入金等の一部改正。)

この学則(改正)は、平成17年4月1日から実施する。ただし、第29条の休学期間中の学費の取扱は、平成17年度の在籍者から適用する。

平成18年4月1日(学則条文第3条の変更、第10条、第46条の一部改正。別表2の工学部授業科目、別表3のシステム工学部授業科目、別表4の学部・学科別卒業要件、別表5の納入金等の一部改正。)

この学則(改正)は、平成18年4月1日から実施する。

平成19年4月1日(学則条文第38条並びに第43条の一部改正。別表2の工学部授業科目、別表3のシステム工学部授業科目、別表4の学部・学科別卒業要件、別表5の納入金等の一部改正。)

この学則(改正)は、平成19年4月1日から実施する。

平成20年4月1日(学則第1条、第4条、第18条、第34条、第36条の一部改正。)

工学部一部及び工学部二部機械工学科・電気工学科は、平成15年3月31日に当該学部・学科に在学するものが当該学部・学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成15年4月1日から実施する。ただし、第34条の別表5は平成15年度入学生より適用する。

平成16年4月1日(工学部の収容定員の振替に係る学則条文第4条の一部変更。別表1の収容定員、入学定員の変更。工学部二部1学科の廃止に係わる学則第29条、第34条、別表の授業科目・単位数、学部・学科別卒業要件、学費等の一部変更。)

(経過措置)

工学部二部電気設備学科は、平成16年3月31日に当該学部・学科に在学するものが当該学部・学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成16年4月1日から実施する。ただし、第34条の別表5は平成16年度入学生より適用する。

平成17年4月1日(学則条文第8条の追加、第29条の一部改正。別表5の納入金等の一部改正。)

この学則(改正)は、平成17年4月1日から実施する。ただし、第29条の休学期間中の学費の取扱は、平成17年度の在籍者から適用する。

平成18年4月1日(学則条文第3条の変更、第10条、第46条の一部改正。別表2の工学部授業科目、別表3のシステム工学部授業科目、別表4の学部・学科別卒業要件、別表5の納入金等の一部改正。)

この学則(改正)は、平成18年4月1日から実施する。

平成19年4月1日(学則条文第38条並びに第43条の一部改正。別表2の工学部授業科目、別表3のシステム工学部授業科目、別表4の学部・学科別卒業要件、別表5の納入金等の一部改正。)

この学則(改正)は、平成19年4月1日から実施する。

平成20年4月1日(学則第1条、第4条、第18条、第34条、第36条の一部改正。)

別表 1 収容定員、別表 2 の工学部授業科目、別表 3 のシステム工学部授業科目、別表 4 の学部学科別・卒業要件の変更、別表 5 の納入金の一部改正、別表 6 学位の種類（の追加。）

この学則(改正)は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

平成 21 年 4 月 1 日(学則条文第 29 条、第 34 条、第 46 条の一部改正。デザイン工学部設置、システム理工学部数理科学科設置、工学部機械工学第二学科名称変更、システム工学部名称変更、収容定員の変更に係る学則第 4 条、第 10 条、第 17 条、第 18 条、第 51 条の一部改正。別表 1 収容定員、別表 2 の工学部授業科目、別表 3 システム理工学部授業科目、別表 4 のデザイン工学部授業科目、別表 5 学部学科別・卒業要件の変更、別表 6 納入金、別表 7 学位の種類の一部追加並びに改正。)工学部機械工学第二学科は、平成 21 年 3 月 31 日に当該学科に在学するものが当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。システム工学部は、平成 21 年 3 月 31 日に在学するものが、当該学部で在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成 21 年 4 月 1 日から実施する。ただし、別表 6 納入金の取り扱いは、平成 21 年度の在籍者から適用する。

平成 22 年 4 月 1 日(条項に項目(見出し)を追加。認証評価に係る学則第 1 条の 3 の追加。SIT 総合研究所に係る学則第 7 条の 2 の追加。学部等における教育研究上の目的に係る学則第 10 条の追加。教育課程編成方針に係る学則第 11 条の追加。成績評価基準等の明示等に係る学則第 12 条の追加。教育内容等改善のための組織的研修等に係る学則第 15 条の追加。学則条文第 21 条、第 30 条、第 63 条の一部改正。学則第 65 条と第 66 条の入れ替え。学部等における教育研究上の目的に係る別表 2 の追加。別表 3 工学部授業科目、別表 4 システム理工学部授業科目、別表 5 デザイン工学部授業科目、別表 6 学部学科別・卒業要件の変更。)

別表 1 収容定員、別表 2 の工学部授業科目、別表 3 のシステム工学部授業科目、別表 4 の学部学科別・卒業要件の変更、別表 5 の納入金の一部改正、別表 6 学位の種類（の追加。）

この学則(改正)は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

平成 21 年 4 月 1 日(学則条文第 29 条、第 34 条、第 46 条の一部改正。デザイン工学部設置、システム理工学部数理科学科設置、工学部機械工学第二学科名称変更、システム工学部名称変更、収容定員の変更に係る学則第 4 条、第 10 条、第 17 条、第 18 条、第 51 条の一部改正。別表 1 収容定員、別表 2 の工学部授業科目、別表 3 システム理工学部授業科目、別表 4 のデザイン工学部授業科目、別表 5 学部学科別・卒業要件の変更、別表 6 納入金、別表 7 学位の種類の一部追加並びに改正。)工学部機械工学第二学科は、平成 21 年 3 月 31 日に当該学科に在学するものが当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。システム工学部は、平成 21 年 3 月 31 日に在学するものが、当該学部で在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成 21 年 4 月 1 日から実施する。ただし、別表 6 納入金の取り扱いは、平成 21 年度の在籍者から適用する。

平成 22 年 4 月 1 日(条項に項目(見出し)を追加。認証評価に係る学則第 1 条の 3 の追加。SIT 総合研究所に係る学則第 7 条の 2 の追加。学部等における教育研究上の目的に係る学則第 10 条の追加。教育課程編成方針に係る学則第 11 条の追加。成績評価基準等の明示等に係る学則第 12 条の追加。教育内容等改善のための組織的研修等に係る学則第 15 条の追加。学則条文第 21 条、第 30 条、第 63 条の一部改正。学則第 65 条と第 66 条の入れ替え。学部等における教育研究上の目的に係る別表 2 の追加。別表 3 工学部授業科目、別表 4 システム理工学部授業科目、別表 5 デザイン工学部授業科目、別表 6 学部学科別・卒業要件の変更。)

<p>この学則(改正)は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。</p> <p>平成 23 年 4 月 1 日(学則第 7 節(見出し)の一部改正。大学に学長を置くことに係る学則第 43 条の追加。公開講座の実施計画に係る学則第 55 条の削除。各学期の授業開始日等に係る学則第 62 条の 2 の追加。別表 2 学部等における教育研究上の目的、別表 3 工学部授業科目、別表 4 システム理工学部授業科目、別表 5 デザイン工学部授業科目、別表 6 学部学科別・卒業要件の変更。)</p> <p>この学則(改正)は、平成 23 年 4 月 1 日から実施する。</p> <p>この学則(改正)は、平成 23 年 7 月 4 日から施行する。</p> <p>この学則(改定)は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。教育イノベーション推進センター設置にともない教育支援センターは廃止する。</p> <p>平成 26 年 4 月 1 日(学則第 11 条の 2 に副専攻プログラムを追加。学則第 16 条の一部改正。学則第 23 条入学時期の一部改正。)</p> <p>この学則(改正)は、平成 26 年 4 月 1 日から実施する。</p> <p>この学則(改定)は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。</p> <p>平成 27 年 4 月 1 日(学校教育法及び同施行規則改正に伴う変更)学則第 43 条学長の権限と責任、及び同第 43 条の 2 副学長職務についての追加。同 45 条から同 48 条まで教授会の役割について改正及び一部削除。同 50 条大学協議会の役割について一部改正。別表 6 学部学科別・卒業要件の変更</p> <p>この学則(改正)は、平成 27 年 4 月 1 日から実施する。</p> <p>平成 28 年 4 月 1 日(学則第 3 条の変更。先端工学研究機構に係る学則第 7 条の 1 及び 2 の削除。学則第 16 条を単位、各授業科目の授業期間、授業の方法に分類。学則第 16 条の 2 に卒業論文等の授業科目に係る単位数及び履修科目として登録できる単位数上限を追加。学則第 16 条の 3 に授業の方法を追加。学則第 17 条の一部改正。学則第 18 条の 2 の一部改正。学則第 21</p>	<p>この学則(改正)は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。</p> <p>平成 23 年 4 月 1 日(学則第 7 節(見出し)の一部改正。大学に学長を置くことに係る学則第 43 条の追加。公開講座の実施計画に係る学則第 55 条の削除。各学期の授業開始日等に係る学則第 62 条の 2 の追加。別表 2 学部等における教育研究上の目的、別表 3 工学部授業科目、別表 4 システム理工学部授業科目、別表 5 デザイン工学部授業科目、別表 6 学部学科別・卒業要件の変更。)</p> <p>この学則(改正)は、平成 23 年 4 月 1 日から実施する。</p> <p>この学則(改正)は、平成 23 年 7 月 4 日から施行する。</p> <p>この学則(改定)は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。教育イノベーション推進センター設置にともない教育支援センターは廃止する。</p> <p>平成 26 年 4 月 1 日(学則第 11 条の 2 に副専攻プログラムを追加。学則第 16 条の一部改正。学則第 23 条入学時期の一部改正。)</p> <p>この学則(改正)は、平成 26 年 4 月 1 日から実施する。</p> <p>この学則(改定)は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。</p> <p>平成 27 年 4 月 1 日(学校教育法及び同施行規則改正に伴う変更)学則第 43 条学長の権限と責任、及び同第 43 条の 2 副学長職務についての追加。同 45 条から同 48 条まで教授会の役割について改正及び一部削除。同 50 条大学協議会の役割について一部改正。別表 6 学部学科別・卒業要件の変更</p> <p>この学則(改正)は、平成 27 年 4 月 1 日から実施する。</p> <p>平成 28 年 4 月 1 日(学則第 3 条の変更。先端工学研究機構に係る学則第 7 条の 1 及び 2 の削除。学則第 16 条を単位、各授業科目の授業期間、授業の方法に分類。学則第 16 条の 2 に卒業論文等の授業科目に係る単位数及び履修科目として登録できる単位数上限を追加。学則第 16 条の 3 に授業の方法を追加。学則第 17 条の一部改正。学則第 18 条の 2 の一部改正。学則第 21</p>
---	---

条の一部改正。学則第 24 条の一部改正。学則第 27 条の一部改正。学則第 28 条の一部改正。学則第 31 条の一部改正。別表 3 工学部授業科目、別表 4 システム理工学部授業科目、別表 5 デザイン工学部授業科目の変更。)

この学則(改正)は、平成 28 年 4 月 1 日から実施する。

平成 28 年 6 月 15 日(学則第 43 条の 3 を追加)

この学則(改正)は、平成 28 年 6 月 15 日から実施する。

平成 28 年 6 月 15 日(学則第 44 条の 2 を追加)

この学則(改正)は、平成 28 年 6 月 15 日から実施する。

平成 28 年 6 月 15 日(学則第 48 条の(6)学部長選挙に関する事項の削除)

この学則(改正)は、平成 28 年 6 月 15 日から実施する。

平成 29 年 4 月 1 日(建築学部設置及び収容定員の変更に係る学則第 4 条、第 13 条、第 21 条、第 22 条、第 38 条、第 50 条の 2、第 55 条の改正。別表 1 収容定員、別表 2 教育研究上の目的、別表 6 建築学部授業科目、別表 7 学部・学科別卒業要件、別表 8 納入金、別表 9 学位の種類の一部追加並びに改正。)工学部建築学科及び建築工学科は、平成 29 年 3 月 31 日に在学するものが、当該学部にて在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成 29 年 4 月 1 日から実施する。

平成 30 年 4 月 1 日(工学部通信工学科名称変更に係る学則条文第 4 条の一部変更。別表の収容定員、授業科目(教職課程を含む)、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)、当該学科にて在学しなくなるまでの間、存続するものとする。第 7 節 大学協議会廃止に係わる学部長・研究科長会議の役割について一部改正。第 8 節 科目等履修生・委託生・研究生の一部改正及び項目削除。

この学則(改定)は、平成 30 年 4 月 1 日から実施する。

条の一部改正。学則第 24 条の一部改正。学則第 27 条の一部改正。学則第 28 条の一部改正。学則第 31 条の一部改正。別表 3 工学部授業科目、別表 4 システム理工学部授業科目、別表 5 デザイン工学部授業科目の変更。)

この学則(改正)は、平成 28 年 4 月 1 日から実施する。

平成 28 年 6 月 15 日(学則第 43 条の 3 を追加)

この学則(改正)は、平成 28 年 6 月 15 日から実施する。

平成 28 年 6 月 15 日(学則第 44 条の 2 を追加)

この学則(改正)は、平成 28 年 6 月 15 日から実施する。

平成 28 年 6 月 15 日(学則第 48 条の(6)学部長選挙に関する事項の削除)

この学則(改正)は、平成 28 年 6 月 15 日から実施する。

平成 29 年 4 月 1 日(建築学部設置及び収容定員の変更に係る学則第 4 条、第 13 条、第 21 条、第 22 条、第 38 条、第 50 条の 2、第 55 条の改正。別表 1 収容定員、別表 2 教育研究上の目的、別表 6 建築学部授業科目、別表 7 学部・学科別卒業要件、別表 8 納入金、別表 9 学位の種類の一部追加並びに改正。)工学部建築学科及び建築工学科は、平成 29 年 3 月 31 日に在学するものが、当該学部にて在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

この学則(改正)は、平成 29 年 4 月 1 日から実施する。

平成 30 年 4 月 1 日(工学部通信工学科名称変更に係る学則条文第 4 条の一部変更。別表の収容定員、授業科目(教職課程を含む)、単位数、学部・学科別卒業要件、納入金等の一部変更)、当該学科にて在学しなくなるまでの間、存続するものとする。第 7 節 大学協議会廃止に係わる学部長・研究科長会議の役割について一部改正。第 8 節 科目等履修生・委託生・研究生の一部改正及び項目削除。

この学則(改定)は、平成 30 年 4 月 1 日から実施する。



<p>平成 31 年 4 月 1 日(兵役義務により休学する場合の学費免除に係る第 32 条第 1 項、第 33 条の一部改正)</p> <p>この学則(改正)は、平成 31 年 4 月 1 日から実施する。</p> <p>令和 2 年 4 月 1 日 (工学部先進国際課程の設置に係わる学則条文第 4 条、10 条、27 条、28 条、別表 1 収容定員、別表 2 芝浦工業大学における教育研究上の目的、別表 3 工学部授業科目(教職課程含む)、別表 7 学部・学科別卒業要件、別表 8 納入金、別表 9 学位の種類の一部追加並びに改正)</p> <p>この学則(改正)は、令和 2 年 4 月 1 日から実施する。</p> <p>令和 3 年 4 月 1 日 (別表 7 工学部・システム理工学部・建築学部卒業要件の一部追加ならびに改正)</p> <p>この学則(改正)は、令和 3 年 4 月 1 日から実施する。</p> <p>令和 4 年 4 月 1 日 (休学に係わる学則条文第 32 条、休学期間中の学費に係わる学則条文第 33 条の一部変更。別表 3 工学部授業科目、別表 4 システム理工学部授業科目、別表 5 デザイン工学部授業科目、別表 6 建築学部授業科目、別表 7 工学部・システム理工学部・デザイン工学部・建築学部卒業要件、別表 8 納入金の一部追加ならびに改正)</p> <p>この学則(改正)は、令和 4 年 4 月 1 日から実施する。ただし、第 33 条休学期間中の学費の取扱は、令和 4 年度の在籍者から適用する。</p> <p>令和 5 年 4 月 1 日 (自己点検・評価等に係わる学則条文第 1 条の 2、設置等に係わる学則条文第 3 条の住所、教育課程に係わる学則条文第 13 条別表 3 工学部授業科目、別表 4 システム理工学部授業科目、別表 5 デザイン工学部授業科目、別表 6 建築学部授業科目、卒業認定に係る学則条文第 21 条別表 7 システム理工学部卒業要件、学費等に係る学則条文第 38 条別表 8 科目等履修生の学費等の一部改正)</p> <p>この学則(改定)は、令和 5 年 4 月 1 日から実施する。</p>	<p>平成 31 年 4 月 1 日(兵役義務により休学する場合の学費免除に係る第 32 条第 1 項、第 33 条の一部改正)</p> <p>この学則(改正)は、平成 31 年 4 月 1 日から実施する。</p> <p>令和 2 年 4 月 1 日 (工学部先進国際課程の設置に係わる学則条文第 4 条、10 条、27 条、28 条、別表 1 収容定員、別表 2 芝浦工業大学における教育研究上の目的、別表 3 工学部授業科目(教職課程含む)、別表 7 学部・学科別卒業要件、別表 8 納入金、別表 9 学位の種類の一部追加並びに改正)</p> <p>この学則(改正)は、令和 2 年 4 月 1 日から実施する。</p> <p>令和 3 年 4 月 1 日 (別表 7 工学部・システム理工学部・建築学部卒業要件の一部追加ならびに改正)</p> <p>この学則(改正)は、令和 3 年 4 月 1 日から実施する。</p> <p>令和 4 年 4 月 1 日 (休学に係わる学則条文第 32 条、休学期間中の学費に係わる学則条文第 33 条の一部変更。別表 3 工学部授業科目、別表 4 システム理工学部授業科目、別表 5 デザイン工学部授業科目、別表 6 建築学部授業科目、別表 7 工学部・システム理工学部・デザイン工学部・建築学部卒業要件、別表 8 納入金の一部追加ならびに改正)</p> <p>この学則(改正)は、令和 4 年 4 月 1 日から実施する。ただし、第 33 条休学期間中の学費の取扱は、令和 4 年度の在籍者から適用する。</p> <p>令和 5 年 4 月 1 日 (自己点検・評価等に係わる学則条文第 1 条の 2、設置等に係わる学則条文第 3 条の住所、教育課程に係わる学則条文第 13 条別表 3 工学部授業科目、別表 4 システム理工学部授業科目、別表 5 デザイン工学部授業科目、別表 6 建築学部授業科目、卒業認定に係る学則条文第 21 条別表 7 システム理工学部卒業要件、学費等に係る学則条文第 38 条別表 8 科目等履修生の学費等の一部改正)</p> <p>この学則(改定)は、令和 5 年 4 月 1 日から実施する。</p>
--	--

<p>令和 6 年 4 月 1 日 (工学部 5 課程の設置に係わる学則条文第 4 条、別表 1 収容定員、別表 2 芝浦工業大学における教育研究上の目的、別表 3 工学部授業科目(教職課程含む)、別表 7 学部・課程・学科別卒業要件、別表 9 学位の種類の一部追加ならびに改定)</p> <p><u>工学部機械工学科及び機械機能工学科・材料工学科・応用化学科・電気工学科・情報通信工学科・電子工学科・土木工学科・情報工学科は、令和 5 年 3 月 31 日に当該学科に在学するものが当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。</u></p> <p><u>この学則(改定)は、令和 6 年 4 月 1 日から実施する。</u></p>	<p>(追加)</p>
---	-------------

<p>別表</p> <p>別表 1……収容定員</p> <p>別表 2……芝浦工業大学における教育研究上の目的</p> <p>別表 3……工学部授業科目(教職課程含む)</p> <p>別表 4……システム理工学部授業科目(教職課程含む)</p> <p>別表 5……デザイン工学部授業科目(教職課程含む)</p> <p>別表 6……建築学部授業科目</p> <p>別表 7……学部・<u>課程</u>・<u>学科別卒業要件</u></p> <p>別表 8……納入金</p> <p>別表 9……学位の種類</p> <p>別表 1</p> <p>収容定員</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">学部</th> <th style="width: 40%;">課程・課程名</th> <th style="width: 15%;">入学定員</th> <th style="width: 15%;">収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5" style="text-align: center;">工学部</td> <td>機械工学課程</td> <td style="text-align: center;"><u>228</u></td> <td style="text-align: center;"><u>912</u></td> </tr> <tr> <td>物資化学課程</td> <td style="text-align: center;"><u>208</u></td> <td style="text-align: center;"><u>832</u></td> </tr> <tr> <td>電気電子工学課程</td> <td style="text-align: center;"><u>208</u></td> <td style="text-align: center;"><u>832</u></td> </tr> <tr> <td>情報・通信工学課程</td> <td style="text-align: center;"><u>218</u></td> <td style="text-align: center;"><u>872</u></td> </tr> <tr> <td>土木工学課程</td> <td style="text-align: center;"><u>104</u></td> <td style="text-align: center;"><u>416</u></td> </tr> </tbody> </table>	学部	課程・課程名	入学定員	収容定員	工学部	機械工学課程	<u>228</u>	<u>912</u>	物資化学課程	<u>208</u>	<u>832</u>	電気電子工学課程	<u>208</u>	<u>832</u>	情報・通信工学課程	<u>218</u>	<u>872</u>	土木工学課程	<u>104</u>	<u>416</u>	<p>別表</p> <p>別表 1……収容定員</p> <p>別表 2……芝浦工業大学における教育研究上の目的</p> <p>別表 3……工学部授業科目(教職課程含む)</p> <p>別表 4……システム理工学部授業科目(教職課程含む)</p> <p>別表 5……デザイン工学部授業科目(教職課程含む)</p> <p>別表 6……建築学部授業科目</p> <p>別表 7……学部・<u>(追加)</u> 学科別卒業要件</p> <p>別表 8……納入金</p> <p>別表 9……学位の種類</p> <p>別表 1</p> <p>収容定員</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">学部</th> <th style="width: 40%;"><u>学科</u>・課程名</th> <th style="width: 15%;">入学定員</th> <th style="width: 15%;">収容定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5" style="text-align: center;">工学部</td> <td>機械工学科</td> <td style="text-align: center;"><u>114</u></td> <td style="text-align: center;"><u>456</u></td> </tr> <tr> <td>機械機能工学科</td> <td style="text-align: center;"><u>114</u></td> <td style="text-align: center;"><u>456</u></td> </tr> <tr> <td>材料工学科</td> <td style="text-align: center;"><u>104</u></td> <td style="text-align: center;"><u>416</u></td> </tr> <tr> <td>応用化学科</td> <td style="text-align: center;"><u>104</u></td> <td style="text-align: center;"><u>416</u></td> </tr> <tr> <td>電気工学科</td> <td style="text-align: center;"><u>104</u></td> <td style="text-align: center;"><u>416</u></td> </tr> </tbody> </table>	学部	<u>学科</u> ・課程名	入学定員	収容定員	工学部	機械工学科	<u>114</u>	<u>456</u>	機械機能工学科	<u>114</u>	<u>456</u>	材料工学科	<u>104</u>	<u>416</u>	応用化学科	<u>104</u>	<u>416</u>	電気工学科	<u>104</u>	<u>416</u>
学部	課程・課程名	入学定員	収容定員																																						
工学部	機械工学課程	<u>228</u>	<u>912</u>																																						
	物資化学課程	<u>208</u>	<u>832</u>																																						
	電気電子工学課程	<u>208</u>	<u>832</u>																																						
	情報・通信工学課程	<u>218</u>	<u>872</u>																																						
	土木工学課程	<u>104</u>	<u>416</u>																																						
学部	<u>学科</u> ・課程名	入学定員	収容定員																																						
工学部	機械工学科	<u>114</u>	<u>456</u>																																						
	機械機能工学科	<u>114</u>	<u>456</u>																																						
	材料工学科	<u>104</u>	<u>416</u>																																						
	応用化学科	<u>104</u>	<u>416</u>																																						
	電気工学科	<u>104</u>	<u>416</u>																																						

	(削除)	(削除)	(削除)
	(削除)	(削除)	(削除)
	(削除)	(削除)	(削除)
	(削除)	(削除)	(削除)
	先進国際課程	9	36
	合計	975名	3,900名
システム理工学部	電子情報システム学科	115	460
	機械制御システム学科	90	360
	環境システム学科	90	360
	生命科学科	115	460
	数理科学科	75	300
	合計	485名	1,940名
デザイン工学部	デザイン工学科	160	640
	合計	160名	640名
建築学部	建築学科	240	960
	合計	240名	960名

	情報通信工学科	104	416
	電子工学科	104	416
	土木工学科	104	416
	情報工学科	114	456
	先進国際課程	9	36
合計		975名	3,900名
システム理工学部	電子情報システム学科	115	460
	機械制御システム学科	90	360
	環境システム学科	90	360
	生命科学科	115	460
	数理科学科	75	300
	合計	485名	1,940名
デザイン工学部	デザイン工学科	160	640
	合計	160名	640名
建築学部	建築学科	240	960
	合計	240名	960名

【変更部分の新旧対照表】 下線部分変更

別表2 芝浦工業大学における教育研究上の目的

新（令和6年度）	旧（令和5年度）
<u>1. 工学部</u> <u>機械工学課程</u> 追加 <u>物質化学課程</u> 追加 <u>電気電子工学課程</u> 追加 <u>情報・通信工学課程</u> 追加 <u>土木工学課程</u> 追加	<u>1. 工学部</u> <u>機械工学科</u> 削除 <u>機械機能工学科</u> 削除 <u>材料工学科</u> 削除 <u>応用科学科</u> 削除 <u>電気工学科</u> 削除 <u>情報通信工学科</u> 削除 <u>電子工学科</u> 削除 <u>土木工学科</u> 削除 <u>情報工学科</u> 削除

別表3 工学部授業科目（教職課程含む）

新（令和6年度）	旧（令和5年度）
<u>工学部</u> <u>機械工学課程</u> 追加 <u>物質化学課程</u> 追加 <u>電気電子工学課程</u> 追加 <u>情報・通信工学課程</u> 追加 <u>土木工学課程</u> 追加	<u>1. 工学部</u> <u>機械工学科</u> 削除 <u>機械機能工学科</u> 削除 <u>材料工学科</u> 削除 <u>応用科学科</u> 削除 <u>電気工学科</u> 削除 <u>情報通信工学科</u> 削除 <u>電子工学科</u> 削除 <u>土木工学科</u> 削除 <u>情報工学科</u> 削除

別表7 学部・課程・学科別卒業要件

新（令和6年度）	旧（令和5年度）
<u>工学部</u> <u>機械工学課程</u> 追加 <u>物質化学課程</u> 追加 <u>電気電子工学課程</u> 追加 <u>情報・通信工学課程</u> 追加 <u>土木工学課程</u> 追加	<u>1. 工学部</u> <u>機械工学科</u> 削除 <u>機械機能工学科</u> 削除 <u>材料工学科</u> 削除 <u>応用科学科</u> 削除 <u>電気工学科</u> 削除 <u>情報通信工学科</u> 削除 <u>電子工学科</u> 削除 <u>土木工学科</u> 削除 <u>情報工学科</u> 削除

別表9 学位の種類

新（令和6年度）			旧（令和5年度）		
<u>工学部</u>			<u>工学部</u>		
<u>機械工学課程</u>	<u>学士（工学）</u>	<u>追加</u>	<u>機械工学科</u>	<u>学士（工学）</u>	<u>削除</u>
<u>物質化学課程</u>	<u>学士（工学）</u>	<u>追加</u>	<u>機械機能工学科</u>	<u>学士（機械機能工学）</u>	<u>削除</u>
<u>電気電子工学課程</u>	<u>学士（工学）</u>	<u>追加</u>	<u>材料工学科</u>	<u>学士（工学）</u>	<u>削除</u>
<u>情報・通信工学課程</u>	<u>学士（工学）</u>	<u>追加</u>	<u>応用化学科</u>	<u>学士（工学）</u>	<u>削除</u>
<u>土木工学課程</u>	<u>学士（工学）</u>	<u>追加</u>	<u>電気工学科</u>	<u>学士（工学）</u>	<u>削除</u>
			<u>情報通信工学科</u>	<u>学士（工学）</u>	<u>削除</u>
			<u>電子工学科</u>	<u>学士（工学）</u>	<u>削除</u>
			<u>土木工学科</u>	<u>学士（工学）</u>	<u>削除</u>
			<u>情報工学科</u>	<u>学士（工学）</u>	<u>削除</u>

## 芝浦工業大学工学部教授会規則

平成2年9月26日

制定

### (趣旨)

第1条 芝浦工業大学工学部教授会(以下「教授会」という。)は、本規則により運営する。

### (組織)

第2条 教授会は、学部長及び専任の教授、准教授、講師、助教で組織する。

### (諮問事項等)

第3条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり、意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
  - (2) 学位の授与に関する事項
  - (3) 教育及び研究組織に関する事項
  - (4) 学科、課程、学科目及び授業に関する事項
  - (5) 教員の研究育成及び留学に関する事項
  - (6) 教育研究予算の配分の方針に関する事項
  - (7) 教員の任用に関する事項
  - (8) 学生の指導育成に関する事項
  - (9) 学生の賞罰に関する事項
  - (10) 教員の資格審査に関する事項
  - (11) 学則に関する事項
  - (12) その他学長から意見を求められた事項
- 2 教授会は、前項各号に定める事項のほか、学長及び学部長その他の教授会等が置かれる組織の長(以下「学長等」という)がつかさどる次の事項について審議し、及び学長等の求めに応じて意見を述べることができる。
- (1) 教授会の運営に関する事項
  - (2) 図書、設備及び施設に関する事項
  - (3) 学生の試験、進級、転科、転課程・コース、転部に関する事項
  - (4) 授業日数及び休業に関する事項
  - (5) 学生団体及び学生活動並びに学生生活に関する事項
  - (6) 学部規則に関する事項
  - (7) その他学長等から意見を求められた事項

3 前項にいう審議とは、議論・検討することを意味し、決定権を含意するものではない。

(資格審査会議)

第4条 前条第10号の「教員の資格審査に関する事項」については、次のとおりとする。

- (1) この事項の審議は、学部長及び専任の教授で組織する資格審査会議で行う。
- (2) 資格審査会議は、必要に応じて開催する。
- (3) 資格審査会議の議長は、学部長とする。
- (4) 資格審査会議は、教授総数の3分の2以上で成立し、教授総数の過半数の賛成により同会議における意思を決する。

(議案)

第5条 教授会の議案は、学部長が定め、開催7日前までに会員に連絡しなければならない。

ただし、緊急の場合は、出席会員の同意を得て議案を追加することができる。

(開催の期日)

第6条 教授会は、年に4回開催するほか、学長又は学部長が必要と認めたとき及び会員の3分の1以上の申出があったとき臨時に開催しなければならない。

(議長の選出)

第7条 教授会の正・副議長は、会員の選挙によって選出する。

(開催及び運営)

第8条 教授会は、会員の過半数の出席により成立し、出席会員の過半数により教授会における意思を決する。可否同数の場合は、議長が決する。

(学生の罰則)

第9条 第3条第1項第9号に関する事項のうち、罰則については芝浦工業大学学生懲戒処分細則又は単位認定に関わる学生の不正行為に関する取扱い細則による。

(委員会への検討等の付託)

第10条 教授会に委員会を設け、当該委員会に第3条各項各号における事項の検討等を付託することができる。

(その他の事項)

第11条 本規則に掲げるほか、運営その他について必要な事項は、細則をもって定める。

(事務の所管)

第12条 教授会の庶務は、豊洲学事部学事課が行う。

(規則の改廃)

第13条 この規則の改廃は、工学部教授会の議を経て学長が行う。

附 則

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この規則(改正)は、平成7年11月1日から施行する。

附 則

この規則(改正)は、平成16年11月1日から施行する。

附 則

この規程(改正)は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則(改正)は、平成20年12月1日から施行する。

附 則

この規則(改正)は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規則(改正)は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規則(改正)は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規則(改正)は、平成28年6月15日から施行する。

附 則

この規則(改定)は、平成30年3月31日から施行する。

附 則

この規則(改定)は、令和5年4月1日から施行する。



芝浦工業大学工学部機械工学課程  
設置の趣旨等を記載した書類

目次

1. 設置の趣旨及び必要性.....	2
2. 学部・課程の特色.....	4
3. 学部・課程の名称及び学位の名称.....	5
4. 教育課程の編成の考え方及び特色.....	5
5. 教育方法・履修指導方法及び卒業要件.....	9
6. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画.....	13
7. 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画.....	14
8. 取得可能な資格.....	15
9. 入学者選抜の概要.....	15
10. 教員組織の編成の考え方及び特色.....	17
11. 研究の実施についての考え方・体制と仕組み.....	18
12. 施設・設備等の整備計画.....	19
13. 2校地以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画.....	21
14. 管理運営及び事務組織.....	22
15. 自己点検・評価.....	24
16. 情報の公表.....	25
17. 教育内容の改善を図るための組織的な取り組み.....	26
18. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制.....	27

## 1. 設置の趣旨及び必要性

### (1) はじめに

芝浦工業大学（以下「本学」という。）は、1927年の開学以来、「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」を建学の精神に掲げ、実学主義の教育を展開してきた。この実学教育により、本学はこれまで優れた卒業生を多数輩出し、現在では4学部（工学部、システム理工学部、デザイン工学部、建築学部）で収容定員7,440名を擁する理工系大学として発展を遂げている。

一方で現代の世界は変化が激しく、科学技術の高度化や産業構造の複雑化が急速に進展している。このような時代において、本学が社会に求められる大学として今後も発展していくためには、本学も時代の変化に合わせて改革を行っていく必要がある。

そこで、4学部の中で最も長い歴史を持つ工学部（収容定員3,900名）においても、時代の要請に応じた改組を実施することとした。具体的には、「分野横断教育」「研究を軸とした実践型教育」「課題発見・解決型人材教育」を工学部における教育の3本柱に据え、これらを推進しやすい組織形態の課程制に移行することとした。

工学部全体としては、「機械工学課程」「物質化学課程」「電気電子工学課程」「情報・通信工学課程」「土木工学課程」「先進国際課程」の6課程体制となるが、本申請書においては上記のうち「機械工学課程」について設置の趣旨等を記載する。

### (2) 課程の設置の趣旨及び必要性

第一次産業革命以降、機械工学は常にその時代の技術開発を先導し、多くの技術者が築き上げてきた科学技術を駆使して我々の生活や産業を支えてきた。このような機械工学の社会的役割は、Society 5.0 が目指す超スマート社会を実現していくプロセスにおいても不可欠である。さらにその先の未来社会を見据えれば、機械工学はその基盤となる学術を深化・拡充し、周辺工学との融合を積極的に進めていく必要があり、それらを機械工学に課された使命として認識することが大切である。また、これらのミッションは機械工学教育の観点からも重要であり、上述のミッションに応えられる技術者の育成が、今後の大学教育に求められている。こうした要請に工学系大学が応えるためには、従来の技術者教育を継承しながら、学科の枠組みを超えて教学マネジメントのもとで分野横断的な手法を取り入れることが有効である。

以上のような趣旨に基づいて、これからも有能な機械工学系人材を輩出していくためには、学科制で培われてきた伝統的な機械工学の教育体系を発展させ、様々な専門分野との連携を深めることによって、新たな教育プログラムを構築することが必要となる。その実現に向けて求められることは、先に掲げた三本柱（分野横断教育、研究を軸とした実践型教育、課題発見・解決型人材教育）を基盤とした教育プログラムの具体化であり、それを実践するための土台となる課程制の導入である。したがって、上述のような必要性に鑑みて、工学部に「機械工学課程」（以下「本課程」という。）を設置する。また、本課程の趣旨を明確にするため、本課程内に「基幹機械コース」と「先進機械コース」を設ける。これにより、将来の変化を予測することが困難な時代にあっても、機械工学の立場から諸課題を解決できる有為な人材を育成する。

### **(3) 養成する人材像**

本課程が属する工学部では、建学の精神に基づき「現代社会が抱える様々な課題を自ら発見、解決する工学技術者」の育成を掲げている。また、前項に記載した通り、これからの技術者は将来の変化を予測することが困難な時代と向き合う中で、急速なグローバル化や情報化に対応し、社会にとって付加価値の高い科学技術を創造していく必要がある。特に機械工学を知識や技術の拠り所とする技術者に対しては、機械工学の学術を基盤として、新たな機械や機械システムの実現に貢献できる能力が求められる。

したがって上述の背景を考慮し、本課程では「科学技術の現状や社会の要望をグローバルな視点で捉え、環境や感性との調和に配慮しながら、機械工学の学理を用いて有用な機械やシステムを創成できる人材」を養成する人材像として定めている。

また、上記の人材像を受けて、工学部ならびに本課程において教育研究上の目的を定めている。**【添付資料 1 (3)】**

### **(4) 3つのポリシー**

上記の要請する人材に対応して、工学部ならびに本課程において 3 つのポリシーを定めている。**【添付資料 1 (4)】**

### **(5) 養成する人材像と 3 つのポリシーとの相関関係・整合性について**

本課程において養成する人材像と3つのポリシーの相関関係・整合性については、別添のカリキュラムマップを参照されたい。**【添付資料 1 (5)】**

カリキュラムマップでは、「養成する人材像」に基づいて設定した「ディプロマ・ポリシー」を、「アドミッション・ポリシー」も踏まえつつ、さらに小項目の「学修・教育到達目標」に分解した上で、カリキュラムを構成する個々の科目がどのように配置されているかを示している。すなわち、学修・教育到達目標ごとに適切な科目が配当されており、その指針は「カリキュラム・ポリシー」に示されていることから、養成する人材像と3つのポリシーとの関係は整合性のとれたものとなっている。

### **(6) 教育・研究の対象となる中心的な学問分野**

本課程において教育・研究の対象となる中心的な学問分野は、機械工学の基幹を成す力学分野と、機械工学の境界を超えた融合分野から構成されている。代表的な分野としては、高性能な機械材料を安全に使用するための固体力学に関する分野、様々な産業機器における複雑な熱流動輸送を解明するための熱・流体力学に関する分野、先進的な機械システムを構築するために物理現象を解明して応用するためのメカニカルサイエンスに関する分野、機械工学・電子工学・制御工学を融合して新たなサービスを構築するためのロボティクス・メカトロニクスに関する分野などが挙げられる。

## 2. 学部・課程の特色

### (1) 課程の特色

機械工学は「ものづくり」を対象とした学問である。すなわち、機械工学の基盤となる学理は、「ものを構成する材料の性質」「ものの運動や活動のメカニズム」「それらを生み出すエネルギー」などに関連した自然科学であり、その中核を担うのは「力学」である。さらに、具体的な「もの」を創造するためには、設計、加工、制御といった機械工学固有の設計科学が必要であり、力学と設計科学の両者によって機械工学の学術的な基幹が構築されている。

一方、現代の機械工学は、情報技術などと結びつきながら人間の知的活動の一部を補完あるいは代替する領域にまでその対象を広げつつある。今後、機械や機械システムの多様化が進めば、異分野との連携や融合によって先進的な機械や技術の創出に一層の拍車がかかることが予想される。以上のような視点に立つと、機械工学が社会の課題解決に取り組む手段として、二つのアプローチを考えることができる。

第一のアプローチは、機械工学の基幹を構成する自然科学を掘り下げ、必要であれば力学的な思考に基づいて理論を再構築することにより、未知の課題に取り組む立場である。第二のアプローチは、異なる領域に視野を広げ、広範な知識や技術を取り入れながら、機械工学の枠組みに固執しない先進的な技術や機能を生み出すことで課題解決を図る立場である。

機械工学課程ではこのような二つの方向性を重視し、第一のアプローチに対応した「基幹機械コース」と第二のアプローチに対応した「先進機械コース」を課程内に設置する。

また各コースでは、専門科目を特定のテーマに沿ってグルーピングした「分野別科目群」を定めている。その内容は以下に示す通りである。

- ① エネルギー・モビリティ（基幹機械コース）  
エネルギーの生成や利用、航空機や自動車などの開発に寄与する流体の運動や熱の移動現象について学ぶ科目群。
- ② メカニクス・モーションコントロール（基幹機械コース）  
航空機や自動車、鉄道をはじめとした様々な機械を最適な形状に設計し、効率良く作動させるための力学と制御について学ぶ科目群。
- ③ メカニカルサイエンス（先進機械コース）  
微細加工技術、極微量・極小・微弱な物理量の測定や応用、光や波動などの理論と応用について学ぶ科目群。
- ④ バイオロボティクス（先進機械コース）  
機械工学と電子工学・制御工学が融合したメカトロニクス・ICT分野、生物学や医学、持続可能な社会を支える新しい機能材料工学等について学ぶ科目群。

### (2) 本課程の設置が工学部へ与える影響

上述の分野別科目群は工学部の他課程においても設置されている。工学部では分野横断の学びを推進しており、学生は他課程が設置している分野別科目群から、自らのニーズに合わせて科目を履修することができる。課程・コースをまたいで分野別科目群を活用することで、学生は効果的・効率的に他分野の学びを進めることができる。

また、学生が他分野の研究室において一定の研究活動を行うことができる制度（「学

内研究留学」)も工学部の他の課程と共同で設けており、学生の派遣・受入を通じて研究室間の交流が活性化することが期待される。

### 3. 学部・課程の名称及び学位の名称

#### (1) 学部・課程・学位の名称

学部	課程	学位
工学部 College of Engineering	機械工学課程 Mechanical Engineering Program	学士(工学) Bachelor of Engineering

#### (2) 上記名称とした理由・背景

機械工学は広く社会に認知された工学分野であり、本課程においても機械工学の学術体系を基盤としながら、機械工学の深化及び機械工学と異分野との融合を軸とした教育・研究の展開を目指している。したがって、課程の名称を「機械工学課程」とする。また、他分野との横断教育によって、工学の諸課題に取り組める能力が身に付くことを求めていることから、学位の名称を「学士(工学)」とする。

### 4. 教育課程の編成の考え方及び特色

#### (1) 科目区分の設定及び理由

工学部の開講科目は「基礎・教養科目」、「工学部共通教養科目」、「専門科目」、「工学部共通専門科目」に区分されており、これらのうち「基礎・教養科目」は「数理基礎科目」、「英語科目」、「情報科目」、「人文社会系教養科目」、「体育健康科目」から構成されている。また、「工学部共通教養科目」には、データサイエンスに関するリテラシーや多様性に対する理解など、専門によらずこれからの工学系人材が身に付けておくべき教養科目を配置している。「工学部共通専門科目」は、分野横断教育の促進につながる導入科目や学内研究留学などの専門科目によって構成されており、課程ごとに分野固有の科目として開講されている「専門科目」と区別している。

本課程のカリキュラム・ポリシーでは、工学の専門知識や専門スキルを修得するために必要な自然科学や語学、社会に対する複眼的なものの見方などを身に付けながら、機械工学分野及び関連する工学分野の専門知識について学ぶことを方針の一つとして掲げている。この指針に基づく科目の枠組みを明確に示すため、前者に関する科目区分を「基礎・教養科目」と「工学部共通教養科目」、後者に関する科目区分を「専門科目」と「工学部共通専門科目」に設定した。また、「基礎・教養科目」「工学部共通教養科目」及び「専門科目」「工学部共通専門科目」に対して卒業に必要な単位数等の条件を設定することにより、上記の科目区分に従って体系的な学修が行えるよう配慮した。

## (2) 各科目区分の科目構成及び理由

### ①基礎・教養科目

カリキュラム・ポリシーに示されているように、1、2年次の基礎・教養科目では、機械工学の基盤となる自然科学や数学の基礎知識、論理的な説明や意見交換を行うための語学力、技術者として適切な判断ができる倫理観と豊かな人間性を育むことに重点を置いている。そのため、以下のような科目構成と区分を設定している。

#### ・ 数理基礎科目

機械工学の学術基盤を成す自然科学の原理や思考法を早期に身に付けるための科目によって構成される。本課程では「基礎力学」、「物理学実験」、「化学の基礎と実験」を必修科目とし、「基礎力学演習」、「基礎電磁気学」などの科目も配置して力学をベースとした基礎概念の定着を図る。また、物理化学現象の理解や計算に必要な解析能力を修得するため、「微分積分1」、「微分積分2」、「線形代数1」、「線形代数2」を必修科目に設定し、これらに続く科目として「微分方程式」、「ベクトル解析」、「確率と統計1」、「確率と統計2」などを配置する。

#### ・ 英語科目

国際社会の場においても個々の専門能力が発揮できることを目的とした科目であり、必修科目の「Reading & Writing 1」、「Listening & Speaking 1」を中心に「Reading & Writing 2」、「Listening & Speaking 2」、「TOEIC」、「工学英語1」、「工学英語2」、「Academic English」によって構成される。これらの科目により、英語を活用して情報を収集・発信する能力を育成する。

#### ・ 情報科目

創造活動のプロセスで要求される情報収集能力や、収集した情報を適切に利用して正確に発信する情報活用能力の基礎を身に付けるため、基礎的な情報系科目によって構成される。基幹機械コースでは「データサイエンス演習」、先進機械コースでは「C言語入門」を必修科目に設定する。

#### ・ 人文社会系教養科目

技術者のあるべき姿を客観的に認識できる倫理観、技術と社会の関わりについて様々な側面から考えられる大局的観点を身に付けるための科目であり、必修科目の「技術者の倫理」ならびに文化、経済、環境等に関連した科目によって構成される。また、コミュニケーション、プレゼンテーション、レポートライティングに関する科目を配置し、社会において他者と意思疎通を図る際に必要となる能力を育成する。

#### ・ 体育健康科目

心身の健康を維持・増進するとともに、社会性やリーダーシップを身に付けるための科目であり、必修科目の「スポーツ科学実技」及び関連する講義科目と演習科目によって構成される。

### ②工学部共通教養科目

データサイエンスに関するリテラシーや多様性に対する理解など、専門分野によ

らず工学系人材がこれから社会で活躍するために必要な能力や考え方を育成する科目であり、「統計学基礎」、「データサイエンスリテラシー」、「芝浦工業大学通論」、「技術経営入門」、「ダイバーシティ入門」によって構成される。

### ③専門科目

カリキュラム・ポリシーに示されているように、1、2年次の専門科目では、数理基礎科目で学んだ自然科学の原理を機械工学の理論体系に沿って展開できる工学的思考力の育成に重点を置いている。また、2、3年次の専門科目では、設計科学の素養を身に付けながら、基礎理論を工学問題へ適用できる応用力の育成に重点を置いている。さらに3、4年次の専門科目においては、卒業研究を基軸とした体験的学修の積み重ねを重視している。以上の方針に基づき、基幹機械コースと先進機械コースでは、それぞれ以下のような科目構成と区分を設定している。

#### ・基幹機械コース

1、2年次の専門科目は、機械工学の学術基盤を成す力学に関する基礎知識の修得が目的であり、必修4力学である「材料力学1」、「流体力学1」、「熱力学1」、「振動工学1」を中心に構成されている。

2、3年次の専門科目は、設計科学の基礎知識と基礎スキルの修得を主な目的として、必修の実習科目である「機械設計製図1」、「機械設計製図2」を中心に、「加工学」、「制御工学1」、「制御工学2」などによって構成されている。また、基礎理論の応用方法や活用技術を育成するため、「材料設計学」、「エンジンシステム」、「航空宇宙工学」、「Mechatronics」などの応用科目を配置している。

3、4年次の専門科目は、「卒業研究1」～「卒業研究4」を中心に構成されている。また、前述の応用科目は3年次に配置されており、卒業研究で実践的な取り組みを行いながら、関連する専門知識への理解を深められるように配慮している。

#### ・先進機械コース

1、2年次の専門科目は、必修4力学の「材料力学1」、「流体力学1」、「熱力学1」、「振動工学1」と、機械設計に必要な知識及びスキルを取得するための必修科目「機械工学概論1」～「機械工学概論3」を中心に構成されている。なお、必修4力学は課程内共通科目として開講し、基幹機械コースと同一のシラバスに従って授業を実施する。

3年次の専門科目は「研究導入講義1」、「研究導入講義2」及び「研究導入演習1」～「研究導入演習4」が中核となって構成されている。3年次から始まる卒業研究の導入教育科目であると同時に、分野横断の視点を育てる科目でもあり、研究分野ごとに研究導入講義と研究導入演習が設定されている。これにより、幅広い分野の内容が学修できる科目構成となっている。

また、基幹機械コースと同様に「卒業研究1」～「卒業研究4」を3、4年次に配置し、研究を基軸とした体験的学修に十分な学修時間を充てている。

#### ④工学部共通専門科目

カリキュラム・ポリシーに示されているように、基幹機械コースでは「機械システムの創成や高度化、高性能化に寄与できる応用力」、先進機械コースでは「革新的な機能を持つ機械システムを創成できる応用力」の育成を掲げるとともに、両コースとも、持続可能な社会の実現に貢献できる能力の修得を目指している。これらを実現するためには異なる専門分野との連携が必要であることから、専門科目とは別に工学部共通専門科目の区分を設けている。

工学部共通専門科目は、1、2年次の必修科目である「社会の中の工学」と「工学研究探訪1」を中心に構成されている。これらの科目によって、工学全体の体系と具体的な研究分野を把握できるようになっている。3年次には、他課程で研究活動を行うための「学内研究留学」が配置され、他分野との横断能力を効果的・効率的に育成できる科目構成としている。

#### (3) 課程の設置の趣旨等を実現するための科目の対応関係

本課程では、課程設置の趣旨を踏まえてディプロマ・ポリシーを定めるとともに、ディプロマ・ポリシーを細分化した学修・教育到達目標を設定している。前節で詳述した科目は、いずれも学修・教育到達目標と対応付けられており、科目同士の関連を考慮しながら目標ごとに配置されている。その詳細はカリキュラムマップに示す通りである。目標ごとに必修科目や主要科目を配当することで、学修・教育到達目標及び関連するディプロマ・ポリシーが達成できるようになっている。【添付資料1-(5)】

#### (4) 必修科目・選択科目・自由科目の構成及び理由

本課程では、学修・教育到達目標の達成に強く関与する科目を「必修科目」に設定している。また、特定の科目グループから指定された単位数を修得することで学修・教育到達目標の達成に寄与する科目を、「選択必修科目」に設定している。専門科目の「選択必修科目」は、履修の方向性を明示するため「選択必修科目A群」と「選択必修科目B群」に分類している。上記以外の科目に関しては、履修者の関心や必要性に応じて自主的に選択する科目を開講しており、卒業要件に含まれるものを「選択科目」、卒業要件に含まれないものを「自由科目」としている。詳細については、別記様式第2号(その2の1)「教育課程等の概要」に記載している。

#### (5) 履修順序(配当年次)の考え方

本課程の設置趣旨で述べた「分野横断教育」、「研究を軸とした実践型教育」、「課題発見・解決型人材教育」の三本柱を基盤とした教育プログラム実現のためには、自身の専門分野に関する基礎学力を固めたうえで、その応用展開能力を育成する学修へと進むカリキュラムが必要である。したがって、学年進行に伴い基礎科目から応用科目へ展開することを履修順序の方針とし、具体的には以下のような順序に従って科目を配当している。

1年次には、基礎・教養科目を中心に自然科学や語学等の基礎知識修得に関する科目を配当し、1年次後期から2年次には、専門科目を中心に機械工学の主要基礎科目(4力学や設計製図)を配当している。



3年次には、2年次終了までに学んだ専門基礎知識を用いて、高度な機械技術へ専門知識を応用する力や、機械工学の専門知識を他分野と連携する力などを育成するための科目を配当している。その中核となる科目が3年次から開始する「卒業研究1」であり、3年次後期の「卒業研究2」、4年次の「卒業研究3」、「卒業研究4」へと展開される。また3年次後期には、他課程で履修することができる「学内研究留学」が配当されており、機械工学の領域を超えて他分野と連携する活動に取り組めるよう工夫している。

#### **(6) 科目の設定単位数の考え方**

大学設置基準第21条に従い、本課程においても「1単位は45時間の学修を必要とする内容をもって構成する」こととしている。講義・演習科目は、授業外学修に必要な内容及び時間を考慮し、2単位を基準に設定している。実習を伴う実験及び設計製図に関する科目の単位数は、週3コマの開講による授業時間の確保、ならびに課題作成に伴う授業外学修の量を勘案して3単位としている。

### **5. 教育方法・履修指導方法及び卒業要件**

#### **(1) 授業内容に応じた授業の方法、学生数の設定、配当年次について**

本課程では、学生による主体的な学修の促進とそれによる学修成果の向上を目指し、それぞれの授業内容に適した授業方法を設定している。また、少人数授業の導入や、複数教員による授業、ティーチング・アシスタントを活用した授業などを取り入れることで、実質的な担当学生数が過度に多くならないよう工夫している。

例えば「機械設計製図1」、「機械設計製図2」の授業では、120名程度の学生を教員4名とティーチング・アシスタントで指導することにより、学修状況を個別に把握できるような体制をとっている。また、「研究導入講義」、「研究導入演習」では、実習や演習を経験して基礎的な知識や技術を応用に結びつける能力を養うため、複数の教員によって授業を行っている。

なお、配当年次に関しては授業内容が基礎から応用へと円滑に接続することを考慮して決定している。

#### **(2) 卒業要件について**

本課程の卒業要件はコース毎に定める。各コースの学生は各科目系列につき少なくとも以下に定める単位数を取得した上で124単位以上を修得しなければならない。また、GPAが2.0以上である必要がある。

機械工学課程 卒業要件

科目系列			基幹機械コース	先進機械コース
基礎・教養科目	数理基礎科目	数学科目	必修 19 単位 を含み 27 単位	必修 19 単位 を含み 27 単位
		物理学科目		
		化学科目		
	英語科目		必修 4 単位 を含み 8 単位	必修 4 単位 を含み 8 単位
	情報科目		必修 2 単位	必修 3 単位
	人文社会系 教養科目		必修 2 単位 選択必修 4 単位	必修 2 単位 選択必修 4 単位
	体育健康科目		必修 1 単位	必修 1 単位
	工学部共通教養科目		-	-
専門科目	工学部共通専門科目		必修 2 単位	必修 2 単位
	専門科目		必修 26 単位 選択必修 A 群から 12 単位 選択必修 B 群から 12 単位 を含み 62 単位	必修 28 単位 選択必修 A 群から 12 単位 選択必修 B 群から 4 単位 を含み 60 単位
総単位数			124 単位	124 単位

なお、科目区分ごとの必修、選択必修、選択等の単位数の考え方等は以下のとおりである。

・基礎・教養科目

機械工学の専門基礎知識を学ぶためには、自然科学、数学、情報技術の基礎を早期に身に付けることが不可欠である。したがって、数理基礎科目（数学・物理・化学）から必修 19 単位を含む 27 単位、情報科目から基幹機械コースは必修 2 単位、先進機械コースは必修 3 単位を取得することとしている。また、専門分野の学修に必要な英語による情報収集・発信能力を身に付けるため、英語科目からは必修 4 単位を含む 8 単位を取得することとしている。さらに、技術者に求められる倫理観や、技術と社会の関わりについて広い視野から捉えることのできる大局観を身に付けるため、人文社会系教養科目から必修 2 単位、選択必修 4 単位を取得することとしている。これらに加えて、心身の健康を維持・増進し、社会性やリーダーシップを身に付けるため、体育健康科目から必修 1 単位を取得することとしている。

・専門科目

機械工学の学術基盤を成す力学に関する基礎知識、及び設計科学に関する方法や考え方を修得するため、4 力学と設計に関する科目として、基幹機械コースでは必修 26 単位、先進機械コースでは必修 28 単位を取得することとしている。これらに加え、分野別科目群に基づいて選択必修 A 群・B 群の単位区分を設け、専門知識の応用力を身に付けることを目的として、各群から取得する単位数を設定している。具体

的には、基幹機械コースでは選択必修 A 群から 12 単位、選択必修 B 群から 12 単位、先進機械コースでは選択必修 A 群から 12 単位、選択必修 B 群から 4 単位を取得することとしている。以上の必修及び選択必修 A 群、選択必修 B 群に関する条件を含めて、基幹機械コースでは 62 単位、先進機械コースでは 60 単位取得することとしている。なお、これらの単位数は、副コース認定を目指した場合の他コースにおける取得単位数を勘案したものとなっている。さらに、工学全体の体系と具体的な研究分野を把握するため、工学部共通専門科目から必修 2 単位を取得することとしている。

### **(3) 卒業研究への単位付与について**

学生は、指導教員と相談して設定したテーマに沿いながら卒業研究を推進し、卒業論文を完成させ、最終報告を行うことが求められる。学生はこの過程で情報収集、構想、計画、思考、実行、ディスカッション、プレゼンテーション等の様々な能力を身に付けることを求められる。また必要に合わせて、英語での専門書・論文の講読や、教員が遂行している産学官連携にも触れながら、研究と実社会との接点についても学ぶ。

本課程では、上記の学びの内容を質と量を勘案し、3 年次の「卒業研究 1」「卒業研究 2」に各 2 単位、4 年次の「卒業研究 3」「卒業研究 4」に各 4 単位を認定し、卒業研究全体としては 12 単位を認定する。

### **(4) CAP 制について**

学生の主体的な学びの時間の確保のため、また各授業の事前・事後学修の時間を考慮し、年間 49 単位（半期では 25 単位）の履修上限を設ける。

### **(5) 他コース・他課程における授業科目の履修について**

本課程を含む工学部では分野横断の学びを推進しており、各課程の学生は、工学部の各課程が設置している分野別科目群（各課程の専門科目を特定のテーマでグルーピングした科目群）科目から自らのニーズに合わせて必要な科目を履修することができ、単位を修得した場合には卒業に必要な総単位数 124 単位に含むことができる。また、ひとつの科目群から 10 単位を修得し、当該科目群を担当する教員の研究室にて 2 単位分に相当する研究活動を行った学生には副コース認定を行い、認定証書を卒業時に授与する。

### **(6) 他大学における授業科目の履修等について**

学生が在籍中に外国を含む他大学等において修得した単位は、審査にて認められれば、60 単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

### **(7) 履修モデル**

本課程では、「科学技術の現状や社会の要望をグローバルな視点で捉え、環境や感性との調和に配慮しながら、機械工学の学理を用いて有用な機械やシステムを創成できる人材」を養成する人材像としている。他課程の科目履修による副コース認定制度の活用も含め、こ

のような人材を育成するための代表的な履修モデルを以下に示す。各履修モデルの詳細については、【資料5(7)】を参照されたい。

#### ①基幹機械コース科目による履修モデル

基幹機械コースの卒業要件において専門科目の選択必修 A 群から重点的に科目を履修することで、エネルギー機器や輸送機器等の設計・開発に貢献できる人材を育成する。

#### ②基幹機械コース科目とバイオロボティクス分野科目による履修モデル

基幹機械コースのメカニクス・モーションコントロール分野で学修した制御工学等の知識と、バイオロボティクス分野（機械工学課程、先進機械コース）で学修した智能機械や生体工学に関する知識を融合することで、生体機能等を取り入れた新たなロボティクスの設計・開発に貢献できる人材を育成する。

#### ③基幹機械コース科目と化学エンジニアリング分野科目による履修モデル

基幹機械コースで学修した力学、設計、材料強度等の知識と、化学エンジニアリング分野（物質化学課程、化学・生命工学コース）で学修した電気化学等の知識を融合することで、様々な用途や規模での燃料電池開発やその運転管理に貢献できる人材を育成する。

#### ④基幹機械コース科目と電力・エネルギー分野科目による履修モデル

基幹機械コースで学修した力学、設計、エネルギー等の知識と、電力・エネルギー分野（電気電子工学課程、電気・ロボット工学コース）で学修した電気回路や電力系統などの知識を融合することで、電気自動車の設計・開発などに貢献できる人材を育成する。

#### ⑤先進機械コース科目による履修モデル

先進機械コースのバイオロボティクス分野から重点的に科目を履修することで、メカトロニクス等の技術が必要とされる産業分野において活躍できる人材を育成する。

#### ⑥先進機械コース科目と情報ネットワーク工学分野科目による履修モデル

先進機械コースで学修したバイオロボティクスの知識と、情報ネットワーク工学分野（情報・通信工学課程、情報通信コース）の知識を組み合わせることで、セキュリティやプライバシー保護などの問題にも配慮した IoT デバイスの設計・開発などに貢献できる人材、あるいは生物学的な要素を用いた情報ネットワークシステムを設計できる人材を育成する。

#### ⑦先進機械コース科目と情報知能システム分野科目による履修モデル

先進機械コースで学修したバイオロボティクスの知識と、情報知能システム分野（情報・通信工学課程、情報工学コース）で学修した情報技術、データ処理技術等の知識を融合することで、AI と機械システムの融合などにより高度な機械知能システ

ムの研究開発に貢献できる人材を育成する。

## 6. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

本課程が属する工学部では、多様なメディアを高度に利用して授業を教室以外の場所で履修させる科目として、工学部共通教養科目において2科目（「統計学基礎」「データサイエンスリテラシー」）、工学部共通専門科目群において3科目（「社会の中の工学」「工学研究探訪1」「工学研究探訪2」）がある。これらの科目は、各開講期において学生が自らの必要性に合わせて主体的に学ぶことができるようにオンデマンド形式で開講し、LMS（学習管理システム：Learning Management System）を活用し、設問の設定と解答、課題提出等、質疑応答、添削指導等を別途行う。

各科目の内容については、以下に概要を記載する。

### ①統計学基礎（1年前後期開講・自由科目）

実験や観測、あるいはアンケートなどによって様々なデータを取得することができるが、このようなデータから情報を抽出し、背景に潜む構造を理解する手法のひとつが統計学である。このようなデータに対する解析手法は、最近ますます重要視され、様々な方向に発展している。本授業では、統計学における基本的概念、分析手法を学ぶ。

### ②データサイエンスリテラシー（1年前後期開講・選択科目）

現在、多様な分野においてビッグデータが活用されることが一般的になっているため、実際に社会でどのように活用されているかを学修する。また、実際にデータを活用するための分析法や注意点を学ぶ。データサイエンスにおいて中心的な技術はAIであるため、AIの歴史と実際にどのような分野に活用されているか、また、データを取り扱う際に必要な法規や倫理についても学ぶ。

### ③社会の中の工学（1年前期開講・必修科目）

工学部に設置された6課程の専攻分野を切り口として、各分野における研究や社会実装の具体的ケースにも触れながら、各分野の学修内容・研究内容が社会とどのような接点を有しているか理解する。分野横断的な内容にも触れることで、学生に気づきを与える機会としても役立つ。

### ④工学研究探訪1（2年後期開講・必修科目）

学生は100を超える工学部の研究室の中から任意の10研究室を選び、各研究室の研究内容や社会実装の具体的ケースに触れながら、各研究室の特徴や可能性について学ぶ。2年次後期までに履修を終えることで、3年次からの卒業研究着手のテーマ選定や分野を横断した学びを展開するための一助とする。

#### ⑤工学研究探訪 2 (2 年後期開講・選択科目)

工学研究探訪 1 を修得後、さらに 10 研究室の研究テーマを学んだ場合に単位認定する。

なお、学生の履修状況（キャンパスを超えた履修への対応等）に応じて、上記科目以外にも対面授業の一部を同時かつ双方向形式のオンライン配信を併用する形で実施することがある。また、多様なメディアを高度に利用して授業を教室以外の場所で履修させる科目については、学則で以下のように定めている。

芝浦工業大学 学則 第 16 条の 3「授業の方法」より抜粋

- 1 授業は講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。
- 2 本学学生は前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修することができる。
- 3 本学学生は本条第 1 項の授業を外国において履修することができる。また、前項の規定により多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修する場合についても同様とする。

### 7. 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

#### （1）実施状況

本学では、アクティブラーニング教育の一環として、従来から展開してきたPBL（Project Based Learning）を発展させ、国内外の協定校・企業・行政機関等とも連携して実施するグローバルPBLを積極的に展開している。グローバルPBLでは2週間程度を目安に海外協定校に渡航し、本学と協定校の学生で組成した混成チームにて専門に関係したテーマにおける課題解決に取り組む。テーマや課題は各PBLの担当教員もしくは協力企業等により実践性の高いものが設定される。

渡航型プログラムの実施状況としては、新型コロナウイルス禍の影響により 2019 年度の後半（2020 年 2、3 月）から実施できない日々が続いたが、2022 年度からは実施を再開し始めており、今後も順次再開を進めていく予定である。参考までに、新型コロナウイルス禍の影響を受けなかった最新の年度である 2018 年度のグローバルPBLの実施状況を添付する。【添付資料 7（1）】

#### （2）成績評価、単位認定方法

グローバルPBLを単位認定するための科目としては、工学部共通専門科目に「グローバルPBL1」「グローバルPBL2」を設置する。成績評価は、学生のプロジェクトへの貢献度ならびに報告書やプレゼンテーションといった成果物等を授業担当教員が総合的に評価し単位を認定する。

同様にインターンシップについても、大学が認めたプログラムについては工学部共通専

門科目の「国際インターンシップ 1」「国際インターンシップ 2」等の科目により単位認定を行う。成績評価は、実習先からのインターンシップ評価表、学生が提出する日々の実習記録や最終報告書をもとに授業担当教員が総合的に評価し単位を認定する。

### (3) 実施体制

実施先の海外大学等とプログラムを実施するにあたっては、大学間で締結している包括協定もしくは案件ごとに締結している個別の実施契約に基づき実施する。

## 8. 取得可能な資格

- ・とくになし

## 9. 入学者選抜の概要

### (1) 選抜方法

アドミッション・ポリシーに基づき公正かつ妥当な方法によって入学志願者の能力等を適切に評価し、判定する。主に、①一般選抜、②総合型選抜、③学校推薦型選抜を3つの柱とし、選抜を行う。なお、アドミッション・ポリシー及び入学者選抜方式との整合性については、**【添付資料 1 (4)】**にて記載しているため、以下では、各選抜方式について説明する。

#### ① 一般選抜

一般選抜では、入学試験として「前期日程、全学統一日程、後期日程」、「大学入学共通テスト利用方式（前期・後期）」、「英語資格・検定試験利用方式」を設ける。

##### (ア) 前期日程、全学統一日程、後期日程

本学独自試験として、2月初旬（前期日程、全学統一日程）と2月下旬（後期日程）に選抜を行う。具体的には、前期日程、全学統一日程、後期日程ともに3教科（数学、理科、英語）の学力検査により評価・判定する。なお、理科については物理4題、化学4題の出題のうち、受験者が任意の4題を選択し回答する。また、後期日程の英語については、本学独自の問題に替え、多技能で評価すべく、大学入学共通テストの英語または実用英語技能検定（英検）のCSEスコアを活用して評価・判定する。

##### (イ) 大学入学共通テスト利用方式（前期）

大学入学共通テストの得点を利用し、多科目による幅広い知識で評価・判定する。具体的には、4教科（国語（近代以降の文章）、数学、理科、外国語）により評価・判定する。

##### (ウ) 大学入学共通テスト利用方式（後期）

大学入学共通テストの得点を利用し、評価・判定する。具体的には、3教科（数学、理科、

外国語)により評価・判定する。特に外国語に重きを置き、その得点を1.5倍にして評価・判定する。

#### (エ) 英語資格・検定試験利用方式

英語力を有する者を選抜するために、英語資格・検定試験の成績を活用した選抜を行う。具体的には、各種英語資格・検定試験のスコアがCEFR B1レベル以上を出願要件とし、本学独自試験では2教科(数学、理科)により評価・判定する。なお、理科については物理4題、化学4題の出題のうち、受験者が任意の4題を選択し、回答する。

### ② 総合型選抜

総合型選抜では、書類審査と時間をかけた丁寧な面接等を組み合わせることにより入学志願者の能力等を総合的に評価・判定する。入学試験として、「理工系女子特別入学者選抜」、「駅伝プロジェクト入学者選抜」を設ける。

#### (ア) 理工系女子特別入学者選抜

ダイバーシティ推進や社会的ニーズに応えるため、理工学分野に強い関心と意欲をもつ女子生徒を対象とした入学者選抜を設ける。一定の基礎学力があり、入学後のプランや将来のビジョンが明確で、かつ論理的思考力やコミュニケーション力のある者を総合的に評価し選抜する。具体的には、数学及び理科に関する基礎学力の検査や調査書の内容、面接、英語資格・検定試験の成績により総合的に評価・判定する。

#### (イ) 駅伝プロジェクト入学者選抜

ダイバーシティ推進の一環として、一定の基礎学力があり、入学後に学業とスポーツ(駅伝)活動を両立させる強い意思をもつ者を対象とした入学者選抜を設ける。具体的には、調査書の内容や小論文、面接、英語資格・検定試験の成績により総合的に評価・判定する。

### ③ 学校推薦型選抜

学校推薦型選抜では、出身高等学校長の推薦に基づき、調査書を主な資料としつつ、面接や英語資格・検定試験の成績により総合的に評価・判定する。入学試験として、「指定校推薦入学者選抜」、「在外教育施設指定校推薦入学者選抜」、「併設校推薦入学者選抜」、「協定校推薦入学者選抜」、「協定女子校推薦入学者選抜」を設ける。

#### (ア) 指定校推薦入学者選抜、在外教育施設指定校推薦入学者選抜

指定校在籍者を対象とし、大学教育を受けるために必要な基礎学力があり、入学後のプランや将来のビジョンが明確で、かつ論理的思考力やコミュニケーション力のある者を総合的に評価・判定する。具体的には、調査書の内容や面接、口頭試問、英語資格・検定試験の成績により総合的に評価・判定する。

#### (イ) 併設校推薦入学者選抜

併設校在籍者を対象とし、大学教育を受けるために必要な基礎学力があり、入学後のプラ



ンや将来のビジョンが明確で、かつ論理的思考力やコミュニケーション力のある者を総合的に評価・判定する。具体的には、調査書の内容や面接、口頭試問、英語資格・検定試験の成績により総合的に評価・判定する。

#### (ウ) 協定校推薦入学者選抜、協定女子校推薦入学者選抜

協定校在籍者を対象とし、大学教育を受けるために必要な基礎学力があり、入学後のプランや将来のビジョンが明確で、かつ論理的思考力やコミュニケーション力のある者を総合的に評価・判定する。具体的には、調査書の内容や面接、口頭試問、英語資格・検定試験の成績により総合的に評価・判定する。

#### ④ その他

その他、多様な背景を持った者を対象とする入学試験として、「帰国生徒特別入学者選抜」、「外国人特別入学者選抜」、「日本語学校指定校推薦入学者選抜」、「国際バカロレア特別入学者選抜」、「学士入学者選抜」、「編入学者選抜」を設ける。

#### (2) 各選抜区分の募集人員について

本課程の入学定員は228名とする。各選抜区分による募集人員の割合は、一般選抜約70%、総合型選抜約5%、学校推薦型選抜約25%とする。

#### (3) 正規学生以外の受入について

科目等履修生、研究生等、正規の学生以外の者は、本学学則に沿って若干名受け入れることがある。

## 10. 教員組織の編成の考え方及び特色

### (1) 教員組織の編成の考え方及び特色

学科に代えて課程を置く工学部として、学部単位で大学設置基準が定める必要な専任教員数や教授数を満たすように教員組織を編成していることは当然ながら、各課程の教育プログラムを担当する教員を割り当てるに際しては各課程で養成する人材像や3つのポリシー等を踏まえ、各課程の専門教育を体系的に実施していくために十分な教員を配置している。

個々の科目の担当教員については、各科目の関連分野において十分な専門知識、研究業績を持つ専任教員を中心に配置している。特にカリキュラムの中核となる科目には必ず専任教員（教授または准教授）を配置している。

専任教員の担当授業は、原則として大宮キャンパス、豊洲キャンパス双方にて開講されるが、個々の教員がキャンパス間を頻繁に往復する必要が生じないようにキャンパス毎の担当科目を特定の曜日に集中して配置する等、時間割上の工夫を行っている。

専任教員の年齢構成は、年齢バランスに配慮し、教育研究水準の維持向上に支障がない構成としている。具体的な年齢構成は別記様式第3号（その3）に示すとおりである。

なお、本学専任教員の定年は65歳である。根拠規程として、本学就業規則から関連する箇所を以下に抜粋する。定年の延長を認める旨の記載もあるが、本課程においてはこの条文を適応して定年を延長する教員はいない。

#### 芝浦工業大学 就業規則 第37条

1. 職員の定年は、満65歳とする。
2. 前項の退職日は、その者が定年に達した当該年度末日とする。
3. 大学長がその職にある間は、本条による定年を適用しない。
4. 第1項の規定に係わらず、平成12年度以前の採用者の平成13年度から平成19年度までの定年は、別に定める定年年齢変更に伴う移行内規による。
5. 理事長、学長が推薦し、理事会が承認した場合、定年を5年間延長することができる。1年ごとに理事会の承認をもって延長する。

※本学就業規則における「職員」には教員も含む。

なお、本課程は2コースに分かれて教育課程を編成しているが、学科に代えて課程を置く工学部として、各専任教員はコースではなく学部には所属する。また、各教育プログラムを担当する際にはコースではなく課程単位で担当に就く。

### (2) 各課程において中心となる研究分野と研究体制

本課程において中心となる研究分野としては、高性能な機械材料を安全に使用するための固体力学に関する研究、様々な産業機器における複雑な熱流動輸送を解明するための熱・流体力学に関する研究、先進的な機械システムを構築するために物理現象を解明して応用するためのメカニカルサイエンスに関する研究、機械工学・電子工学・制御工学を融合して新たなサービスを構築するためのロボティクス・メカトロニクスに関する研究などが挙げられる。

なお、課程制導入後は分野横断を推進し、研究室間の交流を強化し、横断領域の発展に寄与できる研究体制を構築していく。

## 11. 研究の実施についての考え方・体制と仕組み

### (1) 研究の実施についての考え方、実施体制、環境整備等

本学では、国際共同研究を通じた世界レベルの研究拠点形成と、地元の地域自治体や中小企業との共同研究を通じた社会貢献を両輪とする「知と地の創造拠点」の構築を具現化する研究ビジョンがある。研究ビジョンの重点方策には、産学共同研究の推進、研究拠点、環境の整備、研究成果拡大を掲げ、それらを担う教員組織として「SIT総合研究所」、「複合領域産学官民連携推進本部」と事務組織「研究推進室」がある。

「SIT総合研究所」は、本学の研究を強化・支援することにより、本学の社会的使命である「社会に貢献する人材育成とイノベーション創出」を促進することを目的として設置した機関であり、本学独自の研究テーマを行う6研究センターを有する。「複合領域産学

官民連携推進本部」では、産学官の協創を促進するため、「連携研究・人材育成部門」、「知的財産管理活用部門」及び「地域共創センター部門」を設置し、共同研究等産学連携の推進、特許出願やライセンス等の知的財産の管理活用、地域連携研究人材育成事業（旧COC事業）の推進等を行っている。

学長を議長とし、SIT 総合研究所長、学部長、研究科長等により構成する研究戦略会議では、大学の研究基盤を維持・強化するために、必要な体制・研究環境・資金について検討し、実行している。学部へ配分する教育研究予算の他に、毎年一定基準の特別研究予算があるが、SIT 総合研究所長、研究推進室にて予算原案を策定し、研究戦略会議にて審議、決定している。例えば、本学の研究力の向上、特にポテンシャルのある領域を伸ばす、複数教員の参画・連携等による研究プログラム（プロジェクト）の規模拡大を目的とした S-SPIRE 事業（S-SPIRE : SIT Supporting Program for Innovative Research）は、採択プロジェクトに対し複数年に渡り研究予算を配分し、URA による伴走支援を行うことで、将来的に、本学のブランドとなる研究の発掘、国プロ等の大型研究予算の獲得支援につなげている。また、比較的汎用性の高い、先端かつ高額な研究機器を大学が購入し共用する「共通機器センター」は、センターを利用する教員の交流による新たな協創を期待している。

文部科学省「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」及び「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、研究費の不正防止、研究倫理教育の促進、利益相反管理等について、組織的なコンプライアンスの仕組みを敷いている他、安全保障貿易管理の強化に伴う機微技術管理に関しても研究推進室が迅速かつ適切に判断・対処することにより、優秀な留学生や外国人研究者等の円滑な受け入れを支援し、教員の自由な発想と研究意欲に基づき行われる研究活動が、安全に促進できる環境を整備している。

## （２）研究活動をサポートする技術職員や URA の配置状況、役割、責任等

研究活動をサポートする人材として URA、産学連携コーディネーター8名を配置している（その内、認定 URA 制度の有資格者1名）。業務の内容は、主に外部資金の獲得や研究チームの編成、研究プロジェクトの企画立案や、外部資金獲得後のプロジェクト進捗管理支援、成果の発信支援等の他、地域、自治体との連携に関する支援や産学協創のコーディネーターまで幅広く支援を行っている。いずれも有期の雇用であるが当該組織には専任職員の長がおり、その責任の下、業務を遂行している。

共通機器センターには、SIT 総合研究所教員の下、機器を保守、管理する技術派遣職員2名を配置している。

## 12. 施設・設備等の整備計画

### （１）校地、運動場の整備計画

本学は大宮キャンパス（埼玉県さいたま市見沼区深作 307）と豊洲キャンパス（東京都江東区豊洲 3-7-5）を有しており、工学部の学生は、1、2 年次は大宮キャンパス、3、4 年次

は豊洲キャンパスで学ぶ。

大宮キャンパスは約 17 万㎡の敷地を有し、グリーンキャンパスの愛称で親しまれる緑豊かなキャンパスである。敷地内には広場や休憩スペースも多く設けられ、開放感溢れるキャンパスとなっている。運動場についても、総合グラウンド、多目的コート、バレーコート、テニスコート、弓道場、アーチェリーコート等の複数設備をキャンパス内に有している。

豊洲キャンパスは湾岸エリア豊洲に立地し、約 3 万㎡の敷地を有する開放的な都市型キャンパスである。キャンパス内にはカフェやレストランが誘致され、フラワーガーデンや広場も設けられており、本学の学生教職員のみならず地域住民の憩いの場にもなっている。運動施設としては、体育館、アスレチックジム、AR スポーツに対応した多目的室等を有している。

## (2) 校舎等施設の整備計画

1、2 年次が学ぶ大宮キャンパスには、敷地内に斎藤記念館、大学会館、2 号館～6 号館等、複数の校舎を配置している。各校舎には多種多様な大きさの教室、実験・実習室、PC 講義室、PC 実習室を設けている。3、4 年次が学ぶ豊洲キャンパスは、主に教室棟、交流棟、研究棟、本部棟により構成されており、こちらも十分な教室数を確保している。なお、本部棟は 2022 年度に竣工した最新鋭の設備を導入した校舎であり、アクティブラーニング室、実験・実習室、研究室、オープンラボ等を中心に整備し、豊洲キャンパスの研究拠点機能としての機能を拡充している。

また、専任教員には研究分野に応じた設備等を備えた研究室を用意している。研究室において教員は、学部 3、4 年次、大学院生等と共に研究活動を行う。さらに、両キャンパスには全学共用の教育研究設備として共通機器センターやものづくりセンターを設置している。各センターには最先端機器から汎用機器に至るまで多種多様な機器を備え、研究に取り組む学生及び教職員に提供している。

なお、本課程の教育課程を運営していくために本学が十分な教育施設・設備を有していることについては、時間割の作成等を通じてシミュレーションを行って確認している。**【添付資料 1 2 (2)】**

## (3) 図書館等の資料及び図書館の整備計画

### ① 図書館の整備計画等について

課程制開設年度の図書数は約 24 万冊であり、今後も充実を図っていく予定である。近年では、2022 年 9 月に豊洲図書館を拡張し、個室ブース 20 席・閲覧席 107 席・書架約 3 万冊分を追加している。また、完成年度までに約 8,000 冊を増冊する予定である。

### ② デジタルデータベース・電子ジャーナルの整備計画について

デジタルデータベース及び電子ジャーナルの需要は年を追うごとに高まっており、2 キャンパス内及び自宅（学内ネットワーク経由）から 24 時間利用できるよう、利用条件等の基盤整備を推進する。導入した電子資料をより有効に活用するため、様々な電子媒体を同一のインターフェイスで検索できるディスカバリーサービス「SIT Search」の利便性を向上させる。また、これまで紙媒体で契約している雑誌や学会誌なども媒体変更を進め、デジタル

技術を活用した電子図書館の構築を推進する。

#### ③図書館における教育研究促進のための機能について

豊洲・大宮図書館の合計専有延床面積は 5,152 m<sup>2</sup>、収容能力冊数 268,211 冊、座席数 835 席となっている。豊洲図書館では PC8 台を備えたセミナールーム、個室 9 部屋、大型の図面や書籍などの閲覧やグループ学習に利用できる和室を備えている。大宮図書館では、PC12 台を設置したエリア、個室 30 部屋、グループ学習 10 部屋、ゼミナール室 1 部屋を備えている。資料利用促進のため、資料別や授業対応など多様なガイダンスを実施するとともに、関連した動画や案内を作成し、図書館ホームページなどで公開し、支援を進めている。

図書館での貸出しは、一人 30 冊まで可能であることに加え、学内便による 2 キャンパス図書館の相互利用により、学生・教員はキャンパスを移動することなく図書館資料を利用できる。また、他大学所蔵資料利用の利便性を高めるため ILL (図書館間相互貸借システム) を無料化して研究への支援を行っている。

#### ④他大学図書館等との協力について

東京周辺の理工系大学の相互協力組織「私工大懇話会」、及び近隣大学である東京海洋大学との利用連携の他、隣接企業である株式会社 IHI など、相互利用連携を行っている。

### 13. 2 校地以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

本課程が属する工学部においては、2 校地以上において教育研究を行うものの、先に述べたとおり、学年進行に応じてキャンパスを使い分けるため、原則として日々の生活において学生がキャンパス間を移動する必要は生じない。3 年進級後に 1、2 年次の配当科目を履修する場合においても、1、2 年次配当科目の一部を豊洲キャンパスでも開講する、あるいは対面とオンラインを併用して実施する等の施策を導入することにより、キャンパス間を移動する負担が生じないよう配慮する。

また、専任教員の担当授業が両キャンパスで開講される場合は、各キャンパスにおける担当科目を特定の曜日に集中させる等の時間割上の工夫を行い、個々の教員がキャンパス間を頻繁に往復する必要がないよう配慮する。

研究室については、豊洲キャンパスに研究室を有する教員が多いが、大宮キャンパスに研究室を有する教員もいる。豊洲に研究室を有する教員については、大宮で授業を担当する授業日に学生と接点を持つことができるようにする。

運動施設については両キャンパスに運動施設が整備されている。そのため、工学部では必修科目となっている体育実技についても、両キャンパスで受講が可能である。

学生生活支援については、学生課、キャリアサポート課、健康相談室、図書館等を両キャンパスに設けている。また、各キャンパスに各部署の窓口をオンラインで設ける等の施策も導入している。

キャンパス間の移動時間は電車等の公共交通機関で 90 分程度、週 2、3 回運行する無料のシャトルバスで 90 分程度であることから、1 日のうちに両キャンパス間を移動すること

ができる。

## 14. 管理運営及び事務組織

### (1) 教学面における管理運営体制について

本学学則に基づき、工学部教授会を設置し、学部長及び専任の教授、准教授、講師、及び助教をその構成員とする。教授会は、会員の選挙によって正・副議長を選出する。教授会は原則として年4回定期的に開催するほか、学長又は学部長が必要と認めたとき、及び会員の3分の1以上の申出があったとき臨時に開催する。また、会員の過半数の出席により成立し、出席会員の過半数により教授会における意思を決する。

本学では、学長が校務における決定権を有し、最終的な責任を負う。工学部教授会は学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり、意見を述べるものとする。

- ①学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
- ②学位の授与に関する事項
- ③教育及び研究組織に関する事項
- ④課程、学科目及び授業に関する事項
- ⑤教員の研究育成及び留学に関する事項
- ⑥教育研究予算の配分の方針に関する事項
- ⑦教員の任用に関する事項
- ⑧学生の指導育成に関する事項
- ⑨学生の賞罰に関する事項
- ⑩教員の資格審査に関する事項
- ⑪学則に関する事項
- ⑫その他学長から意見を求められた事項

また、工学部教授会は上記の事項のほか、学長及び学部長その他の教授会等が置かれる組織の長がつかさどる次の事項について審議し、学長等の求めに応じて意見を述べることができる。

- ①教授会の運営に関する事項
- ②図書、設備及び施設に関する事項
- ③学生の試験、進級、転科、転課程・コース、転部に関する事項
- ④授業日数及び休業に関する事項
- ⑤学生団体及び学生生活並びに学生生活に関する事項
- ⑥学部規則に関する事項
- ⑦その他学長等から意見を求められた事項

### (2) 教授会以外に関連する委員会の役割について

工学部教授会では下記の委員会を設け、当該委員会に上記の事項の検討等を付託する。各委員会は、教授会から付託された事項を審議し、その結果を教授会に報告する。また、必要に応じ、教授会に議題を提案することができる。

- ①教務委員会
- ②入試委員会
- ③教員資格審査委員会
- ④FD委員会
- ⑤将来構想検討委員会

各委員会の審議事項は下記の通り。

①教務委員会

教育課程及び授業に関する事項、学外単位等認定に関する事項、転部転科転課程・コースの可否の審査等に関する事項、学生の表彰、単位認定に関わる不正行為に関する事項及びその他教務に関する事項

②入試委員会

入試（学士入学、編入学、外国人特別入学を含む）の方針、合否の審査等に関する事項及びその他入試に関する事項

③教員資格審査委員会

教員の昇格審査並びに資格の再審査に関する事項及びその他教員資格審査に関する事項

④FD委員会

教員の教育能力向上に関する事項、授業内容の改善に関する事項、授業技法の改善に関する事項及びその他FD活動に関する事項

⑤将来構想検討委員会

学部の将来計画に関する事項

**（3）事務組織体制、学生の厚生補導のための組織について**

事務組織体制については、学生課、学事課、キャリアサポート課、情報システム課等、学生教員向けの業務を担う部署は両キャンパスに設置している。国際部、研究支援部なども必要に応じて両キャンパスに窓口を設けている。

また、学生の福利厚生等に関する事項を議論・審議する組織として学生センターを設置している。学生センターは、各学部の教員と学生関係の職員で構成され、以下に示すことにつき議論、審議を行う。

- ・学生の助育及びそれに係る企画・調査に関すること

- ・学生の自治及び課外活動に関すること
- ・学生生活全般に係る相談、助言及び指導に関すること
- ・学生の奨学金に関すること
- ・学生の厚生施設の使用、管理及び運営に関すること
- ・学生の表彰及び懲戒に関すること（単位認定に関わる不正行為に関することは除く）
- ・外国人留学生及び帰国子女学生に関すること
- ・学生の安全管理及び事故対策に関すること
- ・各学部間の学生にかかわる連絡及び調整に関すること
- ・学長、学部長及び大宮校舎キャンパス長の諮問に関すること
- ・ボランティアに関すること
- ・その他学生の福利厚生に関すること

## 15. 自己点検・評価

### （１）実施方法・実施体制

本学では「学校法人芝浦工業大学評価委員会」のもと「大学点検・評価分科会」「経営点検・評価分科会」「中学・高等学校点検・評価分科会」を設置し自己点検・評価を行っている。

「学校法人芝浦工業大学評価委員会」では、理事長を委員長とし、以下の事項を担当し、審議する。

- ①点検・評価に関する方針、実施基準の策定
- ②点検・評価に関する報告書の作成
- ③点検・評価に関する結果の公表
- ④点検・評価結果の分析、教育研究等の改善計画の審議と執行部への提言
- ⑤認証評価受審に伴う決定及び対応
- ⑥その他、点検・評価に関する事項

「大学点検・評価分科会」「経営点検・評価分科会」「中学・高等学校点検・評価分科会」では、以下の事項を担当し、審議する。

- ①評価項目の設定
- ②評価実施の企画、立案及び実施要領の作成
- ③作業分科会の設置
- ④評価結果の分析
- ⑤評価結果の評価委員会への報告

### （２）点検項目

2021年度の評価項目は以下のとおりである。

- ①理念・目的
- ②内部質保証



- ③教育研究組織
- ④教育課程・学習成果
- ⑤学生の受け入れ
- ⑥教員・教員組織
- ⑦学生支援
- ⑧教育研究等環境
- ⑨社会連携・社会貢献
- ⑩大学運営・財務
- ⑪文部科学省・内閣府採択事業
- ⑫産学連携活動
- ⑬SDGs への挑戦
- ⑭研究活動と研究体制の整備
- ⑮教職課程

### (3) 第三者評価について

自己点検・評価活動の客観性・公平性を担保するため、「学校法人芝浦工業大学評価委員会」に外部委員を含めるとともに、学外有識者による「大学外部評価委員会」「法人運営外部評価委員会」を設置し、その意見を自己点検・評価活動に反映させている。

「大学外部評価委員会」は「大学点検・評価分科会」が行う自己点検・評価活動に関する評価を、「法人運営外部評価委員会」は「経営点検・評価分科会」が行う自己点検・評価活動に関する評価を行う。

### (4) 公表・活用

「自己点検・評価報告書」及び「大学外部評価委員会総括」を本学ウェブサイト (<https://www.shibaura-it.ac.jp/about/education/evaluation/inspection.html>) にて公表している。また、各学部・学科・課程においても毎年度自己点検を実施し、「点検・評価報告書」を同ページで公表している。

## 16. 情報の公表

本学は、学校法人としての公共性に鑑み、社会に対する社会的説明責任を果たすために、教育・研究・社会貢献活動等の状況について情報の公表を行っている。本学ウェブサイトの「教育・研究情報」のページ (<https://www.shibaura-it.ac.jp/about/info/>) において、以下の9項目を含む情報開示を行っている。

- ①大学の教育研究上の目的及び3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に関すること
- ②教育研究上の基本組織に関すること
- ③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

- ④入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
- ⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
- ⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
- ⑦校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
- ⑧授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
- ⑨大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

また、その他にも以下のような情報公開ページを設けている。

- ・財務状況（予算・決算、事業報告書等）

[https://www.shibaura-it.ac.jp/about/educational\\_foundation/finance/data.html](https://www.shibaura-it.ac.jp/about/educational_foundation/finance/data.html)

- ・学部等の設置届出書及び履行状況報告書

[https://www.shibaura-it.ac.jp/about/info/new\\_department\\_report.html](https://www.shibaura-it.ac.jp/about/info/new_department_report.html)

- ・自己点検・評価報告書

<https://www.shibaura-it.ac.jp/about/education/evaluation/inspection.html>

- ・大学認証評価結果

<https://www.shibaura-it.ac.jp/about/education/evaluation/>

## 17. 教育内容の改善を図るための組織的な取り組み

全学的な教育改革・改善活動を推進する教育イノベーション推進センター（<http://edudvp.shibaura-it.ac.jp/>）を中心とし、教育システムの検証と分析、開発、教育改革に関する提案等の活動を行っている。

教育イノベーション推進センターには、IR 部門、カリキュラムマネジメント部門、FD・SD 推進部門、先進教育部門、教職支援室、データサイエンス部門、全学開講・学科間開講検討部門等の部門を設置し、教育について授業レベル、カリキュラムレベル、制度設計レベル各段階での改善に取り組んでいる。

近年では、新任教職員を対象とした新任研修の企画・実施も強化しており、教育・研究における有効な AV 機器等の利用方法等を学ぶ「新任教職員研修」や、入職 3 年目までの教職員を対象に授業デザインやシラバスの書き方などを学ぶ「FD・SD フォローアップ研修」などを実施している。

また、教員や職員のみ視点ではなく、実際教育を受ける学生からの視点・観点も入れるための取り組みとして、研修を受けた学生が教員の要望により学生目線で授業観察等を行い、授業改善の支援をする SCOT（Students Consulting on Teaching）プログラムの運営等も行っている。

さらに、教育イノベーション推進センターは、2016 年度に文部科学大臣より「理工学共同利用拠点」（大学の教職員の組織的な研修等の実施機関）の認定を受けており、「ティーチングポートフォリオ作成」「詳細シラバスの書き方」「授業デザイン」「学生主体の授業運営

方法」などのワークショップをはじめ、年間 30 余りの研修を提供している。

## 18. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

### (1) 教育課程内の取組みについて

本学は先にも述べたとおり、1927 年の開学以来、「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」を建学の精神に掲げ、実学主義の教育を重視してきた。この精神に基づき、本課程では、実験・実習科目を十分に設ける他、工学部共通専門科目に設置している「社会の中の工学」(1 年前期)、「工学研究探訪 1」(2 年後期)を必修科目としている。学生は、これらの授業を通じ、日々の授業や研究が社会とどのような接点を持っているかを学ぶことができる。また、研究室への所属時期を 3 年次からとし、2 年間をかけてじっくりと卒業研究に取り組むことで、実践的な課題発見・解決力を身に付けられるようなカリキュラムとしている。

### (2) 教育課程外の取組みについて

大学全体として取り組んでいる就職・キャリア支援体制について以下に概要を述べる。

#### ① Web 就職支援システムの導入

「CAST」(Career Station、以下 CAST)という学生の就職活動を支援するためのポータルサイトを導入している。求人情報検索のほか、以下の機能を備えている。

- ア 企業情報(卒業生の内定状況、過去の求人状況等)の閲覧
- イ 卒業生・先輩の進路情報の閲覧
- ウ 卒業生が作成した「入社試験活動報告書」の閲覧
- エ 企業による説明会・セミナー情報の閲覧
- オ インターンシップ求人の閲覧
- カ 「卒業生サポーター」(本学卒業生)へのアプローチ機能
- キ e ラーニングシステムを利用した「SPI 対策講座」「TOEIC 対策講座」の受講
- ク キャリアカウンセラーや元企業採用担当者・公務員 OB/OG 等による進路相談予約

#### ② キャリアカウンセラー・OB/OG・職員による包括的な進路相談活動の実施

学生が 4 年間の学びの中で感じる、進路に関する様々な悩みに関して、以下のようなきめ細かい相談体制を敷き、それに応えている。

- ア キャリアサポート課職員による全般的な進路相談の実施
- イ キャリアカウンセラーによる就職活動支援
- ウ 元採用担当 OB/OG による民間企業就職活動支援
- エ 元公務員 OB/OG による公務員就職活動支援
- オ 元教育委員会経験者による教員採用試験支援

#### ③ 各種キャリアガイダンス・セミナーの開催

学生の就業意識を高めるとともに、内定を得るためのスキルを身に付ける各種ガイダンス・セミナーを本格的な就職活動開始前に順次開催している（「理工系人材のための進路説明」、「インターンシップガイダンス」、「入社試験対策講座」、「業界研究ガイダンス」、「職種研究ガイダンス」など）。

#### ④ 学内企業説明会の実施

毎年、就職活動がスタートすると同時に、新 4 年生を対象とした学内合同企業説明会を実施している。日本を代表するリーディングカンパニーを大学に招き、本学学生のみを対象とした企業説明を行っている。参加企業は毎年総勢約 300 以上にのぼる。

#### ⑤ 卒業生サポーター制度の導入

在学生と卒業生との活発な交流を図ることを目的に、「卒業生サポーター制度」を導入している。学生は CAST を通じて卒業生サポーターに直接質問・相談を行うことができる。回答は卒業生が電子メールで返信する。

### （3）適切な体制の整備

教職協働組織であるキャリアサポートセンターは関連事務を担う就職・キャリア支援部と、キャリアセンター員によって組織されている。

就職・キャリア支援部は事務職員で構成され、年間約 5,000 件に及ぶ学生相談への対応、約 5,000 社に及ぶ求人の整理と公開、30 回を超える「就職支援講座」と学内合同説明会の企画・運営、全学で約 2,800 名の当該年度卒業生の進路把握と情報を集約した資料の作成等を行っている。

キャリアセンター員は各学部を代表する 7 名の教員により構成され、就職・キャリア支援部が実施する各種学生支援に対する助言・承認や、各課程の教員との調整を担い、教職員がスムーズに連携できる体制を整える。

このように本学では全学を挙げて就職・キャリア支援体制を整備している。

以上

## 設置の趣旨等を記載した書類

### 資料目次

資料 1 (3)	教育研究上の目的
資料 1 (4)	3つのポリシー
資料 1 (5)	カリキュラムマップ
資料 5 (7)	履修モデル
資料 7 (1)	グローバル PBL 実施実績
資料 12 (2)	時間割案

## 芝浦工業大学における教育研究上の目的

## 1. 大学

本学は教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、学術の中心として深く工学の研究を行い世界文化に貢献し、併せて広く一般の学術教養と専門の工業教育を施すことにより、学生の人格を陶冶し、学理を究めさせ体位の向上を図り、もって優秀なる技術者を養成することを目的とする。

(芝浦工業大学学則第 1 条第 1 項)

## 2. 工学部

工学部では、現代社会が抱える様々な課題を自ら発見、解決する工学技術者を養成するため、確かな基礎学力に基づく各専門分野の高い専門能力に加え、工学部内の多彩な専門分野を横断的に学べる新たな教育プログラムにより学際的な思考能力を涵養する。さらに、修得した分野横断的知識に加え、研究を軸とした実践型教育により課題解決能力を高め、様々な課題の本質を捉え、学際的アプローチにより解決する能力を涵養し、持続可能な社会の発展に、多様な価値観と高い倫理観をもって貢献する創造性豊かな人材を養成する。具体的には、卒業までに以下に挙げる能力を持った人材を養成することを教育研究上の目的とする。

- 工学専門教育の修得に必要な基礎学力・教養を身に付けている。(豊かな教養を涵養する学修)
- 工学の専門知識と論理的思考法を体系的に学び、身に付けている。(工学知識の体系的学修)
- 複数分野の知識を修得し、学際的な思考能力を身に付けている。(分野横断的知識の修得)
- 研究を通じ、課題を発見・解決し、未踏分野に挑戦できる力を身に付けている。(創造性の育成)
- 社会の要求、多様な価値観を理解し、他者と協働して主体的に行動できる能力を身に付けている。(他者との共生)

## 3. 課程

課程名	人材の育成および教育研究上の目的
機械工学課程	<p>科学技術の現状や社会の要望をグローバルな視点で捉え、環境や感性との調和に配慮しながら、機械工学の学理を用いて有用な機械やシステムを創成できる人材を養成する。</p> <p>具体的には、卒業までに以下のような人材を養成することを教育研究上の目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●機械工学に関わる数理知識を用いて機械のメカニズムを理解する能力と、それらを活用して有用な機能を創成できる設計能力を身に付けている。</li> <li>●社会や環境との関わりに配慮して機械工学の必要性を常に見直すことができる倫理観および責任感を持ち、グローバルな視点から多面的に科学技術を捉える能力を身に付けている。</li> <li>●工学的な問題に対して機械工学の見地から取り組むべき事柄を整理し、与えられた条件の下で様々な分野の知識を関連付けて課題解決に適用できる能力を身に付けている。</li> <li>●地球的視野から科学技術の現状を捉えて能動的に考え分析し、社会の発展に向けて行動することができる研究推進能力を身に付けている。</li> <li>●多様性を尊重し他者と協調して活動できる能力と、意思疎通を図りながら自らの判断や意見について説明できるコミュニケーション能力を身に付けている。</li> <li>●技術的課題の探求に関心を持ち、情報環境等を利用して継続的に自己学修できる能力を身に付けている。</li> </ul>

以上

## 芝浦工業大学工学部 3つのポリシー

### 【ディプロマ・ポリシー】

工学部は、確かな基礎学力に基づく高い専門能力を備え、社会が抱えるさまざまな課題を発見・解決することで、持続可能な社会の発展に貢献する創造性豊かな人材を育成します。そして以下の能力を身に付けて卒業要件を満たした者に、学位を授与します。

1. 豊かな人格形成の基本と基礎的な学力を備え、課題を自ら発見し、関係する人々と意思疎通を図りながら協働できる。
2. 工学の本質の体系的な理解に加え、分野横断的な知識による多様な手法によって課題の核心に迫り、その解決方法を導き出せる。
3. 工学技術者教育や研究を軸とした実践型教育を通じ、社会の多様性を認識して高い倫理観を持った理工学人材として行動できる。

### 【カリキュラム・ポリシー】

工学部ではディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身に付けるため、以下の教育課程の編成、教育内容・方法および学修成果の評価に基づいた教育を実施します。

#### 教育課程の編成

教育課程を「基礎・教養科目」と「専門科目」に区分し、工学を体系的に学修できるように科目を以下のように配置する。

「基礎・教養科目」は、「基礎数理科目」「英語科目」「情報科目」「人文社会系教養科目」「体育健康科目」「工学部共通教養科目」の細区分で構成した科目を配置する。また「専門科目」は、「工学部共通専門科目」「自コース専門科目」「他コース専門科目」の細区分で構成した科目を配置する。

#### 教育内容・方法の実施

- 技術者として必要な基礎能力を得るため、各科目で質の高い授業を展開する。
- 「基礎数理科目」「英語科目」「情報科目」「人文社会系教養科目」により、工学の専門教育の修得に必要な基礎学力・教養・倫理観を涵養する。「体育健康科目」「工学部共通教養科目」により社会の要求、多様な価値観を理解し、他者と協働して主体的に行動できる能力を育成する。
- 「専門科目」では工学の専門知識と論理的思考法を体系的に学び、身に付ける。また未踏分野に挑戦し、社会における課題を自ら発見、社会の多様性を認識しながら他者と協働して解決できる創造性豊かな技術者を養成するため、研究を軸とした実践型教育を実施する。
- 複数分野の知識を修得した学際的な思考能力を養成するため、技術者に必要な分野横断的知識を学修する。具体的には、所属するコースの専門科目に加えて所属するコース以外の専門科目履修も可能とする。

- カリキュラムツリーを示し、学修・教育到達目標に応じた科目履修の理解を促す。

### 学修成果の評価

- 単位制を採用し、学修成果を総合的に評価する。
- 各コースに設定した学修・教育到達目標、各授業科目の達成目標に対して、学修成果が一定のレベルに達した際に単位を付与する。
- 所属するコース以外からの専門科目を履修し、所定の条件を満たした場合に副コース認定を行う。

### 【アドミッション・ポリシー】

工学部では知識偏重教育ではなく、実践型教育による課題解決型人材の輩出に力点を置いた教育を行なっています。そのため、本学の建学の精神と工学部の教育方針、各コースのカリキュラム、教育・研究の内容をよく理解した、以下のような学生を求めます。

#### (工学部が求める人物像)

- 工学部での学修・研究を強く志望し、関連する教育分野における基礎学力を身に付けた人
- 工学各分野における技術と、その基礎・応用に興味がある人
- 実際に対象に触れ、実践的に学修・研究することに価値を見出す人
- 国際的な視野を持って社会の課題解決に主体的に取り組み、人類や社会の持続的発展に貢献しようという意志を持つ人



## 芝浦工業大学工学部機械工学課程 3つのポリシー

### 【ディプロマ・ポリシー】

機械工学課程では、教育研究上の目的に定める人材を育成するため、卒業時に以下の能力および素養を身に付けて卒業要件を満たした者に、学位を授与します。

- 機械工学に関わる数理知識を用いて機械のメカニズムを理解する能力と、それらを活用して有用な機能を創成できる設計能力
- 社会や環境との関わりに配慮して機械工学の必要性を常に見直すことができる倫理観と責任感を持ち、グローバルな視点から多面的に科学技術を捉える能力
- 工学的な問題に対して機械工学の見地から取り組むべき事柄を整理し、与えられた条件の下でさまざまな分野の知識を関連付けて課題解決に適用できる能力
- 地球的視野から科学技術の現状を捉えて能動的に考え分析し、社会の発展に向けて行動できる研究推進能力
- 多様性を尊重し他者と協調して活動できる能力と、意思疎通を図りながら自らの判断や意見について説明できるコミュニケーション能力
- 技術的課題の探求に関心を持ち、情報環境などを利用して継続的に自己学修できる能力

以上の能力に加えて、

**基幹機械コース**では、

- 機械工学の体系的な知識を用いて、社会の問題を解決できるエンジニアリング・デザイン能力
- 機械システムの高度化に貢献できる研究開発能力

**先進機械コース**では、

- 機械工学の学理を応用し、多様な分野を含む融合領域の発展に、広く貢献できる研究開発能力

を、それぞれ身に付けます。

### 【カリキュラム・ポリシー】

機械工学課程では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身に付けるため、以下の方針に基づいてカリキュラムを構成し、科目区分および配当年次に沿って体系的に教育を行い、学修成果を評価します。

#### (1) 1、2年次の基礎・教養科目

機械工学の専門知識を修得するために必要となる自然科学の基礎知識、論理的な説明や意見交換を行うための語学力を養成し、技術者として適切な判断ができる倫理観を備えた豊かな人間を育成します。

#### (2) 1、2年次の専門科目

必修4力学（材料力学、流体力学、熱力学、振動工学）を開講し、機械工学の理論体系に沿って工学的思考力を育成します。

#### (3) 2、3年次の専門科目

機械の設計や生産管理など設計科学の基礎となる機械設計製図、制御工学、加工学などを実習科目も含めて開講し、機械工学の基礎理論を工学問題へ適用する能力を育成します。

(4) 3、4年次の卒業研究

卒業研究1～4を中心に研究を基軸とした体験的学修を積み重ねることで、様々な分野の知識を活用した課題解決力と、研究を進めるために必要なチームワーク力、コミュニケーション能力、自己学修力を育成します。

上記のような能力の修得に向けて知識の定着と活用を促すため、講義・演習・事前事後の時間外学修を適切に組み合わせた教育、実験やものづくりを通じた体験教育を実施します。

これらの学修成果は、各科目が重視する学修・教育到達目標および達成目標の項目に応じて、筆記試験、口頭試問、プレゼンテーション、レポート等で評価します。そして、学修成果が達成目標で設定したレベルに達すれば単位を付与します。

以上の方針のもと、

**基幹機械コース**では、力学を基盤とする設計理論・スキルの修得に重点を置いてカリキュラムを編成しています。機械システムの創成や高度化、高性能化に寄与できる応用力を育成し、合わせて持続可能な社会の実現に貢献できる能力や俯瞰的な視野を養います。  
**先進機械コース**では、機械工学に加えて幅広い分野の科目を学修できるカリキュラムを編成しています。革新的な機能を持つ機械システムを創成できる応用力を育成し、合わせて持続可能な社会の実現に多方面の分野から貢献できる能力と視野を養います。

【アドミッション・ポリシー】

機械工学課程では、他者と協力し自己研鑽に励みながら、広い視野で科学技術の現状を捉えて、社会のさまざまな未解決問題に機械工学的手段で取り組める技術者を育成するため、国内外を問わず以下のような資質や志を持つ人材を求めています。

- 幅広い機械工学の知識と技術によって、世界に貢献しようとする意志を備えた人
- 数学と物理を中心とする自然科学の基礎学力を身に付けた人
- 日本語による十分なコミュニケーション能力と読解力、英語による基礎的な表現力と読解力を持ち、国際的な視野の獲得に向けて積極的に行動できる人
- 公共性と倫理観を有し、主体性と計画性をもって自己の能力研鑽に励める人

以上の資質を備えていることに加えて、以下に関心・意欲のある人を求めています。

**基幹機械コース**では、

- 機械工学がもたらす社会的価値
- ものづくりに必要な設計能力を取得して、メカニズムの先進化を目指すこと

先進機械コースでは、

- 機械工学に加えて幅広い分野を学修する意欲
- 革新的な機能の創成を目指す工学・技術

上記に賛同し、本課程への入学を希望する人は、高等学校などにおいて以下の能力を身に付けておくことが望まれます。

- (1) 高等学校などの課程で学ぶ知識・技能・技術（特に外国語、数学、理科）
- (2) 思考力・判断力・表現力などの能力
- (3) 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ能力

上記の能力を多面的・総合的に評価するため、工学部のアドミッション・ポリシーを指針とした入学者選抜を実施します。

- 一般選抜の前期・後期・全学統一日程、英語資格・検定試験利用方式では、(1) 及び記述式試験で (2) を評価します。
- 一般選抜の大学入試共通テスト利用方式では、多科目の成績により (1) 及び (2) を評価します。
- 総合型選抜では、筆記試験、外部検定試験などにより (1) 及び (2) を評価し、面接で (1) 及び (2)、(3) を総合的に評価します。
- 学校推薦型入学者選抜では、調査書で (1) 及び (2) を評価し、面接で (1) 及び (2)、(3) を総合的に評価します。

### 【学修・教育到達目標】

基幹機械コース	
A-1	文化・芸術・歴史・政治経済などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、機械工学と社会の関わりを考察することができ、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。
A-2	機械工学の専門知識を必要とする協同作業において、他者の意見を理解し自己の役割を果たしながら、相互にコミュニケーションを取って目標を実現することができる。
B	自然科学の原理から基本的な物理現象を数学的に導くことができ、機械の設計や性能評価に必要な技術計算、情報処理を正確に行うことができる。
C-1	自然科学の法則に基づいて機械の運動機構や動特性、構造や強度、物質・運動量・エネルギーの流れなど機械工学の基盤技術に関わる物理現象を理解し、現象の予測や解析を行うことができる。
C-2	

	機械を製作して運用するために必要な工学特有の手法（計測、制御、設計、加工など）に習熟し、それらを問題の状況に応じて適切に使うことができる。
D-1	
	産業界や社会の要請を把握して解決すべき課題を設定し、さまざまな分野の知識を関連付けながら設計生産技術を活用することで、立案した構想に従って研究を進め課題を解決することができる。
D-2	
	技術的課題に対して自ら積極的に追究しようとする探求心を持ち、さまざまな機会を利用して継続的に自己学修することができる。
<b>先進機械コース</b>	
A-1	
	文化・芸術・歴史・政治経済などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、機械工学と社会の関わりを考察することができ、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。
A-2	
	機械工学の専門知識を必要とする協同作業において、他者の意見を理解し自己の役割を果たしながら、相互にコミュニケーションを取って目標を実現することができる。
B	
	自然科学の原理から基本的な物理現象を数学的に導くことができ、機械の設計や性能評価に必要な技術計算、情報処理を正確に行うことができる。
C-1	
	機械工学の基盤技術に関わる物理現象の本質を数理的に理解することができる。機械を設計・製作・運用するために必要な手法（計測、制御、設計、加工など）に習熟し、それらを実際の工学的問題に適用することができる。
C-2	
	多様な分野の知識を積極的に取り入れ、機械工学の基礎知識を多方面に柔軟に応用して、融合領域の問題に適用することができる。
D-1	
	産業界や社会の要請を把握して解決すべき課題を設定し、機械工学の学理を応用して異分野を含む融合分野で革新的な機能を創成することができる。
D-2	
	技術的課題に対して自ら積極的に追究しようとする探求心を持ち、さまざまな機会を利用して継続的に自己学修することができる。

機械工学課程 基幹機械コース カリキュラムマップ

学修・教育到達目標		1年		2年				3年				4年						
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
A-1	文化・芸術・歴史・政治経済などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、機械工学と社会の関わりを考察することができ、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	◎技術者の倫理 ◎Reading & Writing 1 △TOEIC(1前/後) △ダイバーシティ入門(1前/後)	◎人文社会科学目(1~3前/後) ◎Listening & Speaking 1 ◎スポーツ科学実技 △グローバルPBL(1前/後)	◎人文社会科学目(1~3前/後) △工学英語1 △Listening & Speaking 2	△工学英語2 △Reading & Writing 2 △国際インターンシップ(2前/後)	△安全と倫理 △工学英語3	△Academic English(3前/後)											
A-2	機械工学の専門知識を必要とする協同作業において、他者の意見を理解し自己の役割を果たしながら、相互にコミュニケーションを取って目標を実現することができる。								◎卒業研究1	◎卒業研究2	◎卒業研究3	◎卒業研究4						
B	自然科学の原理から基本的な物理現象を数学的に導くことができ、機械の設計や性能評価に必要な技術計算、情報処理を正確に行うことができる。	◎微分積分1 ◎線形代数1 ◎基礎力学 △基礎力学演習 ◎化学の基礎と実験 △情報リテラシー(1前/後) △情報処理概論(1前/後) △データサイエンスリテラシー(1前/後)	◎微分積分2 △微分方程式 ◎線形代数2 △確率と統計1(1前/後) △基礎電磁気学 ◎物理学実験 △基礎無機化学 △基礎有機化学 △基礎生物化学 △基礎固体化学 ◎データサイエンス演習 △C言語入門(1前/後) △Java入門(1前/後)	△ベクトル解析(2前/後) △関数論(2前/後) △フーリエ解析(2前/後) △確率と統計2(2前/後) △基礎熱統計力学 △基礎熱統計力学演習														
C-1	自然科学の法則に基づいて機械の運動機構や動特性、構造や強度、物質・運動量・エネルギーの流れなど機械工学の基盤技術に関わる物理現象を理解し、現象の予測や解析を行うことができる。		◎材料力学1 ◎流体力学1 ◎熱力学1	○材料力学2(基幹機械コース) ◎流体力学2(基幹機械コース) ○Thermodynamics 2	◎振動工学1 ◎流体工学 ◎熱工学	○振動工学2 ○粘性流体力学 ○伝熱工学 ○機械分子工学												
C-2	機械を製作して運用するために必要な工学特有の手法(計測、制御、設計、加工など)に習熟し、それらを問題の状況に応じて適切に使うことができる。	○機械材料	○機械運動学	○機械設計 ◎機械設計製図1 △応用解析学	○加工学 ◎機械設計製図2 ○エネルギー環境論	○材料強度学 ○制御工学1 ○Mechanics ○エンジンシステム ○応用工学 △プログラミング書籍	○材料設計学 ○制御工学2 ○エネルギー変換工学 ○Combustion Engineering ○航空宇宙工学 ○計算力学 △プログラミング演習											
D-1	産業界や社会の要請を把握して解決すべき課題を設定し、さまざまな分野の知識を関連付けながら設計生産技術を活用することで、立案した構想に従って研究を進め課題を解決することができる。	◎社会の中の工学			◎工学研究探訪1 △工学研究探訪2	◎卒業研究1 ◎卒業研究2	◎卒業研究3 △学内研究留学1 △学内研究留学2	◎卒業研究4										
D-2	技術的課題に対して自ら積極的に追究しようとする探求心を持ち、さまざまな機会を利用して継続的に自己学修することができる。	△機械工学の基礎1			△機械工学の基礎2	◎卒業研究1	◎卒業研究2	◎卒業研究3	◎卒業研究4									

機械工学課程 先進機械コース カリキュラムマップ

学修・教育到達目標		1年												2年												3年												4年											
		前期				後期				前期				後期				前期				後期				前期				後期																			
		10	20	30	40	10	20	30	40	10	20	30	40	10	20	30	40	10	20	30	40	10	20	30	40	10	20	30	40																				
A-1	文化・芸術・歴史・政治経済などに基づく大局的な視野と倫理的な視点から、機械工学と社会の関わりを考察することができ、グローバル社会において多様な人々と意思疎通を図ることができる。	◎技術者の倫理				○人文社会科目				○人文社会科目				○人文社会科目				○人文社会科目				○人文社会科目				○人文社会科目																							
A-2	機械工学の専門知識を必要とする協同作業において、他者の意見を理解し自己の役割を果たしながら、相互にコミュニケーションを取って目標を実現することができる。	◎先達機械基礎1				△先達機械基礎2				◎卒業研究1				◎卒業研究2				◎卒業研究3				◎卒業研究4																											
B	自然科学の原理から基本的な物理現象を数学的に導くことができ、機械の設計や性能評価に必要な技術計算、情報処理を正確に行うことができる。	◎微分積分1 ◎線形代数1 △微分方程式(1前/後)				◎微分積分2 ◎線形代数2 △確率と統計1				△複素関数(2前/後) △関数論(2前/後)				△ベクトル解析(2前/後) △フーリエ解析(2前/後)				△相対論と量子論の基礎																															
C-1	機械工学の基礎技術に関わる物理現象の本質を数理的に理解することができる。機械を設計・製作・運用するために必要な手法(計測、制御、設計、加工など)に習熟し、それらを実際の工学的問題に適用することができる。	◎材料力学1 △マテリアルサイエンス				△材料力学2 ◎振動工学1 ◎流体力学1 ◎熱力学1 △メカトロニクス △電気工学				△材料力学 △流体力学2 △熱力学2 △制御工学 △エネルギー環境概論				○研究導入講義1(知能機械) ○研究導入講義1(生体工学) ○研究導入講義1(計測工学) ○研究導入講義1(サイエンス・メカニクス) ○研究導入講義1(ナノ・マイクロ)				○研究導入講義2(知能機械) ○研究導入講義2(生体工学) ○研究導入講義2(計測工学) ○研究導入講義2(サイエンス・メカニクス) ○研究導入講義2(ナノ・マイクロ)																															
C-2	多様な分野の知識を積極的に取り入れ、機械工学の基礎知識を多方面に柔軟に応用して、融合領域の問題に適用することができる。	◎機械工学概論1				◎機械工学概論2				◎機械工学概論3				○研究導入演習1 ○研究導入演習2 ○研究導入演習3 ○研究導入演習4																																			
D-1	産業界や社会の要請を把握して解決すべき課題を設定し、機械工学の学理を応用して異分野を含む融合分野で革新的な機能を創成することができる。	◎社会の中の工学								◎工学研究探訪1 △工学研究探訪2				◎卒業研究1 △学内研究留学1 △学内研究留学2				◎卒業研究2 △学内研究留学1 △学内研究留学2				◎卒業研究3 ◎卒業研究4																											
D-2	技術的課題に対して自ら積極的に追究しようとする探求心を持ち、さまざまな機会を利用して継続的に自己学修することができる。	◎先達機械基礎1				△先達機械基礎2								◎卒業研究1 ◎卒業研究2 ◎卒業研究3 ◎卒業研究4																																			

①基幹機械コース科目による履修モデル

		1年		2年				3年				4年					
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
		10	20	30	40	10	20	30	40	10	20	30	40	10	20	30	40
基礎 教養	数理科目	◎微分積分1		◎微分積分2		△ベクトル解析											
	英語科目	◎Reading & Writing 1		◎Listening & Speaking 1		△工学英語1		△工学英語2									
	情報科目			◎データサイエンス演習													
	人文社会科目	◎技術者の倫理		○人文社会科目		○人文社会科目											
	体育健康科目			◎スポーツ科学実技1													
	共通教養科目																
専門	共通専門科目	◎社会の中の工学				◎工学研究探訪1											
	エネルギー・モビリティ			◎流体力学1		◎熱力学1		AO流体力学2(基幹機械コース) AOThermodynamics 2 AOエネルギー環境論	AO粘性流体力学 AO伝熱工学 AOエンジンシステム AO低温工学	AO機械分子工学 AOエネルギー変換工学 AOCombustion Engineering AO航空宇宙工学 AO計算力学							
	メカニクス・モーションコントロール	BO機械材料		◎材料力学1	BO材料力学2(基幹機械コース)	◎振動工学1	BO加工工学	BO振動工学2 BO材料強度学 BO制御工学1 BOMechatronics	BO材料設計学 BO材料設計学 BO制御工学2								
	総合					◎機械設計製図1	◎機械設計製図2										

	1年		2年				3年				4年				総数
	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	
基礎・教養科目群															
数理：必修/選択	10	2	9	4	2	2									27
英語：必修/選択	2		2		2	2									8
情報：必修/選択			2												2
人文：必修/選択	2			2	2										6
体育：必修/選択			1												1
専門科目群															
共通	1					1									2
自コース：必修/選択A					7	4	5	2	2	8	2	4	4	4	78
自コース：必修/選択B		2	2	2											
自コース：必修/選択		2			2										0
他コース															
総単位数	21		24		19		18		18		16		4		124

②基幹機械コース科目とバイオロボティクス分野科目による履修モデル

	1年		2年		3年		4年					
	前期		後期		前期		後期		前期		後期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
基礎 教養	数理科目	◎微分積分1	◎微分積分2	△ベクトル解析								
	英語科目	◎Reading & Writing 1	◎Listening & Speaking 1	△工学英語1	△工学英語2							
	情報科目		◎データサイエンス演習									
	人文社会科目	◎技術者の倫理	○人文社会科目	○人文社会科目								
	体育健康科目		◎スポーツ科学実技1									
	共通教養科目											
専門	共通専門科目	◎社会の中の工学			◎工学研究探訪1							
	エネルギー・モビリティ			◎流体力学1 ◎熱力学1	AO流体力学2(基幹機械コース) AOThermodynamics 2 AOエネルギー環境論	AO粘性流体力学 AO伝熱工学		AOエネルギー変換工学 AOCombustion Engineering AO航空宇宙工学				
	メカニクス・モーションコントロール	BO機械材料	◎材料力学1 BO機械運動学	△応用解析学 BO材料力学2(基幹機械コース) BO機械設計	◎振動工学1	BO加工工学	BO材料強度学 BO制御工学1	BO材料設計学 BO制御工学2				
	総合			◎機械設計製図1	◎機械設計製図2							
分野 融合	バイオロボティクス											
	※(1)内は、機械工学課程-先進機械コースにおける開講期											

	1年		2年		3年		4年		総数
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎・教養科目群	必修 10 選択 2	必修 9 選択 4	必修 2 選択 2	必修 2 選択 2	必修 2 選択 4	必修 2 選択 4	必修 4 選択 4	必修 4 選択 4	27
数理：必修/選択									8
英語：必修/選択									2
情報：必修/選択									2
人文：必修/選択									6
体育：必修/選択									1
専門科目群									
共通	1			1					2
自コース：必修/選択A									6
自コース：必修/選択B	2	2	7	4	5	2	2	4	66
自コース：必修/選択	2								2
他コース							6	6	12
総単位数	21	24	19	18	16	18	4	4	124



③基幹機械コース科目と化学エンジニアリング分野科目による履修モデル

		1年				2年				3年				4年				
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		
		10	20	30	40	10	20	30	40	10	20	30	40	10	20	30	40	
基礎 教養	数理科目	◎微分積分1		◎微分積分2	△ベクトル解析													
		◎線形代数1		◎線形代数2	△常微分方程式													
		◎基礎力学		△基礎電磁気学														
		△基礎力学演習		◎物理学実験														
		◎化学の基礎と実験																
		◎Reading & Writing 1		◎Listening & Speaking 1	△工学英語1	△工学英語2												
専門	英語科目																	
	情報科目			◎データサイエンス演習														
	人文社会科目	◎技術者の倫理		○人文社会科目	○人文社会科目													
	体育健康科目			◎スポーツ科学実践1														
	共通教養科目																	
	共通専門科目	◎社会の中の工学				◎工学研究探訪1												
分野 融合	エネルギー・モビリティ				◎流体力学1 ◎熱力学1	AO流体力学(基幹機械コース) AOThermodynamics 2 AOエネルギー-環境論	AO粘性流体力学 AO伝熱工学				AOエネルギー-変換工学 AOCombustion Engineering AO航空宇宙工学 AO計算力学							
	メカニクス・モーションコントロール	BO機械材料		◎材料力学1	BO材料力学2(基幹機械コース) △応用解析学	◎振動工学1	BO振動工学2 BO材料強度学 BO制御工学1				BO材料設計学							
	総合					◎機械設計製図1 ◎機械設計製図2												
基礎・教養科目群	△機械工学の基礎1																	
	△機械工学の基礎2																	
化学エンジニアリング																		
	無機化学1(1後) セラミクス化学(3前) 電気化学(3前) 物理化学2(2前) 応用物理化学(3後) 学内研究留学1																	

	1年		2年		3年		4年		総数
	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	
基礎・教養科目群									
数理：必修/選択	10	2	9	4	2				27
英語：必修/選択	2		2		2	2			8
情報：必修/選択			2						2
人文：必修/選択	2			2	2				6
体育：必修/選択			1						1
専門科目群									
共通	1				1				2
AO						6			
自コース：必修/選択	2	2	2	7	4	5	2	2	66
自コース：必修/選択	2			2		2			
他コース						2	6	4	12
総単位数	21		24		19		18		124

④基幹機械コース科目と電力・エネルギー分野科目による履修モデル

		1年				2年				3年				4年			
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
		10	20	30	40	10	20	30	40	10	20	30	40	10	20	30	40
基礎 教養	数理科目	◎微分積分1		◎微分積分2		△ベクトル解析											
				△微分方程式													
		◎線形代数1		◎線形代数2													
		◎基礎力学		△基礎電磁気学													
		△基礎力学演習		◎物理学実験													
		◎化学の基礎と実験															
	英語科目	◎Reading & Writing 1		◎Listening & Speaking 1		△工学英語1		△工学英語2									
情報科目			◎データサイエンス演習														
人文社会科目	◎技術者の倫理		○人文社会科目		○人文社会科目												
体育健康科目			◎スポーツ科学実技1														
共通教養科目																	
専門	共通専門科目	◎社会の中の工学				◎工学研究探訪1											
	エネルギー・モビリティ					◎流体力学1	AO流体力学2(基幹機械コース)	AO流体力学									
					◎熱力学1	AOThermodynamics 2	AO伝熱工学										
						AOエネルギー・環境論		AOエネルギー変換工学	AOCombustion Engineering	AO航空宇宙工学	AO計算力学						
メカニクス・モーションコントロール			◎材料力学1	BO材料力学2(基幹機械コース)	◎振動工学1		BO振動工学2										
	BO機械材料					BO加工学	BO材料強度学										
		BO機械運動学		BO機械設計			BO制御工学1	BO制御工学2									
総合					◎機械設計製図1	◎機械設計製図2											
	△機械工学の基礎1					△機械工学の基礎2		◎卒業研究1	◎卒業研究2	◎卒業研究3	◎卒業研究4						
分野 融合	電力・エネルギー					電気回路1A(1割)	電気回路1B(1割)	電気機器学(3割)	電力系統工学(3割)	パワーエレクトロニクス(3割)							
	※()内は、電気電子工学課程-電気・ロボット工学コースにおける開講期										学内研究留学1						

	1年		2年		3年		4年		総数			
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
基礎・教養科目群	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択				
数理：必修/選択	10	2	9	4	2				27			
英語：必修/選択	2		2		2				8			
情報：必修/選択			2						2			
人文：必修/選択	2			2					6			
体育：必修/選択			1						1			
専門科目群												
共通	1				1				2			
AOコース：必修/選択						6		8				
BOコース：必修/選択	2	2	2	7	4	5	2	2	4			
自コース：必修/選択	2					2			4			
他コース				4		2			12			
総単位数	21		24		21		18		14	4	4	124

⑤先進機械コース科目による履修モデル

		1年				2年				3年				4年			
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
		10	20	30	40	10	20	30	40	10	20	30	40	10	20	30	40
基礎 教養	数理科目	◎微分積分1 ◎線形代数1		◎微分積分2 ◎線形代数2 △線形代数的証明 ◎基礎力学 △基礎物理学演習 ◎化学の基礎と実験				△ベクトル解析(2前/後) △前向き量子論の基礎									
	英語科目	◎Reading & Writing 1		◎Listening & Speaking 1		△工学英語1		△工学英語2									
	情報科目	△情報リテラシー(1前/後)		△デジタル化と実習(1前/後)		◎言語入門											
	人文社会科目	◎技術者の倫理				○人文社会科目		○人文社会科目									
	体育健康科目	◎スポーツ科学実技1															
	共通教養科目	△グローバル・サイエンスリテラシー(1前/後)															
専門	共通専門科目	◎社会の中の工学				◎工学研究探訪1											
	メカニカルサイエンス																
	バイオロボティクス									AO研究導入講義1(知能機械) AO研究導入講義1(生体工学)		AO研究導入講義2(知能機械) AO研究導入講義2(生体工学)					
	総合/共通	◎先進機械基礎1		◎材料力学1		◎流体力学1 ◎振動工学1		◎機械工学概論1		◎卒業研究1		◎卒業研究2		◎卒業研究3		◎卒業研究4	

	1年		2年		3年		4年		総数	
	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択		
基礎・教養科目群	10	2	9	4	4	2			29	
数理：必修/選択									8	
英語：必修/選択	2		2		2				6	
情報：必修/選択		1		2					6	
人文：必修/選択	2			3	2				6	
体育：必修/選択	1			2					1	
共通教養：必修/選択		2							2	
専門科目群									2	
共通	1				1				2	
自コース：必修/選択A						6		6		
自コース：必修/選択B	2		4		2	4	2	4	4	
自コース：必修/選択			2	8	2	10			70	
他コース									0	
総単位数	23		23		23	21	14	12	4	124

⑥先進機械コース科目と情報ネットワーク工学分野科目による履修モデル

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
		10	20	30	40	10	20	30	40
基礎 教養	数理科目	◎微分積分1 ◎線形代数1	◎微分積分2 ◎線形代数2			△ベクトル解析(2前/後)			
	英語科目	◎Reading & Writing 1	◎Listening & Speaking 1	△工学英語1	△工学英語2				
	情報科目	△情報リテラシー(1前/後)	△デジタル化と実習(1前/後)	◎言語入門					
	人文社会科目	◎技術者の倫理		○人文社会科目	○人文社会科目				
	体育健康科目	◎スポーツ科学実技1							
	共通教養科目								
専門	共通専門科目	◎社会の中の工学			◎工学研究探訪1				
	メカニカルサイエンス								
	バイオロボティクス					AO研究導入講義1(知能機械) AO研究導入講義1(生体工学)	AO研究導入講義2(知能機械) AO研究導入講義2(生体工学)		
	総合/共通	◎先進機械基礎1	◎材料力学1	△先進機械基礎2 ◎流体力学1 ◎熱力学1 ◎振動工学1 ◎機械工学概論1	◎流体力学2(先修機械コース) ◎熱力学2 ◎機械力学 △メカトロニクス	◎卒業研究1 AO研究導入講義1(サイエンス・メカニクス) BO研究導入演習1 BO研究導入演習2	◎卒業研究2 AO研究導入講義2(サイエンス・メカニクス) BO研究導入演習3 BO研究導入演習4	◎卒業研究3	◎卒業研究4
分野 融合	情報ネットワーク	情報処理基礎(1前)	情報通信ネットワーク(1後) 論理設計(1後)	情報通信ネットワーク(2前)	ネットワーク理論(2後)	メディア情報工学(3前)		学内研究留学1	

	1年		2年		3年		4年		総数				
	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択					
基礎・教養科目群													
数理：必修/選択	10	2	9	2					27				
英語：必修/選択	2		2						8				
情報：必修/選択		1		2	3				6				
人文：必修/選択	2			2					6				
体育：必修/選択									1				
共通教養：必修/選択	1								0				
専門科目群													
共通	1				1				2				
自コース：必修/選択A						6	6						
自コース：必修/選択B	2		4		8	2	4	4	62				
自コース：必修/選択				6		8							
他コース		2		2		2		2	12				
総単位数	23		21		23		21		14	14	4	4	124

⑦先進機械コース科目と情報知能システム分野科目による履修モデル

		1年		2年				3年				4年					
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
		10	20	30	40	10	20	30	40	10	20	30	40	10	20	30	40
基礎 教養	数理科目	◎微分積分1 ◎線形代数1		◎微分積分2 ◎線形代数2						△ベクトル解析(2前/後) △前向き電子線の基礎							
	英語科目	◎Reading & Writing 1		◎Listening & Speaking 1		△工学英語1		△工学英語2									
	情報科目	△情報リテラシー(1前/後)				◎言語入門											
	人文社会科目	◎技術者の倫理				○人文社会科目		○人文社会科目									
	体育健康科目	◎スポーツ科学実技1															
	共通教養科目	△ゼータサテュンズリナーシー(1前/後)															
	共通専門科目	◎社会の中の工学						◎工学研究探訪1									
専門	メカニカルサイエンス																
	バイオリボティクス									AO研究導入講義1(知能機械) AO研究導入講義1(生体工学)		AO研究導入講義2(知能機械) AO研究導入講義2(生体工学)					
	総合/共通	◎先進機械基礎1		◎材料力学1		△先進機械基礎2 △材料力学2(先達機械コース) ◎流体力学1 ◎振動工学1		◎機械工学概論1 ◎機械工学概論2		◎卒業研究1		◎卒業研究2		◎卒業研究3		◎卒業研究4	
	情報知能システム			コンピュターアーキテクチャ(1後)				デジタルメディア処理(2後)		BO研究導入演習1 BO研究導入演習2		BO研究導入演習3 BO研究導入演習4					
分野 融合	情報知能システム									コンピュータビジョン(3前)							
	※ ①内は、情報・通信工学課程-情報工学コースにおける開講期									集積回路工学(3前) 情報ネットワーク(3前)		学内研究留学1					

	1年		2年				3年				4年				総数
	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	
基礎・教養科目群	10	2	9	2	3	2	4	2							27
数理：必修/選択															8
英語：必修/選択	2		2												4
情報：必修/選択		1			3										4
人文：必修/選択	2				2		2								6
体育：必修/選択	1														1
共通教養：必修/選択		2													2
専門科目群															2
共通	1					1									2
自コース：必修/選択A															2
自コース：必修/選択B	2		4		8		2	2	4	2	4	4	4	4	62
自コース：必修/選択					6		8								12
他コース			2				2	6			2				12
総単位数		23		19		21		21		18		14		4	124

## グローバルPBL実施実績

※コロナ禍の影響を受けしていない2018年度に実施したプログラムのうち工学部に関連するプログラムのみ抜粋

関連分野	渡航先国・地域	渡航先大学	参加学生数
機械工学系	タイ	キングモンクット工科大学トンブリ校	20
	ポーランド	ポーランド科学技術大学	10
	オーストラリア	ロイヤルメルボルン工科大学	7
	台湾	台北科技大学	5
	タイ	スラナリー工科大学	5
	インド	インド工科大学デリー校	5
物質化学系	タイ	チュラーロンコーン大学	22
	台湾	台湾科技大学	11
	インドネシア	ウィディアマンダーラカトリック大学スラバヤ	10
	大韓民国	忠南大学	4
電気電子工学系	ベトナム	ハノイ理工科大学	28
	アメリカ	カリフォルニア大学アーバイン校	22
	アメリカ	カリフォルニア州立大学イーストベイ校	12
	タイ	キングモンクット工科大学トンブリ校	11
	ベトナム	ホーチミン市工科大学	9
	スリランカ	モロトゥワ大学	9
	インドネシア	バンドン工科大学	8
	香港	香港中文大学	7
	台湾	台湾科技大学	7
	ハンガリー	オブダ大学	6
	大韓民国	東洋未来大学	6
	大韓民国	釜山大学校	3
	情報・通信工学関連	ベトナム	FPT大学
ベトナム		ハノイ理工科大学	24
ベトナム		ホーチミン市工科大学	19
ベトナム		ハノイ理工科大学	17
タイ		スラナリー工科大学	15
タイ		泰日工業大学	13
土木工学関連		タイ	キングモンクット工科大学トンブリ校
	タイ	カセサート大学	26
	オーストリア	ウィーン工科大学	17

合計 423

工学部時間割案

【前期】大宮キャンパス

工学部時間割案の表。科目コード、科目名、単元、備考、教室、科目コード、科目名、単元、備考、教室、科目コード、科目名、単元、備考、教室、科目コード、科目名、単元、備考、教室の順で構成された表。

※入籍人数が少なく履修者に応じて開講する科目が多い先途開講科目は掲載していない。

工学部時間割案

【前期】豊洲キャンパス

月	1限			2限			3限			4限			5限				
	科目コード	科目名	備考	科目コード	科目名	備考	科目コード	科目名	備考	科目コード	科目名	備考	科目コード	科目名	備考		
月	E000100	応用実験1		A001100	社会心理学		Z000000	AcademicEnglish		A000100	スポーツ科学実技1		A000000	工学英語3			
	F000200	通信方式		A000200	地域と環境		Z000100	人間社会と環境問題		A000100	凝性流体力学						
	H000330	地盤工学演習		A000100	在勤工学		A000000	現代の日本経済		C000200	環境物質科学実験1						
	L0003600	情報セキュリティ		E000100	応用実験1		A001900	制御工学1		E000200	応用実験1						
				FL000300	情報通信技術英語		C000200	環境物質科学実験1		F0002400	情報通信応用実験A						
				FL000300	情報通信技術英語		E000200	応用実験1		L0003900	Java応用プログラミング	1Q					
				H0003700	土木計画学2		F0002400	情報通信応用実験A		L0004000	人工知能プログラミング	2Q					
							H0004200	Mobility and Regional Development	1Q								
							L0003900	Java応用プログラミング	1Q								
							L0004000	人工知能プログラミング	2Q								
火	A0001300	レポートライティング		A000000	人間社会と環境問題		A000200	Mechanics		A0001500	振動工学2		B0001300	情報系基礎1(1限)			
	A0002100	生産と消費の環境論		A0001300	レポートライティング		B0011600	研究導入講義1(知能機械)		B0001700	研究導入講義1(生体工学)						
	A0001700	エンジンシステム		A000200	材料強度学		C000200	環境物質科学実験2		C000200	環境物質科学実験2						
	B0001800	研究導入講義1(材料工学)		B0002000	研究導入講義1(ノ・イ・イ)		D0001900	有機化学実験		D0001900	有機化学実験						
	D0001900	有機化学実験		C000200	鉄鋼材料製造法		FL000200	移動通信工学		F0003200	音響工学						
	E0000200	電波工学1		D0001900	有機化学実験		FL000200	移動通信工学		G0000900	情報伝送回路						
	F0002800	電波工学1		E0002000	電波工学		G0001200	電気工学倫理		H0000300	材料実験	1Q-3Q					
				FL000400	光通信工学		H0001300	材料実験	1Q-3Q	H0001100	土質実験	1Q-3Q					
				FL000400	光通信工学		H0003100	土質実験	1Q-3Q	H0003200	水理実験	1Q-3Q					
				L0003500	ソフトウェア工学		L0003200	水理実験	1Q-3Q	L0003700	ソフトウェア開発演習						
水	C0002800	Organic Materials Chemistry		C0002700	凝縮工学		C0002400	Semiconductor Materials		C0002500	Phase Transitions in Materials						
	E0002400	有機合成法		E0002100	分離工学		G0002200	セラミックス化学		D0002300	電気化学						
	E0002900	パワーエレクトロニクス	2Q	E0002900	パワーエレクトロニクス	2Q	E0002400	マイクロコンピュータ	1Q	E0002400	マイクロコンピュータ	1Q					
	E0004300	電気機器設計製図		E0004300	電気機器設計製図		E0004100	高電圧工学	2Q	E0004100	高電圧工学	2Q					
	E0001100	電子物性	1Q	E0000100	電子物性	1Q	F0002700	メディカ情報工学	407	G0002000	電子制御工学	302					
	F0003000	情報処理2		F0002500	電磁気学2		G0002400	半導体工学	301	L0003400	数値計画法	1Q					
	H0003600	地震防災工学		FL000100	データベース		L0003000	人工知能	505								
	L0003200	情報ネットワーク		FL000100	データベース												
				G0003900	電子材料												
				H0003800	土質力学2												
木	D0002000	反応工学		C0003300	生体有機材料		A0000700	法學入門		E0002600	電力系統工学	1Q	407	A0000100	技術者の倫理	407	
	E0002500	電気機器学	1Q	D0002600	応用分析化学		A0000800	日本語学		E0002700	制御工学	2Q	408	A0000300	文化人類学	408	
	E0002800	Applied Mathematics	2Q	E0002500	電気機器学	1Q	C0002600	複合材料		E0004200	Electric Railway	2Q	407				
	E0004000	電気法規	1Q	E0002800	Applied Mathematics	2Q	D0002500	ケミカルバイオロジー基礎		G0002700	信号処理回路		509				
	H0003400	水文学		E0004000	電気法規	1Q	E0002600	電力系統工学	1Q	H0004000	コンクリート構造学2		508				
				E0000100	電子物性		E0002700	制御工学	2Q	H0003900	集積回路工学		503				
				H0003600	構造力学2		E0004200	Electric Railway	2Q								
				L0003100	超伝導システム		G0002500	光エレクトロニクス									
							H0003800	網構造学									
							L0002900	コンピュータビジョン									
金	Z000000	AcademicEnglish		A0002200	応用経済学		S0000100	スポーツ科学実技1		A0002300	安全と倫理		509	A0001400	プレゼンテーション入門	507	
	S0002100	スポーツ健康学		A0002300	知的財産法		A0002400	プログラミング言語		E0002200	電気工学技術英語		502				
	B0002100	研究導入演習1	1Q	S0000100	スポーツ科学実技1		CD000900	現代生物学		E0004400	電力情報システム設計		407				
	B0002200	研究導入演習2	2Q	S0000100	スポーツ科学実技1		CD000900	現代生物学									
	E0002300	Introduction of Electrical Engineering Research	1Q	A0002100	応用工学		CD000900	現代生物学									
	H0004100	社会調査演習	2Q	B0002100	研究導入演習1	1Q	E0004400	電力情報システム設計									
				B0002200	研究導入演習2	2Q	F0003100	情報通信特論1									
				CD000600	宇宙空間科学												
				CD000600	宇宙空間科学												
				E0002300	Introduction of Electrical Engineering Research	1Q											
土				E0009000	電波法規												
				G0002600	情報増強												
				H0004100	社会調査演習	2Q											

※在籍人数が少なく履修者に応じて開講する科目が多い先達国際課程の科目は掲載していない。



工学部時間割案

【後期】大宮キャンパス

Table with 20 columns: 1R (科目コード, 科目名, 備考, 教養), 2R (科目コード, 科目名, 備考, 教養), 3R (科目コード, 科目名, 備考, 教養), 4R (科目コード, 科目名, 備考, 教養), 5R (科目コード, 科目名, 備考, 教養). Rows are categorized by month (月), semester (大), water (水), and year (年).

※在籍人数が少なく履修者に応じて開講する科目が先述開講科目は掲載していない。

工学部時間割案

【後期】豊洲キャンパス

月	1限			2限			3限			4限			5限			
	科目コード	科目名	備考	科目コード	科目名	備考	科目コード	科目名	備考	科目コード	科目名	備考	科目コード	科目名	備考	
月	40001000	人間関係論	408	20001000	AcademicEnglish	406	40001000	現代の日本経済	305	A0002000	エネルギー実験工学	305				
	E0003000	応用実験2		A0002000	人間社会と環境問題	506	40002000	地産と地産	304	C0001000	環境物理学実験1					
	F0004000	生体情報工学	500	A0002000	Combustion Engineering	305	A0002000	制御工学2	305	E0003000	応用実験2					
				E0003000	応用実験2		C0001000	環境物理学実験1		F0003000	情報通信応用実験B					
				FL000700	セキュアネットワーク	502	E0003000	応用実験2								
				FL000700	セキュアネットワーク	505	F0003000	情報通信応用実験B								
				H0004000	土木設計演習											
火	20001000	AcademicEnglish	406	A0001000	レポートライティング	403	40001000	日本国憲法	405	A0002000	計算力学	304	40001000	日本国憲法	405	
	A0001000	レポートライティング	403	A0001000	人間社会と環境問題	302	B0002000	研究導入講義2(知能機械)	506	C0001000	研究導入講義2(生体工学)	505	60002000	研究導入講義2(知能機械)	505	
	A0001000	プログラミング演習	PC講義並3	A0002000	材料設計学	304	C0002000	環境物理学実験2		C0003000	環境物理学実験2					
	B0002000	研究導入講義2(計測工学)	505	B0002000	研究導入講義2(ノ・イ・フ)	505	D0001400	物理化学実験	3Q	D0001400	物理化学実験	3Q				
	C0004000	機器分析	504	C0004000	粉体成形	504	D0001500	化学工学実験	4Q	D0001500	化学工学実験	4Q				
	D0001400	物理化学実験	3Q	D0001400	物理化学実験	3Q	E0003000	現代制御	3Q	E0003000	現代制御	3Q				
	D0001500	化学工学実験	4Q	D0001500	化学工学実験	4Q	F0004000	メディア通信工学	509	H0003000	材料実験	1Q-3Q				
				F0003000	マイクロ波工学	509	H0003000	材料実験	1Q-3Q	H0003000	土質実験	1Q-3Q				
				H0004000	地盤環境工学	502	H0003000	水質実験	1Q-3Q	H0004000	土木応用実験	4Q				
							H0004000	土木応用実験	4Q	L0004000	プログラミング言語処理演習	PC講義並2				
水	C0001000	マテリアルインフォマティクス	405	C0003000	電子顕微鏡とナノサイエンス	405	C0003000	物性物理学	405	C0004000	生体金属材料	405	E0004000	無線機器	505	
	D0003000	無機物質化学	504	D0003000	生物無機化学	504	D0003000	高分子化学	504	D0003000	地球科学	504	H0004000	土木ネットワーク	405	
	E0003000	ロボティクス	3Q	E0003000	ロボティクス	3Q	406	E0003000	Mechanics	3Q	406	E0003000	Mechanics	3Q		
	E0003000	電気応用	4Q	E0003000	電気応用	4Q	E0003000	発光電子工学	4Q	406	E0003000	発光電子工学	4Q	406		
	L0004000	コンピュータグラフィックス	505	L0004000	パターン認識	509	E0003000	電子デバイス	4Q	506	E0003000	電子デバイス	4Q	502		
				L0004000	情報システム	506	F0003000	電気工学2	4Q	506	E0004000	無線機器	506			
				L0004000	情報システムプログラミング	505	G0001000	電子材料評価論	506	F0003000	無線機器	509				
							L0004000	音響・音響処理工学	505	F0003000	情報工学特論	505				
木	C0003000	Strength of Materials	507	C0003000	Surface Treatment	507	40007000	法学入門	509	C0003000	表面面の物理化学	507	40002000	生命倫理	405	
	D0003000	応用物理化学	408	D0003000	有機合成化学	408	C0003000	リサイクル工学	507	E0003000	電気材料	3Q	304	40001000	文化人類学	407
	E0003000	電動機制御	3Q	E0003000	電動機制御	3Q	D0002000	化学工業概論	408	G0003000	メディカルエレクトロニクス	302				
	H0004000	維持管理工学	407	G0002000	電子デバイス	302	E0003000	電気材料	304	H0005000	地域デザイン演習2	407				
				H0005000	国際関係工学	407	G0003000	集積回路工学	302							
				L0004000	データ解析法	508	H0002000	地域デザイン演習2	407							
							L0004000	自然言語処理	508							
金	50001000	スポーツ科学実技1	本部体育館	40002000	応用経済学	304	50001000	スポーツ科学実技1	本部体育館	H0004000	都市環境工学	408	40001400	フロンティアシステム	304	
	B0002000	研究導入演習3	3Q	40002000	知的財産法	403	A0003000	機械分子工学	509				40002400	教育社会学	403	
	B0002000	研究導入演習4	4Q	50001000	スポーツ科学実技1	本部体育館	F0006000	情報通信特論2	505							
	E0002000	デジタル信号処理	3Q	50001000	スポーツ科学実技1	本部体育館	H0005000	地産情報システム演習	408							
				A0003000	統計学	509										
				B0002000	研究導入演習3	3Q										
				B0002000	研究導入演習4	4Q										
				E0003000	デジタル信号処理	3Q										
				F0003000	デジタル信号処理	505										
				H0004000	地理情報システム	408										
土	F0003000	宇宙通信工学	403	F0004000	情報通信システム設計論	403	F0003000	通信法令	405							
							FL000500	情報倫理	404							
							G0003000	通信法令	405							

※在籍人数が少なく履修率に応じて開講する科目が多い先述開講の科目は掲載していない。

**芝浦工業大学工学部機械工学課程**  
**学生の確保の見通し等を記載した書類**

**(1) 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況**

**ア 本学の現状把握・分析**

**・設置キャンパスの現状**

本学の学部学科は下表のとおり 2 キャンパスに位置している。工学部は 1 年次及び 2 年次は大宮キャンパスを、3 年次及び 4 年次は豊洲キャンパスを修学地とする。両キャンパスは首都圏に立地しており、通学、住まい、アルバイト、キャンパス相互の移動、就職活動など学生生活を送るうえで非常に利便性に優れている。

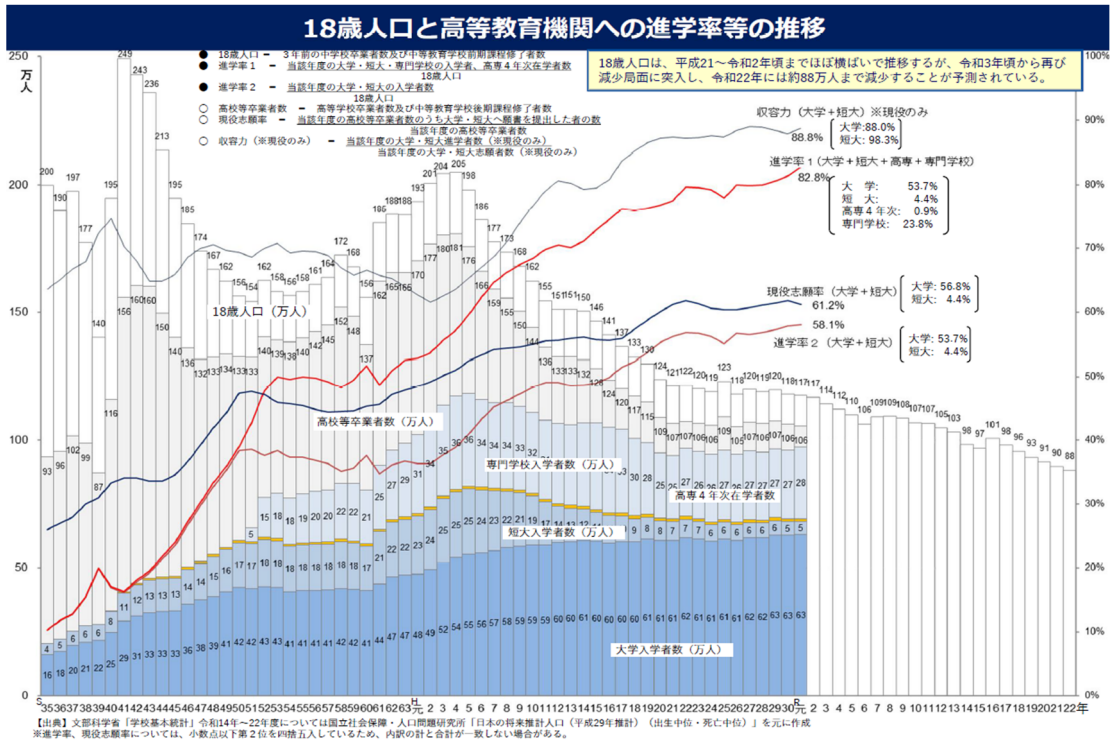
**【図表 1】 キャンパスの位置と設置学部・学年**

キャンパスの所在	設置学部・学年
<b>【大宮キャンパス】</b> 埼玉県さいたま市見沼区深作 307 最寄駅：JR 宇都宮線「東大宮駅」	工学部 : 1 年次及び 2 年次 システム理工学部 : 全学年 デザイン工学部 : 1 年次及び 2 年次
<b>【豊洲キャンパス】</b> 東京都江東区豊洲 3-7-5 最寄駅：東京メトロ有楽町線「豊洲駅」	工学部 : 3 年次及び 4 年次 デザイン工学部 : 3 年次及び 4 年次 建築学部 : 全学年

**・一都六県からの進学状況と本学への入学状況**

文部科学省及び内閣府資料（「18 歳人口と高等教育機関への進学率の推移」【図表 2】）によると、今後 18 歳人口は令和 5 年から令和 9 年頃までほぼ横ばいで推移し、令和 10 年以降緩やかに減少すると予想されている。

【図表 2】 18 歳人口と高等教育機関への進学率の推移



一方で、本学入学者に占める割合が多い東京、埼玉を中心とする首都圏においては、人口減少の度合いは緩やかであり、進学率の高さと相まって今後も大規模なマーケットが持続的に存在すると予想される。

文部科学省学校基本調査によると、全国の大学進学者に占める一都六県の比率は4か年平均で約35%となっている【図表3】

また、本学の入学者は、一都六県からの入学者の比率が約83%である。特に埼玉県と東京都のみで本学入学者全体の約50%を占め、キャンパスの立地に対応した状況となっている。【図表4】

これらのことから、本学は大学進学に高い意欲（実績）を示している地域から安定した志願者を確保しており、将来、国内の18歳人口が減少する局面にあっても志願者数が著しく減少する可能性は低いと考える。

【図表 3】 都道府県別大学進学者の状況（全大学）

単位：人

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	平均	比率
全国	524,158	523,466	529,009	534,312	527,736	100%
茨城	12,148	11,972	11,924	12,134	12,045	2.28%
栃木	8,222	8,276	8,230	8,318	8,262	1.57%
群馬	7,939	7,817	8,164	8,040	7,990	1.51%
埼玉	30,037	30,241	30,715	31,214	30,552	5.79%
千葉	25,526	25,256	25,317	26,437	25,634	4.86%
東京	63,550	64,133	64,619	66,352	64,664	12.25%
神奈川	37,768	37,913	37,647	39,004	38,083	7.22%
一都六県計	185,190	185,608	186,616	191,499	187,228	35.48%

※文部科学省学校基本調査 都道府県別大学・短期大学等への進学者数より作成

【図表 4】一都六県からの本学入学者の状況

単位：人

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	平均	比率
全国	1,927	1,902	1,842	1,919	1,898	100%
茨城	61	69	58	55	61	3.20%
栃木	54	39	45	45	46	2.41%
群馬	45	38	29	35	37	1.94%
埼玉	353	337	356	368	354	18.63%
千葉	219	250	211	213	223	11.77%
東京	607	617	626	637	622	32.77%
神奈川	217	217	230	233	224	11.82%
一都六県計	1,556	1,567	1,555	1,586	1,566	82.53%

※本学入試データより作成

## イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析

### ・理工系人材の戦略的育成と分野横断教育の重要性

理工学系人材の戦略的育成の必要性は各所で指摘されており、「理工系人材育成戦略」（平成 27 年・文部科学省）（[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/sangaku2/1351875.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/sangaku2/1351875.htm)）によると、「超高齢化社会に直面する我が国は、国際競争力の維持・向上、活力ある地域経済社会の構築、医療・介護サービスの持続的・効率的提供等の重要課題に果敢に取り組みつつ豊かさを実感できる社会を力強く築いていかなければならず、その実現において、未来を築く最先端研究開発から、グローバルに人々の生活を一変させる全く新しい商品開発、日常生活を堅実に支える製品開発・運用まで、新しいアイデアと高い技術力を駆使し実用へと導くことのできる付加価値の高い理工系人材は、欠くことのできない存在であり、このことを重視し、我が国は、理工系人材の質的充実・量的確保に向け、戦略的に人材育成に取り組んでいく必要がある。」と述べられている。

また、「大学における工学系教育の在り方について(中間まとめ)」（平成 29 年・文部科学省）（[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/081/gaiyou/1387267.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/081/gaiyou/1387267.htm)）においては、工学分野においては、社会の変化に合わせ、縦割りの学科制から分野を超えた学びである課程制への移行が求められている旨、述べられている。

### ・戦略の方向性と重点項目

上記「理工系人材育成戦略」において、「理工系人材に求められる能力は、一気呵成に得られるものではなく、段階的・発展的に育成される。このことを踏まえ、初等中等教育段階から取組みを講じ、特に高等教育段階の教育研究機能の活用を重視して、戦略の方向性と重点項目を整理する。」とされている。これら重点項目（下記、図表 5）の推進及び達成に関し、理工系単科大学である本学が担うべき役割は大きい。

また、機械工学は、エネルギーを含む様々な技術の発展により今後も重要な役割を担う工学分野の一つであり、電気工学や電子工学、情報工学、通信工学、土木工学、化学工学、材料工学、自動車工学、宇宙工学などと密接な関わりがあるボーダレスな学問分野と言える。そのため、縦割りの学科制から分野を超えた学びを推進しやすい課程制への移行が適切である。

## 【図表5】理工系人材育成戦略において示された戦略の方向性と重点項目

<p><b>【戦略の方向性1】高等教育段階の教育研究機能の強化</b></p> <p><b>重点1.</b> 理工系プロフェッショナル、リーダー人材育成システムの強化</p> <p><b>重点2.</b> 教育機能のグローバル化の推進</p> <p><b>重点3.</b> 地域企業との連携による持続的・発展的イノベーション創出</p> <p><b>重点4.</b> 国立大学における教育研究組織の整備・再編等を通じた理工系人材の育成</p> <p><b>【戦略の方向性2】子供たちに体感を、若手・女性・社会人に飛躍を</b></p> <p><b>重点5.</b> 初等中等教育における創造性・探究心・主体性・チャレンジ精神の涵養</p> <p><b>重点6.</b> 学生・若手研究者のベンチャーマインドの育成</p> <p><b>重点7.</b> 女性の理工系分野への進出の推進</p> <p><b>重点8.</b> 若手研究者の活躍促進</p> <p><b>重点9.</b> 産業人材の最先端・異分野の知識・技術の習得の推進～社会人の学び直しの促進～</p> <p><b>【戦略の方向性3】産学官の対話と協働</b></p> <p><b>重点10.</b> 「理工系人材育成-産学官円卓会議」(仮称)の設置</p>
--

### ウ 新設課程の趣旨目的、教育内容、定員設定等

#### ・新課程の設置趣旨目的、教育内容等について

機械工学課程が属する工学部では、「分野横断的知識を備えるための工学技術者教育」、「課題解決型人材教育」、「研究を軸とした実践型教育」を教育の3本柱として定めており、機械工学課程においても、これらの3本柱を踏まえた教育プログラムを展開していく。

例えば、機械工学課程では、自専攻の学びに主軸をおきつつも、各学生のニーズに合わせて他の分野の知識を体系的に学べる自由度の高いカリキュラムを導入する。具体的には、卒業要件の範囲内において、基幹機械コースで最大16単位、先進機械コースで最大17単位を他の課程の専門科目から履修することができる。

また、卒業研究に3年次から着手する。早期の卒業研究着手は、2年間という十分な時間をかけて卒業研究に取り組めるメリットに加え、日々の講義や実験が研究や社会とどのように繋がっているのか、具体的なイメージを早めに想起させる効果も見込める。

上記はア、イで示した現状の工学教育が抱える課題点を踏まえて設定したもので、新設課程を設置することにより、これらの教育的課題の解決に貢献することができる。

#### ・定員の設定について

工学部機械工学課程は工学部機械工学科（入学定員114名）、工学部機械機能工学科（入学定員114名）を主な母体とし、既設の工学部内の組織を再編・統合により設置する課程である。よって、工学部機械工学課程の入学定員はこれら2学科の入学定員を合計した228名とする。

#### ・新設課程の入学金、授業料などの設定について

工学部機械工学課程は工学部機械工学科、工学部機械機能工学科を主な母体とし、既設の工学部内の組織を再編・統合して設置する課程であり、施設整備面においても、既設の施設設備を継承して利用する予定であるため、学費等については現在の工学部と同額とする。具体的な金額は、以下のとおりである。

**【図表 6】工学部機械工学課程学費等**

学費項目	1年次	2年次	3年次	4年次	4年間合計
入学金	280,000	0	0	0	280,000
授業料	1,199,000	1,199,000	1,299,000	1,299,000	4,996,000
維持料	283,000	283,000	283,000	283,000	1,132,000
計	1,762,000	1,482,000	1,582,000	1,582,000	6,408,000

また、類似学部・学科を擁する近隣競合校の学費等と比較を以下に示す。本学の学費は、競合校の学費とほぼ同等の水準にあり、妥当な金額設定であるといえる。

**【図表 7】主な近隣競合校の学費等**

大学	学費・授業料等 (諸会費等含む初年次納入金)
工学院大学 工学部	1,681,160 円
東京都市大学 理工学部	1,736,000 円
東京電機大学 工学部	1,671,160 円

## エ 学生確保の見通し

### A 学生確保の見通しの調査結果

学生確保の見通しを調査するため、「芝浦工業大学5課程の設置に関するアンケート調査」を行った。本調査は、学校法人芝浦工業大学において令和6年4月に工学部に開設予定の5課程への入学意向を把握することを目的として「一般財団法人 日本開発構想研究所」に実施を依頼した。

アンケートは、東京、埼玉、千葉、神奈川などの立地を考慮し、本学への入学者が多い高等学校を対象として実施し、85校11,246人の高校2年生からの回答を得た。

回答者のうち、高等学校卒業後の進路として、大学進学・短期大学進学・専門学校進学を選択した回答者は11,098名であり、これらの回答者を対象に本学工学部5課程への受験意向を尋ねたところ、「受験してみたいと思う」が770人(6.9%)、「受験先の候補の一つとして考える」が3,131人(28.2%)であった(合計3901名)。さらにこれらの回答者を対象に、受験して合格した場合の工学部5課程への進学意向を希望順位別に集計を行ったところ、第1希望に機械工学課程を挙げた回答者は891人、第2希望では981人、第3希望では1212人であった。

機械工学課程の入学定員228名と比較すると、第1希望の集計のみにおいても定員に対して約3.9倍の回答を得ることができた。

このような限定されたサンプルを対象とした調査においても、入学定員を上回る進学意向を確認できることから、学生の確保は十分可能であると判断している。

なお、調査結果の詳細は、芝浦工業大学5課程の設置に関するアンケート調査報告書【資料1】を参照されたい。

### B 新設学部等の分野の動向

機械工学分野は社会において今後も重要な役割を担う工学分野の一つであり、材料工学、化学工学、電気工学、電子工学、通信工学、情報工学、土木工学等の様々な分野と密接に関わりを持つ分野である。応用領域も広く社会課題解決のための重要な役割を担う分野であり、今後も技術発展や分野融合の進展に対応し、産業界からの人材ニーズも旺盛であることが見込まれる。

### C 中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等

「ア 本学の現状把握・分析」において示したとおり、今後18歳人口が令和5年から令和9年頃まではほぼ横ばいで推移し、令和10年以降緩やかに減少すると予想されるが、本学入学者に占める割合の高い一都六県については、今後も大規模なマーケットが持続すると予想され、本学の立地と相まって継続的な進学ニーズを見込める。本学は大学進学に高い意欲(実績)を示している地域から安定した志願者を確保しており、将来、国内の18歳人口が減少する局面にあっても志願者数が著しく減少する可能性は低いと考える。



## D 競合校の状況

競合大学の2021年度入試（一般選抜）の状況を以下に示す。各大学は本学と類似する理工系の学科を複数擁しており、本学を含めて東京理工系4大学として認知されている大学であるが、定員割れとは程遠く堅調に受験生を集めていることが分かる。

【図表8】競合大学の2021年度入試（一般型選抜）の状況

	工学院大学	東京電機大学	東京都市大学
募集定員 (①)	1,094	1,559	1,470
志願者数 (②)	21,247	28,395	23,276
志願倍率 (②/①)	19.42	18.21	15.83
合格者数 (③)	4,777	5,838	5,476
実質倍率 (③/①)	4.37	3.74	3.73

※各大学のウェブサイトより作成

工学院大学：[https://www.kogakuin.ac.jp/admissions/requirement/past\\_result.html](https://www.kogakuin.ac.jp/admissions/requirement/past_result.html)

東京電機大学：[https://www.dendai.ac.jp/about/admission/nyushi\\_data/](https://www.dendai.ac.jp/about/admission/nyushi_data/)

東京都市大学：<https://www.tcu.ac.jp/entrance/data/>

## E 既設学部等の学生確保の状況

工学部機械工学課程は工学部機械工学科（入学定員114名）、工学部機械機能工学科（入学定員114名）を主な母体とし、既設の工学部内の組織を再編・統合により設置する課程である。これらの学科の過去5年分の志願者数は下記のとおりである。いずれの年度においても募集定員を大きく超える志願者数を集め、入学定員を確保できている。

【図表 9】申請課程の母体となる学科の直近 5 年間の入試状況

1. 機械工学科

(1) 各選抜方法の状況

		2018年度入試	2019年度入試	2020年度入試	2021年度入試	2022年度入試	平均	
総合型選抜	延べ人数	志願者数	0	0	1	1	0	0
		受験者数	0	0	1	1	0	0
		合格者数	0	0	1	1	0	0
		入学者数	0	0	1	1	0	0
	実人数	志願者数	0	0	1	1	0	0
		受験者数	0	0	1	1	0	0
		合格者数	0	0	1	1	0	0
		入学者数	0	0	1	1	0	0
学校推薦型選抜	延べ人数	志願者数	20	20	24	47	39	30
		受験者数	20	20	24	47	39	30
		合格者数	16	19	23	46	38	28
		入学者数	16	19	23	46	38	28
	実人数	志願者数	20	20	24	47	39	30
		受験者数	20	20	24	47	39	30
		合格者数	16	19	23	46	38	28
		入学者数	16	19	23	46	38	28
一般選抜	延べ人数	志願者数	3,867	4,578	3,529	3,241	2,993	3,642
		受験者数	3,769	4,427	3,428	3,155	2,897	3,535
		合格者数	963	1,007	960	782	844	911
		入学者数	93	106	98	74	86	91
	実人数	志願者数	2,675	3,122	2,395	2,170	2,064	2,485
		受験者数	2,630	3,060	2,360	2,149	2,022	2,444
		合格者数	829	867	795	673	726	778
		入学者数	93	106	98	74	86	91
その他特別選抜	延べ人数	志願者数	20	25	2	5	0	10
		受験者数	20	25	2	5	0	10
		合格者数	6	4	0	1	0	2
		入学者数	5	3	0	0	0	2
	実人数	志願者数	20	25	2	5	0	10
		受験者数	20	25	2	5	0	10
		合格者数	6	4	0	1	0	2
		入学者数	5	3	0	0	0	2
合計	延べ人数	志願者数	3,907	4,623	3,556	3,294	3,032	3,682
		受験者数	3,809	4,472	3,455	3,208	2,936	3,576
		合格者数	985	1,030	984	830	882	942
		入学者数	114	128	122	121	124	122
	実人数	志願者数	2,715	3,167	2,422	2,223	2,103	2,526
		受験者数	2,670	3,105	2,387	2,202	2,061	2,485
		合格者数	851	890	819	721	764	809
		入学者数	114	128	122	121	124	122

(2) 入学定員充足率

	2018年度入試	2019年度入試	2020年度入試	2021年度入試	2022年度入試	平均
入学定員	115	115	114	114	114	114
入学定員充足率	0.99	1.11	1.07	1.06	1.09	1.06

## 2. 機械機能工学科

### (1) 各選抜方法の状況

		2018年度入試	2019年度入試	2020年度入試	2021年度入試	2022年度入試	平均	
総合型選抜	延べ人数	志願者数	0	0	0	0	0	
		受験者数	0	0	0	0	0	
		合格者数	0	0	0	0	0	
		入学者数	0	0	0	0	0	
	実人数	志願者数	0	0	0	0	0	
		受験者数	0	0	0	0	0	
		合格者数	0	0	0	0	0	
		入学者数	0	0	0	0	0	
学校推薦型選抜	延べ人数	志願者数	27	11	25	25	23	22
		受験者数	27	11	25	25	23	22
		合格者数	25	10	24	23	22	21
		入学者数	24	10	22	23	22	20
	実人数	志願者数	27	11	25	25	23	22
		受験者数	27	11	25	25	23	22
		合格者数	25	10	24	23	22	21
		入学者数	24	10	22	23	22	20
一般選抜	延べ人数	志願者数	2,168	2,290	1,875	1,762	1,985	2,016
		受験者数	2,113	2,215	1,824	1,701	1,930	1,957
		合格者数	650	640	606	684	794	675
		入学者数	129	96	70	94	136	105
	実人数	志願者数	1,536	1,618	1,335	1,250	1,429	1,434
		受験者数	1,510	1,583	1,314	1,223	1,410	1,408
		合格者数	575	560	523	586	679	585
		入学者数	129	96	70	94	136	105
その他特別選抜	延べ人数	志願者数	8	9	0	1	1	4
		受験者数	8	9	0	1	1	4
		合格者数	2	6	0	0	1	2
		入学者数	2	6	0	0	0	2
	実人数	志願者数	8	9	0	1	1	4
		受験者数	8	9	0	1	1	4
		合格者数	2	6	0	0	1	2
		入学者数	2	6	0	0	0	2
合計	延べ人数	志願者数	2,203	2,310	1,900	1,788	2,009	2,042
		受験者数	2,148	2,235	1,849	1,727	1,954	1,983
		合格者数	677	656	630	707	817	697
		入学者数	155	112	92	117	158	127
	実人数	志願者数	1,571	1,638	1,360	1,276	1,453	1,460
		受験者数	1,545	1,603	1,339	1,249	1,434	1,434
		合格者数	602	576	547	609	702	607
		入学者数	155	112	92	117	158	127

### (2) 入学定員充足率

	2018年度入試	2019年度入試	2020年度入試	2021年度入試	2022年度入試	平均
入学定員	115	115	114	114	114	114
入学定員充足率	1.35	0.97	0.81	1.03	1.39	1.11

## オ 学生確保に向けた具体的な取り組みと見込まれる成果

### ・オープンキャンパスの実施

7月下旬から8月下旬にかけて対面とオンラインでのハイブリッドによるオープンキャンパスを開催している。2020年度及び2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大によるオンラインのみでの開催となったが、2022年度においては対面でも開催した。企画の一つとして工学部課程制特設展示を設け、パネル展示や資料配布、個別相談対応を行った。工学部の展示を行った豊洲キャンパスでの来場者数は、事前予約制による入場者数制限を行ったが、2日間で3,719名が来場した。工学部課程制特設展示は、複数名の教職員を配置して対面による対応を行い、場所も来場者のほぼ全員が通る動線上に設置したことから注目度が高く、認知を広げることができた。

### ・併設校向け大学見学会の実施

2023年2月に併設校生徒・保護者及び教諭に対して独自の説明会を開催した。参加者は455名であり、今後の進路選択に寄与できたと考える。

### ・高校説明会及び高校訪問の実施

専門業者が仲介する高校における模擬授業や工学系等分野の説明、大学紹介を行っている。2022年度は約200校を対象に行っており、認知を広げることができたと考える。また、高校訪問については、専門業者による高校訪問代行サービスなども活用し、約450校に訪問し進路指導担当教員等への広報を行った。

### ・各種広報媒体を利用した学生募集

本学独自媒体及び業者企画の各種媒体により情報発信を行っている。主なものとして、「大学案内パンフレット」の配布、「入試情報サイト SOCIETY」を通じたウェブによる情報発信、専門業者が運営する「受験ポータルサイト」への情報掲載、各種SNSを活用した情報発信を行っている。高校生や保護者はスマートフォン等を通じた情報収集が主流になっていることから、特にウェブを通じた情報発信に力を入れている。これらを通じて認知を広げられると考える。

## (2) 人材需要の動向等社会の要請

### ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

機械工学課程が属する工学部においては、現代社会が抱える様々な課題を自ら発見、解決する工学技術者を養成するため、確かな基礎学力に基づく各専門分野の高い専門能力に加え、工学部内の多彩な専門分野を横断的に学べる新たな教育プログラムにより学際的な思考能力を涵養する。さらに、修得した分野横断的知識に加え、研究を軸とした実践型教育により課題解決能力を高め、様々な課題の本質を捉え、学際的アプローチにより解決する能力を涵養し、持続可能な社会の発展に、多様な価値観と高い倫理観をもって貢献する創造性豊かな人材を養成する。具体的には、卒業までに以下に挙げる能力を持った人材を養成することを教育研究上の目的とする。

- 工学専門教育の修得に必要な基礎学力・教養を身に付けている。(豊かな教養を涵養する学修)
- 工学の専門知識と論理的思考法を体系的に学び、身に付けている。(工学知識の体系的学修)
- 複数分野の知識を修得し、学際的な思考能力を身に付けている。(分野横断的知識の修得)
- 研究を通じ、課題を発見・解決し、未踏分野に挑戦できる力を身に付けている。(創造性の育成)
- 社会の要求、多様な価値観を理解し、他者と協働して主体的に行動できる能力を身に付けている。(他者との共生)

上記を受けて、機械工学課程では、科学技術の現状や社会の要望をグローバルな視点で捉え、環境や感性との調和に配慮しながら、機械工学の学理を用いて有用な機械やシステムを創成できる人材を養成する。具体的には、卒業までに以下のような人材を養成することを教育研究上の目的とする。

- 機械工学に関わる数理知識を用いて機械のメカニズムを理解する能力と、それらを活用して有用な機能を創成できる設計能力を身に付けている。
- 社会や環境との関わりに配慮して機械工学の必要性を常に見直すことができる倫理観および責任感を持ち、グローバルな視点から多面的に科学技術を捉える能力を身に付けている。
- 工学的な問題に対して機械工学の見地から取り組むべき事柄を整理し、与えられた条件の下で様々な分野の知識を関連付けて課題解決に適用できる能力を身に付けている。
- 地球的視野から科学技術の現状を捉えて能動的に考え分析し、社会の発展に向けて行動することができる研究推進能力を身に付けている。
- 多様性を尊重し他者と協調して活動できる能力と、意思疎通を図りながら自らの判断や意見について説明できるコミュニケーション能力を身に付けている。

- 技術的課題の探求に関心を持ち、情報環境等を利用して継続的に自己学修できる能力を身に付けている。

## ② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

機械工学課程の卒業生は、輸送用機器・情報通信機器・汎用機器などの製造業、情報通信産業、鉄道などの運輸業において、開発、設計、研究、生産技術等の職種に携わることにより活躍することが期待される。また、他課程の知識を取り入れることで、複雑化する社会的問題をより効率的・融合的に解決することが期待される。

機械工学課程の母体となる工学部機械工学科、工学部機械機能工学科では、設置以来、学科における人材育成の目的を達成するために、常に教育研究の改善に努めてきたことから、社会からの高い評価と信頼を受けている。このことは学科の卒業生の高い就職率に表れており、工学部機械工学科における卒業生の就職率は、2018年度 98.4%、2019年度 97.1%、2020年度 96.7%、2021年度 97.1%、2022年度 96.6%であった。また、工学部機械機能工学科における就職率は、2018年度 98.6%、2019年度 100.0%、2020年度 98.7%、2021年度 98.2%、2022年度 95.6%であった。本学が育成・輩出した人材が民間企業、官公庁ほか各種団体から確実に評価されて、経年的に高い就職率となっている。

機械工学課程の設置計画においては、社会環境の変化や地域社会の要請を踏まえるとともに、母体となる機械工学科、機械機能工学科における卒業生の進路、また社会的な人材需要を十分に勘案したうえで、機械工学をベースに多様な場において活躍する幅広い職業人の養成を目的として、教育内容を充実させる。さらに他課程の知識を取り入れることで、機械工学と他課程の知識が融合し、複雑化する社会問題に対して柔軟に対応する人材を育成する。以上より、これまでと同等もしくはそれ以上の就職率を見込むことができるものと考えている。

「機械工学課程」の設置にあたり、卒業後の進路や社会の人材需要動向を把握するため、株式会社リクルートホールディングス リクルートワークス研究所が実施している

「大卒求人倍率調査」(<https://www.works-i.com/surveys/adoption/graduate.html>)と

「採用見通し調査」(<https://www.works-i.com/surveys/adoption/forecast.html>)を参照した。

2023年度の「大卒求人倍率調査」によれば、機械工学課程の卒業生の多くが就職すると思われる製造業の求人倍率は2019年3月卒 1.97倍、2020年3月卒 1.97倍、2021年3月卒 1.60倍、2022年3月卒 1.71倍、2023年3月卒 1.81倍であり、新型コロナウイルスの影響で2021年3月卒は一度下落したものの、全期間を通じて1倍を大きく上回っており、全体としては回復傾向にある。また、2019年度から2023年度の新卒者を対象とした「採用見通し調査」によれば、製造業において各年の新卒を対象とした採用数が「増える」と回答した企業数は、「減る」と回答した企業数に対して、コロナ禍による景気感悪化の影響を受けた2022年3月卒以外は上回っており、2023年3月卒では一転して回復を遂げたことから、製造業界の旺盛な採用意欲が窺える。実際、工学部機械工学科への製造業・情報通信業・運輸業に関する求人件数は2018年度 577件、2019年度 675件、2020年度 849件、2021年度 645件、2022年度 1,085件、また、工学部機械機能工学科へは、2018年度 562件、2019年度 668件、2020年度 841件、2021年度 633件、2022年 1,057件と、採用見通し調査と同様

に 2021 年度はコロナ禍による影響がみられるが、全体として増加傾向にある。従って、コロナ禍のような日本全体が急激かつ極端な景気感悪化に直面した状態でも採用意欲は十分であり、今後も同様の堅調さが続くことと予想される。ゆえに、機械工学課程の卒業生に対する人材需要は今後も安定的であると言える。

以上により、これまでの安定した就職実績、人材需要動向、卒業生への十分な求人数から、定員 228 名に対する就職先の確保は可能であると判断する。

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### 資料目次

【資料1】 芝浦工業大学 5 課程の設置に関するアンケート調査報告書



芝浦工業大学5課程の設置に関する  
アンケート調査報告書

【 高校2年生対象 】

令和5年1月

一般財団法人 日本開発構想研究所

目 次

<アンケート調査概要> .....	1
<アンケート調査結果要旨> .....	2
<アンケート回収表> .....	5
<アンケート集計結果> .....	9
○ 単純集計 .....	10
○ クロス集計表（問7の性別内訳） .....	22
○ クロス集計表（問7の高校別学生数内訳） .....	24
<アンケート調査票・リーフレット> .....	27

## <アンケート調査概要>

### 1. アンケート調査の目的

本調査は、学校法人芝浦工業大学において令和6年4月開設予定の5課程への入学意向を把握することを目的とする。

### 2. 調査対象

通学地域を考慮し芝浦工業大学のキャンパスが立地する東京都内及び埼玉県内の高等学校、さらに入学実績を踏まえて神奈川県、千葉県、茨城県、栃木県、群馬県、静岡県的高等学校に在籍する令和4年度の高校2年生を対象にアンケートを実施した。

東京都から22校、神奈川県から16校、千葉県から14校、茨城県から4校、栃木県から4校、埼玉県から17校、群馬県から4校、静岡県から4校、合計85校の高等学校からアンケートを回収した。(回収表はP5～8)

### 3. 調査実施

令和4年10月～12月

### 4. 調査方法

事前に、芝浦工業大学が高等学校の進路指導部に対し、Google フォームを通してアンケート調査協力の可否を確認した。そのうち、承諾が得られた高等学校へ一般財団法人日本開発構想研究所が郵送によりアンケート調査票の配布・回収を行い、集計・分析作業にあたった。

### 5. 回収状況

アンケート回収高校数：85校

アンケート回収枚数：11,246枚

## <アンケート調査結果要旨>

### 【問1：性別（男女）】

回答者の性別は、「男性」が6,636人（59.0%）、「女性」が4,402人（39.1%）、「その他」が192人（1.7%）の構成であった。

### 【問2：現住所（都道府県）】

回答者の現住所について、2,666人（23.7%）が「東京都」に居住し、以下、「埼玉県」が2,471人（22.0%）、「千葉県」が1,664人（14.8%）、「神奈川県」が2,740人（24.4%）、「群馬県」が485人（4.3%）と続いている。

### 【問3：高校卒業後の希望進路】

回答者の希望進路については、進学先としては「大学進学（専門職大学を含む）」が10,747人（95.6%）と最も多く、次いで「専門学校進学」が270人（2.4%）、「短期大学進学（専門職短期大学を含む）」が81人（0.7%）の順に続いている。なお、進学以外では「就職」が76人（0.7%）、「その他」が59人（0.5%）となっている。

（問4以降は、問3で「1 大学進学（専門職大学を含む）」、「2 短期大学進学（専門職短期大学を含む）」、「3 専門学校進学」のいずれかの回答者（11,098人）に対する設問で、「4. 就職」「5. その他」を除く。

### 【問4：現時点の進学希望分野】

回答者の現時点の進学希望分野については、「理系」が7,773人（70.0%）と最も多く、次いで「文系」が2,202人（19.8%）、「文理融合」が510人（4.6%）の順に続いている。「まだ決まっていない」は586人（5.3%）であった。

### 【問5：工学部課程制カリキュラムの3つの特長への興味】

芝浦工業大学工学部の課程制カリキュラムの3つの特長について、5段階評価で興味を尋ねたところ、それぞれ以下の傾向が示された。

『①興味やニーズに応じて、自分の専攻分野と異なる分野の学びを深めることができる。』

## 【資料1】

の特長については、「やや興味がある」が、4,649人(41.9%)と最も多く、次いで「とても興味がある」が2,684人(24.2%)、「どちらでもない」が2,256人(20.3%)の結果であった。

『②他分野の学びについて、一定の条件を満たせば卒業時に副コースの修了認定を受けることができる。』の特長については、「やや興味がある」が、4,257人(38.4%)と最も多く、次いで「どちらでもない」が3,029人(27.3%)、「とても興味がある」が2,207人(19.9%)の結果であった。

『③研究室への配属が3年次から始まり、2年間かけてじっくり卒業研究を進めることができる。』の特長については、「やや興味がある」が、4,035人(36.4%)と最も多く、次いで「どちらでもない」が2,921人(26.3%)、「とても興味がある」が2,302人(20.7%)の結果であった。

### 【問6：工学部5課程への受験意向】

芝浦工業大学が設置予定の工学部5課程への受験意向を尋ねたところ、「受験してみたいと思う」が770人(6.9%)、「受験先の候補の一つとして考える」が3,131人(28.2%)の結果であった。

(問7は、問6で「1 受験してみたいと思う」、「2 受験先の候補の一つとして考える」のいずれかの回答者(3,901人)に対する設問。

### 【問7：工学部5課程への進学意向(第1希望、第2希望、第3希望)】

問6で「1 受験してみたいと思う」、「2 受験先の候補の一つとして考える」のいずれかを選択した回答者(3,901人)のうち、芝浦工業大学の工学部に受験して合格した場合の工学部5課程への進学意向について希望順位別に集計を行った。

第1希望について、「情報・通信工学課程」を進学先を選んだ学生が最も多く、1,409人(36.1%)、次いで「機械工学課程」が891人(22.8%)、「物質化学課程」が700人(17.9%)、「土木工学課程」が490人(12.6%)、「電気電子工学課程」が386人(9.9%)の結果となった。

第1希望の集計において、「機械工学課程」は入学定員228名の約3.9倍、「物質化学課

程」は入学定員 208 名の約 3.4 倍、「電気電子工学課程」は入学定員 208 名の約 1.9 倍、「情報・通信工学課程」は入学定員 218 名の約 6.5 倍、「土木工学課程」は入学定員 104 名の約 4.7 倍の進学意向は把握することができた。

第 2 希望について、「電気電子工学課程」を進学先を選んだ学生が最も多く、1,340 人 (34.4%)、次いで「機械工学課程」が 981 人 (25.1%)、「情報・通信工学課程」が 696 人 (17.8%)、「物質化学課程」が 531 人 (13.6%)、「土木工学課程」が 244 人 (6.3%) の結果となった。

第 3 希望について、「機械工学課程」を進学先を選んだ学生が最も多く、1,212 人 (31.1%)、次いで「電気電子工学課程」が 1,086 人 (27.8%)、「情報・通信工学課程」が 615 人 (15.8%)、「物質化学課程」が 564 人 (14.5%)、「土木工学課程」が 275 人 (7.0%) の結果となった。

<アンケート回収表>

芝浦工業大学5課程の設置に関するアンケート 回収表

県 Code	都道 府県	高校 Code	高校名	ナハリンク*		回収数	回収日
1	東京都	SIT01	山脇学園高等学校	1,015	1,109	95	10/21
1	東京都	SIT03	東京都立江戸川高等学校	9,995	10,112	118	11/30
1	東京都	SIT04	江戸川女子高等学校	6,302	6,418	117	11/11
1	東京都	SIT05	芝浦工業大学附属中学高等学校	5,007	5,223	217	11/7
1	東京都	SIT06	東京都立科学技術高等学校	8,415	8,605	191	11/24
1	東京都	SIT07	東京高等学校	10,169	10,268	100	12/7
1	東京都	SIT08	國學院高等学校	2,851	2,944	94	10/27
1	東京都	SIT09	多摩大学目黒高等学校	5,224	5,314	91	11/7
1	東京都	SIT10	杉並学院高等学校	41	81	41	10/19
1	東京都	SIT11	東京都立杉並高等学校	2,806	2,850	45	10/28
1	東京都	SIT12	日本大学第二高等学校	5,315	5,510	196	11/7
1	東京都	SIT13	東京都立文京高等学校	2,013	2,343	331	10/25
1	東京都	SIT14	豊島学院高等学校	772	858	87	10/20
1	東京都	SIT15	東京都立石神井高等学校	10,934	11,007	74	12/12
1	東京都	SIT16	聖徳学園高等学校	1,315	1,402	88	10/24
1	東京都	SIT17	東京都立多摩科学技術高等学校	1,110	1,314	205	10/21
1	東京都	SIT18	東京都立小平南高等学校	8,104	8,200	97	11/21
1	東京都	SIT19	明治学院東村山高等学校	1	40	40	10/14
1	東京都	SIT20	明法高等学校	6,980	7,129	150	11/15
1	東京都	SIT21	八王子実践高等学校	9,796	9,994	199	11/29
1	東京都	SIT22	東京都立成瀬高等学校	82	352	271	10/19
1	東京都	SIT23	日本大学第三高等学校	9,654	9,795	142	11/29
2	神奈川県	SIT24	神奈川県立新城高等学校	5,895	6,158	264	11/10
2	神奈川県	SIT25	桐光学園高等学校	2,344	2,630	287	10/25
2	神奈川県	SIT26	横浜創英高等学校	353	465	113	10/19
2	神奈川県	SIT27	神奈川県立鶴見高等学校	7,130	7,245	116	11/15
2	神奈川県	SIT28	鶴見大学附属高等学校	466	659	194	10/19
2	神奈川県	SIT29	横須賀学院高等学校	11,008	11,160	153	12/12
2	神奈川県	SIT30	湘南学院高等学校	4,504	4,575	72	11/2
2	神奈川県	SIT31	横浜市立戸塚高等学校	7,610	7,641	32	11/16
2	神奈川県	SIT32	神奈川県立柏陽高等学校	10,529	10,679	151	12/8
2	神奈川県	SIT33	神奈川県立横浜栄高等学校	8,606	8,720	115	11/24
2	神奈川県	SIT34	湘南学園高等学校	660	725	66	10/19
2	神奈川県	SIT35	神奈川県立座間高等学校	6,419	6,673	255	11/11



## 【資料1】

県 Code	都道 府県	高校 Code	高校名	ナパリング		回収数	回収日
2	神奈川県	SIT37	神奈川県立鶴嶺高等学校	3,703	3,835	133	11/1
2	神奈川県	SIT38	平塚学園高等学校	3,836	4,153	318	11/1
2	神奈川県	SIT39	神奈川県立秦野高等学校	4,154	4,308	155	11/1
3	千葉県	SIT40	千葉県立千葉南高等学校	5,511	5,651	141	11/7
3	千葉県	SIT41	敬愛学園高等学校	1,403	1,533	131	10/24
3	千葉県	SIT42	千葉市立千葉高等学校	6,159	6,237	79	11/10
3	千葉県	SIT43	千葉県立我孫子高等学校	8,309	8,414	106	11/24
3	千葉県	SIT44	千葉県立松戸国際高等学校	10,113	10,168	56	12/7
3	千葉県	SIT45	昭和学院高等学校	726	771	46	10/19
3	千葉県	SIT46	千葉英和高等学校	2,945	3,009	65	10/37
3	千葉県	SIT47	千葉県立柏南高等学校	4,576	4,647	72	11/2
3	千葉県	SIT48	芝浦工業大学柏中学高等学校	3,010	3,192	183	10/27
3	千葉県	SIT49	東京学館浦安高等学校	3,193	3,341	149	10/27
3	千葉県	SIT50	千葉敬愛高等学校	1,534	1,641	108	10/24
3	千葉県	SIT51	千葉県立成田国際高等学校	4,309	4,397	89	11/1
3	千葉県	SIT52	銚子市立銚子高等学校	8,721	8,973	253	11/24
3	千葉県	SIT53	千葉県立安房高等学校	10,680	10,763	84	12/13
4	茨城県	SIT54	江戸川学園取手高等学校	9,501	9,653	153	11/29
4	茨城県	SIT55	茨城県立古河第三高等学校	6,238	6,301	64	11/10
4	茨城県	SIT56	茨城県立下館第一高等学校	3,342	3,422	81	10/27
4	茨城県	SIT57	鹿島学園高等学校	1,642	1,675	34	10/24
5	栃木県	SIT58	文星芸術大学附属高等学校	9,360	9,429	70	11/29
5	栃木県	SIT59	栃木県立矢板東高等学校	9,430	9,500	71	11/29
5	栃木県	SIT60	白鷗大学足利高等学校（富田校舎）	9,270	9,359	90	11/29
5	栃木県	SIT61	栃木県立栃木翔南高等学校	3,423	3,503	81	10/27
6	埼玉県	SIT62	埼玉栄高等学校	6,674	6,785	112	11/11
6	埼玉県	SIT63	さいたま市立大宮北高等学校	7,935	8,103	169	11/18
6	埼玉県	SIT64	川口市立高等学校	4,648	5,006	359	11/2
6	埼玉県	SIT65	浦和実業学園高等学校	9,159	9,269	111	11/29
6	埼玉県	SIT66	浦和学院高等学校	859	1,014	156	10/20
6	埼玉県	SIT67	埼玉県立越ヶ谷高等学校	7,642	7,763	122	11/16
6	埼玉県	SIT68	埼玉県立越谷南高等学校	8,201	8,308	108	11/21
6	埼玉県	SIT69	叡明高等学校	2,631	2,805	175	10/25
6	埼玉県	SIT70	埼玉県立杉戸高等学校	7,246	7,316	71	11/15
6	埼玉県	SIT71	花咲徳栄高等学校	6,786	6,914	129	11/11
6	埼玉県	SIT72	川越東高等学校	1,676	1,787	112	10/24

県 Code	都道 府県	高校 Code	高校名	ナパリング		回収数	回収日
6	埼玉県	SIT73	埼玉県立朝霞高等学校	7,317	7,609	293	11/15
6	埼玉県	SIT74	東京農業大学第三高等学校	3,504	3,623	120	10/27
6	埼玉県	SIT75	埼玉県立松山高等学校	4,398	4,503	106	11/1
6	埼玉県	SIT76	埼玉県立所沢西高等学校	3,624	3,702	79	10/28
6	埼玉県	SIT77	埼玉県立熊谷高等学校	10,391	10,528	138	12/8
6	埼玉県	SIT78	本庄第一高等学校	1,788	1,850	63	10/24
7	群馬県	SIT79	高崎市立高崎経済大学附属高等学校	10,269	10,390	122	12/8
7	群馬県	SIT80	群馬県立太田高等学校	1,851	2,012	162	10/24
7	群馬県	SIT81	群馬県立館林高等学校	6,915	6,979	65	11/11
7	群馬県	SIT82	群馬県立前橋南高等学校	5,803	5,894	92	11/8
8	静岡県	SIT83	静岡県立沼津西高等学校	5,652	5,802	151	11/7
8	静岡県	SIT84	静岡県立韮山高等学校	7,764	7,934	171	11/16
8	静岡県	SIT85	静岡県立富士高等学校	10,764	10,933	170	12/13
8	静岡県	SIT86	静岡学園高等学校	11,161	11,246	86	12/12
2	神奈川県	SIT87	横浜隼人高等学校	8,974	9,158	185	11/24
					計	11,246 枚	85 校

## 回収状況

高校所在地	回収校数	回収票数
東京都	22 校	2,989 票
埼玉県	17 校	2,423 票
神奈川県	16 校	2,609 票
千葉県	14 校	1,562 票
茨城県	4 校	332 票
群馬県	4 校	441 票
栃木県	4 校	312 票
静岡県	4 校	578 票
計	85 校	11,246 票

＜アンケート集計結果＞

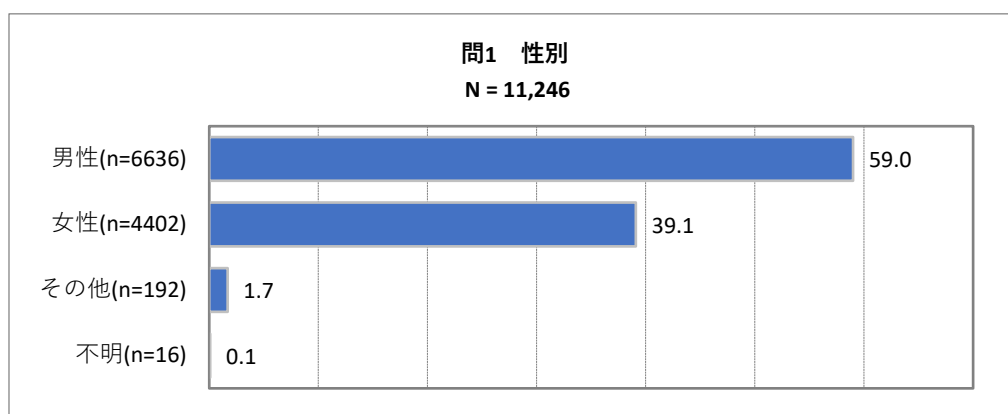
## 芝浦工業大学5課程の設置に関するアンケート調査結果 単純集計

〔有効回答票：11,246票〕

※「%」はいずれも小数点第二位を四捨五入

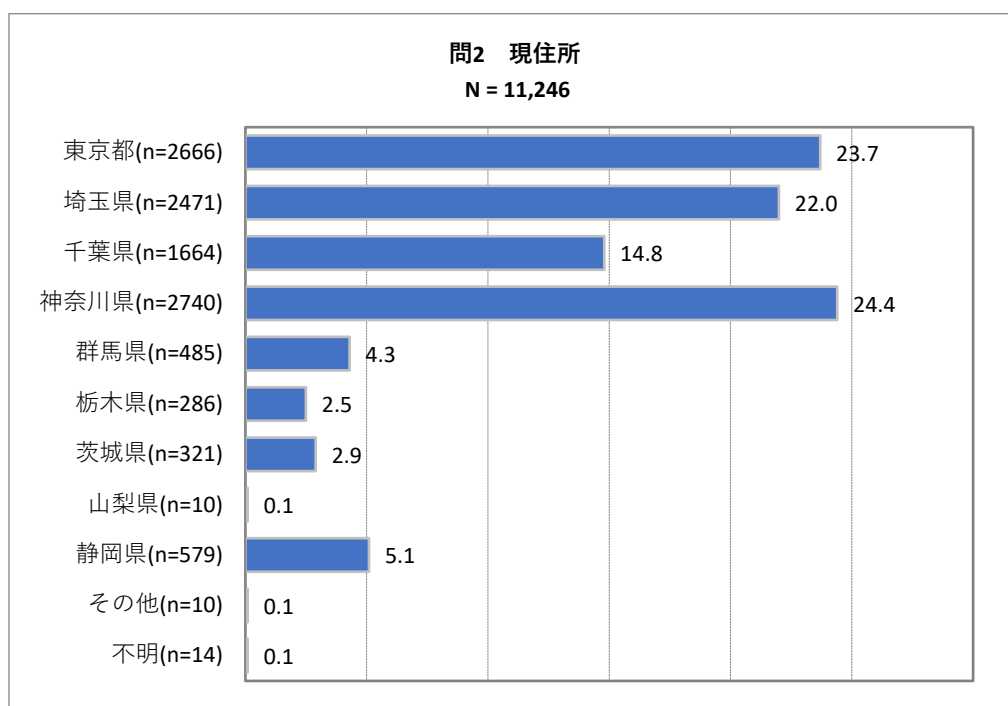
問1 あなたの性別を選んでください。

No.	カテゴリ	件数	%
1	男性	6,636	59.0
2	女性	4,402	39.1
3	その他	192	1.7
	不明	16	0.1
	N (%ベース)	11,246	100



問2 あなたの現住所を選んでください。次の中から1つだけを選んでください。

No.	カテゴリ	件数	%
1	東京都	2,666	23.7
2	埼玉県	2,471	22.0
3	千葉県	1,664	14.8
4	神奈川県	2,740	24.4
5	群馬県	485	4.3
6	栃木県	286	2.5
7	茨城県	321	2.9
8	山梨県	10	0.1
9	静岡県	579	5.1
10	その他	10	0.1
	不明	14	0.1
	N (％ベース)	11,246	100

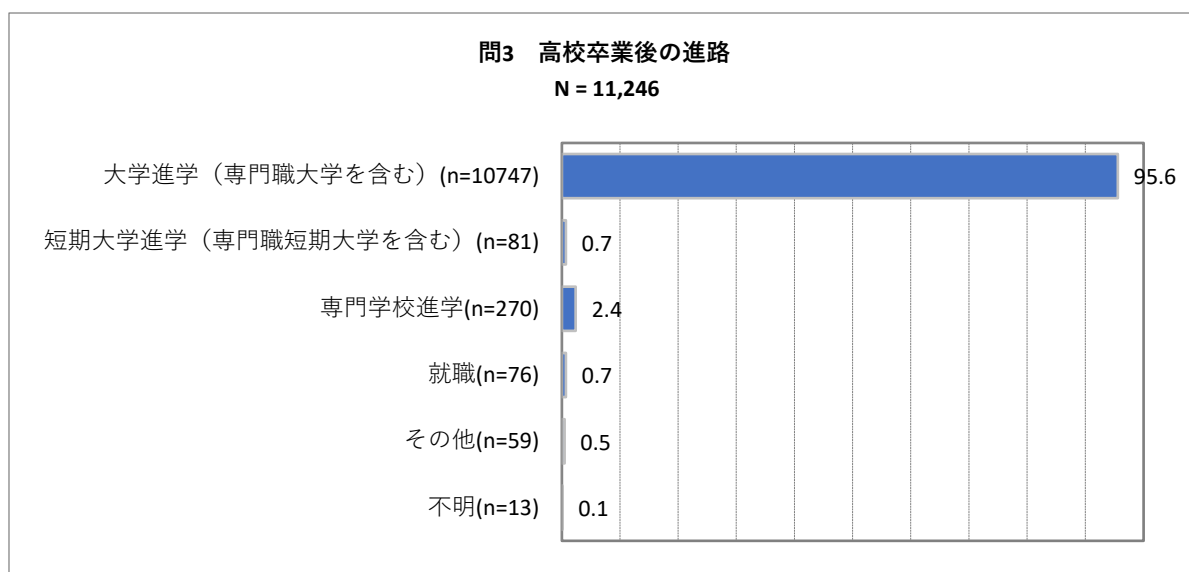


(問2「10 その他」の回答)

回答	件数
北海道	2
長野県	1
沖縄県	2

問3 あなたは高校卒業後どのような進路をお考えですか。次の中から1つだけ選んでください。

No.	カテゴリ	件数	%
1	大学進学（専門職大学を含む）	10,747	95.6
2	短期大学進学（専門職短期大学を含む）	81	0.7
3	専門学校進学	270	2.4
4	就職	76	0.7
5	その他	59	0.5
	不明	13	0.1
	N（%ベース）	11,246	100



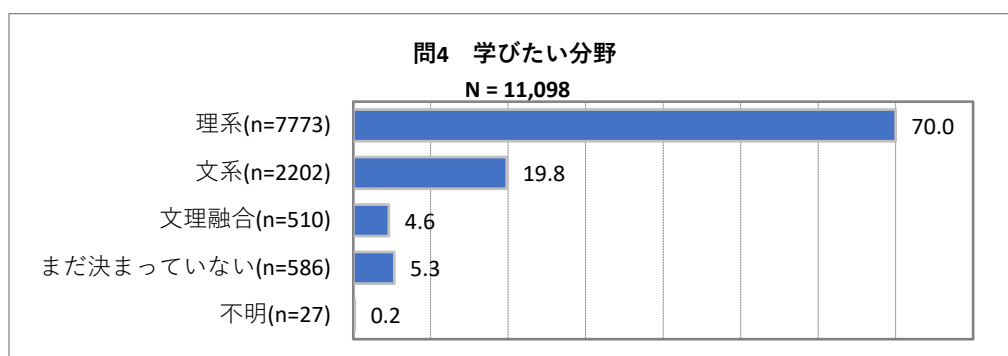
（問2「5 その他」の回答）

回答	件数
未定	4

(問4以降は、問3で「1 大学進学(専門職大学を含む)」、「2 短期大学進学(専門職短期大学を含む)」、「3 専門学校進学」のいずれかの回答者(11,098人)に対する設問で、「4. 就職」「5. その他」を除く。

問4 あなたが現時点において進学先で学びたいと考えている分野はどれですか。  
次の中から1つだけ選んでください。

No.	カテゴリ	件数	%
1	理系	7,773	70.0
2	文系	2,202	19.8
3	文理融合	510	4.6
4	まだ決まっていない	586	5.3
	不明	27	0.2
	N (%ベース)	11,098	100



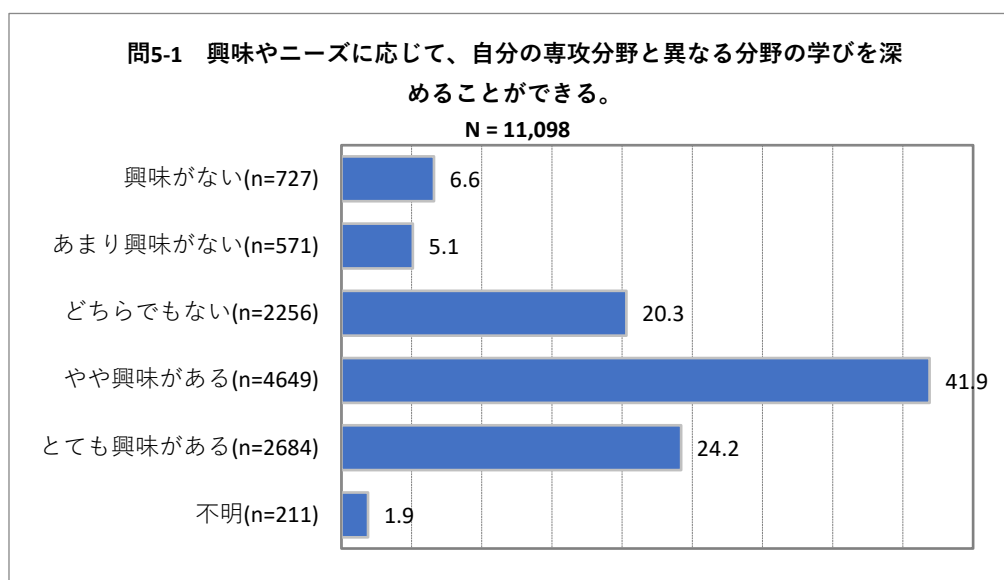


問5 芝浦工業大学工学部の課程制カリキュラムには、次のような特長があります。それぞれの特長について、どの程度興味がありますか。それぞれあてはまる番号に○をつけてください。

芝浦工業大学工学部の課程制カリキュラムの3つの特長について、5段階評価で興味を尋ねたところ、それぞれ以下の傾向が示された。

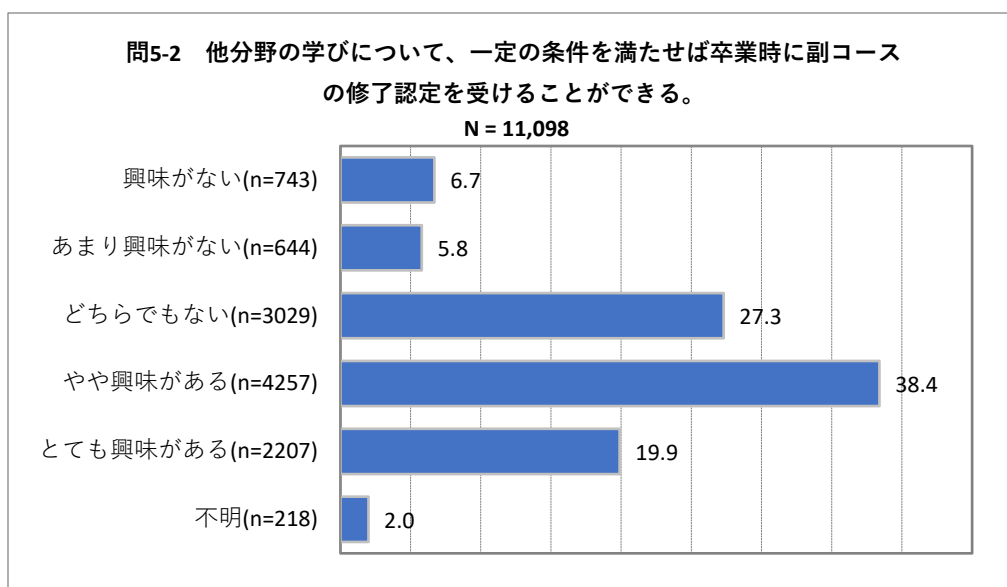
『①興味やニーズに応じて、自分の専攻分野と異なる分野の学びを深めることができる。』の特長については、以下のとおりであった。

No.	カテゴリ	件数	%
1	興味がない	727	6.6
2	あまり興味がない	571	5.1
3	どちらでもない	2,256	20.3
4	やや興味がある	4,649	41.9
5	とても興味がある	2,684	24.2
	不明	211	1.9
	N (%ベース)	11,098	100



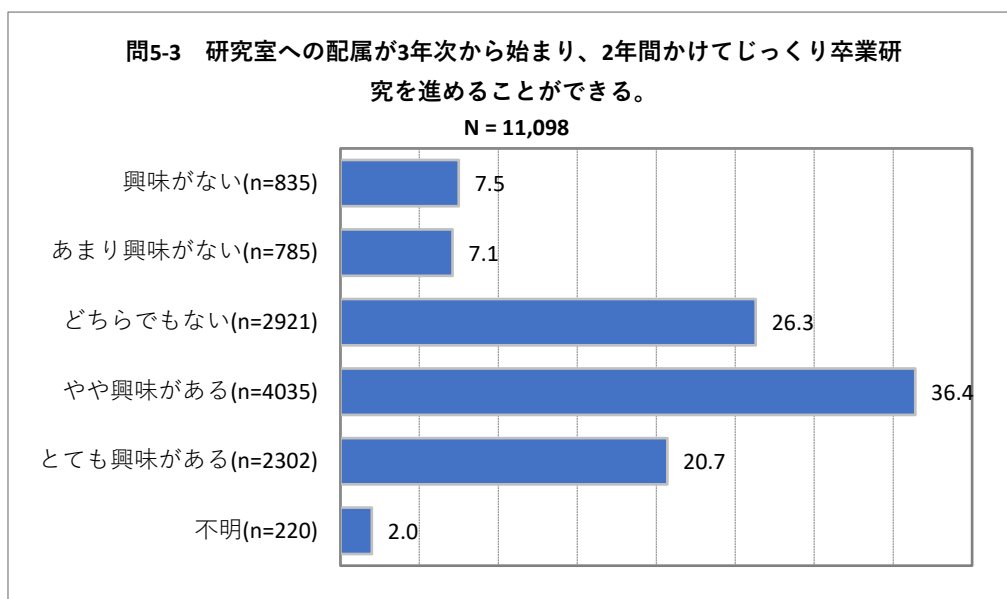
『②他分野の学びについて、一定の条件を満たせば卒業時に副コースの修了認定を受け  
ることができる。』の特長については、以下のとおりであった。

No.	カテゴリ	件数	%
1	興味がない	743	6.7
2	あまり興味がない	644	5.8
3	どちらでもない	3,029	27.3
4	やや興味がある	4,257	38.4
5	とても興味がある	2,207	19.9
	不明	218	2.0
	N (%ベース)	11,098	100



『③研究室への配属が3年次から始まり、2年間かけてじっくり卒業研究を進めることができる。』の特長については、以下のとおりであった。

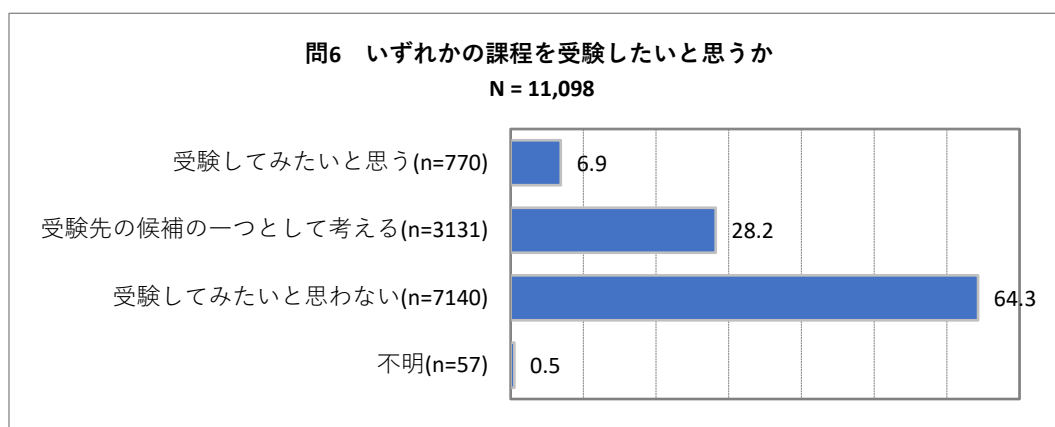
No.	カテゴリ	件数	%
1	興味がない	835	7.5
2	あまり興味がない	785	7.1
3	どちらでもない	2,921	26.3
4	やや興味がある	4,035	36.4
5	とても興味がある	2,302	20.7
	不明	220	2.0
	N (%ベース)	11,098	100



問6 あなたは芝浦工業大学工学部のいずれかの課程を受験したいと思いますか。  
次の中から1つだけ選んでください。

芝浦工業大学が設置予定の工学部5課程への受験意向を尋ねたところ、以下のとおりであった。

No.	カテゴリ	件数	%
1	受験してみたいと思う	770	6.9
2	受験先の候補の一つとして考える	3,131	28.2
3	受験してみたいと思わない	7,140	64.3
	不明	57	0.5
	N (%ベース)	11,098	100



(問7は、問6で「1 受験してみたいと思う」、「2 受験先の候補の一つとして考える」のいずれかの回答者(3,901人)に対する設問。

問7 芝浦工業大学工学部では、下記の課程の設置を予定しています。受験して合格した場合、どの課程に進学したいと思いますか？ 次の1～5の中から第3希望まで選んでください。

問6で「1 受験してみたいと思う」、「2 受験先の候補の一つとして考える」のいずれかを選択した回答者(3,901人)のうち、芝浦工業大学の工学部に受験して合格した場合の工学部5課程への進学意向について希望順位別に集計を行った。

第1希望について、「情報・通信工学課程」を進学先に選んだ学生が最も多く、1,409人(36.1%)、次いで「機械工学課程」が891人(22.8%)、「物質化学課程」が700人(17.9%)、「土木工学課程」が490人(12.6%)、「電気電子工学課程」が386人(9.9%)の結果となった。

第1希望の集計において、「機械工学課程」は入学定員228名の約3.9倍、「物質化学課程」は入学定員208名の約3.4倍、「電気電子工学課程」は入学定員208名の約1.9倍、「情報・通信工学課程」は入学定員218名の約6.5倍、「土木工学課程」は入学定員104名の約4.7倍の進学意向は把握することができた。

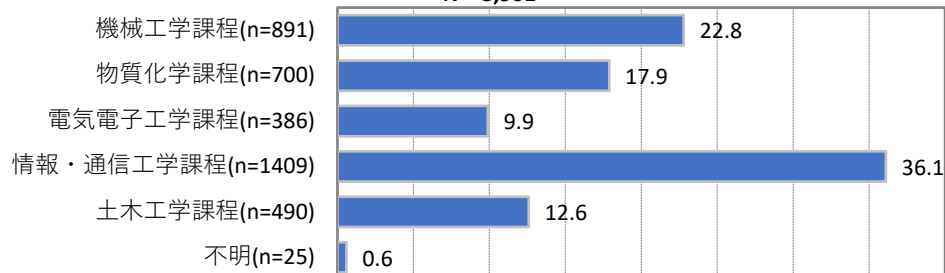
第2希望について、「電気電子工学課程」を進学先に選んだ学生が最も多く、1,340人(34.4%)、次いで「機械工学課程」が981人(25.1%)、「情報・通信工学課程」が696人(17.8%)、「物質化学課程」が531人(13.6%)、「土木工学課程」が244人(6.3%)の結果となった。

第3希望について、「機械工学課程」を進学先に選んだ学生が最も多く、1,212人(31.1%)、次いで「電気電子工学課程」が1,086人(27.8%)、「情報・通信工学課程」が615人(15.8%)、「物質化学課程」が564人(14.5%)、「土木工学課程」が275人(7.0%)の結果となった。

No.	カテゴリ	第1希望		第2希望		第3希望	
		件数	%	件数	%	件数	%
1	機械工学課程	891	22.8	981	25.1	1,212	31.1
2	物質化学課程	700	17.9	531	13.6	564	14.5
3	電気電子工学課程	386	9.9	1,340	34.4	1,086	27.8
4	情報・通信工学課程	1,409	36.1	696	17.8	615	15.8
5	土木工学課程	490	12.6	244	6.3	275	7.0
	不明	25	0.6	109	2.8	149	3.8
	N (%ベース)	3,901	100	3,901	100	3,901	100

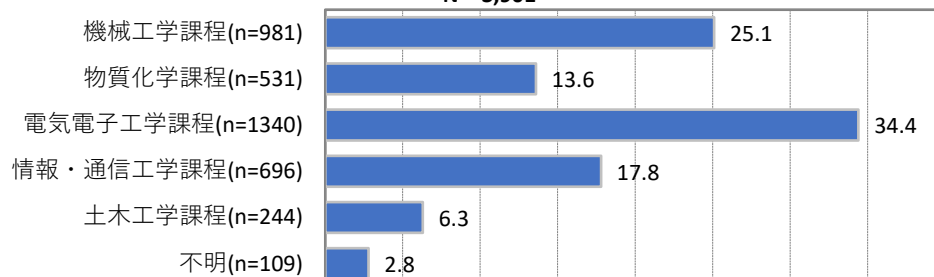
問7-1 どの課程に進学したいと思うか（第1希望）

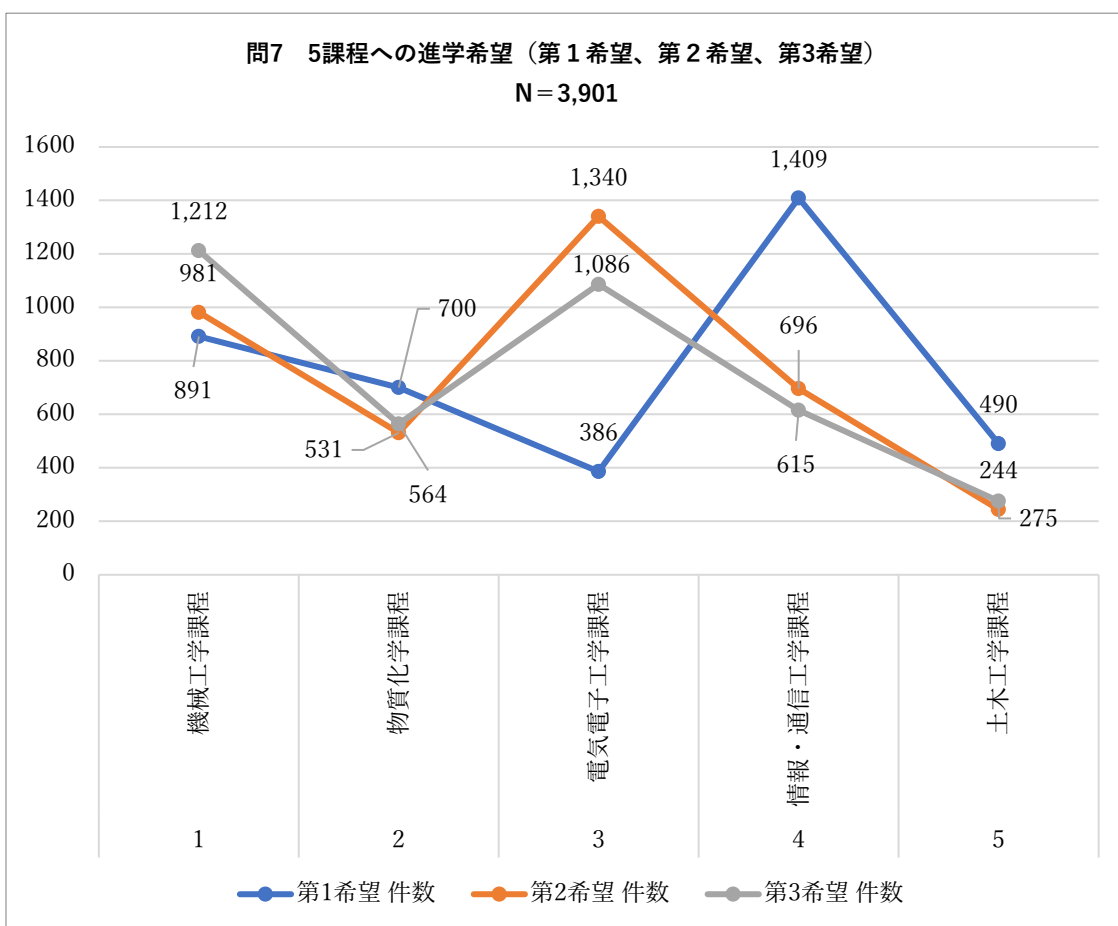
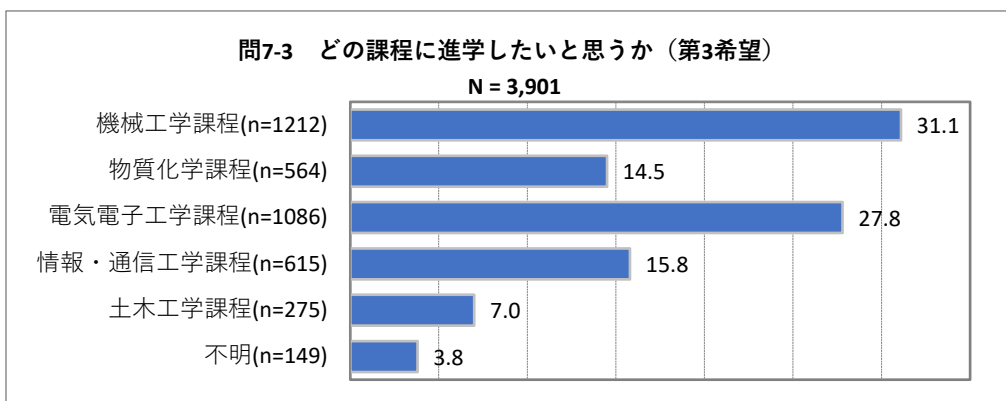
N = 3,901



問7-2 どの課程に進学したいと思うか（第2希望）

N = 3,901





### ○ クロス集計表（問7の性別内訳）

問7の進学希望課程について男女別の内訳を把握するため、希望順位ごとにクロス集計を行った。

問1 性別 × 問7 進学希望課程（第1希望）

上段:度数 下段:%		問1 性別			
		男性	女性	その他	合計
問7-1 どの課程に 進学したいと思うか (第1希望)	機械工学課程	776	107	8	891
		87	12	1	100
	物質化学課程	453	232	15	700
		65	33	2	100
	電気電子工学課程	335	43	8	386
		87	11	2	100
	情報・通信工学課程	1,134	256	19	1,409
	81	18	1	100	
土木工学課程	331	149	9	489	
	68	31	2	100	
全体	3,029	787	59	3,875	
	78	20	2	100	

問1 性別 × 問7 進学希望課程（第2希望）

上段:度数 下段:%		問1 性別			
		男性	女性	その他	合計
問7-2 どの課程に 進学したいと思うか (第2希望)	機械工学課程	791	170	19	980
		81	17	2	100
	物質化学課程	393	127	11	531
		74	24	2	100
	電気電子工学課程	1,111	218	11	1,340
		83	16	1	100
	情報・通信工学課程	524	161	11	696
	75	23	2	100	
土木工学課程	156	83	5	244	
	64	34	2	100	
全体	2,975	759	57	3,791	
	79	20	2	100	



問1 性別 × 問7 進学希望課程 (第3希望)

上段:度数 下段:%		問1 性別			
		男性	女性	その他	合計
問7-3 どの課程に 進学したいと思うか (第3希望)	機械工学課程	944	249	19	1,212
		78	21	2	100
	物質化学課程	457	100	7	564
		81	18	1	100
	電気電子工学課程	853	210	22	1,085
		79	19	2	100
	情報・通信工学課程	488	121	6	615
		79	20	1	100
	土木工学課程	208	64	3	275
		76	23	1	100
	全体	2,950	744	57	3,751
		79	20	2	100

○ クロス集計表（問7の高校別学生数内訳）

問7の進学希望課程を問う設問において、第1希望の課程を回答した学生に着目し、所属する高校を把握するためにクロス集計を行った。また、進学希望者が多い順にソートをかけ整理した。

高校名		問7-1 どの課程に進学したいと思うか（第1希望）					合計
		機械 工学課程	物質 化学課程	電気電子 工学課程	情報・通信 工学課程	土木 工学課程	
1	芝浦工業大学附属中学高等学校	38	30	27	65	24	184
2	桐光学園高等学校	37	19	7	36	18	117
3	芝浦工業大学柏中学高等学校	35	25	6	32	16	114
4	東京都立多摩科学技術高等学校	22	28	5	38	6	99
5	東京都立科学技術高等学校	24	14	9	38	7	92
6	鶴見大学附属高等学校	22	18	8	22	15	85
7	群馬県立太田高等学校	26	14	4	31	7	82
8	川口市立高等学校	8	15	4	38	12	77
9	東京農業大学第三高等学校	16	13	13	24	9	75
10	埼玉県立熊谷高等学校	15	10	3	31	14	73
11	東京都立江戸川高等学校	11	16	5	27	12	71
12	さいたま市立大宮北高等学校	10	6	12	33	8	69
13	平塚学園高等学校	19	8	8	23	8	66
14	江戸川学園取手高等学校	19	4	6	31	6	66
15	川越東高等学校	19	13	7	25	2	66
16	横浜隼人高等学校	23	11	4	22	6	66
17	神奈川県立秦野高等学校	12	10	7	30	6	65
18	豊島学院高等学校	10	9	9	31	2	61
19	静岡県立韮山高等学校	14	10	11	15	11	61
20	横須賀学院高等学校	12	13	4	20	10	59
21	日本大学第二高等学校	19	9	7	14	9	58
22	神奈川県立座間高等学校	18	12	5	17	6	58
23	敬愛学園高等学校	14	6	7	22	9	58
24	東京都立文京高等学校	19	5	3	18	10	55
25	八王子実践高等学校	8	13	8	24	2	55
26	國學院高等学校	9	9	2	24	9	53
27	多摩大学目黒高等学校	16	6	5	17	9	53
28	神奈川県立横浜栄高等学校	12	16	4	15	5	52
29	埼玉県立越ヶ谷高等学校	8	10	4	17	13	52
30	神奈川県立鶴見高等学校	13	9	8	19	2	51

高校名	問 7-1 どの課程に進学したいと思うか (第1希望)						
	機械 工学課程	物質 化学課程	電気電子 工学課程	情報・通信 工学課程	土木 工学課程	合計	
31	埼玉栄高等学校	10	9	2	20	9	50
32	花咲徳栄高等学校	10	13	7	12	8	50
33	東京都立成瀬高等学校	8	12	4	19	6	49
34	埼玉県立松山高等学校	14	8	6	18	3	49
35	埼玉県立朝霞高等学校	9	6	5	24	4	48
36	浦和実業学園高等学校	5	9	6	20	6	46
37	浦和学院高等学校	6	5	8	15	12	46
38	埼玉県立越谷南高等学校	12	3	4	24	3	46
39	神奈川県立新城高等学校	12	11	1	18	3	45
40	日本大学第三高等学校	16	7	2	12	5	42
41	神奈川県立柏陽高等学校	7	16	2	11	6	42
42	叡明高等学校	4	7	4	20	7	42
43	聖徳学園高等学校	7	6	4	18	6	41
44	神奈川県立鶴嶺高等学校	6	5	5	17	8	41
45	静岡県立富士高等学校	7	7	6	13	5	38
46	銚子市立銚子高等学校	10	5	3	12	7	37
47	静岡学園高等学校	7	6	4	16	4	37
48	東京学館浦安高等学校	3	3	6	18	5	35
49	千葉敬愛高等学校	8	3	6	13	5	35
50	白鷗大学足利高等学校 (富田校舎)	4	7	8	14	2	35
51	埼玉県立杉戸高等学校	3	4	1	25	2	35
52	千葉県立我孫子高等学校	8	8	5	8	4	33
53	千葉県立成田国際高等学校	10	6	1	10	6	33
54	埼玉県立所沢西高等学校	5	6	5	12	5	33
55	東京高等学校	7	8	4	9	4	32
56	茨城県立古河第三高等学校	4	6	2	13	7	32
57	栃木県立矢板東高等学校	6	12	2	9	3	32
58	横浜創英高等学校	5	7	2	14	3	31
59	栃木県立栃木翔南高等学校	5	9	1	9	6	30
60	東京都立石神井高等学校	9	4	1	9	6	29
61	千葉市立千葉高等学校	13	6	0	9	1	29
62	高崎市立高崎経済大学附属高等学校	6	4	4	10	5	29
63	東京都立杉並高等学校	9	4	4	9	2	28
64	湘南学園高等学校	8	8	3	6	3	28

高校名	問 7-1 どの課程に進学したいと思うか (第1希望)						
	機械 工学課程	物質 化学課程	電気電子 工学課程	情報・通信 工学課程	土木 工学課程	合計	
65	茨城県立下館第一高等学校	9	7	0	9	3	28
66	山脇学園高等学校	7	6	3	7	4	27
67	千葉県立松戸国際高等学校	5	7	6	4	3	25
68	明法高等学校	7	4	3	7	3	24
69	江戸川女子高等学校	5	8	2	4	4	23
70	千葉英和高等学校	8	2	1	9	3	23
71	千葉県立安房高等学校	8	5	0	7	3	23
72	群馬県立前橋南高等学校	6	5	2	8	2	23
73	千葉県立柏南高等学校	6	0	1	12	3	22
74	本庄第一高等学校	5	5	2	8	2	22
75	千葉県立千葉南高等学校	5	3	6	5	2	21
76	昭和学院高等学校	9	1	3	6	1	20
77	群馬県立館林高等学校	4	2	3	8	2	19
78	静岡県立沼津西高等学校	2	6	3	4	2	17
79	東京都立小平南高等学校	2	3	2	7	2	16
80	湘南学院高等学校	1	4	1	5	4	15
81	明治学院東村山高等学校	1	5	2	5	1	14
82	文星芸術大学附属高等学校	4	2	3	3	1	13
83	杉並学院高等学校	4	2	2	1	1	10
84	鹿島学園高等学校	1	2	1	2	0	6
85	横浜市立戸塚高等学校	1	0	0	3	0	4
全体		891	700	386	1,409	490	3,876

<アンケート調査票・リーフレット>

芝浦工業大学工学部5課程の設置に係るアンケート調査票（無記名式）  
 〈回答した内容によって将来の進路が制限されることはありません〉

芝浦工業大学工学部は、2024年4月に学科制から新しい教育組織である課程制に移行することを計画しています。このアンケート調査は再編の基礎資料にするため、高校2年生のみなさんを対象に実施するものです。ぜひご協力をお願いいたします。なお、このアンケート結果は上記目的以外に利用することはありません。

【芝浦工業大学 工学部 課程制の概要】 ※現時点の予定であり、変更する可能性があります。

開設課程	機械工学課程 (入学定員 228名)	9 学科から 5 課程へ	機械工学科、機械機能工学科			
	物質化学課程 (入学定員 208名)		材料工学科、応用化学科			
	電気電子工学課程 (入学定員 208名)		電気工学科、電子工学科			
	情報・通信工学課程 (入学定員 218名)		情報通信工学科、情報工学科			
	土木工学課程 (入学定員 104名)		土木工学科			
開設時期	2024年4月					
キャンパス	1, 2年次: 大宮キャンパス JR宇都宮線「東大宮駅」スクールバス5分(または徒歩16分) 3, 4年次: 豊洲キャンパス 東京メトロ有楽町線「豊洲駅」徒歩7分					
学費		1年次	2年次	3年次	4年次	4年間合計
	入学金	280,000	0	0	0	280,000
	授業料	1,199,000	1,199,000	1,299,000	1,299,000	4,996,000
	維持料	283,000	283,000	283,000	283,000	1,132,000
	計	1,762,000	1,482,000	1,582,000	1,582,000	6,408,000

【参考】本学と近隣の類似する大学・学部（一部抜粋）

東京理科大学（工学部、理工学部、先進工学部）、明治大学（理工学部）、青山学院大学（理工学部）  
 上智大学（理工学部）、中央大学（理工学部）、法政大学（理工学部）、工学院大学（工学部、情報学部、先進工学部）  
 東京都市大学（理工学部、情報工学部、環境学部、メディア情報学部、都市生活学部）  
 東京電機大学（工学部、理工学部、未来科学部、システムデザイン工学部）

-----以下の設問にお答えください（裏面にも設問があります）-----

（回答は該当する番号を[回答欄]にご記入ください）

[ 回答欄 ]

問1 あなたの性別を選んでください。

- 1 男性      2 女性      3 その他

問2 あなたの現住所を選んでください。次の中から1つだけを選んでください。

- 1 東京都      2 埼玉県      3 千葉県      4 神奈川県  
 5 群馬県      6 栃木県      7 茨城県      8 山梨県  
 9 静岡県      10 その他（                      道・府・県）

問3 あなたは高校卒業後どのような進路をお考えですか。次の中から1つだけを選んでください。

- |                               |   |                         |   |                      |
|-------------------------------|---|-------------------------|---|----------------------|
| 1 大学進学（専門職大学を含む）              | } | 1～3の方は問4以降の質問に回答してください。 | } | <input type="text"/> |
| 2 短期大学進学（専門職短期大学を含む）          |   |                         |   |                      |
| 3 専門学校進学                      |   |                         |   |                      |
| 4 就職                          | } | 4、5の方は問8の質問を回答してください。   |   |                      |
| 5 その他（                      ） |   |                         |   |                      |

裏面にお進みください。



# 2024年度 芝浦工業大学 工学部が変わります

1927年の開校以来、芝浦工業大学は「社会に貢献する技術者の育成」を建学の精神に掲げ、実学重視の教育を展開してきました。2020年代の今、産業構造の変化や社会の複雑化によって、社会で求められる人材像も変化してきています。そこで、時代に合った教育プログラムを提供すべく芝浦工業大学は工学部を再編成。2024年度から学科制から課程制に移行し、「分野融合教育」「研究主軸の実践型教育」「課題発見・解決型人材教育」を教育の柱に据え、新時代を切り開く人材を育成していきます。

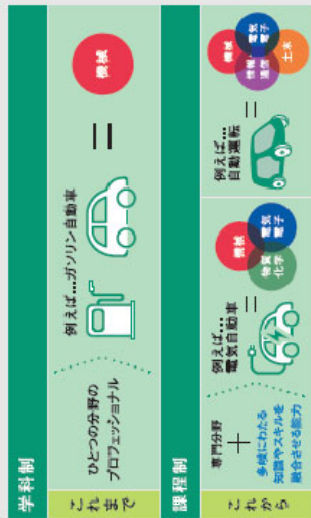
「分野融合教育」  
「研究主軸の実践型教育」  
「課題発見・解決型人材教育」  
を教育の柱に据え、新時代を切り開く人材を育成していきます。



内容は現時点の手定めであり  
変更の可能性が有ります。

## 分野の垣根を超え、工学は新しい時代へ

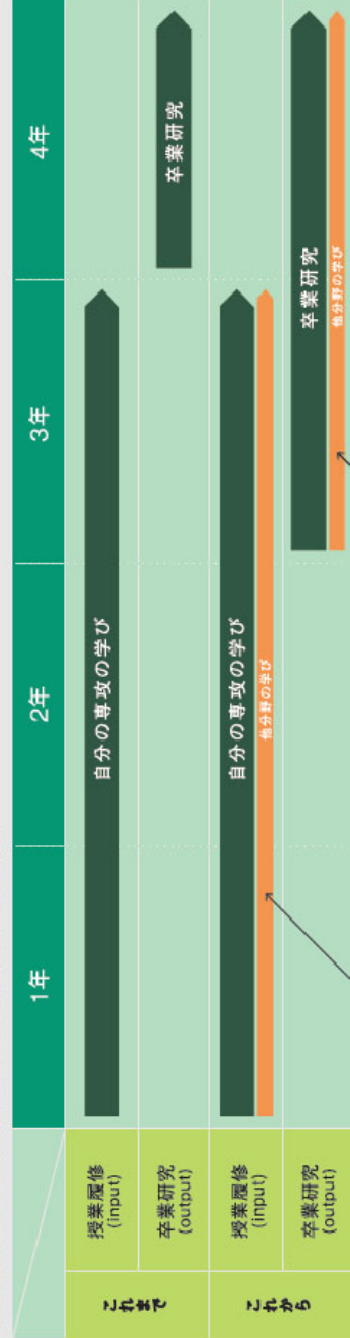
近年、産業構造の変化や社会の複雑化により、社会の諸問題を解決するためには高度の分野の専門知識が必要となってきました。例えば自動車産業ではEV化や自動運転等の技術革新に伴い、機械工学的な知識に加え、他分野の知識の重要性が増しています。今後、このような分野融合の流れがあらゆる業界に波及していくことは間違いありません。



工学部
機械工学科
機械機能工学科
材料工学科
応用化学科
電気工学科
電子工学科
情報通信工学科
情報工学科
土木工学科
先進国際課程*

工学部 (2024年4月改組予定)
機械工学課程 (228名)
物質化学課程 (208名)
電気電子工学課程 (208名)
情報・通信工学課程 (218名)
土木工学課程 (104名)
先進国際課程 (9名)

## こう変わる 課程制工学部の学びの流れ



## 幅広い学びを具現化する分野別科目群と副コース認定制度

課程制工学部では、主専攻の学びに主軸を置きつつも、自らのニーズに合わせて他分野の知識も体系的に学べる自由度の高いカリキュラムを導入します。分野融合カリキュラムの骨幹となるのは「分野別科目群」という仕組み。これは各コースが提供する多様な専門分野を、「AI」や「ロボット工学」などの特定のテーマでグループ化したもので、他の分野を学びたい学生が2コースに合わせた自由に履修することが可能です。分野別科目群を活用すれば、当該分野の体系的な知識を効率よく習得できます。また条件を満たせば副コースの修了認定を受けることもできます。自らの専門性に加え、他分野の知識も有していることを示すことができれば、就職活動等でも有利です。

※副コース認定のためには、一つの科目群から10単位の授業履修および当該分野の研究室における一定の活動（学内研究留学）2単位の合計12単位の履修が必要で、（なお、卒業に必要な単位数は124単位で、副コース履修で得た12単位はこれに含まれます。）  
※副コース認定を履かない場合でも、様々な2コースの分野別科目群を自由に履修することが可能です。  
※自分の専攻分野を細めたいという場合は、他コース科目を履修せず、自身の学びに集中することも可能です。

## 卒業研究は2年間

課程制工学部では、研究室への所属を従来の4年生から3年生に早めました。これにより2年間をかけてじっくり卒業研究に取り組むことができます。早くから研究を行えるメリットは時間の余裕だけではなく、授業と並行して研究に取り組むことで、授業で学んでいることがどのように研究に立立つのかを実感できるため、日々の学びのモチベーションが向上します。また早めに研究テーマが定まれば、取り組みたいテーマから逆算して必要な科目をピンポイントで履修することもできます。さらに副コース認定制度と合わせれば他分野の学びも研究に生かすことが可能です。複数の分野の知見を取り入れた研究を推進できればイノベーション創出につながることもできるでしょう。希望に合わせて他分野の研究室に一定期間「学内留学」ができる制度も設けられています。（学内研究留学）

そこで芝浦工業大学工学部は「学科制」から「課程制」に移行、分野融合型の教育研究を展開しやすい体制へ改組します。さらに研究室への早期所属制度も導入、研究を主軸とした実践型教育を展開することで、現代社会が抱える様々な課題を発見し、そして解決することができる、イノベーションの推進役となる人材を育てていきます。

現 9 学 科 を 5 課 程 ・ 9 コ ー ス

内容は現時点の手定めであり  
変更の可能性が有ります。

※0内の数字は1人学生数です。

※先進国際課程は英語で学位を取得できる課程です。



# 課程・コースの特色

「分野融合教育」は、従来の学問分野を超えて、学際的な知識や技術を統合し、新たな課題を解決するための教育です。

この時代に必要な工学とはなにか。技術者とはなにか。

「分野融合教育」「研究主軸の実践型教育」「課題発見・解決型人材教育」を教育の柱に据え、新時代を切り開く人材を育成していきます。



工学部長  
角田 和彦 教授

### 機械工学課程

**角田 和彦 課程長**

社会の要望をグローバルな視点で捉え、課題や個性との調和に配慮しながら、有用な機械システムを創出し、社会に貢献できる人材を養成します。

**基幹必修コース**  
機械工学の基礎となる力学の体系的知識に基づいて、社会の問題発見・解決に必要な「デザイン思考」能力を、高度な機械システムを学ぶための研究開発能力を育成します。1,2年次は物理・数学の基礎を学ぶことから工学的思考力を身に付け、3,4年次からは研究開発を主軸として実践経験を積んでいきます。

**分業別科目群**  
 <エネルギー・モビリティ>  
 エネルギーの生産や利用、航空機や自動車などの開発に寄与する最先端の課題や現象について学びます。  
 <メカトロニクス・モーションコントロール>  
 航空機や自動車、鉄道をはじめとした様々な機械を駆動させるために設計し、効率よく動作させるための力学と制御を学びます。

**先選必修コース**  
 機械工学の学理応用し、多様な分野の発展に広く貢献できる研究開発能力を持った人材を育成します。1,2年次は機械工学の理論体系を体系的に学びます。3,4年次では、機械工学分野を主軸に、幅広い応用分野および研究開発の知識・スキルを学び、融合型課題の発見・解決に取り組める研究開発能力を身に付けます。

**分業別科目群**  
 <メカニカルエンジニアリング>  
 複雑加工技術、材料、熱処理、微小・微細な物理量の測定や応用、水や波音などの現象と応用を学びます。  
 <バイオロボティクス>  
 機械工学と電子工学、情報工学を融合し、メカトロニクス、ICT分野、生物学や薬工学、持続可能な社会を支える新しい複合材料工学等を学びます。

### 物質化学課程

**野田 和彦 課程長**

環境・物質工学分野、化学・生化学分野の広範囲の知識と経験を活かし、柔軟性と実践性を兼ね備えた、優秀な産業で活躍できる社会の財源となる人材を養成します。

**環境・物質工学コース**  
 物質科学、材料工学、環境化学を軸に学び、サステナブルな新素材を設計・開発できる技術者を養成します。1,2年次は物理・化学等の基礎科学を、2年次以降は環境化学と物質の関係を重視した専門知識を学び、3,4年次は講義・実験・卒業研究を通じて最先端の知識と技術を学びます。

**分業別科目群**  
 <スマート・ナノマテリアル>  
 無機化学、有機化学、高分子化学、生化学など、物質に関与する科学的知識を重視した内容で学びます。  
 <エネルギー・エコマテリアル>  
 エネルギー、環境・環境、材料科学など、物質に関与する科学的知識を重視した内容で学びます。

**化学・生化学コース**  
 無機化学から有機化学、高分子化学、生化学まで、化学の各分野で幅広い教育・研究を展開し、1,2年次は化学の専門知識や基礎的な実験科目を履修し、2,3年次の講義・実験を通じて化学をさらに深く学んでいきます。3,4年次の研究室所属から4年次にかけて論文の発表・執筆を推進します。

**分業別科目群**  
 <分子ナノテクノロジー>  
 有機化学および生化学に関連する内容を学びます。  
 <化学エンジニアリング>  
 無機化学および物理化学に関連する内容を学びます。

### 電気電子工学課程

**吉見 卓 課程長**

高度化する技術と複雑化する産業界に対応し、電気・電子分野の技術者として、かつ主体的に行動できる、人間性豊かな人材を養成します。

**電気・ロボティクスコース**  
 電機・ロボティクス工学の「エネルギー・システム」の基礎を習得し、電力・エネルギー・システム制御・ロボティクス・電気材料、デバイスなどの問題を分析・解決する力を養成します。1,2年次に専門基礎科目、3,4年次に専門応用科目を履修し、広く深く学べる教育体系となっています。

**分業別科目群**  
 <電力・エネルギー>  
 電力システムやパワーエレクトロニクス、電気自動車などの電力・エネルギーシステムに関する技術を学びます。  
 <システム制御・ロボティクス>  
 電力制御やロボティクスのハードウェアと、これらの制御アルゴリズムを学びます。

**先端電子工学コース**  
 ICTの基礎技術である電子工学を総合的に学び、最先端、AIによるロボティクスや応用分野での活用できる能力を身に付けます。1,2年次に電気回路、電磁気学などの基礎を履修し、3,4年次に物性デバイス、知識基盤型科目・専門知識科目、メカトロニクス・システムなどの専門分野を学びます。

**分業別科目群**  
 <ナノエレクトロニクスデバイス>  
 最先端技術である物性・電子デバイスについて学びます。  
 <情報・バイオエレクトロニクス>  
 最先端の応用のために電子回路、情報通信について学びます。

### 情報・通信工学課程

**木村 昌巨 課程長**

数理的な基礎学力と情報・通信に関する専門的知識を兼ね、どんな時代でも通用する普遍的な知識を備えた人材を養成します。

**情報通信コース**  
 情報通信の基礎技術（ソフトウェアとハードウェア）の両面から体系的に学び、情報処理、回線、信号処理、計測、電磁気、通信ネットワーク、マルチメディアを学び、実験・演習科目では、ネットワークの構築や分析に関するプログラミング、光・無線通信回線の動作と評価実験等を行います。

**分業別科目群**  
 <情報ネットワーク工学>  
 インターネットの基礎となるネットワーク理論、ネットワーク通信方式、ソフトウェア技術などを学びます。  
 <情報通信システム工学>  
 情報通信システムをハードウェア面で支える光・無線・音響などに関するデバイス技術を学びます。

**情報工学コース**  
 ソフトウェア、ハードウェア、人工知能、ヒューマン・コミュニケーション等の情報技術、および、その応用となるコンピュータサイエンスを学びます。豊富な課題に加え、プログラミングやシステム開発を行う多様な多様な課題を履修し、最先端技術の発展・創造を推進する力を身に付けます。

**分業別科目群**  
 <情報知能ソフトウェア>  
 人工知能、データ解析、プログラミング言語、アルゴリズムなど、ソフトウェア開発の基礎と応用を学びます。  
 <情報知能システム>  
 画像処理、IoTなど、ハードウェアとソフトウェアを組み合わせて人やシステムを実現する技術を学びます。

### 土木工学課程

**伊代田 岳史 課程長**

社会基幹システムを「自然」「元」の観点から大域的に捉え、グローバルな視点を持って持続可能な社会の発展に貢献できる、創造性と責任感、リーダーシップを持った人材を養成します。

**都市・環境コース**  
 都市は、自然環境による基本的な秩序や交通流通、社会インフラの老朽化、少子高齢化といった課題が複雑に重なりあっています。より高度な都市づくりには、自然や社会を尊重し、理解するインフラの建設技術のみならず、自然や社会を尊重し理解する能力や、複雑な問題を分析し、解決策を提案する能力が必要です。

**分業別科目群**  
 <都市・交通・環境情報>  
 都市における人間活動に着目し、交通渋滞緩和や鉄道混雑緩和、都市のスマート化に関する課題発見・解決に取り組めます。  
 <都市・環境・レジリエンス>  
 都市環境と防災に着目し、水環境や環境変動、土砂災害、地震災害、気候化に関する課題発見・解決に取り組めます。  
 <設計・材料・維持管理>  
 構造物設計・施工や社会基幹システムに着目し、社会インフラの整備・維持管理に関する課題発見・解決に取り組めます。

### キャンパス紹介

**1・2年次 大宮キャンパス**

環境にやさしい「グリーンキャンパス」の愛称で親しまれる、広大な敷地に緑があふれるキャンパス

T 337-8570 埼玉県さいたま市大宮区大宮307  
 アクセス / 大宮駅西口徒歩10分  
 スクールバス4分、または徒歩18分

### キャンパス紹介

**3・4年次 豊洲キャンパス**

注目の湾岸地区の中心地「豊洲」  
 最先端の研究施設を備えた人間力を育む都市型キャンパス

T 135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5  
 アクセス / 豊洲駅西口徒歩7分  
 豊洲駅「豊洲駅」から徒歩15分  
 内京線駅「豊洲駅」から徒歩15分

### 工学部特設サイトがオープン

教職員の見え始め込んだコンセプトムービーをはじめ、学部長からのメッセージ動画、課程別の特徴や魅力を紹介するコンテンツを掲載しています

工学部特設サイトがオープン

工学部特設サイトがオープン

### 工学部 / システム理工学部 / デザイン工学部 / 建築学部

T 135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5  
 TEL 03-5859-7101(入試係人課)  
 https://admission.shibaueh.ac.jp/

**芝浦工業大学**  
 SHIBaura INSTITUTE OF TECHNOLOGY  
 Established 1927

## 教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	ヤマダ ジュン 山田 純 <令和3年4月>		博士 (工学)		芝浦工業大学 学長 (令和3年4月～令和6年3月)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教員の氏名等												
(工学部)												
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に 従事する 週当たり 平均日数
1	専任	教授	アサキ コウシロウ 青木 孝史朗 <令和6年4月>		博士 (工学)		機械材料 機械工学の基礎1 ※ 加工学 機械工学の基礎2 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Mechanical Engineering ※ Advanced Course on Engineering Science & Mechanics ※	1前 1前 2後 2後 3前 3前 4前 4後 1前	2 0.1 2 0.4 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成17.4)	5日
2	専任	教授	ウチムラ ユカ 内村 裕 <令和6年4月>		博士 (工学)		機械工学の基礎1 ※ 機械工学の基礎2 ※ 制御工学1 制御工学2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Mechanical Engineering ※	1前 2後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 1前	0.1 0.4 2 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成19.4)	5日
3	専任	教授	サトウ ヒロユキ 斎藤 寛泰 <令和6年4月>		博士 (工学)		機械工学の基礎1 ※ 機械工学の基礎2 ※ Combustion Engineering 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 熱力学1 Advanced Course on Mechanical Engineering ※ Advanced Course on Engineering Science & Mechanics ※ Combustion Engineering	1前 2後 3後 3前 3後 4前 4後 2前 1前 1後 2前	0.1 0.4 2 2 2 4 4 2 0.1 0.3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.4)	5日
4	専任	教授	サエノ マサト 佐伯 暢人 <令和6年4月>		博士 (工学)		機械工学の基礎1 ※ 機械工学の基礎2 ※ 振動工学2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 振動工学1 Advanced Course on Mechanical Engineering ※	1前 2後 3前 3前 3後 4前 4後 2前・後 1前	0.1 0.4 2 2 2 4 4 2 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.4)	5日
5	専任	教授	サカエ ケンイチ 坂上 賢一 <令和6年4月>		博士 (工学)		機械工学の基礎1 ※ 機械工学の基礎2 ※ 材料設計学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 材料力学1 Advanced Course on Mechanical Engineering ※	1前 2後 3後 3前 3後 4前 4後 1後 1前	0.1 0.4 2 2 2 4 4 2 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成22.4)	5日
6	専任	教授	サトウ タカシ 澤 武一 <令和6年4月>		博士 (工学)		機械工学の基礎1 ※ 機械運動学 機械設計製図1 応用解析学 機械設計製図2 機械工学の基礎2 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	1前 1後 2前 2前 2後 2後 3前 3後 4前 4後	0.1 1 3 2 3 0.4 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成25.4)	5日
7	専任	教授	シライ カツキ 白井 克明 <令和6年4月>		Doktoringenieur (Dr.-Ing.) (ドイツ)		機械工学の基礎1 ※ 機械設計製図1 機械設計製図2 流体力学2 (基幹機械コース) 機械工学の基礎2 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 流体力学1 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Advanced Course on Mechanical Engineering ※ Hydrodynamics	1前 2前 2後 2後 2後 3前 3後 4前 4後 2前 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4前・後 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4前・後 1前	0.3 3 3 2 0.4 2 2 4 4 2 6 6 6 6 6 6 6 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 0.1	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成29.4)	5日

教員の氏名等												
(工学部)												
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に就事する週当たり平均日数
8	専任	教授	ツルギ カズミ 角田 和巳 <令和6年4月>		博士(工学)		社会の中の工学 ※ 機械工学の基礎1 ※ 機械工学の基礎2 ※ 粘性流体力学 エネルギー変換工学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Mechanical Engineering ※	1前 1前 2後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 1前	0.1 0.3 0.4 2 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成5.4)	5日
9	専任	教授	ハムラ シンジ 橋村 真治 <令和6年4月>		博士(工学)		機械工学の基礎1 ※ 材料力学2 (基幹機械コース) 機械工学の基礎2 ※ 材料強度学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Mechanical Engineering ※ Advanced Course on Engineering Science & Mechanics ※	1前 2前 2後 3前 3前 3後 4前 4後 1前 1後	0.1 2 0.4 2 2 2 4 4 0.1 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成25.4)	5日
10	専任	教授	ツカイ ノブユキ 二井 信行 <令和6年4月>		博士(工学)		機械工学の基礎1 ※ 機械設計製図1 機械設計 機械設計製図2 機械工学の基礎2 ※ Mechatronics 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Advanced Course on Mechanical Engineering ※	1前 2前 2前 2後 2後 3前 3前 3後 4前 4後 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4前・後 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4後・前 1前	0.1 3 2 3 0.4 2 2 2 4 4 6 6 6 6 6 6 6 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 0.1	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成25.4)	5日
11	専任	教授	ヤネキ ユウジ 矢作 裕司 <令和6年4月>		博士(工学)		機械工学の基礎1 ※ Thermodynamics 2 機械工学の基礎2 ※ エンジンシステム 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Mechanical Engineering ※	1前 2後 2後 3前 3前 3後 4前 4後 1前	0.1 2 0.4 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成6.4)	5日
12	専任	教授	ニシムラ ツヨシ 西村 強 <令和6年4月>		理学博士		微分積分2 機械工学の基礎1 ※	1後 1前	4 0.1	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成6.4)	5日
13	専任	教授	イノイ ヤスキ 石井 康之 <令和6年4月>		博士(理学)		物理学入門 物理学実験 基礎力学 基礎力学演習 基礎電磁気学 先進機械基礎1 ※ 先進機械基礎2 ※ 研究導入講義2(サテニス・メカニクス) 研究導入演習4 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Mechanical Engineering ※	1前 1, 2前・後 1前 1前 1後 1前 2前 3後 3後 3前 3後 4前 4後 1前	4 6 2 2 2 0.1 0.1 2 2 2 2 4 4 0.1	1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成26.4)	5日
14	専任	教授	オノ ナホ 小野 直樹 <令和6年4月>		博士(工学)		流体力学1 先進機械基礎1 ※ マテリアル・サイエンス 先進機械基礎2 ※ 機械力学 流体力学2 (先進機械コース) 研究導入講義2(ナノ・マイクロ) 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Engineering Science & Mechanics ※	2前 1前 1後 2前 2後 2後 3後 3前 3後 4前 4後 1後	2 0.1 2 0.1 2 2 2 2 4 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成17.4)	5日

教員の氏名等													
(工学部)													
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学の職務に就事する週当たり平均日数	
15	専任	教授	トミカ(ワカサ) コウスケ 富田(若槻) 裕介 <令和6年4月>		博士(理学)		物理学入門 物理学実験 基礎力学 基礎力学演習 基礎電磁気学 先進機械基礎1 ※ 先進機械基礎2 ※ 研究導入講義1(サイエンス・メカニクス) ※ 研究導入演習1 ※ 研究導入講義2(計測工学) ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	1前 1, 2前・後 1前 1前 1後 1前 2前 3前 3前 3後 3前 3後 4前 4後	4 3 4 2 2 0.1 0.1 1 1 1 2 2 4 4	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成24.4)	5日	
16	専任	教授	ナガサキ スミ 長澤 純人 <令和6年4月>		博士(工学)		先進機械基礎1 ※ 先進機械基礎2 ※ メカトロニクス 研究導入講義1(知能機械) 研究導入講義2(生体工学) ※ 研究導入演習3 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Engineering Science & Mechanics ※	1前 2前 2前 3前 3後 3後 3前 3後 4前 4後 1後	0.3 0.3 2 2 1 1 2 2 4 4 0.3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成24.4)	5日	
17	専任	教授	オサキ ナホ 細矢 直基 <令和6年4月>		博士(工学)		振動工学1 先進機械基礎1 ※ 先進機械基礎2 ※ 機械工学概論3 ※ 研究導入演習1 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Advanced Course on Engineering Science & Mechanics ※	2前・後 1前 2前 2後 3前 3前 3前 3後 4前 4後 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4前・後 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4後・前 1後	2 0.1 0.3 1 1 2 2 4 4 6 6 6 6 6 6 6 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 0.3	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成19.4)	5日	
18	専任	教授	マツノ シゲキ 松尾 繁樹 <令和6年4月>		博士(理学)		先進機械基礎1 ※ 機械工学概論2 ※ 先進機械基礎2 ※ 研究導入講義1(計測工学) 研究導入講義1(サイエンス・メカニクス) ※ 研究導入講義2(計測工学) ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Mechanical Engineering ※	1前 2前 2前 3前 3前 3前 3後 4前 4後 1前	0.3 1 0.1 2 1 1 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成26.4)	5日	
19	専任	教授	ヨシハラ ショウイチロウ 吉原 正一郎 <令和6年4月>		博士(工学)		材料力学1 先進機械基礎1 ※ 機械工学概論1 ※ 先進機械基礎2 ※ 材料力学2(先進機械コース) 研究導入演習2 ※ 研究導入演習3 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	1後 1前 1後 2前 2前 3前 3後 3前 3後 4前 4後	2 0.1 1 0.1 2 1 1 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成30.4)	5日	
20	専任	教授	スリ ヨシエ 諏訪 好英 <令和6年4月>		博士(工学)		(研究指導)					芝浦工業大学 工学部 教授 (平成26.4)	5日
21	専任	教授	タケノコ アキラ 高崎 明人 <令和6年4月>		工学博士		先進機械基礎1 ※ マテリアル・サイエンス	1前 1後	0.1 2	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成8.4)	5日	
22	専任	教授	アライ ケン 新井 剛 <令和6年4月>		博士(工学)		環境と化学 環境物質工学入門 ※ 環境物質工学通論 ※ 環境物質科学実験1 環境物質科学実験2 環境物質工学実験1 環境物質工学実験2 リサイクル工学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Materials Science and Engineering ※	1前 1前 2後 3前 3前 3後 3後 3後 3前 3後 4前 4後 1前	2 0.1 0.1 2 2 2 2 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.4)	5日	





教員の氏名等												
(工学部)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
31	専任	教授	マサキ タケヒロ 正木 匡彦 <令和6年4月>		博士 (理学)		環境物質工学入門 ※ 熱力学 無機材料 環境物質工学通論 ※ 環境物質科学実験1 環境物質科学実験2 Phase Transitions in Materials 環境物質工学実験1 環境物質工学実験2 物性物理学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 環境物質基礎実験 Advanced Course on Materials Science and Engineering ※	1前 1後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 3後 3後 3前 3後 4前 4後 2後 1前	0.1 2 2 0.1 2 2 2 2 2 2 4 4 2 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成19.4)	5日
32	専任	教授	マツムラ カズナリ 松村 一成 <令和6年4月>		博士 (工学)		環境物質工学入門 ※ 有機材料 環境物質工学通論 ※ 環境物質科学実験1 環境物質科学実験2 Organic Materials Chemistry 環境物質工学実験1 環境物質工学実験2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Advanced Course on Materials Science and Engineering ※	1前 1後 2後 3前 3前 3前 3後 3後 3前 3後 4前 4後 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4前・後 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4後・前 1前	0.1 2 0.1 2 2 2 2 2 2 2 4 4 6 6 6 6 6 6 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 0.1	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成14.4)	5日
33	専任	教授	ユヅキ アツシ 湯本 敦史 <令和6年4月>		博士 (工学)		環境物質工学入門 ※ 環境物質工学通論 ※ 弾塑性論 環境物質科学実験1 環境物質科学実験2 複合材料 環境物質工学実験1 環境物質工学実験2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Materials Science and Engineering ※	1前 2後 2後 3前 3前 3前 3後 3後 3前 3後 4前 4後 1前	0.1 0.1 2 2 2 2 2 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成22.4)	5日
34	専任	教授	オウチ ユキオ 大口 裕之 <令和6年4月>		Ph. D. in Engineering (アメリカ)		工業化学概論 ※ 無機化学1 分析化学実験 化学工業総論 ※ 無機物質化学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Applied Chemistry ※ Applied Chemistry Laboratory	1前 1後 2前 3後 3後 3前 3後 4前 4後 3前	0.1 2 3 0.1 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (令和2.4)	5日
35	専任	教授	キタノ マサトシ 木戸脇 匡俊 <令和6年4月>		博士 (工学)		工業化学概論 ※ 有機化学 分析化学実験 有機反応論 有機化学実験 有機構造決定法 化学工業総論 ※ 有機合成化学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Applied Chemistry ※ Applied Chemistry Laboratory	1前 1後 2前 2前 3前 3前 3後 3後 3前 3後 4前 4後 3前	0.1 2 3 2 3 2 0.1 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成21.4)	5日
36	専任	教授	キヨノ ヒロシ 清野 肇 <令和6年4月>		博士 (理学)		工業化学概論 ※ 分析化学実験 物理化学実験 無機化学2 セラミックス化学 化学工業総論 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Applied Chemistry ※ Applied Chemistry Laboratory	1前 2前 2後 2後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 3前	0.1 3 2 2 2 0.1 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成23.4)	5日



教員の氏名等												
(工学部)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
37	専任	教授	カノ マトキ 田嶋 稔樹 <令和6年4月>		博士 (工学)		社会の中の工学 ※ 工業化学概論 ※ 物理化学1 分析化学実験 物理化学2 物理化学実験 電気化学 化学工業総論 ※ 応用物理化学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Applied Chemistry ※ Applied Chemistry Laboratory	1前 1前 1前 2前 2前 2後 3前 3後 3後 3前 3前 3後 4前 4後 3前	0.1 0.1 2 3 2 2 2 0.1 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成22.4)	5日
38	専任	教授	カガ ナオミ 永 直文 <令和6年4月>		博士 (工学)		工業化学概論 ※ 生物有機化学 有機化学実験 化学工業総論 ※ 高分子化学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Applied Chemistry ※ Applied Chemistry Laboratory	1前 2前 3前 3後 3後 3前 3後 4前 4後 3前	0.1 2 3 0.1 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成17.4)	5日
39	専任	教授	ノムラ ミヒロ 野村 幹弘 <令和6年4月>		博士 (工学)		工業化学概論 ※ 分析化学 化学工学2 化学工学実験 分離工学 化学工業総論 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Introduction to Applied Chemistry ※ Applied Chemistry Laboratory	1前 1後 2前 2後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4前・後 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4後・前 3前	0.1 2 2 2 2 0.1 2 2 4 4 6 6 6 6 6 6 6 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 0.1	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成18.4)	5日
40	専任	教授	ハマキ ケイ 濱崎 啓太 <令和6年4月>		博士 (工学)		生物化学実験 工業化学概論 ※ 生物化学 応用生物化学 化学分光学 ケミカルバイオロジー基礎 化学工業総論 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Applied Chemistry ※ Applied Chemistry Laboratory	1後 1前 1前 2後 2後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 3前	2 0.1 2 2 2 0.1 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成14.4)	5日
41	専任	教授	イノ ユキコ 堀(武山) 顕子 <令和6年4月>		博士 (工学)		基礎化学 基礎固体化学 化学実験 工業化学概論 ※ 化学結合論 有機化学実験 化学工業総論 ※ 生物無機化学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Applied Chemistry ※	1前 1後 1前・後 1前 1前 3前 3後 3後 3前 3後 4前 4後 3前	6 2 4 0.1 2 3 0.1 2 2 4 4 0.1	3 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成27.4)	5日





教員の氏名等												
(工学部)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
56	専任	教授	ナカノ シンイチロウ 加納 慎一郎 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		電気回路1 電子工学基礎実験 先端技術1 ※ アナログ電子回路2 信号処理回路 先端技術2 ※ 電子工学国際インターンシップ2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Advanced Electronics ※ Experiments in electronic engineering course	1前 2後 2後 2後 3前 3前 2集中 3前 3後 4前 4後 1後 2前	2 2 0.3 2 2 2 2 2 4 4 0.3 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成26.4)	5日
57	専任	教授	コイケ ヨシカズ 小池 義和 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		電気回路2 ものづくり入門 電子工学製作実習 電子工学基礎実験 先端技術1 ※ 電気回路総合 ※ 電子制御工学 先端技術2 ※ 音響システム 電子工学国際インターンシップ2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Advanced Electronics ※ Experiments in electronic engineering course	1後 1後 2前 2後 2後 2後 3前 3前 2集中 3前 3後 4前 4後 1後 2前	2 2 2 2 0.1 1 2 0.1 2 2 2 4 4 0.3 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成12.4)	5日
58	専任	教授	スミ マサヲ 諏訪 将範 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		線形代数1 微分積分1 微分積分2 微分方程式 ベクトル解析 先端技術1 ※ 先端技術2 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	1前 1前 1後 1, 2前・後 2前・後 2後 3前 3前 3後 4前 4後	2 8 4 6 2 0.1 0.1 2 2 4 4 4	1 2 1 3 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.9)	5日
59	専任	教授	ナカムラ トシタ 中村 統太 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		物理学入門 基礎力学および演習 基礎電磁気学および演習 基礎熱統計力学 基礎熱統計力学演習 相対論と量子論の基礎 物理学実験 基礎電磁気学 先端技術1 ※ 先端技術2 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	1前 1後 1後 2前 2前 2後 1, 2前・後 1後 2後 3前 3前 3後 4前 4後	4 4 4 2 2 2 3 2 0.1 0.1 2 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成16.4)	5日
60	専任	教授	フレマチャンドラ チンカ Chinthaka Premachandra ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		電気数学1 電子工学基礎実験 先端技術1 ※ 電子工学倫理 情報理論 先端技術2 ※ 電子工学国際インターンシップ4 電子工学国際インターンシップ5 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Introduction to Advanced Electronics ※	1前 2後 2後 3前 3前 3前 1集中 1集中 3前 3後 4前 4後 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4前・後 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4後・前 1後	2 2 0.1 2 2 0.1 2 2 2 4 4 6 6 6 6 6 6 6 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 0.3	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成28.4)	5日
61	専任	教授	ムラカミ カコ 村上 嘉代子 ＜令和6年4月＞		博士 (情報科学)		Reading&Writing1 Reading&Writing2 Listening&Speaking1 工学英語1 工学英語2 TOEIC 先端技術1 ※ 先端技術2 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	1前 2後 1後 2前 2後 1前・後 2後 3前 3前 3後 4前 4後	4 2 4 2 2 2 2 0.1 0.1 2 2 4 4	2 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成22.4)	5日

教員の氏名等												
(工学部)												
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
62	専任	教授	ヤマガチ マサキ 山口 正樹 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		社会の中の工学 ※ 電子物性 電子デバイス 電子材料基礎 電子工学基礎実験 先端技術1 ※ 電子物性基礎 半導体工学 先端技術2 ※ 電子材料評価論 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Advanced Electronics ※ Experiments in electronic engineering course	1前 3前 3後 2前 2後 2後 3前 3前 3後 3後 4前 4後 1後	0.1 2 2 2 2 2 0.1 2 2 2 2 4 4 4 0.3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成10.10)	5日
63	専任	教授	ヨイ ヒデキ 横井 秀樹 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		電磁気学1 電磁気学2 先端技術1 ※ 電磁気学総合 ※ 光エレクトロニクス 先端技術2 ※ 電子工学国際インターンシップ2 電子工学国際インターンシップ7 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Advanced Electronics ※ Experiments in electronic engineering course	1後 2前 2後 2後 1 3前 3前 2集中 2集中 3前 3後 4前 4後 1後 2前	2 2 0.1 1 2 0.1 2 2 2 2 4 4 4 0.3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成16.4)	5日
64	専任	教授	ハマノ マチア 浜野 学 ＜令和6年4月＞		博士 (医学)		スポーツ科学実技1 スポーツ科学実技2	1前・後 1前・後	4 4	4 4	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成19.4)	5日
65	専任	教授	カノ カズヨシ 上野 和良 ＜令和6年4月＞		工学博士		電磁気学1	1後	2	1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成18.4)	5日
66	専任	教授	カザリ ユウジ 神澤 雄智 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		社会の中の工学 ※ 情報通信ソフトウェア演習D 情報処理1 情報通信工学概論 ※ 情報通信応用実験A 情報処理2 パターン認識 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Information and Communications Engineering ※ Seminar on Information and Communications Engineering ※	1前 2後 2後 2後 3前 3前 3後 3前 3後 4前 4後 1前 2後	0.1 1 2 0.1 3 2 2 2 4 4 4 0.1 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成12.4)	5日
67	専任	教授	キョウガ コウイチ 行田 弘一 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		情報通信ハードウェア実験A 情報通信ハードウェア実験B 電子回路 情報通信工学概論 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 セキュアネットワーク Introduction to Information and Communications Engineering ※ Seminar on Information and Communications Engineering ※	1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 3後 1前 2後	1 1 2 0.1 2 2 4 4 2 0.1 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.4)	5日
68	専任	教授	ホリエ リョウタ 堀江 亮太 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		情報通信ソフトウェア演習A 情報通信ソフトウェア演習B 電気回路基礎 情報通信工学概論 ※ 電磁気学2 電波工学1 マイクロ波工学 電波工学2 生体情報工学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Information and Communications Engineering ※ Seminar on Information and Communications Engineering ※	1前 1後 1後 2後 3前 3前 3後 3後 3後 3前 3後 4前 4後 1前 2後	1 1 2 0.1 2 2 2 2 2 2 4 4 4 0.3 0.3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成22.4)	5日
69	専任	教授	ホカ マチア 本田(眞鍋) まり ＜令和6年4月＞		修士 (法学)		生命倫理 日本国憲法 法学入門 技術者の倫理 知的財産法 情報通信工学概論 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	1前・後 1前・後 1前・後 1前・後 3前・後 2後 3前 3後 4前 4後	4 2 10 8 4 0.1 2 2 4 4	2 1 5 4 2 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.4)	5日

教員の氏名等												
(工学部)												
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
70	専任	教授	マタノ ケンゴ 前田 健吾 <令和6年4月>		博士(理学)		物理学入門 基礎力学および演習 物理学実験 電磁気学1 情報通信工学概論 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	1前 1後 1, 2前・後 2前 2後 3前 3後 4前 4後	8 8 3 4 0.1 2 2 2 4 4	2 2 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成19.4)	5日
71	専任	教授	マツダ ハルヒデ 松田 晴英 <令和6年4月>		博士(理学)		微分積分1 微分積分2 情報通信数学 情報理論 情報通信工学概論 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	1前 1後 2前 2後 2後 3前 3後 4前 4後	8 8 2 2 0.1 2 2 4 4	2 2 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.4)	5日
72	専任	教授	ムロイ ケンジ 武藤 憲司 <令和6年4月>		博士(情報科学)		論理設計 情報通信工学概論 ※ 情報通信応用実験A 音響工学 情報通信応用実験B 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Information and Communications Engineering ※ Seminar on Information and Communications Engineering ※	1後 2後 3前 3前 3後 3前 3後 4前 4後 1前 2後	2 0.1 3 2 3 2 2 4 4 0.1 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成21.4)	5日
73	専任	教授	モリノ ヒロアキ 森野 博章 <令和6年4月>		博士(工学)		情報通信ソフトウェア演習C 情報通信ネットワーク ネットワーク理論 情報通信工学概論 ※ 情報通信応用実験B 情報通信工学実習 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Information and Communications Engineering ※ Seminar on Information and Communications Engineering ※	2前 2前 2後 2後 3後 1・2・3・4集中 3前 3後 4前 4後 1前 2後	1 2 2 0.1 3 1 2 2 4 4 0.3 0.3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成17.4)	5日
74	専任	教授	タカ シンイチ 田中 慎一 <令和6年4月>		博士(工学)		電磁気学2 マイクロ波工学	3前 3後	2 2	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成21.4)	5日
75	専任	教授	ヒロセ カズヒデ 広瀬 教秀 <令和6年4月>		工学博士		(研究指導)				芝浦工業大学 工学部 教授 (平成19.4)	5日
76	専任	教授	イサギキ ショウ 石崎 聡之 <令和6年4月>		修士(スポーツ健康科学)		スポーツ科学実技1 スポーツ科学実技2 コンディショニング演習 スポーツ健康学 情報工学通論 ※ 卒研プレゼミナール ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering ※ Volleyball (Technical) Soccer (Sports communication)	1前・後 1前・後 1前・後 1前・後 1後 1後 3前 3後 4前 4後 1後 1前 1後	6 6 4 4 0.1 0.1 2 2 4 4 4 0.1 1 1	6 6 2 2 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成22.4)	5日
77	専任	教授	キムラ マサヒ 木村 昌臣 <令和6年4月>		博士(理学)		社会の中の工学 ※ データベース 情報工学通論 ※ 基礎情報演習1B 数値計算法 卒研プレゼミナール ※ データ解析法 情報工学海外実習1 情報工学海外実習2 情報工学海外実習3 情報工学海外実習4 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering ※	1前 3前 1後 2前 2後 2後 3後 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 2前 3前 3後 4前 4後 1後	0.1 2 0.1 2 2 0.6 2 2 2 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成16.4)	5日
78	専任	教授	サノ イチ 籙基 功 <令和6年4月>		博士(工学)		情報工学通論 ※ プログラミング入門2 コンピュータアーキテクチャ プログラミング言語論 卒研プレゼミナール ※ 情報工学実習 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering ※	1後 1後 1後 2後 2後 1・2・3・4集中 3前 3後 4前 4後 1後	0.1 2 2 1 0.1 1 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.10)	5日

教員の氏名等												
(工学部)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
79	専任	教授	シノヰ リョウイチ 新熊 亮一 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		情報工学通論 ※ データ構造とアルゴリズム1 ※ 基礎情報演習1A ※ コンピュータ通信 卒研プレゼミナール ※ 情報ネットワーク 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering ※	1後 2前 2前 2後 2後 3前 3前 3後 4前 4後 1後	0.1 1 1 1 0.1 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (令和3.4)	5日
80	専任	教授	スガノ(シマダ) ミドリ 菅谷(島崎) みどり ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		情報工学通論 ※ オペレーティングシステム 基礎情報演習2B 卒研プレゼミナール ※ 組込みシステム 情報システムプログラミング 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering ※	1後 2前 2後 2後 3前 3後 3後 4前 4後 1後	0.1 2 2 0.1 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成25.4)	5日
81	専任	教授	シノモト トオル 杉本 徹 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		離散数学1 情報工学通論 ※ 数理論理学 基礎情報演習2A ※ データ構造とアルゴリズム2 ※ 卒研プレゼミナール ※ Java応用プログラミング 自然言語処理 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering ※	1前 1後 2前 2後 2後 2後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 1後	2 0.1 1 1 1 0.1 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成18.4)	5日
82	専任	教授	フジタ ヒロアキ 福田 浩章 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		情報工学特論 情報工学通論 ※ 論理回路 形式言語とオートマトン 卒研プレゼミナール ※ 集積回路工学 ソフトウェア開発演習 プログラミング言語処理演習 情報工学海外実習1 情報工学海外実習2 情報工学海外実習3 情報工学海外実習4 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering ※	3後 1後 1後 2後 2後 3前 3前 3後 1,2,3,4集中 1,2,3,4集中 1,2,3,4集中 1,2,3,4集中 3前 3後 4前 4後 1後	1 0.6 2 2 0.1 2 3 3 2 2 2 4 4 0.4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成23.4)	5日
83	専任	教授	マツハラ リョウタ 松原 良太 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		線形代数1 線形代数2 微分積分1 微分積分2 確率と統計1 情報工学通論 ※ 離散数学2 卒研プレゼミナール ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering ※	1前 1後 1前 1後 1後 1前・後 1後 1後 2後 3前 3後 4前 4後 1後	2 2 8 4 2 0.1 2 0.1 2 2 4 4 0.1	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成22.4)	5日
84	専任	教授	マヘ ヒロユキ 真鍋 宏幸 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		プログラミング入門1 情報工学通論 ※ H. C. インタラクション 信号処理 卒研プレゼミナール ※ ソフトウェア工学 情報工学海外実習1 情報工学海外実習2 情報工学海外実習3 情報工学海外実習4 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering ※ Interaction Design ※	1前 1後 2前 2前 2後 3前 3前 1,2,3,4集中 1,2,3,4集中 1,2,3,4集中 1,2,3,4集中 3前 3後 4前 4後 1後 1前	2 0.1 2 2 0.1 2 2 2 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成31.4)	5日
85	専任	教授	ウヰキ ミヨシ 宇佐美 公良 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		情報工学通論 ※ コンピュータアーキテクチャ	1前 1後	0.1 2	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成15.4)	5日
86	専任	教授	ナカジマ ユウジ 中島 毅 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		情報工学通論 ※	1後	0.1	1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成27.4)	5日
87	専任	教授	ナカムラ ヒロユキ 中村 広幸 ＜令和6年4月＞		修士 (社会学)※		情報工学通論 ※	1後	0.1	1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成17.4)	5日
88	専任	教授	ヨシムラ シンイチ 米村 俊一 ＜令和6年4月＞		博士 (国際情報 通信学)		コンピュータ科学序説 情報工学通論 ※ 情報工学実習	1前 1後 1,2,3,4集中	2 0.1 1	1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成24.4)	5日

教員の氏名等												
(工学部)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
89	専任	教授	アノミ ケンゴ 穴見 健吾 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		導入ゼミナール ※ 土木工学総合講義 ※ 構造力学1 構造力学演習 鋼構造学 構造力学2 土木キャリアセミナー ※ 土木設計演習 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Lectures on Civil Engineering ※	1前 2後 2後 2後 3前 3前 3後 3後 3前 3後 4前 4後 1後	0.1 0.1 2 1 2 2 0.1 0.5 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.4)	5日
90	専任	教授	イノグミ シンヤ 稲積 真哉 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		導入ゼミナール ※ 地盤工学1 地盤工学2 土木工学総合講義 ※ 土質実験 ※ 地盤工学演習 土木キャリアセミナー ※ 地盤環境工学 海外土木工学演習1 海外土木工学演習2 海外土木工学演習3 土木工学国際演習1 土木工学国際演習2 土木工学国際演習3 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Lectures on Civil Engineering ※ Soil Mechanics	1前 1後 2後 2後 3前 3前 3後 3後 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 2 2 4 4 0.1 2前	0.1 2 2 0.1 0.6 1 0.1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 0.1 2	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成29.4)	5日
91	専任	教授	イノカミ セイジ 岩倉 成志 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		導入ゼミナール ※ 土木計画学1 ※ 交通計画 土木工学総合講義 ※ 土木計画学2 土木キャリアセミナー ※ 地域デザイン演習2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Lectures on Civil Engineering ※	1前 1後 2前 2後 3前 3後 3後 3前 3後 4前 4後 1後	0.1 1.4 2 0.1 2 0.1 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成11.4)	5日
92	専任	教授	オカガ (モリタ) ヨシ 岡田(森田) 佳子 ＜令和6年4月＞		修士 (教育学)※		社会心理学 教育心理学 人間関係論 導入ゼミナール ※ 土木と心理学 土木工学総合講義 ※ 社会調査演習 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	1前 1前・後 1後 1前 1後 2後 3前 3前 3後 4前 4後	2 4 4 0.1 2 0.1 0.9 2 2 4 4 4	1 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成22.9)	5日
93	専任	教授	カサキ トシ 勝木 太 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		導入ゼミナール ※ 土木構造物概論 ※ 土木の力学 土木工学総合講義 ※ コンクリート構造学1 コンクリート構造学2 土木キャリアセミナー ※ 土木設計演習 ※ 学外体験学習1 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	1前 1前 2前 2後 2後 3前 3後 3後 2集中 3前 3後 4前 4後	0.1 1.6 2 0.1 2 2 0.1 0.5 1 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成9.4)	5日
94	専任	教授	コノ カツキ 紺野 克昭 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		導入ゼミナール ※ 土木数学1 土木数学2 ※ 土木工学総合講義 ※ 地震防災工学 土木応用実験 ※ 土木キャリアセミナー ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Lectures on Civil Engineering ※	1前 1後 2前 2後 3前 3後 3後 3前 3後 4前 4後 1後	0.1 2 1 0.1 2 1 0.1 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成7.4)	5日
95	専任	教授	ナカガワ ヤサヒ 中川 雅史 ＜令和6年4月＞		博士 (環境学)		導入ゼミナール ※ 土木情報処理 測量学 応用測量学 測量学実習1 土木工学総合講義 ※ 測量学実習2 土木キャリアセミナー ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Lectures on Civil Engineering ※	1前 1後 1後 2前 2前 2後 2後 3後 3前 3後 4前 4後 1後	0.1 2 2 2 2 0.1 2 0.1 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成21.4)	5日









教員の氏名等												
(工学部)												
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学の職務に就事する週当たり平均日数
113	専任	准教授	カミダ ショウ 中村 真吾 <令和6年4月>		博士 (工学)		情報処理概論 C言語入門 データサイエンス演習 先進機械基礎1 ※ 先進機械基礎2 ※ 研究導入演習2 ※ 研究導入講義2(知能機械) ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 情報処理入門	1前・後 1、2前・後 1前・後 1前 2前 3前 3後 3前 3後 4前 4後 1前	6 9 6 0.1 0.1 1 1 2 2 4 4 2	3 3 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (平成24.4)	5日
114	専任	准教授	ヒロセ トモヤ 廣瀬 敏也 <令和6年4月>		博士 (工学)		社会の中の工学 ※ 先進機械基礎1 ※ 機械工学概論2 ※ 先進機械基礎2 ※ 制御工学 研究導入講義1(生体工学) 研究導入講義2(知能機械) ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Engineering Science & Mechanics ※	1前 1前 2前 2前 2後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 1後	0.1 0.3 1 0.3 1 2 1 2 1 4 4 0.3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (平成25.4)	5日
115	専任	准教授	カノ(カノ) マコ 深野(永井) 真子 <令和6年4月>		博士 (スポーツ科学)		スポーツ科学実技1 スポーツ科学実技2 スポーツバイオメカニクス 先進機械基礎1 ※ 先進機械基礎2 ※ 研究導入講義2(生体工学) ※ 研究導入演習4 ※ Biomechanics of human movement Badminton (Technical) Table tennis (Sports communication)	1前・後 1前・後 1前・後 1前 2前 3後 3後 1後 1前 1後	6 6 2 0.1 0.1 1 1 2 1 1 1	6 6 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (平成30.4)	5日
116	専任	准教授	ヨシダ シンヤ 吉田 慎哉 <令和6年4月>		博士 (工学)		先進機械基礎1 ※ 機械工学概論1 ※ 先進機械基礎2 ※ 電気工学 機械工学概論3 ※ 熱力学2 研究導入講義1(ナノ・マイクロ) 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Engineering Science & Mechanics ※	1前 1後 2前 2前 2後 2後 3前 3前 3後 4前 4後 1後	0.1 1 0.1 1 1 2 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (令和4.4)	5日
117	専任	准教授	エドワラ リエ 遠藤 理恵 <令和6年4月>		博士 (工学)		環境物質工学入門 ※ 物質移動論 環境物質工学通論 ※ 環境物質科学実験1 環境物質科学実験2 環境物質工学実験1 環境物質工学実験2 マテリアルインフォマティクス 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Materials Science and Engineering ※	1前 2前 2後 3前 3前 3後 3後 3後 3前 3後 4前 4後 1前	0.1 2 0.1 2 2 2 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (令和4.4)	5日
118	専任	准教授	サカイ(加藤) ミヅキ 櫻井(加藤) みぎ和 <令和6年4月>		博士 (理学)		線形代数1 微分積分1 微分積分2 環境物質工学入門 ※ 環境物質科学実験1 環境物質科学実験2 環境物質工学実験1 環境物質工学実験2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	1前 1前 1後 1前 3前 3前 3後 3後 3前 3後 4前 4後	2 8 12 0.1 2 2 2 2 2 2 4 4	1 2 3 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (平成30.4)	5日
119	専任	准教授	ワタナベ ヨシマサ 渡邊 祥正 <令和6年4月>		博士 (理学)		物理学入門 物理学実験 基礎力学 環境物質工学入門 ※ 環境物質工学通論 ※ 環境物質科学実験1 環境物質科学実験2 環境物質工学実験1 環境物質工学実験2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 電気学1	1前 1、2前・後 1前 1前 2後 3前 3前 3後 3後 3前 3後 4前 4後 2前	4 6 2 0.1 0.1 2 2 2 2 2 2 4 4 4	1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (令和2.4)	5日
120	専任	准教授	カワナ レイ 川嶋 嶺 <令和6年4月>		博士 (工学)		電気回路1A 電気回路1B 電気回路2A 電気回路2B 応用実験1 Introduction of Electrical Engineering Research ※ 電気・ロボット工学国際インターンシップB 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction of Electrical Engineering Research ※	1前 1前 1後 1後 3前 3前 1・2・3・4集中 3前 3前 4後 4後 1後	2 2 2 2 2 0.3 2 2 2 4 4 0.3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (令和4.4)	5日



教員の氏名等												
(工学部)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり 平均日数
126	専任	准教授	サイウ アツシ 齋藤 敦史 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		情報通信ハードウェア実験C 通信計測 情報通信ハードウェア実験D 回路設計演習 情報通信工学概論 ※ 情報通信特論1 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 情報通信特論2 Introduction to Information and Communications Engineering ※ Seminar on Information and Communications Engineering ※	2前 2前 2後 2後 2後 3前 3前 3後 4前 4後 3後 1前 2後	1 2 1 2 0.1 1 2 2 4 4 1 0.1 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (平成9.4)	5日
127	専任	准教授	ミヤタ スミコ 宮田 純子 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		情報通信ハードウェア実験A 情報通信ハードウェア実験D 情報通信工学概論 ※ 通信方式 メディア通信工学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Information and Communications Engineering ※ Seminar on Information and Communications Engineering ※	1前 2後 2後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 1前 2後	1 1 0.1 2 2 2 2 4 4 0.3 0.3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (平成27.4)	5日
128	専任	准教授	イワリ カツ 井尻 敬 ＜令和6年4月＞		博士 (情報理工 学)		コンピュータ科学序説 情報工学通論 ※ データ構造とアルゴリズム1 ※ 基礎情報演習1A ※ デジタルメディア処理 卒研プレゼミナール ※ コンピュータビジョン 音響・音声処理工学 情報工学海外実習1 情報工学海外実習2 情報工学海外実習3 情報工学海外実習4 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering ※	1前 1後 2前 2前 2後 2後 3前 3後 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 3前 3後 4前 4後 1後	2 0.1 1 1 2 0.1 2 2 2 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (平成29.4)	5日
129	専任	准教授	ワカベ ショウヘイ 渡部 昌平 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		情報工学通論 ※ 基礎情報演習2A ※ データ構造とアルゴリズム2 ※ 卒研プレゼミナール ※ 人工知能 数理計画法 人工知能プログラミング 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering ※	1後 2後 2後 2後 3前 3前 3前 3前 3後 4前 4後 1後	0.1 1 1 0.1 2 1 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (令和4.4)	5日
130	専任	准教授	オヤマ コタキ 大山 雄己 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		導入ゼミナール ※ 土木計画学1 ※ 都市計画 土木工学総合講義 ※ 地域デザイン演習1 ※ 土木キャリアセミナー ※ 地域デザイン演習2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Lectures on Civil Engineering ※	1前 1後 2後 2後 2後 3後 3後 3前 3後 4前 4後 1後	0.1 0.3 2 0.1 1 0.1 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (令和2.4)	5日
131	専任	准教授	ヘンリー マイケル ワード Henry Michael Ward ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		導入ゼミナール ※ 土木工学総合講義 ※ 土木応用実験 ※ 土木キャリアセミナー ※ 国際開発工学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Lectures on Civil Engineering ※	1前 2後 3後 3後 3後 3前 3後 4前 4後 1後	0.1 0.1 1 0.1 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (令和2.4)	5日









教員の氏名等												
(工学部)												大宮キャンパス
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 相当たり
1	専任	教授	アキ コウシロウ 青木 孝史朗 <令和6年4月>		博士 (工学)		機械材料 機械工学の基礎1 ※ 加工学 機械工学の基礎2 ※	1前 1前 2後 2後	2 0.1 2 0.4	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成17.4)	5日
2	専任	教授	ウチムラ ユカ 内村 裕		博士 (工学)		機械工学の基礎1 ※ 機械工学の基礎2 ※	1前 2後	0.1 0.4	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成19.4)	5日
3	専任	教授	サトウ ヒロユキ 斎藤 寛泰 <令和6年4月>		博士 (工学)		機械工学の基礎1 ※ 機械工学の基礎2 ※ 熱力学1	1前 2後 2前	0.1 0.4 2	1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.4)	5日
4	専任	教授	サネキ マサト 佐伯 暢人 <令和6年4月>		博士 (工学)		機械工学の基礎1 ※ 機械工学の基礎2 ※ 振動工学1	1前 2後 2前・後	0.1 0.4 2	1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.4)	5日
5	専任	教授	サカエ ケイイチ 坂上 賢一 <令和6年4月>		博士 (工学)		機械工学の基礎1 ※ 機械工学の基礎2 ※ 材料力学1	1前 2後 1後	0.1 0.4 2	1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成22.4)	5日
6	専任	教授	サトウ タカシ 澤 武 <令和6年4月>		博士 (工学)		機械工学の基礎1 ※ 機械運動学 機械設計製図1 応用解析学 機械設計製図2 機械工学の基礎2 ※	1前 1後 2前 2前 2後 2後	0.1 2 3 2 3 0.4	1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成25.4)	5日
7	専任	教授	シライ カツキ 白井 克明 <令和6年4月>		Doktoringe nieur (Dr.-Ing.) (ドイツ)		機械工学の基礎1 ※ 機械設計製図1 機械設計製図2 流体力学2(基幹機械コース) 機械工学の基礎2 ※ 流体力学1	1前 2前 2後 2後 2後 2前	0.3 3 3 2 0.4 2	1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成29.4)	5日
8	専任	教授	ツルギ カズミ 角田 和巳 <令和6年4月>		博士 (工学)		社会の中の工学 ※ 機械工学の基礎1 ※ 機械工学の基礎2 ※	1前 1前 2後	0.1 0.3 0.4	1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成5.4)	5日
9	専任	教授	ハシムラ シンゾウ 橋村 真治 <令和6年4月>		博士 (工学)		機械工学の基礎1 ※ 材料力学2(基幹機械コース) 機械工学の基礎2 ※	1前 2前 2後	0.1 2 0.4	1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成25.4)	5日
10	専任	教授	フカイ ノブユキ 二井 信行 <令和6年4月>		博士 (工学)		機械工学の基礎1 ※ 機械設計製図1 ※ 機械設計 機械設計製図2 機械工学の基礎2 ※	1前 2前 2前 2後 2後	0.1 3 2 3 0.4	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成25.4)	5日
11	専任	教授	ヤキ ユウジ 矢作 裕司 <令和6年4月>		博士 (工学)		機械工学の基礎1 ※ Thermodynamics 2 機械工学の基礎2 ※	1前 2後 2後	0.1 2 0.4	1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成6.4)	5日
12	専任	教授	ニシムラ ツヨシ 西村 強 <令和6年4月>		理学博士		微分積分2 機械工学の基礎1 ※	1後 1前	4 0.1	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成6.4)	5日
13	専任	教授	イシイ ヤスキ 石井 康之 <令和6年4月>		博士 (理学)		物理学入門 物理学実験 基礎力学 基礎力学演習 基礎電磁気学 先進機械基礎1 ※ 先進機械基礎2 ※	1前 1, 2前・後 1前 1前 1前 1後 1前 2前	4 6 2 2 2 2 0.1 0.1	1 2 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成26.4)	5日
14	専任	教授	オノ ナオキ 小野 直樹 <令和6年4月>		博士 (工学)		流体力学1 先進機械基礎1 ※ マテリアル・サイエンス 先進機械基礎2 ※ 機械力学 流体力学2(先進機械コース)	2前 1前 1後 2前 2後 2後	2 0.1 2 0.1 2 2	1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成17.4)	5日
15	専任	教授	トシノ(ワカサ) コウスケ 富田(若槻) 裕介 <令和6年4月>		博士 (理学)		物理学入門 物理学実験 基礎力学 基礎力学演習 基礎電磁気学 先進機械基礎1 ※ 先進機械基礎2 ※	1前 1, 2前・後 1前 1前 1後 1前 2前	4 3 4 2 2 0.1 0.1	1 1 2 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成24.4)	5日
16	専任	教授	カネチロ スミト 長澤 純人 <令和6年4月>		博士 (工学)		先進機械基礎1 ※ 先進機械基礎2 ※ メカトロニクス	1前 2前 2前	0.3 0.3 2	1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成24.4)	5日
17	専任	教授	オシヅキ ナオキ 細矢 直基 <令和6年4月>		博士 (工学)		振動工学1 先進機械基礎1 ※ 先進機械基礎2 ※ 機械工学概論3 ※	2前・後 1前 2前 2後	2 0.1 0.3 1	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成19.4)	5日
18	専任	教授	マツオ シゲキ 松尾 繁樹 <令和6年4月>		博士 (理学)		先進機械基礎1 ※ 機械工学概論2 ※ 先進機械基礎2 ※	1前 2前 2前	0.3 1 0.1	1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成26.4)	5日
19	専任	教授	ヨシハラ ショウイチロウ 吉原 正一郎 <令和6年4月>		博士 (工学)		材料力学1 先進機械基礎1 ※ 機械工学概論1 ※ 先進機械基礎2 ※ 材料力学2(先進機械コース)	1後 1前 1後 2前 2前	2 0.1 1 0.1 2	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成30.4)	5日

教員の氏名等												
(工学部)											大宮キャンパス	
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 相当たり
21	専任	教授	タカキ アキト 高崎 明人 <令和6年4月>		工学博士		先進機械基礎1 ※ マテリアル・サイエンス	1前 1後	0.1 2	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成8.4)	5日
22	専任	教授	アライ ヲシ 新井 剛 <令和6年4月>		博士 (工学)		環境と化学 環境物質工学入門 ※ 環境物質工学通論 ※	1前 1前 2後	2 0.1 0.1	1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.4)	5日
23	専任	教授	イシキ カズヒロ 石崎 貴裕 <令和6年4月>		博士 (工学)		環境物質工学入門 ※ 材料科学 環境物質工学通論 ※	1前 2前 2後	0.1 2 0.1	1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成24.4)	5日
24	専任	教授	カサキ ヨシノブ 粕谷 義治 <令和6年4月>		博士 (工学)		社会の中の工学 ※ 工学研究探訪1 工学研究探訪2 環境物質工学入門 ※ 材料力学 環境物質工学通論 ※	1前 2後 2後 1前 1前 2後	0.1 1 1 0.1 2 0.1	1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成18.4)	5日
25	専任	教授	キノウラ ケンタロウ 弓野 健太郎 <令和6年4月>		博士 (工学)		環境物質工学入門 ※ 環境物質工学通論 ※ 固体物理	1前 2後 2後	0.1 0.1 2	1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成19.4)	5日
26	専任	教授	コシ トシマ 小西 利史 <令和6年4月>		博士 (理学)		化学の基礎と実験 基礎化学 基礎無機化学 化学実験 環境物質工学入門 ※ 環境物質工学通論 ※ 触媒化学 環境物質基礎実験	1前 1前 1後 1前・後 1前 2後 2後 2後	4 2 2 2 0.1 0.1 2 2	2 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成19.4)	5日
27	専任	教授	シノヅメ マサキ 下条 雅幸 <令和6年4月>		博士 (工学)		環境物質工学入門 ※ 結晶構造解析 環境物質工学通論 ※	1前 2前 2後	0.1 2 0.1	1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成23.4)	5日
28	専任	教授	セシワリ アイ 芹澤 愛 <令和6年4月>		博士 (工学)		環境物質工学入門 ※ 状態図と金属組織 環境物質工学通論 ※	1前 1後 2後	0.1 2 0.1	1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成26.4)	5日
29	専任	教授	ノダ カズヒロ 野田 和彦 <令和6年4月>		博士 (工学)		社会の中の工学 ※ 環境物質工学入門 ※ 材料電気化学 環境物質工学通論 ※	1前 1前 2前 2後	0.1 0.1 2 0.1	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成17.4)	5日
30	専任	教授	ノダ アキラ 幡野 明彦 <令和6年4月>		博士 (理学)		化学の基礎と実験 基礎化学 基礎生物化学 化学実験 環境物質工学入門 ※ 環境物質工学通論 ※ 生体材料化学 環境物質基礎実験	1前 1前 1後 1前・後 1前 2後 2後 2後	4 2 4 2 0.1 0.1 2 2	2 1 2 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.4)	5日
31	専任	教授	マキ タカヒロ 正木 匡彦 <令和6年4月>		博士 (理学)		環境物質工学入門 ※ 熱力学 無機材料 環境物質工学通論 ※ 環境物質基礎実験	1前 1後 2前 2後 2後	0.1 2 2 0.1 2	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成19.4)	5日
32	専任	教授	マツムラ カズナリ 松村 一成 <令和6年4月>		博士 (工学)		環境物質工学入門 ※ 有機材料 環境物質工学通論 ※	1前 1後 2後	0.1 2 0.1	1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成14.4)	5日
33	専任	教授	モト アツシ 湯本 敦史 <令和6年4月>		博士 (工学)		環境物質工学入門 ※ 環境物質工学通論 ※ 弾塑性論	1前 2後 2後	0.1 0.1 2	1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成22.4)	5日
34	専任	教授	オウチ ヒロユキ 大口 裕之 <令和6年4月>		Ph. D. in Engineerin g(アメリカ カ)		工業化学概論 ※ 無機化学1 分析化学実験	1前 1後 2前	0.1 2 3	1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (令和2.4)	5日
35	専任	教授	キトウ マサトシ 木戸脇 匡俊 <令和6年4月>		博士 (工学)		工業化学概論 ※ 有機化学 分析化学実験 有機反応論	1前 1後 2前 2前	0.1 2 3 2	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成21.4)	5日
36	専任	教授	キノ ハジメ 清野 肇 <令和6年4月>		博士 (理学)		工業化学概論 ※ 分析化学実験 物理化学実験 無機化学2	1前 2前 2後 2後	0.1 3 2 2	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成23.4)	5日
37	専任	教授	タジマ トシキ 田嶋 穂樹 <令和6年4月>		博士 (工学)		社会の中の工学 ※ 工業化学概論 ※ 物理化学1 分析化学実験 物理化学2 物理化学実験	1前 1前 1前 2前 2前 2後	0.1 0.1 2 3 2 2	1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成22.4)	5日
38	専任	教授	カガ マチカ 永 直文 <令和6年4月>		博士 (工学)		工業化学概論 ※ 生物有機化学	1前 2前	0.1 2	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成17.4)	5日
39	専任	教授	ノダ ケイロウ 野村 幹弘 <令和6年4月>		博士 (工学)		工業化学概論 ※ 分析化学 化学工学2 化学工学実験	1前 1後 2前 2後	0.1 2 2 2	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成18.4)	5日

教員の氏名等												
											大宮キャンパス	
(工学部)												
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に就事する相当たり
40	専任	教授	ハマサキ ケイタ 濱崎 啓太 <令和6年4月>		博士(工学)		生物化学実験 工業化学概論 ※ 生物化学 応用生物化学 化学分光学	1後 1前 1前 2後 2後	2 0.1 2 2 2	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成14.4)	5日
41	専任	教授	ノボ (タケヤマ) アキコ 堀 (武山) 顕子 <令和6年4月>		博士(工学)		基礎化学 基礎固体化学 化学実験 工業化学概論 ※ 化学結合論	1前 1後 1前・後 1前 1前	6 2 4 0.1 2	3 1 2 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成27.4)	5日
42	専任	教授	ヨシミ ヤスオ 吉見 靖男 <令和6年4月>		博士(工学)		生物化学実験 工業化学概論 ※ 化学工学1 化学工学実験	1後 1前 1後 2後	2 0.9 2 2	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成9.4)	5日
43	専任	教授	キタガワ 理人 北川 理 <令和6年4月>		薬学博士		工業化学概論 ※ 有機反応論	1前 2前	0.1 2	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.4)	5日
44	専任	教授	イシイ (イイダ) アキミ 石井 (飯田) 朱美 <令和6年4月>		博士(政策・メディア)		Reading&Writing1 Listening&Speaking1 Listening&Speaking2 工学英語1 工学英語2	1前 1後 2前 2前 2後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成30.4)	5日
45	専任	教授	マシドメ カツ 正留 隆 <令和6年4月>		博士(工学)		工業化学概論 ※ 分析化学	1前 1後	0.1 2	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成16.4)	5日
46	専任	教授	アビコ 聡子 安孫子 聡子 <令和6年4月>		博士(工学)		製作実験 基礎実験2	1後 2後	2 3	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成27.4)	5日
47	専任	教授	アノドウ ショウジ 安藤 吉伸 <令和6年4月>		博士(工学)		製作実験 基礎実験1 アナログ電子回路 ディジタル回路	1後 2前 2前 2前	2 1 2 2	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成11.4)	5日
48	専任	教授	スズキ 栄男 鈴木 栄男 <令和6年4月>		工学博士		物理学入門 物理学実験 基礎熱力学 電気・ロボット工学研究概論 ※	1前 1, 2前・後 1後 2後	8 9 2 0.1	2 3 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成24.4)	5日
49	専任	教授	ニシカワ ヒロユキ 西川 宏之 <令和6年4月>		博士(工学)		電気磁気学1A 電気磁気学1B 電気・ロボット工学研究概論 ※ 電子基礎物理	1後 1後 2後 2後	2 2 0.3 2	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成12.4)	5日
50	専任	教授	フジタ ゴウジ 藤田 吾郎 <令和6年4月>		博士(工学)		電気回路2A 電気回路2B 基礎実験1 基礎実験2 電気・ロボット工学研究概論 ※ 電気計測	1後 1後 2前 2後 2後 2後	2 2 1 3 0.1 2	1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成10.4)	5日
51	専任	教授	ヤスダ ショウキ 安村 禎明 <令和6年4月>		博士(工学)		情報処理概論 C言語入門 データサイエンス演習 データサイエンス 統計学基礎 データサイエンスリテラシー 社会の中の工学 ※	1前・後 1, 2前・後 1前・後 2後 1前・後 1前・後 1前	8 6 6 3 4 4 0.1	4 2 3 1 2 2 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成22.10)	5日
52	専任	教授	ヨシミ カツ 吉見 卓 <令和6年4月>		博士(工学)		製作実験 基礎実験1 アナログ電子回路	1後 2前 2前	2 1 2	1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成21.4)	5日
53	専任	教授	タカミ ヒロシ 高見 弘 <令和6年4月>		博士(工学)		電気回路2A 電気回路2B 基礎実験1	1後 1後 2前	2 2 1	1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成17.4)	5日
55	専任	教授	イシカワ ヒロユキ 石川 博康 <令和6年4月>		博士(工学)		電気工学2 電子工学製作実習 先端技術1 ※ 電磁気学総合 ※	1後 2前 2後 2後	2 2 0.4 1	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成21.4)	5日
56	専任	教授	カノウ シンイチロウ 加納 慎一郎 <令和6年4月>		博士(工学)		電気回路1 電子工学基礎実験 先端技術1 ※ アナログ電子回路2	1前 2後 2後 2後	2 2 0.3 2	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成26.4)	5日
57	専任	教授	コイケ ヨシカズ 小池 義和 <令和6年4月>		博士(工学)		電気回路2 ものづくり入門 電子工学製作実習 電子工学基礎実験 先端技術1 ※ 電気回路総合 ※	1後 1後 2前 2後 2後 2後	2 2 2 2 0.1 1	1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成12.4)	5日
58	専任	教授	スウ マサリ 諏訪 将範 <令和6年4月>		博士(理学)		線形代数1 微分積分1 微分積分2 微分方程式 ベクトル解析 先端技術1 ※	1前 1前 1後 1, 2前・後 2前・後 2後	2 8 4 6 2 0.1	2 2 1 3 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.9)	5日
59	専任	教授	ナカムラ トシタ 中村 統太 <令和6年4月>		博士(理学)		物理学入門 基礎力学および演習 基礎電磁気学および演習 基礎熱統計力学演習 基礎熱統計力学演習 相対論と量子論の基礎 物理学実験 基礎電磁気学 先端技術1 ※	1前 1後 1後 2前 2前 2後 2後 1後 2後	4 4 4 2 2 2 3 2 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成16.4)	5日

教員の氏名等												
											大宮キャンパス	
(工学部)												
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 相当たり
60	専任	教授	ブレマチャンドラ チンカ Chinthaka Premachandra <令和6年4月>		博士 (工学)		電気数学1 電子工学基礎実験 先端技術1 ※	1前 2後 2後	2 2 0.1	1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成28.4)	5日
61	専任	教授	ムカミ カヨ 村上 嘉代子 <令和6年4月>		博士 (情報科学)		Reading&Writing1 Reading&Writing2 Listening&Speaking1 工学英語1 工学英語2 TOEIC 先端技術1 ※	1前 2後 1後 2前 2後 1前・後 2後	4 2 4 2 2 2 0.1	2 1 2 1 2 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成22.4)	5日
62	専任	教授	ヤマチ マサキ 山口 正樹 <令和6年4月>		博士 (工学)		社会の中の工学 ※ 電子材料基礎 電子工学基礎実験 先端技術1 ※ 電子物性基礎	1前 2前 2後 2後 2後	0.1 2 2 0.1 2	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成10.10)	5日
63	専任	教授	ヨイ ヒデキ 横井 秀樹 <令和6年4月>		博士 (工学)		電磁気学1 電磁気学2 先端技術1 ※ 電磁気学総合 ※	1後 2前 2後 2後	2 2 0.1 1	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成16.4)	5日
64	専任	教授	ハマ マサキ 浜野 学 <令和6年4月>		博士 (医学)		スポーツ科学実技1 スポーツ科学実技2	1前・後 1前・後	4 4	4 4	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成19.4)	5日
65	専任	教授	ウノ カズヨシ 上野 和良 <令和6年4月>		工学博士		電磁気学1	1後	2	1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成18.4)	5日
66	専任	教授	カザリ ユウジ 神澤 雄智 <令和6年4月>		博士 (工学)		社会の中の工学 ※ 情報通信ソフトウェア演習D 情報処理1 情報通信工学概論 ※	1前 2後 2後 2後	0.1 1 2 0.1	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成12.4)	5日
67	専任	教授	ギョウガ コウイ 行田 弘一 <令和6年4月>		博士 (工学)		情報通信ハードウェア実験A 情報通信ハードウェア実験B 電子回路 情報通信工学概論 ※	1前 1後 2前 2後	1 1 2 0.1	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.4)	5日
68	専任	教授	ウエ ヨウカ 堀江 亮太 <令和6年4月>		博士 (工学)		情報通信ソフトウェア演習A 情報通信ソフトウェア演習B 電気回路基礎 情報通信工学概論 ※	1前 1後 1後 2後	1 1 2 0.1	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成22.4)	5日
69	専任	教授	ホガ (マハ) マリ 本田(真鍋) まり <令和6年4月>		修士 (法学)		生命倫理 法学入門 技術者の倫理 情報通信工学概論 ※	1前・後 1前・後 1前・後 2後	4 4 8 0.1	2 2 4 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.4)	5日
70	専任	教授	マダ ケンゴ 前田 健吾 <令和6年4月>		博士 (理学)		物理学入門 基礎力学および演習 物理学実験 電磁気学1 情報通信工学概論 ※	1前 1後 1, 2前・後 2前 2後 2後	8 8 3 4 4 0.1	2 2 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成19.4)	5日
71	専任	教授	マツタ ハルヒデ 松田 晴英 <令和6年4月>		博士 (理学)		微分積分1 微分積分2 情報通信数学 情報理論 情報通信工学概論 ※	1前 1後 2前 2後 2後	8 8 2 2 0.1	2 2 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.4)	5日
72	専任	教授	ムロ ケンジ 武藤 憲司 <令和6年4月>		博士 (情報科学)		論理設計 情報通信工学概論 ※	1後 2後	2 0.1	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成21.4)	5日
73	専任	教授	モリ ヒロキ 森野 博章 <令和6年4月>		博士 (工学)		情報通信ソフトウェア演習C 情報通信ネットワーク ネットワーク理論 情報通信工学概論 ※	2前 2前 2後 2後	1 2 2 0.1	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成17.4)	5日
76	専任	教授	イサキ サトシ 石崎 聡之 <令和6年4月>		修士 (スポーツ 健康科学)		スポーツ科学実技1 スポーツ科学実技2 コンディショニング演習 スポーツ健康学 情報工学通論 ※ 卒研プレゼミナール ※	1前・後 1前・後 1前・後 1前・後 1後 2後	4 4 2 4 0.1 0.1	4 4 1 2 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成22.4)	5日
77	専任	教授	キム マサキ 木村 昌臣 <令和6年4月>		博士 (理学)		社会の中の工学 ※ 情報工学通論 ※ 基礎情報演習1B 数値計算法 卒研プレゼミナール ※	1前 1後 2前 2後 2後	0.1 0.1 2 2 0.6	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成16.4)	5日
78	専任	教授	サカ イチ 笹埜 功 <令和6年4月>		博士 (工学)		情報工学通論 ※ プログラミング入門2 コンピュータアーキテクチャ プログラミング言語論 卒研プレゼミナール ※	1後 1後 1後 2後 2後	0.1 2 2 1 0.1	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.10)	5日
79	専任	教授	シノヅメ リョウイチ 新熊 亮一 <令和6年4月>		博士 (工学)		情報工学通論 ※ データ構造とアルゴリズム1 ※ 基礎情報演習1A ※ コンピュータ通信 卒研プレゼミナール ※	1後 2前 2前 2後 2後	0.1 1 1 2 0.1	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (令和3.4)	5日
80	専任	教授	シバキ (シマザキ) ミドリ 菅谷(島崎) みどり <令和6年4月>		博士 (工学)		情報工学通論 ※ オペレーティングシステム 基礎情報演習2B 卒研プレゼミナール ※	1後 2前 2後 2後	0.1 2 2 0.1	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成25.4)	5日

教員の氏名等												
(工学部)											大宮キャンパス	
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり
81	専任	教授	スギモト トオル 杉本 徹 <令和6年4月>		博士 (理学)		離散数学1 情報工学通論 ※ 数理論理学 基礎情報演習2A ※ データ構造とアルゴリズム2 ※ 卒研プレゼミナール ※	1前 1後 2前 2後 2後 2後	2 0.1 1 1 1 0.1	1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成18.4)	5日
82	専任	教授	フジタ ヒロアキ 福田 浩章 <令和6年4月>		博士 (工学)		情報工学通論 ※ 論理回路 形式言語とオートマトン 卒研プレゼミナール ※	1後 1後 2後 2後	0.6 2 2 0.1	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成23.4)	5日
83	専任	教授	マツバラ リョウカ 松原 良太 <令和6年4月>		博士 (理学)		線形代数1 線形代数2 微分積分1 微分積分2 確率と統計1 情報工学通論 ※ 離散数学2 卒研プレゼミナール ※	1前 1後 1前 1後 1前・後 1後 1後 2後	2 2 8 4 2 0.1 2 0.1	1 1 2 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成22.4)	5日
84	専任	教授	マハバ ヒロユキ 真鍋 宏幸 <令和6年4月>		博士 (工学)		プログラミング入門1 情報工学通論 ※ H. C. インタラクション 信号処理 卒研プレゼミナール ※	1前 1後 2前 2前 2後	2 0.1 2 2 0.1	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成31.4)	5日
85	専任	教授	ウヰミ キミヨシ 宇佐美 公良 <令和6年4月>		博士 (工学)		情報工学通論 ※ コンピュータアーキテクチャ	1後 1後	0.1 2	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成15.4)	5日
86	専任	教授	ナカシマ ヲヨシ 中島 毅 <令和6年4月>		博士 (工学)		情報工学通論 ※	1後	0.1	1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成27.4)	5日
87	専任	教授	カハタ ヒロユキ 中村 広幸 <令和6年4月>		修士 (社会学)※		情報工学通論 ※	1後	0.1	1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成17.4)	5日
88	専任	教授	ヨシムラ ショウイチ 米村 俊一 <令和6年4月>		博士 (国際情報 通信学)		コンピュータ科学序説 情報工学通論 ※	1前 1後	2 0.1	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成24.4)	5日
89	専任	教授	アナミ ケツコ 穴見 健吾 <令和6年4月>		博士 (工学)		導入ゼミナール ※ 土木工学総合講義 ※ 構造力学1 構造力学演習	1前 2後 2後 2後	0.1 0.1 2 1	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.4)	5日
90	専任	教授	イナヅミ シンヤ 稲積 真哉 <令和6年4月>		博士 (工学)		導入ゼミナール ※ 地盤工学1 地盤工学2 土木工学総合講義 ※	1前 1後 2後 2後	0.1 2 2 0.1	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成29.4)	5日
91	専任	教授	イワケ セイジ 岩倉 成志 <令和6年4月>		博士 (工学)		導入ゼミナール ※ 土木計画学1 ※ 交通計画 土木工学総合講義 ※	1前 1後 2前 2後	0.1 1.4 2 0.1	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成11.4)	5日
92	専任	教授	オガタ (モリタ) ヨシコ 岡田(森田) 佳子 <令和6年4月>		修士 (教育学)※		教育心理学 人間関係論 導入ゼミナール ※ 土木と心理学 土木工学総合講義 ※	1前・後 1後 1前 1後 2後	4 2 0.1 2 0.1	2 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成22.9)	5日
93	専任	教授	カサキ トシ 勝木 太 <令和6年4月>		博士 (工学)		導入ゼミナール ※ 土木構造物概論 ※ 土木の力学 土木工学総合講義 ※ コンクリート構造学1	1前 1前 2前 2後 2後	0.1 1.6 2 0.1 2	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成9.4)	5日
94	専任	教授	コノ カツアキ 紺野 克昭 <令和6年4月>		博士 (工学)		導入ゼミナール ※ 土木数学1 土木数学2 ※ 土木工学総合講義 ※	1前 1後 2前 2後	0.1 2 1 0.1	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成7.4)	5日
95	専任	教授	ナカガワ マサフミ 中川 雅史 <令和6年4月>		博士 (環境学)		導入ゼミナール ※ 土木情報処理 測量学 応用測量学 測量学実習1 土木工学総合講義 ※ 測量学実習2	1前 1後 1後 2前 2前 2後 2後	0.1 2 2 2 2 0.1 2	1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成21.4)	5日
96	専任	教授	ナガハラ トオル 長原 徹 <令和6年4月>		博士 (経済学)		経済学 土木と経済学 現代の日本経済 導入ゼミナール ※ 土木工学総合講義 ※	1前・後 1前 1前・後 1前 2後	2 2 8 0.1 0.1	1 4 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成25.4)	5日
97	専任	教授	ナシカワ ケイ 並河 努 <令和6年4月>		博士 (工学)		導入ゼミナール ※ 土質力学1 土木工学総合講義 ※	1前 2前 2後	0.1 2 0.1	1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成23.4)	5日
98	専任	教授	ヒラハヤシ (カネ) ユキコ 平林(鼎) 由希子 <令和6年4月>		博士 (工学)		導入ゼミナール ※ 環境の科学 土木数学2 ※ 土木工学総合講義 ※	1前 1前 2前 2後	0.1 2 1 0.1	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成30.4)	5日
99	専任	教授	ミヤベ ヒロシ 宮本 仁志 <令和6年4月>		博士 (工学)		導入ゼミナール ※ 土木計画学1 ※ 流れの力学 土木工学総合講義 ※ 水理学	1前 1後 2前 2後 2後	0.1 0.3 2 0.1 2	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成26.4)	5日

教員の氏名等												
(工学部)											大宮キャンパス	
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり
100	専任	教授	ヤカガリ ルミ 谷田川 ルミ <令和6年4月>		博士 (教育学)		教育原論 導入ゼミナール ※ 土木と社会学 土木工学総合講義 ※	1前 1前 2前 2後	2 0.1 2 0.1	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成25.4)	5日
102	専任	教授	イダケ 岳史 伊代田 岳史 <令和6年4月>		博士 (工学)		社会の中の工学 ※ 導入ゼミナール ※ 土木構造物概論 ※ マテリアルデザイン 土木工学総合講義 ※	1前 1前 1前 2前 2後	0.4 0.1 0.4 2 0.1	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成21.4)	5日
103	専任	教授	カミカ エイジ 上岡 英史 <令和6年4月>		博士 (理学)		情報処理基礎 情報通信工学概論 ※	1前 2後	2 0.1	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成19.4)	5日
107	専任	教授	ハサガキ タカヒロ 長谷川 忠大		博士 (工学)		製作実験 電気・ロボット工学研究概論 ※	1後 2後	2 0.1	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.4)	5日
111	専任	准教授	クダゲ マサフミ 丹下 学 <令和6年4月>		博士 (工学)		機械工学の基礎1 ※ 機械設計製図1 ※ 機械設計製図2 ※ 機械工学の基礎2 ※	1前 2前 2後 2後	0.1 3 3 0.4	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (平成22.4)	5日
112	専任	准教授	シノヰ マユ 新谷 真由 <令和6年4月>		博士 (言語学)		Reading&Writing1 Listening&Speaking1	1前 1後	2 2	1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (令和4.4)	5日
113	専任	准教授	ナカムラ シンゴ 中村 真吾 <令和6年4月>		博士 (工学)		情報処理概論 C言語入門 データサイエンス演習 先進機械基礎1 ※ 先進機械基礎2 ※ 情報処理入門	1前・後 1、2前・後 1前・後 1前 2前 1前	6 9 6 0.1 0.1 2	3 3 3 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (平成24.4)	5日
114	専任	准教授	ヒロセ トシヤ 廣瀬 敏也 <令和6年4月>		博士 (工学)		社会の中の工学 ※ 先進機械基礎1 ※ 機械工学概論2 ※ 先進機械基礎2 ※ 制御工学	1前 1前 2前 2前 2後	0.1 0.3 1 0.3 2	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (平成25.4)	5日
115	専任	准教授	フカノ(フカイ) マコ 深野(永井) 真子 <令和6年4月>		博士 (スポーツ 科学)		スポーツ科学実技1 スポーツ科学実技2 スポーツバイオメカニクス 先進機械基礎1 ※ 先進機械基礎2 ※	1前・後 1前・後 1前・後 1前 2前	6 6 2 0.1 0.1	6 6 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (平成30.4)	5日
116	専任	准教授	ヨシダ シンヤ 吉田 慎哉 <令和6年4月>		博士 (工学)		先進機械基礎1 ※ 機械工学概論1 ※ 先進機械基礎2 ※ 電気工学 機械工学概論3 ※ 熟力学2	1前 1後 2前 2前 2後 2後	0.1 1 0.1 2 1 2	1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (令和4.4)	5日
117	専任	准教授	エンドウ リエ 遠藤 理恵 <令和6年4月>		博士 (工学)		環境物質工学入門 ※ 物質移動論 環境物質工学通論 ※	1前 2前 2後	0.1 2 0.1	1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (令和4.4)	5日
118	専任	准教授	サカイ(加藤) ミヅキ 櫻井(加藤) みぎ和 <令和6年4月>		博士 (理学)		線形代数1 微分積分1 微分積分2 環境物質工学入門 ※	1前 1前 1後 1前	2 8 12 0.1	1 2 3 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (平成30.4)	5日
119	専任	准教授	ワタナベ ヨシマサ 渡邊 祥正 <令和6年4月>		博士 (理学)		物理学入門 物理学実験 基礎力学 環境物質工学入門 ※ 環境物質工学通論 ※ 電磁気学1	1前 1、2前・後 1前 1前 2後 2前	4 6 2 0.1 0.1 4	2 2 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (令和2.4)	5日
120	専任	准教授	カワサマ レイ 川嶋 嶺 <令和6年4月>		博士 (工学)		電気回路1A 電気回路1B 電気回路2A 電気回路2B	1前 1前 1後 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (令和4.4)	5日
121	専任	准教授	サイトウ マコト 齋藤 真 <令和6年4月>		博士 (工学)		基礎実験1 電気回路3A 電気回路3B 基礎実験2 電気・ロボット工学研究概論 ※	2前 2前 2前 2後 2後	1 2 2 3 0.1	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (平成19.4)	5日
122	専任	准教授	シゲムネ ヒロキ 重宗 宏毅 <令和6年4月>		博士 (工学)		電気回路1A 電気回路1B 電気磁気学1A 電気磁気学1B	1前 1前 1後 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (令和1.10)	5日
123	専任	准教授	ササキ マサヒロ 佐々木 昌浩 <令和6年4月>		博士 (工学)		電子工学一般 電気回路3 アナログ電子回路1 電子工学基礎実験 先端技術1 ※ 電気回路総合 ※ デジタル電子回路	1前 2前 2前 2後 2後 2後 2後	2 2 2 2 0.1 1 2	1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (平成23.4)	5日
124	専任	准教授	トウマ コウジ 當麻 浩司 <令和6年4月>		Doctor rerum naturalium technicarum (オーストリア)		電磁気学3 電子工学基礎実験 先端技術1 ※	2後 2後 2後	2 2 0.1	1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (令和4.4)	5日
125	専任	准教授	オオノ ユウキ 大橋 裕太郎 <令和6年4月>		博士 (学術)		Reading&Writing1 Listening&Speaking1 Listening&Speaking2 工学英語1 工学英語2 情報通信工学概論 ※	1前 1後 2前 2前 2後 2後	4 4 2 4 4 0.1	2 2 1 2 2 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (令和3.4)	5日

教員の氏名等												
(工学部)												大宮キャンパス
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり
126	専任	准教授	サイト アサ 齋藤 敦史 <令和6年4月>		博士 (工学)		情報通信ハードウェア実験C 通信計測 情報通信ハードウェア実験D 回路設計演習 情報通信工学概論 ※	2前 2前 2後 2後 2後	1 2 1 2 0.1	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (平成9.4)	5日
127	専任	准教授	ミヤ スミ 宮田 純子 <令和6年4月>		博士 (工学)		情報通信ハードウェア実験A 情報通信ハードウェア実験D 情報通信工学概論 ※	1前 2後 2後	1 1 0.1	1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (平成27.4)	5日
128	専任	准教授	イワリ カサ 井尻 敬 <令和6年4月>		博士 (情報理工 学)		コンピュータ科学序説 情報工学通論 ※ データ構造とアルゴリズム1 ※ 基礎情報演習1A ※ デジタルメディア処理 卒研プレゼミナール ※	1前 1後 2前 2前 2後 2後	2 0.1 1 1 1 0.1	1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (平成29.4)	5日
129	専任	准教授	ワヘ ショウヘイ 渡部 昌平 <令和6年4月>		博士 (理学)		情報工学通論 ※ 基礎情報演習2A ※ データ構造とアルゴリズム2 ※ 卒研プレゼミナール ※	1後 2後 2後 2後	0.1 1 1 0.1	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (令和4.4)	5日
130	専任	准教授	オヤマ ユウキ 大山 雄己 <令和6年4月>		博士 (工学)		導入ゼミナール ※ 土木計画学1 ※ 都市計画 土木工学総合講義 ※ 地域デザイン演習1 ※	1前 1後 2後 2後 2後	0.1 0.3 2 0.1 1	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (令和2.4)	5日
131	専任	准教授	ヘンリー マイケル ワード Henry Michael Ward <令和6年4月>		博士 (工学)		導入ゼミナール ※ 土木工学総合講義 ※	1前 2後	0.1 0.1	1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (令和2.4)	5日
132	専任	准教授	レ イベン 栗 奕平 <令和6年4月>		博士 (工学)		導入ゼミナール ※ Introduction to Transportation Systems 土木工学総合講義 ※ 地域デザイン演習1 ※	1前 1後 2後 2後	0.1 2 0.1 1	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (令和2.4)	5日
145	専任	助教	アヅ コウヘイ 相曽 浩平 <令和6年4月>		博士 (工学)		電気磁気学2A 電気磁気学2B 電気・ロボット工学研究概論 ※ 電気磁気学3A 電気磁気学3B	2前 2前 2後 2後 2後	2 2 0.1 2 2	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 助教 (令和3.4)	5日
146	専任	助教	イ ヒョン 李 ひよん <令和6年4月>		博士 (工学)		回路の過渡現象 情報通信工学概論 ※	2前 2後	2 0.1	1 1	芝浦工業大学 工学部 助教 (令和1.10)	5日
147	専任	助教	カク リョウ 菅 宣理 <令和6年4月>		博士 (工学)		情報通信ハードウェア実験B 情報通信ハードウェア実験C 情報通信工学概論 ※	1後 2前 2後	1 1 0.1	1 1 1	芝浦工業大学 工学部 助教 (令和4.4)	5日



教員の氏名等												
(工学部)											豊洲キャンパス	
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり
1	専任	教授	アホキ コウシロウ 青木 孝史朗 <令和6年4月>		博士 (工学)		卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Mechanical Engineering ※ Advanced Course on Engineering Science & Mechanics ※	3前 3後 4前 4後 1前 1後	2 2 4 4 0.1 0.1	1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成17.4)	5日
2	専任	教授	ウチムラ ユカ 内村 裕 <令和6年4月>		博士 (工学)		制御工学1 制御工学2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Mechanical Engineering ※	3前 3後 3前 3後 4前 4後 1前	2 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成19.4)	5日
3	専任	教授	サイトウ ヒロユキ 斎藤 寛泰 <令和6年4月>		博士 (工学)		Combustion Engineering 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Mechanical Engineering ※ Advanced Course on Engineering Science & Mechanics ※ Combustion Engineering	3後 3前 3後 4前 4後 1前 1後 2前	2 2 2 4 4 0.1 0.3 2	1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.4)	5日
4	専任	教授	サエキ マサト 佐伯 暢人 <令和6年4月>		博士 (工学)		振動工学2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Mechanical Engineering ※	3前 3前 3後 4前 4後 1前	2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.4)	5日
5	専任	教授	サカエ ケンイチ 坂上 賢一 <令和6年4月>		博士 (工学)		材料設計学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Mechanical Engineering ※	3後 3前 3後 4前 4後 1前	2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成22.4)	5日
6	専任	教授	サライ タカズ 澤 武一 <令和6年4月>		博士 (工学)		卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	3前 3後 4前 4後	2 2 4 4	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成25.4)	5日
7	専任	教授	シライ カツキ 白井 克明 <令和6年4月>		Doktoringenieur (Dr.-Ing.) (ドイツ)		卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Advanced Course on Mechanical Engineering ※ Hydrodynamics	3前 3後 4前 4後 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4前・後 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4後・前 1前 2前	2 2 4 4 6 6 6 6 6 6 6 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 0.1 2	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成29.4)	5日
8	専任	教授	ツノガタ カズミ 角田 和巳 <令和6年4月>		博士 (工学)		粘性流体力学 エネルギー変換工学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Mechanical Engineering ※	3前 3後 3前 3後 4前 4後 1前	2 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成5.4)	5日
9	専任	教授	ハシムラ シンジ 橋村 真治 <令和6年4月>		博士 (工学)		材料強度学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Mechanical Engineering ※ Advanced Course on Engineering Science & Mechanics ※	3前 3前 3後 4前 4後 1前 1後	2 2 2 4 4 0.1 0.1	1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成25.4)	5日

教員の氏名等												
豊洲キャンパス												
(工学部)												
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する 週当たり
10	専任	教授	フカイ ノブキ 二井 信行 <令和6年4月>		博士 (工学)		Mechanics 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Advanced Course on Mechanical Engineering ※	3前 3前 3後 4前 4後 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4前・後 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4前・後 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4後・前 1前	2 2 2 4 4 6 6 6 6 6 6 6 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 0.1	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成25.4)	5日
11	専任	教授	ヤハキ ヨウジ 矢作 裕司 <令和6年4月>		博士 (工学)		エンジンシステム 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Mechanical Engineering ※	3前 3前 3後 4前 4後 1前	2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成6.4)	5日
13	専任	教授	イノ ヤスキ 石井 康之 <令和6年4月>		博士 (理学)		研究導入講義2(サイエンス・メカニクス) 研究導入演習4 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Mechanical Engineering ※	3後 3後 3前 3後 4前 4後 1前	2 1 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成26.4)	5日
14	専任	教授	オノ ナナキ 小野 直樹 <令和6年4月>		博士 (工学)		研究導入講義2(ナノ・マイクロ) 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Engineering Science & Mechanics ※	3後 3前 3後 4前 4後 1後	2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成17.4)	5日
15	専任	教授	トシノ (ワカキ) コウジ 富田(若槻) 裕介 <令和6年4月>		博士 (理学)		研究導入講義2(サイエンス・メカニクス) ※ 研究導入演習1 ※ 研究導入講義2(計測工学) ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	3前 3前 3後 3前 3後 4前 4後	1 1 1 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成24.4)	5日
16	専任	教授	ナガサキ スミト 長澤 純人 <令和6年4月>		博士 (工学)		研究導入講義1(知能機械) 研究導入講義2(生体工学) ※ 研究導入演習3 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Engineering Science & Mechanics ※	3前 3後 3後 3前 3後 4前 4後 1後	2 1 1 2 2 4 4 0.3	1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成24.4)	5日
17	専任	教授	オノ ナナキ 細矢 直基 <令和6年4月>		博士 (工学)		研究導入演習1 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Advanced Course on Engineering Science & Mechanics ※	3前 3前 3後 4前 4後 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4前・後 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4後・前 4後・前 4前・後 1後	1 2 2 4 4 6 6 6 6 6 6 6 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 0.3	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成19.4)	5日
18	専任	教授	マツノ シゲキ 松尾 繁樹 <令和6年4月>		博士 (理学)		研究導入講義1(計測工学) 研究導入講義1(サイエンス・メカニクス) ※ 研究導入講義2(計測工学) ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Mechanical Engineering ※	3前 3前 3後 3前 3後 4前 4後 1前	2 1 1 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成26.4)	5日
19	専任	教授	ヨシハラ ショウイチロウ 吉原 正一郎 <令和6年4月>		博士 (工学)		研究導入演習2 ※ 研究導入演習3 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	3前 3後 3前 3後 4前 4後	1 1 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成30.4)	5日





教員の氏名等												
(工学部)											豊洲キャンパス	
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に 従事する 週当たり
32	専任	教授	マツムラ カズナリ 松村 一成 <令和6年4月>		博士 (工学)		環境物質科学実験1 環境物質科学実験2 Organic Materials Chemistry 環境物質工学実験1 環境物質工学実験2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Advanced Course on Materials Science and Engineering ※	3前 3前 3前 3後 3後 3前 3後 4前 4後 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4前・後 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4後・前 1前	2 2 2 2 2 2 4 4 6 6 6 6 6 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 0.1	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成14.4)	5日
33	専任	教授	ユモト アツシ 湯本 敦史 <令和6年4月>		博士 (工学)		環境物質科学実験1 環境物質科学実験2 複合材料 環境物質工学実験1 環境物質工学実験2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Materials Science and Engineering ※	3前 3前 3前 3後 3後 3前 3後 4前 4後 1前	2 2 2 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成22.4)	5日
34	専任	教授	オウガチ ヒロキ 大口 裕之 <令和6年4月>		Ph. D. in Engineering (アメリカ)		化学工業総論 ※ 無機物質化学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Applied Chemistry ※ Applied Chemistry Laboratory	3後 3後 3前 3後 4前 4後 3前	0.1 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (令和2.4)	5日
35	専任	教授	ネトウキ マサトシ 木戸脇 匡俊 <令和6年4月>		博士 (工学)		有機化学実験 有機構造決定法 化学工業総論 ※ 有機合成化学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Applied Chemistry ※ Applied Chemistry Laboratory	3前 3前 3後 3後 3前 3後 4前 4後 3前	3 2 0.1 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成21.4)	5日
36	専任	教授	キヨノ ハジメ 清野 肇 <令和6年4月>		博士 (理学)		セラミックス化学 化学工業総論 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Applied Chemistry ※ Applied Chemistry Laboratory	3前 3後 3前 3後 4前 4後 3前	2 0.1 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成23.4)	5日
37	専任	教授	タジマ トシキ 田嶋 稔樹 <令和6年4月>		博士 (工学)		電気化学 化学工業総論 ※ 応用物理化学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Applied Chemistry ※ Applied Chemistry Laboratory	3前 3後 3後 3前 3後 4前 4後 3前	2 0.1 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成22.4)	5日
38	専任	教授	ナガノ ナオキ 永 直文 <令和6年4月>		博士 (工学)		有機化学実験 化学工業総論 ※ 高分子化学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Applied Chemistry ※ Applied Chemistry Laboratory	3前 3後 3後 3前 3後 4前 4後 3前	3 0.1 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成17.4)	5日





教員の氏名等												
(工学部)											豊洲キャンパス	
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に 従事する 週当たり
58	専任	教授	スリ マサリ 諏訪 将範 <令和6年4月>		博士 (理学)		先端技術2 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	3前 3前 3後 4前 4後	0.1 2 2 4 4	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.9)	5日
59	専任	教授	ナカムラ トウタ 中村 統太 <令和6年4月>		博士 (理学)		先端技術2 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	3前 3前 3後 4前 4後	0.1 2 2 4 4	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成16.4)	5日
60	専任	教授	アレーチャントラ プンカ Chinthaka Premachandra <令和6年4月>		博士 (工学)		電子工学倫理 情報理論 先端技術2 ※ 電子工学国際インターンシップ4 電子工学国際インターンシップ5 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Introduction to Advanced Electronics ※	3前 3前 3前 1集中 1集中 3前 3後 4前 4後 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4前・後 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4後・前 1後	2 2 0.1 2 2 2 2 4 4 6 6 6 6 6 6 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 0.3	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成28.4)	5日
61	専任	教授	ムラカミ カヨコ 村上 嘉代子 <令和6年4月>		博士 (情報科学)		先端技術2 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	3前 3前 3後 4前 4後	0.1 2 2 4 4	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成22.4)	5日
62	専任	教授	ヤマグチ マサキ 山口 正樹 <令和6年4月>		博士 (工学)		電子物性 電子デバイス 半導体工学 先端技術2 ※ 電子材料評価論 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Advanced Electronics ※ Experiments in electronic engineering course	3前 3後 3前 3前 3後 3前 3後 4前 4後 1後 2前	2 2 2 0.1 2 2 2 4 4 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成10.10)	5日
63	専任	教授	ヨイ ヒデキ 横井 秀樹 <令和6年4月>		博士 (工学)		光エレクトロニクス 先端技術2 ※ 電子工学国際インターンシップ2 電子工学国際インターンシップ7 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Advanced Electronics ※ Experiments in electronic engineering course	3前 3前 2集中 2集中 3前 3後 4前 4後 1後 2前	0.1 2 2 2 2 2 4 4 0.3 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成16.4)	5日
66	専任	教授	カンザリ ヨウジ 神澤 雄智 <令和6年4月>		博士 (工学)		情報通信応用実験A 情報処理2 パターン認識 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Information and Communications Engineering and Seminar on Information and Communications Engineering ※	3前 3前 3後 3前 3後 4前 4後 1前 2後	3 2 2 2 2 4 4 0.1 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成12.4)	5日
67	専任	教授	キョウカ コウイチ 行田 弘一 <令和6年4月>		博士 (工学)		卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 セキュアネットワーク Introduction to Information and Communications Engineering ※ Seminar on Information and Communications Engineering ※	3前 3後 4前 4後 3後 1前 2後	2 2 4 4 2 0.1 0.1	1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.4)	5日
68	専任	教授	サエ リョウタ 堀江 亮太 <令和6年4月>		博士 (工学)		電磁気学2 電波工学1 マイクロ波工学 電波工学2 生体情報工学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Information and Communications Engineering ※ Seminar on Information and Communications Engineering ※	3前 3前 3後 3後 3後 3前 3後 4前 4後 1前 2後	2 2 2 2 2 2 4 4 0.3 0.3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成22.4)	5日



教員の氏名等												
(工学部)											豊洲キャンパス	
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に就事する週当たり
69	専任	教授	ホンダ マリ 本田(眞鍋) まり <令和6年4月>		修士 (法学)		日本国憲法 法学入門 知的財産法 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	1前・後 1前・後 3前・後 3前 3後 4前 4後	2 4 4 2 2 4 4	1 2 2 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.4)	5日
70	専任	教授	マエダ ケンゴ 前田 健吾 <令和6年4月>		博士 (理学)		卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	3前 3後 4前 4後	2 2 4 4	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成19.4)	5日
71	専任	教授	マツダ ハルヒデ 松田 晴英 <令和6年4月>		博士 (理学)		卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	3前 3後 4前 4後	2 2 4 4	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.4)	5日
72	専任	教授	ムロイ ケンジ 武藤 憲司 <令和6年4月>		博士 (情報科学)		情報通信応用実験A 音響工学 情報通信応用実験B 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Information and Communications Engineering ※ Seminar on Information and Communications Engineering ※	3前 3前 3後 3前 3後 4前 4後 1前	3 2 3 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成21.4)	5日
73	専任	教授	モリ ヒロアキ 森野 博章 <令和6年4月>		博士 (工学)		情報通信応用実験B 情報通信工学実習 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Information and Communications Engineering ※ Seminar on Information and Communications Engineering ※	3後 1・2・3・4集中 3前 3後 4前 4後 1前	3 1 2 2 4 4 0.3	1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成17.4)	5日
74	専任	教授	オカ シンイチ 田中 慎一 <令和6年4月>		博士 (工学)		電磁気学2 マイクロ波工学	3前 3後	2 2	1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成21.4)	5日
75	専任	教授	ヒロセ カズヒデ 広瀬 敏秀 <令和6年4月>		工学博士		(研究指導)				芝浦工業大学 工学部 教授 (平成19.4)	5日
76	専任	教授	イシザキ サトシ 石崎 聡之 <令和6年4月>		修士 (スポーツ 健康科学)		スポーツ科学実技1 スポーツ科学実技2 コンディショニング演習 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering ※ Volleyball (Technical) Soccer (Sports communication)	1前・後 1前・後 1前・後 3前 3後 4前 4後 1後	2 2 2 2 2 4 4 0.1	2 2 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成22.4)	5日
77	専任	教授	キムラ マサオミ 木村 昌臣 <令和6年4月>		博士 (理学)		データベース データ解析法 情報工学海外実習1 情報工学海外実習2 情報工学海外実習3 情報工学海外実習4 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering ※	3前 3後 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 3前 3後 4前 4後 1後	2 2 2 2 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成16.4)	5日
78	専任	教授	ササノ イチ 笹本 功 <令和6年4月>		博士 (工学)		情報工学実習 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering ※	1・2・3・4集中 3前 3後 4前 4後 1後	1 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.10)	5日
79	専任	教授	シンクマ リョウイチ 新熊 亮一 <令和6年4月>		博士 (工学)		情報ネットワーク 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering ※	3前 3前 3後 4前 4後 1後	2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (令和3.4)	5日
80	専任	教授	シバヤシ(シマザキ) ミドリ 菅谷(島崎) みどり <令和6年4月>		博士 (工学)		組込システム 情報システムプログラミング 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering ※	3前 3後 3前 3後 4前 4後 1後	2 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成25.4)	5日
81	専任	教授	シゲモト トオル 杉本 徹 <令和6年4月>		博士 (理学)		Java応用プログラミング 自然言語処理 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering ※	3前 3後 3前 3後 4前 4後 1後	2 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成18.4)	5日

教員の氏名等												
(工学部)											豊洲キャンパス	
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職 (就任年月)	申請に係る大学等の職務に 従事する 週当たり
82	専任	教授	フクダ ヒロアキ 福田 浩章 <令和6年4月>		博士 (工学)		情報工学特論 集積回路工学 ソフトウェア開発演習 プログラミング言語処理演習 情報工学海外実習1 情報工学海外実習2 情報工学海外実習3 情報工学海外実習4 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering ※	3後 3前 3前 3後 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 3前 3後 4前 4後 1後	1 2 3 3 2 2 2 2 2 2 4 4 4 0.4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成23.4)	5日
83	専任	教授	マツハラ リョウタ 松原 良太 <令和6年4月>		博士 (理学)		卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering ※	3前 3後 4前 4後 1後	2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成22.4)	5日
84	専任	教授	マナベ ヒロユキ 真鍋 宏幸 <令和6年4月>		博士 (工学)		ソフトウェア工学 情報工学海外実習1 情報工学海外実習2 情報工学海外実習3 情報工学海外実習4 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering ※ Interaction Design ※	3前 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 3前 3後 4前 4後 1後 1前	2 2 2 2 2 2 2 4 4 0.1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成31.4)	5日
88	専任	教授	ヨシムネ ショウイチ 米村 俊一 <令和6年4月>		博士 (国際情報 通信学)		情報工学実習	1・2・3・4集中	1	1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成24.4)	5日
89	専任	教授	アナノ カツコ 穴見 健吾 <令和6年4月>		博士 (工学)		鋼構造学 構造力学2 土木キャリアセミナー ※ 土木設計演習 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Lectures on Civil Engineering ※	3前 3前 3後 3後 3前 3後 4前 4後 1後	2 2 0.1 0.5 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成20.4)	5日
90	専任	教授	イヅミ シンヤ 稲積 真哉 <令和6年4月>		博士 (工学)		土質実験 ※ 地盤工学演習 土木キャリアセミナー ※ 地盤環境工学 海外土工学演習1 海外土工学演習2 海外土工学演習3 土工学国際演習1 土工学国際演習2 土工学国際演習3 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Lectures on Civil Engineering ※ Soil Mechanics	3前 3前 3後 3後 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 1・2・3・4集中 3前 3後 4前 4後 1後 2前	0.6 1 0.1 2 2 2 2 2 2 2 2 4 4 4 0.1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成29.4)	5日
91	専任	教授	イワタ セイジ 岩倉 成志 <令和6年4月>		博士 (工学)		土木計画学2 土木キャリアセミナー ※ 地域デザイン演習2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Lectures on Civil Engineering ※	3前 3後 3後 3前 3後 4前 4後 1後	2 0.1 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成11.4)	5日
92	専任	教授	オノダ (初) オホコ 岡田(森田) 佳子 <令和6年4月>		修士 (教育学)※		社会心理学 人間関係論 社会調査演習 ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	1前 1後 3前 3前 3後 4前 4後	2 2 0.9 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成22.9)	5日
93	専任	教授	カキ マチ 勝木 太 <令和6年4月>		博士 (工学)		コンクリート構造学2 土木キャリアセミナー ※ 土木設計演習 ※ 学外体験学習1 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	3前 3後 3後 2集中 3前 3後 4前 4後	2 0.1 0.5 1 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成9.4)	5日
94	専任	教授	コノ カツヲ 紺野 克昭 <令和6年4月>		博士 (工学)		地震防災工学 土木応用実験 ※ 土木キャリアセミナー ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Lectures on Civil Engineering ※	3前 3後 3後 3前 3後 4前 4後 1後	2 1 0.1 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成7.4)	5日
95	専任	教授	ナカガキ マチ 中川 雅史 <令和6年4月>		博士 (環境学)		土木キャリアセミナー ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Lectures on Civil Engineering ※	3後 3前 3後 4前 4後 1後	0.1 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成21.4)	5日





教員の氏名等												
(工学部)											豊洲キャンパス	
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり
108	専任	教授	ミリヤラ ムリダハ Miriyala Muralidhar <令和6年4月>		Ph. D. degree in High Tc Supercondu ctivity(イ ンド)		Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Nanostructure Physics I	1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4前・後 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4前・後 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4前・後 2後	6 6 6 6 6 6 6 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成25.4)	5日
109	専任	教授	ヤマモト アキコ 山本 文子 <令和6年4月>		博士 (理学)		Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II	1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4前・後 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4前・後 1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4前・後	6 6 6 6 6 6 6 6 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成27.11)	5日
110	専任	教授	ラジヤゴパ ラン ウママヘスワリ Rajagopalan Umamaheswari <令和6年4月>		博士 (工学)		Advanced Course on Mechanical Engineering ※ Introduction to Advanced Science and Technology ※ Advanced Techniques for Materials Characterization Biophysics ※ Introduction to Relativity Biophotonics Basic Physics Methodics in Physics Physics: Electromagnetism ※ Physics: Optics Materials Physics Usage of Research Tools & Research Writing ※ Diversity and Cultures of other countries ※	1前 1後 2後 2前 3後 3前 1後 1後 1後 2前 2前 2前 1前	0.1 0.1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 教授 (平成30.4)	5日
111	専任	准教授	カンケ マサ 丹下 学 <令和6年4月>		博士 (工学)		伝熱工学 計算力学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Mechanical Engineering ※	3前 3後 3前 3後 4前 4後 1前	2 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (平成22.4)	5日
112	専任	准教授	シンタニ マユ 新谷 真由 <令和6年4月>		博士 (言語学)		工学英語3	3前	2	1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (令和4.4)	5日
113	専任	准教授	カミタ ショウ 中村 真吾 <令和6年4月>		博士 (工学)		研究導入演習2 ※ 研究導入講義2(知能機械) ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	3前 3後 3前 3後 4前 4後	1 1 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (平成24.4)	5日
114	専任	准教授	ヒロセ トシヤ 廣瀬 敏也 <令和6年4月>		博士 (工学)		研究導入講義1(生体工学) 研究導入講義2(知能機械) ※ 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Engineering Science & Mechanics ※	3前 3後 3前 3後 4前 4後 1後	2 1 2 2 4 4 0.3	1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (平成25.4)	5日
115	専任	准教授	フカノ (フカイ) マコ 深野 (永井) 真子 <令和6年4月>		博士 (スポーツ 科学)		研究導入講義2(生体工学) ※ 研究導入演習4 ※ Biomechanics of human movement Badminton (Technical) Table tennis (Sports communication)	3後 3後 1後 1前 1後	1 1 2 1 1	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (平成30.4)	5日
116	専任	准教授	ヨシダ シンヤ 吉田 慎哉 <令和6年4月>		博士 (工学)		研究導入講義1(ナノ・マイクロ) 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Engineering Science & Mechanics ※	3前 3前 3後 4前 4後 1後	2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (令和4.4)	5日
117	専任	准教授	エノドリ ヒロ 遠藤 理恵 <令和6年4月>		博士 (工学)		環境物質科学実験1 環境物質科学実験2 環境物質工学実験1 環境物質工学実験2 マテリアルインフォマティクス 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Materials Science and Engineering ※	3前 3前 3後 3後 3後 3前 3後 4前 4後 1前	2 2 2 2 2 2 2 4 4 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (令和4.4)	5日









教員の氏名等												
(工学部)											豊洲キャンパス	
調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり
139	専任	准教授	ファン スアン タン Phan Xuan Tan <令和6年4月>		博士 (工学)		Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Introduction to Advanced Science and Technology ※ Introduction to Multimedia technology Introduction to Information Processing Diversity and Cultures of other countries ※	2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4前・後 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4後・前 1後	6 6 6 6 6 6 2 2 2 2 2 2 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (平成30.10)	5日
140	専任	准教授	ブイ ゴック タム Bui Ngoc Tam <令和6年4月>		博士 (工学)		Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Introduction to Advanced Science and Technology ※ Diversity and Cultures of other countries ※	1後・前 1前・後 2後・前 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4前・後 1後・前 1前・後 2前・後 3後・前 3前・後 4後・前 4後・前 1後	6 6 6 6 6 6 6 6 2 2 2 2 2 2 2 2 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (平成30.4)	5日
141	専任	准教授	フロンズィ マルコ Fronzi Marco <令和6年4月>		PhD in Computatio nal Materials Science(イ)		Introduction to Advanced Science and Nanostructure Physics II Physics: Thermodynamics Diversity and Cultures of other countries ※	1後 2前 2後 1後	0.1 2 2 0.1	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (令和2.10)	5日
142	専任	准教授	ヨシタマ ハツコ 吉久保 肇子 <令和6年4月>		博士 (文学)		Usage of Research Tools & Research Writing ※ Academic English Writing for University Coursework Making Effective Presentations Diversity and Cultures of other countries ※ Contemporary Society: Changes in Japanese Work Culture Career Design: Developing yourself for your future career Science and Religion in Japan	1前 1後 1前 1後 1前	1 2 2 0.1 2	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (平成26.12)	5日
143	専任	准教授	テチンカヤ アハメット Cetinkaya Ahmet <令和6年4月>		博士 (工学)		Introduction to Computer Networks	1後	3	1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (令和4.4)	5日
144	専任	准教授	トヴラト ガブリエ Gabriele Trovato <令和6年4月>		博士 (工学)		Information Literacy	1後	2	1	芝浦工業大学 工学部 准教授 (令和4.4)	5日
145	専任	助教	アイ コウヘイ 相曾 浩平 <令和6年4月>		博士 (工学)		電気機器学 電気材料 電動機制御 電気応用 高電圧工学 電気機器設計製図 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction of Electrical Engineering Research ※	3前 3後 3後 3後 4前 4前 3前 3前 4後 4後 1後	2 2 2 2 2 2 2 2 4 4 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 助教 (令和3.4)	5日
146	専任	助教	イ ヒョン 李 ひよん <令和6年4月>		博士 (工学)		電波工学 情報通信応用実験A 情報通信応用実験B 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 光通信工学 Introduction to Information and Communications Engineering ※ Seminar on Information and Communications Engineering ※	3前 3前 3後 3前 3後 4前 4後 3前 1前 2後	2 3 3 2 2 4 4 2 0.3 0.3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 助教 (令和1.10)	5日
147	専任	助教	カガ リナト 菅 宣理 <令和6年4月>		博士 (工学)		デジタル信号処理 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 移動通信工学 Introduction to Information and Communications Engineering ※ Seminar on Information and Communications Engineering ※	3後 3前 3後 4前 4後 3前 1前 2後	2 2 2 4 4 2 0.1 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 助教 (令和4.4)	5日
148	専任	助教	アーヤッシュリー Aaryashree <令和6年4月>		Ph. D. in Electrical Engineerin g(インド)		Introduction to Advanced Science and Technology ※ Diversity and Cultures of other countries ※	1後 1後	0.1 0.1	1 1	芝浦工業大学 工学部 助教 (令和3.4)	5日

教員の氏名等												
(工学部)											豊洲キャンパス	
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係 る大学等 の職務に 従事する 週当たり
149	専任	助教	アヘムット クムクム Ahmed Kumkum <令和6年4月>		博士 (工学)		Introduction to Advanced Science and Fundamentals of Organic Chemistry Polymer Chemistry Diversity and Cultures of other countries ※	1後 2後 2前 1後	0.1 2 2 0.1	1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 助教 (令和1.10)	5日
150	専任	助教	デイタ プスピタ サリ Dita Puspita Sari <令和6年4月>		博士 (理学)		Introduction to Advanced Science and Magnetism and Magnetic Materials Physics: Electromagnetism ※ Physics: Fluidodynamics, Oscillations and Waves Diversity and Cultures of other countries ※	1後 2前 1後 2後 1後	0.1 2 2 2 0.1	1 1 1 1 1	芝浦工業大学 工学部 助教 (令和2.4)	5日
151	専任	助教	ラオハクワンウィット ティポーン Laohakangvalvit Tipporn <令和6年4月>		博士 (工学)		Advanced Course on Mechanical Diversity and Cultures of other countries ※	1前 1後	0.1 0.1	1 1	芝浦工業大学 工学部 助教 (令和2.10)	5日

担当専攻分野別専任教員一覧

専攻分野	個人調書番号	職名	保有学位	氏名	年齢	就任年月日	担当授業科目名	備考
機械工学専攻分野	1	教授	博士(工学)	青木 孝史朗		令和6年4月	機械材料 機械工学の基礎1 加工学 機械工学の基礎2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Mechanical Engineering Advanced Course on Engineering Science & Mechanics	
	2	教授	博士(工学)	内村 裕		令和6年4月	機械工学の基礎1 機械工学の基礎2 制御工学1 制御工学2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Mechanical Engineering	
	3	教授	博士(工学)	斎藤 寛泰		令和6年4月	機械工学の基礎1 機械工学の基礎2 Combustion Engineering 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 熱力学1 Advanced Course on Mechanical Engineering Advanced Course on Engineering Science & Mechanics Combustion Engineering	
	4	教授	博士(工学)	佐伯 暢人		令和6年4月	機械工学の基礎1 機械工学の基礎2 振動工学2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 振動工学1 Advanced Course on Mechanical Engineering	
	5	教授	博士(工学)	坂上 賢一		令和6年4月	機械工学の基礎1 機械工学の基礎2 材料設計学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 材料力学1 Advanced Course on Mechanical Engineering	
	6	教授	博士(工学)	澤 武一		令和6年4月	機械工学の基礎1 機械運動学 機械設計製図1 応用解析学 機械設計製図2 機械工学の基礎2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	
	7	教授	Doktoringenieur (Dr.-Ing.) (ドイツ)	白井 克明		令和6年4月	機械工学の基礎1 機械設計製図1 機械設計製図2 流体力学2 (基幹機械コース) 機械工学の基礎2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 流体力学1 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Advanced Course on Mechanical Engineering Hydrodynamics	
	8	教授	博士(工学)	角田 和巳		令和6年4月	社会の中の工学 機械工学の基礎1 機械工学の基礎2 粘性流体力学 エネルギー変換工学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Mechanical Engineering	

担当専攻分野別専任教員一覧

専攻分野	個人調書番号	職名	保有学位	氏名	年齢	就任年月日	担当授業科目名	備考
	9	教授	博士(工学)	橋村 真治		令和6年4月	機械工学の基礎1 材料力学2 (基幹機械コース) 機械工学の基礎2 材料強度学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Mechanical Engineering Advanced Course on Engineering Science & Mechanics	
	10	教授	博士(工学)	二井 信行		令和6年4月	機械工学の基礎1 機械設計製図1 機械設計 機械設計製図2 機械工学の基礎2 Mechatronics 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Advanced Course on Mechanical Engineering	
	11	教授	博士(工学)	矢作 裕司		令和6年4月	機械工学の基礎1 Thermodynamics 2 機械工学の基礎2 エンジンシステム 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Mechanical Engineering	
	12	教授	理学博士	西村 強		令和6年4月	微分積分2 機械工学の基礎1	
	110	教授	博士(工学)	Rajagopalan Umamaheswari		令和6年4月	Advanced Course on Mechanical Engineering Introduction to Advanced Science and Technology Advanced Techniques for Materials Characterization Biophysics Introduction to Relativity Biophotonics Basic Physics Methodics in Physics Physics: Electromagnetism Physics: Optics Materials Physics Usage of Research Tools & Research Writing Diversity and Cultures of other countries	
	111	准教授	博士(工学)	丹下 学		令和6年4月	機械工学の基礎1 機械設計製図1 機械設計製図2 機械工学の基礎2 伝熱工学 計算力学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Mechanical Engineering	
	112	准教授	博士(言語学)	新谷 真由		令和6年4月	Reading&Writing1 Listening&Speaking1 工学英語3	
	140	准教授	博士(工学)	Bui Ngoc Tam		令和6年4月	Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Introduction to Advanced Science and Technology Diversity and Cultures of other countries	

担当専攻分野別専任教員一覧

専攻分野	個人調書番号	職名	保有学位	氏名	年齢	就任年月日	担当授業科目名	備考
機械 機能工学専攻分野	13	教授	博士(理学)	石井 康之		令和6年4月	物理学入門 物理学実験 基礎力学 基礎力学演習 基礎電磁気学 先進機械基礎1 先進機械基礎2 研究導入講義2(#イェンス・メカニクス) 研究導入演習4 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Mechanical Engineering	
	14	教授	博士(工学)	小野 直樹		令和6年4月	流体力学1 先進機械基礎1 マテリアル・サイエンス 先進機械基礎2 機械力学 流体力学2 (先進機械コース) 研究導入講義2(ナノ・マイクロ) 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Engineering Science & Mechanics	
	15	教授	博士(理学)	富田(若槻) 裕介		令和6年4月	物理学入門 物理学実験 基礎力学 基礎力学演習 基礎電磁気学 先進機械基礎1 先進機械基礎2 研究導入講義1(イェンス・メカニクス) 研究導入演習1 研究導入講義2(計測工学) 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Engineering Science & Mechanics	
	16	教授	博士(工学)	長澤 純人		令和6年4月	先進機械基礎1 先進機械基礎2 メカトロニクス 研究導入講義1(知能機械) 研究導入講義2(生体工学) 研究導入演習3 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Engineering Science & Mechanics	
	17	教授	博士(工学)	細矢 直基		令和6年4月	振動工学1 先進機械基礎1 先進機械基礎2 機械工学概論3 研究導入演習1 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Advanced Course on Engineering Science & Mechanics	
	18	教授	博士(理学)	松尾 繁樹		令和6年4月	先進機械基礎1 機械工学概論2 先進機械基礎2 研究導入講義1(計測工学) 研究導入講義2(イェンス・メカニクス) 研究導入講義2(計測工学) 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Mechanical Engineering	
	19	教授	博士(工学)	吉原 正一郎		令和6年4月	材料力学1 先進機械基礎1 機械工学概論1 先進機械基礎2 材料力学2 (先進機械コース) 研究導入演習2 研究導入演習3 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	
	20	教授	博士(工学)	諏訪 好英		令和6年4月	(研究指導)	
	21	教授	工学博士	高崎 明人		令和6年4月	先進機械基礎1 マテリアル・サイエンス	

担当専攻分野別専任教員一覧

専攻分野	個人調書番号	職名	保有学位	氏名	年齢	就任年月日	担当授業科目名	備考
	113	准教授	博士(工学)	中村 真吾		令和6年4月	情報処理概論 C言語入門 データサイエンス演習 先進機械基礎1 先進機械基礎2 研究導入演習2 研究導入講義2(知能機械) 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 情報処理入門	
	114	准教授	博士(工学)	廣瀬 敏也		令和6年4月	社会の中の工学 先進機械基礎1 機械工学概論2 先進機械基礎2 制御工学 研究導入講義1(生体工学) 研究導入講義2(知能機械) 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Engineering Science & Mechanics	
	115	准教授	博士 (スポーツ科学)	深野(永井) 真子		令和6年4月	スポーツ科学実技1 スポーツ科学実技2 スポーツバイオメカニクス 先進機械基礎1 先進機械基礎2 研究導入講義2(生体工学) 研究導入演習4 Biomechanics of human movement Badminton (Technical) Table tennis (Sports communication)	
	116	准教授	博士(工学)	吉田 慎哉		令和6年4月	先進機械基礎1 機械工学概論1 先進機械基礎2 電気工学 機械工学概論3 熱力学2 研究導入講義1(ナノ・マイクロ) 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Engineering Science & Mechanics	
	142	准教授	博士(文学)	吉久保 肇子		令和6年4月	Usage of Research Tools & Research Writing Academic English Writing for University Coursework Making Effective Presentations Diversity and Cultures of other countries Contemporary Society : Changes in Japanese Work Culture Career Design : Developing yourself for your future career Science and Religion in Japan	

担当専攻分野別専任教員一覧

専攻分野	個人調書番号	職名	保有学位	氏名	年齢	就任年月日	担当授業科目名	備考
材料工学専攻分野	22	教授	博士(工学)	新井 剛		令和6年4月	環境と化学 環境物質工学入門 環境物質工学通論 環境物質科学実験1 環境物質科学実験2 環境物質工学実験1 環境物質工学実験2 リサイクル工学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Materials Science and Engineering	
	23	教授	博士(工学)	石崎 貴裕		令和6年4月	環境物質工学入門 材料科学 環境物質工学通論 環境物質科学実験1 環境物質科学実験2 環境物質工学実験1 環境物質工学実験2 表界面の物理化学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Advanced Course on Materials Science and Engineering	
	24	教授	博士(工学)	荻谷 義治		令和6年4月	社会の中の工学 工学研究探訪1 工学研究探訪2 学内研究留学1 学内研究留学2 グローバルPBL1 グローバルPBL2 国際インターンシップ1 国際インターンシップ2 環境物質工学入門 材料力学 環境物質工学通論 環境物質科学実験1 環境物質科学実験2 環境物質工学実験1 環境物質工学実験2 Strength of Materials 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Materials Science and Engineering	
	25	教授	博士(工学)	弓野 健太郎		令和6年4月	環境物質工学入門 環境物質工学通論 固体物理 環境物質科学実験1 環境物質科学実験2 Semiconductor Materials 環境物質工学実験1 環境物質工学実験2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Materials Science and Engineering Semiconductor Materials	
	26	教授	博士(理学)	小西 利史		令和6年4月	化学の基礎と実験 基礎化学 基礎無機化学 化学実験 環境物質工学入門 環境物質工学通論 触媒化学 環境物質科学実験1 環境物質科学実験2 環境物質工学実験1 環境物質工学実験2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 環境物質基礎実験	

担当専攻分野別専任教員一覧

専攻分野	個人調書番号	職名	保有学位	氏名	年齢	就任年月日	担当授業科目名	備考
	27	教授	博士(工学)	下条 雅幸		令和6年4月	環境物質工学入門 結晶構造解析 環境物質工学通論 環境物質科学実験1 環境物質科学実験2 環境物質工学実験1 環境物質工学実験2 電子顕微鏡とナノサイエンス 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Advanced Course on Materials Science and Engineering	
	28	教授	博士(工学)	芹澤 愛		令和6年4月	環境物質工学入門 状態図と金属組織 環境物質工学通論 環境物質科学実験1 環境物質科学実験2 凝固工学 環境物質工学実験1 環境物質工学実験2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Advanced Course on Materials Science and Engineering	
	29	教授	博士(工学)	野田 和彦		令和6年4月	社会の中の工学 環境物質工学入門 材料電気化学 環境物質工学通論 環境物質科学実験1 環境物質科学実験2 環境物質工学実験1 環境物質工学実験2 Surface Treatment 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Materials Science and Engineering	
	30	教授	博士(理学)	幡野 明彦		令和6年4月	化学の基礎と実験 基礎化学 基礎生物化学 化学実験 環境物質工学入門 環境物質工学通論 生体材料化学 環境物質科学実験1 環境物質科学実験2 環境物質工学実験1 環境物質工学実験2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 環境物質基礎実験	
	31	教授	博士(理学)	正木 匡彦		令和6年4月	環境物質工学入門 熱力学 無機材料 環境物質工学通論 環境物質科学実験1 環境物質科学実験2 Phase Transitions in Materials 環境物質工学実験1 環境物質工学実験2 物性物理学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 環境物質基礎実験 Advanced Course on Materials Science and Engineering	



担当専攻分野別専任教員一覧

専攻分野	個人調書番号	職名	保有学位	氏名	年齢	就任年月日	担当授業科目名	備考
	32	教授	博士(工学)	松村 一成		令和6年4月	環境物質工学入門 有機材料 環境物質工学通論 環境物質科学実験1 環境物質科学実験2 Organic Materials Chemistry 環境物質工学実験1 環境物質工学実験2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Advanced Course on Materials Science and Engineering	
	33	教授	博士(工学)	湯本 敦史		令和6年4月	環境物質工学入門 環境物質工学通論 弾塑性論 環境物質科学実験1 環境物質科学実験2 複合材料 環境物質工学実験1 環境物質工学実験2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Materials Science and Engineering	
	104	教授	博士(工学)	坂井 直道		令和6年4月	Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Introduction to Advanced Science and Technology Materials Science Diversity and Cultures of other countries Engineering Ethics	
	106	教授	Doctoral degree (PhD) in Chemistry (イタリア)	Paolo Mele		令和6年4月	Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Introduction to Advanced Science and Technology Functional Materials Practical Materialography Fundamentals of Physical Chemistry Materials for Energy Solid State Chemistry Instrumental Analysis General Chemistry B Diversity and Cultures of other countries	
	108	教授	Ph. D. degree in High Tc Superconductivity (インド)	ミアラ ミリタ		令和6年4月	Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Nanostructure Physics I	

担当専攻分野別専任教員一覧

専攻分野	個人調書番号	職名	保有学位	氏名	年齢	就任年月日	担当授業科目名	備考
	109	教授	博士(理学)	山本 文子		令和6年4月	Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II	
	117	准教授	博士(工学)	遠藤 理恵		令和6年4月	環境物質工学入門 物質移動論 環境物質工学通論 環境物質科学実験1 環境物質科学実験2 環境物質工学実験1 環境物質工学実験2 マテリアルインフォマティクス 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Advanced Course on Materials Science and Engineering	
	118	准教授	博士(理学)	櫻井(加藤) みぎ和		令和6年4月	線形代数1 微分積分1 微分積分2 環境物質工学入門 環境物質科学実験1 環境物質科学実験2 環境物質工学実験1 環境物質工学実験2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	
	119	准教授	博士(理学)	渡邊 祥正		令和6年4月	物理学入門 物理学実験 基礎力学 環境物質工学入門 環境物質工学通論 環境物質科学実験1 環境物質科学実験2 環境物質工学実験1 環境物質工学実験2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 電磁気学1	
	133	准教授	PhD - Energy engineering (ポーランド)	Alieja Klimkowicz		令和6年4月	Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Advanced Course on Engineering Science & Mechanics Introduction to Advanced Science and Technology Materials for Energy Solid State Chemistry Basic Chemistry General Chemistry A Diversity and Cultures of other countries	
	134	准教授	博士(工学)	李 素潤		令和6年4月	Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Introduction to Advanced Science and Technology Fundamentals of Inorganic Chemistry Fundamentals of Physical Chemistry Biochemistry Nanotechnology Diversity and Cultures of other countries	
	141	准教授	PhD in Computational Materials Science (イタリア)	Fronzi Marco		令和6年4月	Introduction to Advanced Science and Technology Nanostructure Physics II Physics: Thermodynamics Diversity and Cultures of other countries	
	150	助教	博士(理学)	Dita Puspita Sari		令和6年4月	Introduction to Advanced Science and Technology Magnetism and Magnetic Materials Physics: Electromagnetism Physics: Fluidodynamics, Oscillations and Waves Diversity and Cultures of other countries	

担当専攻分野別専任教員一覧

専攻分野	個人調書番号	職名	保有学位	氏名	年齢	就任年月日	担当授業科目名	備考
応用化学専攻分野	34	教授	Ph. D. in Engineering (アメリカ)	大口 裕之		令和6年4月	工業化学概論 無機化学1 分析化学実験 化学工業総論 無機物質化学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Applied Chemistry Applied Chemistry Laboratory	
	35	教授	博士(工学)	木戸脇 匡俊		令和6年4月	工業化学概論 有機化学 分析化学実験 有機反応論 有機化学実験 有機構造決定法 化学工業総論 有機合成化学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Applied Chemistry Applied Chemistry Laboratory	
	36	教授	博士(理学)	清野 肇		令和6年4月	工業化学概論 分析化学実験 物理化学実験 無機化学2 セラミックス化学 化学工業総論 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Applied Chemistry Applied Chemistry Laboratory	
	37	教授	博士(工学)	田嶋 稔樹		令和6年4月	社会の中の工学 工業化学概論 物理化学1 分析化学実験 物理化学2 物理化学実験 電気化学 化学工業総論 応用物理化学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Applied Chemistry Applied Chemistry Laboratory	
	38	教授	博士(工学)	永 直文		令和6年4月	工業化学概論 生物有機化学 有機化学実験 化学工業総論 高分子化学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Applied Chemistry Applied Chemistry Laboratory	
	39	教授	博士(工学)	野村 幹弘		令和6年4月	工業化学概論 分析化学 化学工学2 化学工学実験 分離工学 化学工業総論 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Introduction to Applied Chemistry Applied Chemistry Laboratory	
	40	教授	博士(工学)	濱崎 啓太		令和6年4月	生物化学実験 工業化学概論 生物化学 応用生物化学 化学分光学 ケミカルバイオロジー基礎 化学工業総論 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Applied Chemistry Applied Chemistry Laboratory	

担当専攻分野別専任教員一覧

専攻分野	個人調書番号	職名	保有学位	氏名	年齢	就任年月日	担当授業科目名	備考
	41	教授	博士(工学)	堀(武山) 顕子		令和6年4月	基礎化学 基礎固体化学 化学実験 工業化学概論 化学結合論 有機化学実験 化学工業総論 生物無機化学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Applied Chemistry	
	42	教授	博士(工学)	吉見 靖男		令和6年4月	生物化学実験 工業化学概論 化学工学1 化学工学実験 反応工学 応用分析化学 化学工業総論 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Introduction to Applied Chemistry Applied Chemistry Laboratory	
	43	教授	薬学博士	北川 理		令和6年4月	工業化学概論 有機反応論 有機化学実験 有機構造決定法 化学工業総論	
	44	教授	博士 (政策・経済)	石井(飯田) 朱美		令和6年4月	Reading&Writing1 Listening&Speaking1 Listening&Speaking2 工学英語1 工学英語2	
	45	教授	博士(工学)	正留 隆		令和6年4月	工業化学概論 分析化学	
	105	教授	博士 (地球環境科学)	Zeznicka Izabela Irena		令和6年4月	Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Introduction to Advanced Science and Technology Fundamentals of Analytical Chemistry Nanotechnology Diversity and Cultures of other countries	
	136	准教授	PhD Chemistry (英国)	Gary James Richards		令和6年4月	Diversity and Cultures of other countries	
	148	助教	Ph. D. in Electrical Engineering (インド)	Aaryashree		令和6年4月	Introduction to Advanced Science and Technology Diversity and Cultures of other countries	
	149	助教	博士(工学)	Ahmed Kumkum		令和6年4月	Introduction to Advanced Science and Technology Fundamentals of Organic Chemistry Polymer Chemistry Diversity and Cultures of other countries	

担当専攻分野別専任教員一覧

専攻分野	個人調書番号	職名	保有学位	氏名	年齢	就任年月日	担当授業科目名	備考
電気工学専攻分野	46	教授	博士(工学)	安孫子 聡子		令和6年4月	製作実験 基礎実験2 応用実験1 Introduction of Electrical Engineering Research 応用実験2 デジタル信号処理 電気・ロボット工学国際インターンシップA 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Introduction of Electrical Engineering Research	
	47	教授	博士(工学)	安藤 吉伸		令和6年4月	製作実験 基礎実験1 アナログ電子回路 デジタル回路 Introduction of Electrical Engineering Research マイクロコンピュータ Mechatronics ロボティクス 電気・ロボット工学国際インターンシップA 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	
	48	教授	工学博士	鈴木 栄男		令和6年4月	物理学入門 物理学実験 基礎熱力学 電気・ロボット工学研究概論	
	49	教授	博士(工学)	西川 宏之		令和6年4月	電気磁気学1A 電気磁気学1B 電気・ロボット工学研究概論 電子基礎物理 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 電子物性 電子デバイス Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II	
	50	教授	博士(工学)	藤田 吾郎		令和6年4月	電気回路2A 電気回路2B 基礎実験1 基礎実験2 電気・ロボット工学研究概論 電気計測 Introduction of Electrical Engineering Research 電力系統工学 Applied Mathematics 応用実験2 電気法規 Electric Railway 電気・ロボット工学国際インターンシップB 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction of Electrical Engineering Research Applied Mathematics	
	51	教授	博士(工学)	安村 禎明		令和6年4月	情報処理概論 C言語入門 データサイエンス演習 データサイエンス 統計学基礎 データサイエンスリテラシー 社会の中の工学 Introduction of Electrical Engineering Research 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction of Electrical Engineering Research	

担当専攻分野別専任教員一覧

専攻分野	個人調書番号	職名	保有学位	氏名	年齢	就任年月日	担当授業科目名	備考
	52	教授	博士(工学)	吉見 卓		令和6年4月	製作実験 基礎実験1 アナログ電子回路 マイクロコンピュータ ロボティクス 電気・ロボット工学国際インターンシップA	
	53	教授	博士(工学)	高見 弘		令和6年4月	電気回路2A 電気回路2B 基礎実験1	
	54	教授	博士(工学)	下村 昭二		令和6年4月	電気・ロボット工学国際インターンシップB	
	107	教授	博士(工学)	長谷川 忠大		令和6年4月	製作実験 電気・ロボット工学研究概論 応用実験1 現代制御 電気・ロボット工学国際インターンシップA 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Introduction of Electrical Engineering Research	
	120	准教授	博士(工学)	川嶋 嶺		令和6年4月	電気回路1A 電気回路1B 電気回路2A 電気回路2B 応用実験1 Introduction of Electrical Engineering Research 電気・ロボット工学国際インターンシップB 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction of Electrical Engineering Research	
	121	准教授	博士(工学)	齋藤 真		令和6年4月	基礎実験1 電気回路3A 電気回路3B 基礎実験2 電気・ロボット工学研究概論 制御工学 パワーエレクトロニクス 応用実験2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	
	122	准教授	博士(工学)	重宗 宏毅		令和6年4月	電気回路1A 電気回路1B 電気磁気学1A 電気磁気学1B 応用実験1 Introduction of Electrical Engineering Research 電気・ロボット工学国際インターンシップB 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction of Electrical Engineering Research	
	145	助教	博士(工学)	相曾 浩平		令和6年4月	電気磁気学2A 電気磁気学2B 電気・ロボット工学研究概論 電気磁気学3A 電気磁気学3B 電気機器学 電気材料 電動機制御 電気応用 高電圧工学 電気機器設計製図 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction of Electrical Engineering Research	

担当専攻分野別専任教員一覧

専攻分野	個人調書番号	職名	保有学位	氏名	年齢	就任年月日	担当授業科目名	備考
電子工学専攻分野	55	教授	博士(工学)	石川 博康		令和6年4月	電気数学2 電子工学製作実習 先端技術1 電磁気学総合 電子材料 先端技術2 電子工学国際インターンシップ7 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Advanced Electronics Experiments in electronic engineering course	
	56	教授	博士(工学)	加納 慎一郎		令和6年4月	電気回路1 電子工学基礎実験 先端技術1 アナログ電子回路2 信号処理回路 先端技術2 電子工学国際インターンシップ2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Advanced Electronics Experiments in electronic engineering course	
	57	教授	博士(工学)	小池 義和		令和6年4月	電気回路2 ものづくり入門 電子工学製作実習 電子工学基礎実験 先端技術1 電気回路総合 電子制御工学 先端技術2 音響システム 電子工学国際インターンシップ2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Advanced Electronics Experiments in electronic engineering course	
	58	教授	博士(理学)	諏訪 将範		令和6年4月	線形代数1 微分積分1 微分積分2 微分方程式 ベクトル解析 先端技術1 先端技術2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	
	59	教授	博士(理学)	中村 統太		令和6年4月	物理学入門 基礎力学および演習 基礎電磁気学および演習 基礎熱統計力学 基礎熱統計力学演習 相対論と量子論の基礎 物理学実験 基礎電磁気学 先端技術1 先端技術2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	
	60	教授	博士(工学)	Chinthaka Premachandra		令和6年4月	電気数学1 電子工学基礎実験 先端技術1 電子工学倫理 情報理論 先端技術2 電子工学国際インターンシップ4 電子工学国際インターンシップ5 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Introduction to Advanced Electronics	

担当専攻分野別専任教員一覧

専攻分野	個人調書番号	職名	保有学位	氏名	年齢	就任年月日	担当授業科目名	備考
	61	教授	博士(情報科学)	村上 嘉代子		令和6年4月	Reading&Writing1 Reading&Writing2 Listening&Speaking1 工学英語1 工学英語2 TOEIC 先端技術1 先端技術2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	
	62	教授	博士(工学)	山口 正樹		令和6年4月	社会の中の工学 電子物性 電子デバイス 電子材料基礎 電子工学基礎実験 先端技術1 電子物性基礎 半導体工学 先端技術2 電子材料評価論 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Advanced Electronics Experiments in electronic engineering course	
	63	教授	博士(工学)	横井 秀樹		令和6年4月	電磁気学1 電磁気学2 先端技術1 電磁気学総合 光エレクトロニクス 先端技術2 電子工学国際インターンシップ2 電子工学国際インターンシップ7 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Advanced Electronics Experiments in electronic engineering course	
	64	教授	博士(医学)	浜野 学		令和6年4月	スポーツ科学実技1 スポーツ科学実技2	
	65	教授	工学博士	上野 和良		令和6年4月	電磁気学1	
	123	准教授	博士(工学)	佐々木 昌浩		令和6年4月	電波工学 無線機器 無線機器 電子工学一般 電気回路3 アナログ電子回路1 電子工学基礎実験 先端技術1 電気回路総合 デジタル電子回路 情報伝送回路 先端技術2 集積回路工学 電子工学国際インターンシップ1 電子工学国際インターンシップ3 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Introduction to Advanced Electronics Experiments in electronic engineering course	
	124	准教授	Doctor rerum naturalium technicarum (オーストリア)	當麻 浩司		令和6年4月	電磁気学3 電子工学基礎実験 先端技術1 先端技術2 メディカルエレクトロニクス 電子工学国際インターンシップ6 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Advanced Electronics Experiments in electronic engineering course	
	137	准教授	PhD in Ergonomics (英国)	Shahrol Bin Mohamaddan		令和6年4月	Introduction to Advanced Science and Technology Biophysics Mathematical Methods in Physics and Engineering Physics: Mechanics Diversity and Cultures of other countries	



担当専攻分野別専任教員一覧

専攻分野	個人調書番号	職名	保有学位	氏名	年齢	就任年月日	担当授業科目名	備考
情報通信工学専攻分野	66	教授	博士(工学)	神澤 雄智		令和6年4月	社会の中の工学 情報通信ソフトウェア演習D 情報処理1 情報通信工学概論 情報通信応用実験A 情報処理2 パターン認識 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Information and Communications Engineering Seminar on Information and Communications Engineering	
	67	教授	博士(工学)	行田 弘一		令和6年4月	情報通信ハードウェア実験A 情報通信ハードウェア実験B 電子回路 情報通信工学概論 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 セキュアネットワーク Introduction to Information and Communications Engineering Seminar on Information and Communications Engineering	
	68	教授	博士(工学)	堀江 亮太		令和6年4月	情報通信ソフトウェア演習A 情報通信ソフトウェア演習B 電気回路基礎 情報通信工学概論 電磁気学2 電波工学1 マイクロ波工学 電波工学2 生体情報工学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Information and Communications Engineering Seminar on Information and Communications Engineering	
	69	教授	修士(法学)	本田(真鍋) まり		令和6年4月	生命倫理 日本国憲法 法学入門 技術者の倫理 知的財産法 情報通信工学概論 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	
	70	教授	博士(理学)	前田 健吾		令和6年4月	物理学入門 基礎力学および演習 物理学実験 電磁気学1 情報通信工学概論 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	
	71	教授	博士(理学)	松田 晴英		令和6年4月	微分積分1 微分積分2 情報通信数学 情報理論 情報通信工学概論 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	
	72	教授	博士(情報科学)	武藤 憲司		令和6年4月	論理設計 情報通信工学概論 情報通信応用実験A 音響工学 情報通信応用実験B 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Information and Communications Engineering Seminar on Information and Communications Engineering	
	73	教授	博士(工学)	森野 博章		令和6年4月	情報通信ソフトウェア演習C 情報通信ネットワーク ネットワーク理論 情報通信工学概論 情報通信応用実験B 情報通信工学実習 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Information and Communications Engineering Seminar on Information and Communications Engineering	
	74	教授	博士(工学)	田中 慎一		令和6年4月	電磁気学2 マイクロ波工学	
	75	教授	工学博士	広瀬 数秀		令和6年4月	(研究指導)	

担当専攻分野別専任教員一覧

専攻分野	個人調書番号	職名	保有学位	氏名	年齢	就任年月日	担当授業科目名	備考
	103	教授	博士(理学)	上岡 英史		令和6年4月	情報処理基礎 情報通信工学概論 情報通信応用実験A メディア情報工学 情報通信応用実験B 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Introduction to Information and Communications Engineering Seminar on Information and Communications Engineering	
	125	准教授	博士(学術)	大橋 裕太郎		令和6年4月	Reading&Writing1 Listening&Speaking1 Listening&Speaking2 工学英語1 工学英語2 情報通信工学概論 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 情報通信技術英語	
	126	准教授	博士(工学)	齋藤 敬史		令和6年4月	情報通信ハードウェア実験C 通信計測 情報通信ハードウェア実験D 回路設計演習 情報通信工学概論 情報通信特論1 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 情報通信特論2 Introduction to Information and Communications Engineering Seminar on Information and Communications Engineering	
	127	准教授	博士(工学)	宮田 純子		令和6年4月	情報通信ハードウェア実験A 情報通信ハードウェア実験D 情報通信工学概論 通信方式 メディア通信工学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Information and Communications Engineering Seminar on Information and Communications Engineering	
	139	准教授	博士(工学)	Phan Xuan Tan		令和6年4月	Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Introduction to Advanced Science and Technology Introduction to Multimedia technology Introduction to Information Processing Diversity and Cultures of other countries	
	143	准教授	博士(工学)	Cetinkaya Ahmet		令和6年4月	Introduction to Computer Networks	
	146	助教	博士(工学)	李 ひよん		令和6年4月	電波工学 回路の過渡現象 情報通信工学概論 情報通信応用実験A 情報通信応用実験B 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 光通信工学 Introduction to Information and Communications Engineering Seminar on Information and Communications Engineering	
	147	助教	博士(工学)	菅 宣理		令和6年4月	情報通信ハードウェア実験B 情報通信ハードウェア実験C 情報通信工学概論 デジタル信号処理 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 移動通信工学 Introduction to Information and Communications Engineering Seminar on Information and Communications Engineering	

担当専攻分野別専任教員一覧

専攻分野	個人調書番号	職名	保有学位	氏名	年齢	就任年月日	担当授業科目名	備考
情報工学専攻分野	76	教授	修士(スポーツ健康科学)	石崎 聡之		令和6年4月	スポーツ科学実技1 スポーツ科学実技2 コンディショニング演習 スポーツ健康学 情報工学通論 卒研プレゼミナール 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering Volleyball (Technical) Soccer (Sports communication)	
	77	教授	博士(理学)	木村 昌臣		令和6年4月	社会の中の工学 データベース 情報工学通論 基礎情報演習1B 数値計算法 卒研プレゼミナール データ解析法 情報工学海外実習1 情報工学海外実習2 情報工学海外実習3 情報工学海外実習4 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering	
	78	教授	博士(工学)	篠埜 功		令和6年4月	情報工学通論 プログラミング入門2 コンピュータアーキテクチャ プログラミング言語論 卒研プレゼミナール 情報工学実習 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering	
	79	教授	博士(工学)	新熊 亮一		令和6年4月	情報工学通論 データ構造とアルゴリズム1 基礎情報演習1A コンピュータ通信 卒研プレゼミナール 情報ネットワーク 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering	
	80	教授	博士(工学)	菅谷(島崎) みどり		令和6年4月	情報工学通論 オペレーティングシステム 基礎情報演習2B 卒研プレゼミナール 組込みシステム 情報システムプログラミング 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering	
	81	教授	博士(理学)	杉本 徹		令和6年4月	離散数学1 情報工学通論 数理論理学 基礎情報演習2A データ構造とアルゴリズム2 卒研プレゼミナール Java応用プログラミング 自然言語処理 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering	
	82	教授	博士(工学)	福田 浩章		令和6年4月	情報工学特論 情報工学通論 論理回路 形式言語とオートマトン 卒研プレゼミナール 集積回路工学 ソフトウェア開発演習 プログラミング言語処理演習 情報工学海外実習1 情報工学海外実習2 情報工学海外実習3 情報工学海外実習4 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering	
	83	教授	博士(理学)	松原 良太		令和6年4月	線形代数1 線形代数2 微分積分1 微分積分2 確率と統計1 情報工学通論 離散数学2 卒研プレゼミナール 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering	

担当専攻分野別専任教員一覧

専攻分野	個人調書番号	職名	保有学位	氏名	年齢	就任年月日	担当授業科目名	備考
	84	教授	博士(工学)	真鍋 宏幸		令和6年4月	プログラミング入門1 情報工学通論 H. C. インタクション 信号処理 卒研プレゼミナール ソフトウェア工学 情報工学海外実習1 情報工学海外実習2 情報工学海外実習3 情報工学海外実習4 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering Interaction Design	
	85	教授	博士(工学)	宇佐美 公良		令和6年4月	情報工学通論 コンピュータアーキテクチャ	
	86	教授	博士(工学)	中島 毅		令和6年4月	情報工学通論	
	87	教授	修士(社会学)※	中村 広幸		令和6年4月	情報工学通論	
	88	教授	博士(国際情報通信学)	米村 俊一		令和6年4月	コンピュータ科学序説 情報工学通論 情報工学実習	
	128	准教授	博士 (情報理工学)	井尻 敬		令和6年4月	コンピュータ科学序説 情報工学通論 データ構造とアルゴリズム1 基礎情報演習1A デジタルメディア処理 卒研プレゼミナール コンピュータビジョン 音響・音声処理工学 情報工学海外実習1 情報工学海外実習2 情報工学海外実習3 情報工学海外実習4 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering	
	129	准教授	博士(理学)	渡部 昌平		令和6年4月	情報工学通論 基礎情報演習2A データ構造とアルゴリズム2 卒研プレゼミナール 人工知能 数理計画法 人工知能プログラミング 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Introduction to Computer Science and Engineering	
	135	准教授	Ph. D. in Mathematics (オランダ)	池上 大祐		令和6年4月	Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Pre-calculus Calculus I Calculus II Calculus III Linear Algebra Probability and Statistics Diversity and Cultures of other countries	
	138	准教授	博士(学術)	Sripian Peeraya		令和6年4月	Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Introduction to Computer Science and Engineering Introduction to Advanced Science and Technology Interaction Design Introduction to Computer Programming (Python, R, C, Java) Web design and programming Diversity and Cultures of other countries	
	144	准教授	博士(工学)	Gabriele Trovato		令和6年4月	Information Literacy	
	151	助教	博士(工学)	Laohakangvalvit Tipporn		令和6年4月	Advanced Course on Mechanical Engineering Diversity and Cultures of other countries	

担当専攻分野別専任教員一覧

専攻分野	個人調書番号	職名	保有学位	氏名	年齢	就任年月日	担当授業科目名	備考
土木工学専攻分野	89	教授	博士(工学)	穴見 健吾		令和6年4月	導入ゼミナール 土木工学総合講義 構造力学1 構造力学演習 鋼構造学 構造力学2 土木キャリアセミナー 土木設計演習 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Lectures on Civil Engineering	
	90	教授	博士(工学)	稲積 真哉		令和6年4月	導入ゼミナール 地盤工学1 地盤工学2 土木工学総合講義 土質実験 地盤工学演習 土木キャリアセミナー 地盤環境工学 海外土木工学演習1 海外土木工学演習2 海外土木工学演習3 土木工学国際演習1 土木工学国際演習2 土木工学国際演習3 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Lectures on Civil Engineering Soil Mechanics	
	91	教授	博士(工学)	岩倉 成志		令和6年4月	導入ゼミナール 土木計画学1 交通計画 土木工学総合講義 土木計画学2 土木キャリアセミナー 地域デザイン演習2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Lectures on Civil Engineering	
	92	教授	修士(教育学)※	岡田(森田) 佳子		令和6年4月	社会心理学 教育心理学 人間関係論 導入ゼミナール 土木と心理学 土木工学総合講義 社会調査演習 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	
	93	教授	博士(工学)	勝木 太		令和6年4月	導入ゼミナール 土木構造物概論 土木の力学 土木工学総合講義 コンクリート構造学1 コンクリート構造学2 土木キャリアセミナー 土木設計演習 学外体験学習1 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	
	94	教授	博士(工学)	紺野 克昭		令和6年4月	導入ゼミナール 土木数学1 土木数学2 土木工学総合講義 地震防災工学 土木応用実験 土木キャリアセミナー 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Lectures on Civil Engineering	
	95	教授	博士(環境学)	中川 雅史		令和6年4月	導入ゼミナール 土木情報処理 測量学 応用測量学 測量学実習1 土木工学総合講義 測量学実習2 土木キャリアセミナー 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Lectures on Civil Engineering	
	96	教授	博士(経済学)	長原 徹		令和6年4月	経済学 土木と経済学 現代の日本経済 応用経済学 導入ゼミナール 土木工学総合講義 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	

担当専攻分野別専任教員一覧

専攻分野	個人調書番号	職名	保有学位	氏名	年齢	就任年月日	担当授業科目名	備考
	97	教授	博士(工学)	並河 努		令和6年4月	導入ゼミナール 土質力学1 土木工学総合講義 土質実験 土質力学2 土木キャリアセミナー 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Lectures on Civil Engineering	
	98	教授	博士(工学)	平林(鼎) 由希子		令和6年4月	導入ゼミナール 環境の科学 土木数学2 土木工学総合講義 水文学 土木キャリアセミナー 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Lectures on Civil Engineering	
	99	教授	博士(工学)	宮本 仁志		令和6年4月	導入ゼミナール 土木計画学1 流れの力学 土木工学総合講義 水理学 水理実験 土木キャリアセミナー 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Lectures on Civil Engineering	
	100	教授	博士(教育学)	谷田川 ルミ		令和6年4月	教育原論 教育社会学 導入ゼミナール 土木と社会学 土木工学総合講義 社会調査演習 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4	
	101	教授	博士(教育学)	牧下 英世		令和6年4月	(研究指導)	
	102	教授	博士(工学)	伊代田 岳史		令和6年4月	社会の中の工学 導入ゼミナール 土木構造物概論 マテリアルデザイン 土木工学総合講義 材料実験 土木応用実験 土木キャリアセミナー 維持管理工学 学外体験学習1 学外体験学習2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Lectures on Civil Engineering	
	130	准教授	博士(工学)	大山 雄己		令和6年4月	導入ゼミナール 土木計画学1 都市計画 土木工学総合講義 地域デザイン演習1 土木キャリアセミナー 地域デザイン演習2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Lectures on Civil Engineering	
	131	准教授	博士(工学)	Henry Michael Ward		令和6年4月	導入ゼミナール 土木工学総合講義 土木応用実験 土木キャリアセミナー 国際開発工学 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Lectures on Civil Engineering	

担当専攻分野別専任教員一覧

専攻分野	個人調査番号	職名	保有学位	氏名	年齢	就任年月日	担当授業科目名	備考
	132	准教授	博士(工学)	楽 奕平		令和6年4月	導入ゼミナール Introduction to Transportation Systems 土木工学総合講義 地域デザイン演習1 Mobility and Regional Development 土木キャリアセミナー 地域デザイン演習2 学外体験学習1 学外体験学習2 卒業研究1 卒業研究2 卒業研究3 卒業研究4 Freshman thesis program I Freshman thesis program II Sophomore thesis program I Sophomore thesis program II Junior thesis program I Junior thesis program II Graduation thesis program I Graduation thesis program II Freshman lab seminar I Freshman lab seminar II Sophomore lab seminar I Sophomore lab seminar II Junior lab seminar I Junior lab seminar II Senior lab seminar I Senior lab seminar II Lectures on Civil Engineering Introduction to Advanced Science and Technology Techniques of Analysis for Urban Planning Research Diversity and Cultures of other countries	

(参考)担当課程別専任教員数

	助教以上	うち教授
機械工学課程	24	18
物質化学課程	24	21
電気電子工学課程	21	15
情報・通信工学課程	24	17
土木工学課程	15	12
先進国際課程	25	9
合計	133	92

※完成年度の数值



専任教員の年齢構成・学位保有状況(工学部全体)										
										単位(人)
職位	学位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計	備考
教授	博士		2	56	26	5			89	
	修士			3					3	
	学士									
	短期大士									
	その他									
准教授	博士		3	22	9				34	
	修士									
	学士									
	短期大士									
	その他									
講師	博士									
	修士									
	学士									
	短期大士									
	その他									
助教	博士		7						7	
	修士									
	学士									
	短期大士									
	その他									
合計	博士		12	78	35	5			130	
	修士			3					3	
	学士									
	短期大士									
	その他									

(注)

- この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
- 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。

専任教員の年齢構成・学位保有状況（機械工学課程担当教員）										単位（人）	
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考	
教 授	博 士				11	5	2		18		
	修 士										
	学 士										
	短 期 大 学										
	そ の 他										
准 教 授	博 士			4	2				6		
	修 士										
	学 士										
	短 期 大 学										
	そ の 他										
講 師	博 士										
	修 士										
	学 士										
	短 期 大 学										
	そ の 他										
助 教	博 士										
	修 士										
	学 士										
	短 期 大 学										
	そ の 他										
合 計	博 士			4	13	5	2		24		
	修 士										
	学 士										
	短 期 大 学										
	そ の 他										

（注）

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。

専任教員の年齢構成・学位保有状況(物質化学課程担当教員)										単位(人)	
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考	
教 授	博 士			1	12	7	1		21		
	修 士										
	学 士										
	短 期 大 学										
	そ の 他										
准 教 授	博 士			2	1				3		
	修 士										
	学 士										
	短 期 大 学										
	そ の 他										
講 師	博 士										
	修 士										
	学 士										
	短 期 大 学										
	そ の 他										
助 教	博 士										
	修 士										
	学 士										
	短 期 大 学										
	そ の 他										
合 計	博 士			3	13	7	1		24		
	修 士										
	学 士										
	短 期 大 学										
	そ の 他										

(注)

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。

専任教員の年齢構成・学位保有状況（電気電子工学課程担当教員）										単位（人）	
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考	
教 授	博 士			1	9	5			15		
	修 士										
	学 士										
	短 期 大 学										
	そ の 他										
准 教 授	博 士		1	2	2				5		
	修 士										
	学 士										
	短 期 大 学										
	そ の 他										
講 師	博 士										
	修 士										
	学 士										
	短 期 大 学										
	そ の 他										
助 教	博 士		1						1		
	修 士										
	学 士										
	短 期 大 学										
	そ の 他										
合 計	博 士		2	3	11	5			21		
	修 士										
	学 士										
	短 期 大 学										
	そ の 他										

（注）

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。

専任教員の年齢構成・学位保有状況 (情報・通信工学課程担当教員)										
									単位 (人)	
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士				13	1	1		15	
	修 士				2				2	
	学 士									
	短 期 大 学									
	そ の 他									
准 教 授	博 士			4	1				5	
	修 士									
	学 士									
	短 期 大 学									
	そ の 他									
講 師	博 士									
	修 士									
	学 士									
	短 期 大 学									
	そ の 他									
助 教	博 士		2						2	
	修 士									
	学 士									
	短 期 大 学									
	そ の 他									
合 計	博 士		2	4	14	1	1		22	
	修 士				2				2	
	学 士									
	短 期 大 学									
	そ の 他									

(注)

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。

専任教員の年齢構成・学位保有状況（土木工学課程担当教員）										
										単位（人）
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士				7	4			11	
	修 士				1				1	
	学 士									
	短 期 大 学									
	そ の 他									
准 教 授	博 士		1	2					3	
	修 士									
	学 士									
	短 期 大 学									
	そ の 他									
講 師	博 士									
	修 士									
	学 士									
	短 期 大 学									
	そ の 他									
助 教	博 士									
	修 士									
	学 士									
	短 期 大 学									
	そ の 他									
合 計	博 士		1	2	7	4			14	
	修 士				1				1	
	学 士									
	短 期 大 学									
	そ の 他									

（注）

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。